トラクタ

取扱説明書

GV 601H・651H 701H



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書は、いつでもご覧頂ける場所に、大切に保管してください。なお、予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が、製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は GV701H を基本とし、GV701H と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- エンジン出力（PS）によって ……GV601H 仕様、GV651H 仕様、GV701H 仕様
- 逆転 PTO 付き …… 標準仕様
- グランド PTO 付き ……G 仕様
- クローラ …… ハーフクローラ仕様

本書の見方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう、一般目次以外に下記３つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上、必要な情報の検索にご活用ください。

１．目的目次　　困った事、知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。
困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別）（9 ページ）を参照。

２．絵目次　　レバーやスイッチの名称が分からなくても、イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。
トラクタ装置の名称（34 ページ）を参照。

３．索引（巻末）　　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
例えば[エンジンオイルの交換のしかた]のページを調べたい場合、「あ行」の［エンジンオイルの交換］で説明ページが検索できます。

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

困ったときには 9
困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別） 9
安全に作業をするために 11
サービスと保証 29
ご相談窓口 29
補修用部品の供給年限について 30
農機型式名一覧表 30
小型特殊自動車としての取扱い 31
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 31
低速車（SMV）マーク 31
運転免許 31
損害賠償保険について 31
公道走行時の注意 31
直接通信ユニットについて 32
輪距 33
装置の名称と取扱い 34
トラクタ装置の名称 34
1. トラクタの外観 34
2. ハンドル部 37
3. メータパネル部 38
4. 運転席部 39
5. 安全キャブ部 42
排ガス後処理装置 43
1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ（DPF）マフラ 43
2. DPF マフラの取扱いポイント 43
3. DPF マフラの再生方式 44
3.1 自動再生モードの操作手順 45
3.2 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 46
3.3 再生禁止モードの操作手順 47
3.4 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置 48
3.5 駐車再生の操作 49
4. DPF の再生に関する豆知識 49
5. ASH 警告表示 49
トラクタ装置各部の取扱い 50
1. 運転席周りの調節 50
1.1 シート 50
1.2 安全キャブとシートベルト 50
1.3 インストラクタシート（オプション） 51
1.3.1 インストラクタシート使用時の注意と手順 51
1.4 チルトステアリングハンドル 52
1.5 バックミラー 53
1.6 テレスコミラー（オプション） 53
1.7 ワイドサイドミラー（オプション） 53
2. 灯火類の操作 53
2.1 ヘッドライトスイッチ 53
2.2 ウインカスイッチ 54
2.3 ハザードスイッチ 54
2.4 ホーンボタン 54
2.5 バックランプ 55
2.6 ブレーキランプ 55
2.7 車幅灯、尾灯 55

3. キースイッチ 55
4. ブレーキペダル 55
4.1 ブレーキ連結ロック解除警告灯 56
5. クラッチペダル 56
6. アクセルレバー 57
7. アクセルペダル 57
8. トランスミッションシフトレバー 58
8.1 主変速レバー、副変速レバー 58
8.1.1 アクセル連動 59
8.2 シャトルレバー 59
9. 走行モード切替スイッチ 60
9.1 走行モードスイッチ 60
9.1.1 4 輪駆動の利用 60
9.1.2 倍速ターンの利用 61
9.2 AD スイッチ 61
9.2.1 AD の利用 61
9.2.2 AD の強弱設定 61
9.3 旋回 2WD 62
9.3.1 旋回 2WD の利用 62
9.4 旋回角度の調整 62
10. オート 4WD スイッチ 63
11. デフロック 63
11.1 後輪デフロックペダル 63
12. 電子メータ 64
12.1 電子メータ各部の名称 64
12.1.1 液晶画面の通常画面とアームレスト操作部 65
12.2 メニュー画面と設定画面 65
12.2.1 メニュー画面の操作 65
12.2.2 ミッション選択時の設定項目の表示条件 67
12.2.3 ミッション選択時の設定項目の設定可能範囲 68
12.2.4 エンジン選択時の設定項目の表示条件 68
12.2.5 エンジン選択時の設定項目の設定可能範囲 68
12.2.6 旋回選択時の設定項目の表示条件 69
12.2.7 旋回選択時の設定項目の選択可能範囲 69
12.2.8 3P 選択時の設定項目の表示条件 69
12.2.9 3P 選択時の設定項目の選択可能範囲 69
12.2.10 PTO 選択時の設定項目の表示条件 70
12.2.11 PTO 選択時の設定項目の選択可能範囲 70
12.2.12 傾き自動選択時の設定項目の表示条件 70
12.2.13 傾き自動選択時の設定項目の設定可能範囲 70
12.3 各種設定選択画面 70
12.3.1 ユーザ設定画面の操作 70
12.3.2 時計設定 71
12.3.3 時計 ON、OFF 設定 72
12.3.4 タイヤ周長設定 73
12.3.5 作業機幅設定 74
12.3.6 単位設定 75
12.3.7 メンテナンス設定 77
12.3.8 盗難防止設定 80
12.4 パフォーマンスモニタ 80
12.4.1 パフォーマンス項目の選択 80
12.4.2 パフォーマンス項目一覧 81
12.4.3 パフォーマンス項目のデータリセット 83
12.4.4 距離測定機能の操作 83
12.4.5 パフォーマンスモニタ表示項目の重複抑止 84
12.5 アワメータ、トリップ、時計表示 85
12.6 エンジン回転上限設定、エンジン回転メモリ設定の一時解除 85
12.7 故障、メンテナンス情報表示 85

12.7.1 故障メッセージの一時解除 85
12.7.2 メンテナンス表示メッセージの一時解除 86
12.8 燃費計の活用方法 86
12.9 車速係数の入力 86
12.10 イージチェッカ 87
12.11 燃料計 88
12.12 エンジン回転計 88
12.13 水温計 88
12.14 モニタランプ 89
13. エンジン始動セキュリティ機能 90
13.1 暗証番号の登録 90
13.2 エンジン始動セキュリティの設定 92
13.3 エンジン始動セキュリティの入、切の切替え 93
13.4 暗証番号の変更 94
14. 電子エンジン制御 94
14.1 エンジン回転上限設定 94
14.2 エンジン回転メモリ設定 95
14.3 パワーアシスト制御 96
14.4 e-アシスト旋回 97
14.4.1 e-アシスト旋回の回転数設定 97
14.4.2 e-アシスト旋回の応答時間設定 98
14.4.3 e-アシスト旋回のクルーズ車速設定 98
15. 作業機昇降装置 100
15.1 作業機昇降装置の各部の名称 100
15.2 3P 制御モード 101
15.3 ドラフトストッパピン 101
15.4 ポジションレバー 102
15.5 ３点リンクの下限規制 102
15.6 高さ規制調整ダイヤル 102
15.7 作業機落下速度調整ダイヤル 103
15.8 耕深調節ダイヤル 103
15.9 感度調整ダイヤル 104
15.10 クイックアップレバー、クイックアップスイッチ 104
15.11 旋回アップ機能 105
15.12 バックアップ機能 106
15.13 3P 動作切替スイッチ 106
15.13.1 ３点リンクキープモード 107
15.13.2 ３点リンクリターンモード 107
15.13.3 ポジションモードでの 3P 動作切替スイッチ操作 107
15.13.4 作業機の各作業モードでの 3P 動作切替スイッチの操作 107
15.14 油圧ロックレバー 107
15.15 ワンタッチ作業モード設定スイッチ 108
15.15.1 ワンタッチ作業モードの任意変更 108
15.15.2 ワンタッチ作業モードの設定変更 108
16. 傾き自動 109
16.1 傾き自動の各部の名称 109
16.2 傾き自動モード切替 109
16.2.1 傾き自動モード水平 109
16.2.2 傾き自動モード傾斜 112
16.2.2.1 傾斜地傾き自動の微調整設定 113
16.2.3 傾き自動モード位置（手動） 114
16.3 傾き自動角度調節ダイヤル 114
16.4 傾き手動スイッチ 115
16.5 傾き自動の安全ロック機能 115
16.5.1 傾き自動安全ロックの解除方法 115
16.6 平行復帰制御 115
17. 外部油圧取出し 116
17.1 油圧補助コントロールレバー 116

17.2 補助コントロールバルブ単複切換えつまみ ... 116
18. 外部電源取出端子 ... 116
18.1 電源取出し ... 116
18.2 トレーラ用カプラ（オプション） ... 117
運転のしかた ... 118
運転前の点検 ... 118
トラクタへの乗降 ... 118
エンジンの始動と停止 ... 118
1. エンジンの始動のしかた ... 118
1.1 寒冷時の始動方法 ... 122
2. エンジンの停止のしかた ... 123
トラクタの発進と走行 ... 123
1. 最高車速設定 ... 125
1.1 最高車速の設定方法 ... 125
2. クルーズ車速設定 ... 125
2.1 クルーズ車速の設定変更 ... 126
2.2 現在のクルーズ車速の記憶 ... 126
2.3 クルーズ使用時の車速または PTO の選択 ... 127
2.4 クルーズ使用時のパワーまたはエコの選択 ... 127
3. 負荷変速設定 ... 127
3.1 負荷変速の ON、OFF 設定 ... 127
3.2 負荷変速感度の設定 ... 128
トラクタの停止と駐車 ... 128
寒冷時の暖機運転 ... 129
トランスミッション低温規制 ... 130
バッテリあがりの処置 ... 130
ならし運転 ... 131
運転中の作動確認 ... 131
状況に応じた操作 ... 131
1. 片側の車輪がスリップするときの処置 ... 131
2. 旋回のしかた ... 131
3. 坂道での運転 ... 132
4. ほ場への出入り時の注意 ... 132
5. 道路走行中の注意 ... 132
6. トラックへの積み、降ろし ... 133
7. パワーステアリングの取扱い ... 133
8. ハーフクローラ仕様の運転のしかた ... 134
9. ローダ作業を安全に行うための注意事項 ... 134
作業のしかた ... 136
３点リンクの安全ロック機能 ... 136
作業モードの切替え ... 136
クイックアップ、傾き自動、３点リンク制御の表示 ... 137
３点リンク ... 139
1. ３点リンクの各部の名称 ... 139
2. 作業機の取付け ... 140
2.1 作業機取付け前の準備 ... 140
2.1.1 耕深ワイヤ ... 140
2.1.1.1 耕深ワイヤの取付け ... 140
2.1.1.2 耕深ワイヤの格納 ... 140
2.1.2 ３点リンクの切換えとトップリンクの取付け ... 140
2.1.3 ロアリンクの取付け穴の選択 ... 141
2.1.4 オートヒッチフレーム使用時の作業機取付け準備 ... 142
2.2 作業機の着脱 ... 143
2.2.1 ３点リンク外部操作スイッチ ... 143
2.2.2 傾き手動外部操作スイッチ ... 144
2.2.3 トップリンクの調整 ... 144

2.2.3.1 トップリンクの格納 144
2.2.4 ドラフトストッパピンの着脱 145
2.2.5 リフトシリンダの調整 145
2.2.6 チェックチェーンの調整 145
2.2.7 作業機を取り付けないときの注意 145
けん引ヒッチ（ドローバ） 146
すき込み開始高さの調整 146
1. すき込み開始高さの設定変更 146
PTO 147
1. PTO の種類と PTO スイッチの操作 147
1.1 PTO スイッチ 147
1.2 独立 PTO 148
1.3 クラッチペダル連動 PTO 148
1.4 上昇 PTO 停止モード 148
2. PTO 変速レバー 149
3. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ 150
タイヤ 150
1. タイヤの空気圧 150
輪距の調整 151
1. 前輪輪距一覧表 153
1.1 前輪輪距一覧表［GV601H ホイール仕様］ 153
1.2 前輪輪距一覧表［GV651H、GV701H ホイール仕様］ 155
1.3 前輪輪距一覧表［GV701H 前輪 RC タイヤ仕様］ 158
1.4 前輪輪距一覧表［ハーフクローラ仕様の前輪タイヤ］ 161
2. 後輪輪距一覧表 163
2.1 後輪輪距一覧表［GV601H、GV651H、GV701H ホイール仕様］ 163
2.2 後輪輪距一覧表［GV701H 後輪 RC タイヤ仕様］ 165
前輪切れ角の調整 168
1. ストッパボルト交換要領 168
2. ストッパボルトの調整 168
ウエイト（オプション） 169
1. 前部ウエイト（オプション） 169
2. 後輪ウエイト（オプション） 169
安全キャブ装備品の取扱い 171
ドア、窓の開閉とロック 171
1. ドアの開閉とロック 171
2. リヤウインドの開閉 171
3. クォータウインドの開閉 172
フットライト 172
ルームランプ 172
夜間照明 173
ワイパ 173
1. フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 173
2. リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 173
3. 寒冷時のワイパの使用 173
作業灯 174
1. 作業灯スイッチ 174
2. 作業灯（前） 174
3. 作業灯（後） 175
その他のアクセサリ 175
1. サンバイザ 175
2. ルーフパネル 175
3. ルームミラー（オプション） 175
オートエアコン 175
1. エアコンの空気の流れ 176
2. コントロールパネル 176
2.1 内外気切換えスイッチ 176

2.2 温度コントロールつまみ 177
2.3 吹出口切換えスイッチ 177
2.4 ファンスイッチ 177
2.5 エアコンスイッチ 177
2.6 暖房、冷房、除湿暖房の調節 177
2.7 デフロスト 177
3. ヒータ使用上の注意 177
オーディオ機器の取扱いについて 178
1. オーディオ機器のお問合わせ 178
2. オーディオ機器の電源が入らない時の対応 178
3. 本機で利用できないオーディオ機器の機能について 178
アンテナ 178
作業機の装着 179
1. 作業機用操作ボックスの取付け 179
トラクタの点検、整備のしかた 180
点検、整備時の注意 180
廃棄物の処理について 180
洗車時の注意 180
定期点検箇所一覧表 182
給油、給水一覧表 185
1. トラクタの給油、給水一覧 185
推奨オイル、グリース一覧表 186
ボンネットの開閉およびサイドカバーを外す方法 187
1. ボンネットの開閉 187
1.1 ボンネットを開ける方法 187
1.2 ボンネットを閉める方法 187
2. サイドカバーの取外し 187
日常点検 187
1. 前日の異常箇所の点検 188
2. トラクタの周囲の点検 188
3. エンジンオイル量の点検、補給 188
4. ミッションオイル量の点検、補給 188
5. 冷却水量の点検、補給 188
6. セパレータの水の排出 189
7. バキュエータバルブの清掃 189
8. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検、交換 190
9. タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検 190
10. ラジエータ用防虫網、エアコンコンデンサ用防虫網、およびオイルクーラの清掃 191
10.1 ゴムシートの開閉 191
10.2 エアコンコンデンサの引出し 191
10.3 エンジン前周りの清掃 191
11. DPF の点検 192
12. ブレーキペダルの遊びの点検 192
13. 駐車ブレーキの作動点検 193
14. メータ、ランプ類の作動点検 193
15. 燃料の補給時の注意点 193
日常点検［ハーフクローラ仕様］ 194
1. 日常点検箇所一覧［ハーフクローラ仕様］ 194
50 時間ごとの点検、整備 194
1. グリースの注入 194
2. エンジン始動システムの点検 196
3. タイヤ取付けボルトの点検 197
4. クラッチハウジングの水抜き 197
5. パワーステアリングホースの点検、交換 197
6. 燃料ホースの点検、交換 197
100 時間ごとの点検、整備 198
1. バッテリ電解液の点検 198

1.1 バッテリの取付け、取外し時の注意点 198
1.2 バッテリの補充電のしかた 199
2. ダブルエアクリーナエレメントの清掃 199
2.1 アウタエレメントの清掃、交換 199
2.2 バキュエータバルブの清掃 199
3. オルタネータベルトの点検、調整 199
4. ブレーキペダルの点検、調整 200
4.1 ブレーキペダルの調整方法 200
5. クラッチペダルの点検、調整 200
5.1 クラッチペダルの調整方法 201
6. エンジンの始動確認 201
7. エンジンの排気状態の確認 201
8. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認 201
200 時間ごとの点検、整備 201
1. ラジエータホースの点検、交換 201
2. 吸気ホースの点検、交換 201
3. オイルクーラホースの点検、交換 202
4. 油圧オイルフィルタカートリッジの交換 202
5. トーインおよびタイロッドの点検、タイロッドのトーイン調整 203
5.1 タイロッドのトーイン調整 204
6. 燃料タンクの水抜き 205
7. 室内エアフィルタの清掃 205
8. 外気フィルタの清掃 206
9. エアコンコンデンサの清掃 206
10. エアコンベルトの張りの点検、調整 206
400 時間ごとの点検、整備 207
1. エンジンオイルの交換 207
2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 208
3. 燃料フィルタカートリッジの交換 208
4. セパレータの清掃 208
600 時間ごとの点検、整備 209
1. ミッションオイルの交換 209
2. 前車軸ケース左、右のオイル交換 209
3. 前部デフケースの前後遊びの点検、調整 209
800 時間ごとの点検、整備 210
1. エンジンバルブクリアランスの点検 210
1500 時間ごとの点検、整備 210
1. 燃料インジェクタの点検 210
2. オイルセパレータエレメントの交換 210
3. PCV バルブの点検 210
4. EGR クーラの点検、清掃 210
3000 時間ごとの点検、整備 210
1. ターボチャージャの点検 210
2. サプライポンプの点検 210
3. インテークエアヒータの点検 211
4. EGR システムの点検、清掃 211
3000 時間～6000 時間ごとの点検、整備 211
1. DPF マフラの清掃 211
3 か月ごとの点検、整備 211
1. エアコン機器の簡易点検 211
1 年ごとの点検、整備 211
1. ダブルエアクリーナエレメントの交換 211
2. エアコン配管、ホースの点検 211
3. キャブマウントゴムの点検 211
4. エキゾーストマニフォールドの点検 211
5. DPF 差圧センサパイプの点検 211
6. EGR パイプの点検 211
2 年ごとの点検、整備 212

1. 冷却水の交換 212
1.1 不凍液 213
2. ラジエータの洗浄 213
3. ラジエータホースの交換 213
4. パワーステアリングホースの交換 213
5. 吸気ホースの交換 213
6. 燃料ホースの交換 213
7. 傾き自動シリンダホースの交換 213
8. メインシリンダホースの交換 213
9. オイルクーラホースの交換 213
10. PCV バルブホースの交換 213
11. DPF 差圧センサホースの交換 213
12. ブーストセンサホースの交換 213
13. オイルセパレータホースの交換 213
ハーフクローラ仕様の点検・整備 213
1. ゴムクローラの張り調整［ハーフクローラ仕様］ 213
2. グリースの注入［ハーフクローラ仕様］ 214
3. クローラのローラ、アイドラのオイル交換とオイルシール点検［ハーフクローラ仕様］ 215
3.1 クローラガイドの点検［ハーフクローラ仕様］ 215
3.2 ローラ、アイドラのオイル交換［ハーフクローラ仕様］ 215
4. スプロケットの交換［ハーフクローラ仕様］ 216
5. ゴムクローラの交換［ハーフクローラ仕様］ 216
必要に応じた点検、整備 217
1. 燃料の空気抜きのしかた 217
2. ヒューズの交換 217
3. スローブローヒューズの交換 219
4. ヘッドランプの交換 220
5. ランプ一覧 220
6. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油 220
7. ウォッシャ液の補充 221
8. 冷媒（ガス）量の点検、充てん 221
格納 221
1. 長期格納時の手入れ 221
2. 長期格納後の運転 222
不調と処置 223
1. エンジンの不調と処置 223
2. 傾き自動、耕深制御、ドラフト、レーザ、AD、倍速、トランスミッションの故障と処置 224
付表 229
主要諸元 229
1. トラクタの主要諸元 229
2. 走行速度表 232
3. 標準付属品 233
アタッチメント一覧表 234
補助コントロールバルブ一覧表 236
作業ごとの一般的な調整要領 237
索引 240

困ったときには

困ったときの参照頁一覧（目的別、場面別）

目的、場面		項目	参照頁
エンジン始動時に	寒冷時の始動方法について知りたい	オートグロー	118
	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	129
	エンジンの回転数が上がらない	エンジン回転上限設定	94
	エンジンの調子が悪い	エンジンの不調と処置	223
道路走行時に	2WD、4WD、倍速、AD を切り換えたい	走行モード切替スイッチ	60
	作業機の落下を防止したい	油圧ロック	107
	トレーラ用電源コンセントを接続したい	トレーラ用カプラ	117
作業時に	旋回時、自動的に作業機を上げたい	旋回アップ機能	105
	後進時、自動的に作業機を上げたい	バックアップ機能	106
	ほ場作業時の設定を簡単に行いたい	ワンタッチ作業モード設定スイッチ	108
	エンジンの最高回転数を規制したい	エンジン回転上限設定	94
	作業時のエンジン回転数を記憶したい	エンジン回転メモリ設定	95
	車速や PTO 回転をできるだけ一定に保ちたい	パワーアシスト制御	96
	ブザーが鳴り走行できない	クラッチペダル	56
		シャトルレバー	59
		副変速レバー	58
	ドラフトコントロールを使いたい	作業機昇降装置	100
	傾き自動の調整要領を知りたい	傾き自動	109
	作業機を装着したい	ロアリンクの取付け穴の選択	141
	油圧取出しを使いたい	外部油圧取出し	116
	作業機に電源を接続したい	外部電源取出端子	116
	作業機用操作ボックスを取り付けたい	作業機用操作ボックスの取付け	179
	作業機の上げ高さを規制したい	高さ規制調整ダイヤル	102
	作業機がロックされ下降できない	3 点リンクの安全ロック機能	136
	タイヤがスリップする	デフロックの使用	63
	電子メータや液晶表示部の詳細を知りたい	電子メータパネル	64
	電子メータ内のランプが点灯（点滅）している	ランプ表示一覧	137
	電子メータ内の赤色ランプが点灯（点滅）した	イージチェッカ	131
	走行速度が知りたい	パフォーマンス項目の選択	80
	PTO 軸回転数が知りたい	パフォーマンス項目の選択	80
	PTO 回転数を変更したい	PTO 変速レバー	149
メンテナンス時に	ボンネットを開けたい	ボンネットの開閉	187
	日常点検ですべきことは	日常点検	187
	オイル、冷却水量を知りたい	給油（水）一覧表	185

（次へ続く）

目的、場面		項目	参照頁
メンテナンス時に	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル、グリース一覧表	186
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の空気抜きのしかた	217
	ハーフクローラメンテナンス項目	日常点検［ハーフクローラ仕様］	194
		ハーフクローラ仕様の点検、整備	184

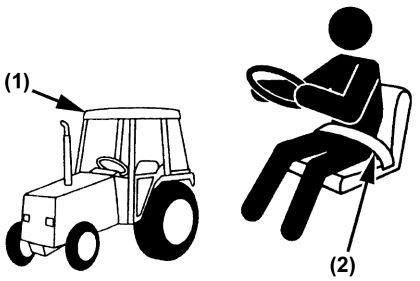
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、または補足としてそのつど取り上げています。

安全キャブについての注意事項

1. 安全キャブの目的

安全キャブは、万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減する装置であって、転倒事故を防止する装置ではありません。注意事項を守って、安全運転を心掛けてください。

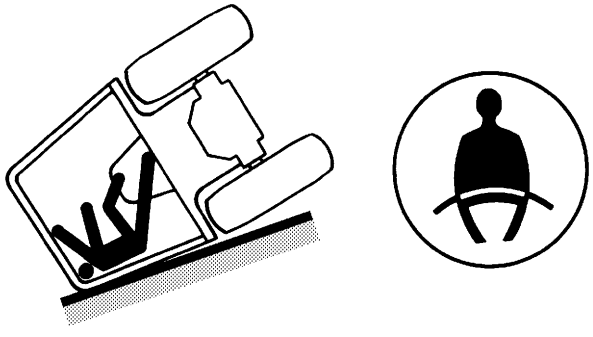


1RGMA00002A01

(1) 安全キャブ
(2) シートベルト

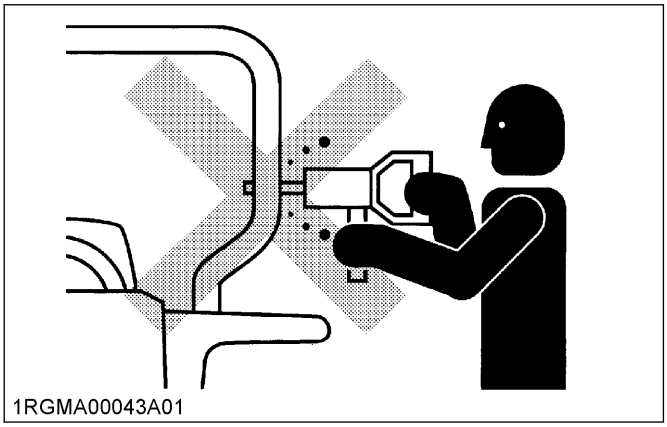
2. シートベルトを併用すること

- 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用してください。


1RGMA00042A01

3. 安全キャブの改造禁止

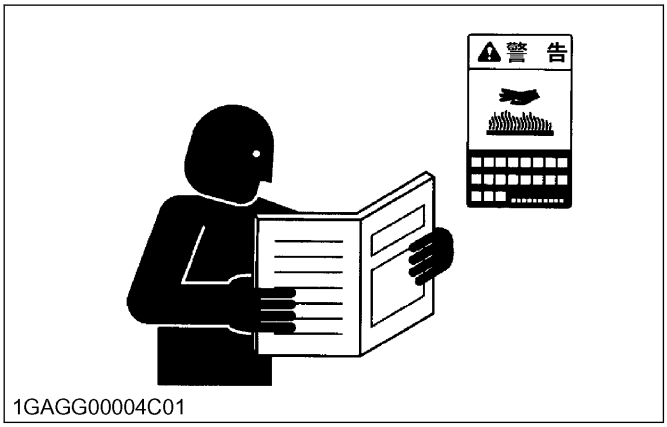
- 安全キャブを改造しないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどの異常が発生した場合、交換してください。


1RGMA00043A01

運転前の注意事項

1. 正しい運転方法、運転してはいけない人

- トラクタを動かす前に、トラクタおよび装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- トラクタ、作業機を他人に貸すとき、また、他人が運転するときは、事前に運転のしかたを教え、本書を読んでもらってください。
- 本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 飲酒時や体調が悪いとき、病気や妊娠しているときは、トラクタを運転しないでください。

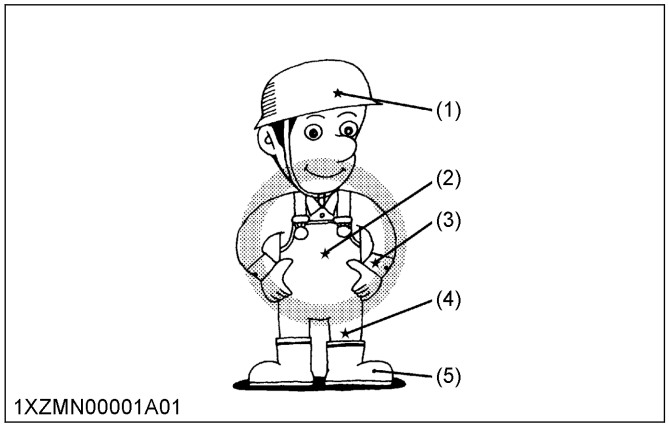


1GAGG00004C01

2. 作業に適した服装

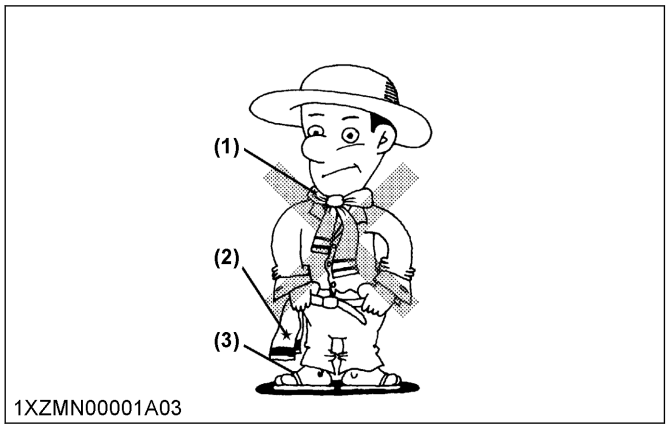
- ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。回転部分や操縦装置にひっ掛かり事故の原因になります。
  安全のため、ヘルメット、すべりにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護めがねや手袋などの保護具を使ってください。

作業に適した服装例



(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) きっちりした袖口
(4) きっちりしたスソ
(5) すべりにくい靴

作業に適さない服装例



(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

3. トラクタの改造禁止

- トラクタを改造しないでください。改造すると、トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

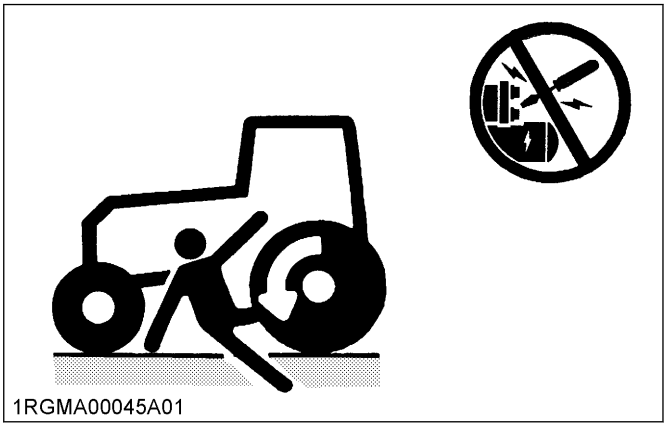
4. 作業前の点検、確認

- 安全カバー類を外した状態でトラクタ、作業機を使用しないでください。
- 紛失したり損傷した部品は交換してください。
- ブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置など機体各部の日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は、定期点検箇所一覧表（182 ページ）を参照)
- トラクタは常に清掃してください。バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着など汚れがあると火災の原因になります。

始動時の注意事項

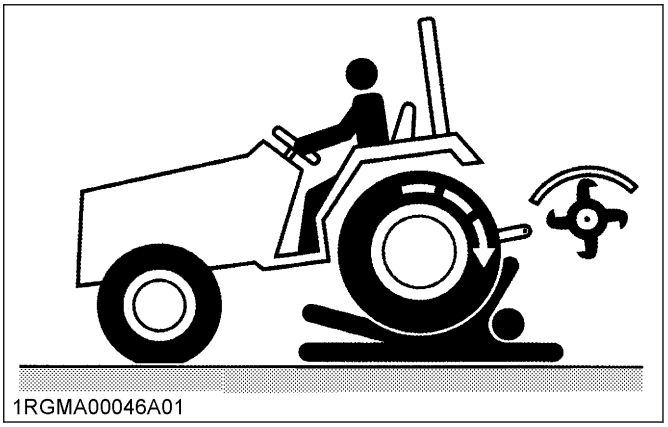
1. レバー、スイッチやブレーキの確認

- エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、シャトルレバー、PTO 変速レバーが“中立”位置かどうか、PTO スイッチが**[切]**かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
- 地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。トラクタが突然動き出すおそれがあります。



2. 周囲の安全確認

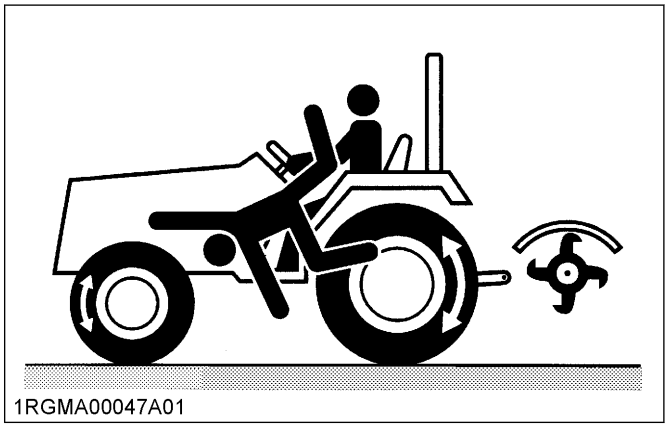
- トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人、特に子供を近づけないでください。もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
  また、安全キャブに当たる障害物が無いかも確認してください。



運転時の注意事項

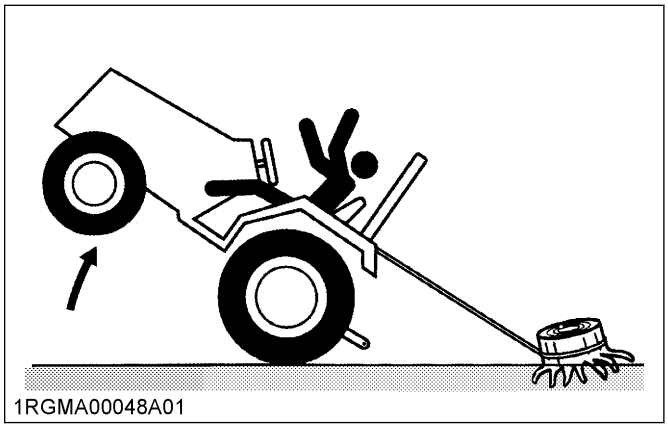
1. 同乗禁止

- 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。


1RGMA00047A01

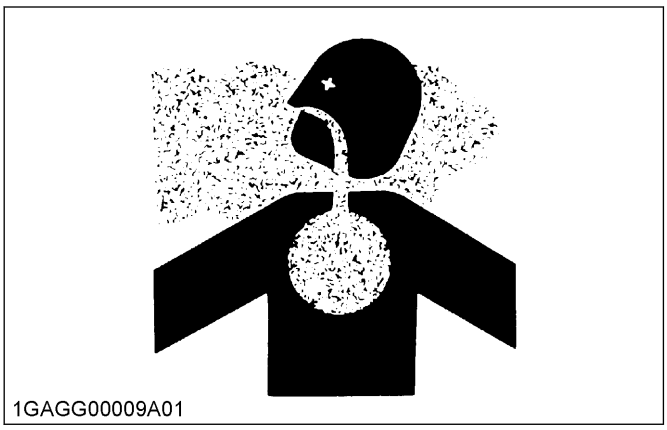
2. けん引作業時の注意

- けん引作業には、けん引ヒッチ（別売）を用い、絶対に車軸やトップリンクブラケットなど機体の部位で引っ張らないでください。トラクタの破損や転覆の原因となります。


1RGMA00048A01

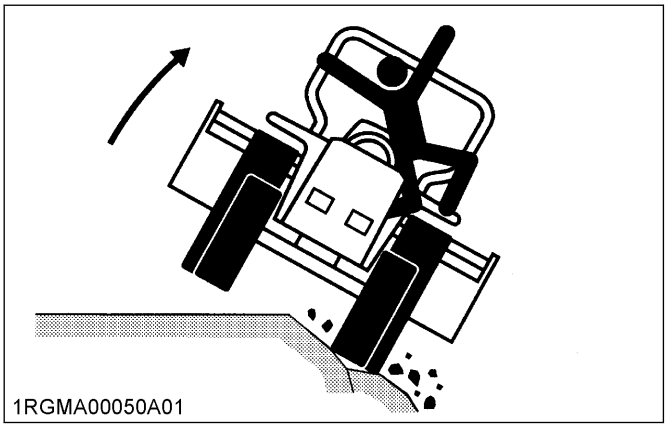
3. 屋内で運転するとき

- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。


1GAGG00009A01

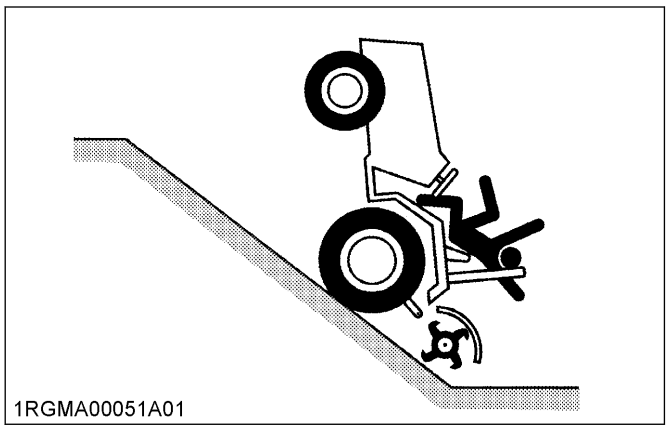
4. 運転に不適切な場所

- 溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。また、草の繁った所や水たまりなど地面の状況がわかりづらい場所には、隠れて見えない窪地がある場合があり、トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1RGMA00050A01

5. 後方転覆の危険、共同作業時の注意

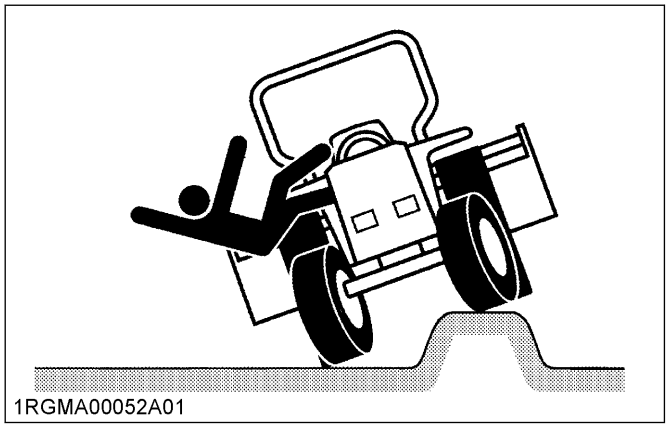
- 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では、バックで運転してください。



- 共同で作業をするときは、声を掛け合って、お互いにしようとしている事を知らせてください。

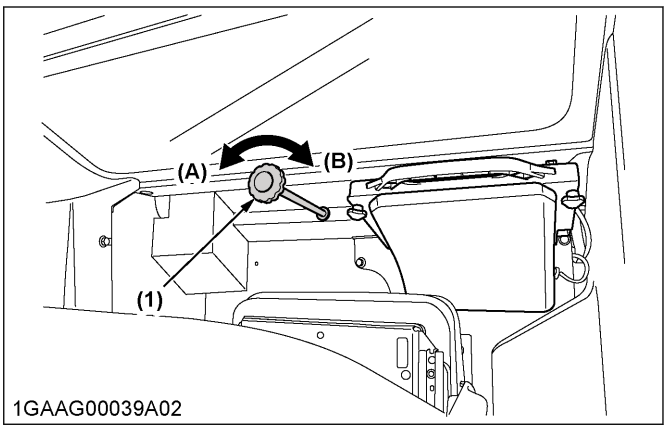
6. ほ場の出入り

- ほ場の出入りなど、急傾斜の上り降りや溝越えがある運転時は、低速にして直角に進行してください。その際、必ず連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。



7. ほ場外での作業機落下防止

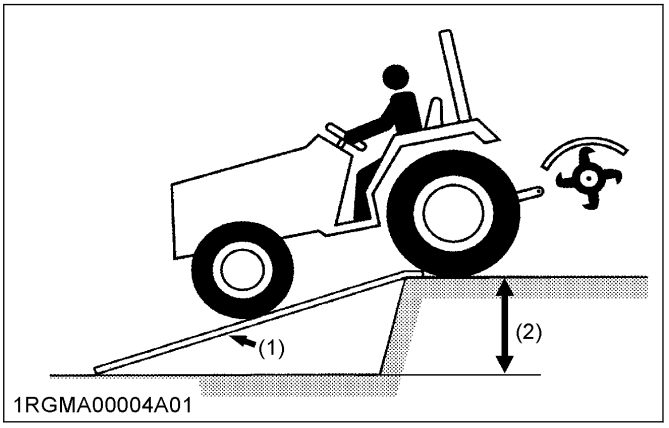
- ほ場外では、油圧ロックレバーで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。



(1) 油圧ロックレバー
(A) 解除（速）
(B) 油圧ロック（遅、停）

8. あゆみ板の使用、途中変速の危険

- ほ場の出入りなど、高低差の大きい急傾斜の上り降りや、溝越えが必要な運転の場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行ってください。
あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さの物を使用してください。

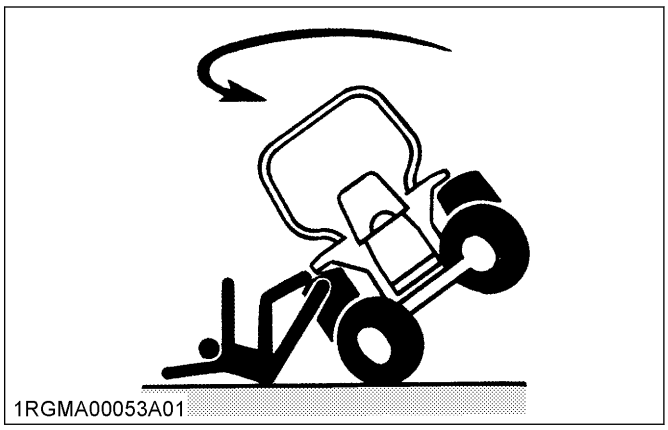


(1) あゆみ板
(2) 段差

- 急な坂道、車両への積込み、積降ろし、ほ場への出入り、あぜの乗越えなど傾斜や凹凸のある場所では、途中で変速すると危険です。あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

9. 急旋回禁止

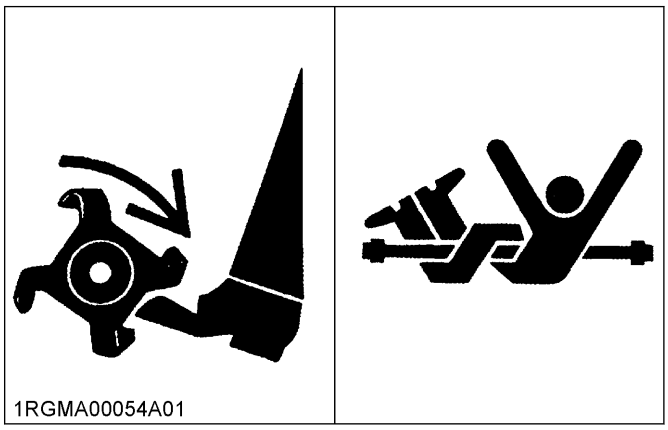
- ほ場以外や高速走行時、倍速ターンおよび AD 倍速ターンを使用すると、旋回時急に回り事故を引き起こすおそれがあります。必ず走行モード切替スイッチを**[2WD]**に切り換えてください。



作業機使用時の注意事項

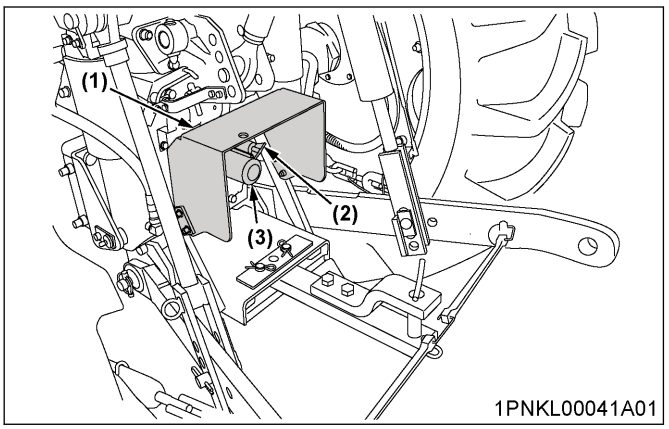
1. 作業機の着脱

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。
- トラクタから降りるときや、ロータリなど PTO 作業機の装着、取外し、調整、掃除、または修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。



2. PTO 軸の保護と回転数

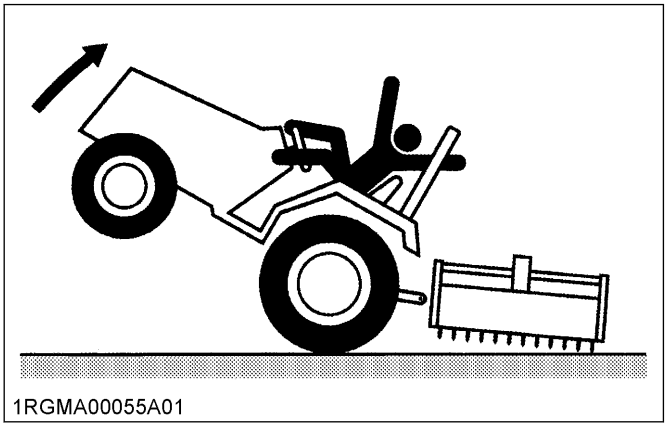
- PTO を使用しないときは、PTO 軸キャップを装着してください。
- PTO 軸カバーは常に取り付けてください。
- PTO 作業機は、その作業機で定められた PTO 回転以上で使用しないでください。機械の破損や人身事故のおそれがあります。



(1) PTO 軸カバー
(2) 蝶ボルト
(3) PTO 軸キャップ

3. 転倒防止のための重量バランス

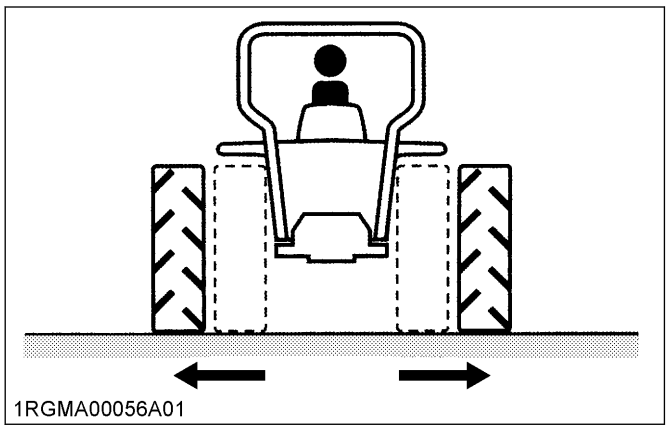
- トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）に掛かる荷重が総重量の 20 %以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。前部が軽くなりすぎると、操縦がむずかしくなり転倒事故のおそれがあります。



- 作業機はトラクタに推奨されている物を使用してください。大きすぎたり、小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故につながります。詳細は購入先にご相談ください。

4. 傾斜地作業、フロントローダ作業時の注意

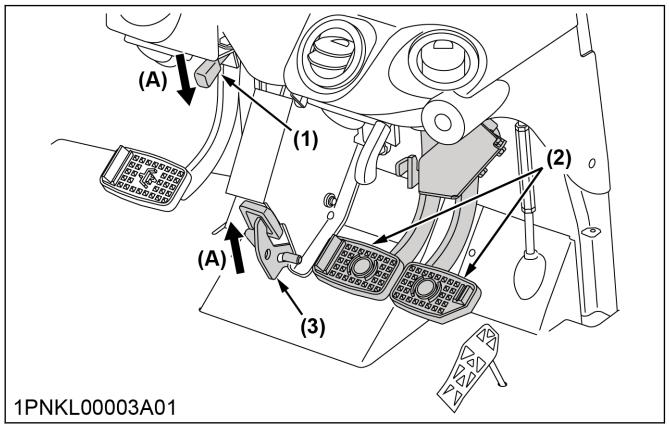
- 傾斜地作業、フロントローダ作業など機体のバランスが崩れやすい作業では、安定を良くするために、支障の無い範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。


1RGMA00056A01

道路走行時の注意事項

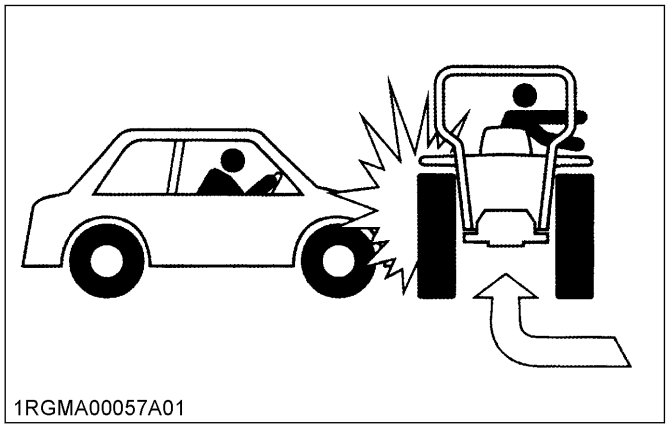
1. ブレーキペダルの使用方法

- 道路走行時は、連結解除ペダルロックレバーを必ず“下げ”、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。高速走行で誤って片ブレーキを掛けるとトラクタが振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。



1PNKL00003A01

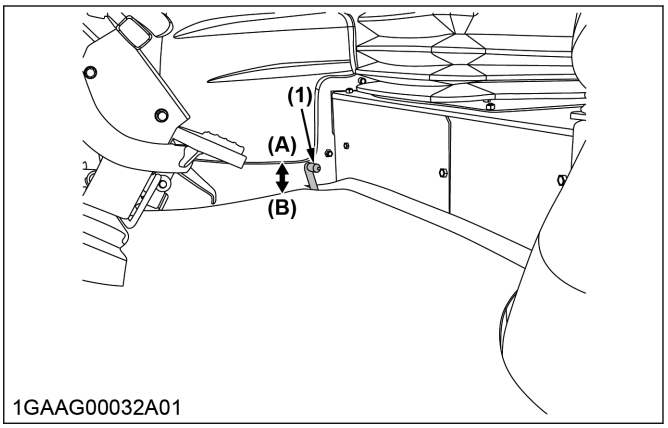
(1) 連結解除ペダルロックレバー
(2) ブレーキペダル
(3) 連結解除ペダル
(A) ロック（格納）


1RGMA00057A01

- 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。

2. デフロックの禁止、旋回速度注意

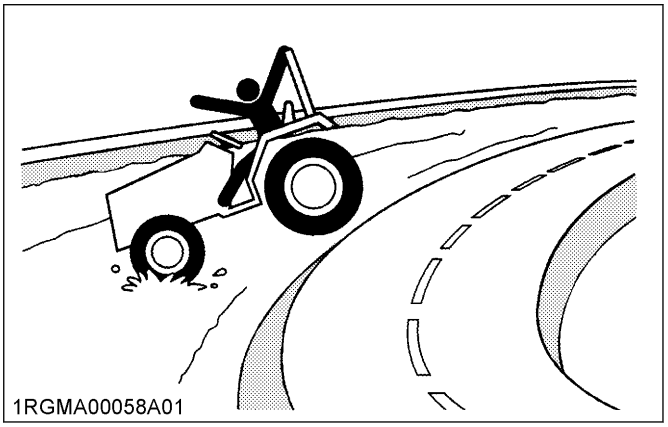
- 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。
後輪デフロックは、後輪デフロックペダルを踏むと“ロック”状態となり、ペダルから足を離すと“解除”になります。



1GAAG00032A01

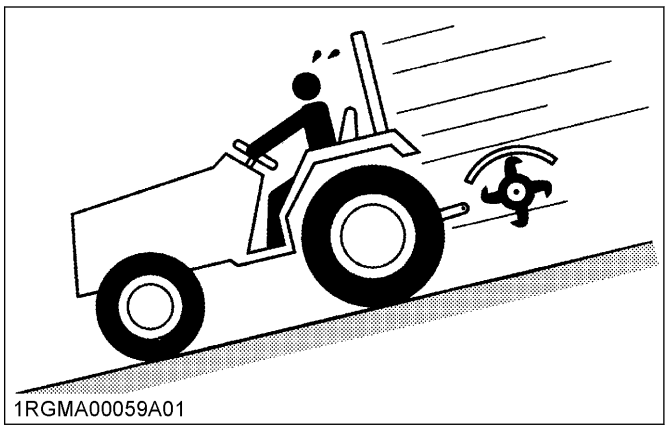
(1) 後輪デフロックペダル
(A) 解除
(B) ロック

- 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。


1RGMA00058A01

3. 坂道走行、交通法規遵守

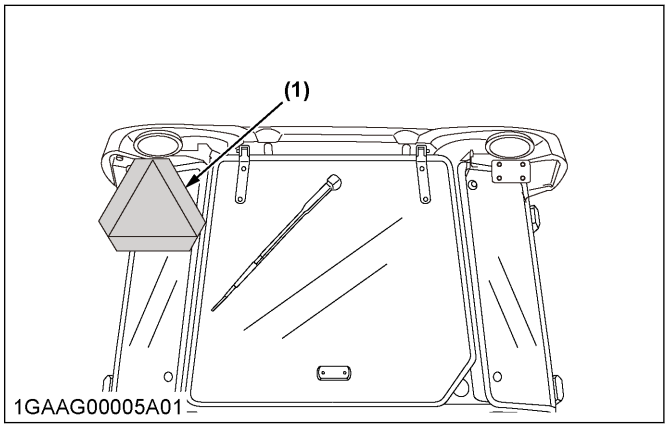
- 坂を降りるとき、クラッチを切ったり、変速を“中立”にして惰性で走行しないでください。操縦できなくなるおそれがあります。


1RGMA00059A01

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。
- 交通や安全規則を守ってください。
  大型特殊自動車の運転免許証を必ず携行してください。
- 作業灯は点灯しないでください。

4. 低速車（SMV）マークの表示

- 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行していることを知らせる低速車（SMV）マークを取り付けてください。また、夜間ヘッドライトに低速車（SMV）マークがよく反射するように、マークは常に清掃してください。



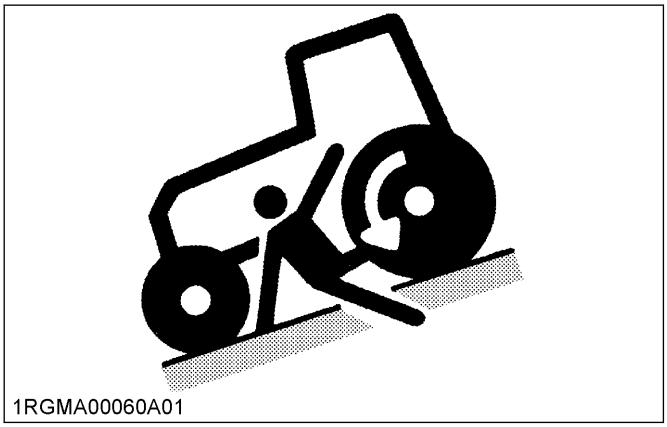
1GAAG00005A01

(1) 低速車（*SMV*）マーク

駐車、格納時の注意事項

1. 駐車場所、レバーの状態、シートを掛けるときの注意

- 駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、PTO を“切”、作業機を“下げ”、各変速レバーを“中立”位置、駐車ブレーキを“掛け”、エンジンを“停止”してキーを“抜いて”ください。
  やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。

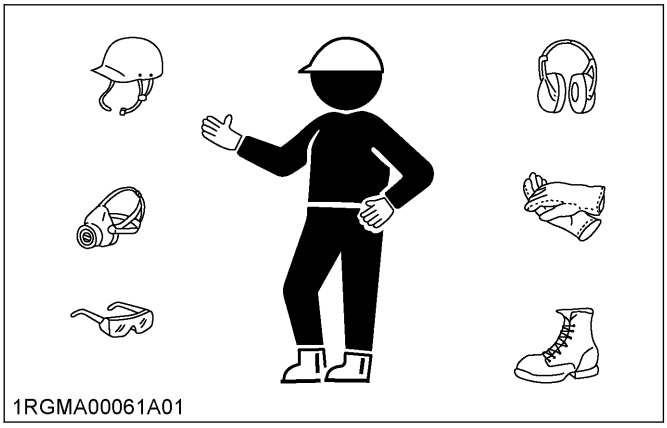

1RGMA00060A01

- 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。
- 格納など長期保管でトラクタにシートを掛ける場合は、マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行ってください。

点検、給油、整備時の注意事項

1. 適した服装、安全確認

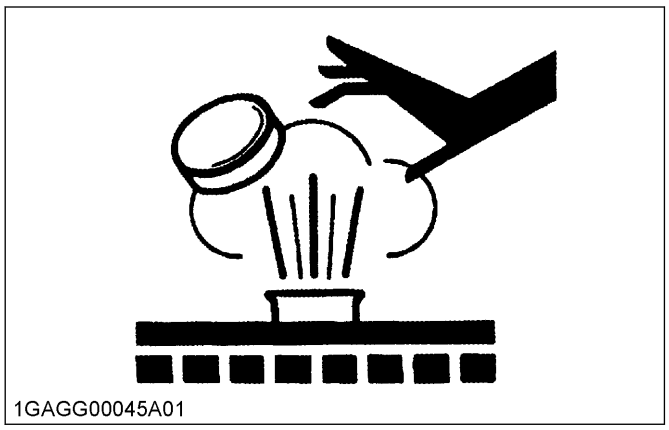
- 点検、整備には帽子と安全な服装を着用してください。作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護めがね、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。

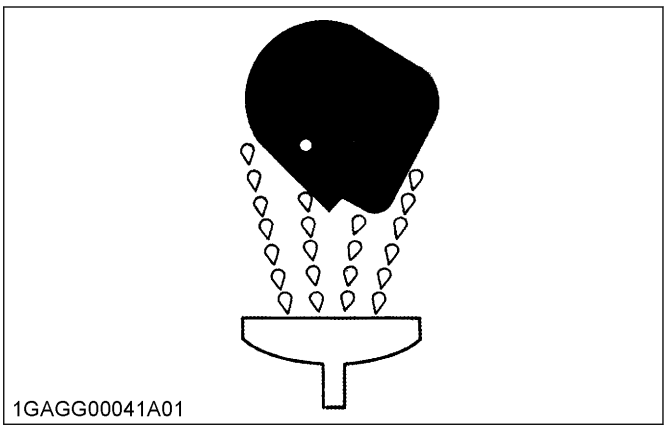

1RGMA00061A01

- エンジンを停止し、キーを抜き安全を確認してから作業してください。

2. エンジン停止時の注意

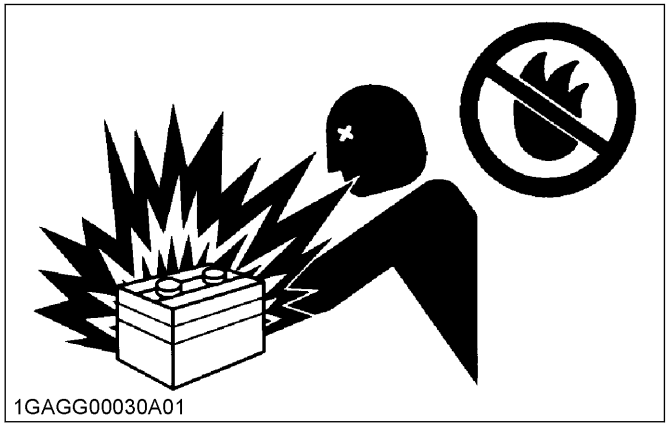
- 平たんな場所に駐車し、作業機を“下げ”、駐車ブレーキを“掛け”、各変速レバーを“中立”位置にし、そしてエンジンを“停止”してください。
- エンジン、マフラ、ラジエータなど機体各部がじゅうぶん冷めてから点検、整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1GAGG00045A01


1GAGG00041A01

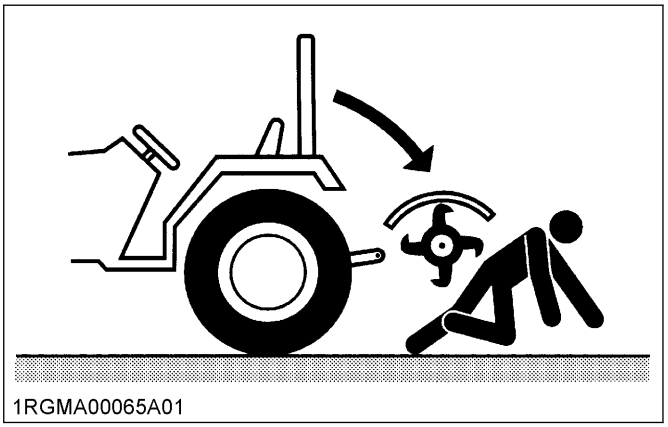
3. バッテリの取扱い

- バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどの救援部品を接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。
  （詳細は、バッテリあがりの処置（130 ページ）を参照）
- バッテリは液面が*“LOWER”*（最低液面線）以下になったままで使用や充電しないでください。*“LOWER”*以下で使用し続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  補水可能なバッテリはすぐに*“UPPER LEVEL”*（上限）と*“LOWER LEVEL”*（下限）の間に補水してください。
- バッテリを外すときは、短絡事故を防ぐため、最初にバッテリのマイナスコードを外し、接続するときは最後にマイナスコードを接続してください。
- バッテリ液は希硫酸なので扱いに注意し、体や衣服に付けないように注意してください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って、速やかに医師の診療を受けてください。


1GAGG00030A01

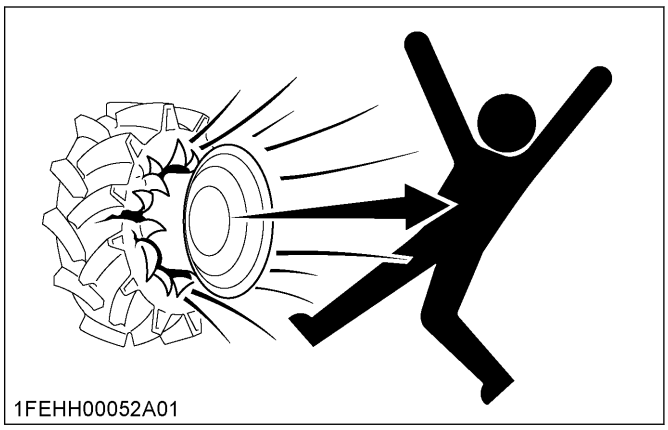
4. 3点リンク作業機の注意

- 3点リンク作業機を上げた状態で点検、整備する場合、必ず油圧ロックレバーで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下を防止してください。


1RGMA00065A01

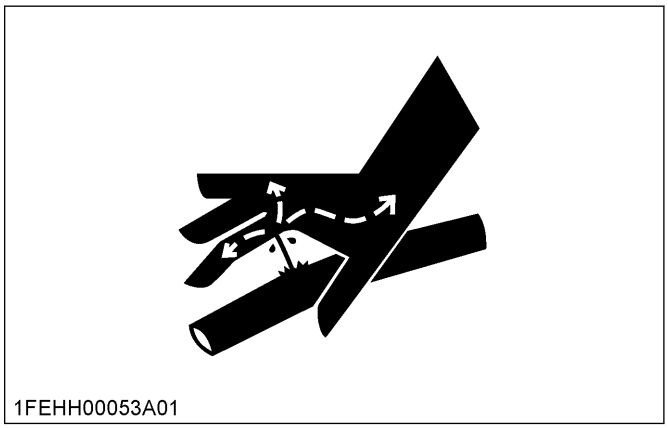
5. タイヤの確認

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
  （タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検（190 ページ）を参照）
  空気の入れすぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなど車輪各部の交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が交換、修理するように、法で決められています。


1FEHH00052A01

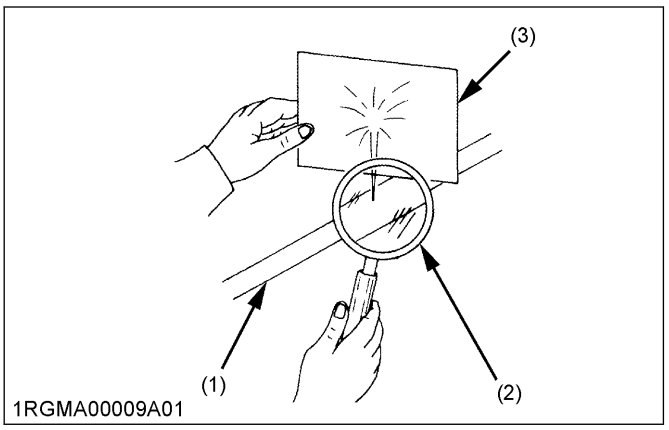
6. 油圧部品を外すときの注意

- 圧力が掛かり噴出した油は、皮膚を貫通するほどの力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは、必ず残圧を抜いてください。


1FEHH00053A01

7. 油漏れの点検

- 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、保護めがねを掛け、ボール紙など面材を利用してください。
  万一、油が皮膚を貫通したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



1RGMA00009A01

(1) 高圧ホース
(2) 虫めがね
(3) ボール紙

8. 後輪を浮かせての始動禁止

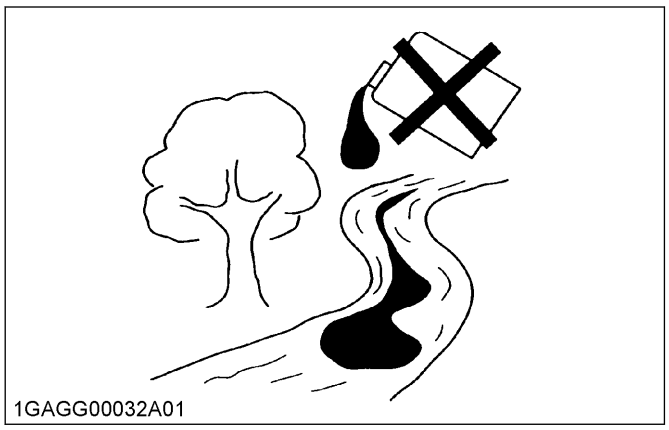
- 点検、整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動しないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっているので、前輪が回転しトラクタが動き出すおそれがあります。

9. 作業後、高圧洗浄後の注意事項

- 作業後、高圧洗浄後などトラクタを使用し終わったときは、排気管周辺に燃えやすいものが無いかじゅうぶん注意してください。枯草、小枝などの異物がボンネット内に入り込んだり、触媒や排気管に触れて発火するおそれがあります。

10. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。


1GAGG00032A01

11. コモンレール仕様の注意事項

- コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
  次の注意事項を守らないと、感電事故や高圧燃料の漏れによるケガをするおそれがあります。
  - 掃除などの保全作業でエンジンを制御する電子部品や、そのコネクタ、ハーネスを触る場合は、キースイッチを**[切]**位置にしてください。
  - エンジンの高圧燃料が通る部品は、分解や修理しないでください。また付近のボルト、ナット類をゆるめないでください。
    高圧燃料が通るのは、燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。
  - エンジンの不調時は、購入先にご相談ください。

12. ディーゼルパーティキュレートフィルタ（DPF）についての注意事項

- DPF 再生中は排ガスや DPF が高温になります。やけどや、周囲のわらくずなど異物の発火、溶解に注意してください。
- 高温の排ガスが当たらないようにトラクタの周囲に人や可燃物を近づけないでください。
- 火災防止のため、DPF マフラの周囲は可燃物を取り除き常にきれいにしてください。
- DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますので、換気の悪い場所では再生を行わないでください。
- DPF 再生中はトラクタから離れないでください。

13. 直接通信ユニットについての注意

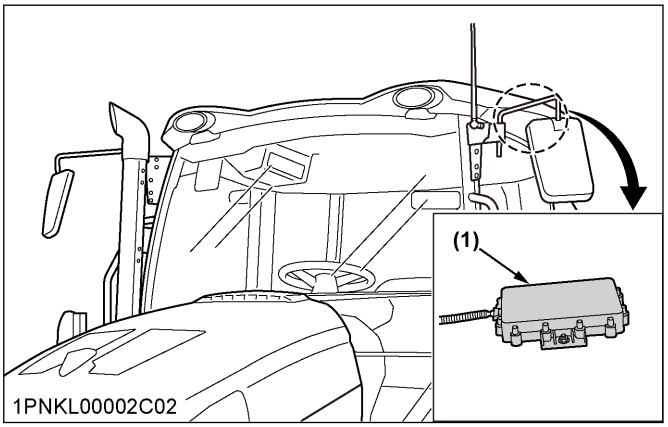
- 身体から次の距離以上離してください。

身体からの距離	55 mm 以上

- 心臓ペースメーカーの装着位置から次の距離以内で使用しないでください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

心臓ペースメーカー装着位置からの距離	22 cm 以内

- 分解、改造、または修理しないでください。感電による障害または火災のおそれがあります。
- 塗装しないでください。故障の原因になる可能性があります。
- 本機に貼られている認証ラベルを剥がさないでください。
- 有毒ガスが充満する環境で使用しないでください。またハロゲン系燻蒸剤で燻蒸する場合も使用しないでください。



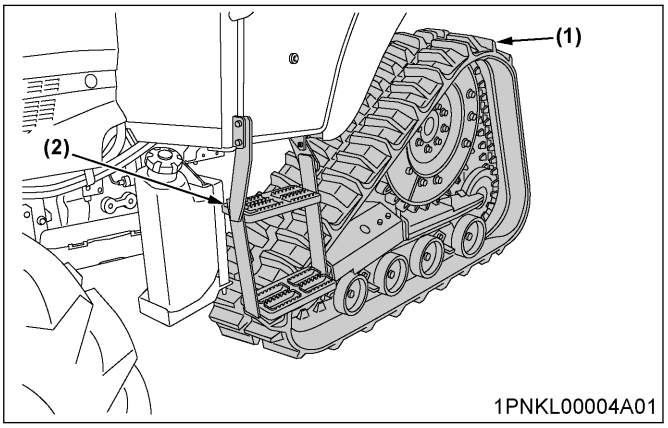
(1) 直接通信ユニット

ハーフクローラ仕様についての注意事項

[ハーフクローラ仕様]の場合の特別な注意事項を記載しています。他項の注意事項と合わせてよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。

1. 乗り降り時の注意[ハーフクローラ仕様]

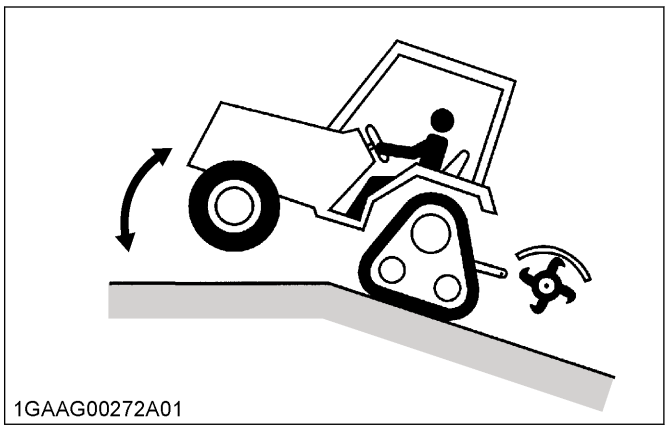
- 乗り降りは補助ステップを使ってください。クローラに足を掛けるとすべって転倒するおそれがあります。



(1) クローラ　　*(2)* 補助ステップ

2. 運転時の注意［ハーフクローラ仕様］

- 凹凸やカーブが多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。


1GAAG00272A01

- クローラ部が凸部を乗り越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。

作業時

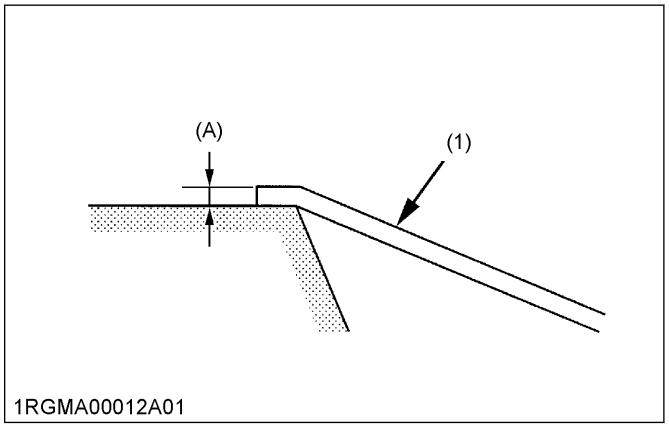
- クローラの構造上、左右に大きな段差がある状態で作業すると、クローラが外れる場合があります。プラウ作業など耕うん時に、片側のクローラを溝に落としての作業は行わないでください。

3. あゆみ板使用時の注意[ハーフクローラ仕様]

- あゆみ板は左右の先端をそろえ、前後にずれないように確実に固定してください。
- あゆみ板とあゆみ板を掛けた面との段差が大きい場合、運転には特に注意してください。
- 途中で変速すると危険ですので、あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
- あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅、長さのあるすべり止めおよび爪付きの物を使用してください。長さは、あゆみ板の傾斜が 15°以下になるような、トラックの荷台高さあるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上が目安です。
  また、ハーフクローラの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

ほ場への出入り

- クローラの片側だけが段差に引っ掛かり乗り上がらない状態になった場合、いったん車両をもとに戻し、あゆみ板を掛け直して初めからやり直してください。

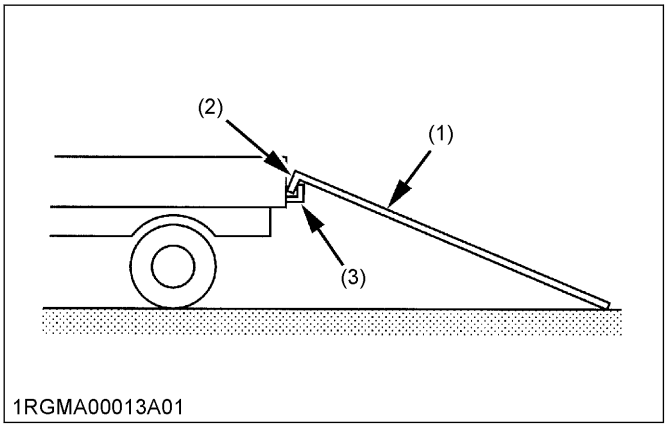


1RGMA00012A01

(1) あゆみ板　　*(A)* 段差

トラックへの積み、降ろし

- トラックは、荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いた車両を使用してください。

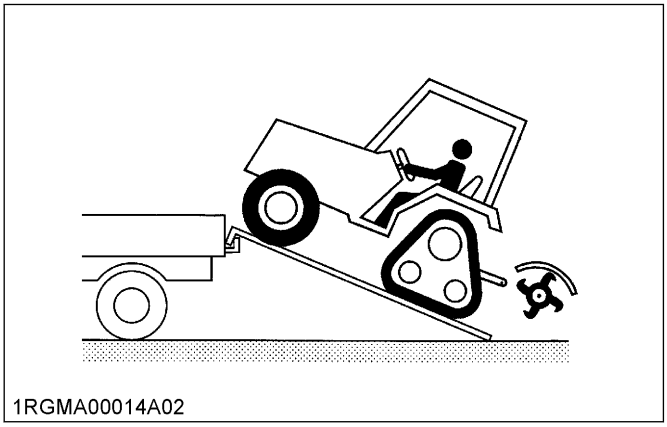


1RGMA00013A01

(1) あゆみ板　　*(3)* フック
(2) 爪

- トラックへの積み、降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを“連結”し、“前進で積み込み、後進で降ろして”ください。前進で降りると、クローラがあゆみ板の段差ですべり、前輪が浮いて車体が旋回し、転倒事故につながるおそれがあります。

トラックへの積み、降ろし方向 [ハーフクローラ仕様のみ]


1RGMA00014A02

安全ラベル

1. 安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番　99870005910



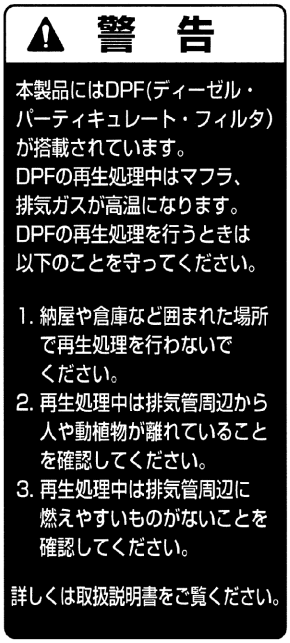
1AGADAUAP014A

(2) 品番　99900006260



1AGAYAAAP095A

(3) 品番　99900007450



1AGADAUAP024A

(4) 品番　99900007440



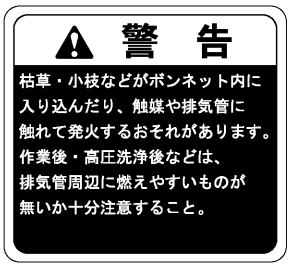
1AGAYAAAP093A

(5) 品番　99900006250

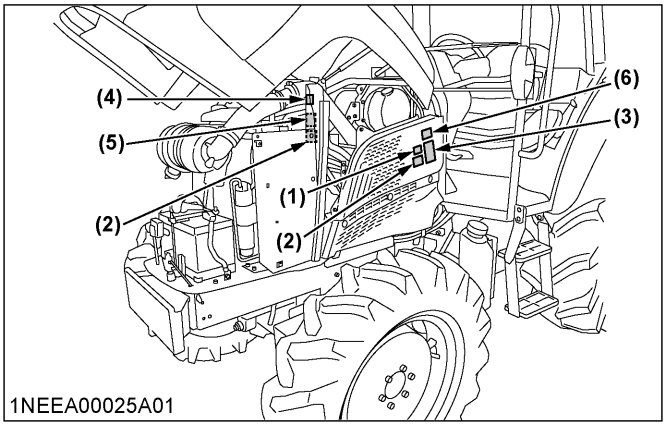


1AGAYAAAP096A

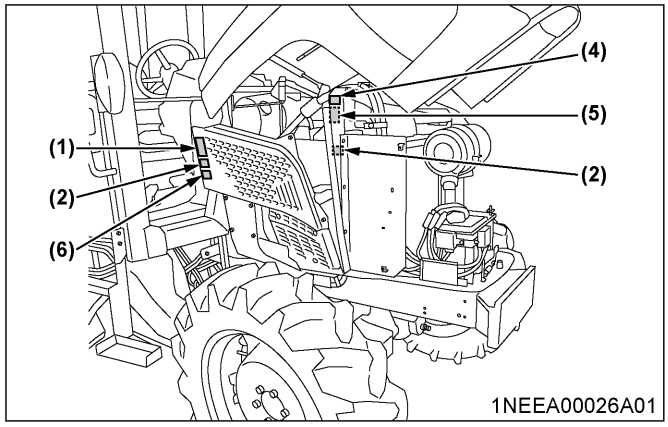
(6) 品番　95270000250



1GAAG00030A01



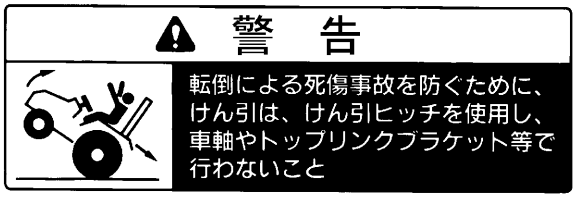
1NEEA00025A01



1NEEA00026A01

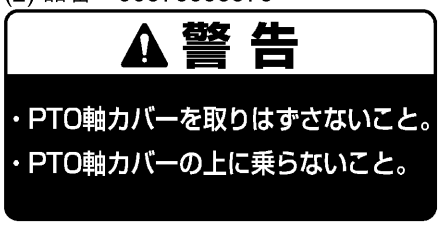
1NEEA00013A01jaJP

(1) 品番　99660028630



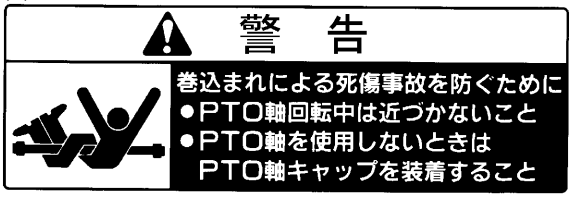
1AGALBAAP129J

(2) 品番　99870005870



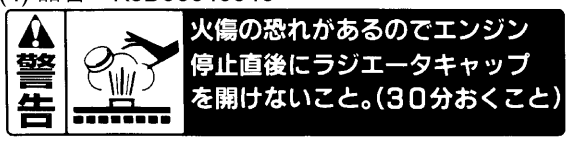
1AGADAUAP100A

(3) 品番　99660028670



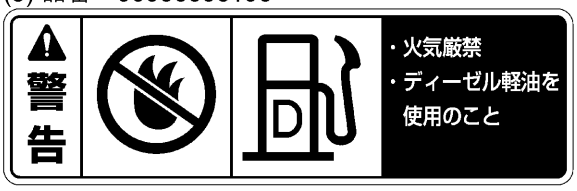
1AGALBAAP128J

(4) 品番　K3D95049540

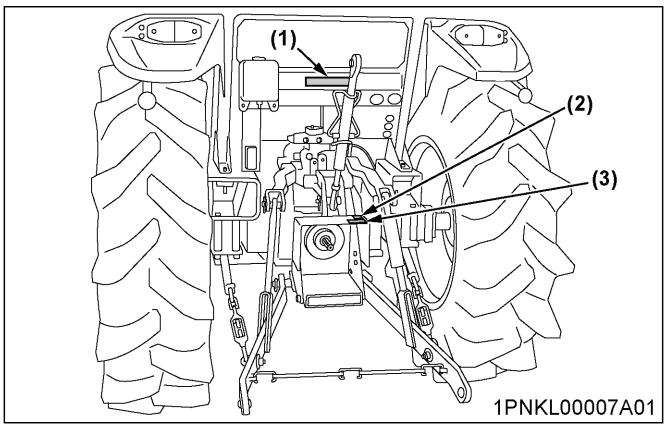


1AGADAUAP070A

(5) 品番　99900006190

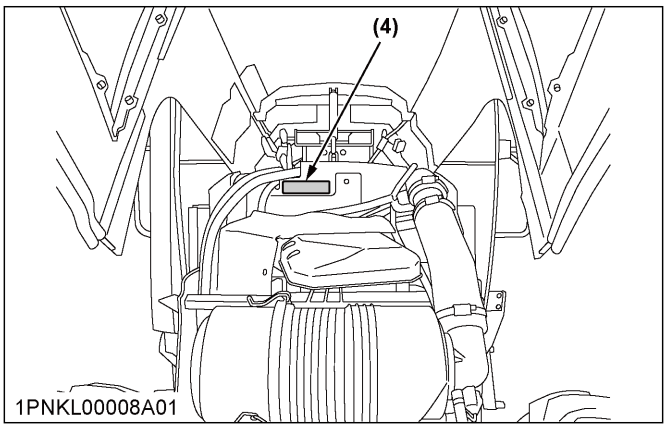


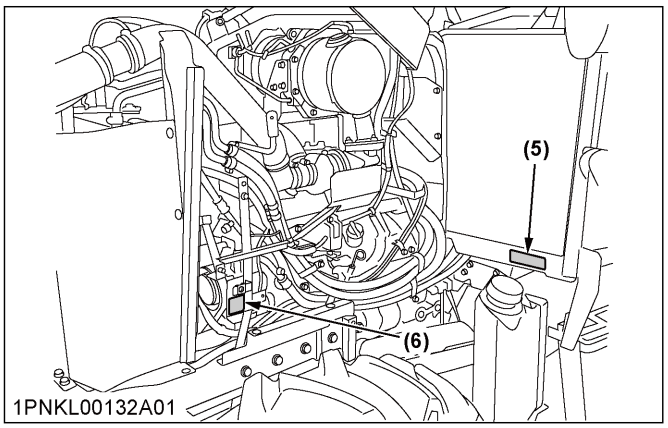
1AGAYAAAP100A



(6) 品番　99900006260



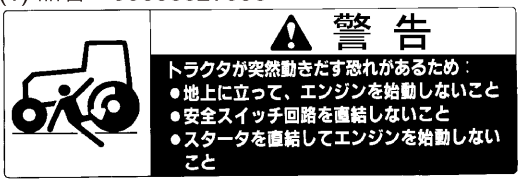




1NEEA00014A01jaJP

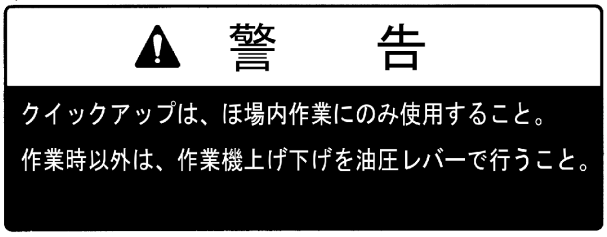
⚠ 安全に作業をするために

(1) 品番　99660027950

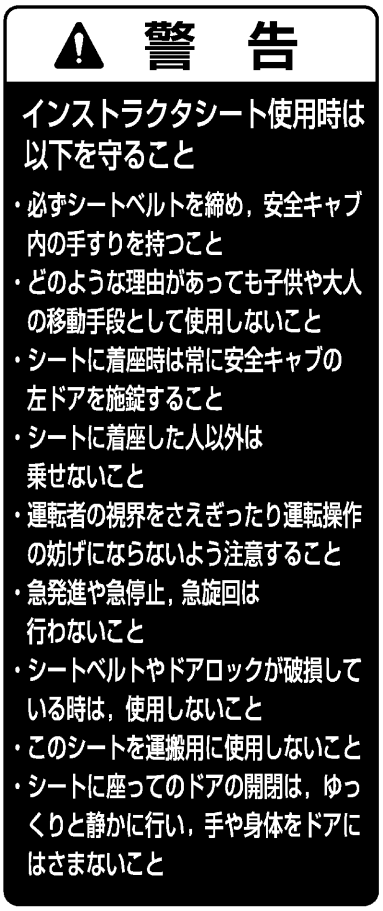


1AGADALAP249J

(3) 品番　95270000260

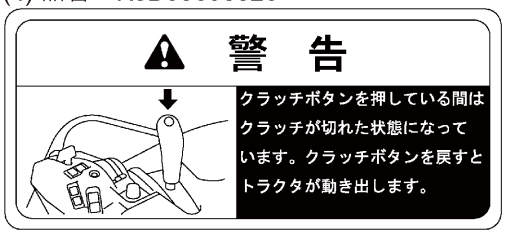


(2) 品番　95210006370
（インストラクタシート装着時のみ）

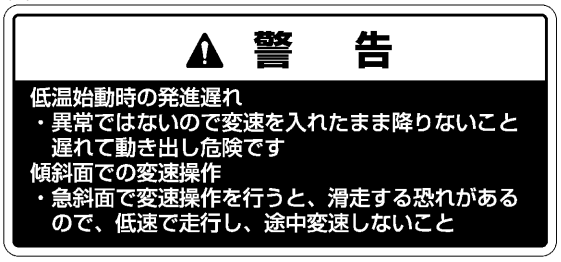


1AGADAUAP121A

(4) 品番　K3D95098320

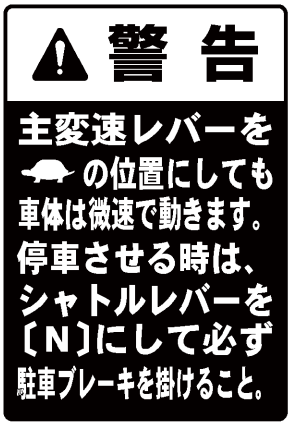


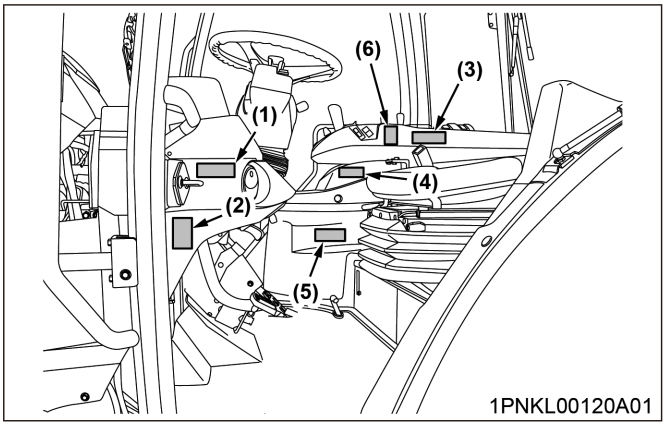
(5) 品番　99900006170



1AGAYAAAP099A

(6) 品番　K3D95049220





1NEEA00015A01jaJP

(1) 品番　99870006630

⚠ 警　告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- ・シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
- ・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- ・道路走行時は運転者以外に人を乗せないこと
- ・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- ・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- ・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- ・道路走行時はデフロックを使用しないこと
- ・道路走行時はSMVマークを装着すること
- ・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ・PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
- ・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

1AGADAUAP020A

(2) 品番　99900007650

⚠ 警 告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること。

1AGACCBAP126J

(3) 品番　99660021930

⚠ 警　告

点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないで下さい。
　ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっている為、前輪が回転しトラクタが動き出す恐れがあります。

1AGAVAAAP173J

(4) 品番　99900006180

⚠ 警告



転倒による死傷事故を防ぐため圃場以外では倍速、ＡＤ倍速を使用しないこと。

⚠ 警告

転倒や衝突による死傷事故を防ぐため、道路・傾斜地走行では旋回２ＷＤを使用しないこと。

1AGAYAAAP098A

(5) 品番　99900007770

⚠ 警告

転倒や衝突による死傷事故を防ぐために、道路走行時は連結解除ペダルロックレバーをロックすること。

1AGAYAAAP078A

(6) 品番　99100012240

⚠ 警告

傾斜地での前、後進切替時、一時的に中立になることにより、トラクタの自重による自走を防止するため、ブレーキ及びクラッチを使用し切替完了後クラッチで発進すること。

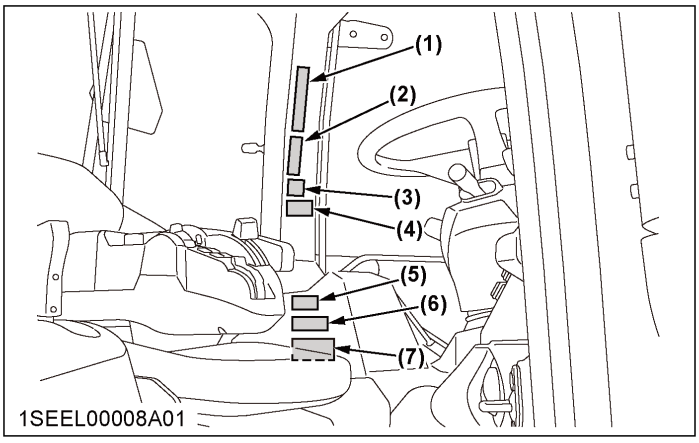
(7) 品番　99900004610



⚠ 警　告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません

1AGAVAAAP177J

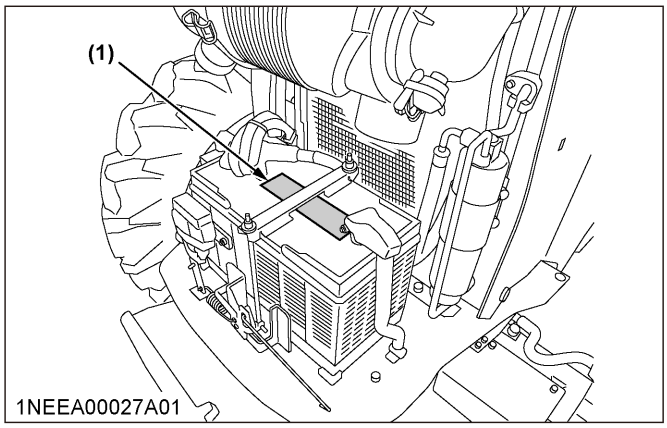


1SEEL00008A01

1NEEA00016A01jaJP

(1) 品番　99900007190





1NEEA00017A01jaJP

2. 安全ラベルの取扱い

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルに掛けないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。
- ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

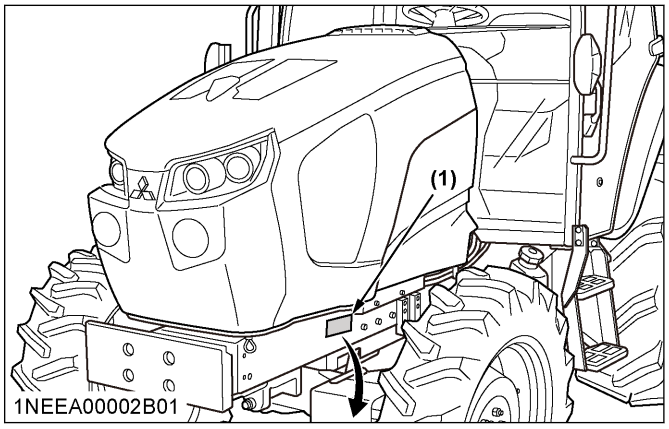
⚠ 警告

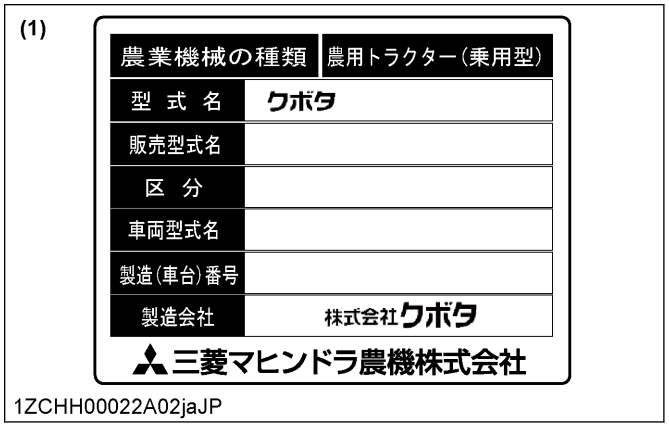
- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。**

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれご相談窓口を設けておりますのでお気軽にご相談ください。その際銘板に記載している次の項目を併せてご連絡ください。

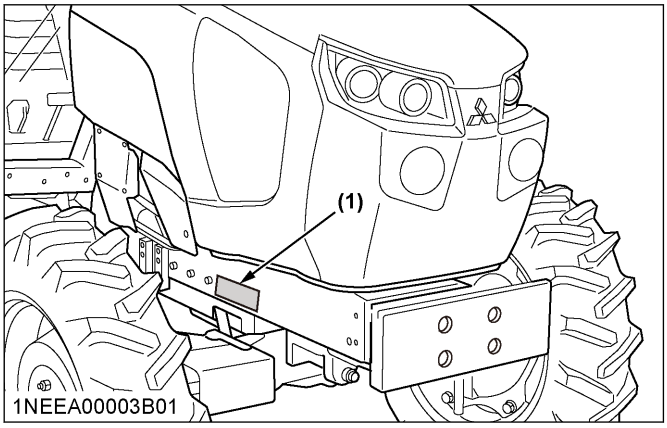
- 型式名
- 製造（車台）番号

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

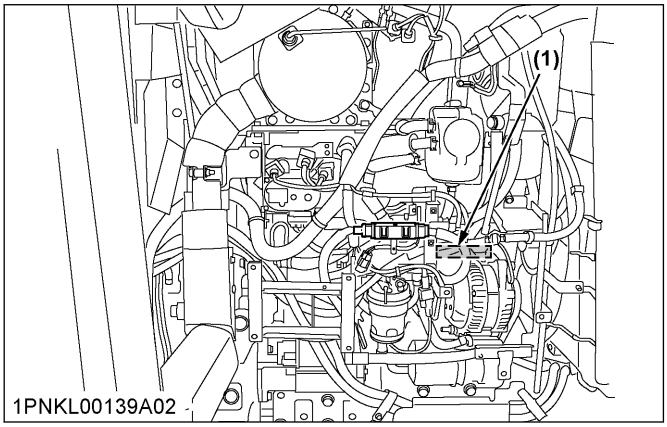




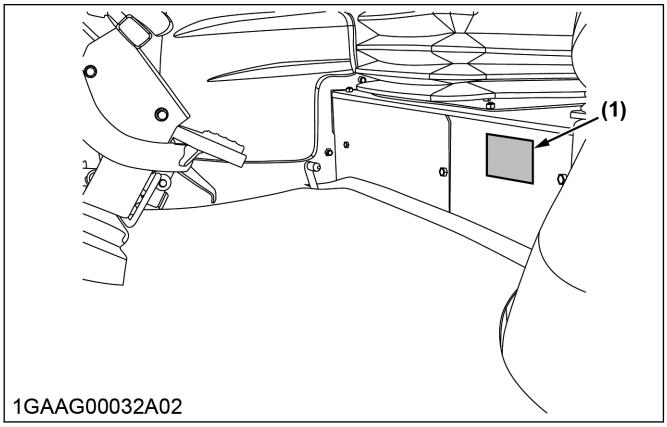
(1) 銘板



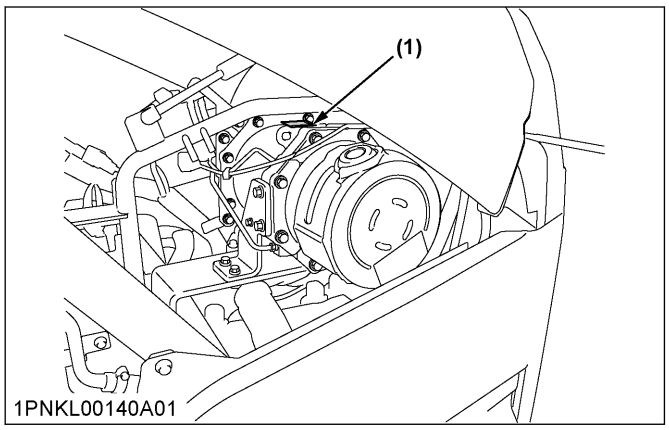
(1) 製造（車台）番号



(1) エンジン番号



(1) 安全キャブ銘板



(1) DEF 番号

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 12 年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などの条件についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に既述の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

農機型式名一覧表

型式名	農機型式名	安全性検査合格番号	安全キャブ、フレーム検査合格型式名	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
GV601H	クボタ MR600H	NARO 22/008	クボタ IC700HMR	クボタ YDN-MRF	農3567改造型
GV651H	クボタ MR650H	NARO 22/007	クボタ IC700HMR	クボタ YDN-MRF	農3567改造型
GV701H	クボタ MR700H	NARO 22/006	クボタ IC700HMR	クボタ YDN-MRF	農3567改造型
GVK651H	クボタ MR650H-PC	NARO 22/010	クボタ IC700HMR	クボタ YDN-MRF	農3567改造型
GVK701H	クボタ MR700H-PC	NARO 22/009	クボタ IC700HMR	クボタ YDN-MRF	農3567改造型

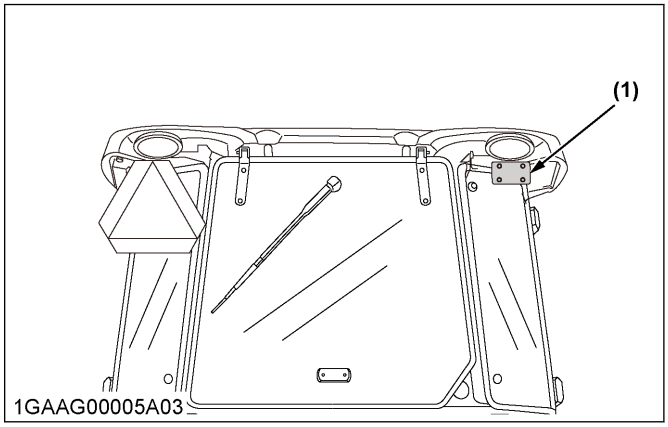
小型特殊自動車としての取扱い

本機は、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得したことを市町村役所に届けて、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。

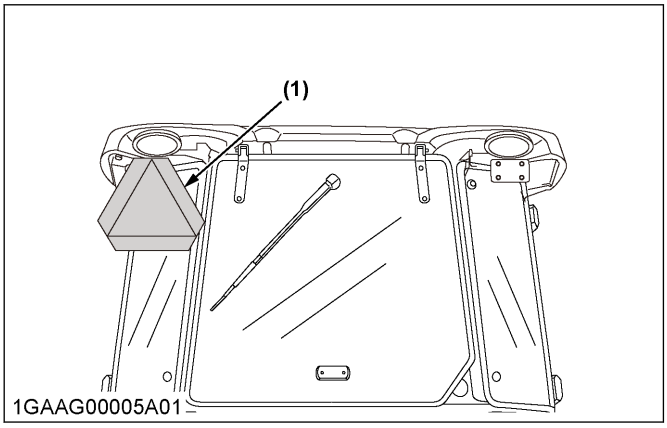
1. 小型特殊自動車を購入したときは、購入先で発行してもらう販売証明書などの書類に、軽自動車税を添えて市町村役所に届け出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）を車体の取付け位置に取り付けてください。



(1) 取付け位置

低速車（SMV）マーク

公道走行時は後続車に低速農耕車が走行していることを知らせる低速車（SMV）マークを取り付けてください。



(1) 低速車（*SMV*）マーク

運転免許

重要：

- **本機は道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが、道路交通法では、大型特殊自動車に該当します。したがって公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。**

公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

損害賠償保険について

重要：

- **エンジンで封印されている所は触らないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証は致しません。**

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

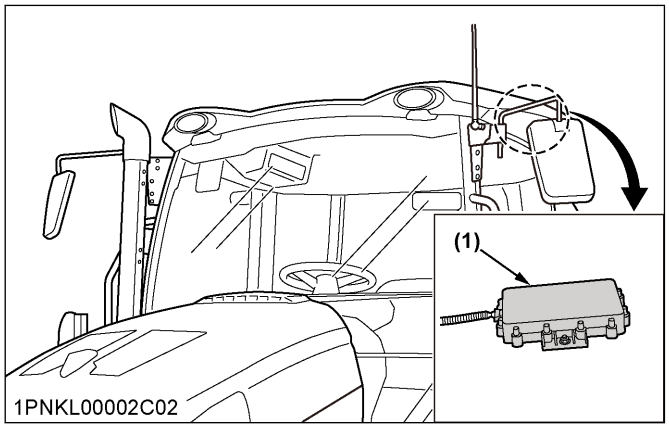
公道走行時の注意

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。
- 作業灯は［道路運送車両法の保安基準］第 42 条（灯火の色等の制限）において、走行中に使用しない灯火とされ、点灯したまま道路走行するとほかの交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されております。

農耕トラクタに関わる［道路運送車両法の保安基準］の運用見直しにより、直装型の作業機については、条件を満たせば装着した状態で公道を走行することができるようになりました。

直接通信ユニットについて

保守および点検サービス全般、および品質向上のため、メインスイッチのキーを**[入]**位置にすると、機械の位置情報ならびに稼働情報を自動的に KSAS サーバに送信するユニットです。
詳細については購入先にご相談ください。



(1) 直接通信ユニット

- 電波法に基づく認証について
  本製品で使用している無線ユニットは、電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
  ただし、以下の事項を行うと法律により罰せられることがあります。
  - 無線ユニットを分解または改造すること。
  - 無線ユニットに貼られている認証ラベルをはがすこと。
- 本製品で使用している無線ユニットは IEEE802.11 に準拠した通信を行っています。そのため環境により通信できない場合や周囲の無線機器に影響を与える場合があります。

輪距

公道走行は、必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は次表のとおりです。この輪距どおりでない場合は道路運送車両法の保安基準違反になり、道路を走行することができません。

前後輪タイヤ組合せ表［ホイール仕様］

型式		前輪		後輪		
		タイヤサイズ	輪距（mm）	タイヤサイズ	輪距（mm）	
GV601H	A	8.3-20	1320	12.4-32	1320	*1
	RC	8.3-20		12.4-32		
	—	8.3-20		12.4-32H		
	W	9.5-18		14.9-28H		
	R	280/70R20	1430	14.9R28	1420	*2
GV651H	A	9.5-22	1320	12.4-36	1320	*1
	K	9.5-24	1390	13.9-36		
	LA	9.5-24		16.9-30	1420	
	—	9.5-22	1320	12.4-36H	1320	
	L	9.5-24	1390	16.9-30H	1420	
	R	250/85R24	1380	340/85R36	1320	*3
	L1R	9.5R24		16.9R30	1420	*2
GV701H	A	9.5-22	1320	12.4-36	1320	*1
	K	9.5-24	1390	13.9-36		
	LA	9.5-24		16.9-30	1420	
	KK	9.5-24		12.4-38	1320	
	S1K	9.5-24RC		12.4-38RC		
	—	9.5-22	1320	12.4-36H		
	L	9.5-24	1390	16.9-30H	1420	
	R	250/85R24	1380	340/85R36	1320	*3
	L1R	9.5R24		16.9R30	1420	*2
	SKR	9.5R24		12.4R38RC	1320	

補足：

- **タイヤサイズに H が含まれるタイヤはハイラグタイヤを示します。**
- **表中のタイヤサイズは標準出荷時のものです。**

*1　ブリヂストン製タイヤです。

*2　ミシュラン製ラジアルタイヤです。

*3　ファイヤストーン製ラジアルタイヤです。

前後輪タイヤ組合せ表［ハーフクローラ仕様］

型式		前輪		クローラ	
		タイヤサイズ	輪距（mm）	クローラサイズ*1	輪距（mm）
GVK651H GVK701H	標準	9.5-24	1390	450×50×90	1440
	N			280×50×90	
	W	320/60-26	1440	450×50×90	
	WR	320/85R20			

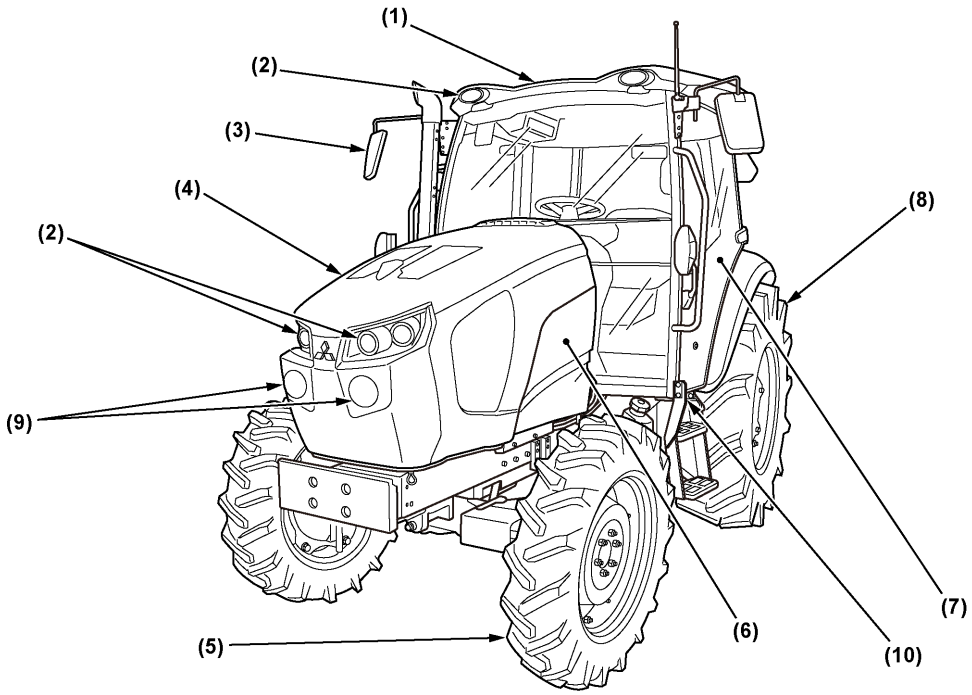
*1　クローラサイズの数値は次のとおりです。幅×リンク数×ピッチ（mm）

装置の名称と取扱い

トラクタ装置の名称

1. トラクタの外観

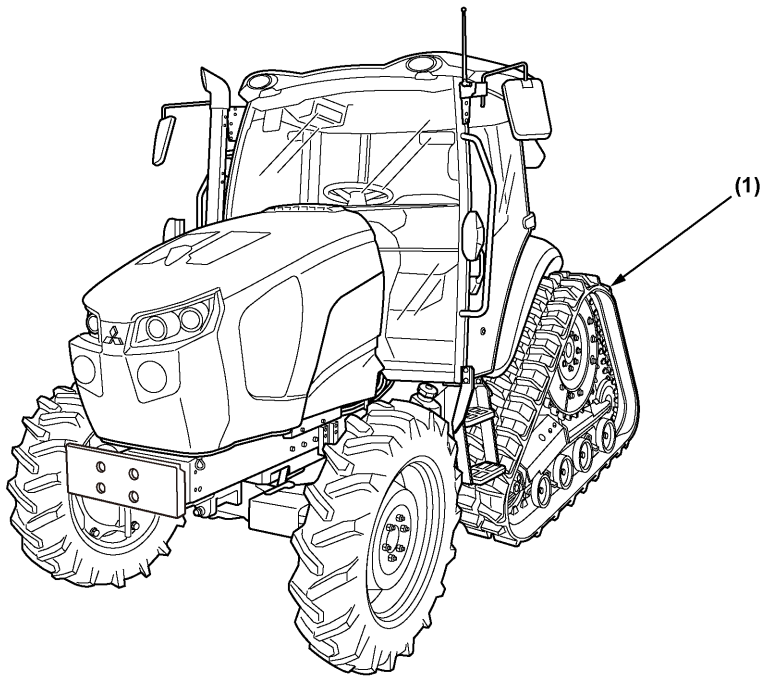
外観［ホイール仕様］



1NEEA00002A01

(1) 安全キャブ 42
(2) 作業灯（前） 174
(3) バックミラー 53
(4) ボンネット 187
(5) 前輪タイヤ 190
(6) サイドカバー 187
(7) ドア 171
(8) 後輪タイヤ 190
(9) ヘッドライト 53
(10) フットライト 172

外観［ハーフクローラ仕様］



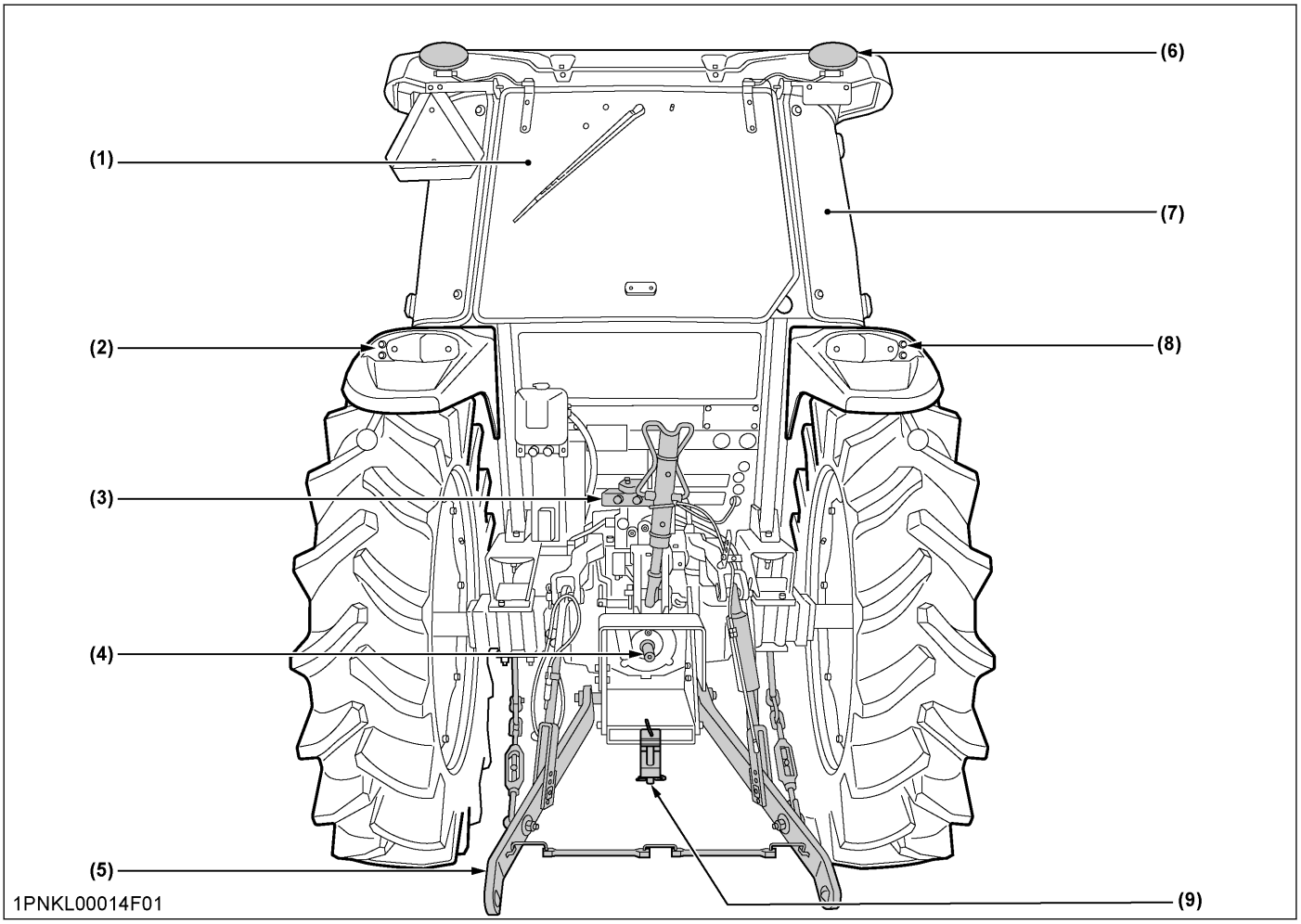
1NEEA00004A01

(1) ハーフクローラ

ハーフクローラ仕様に関する参照頁一覧

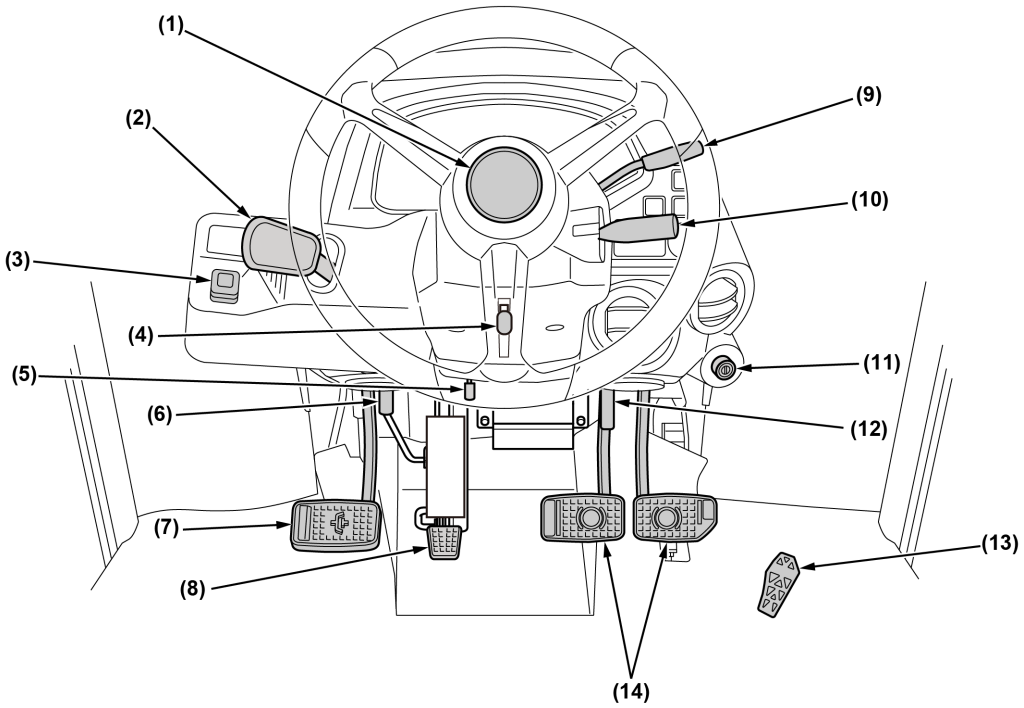
内容	参照頁
前後輪タイヤ組合せ表	33
トラックの積み、降ろし	133
運転のしかた	118
前輪タイヤ、クローラ輪距	161、165
日常点検箇所一覧	194
点検、整備	184
主要諸元	231
走行速度表	232

外観（共通）



(1) リヤウインド *171*
(2) *3* 点リンク外部操作スイッチ *143*
(3) 外部油圧取出し *116*
(4) *PTO* *147*
(5) *3* 点リンク *139*
(6) 作業灯（後） *174*
(7) クォータウインド *172*
(8) 傾き手動外部操作スイッチ *144*
(9) ドローバ *146*

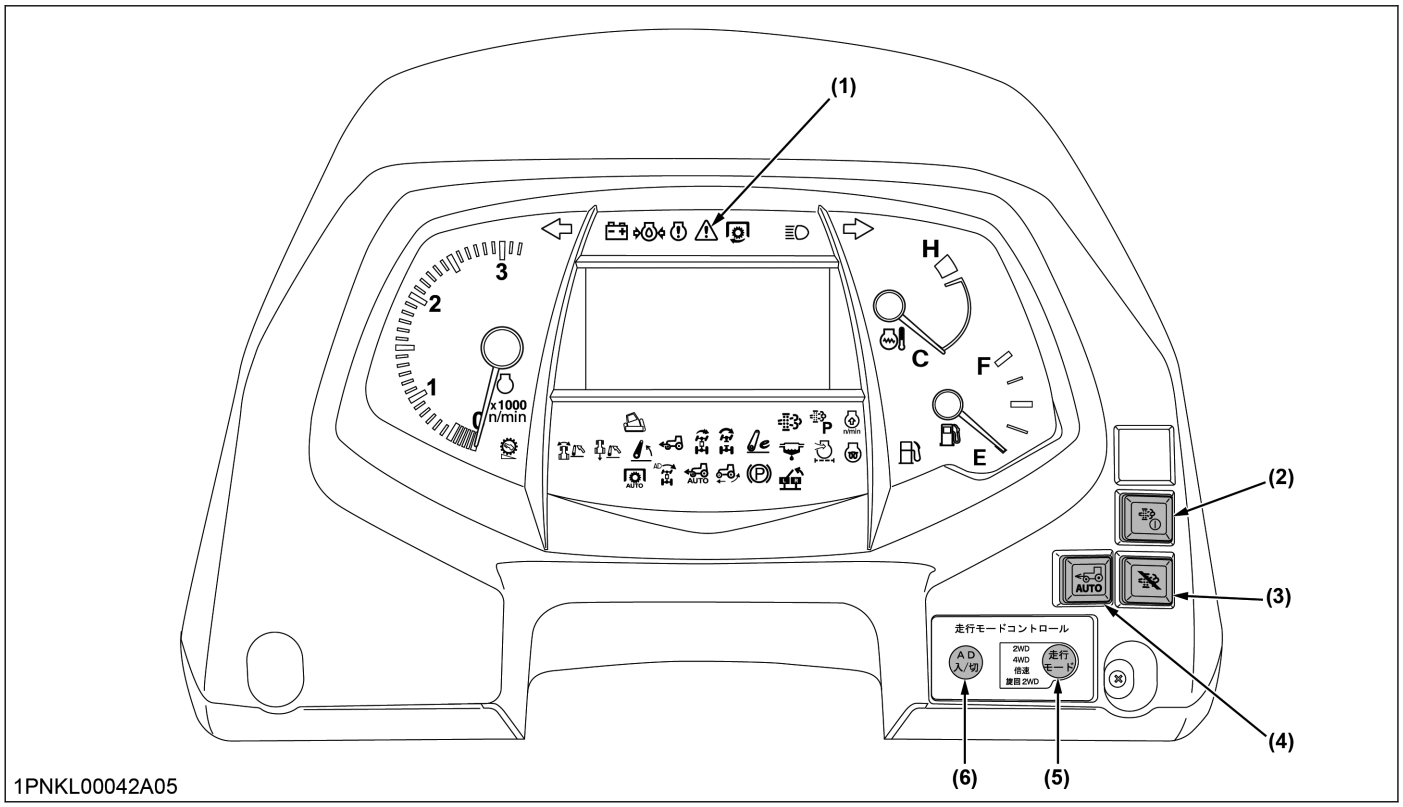
2. ハンドル部



1PNKL00015A01

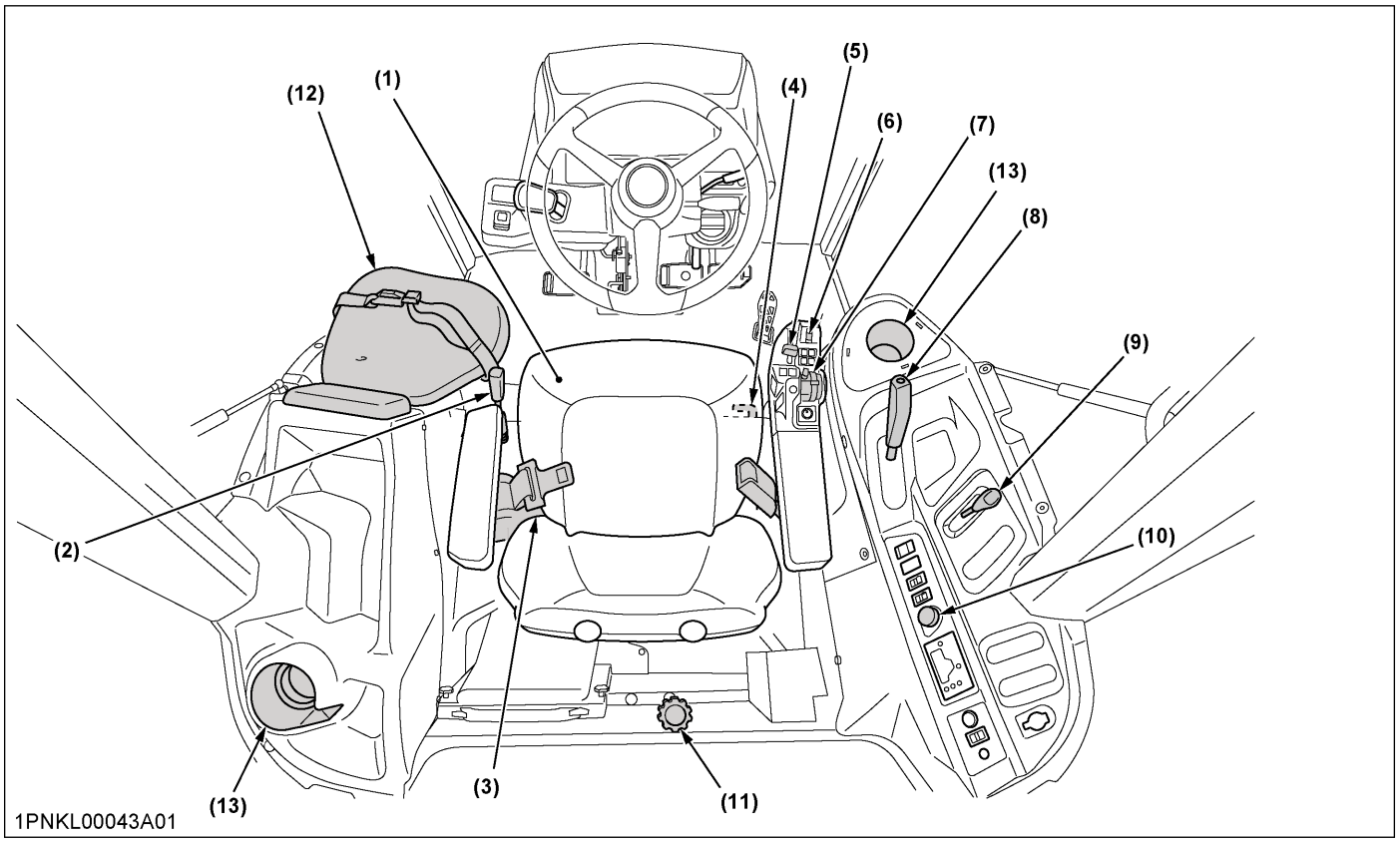
(1) ホーンボタン *54*
(2) シャトルレバー *59*
(3) ハザードスイッチ *54*
(4) テレスコレバー *52*
(5) チルトレバー *52*
(6) 連結解除ペダルロックレバー *55*
(7) クラッチペダル *56*
(8) 連結解除ペダル *55*
(9) クイックアップレバー *104*
(10) ヘッドライトスイッチ *53*
(11) キースイッチ *55*
(12) 駐車ブレーキレバー *118*
(13) アクセルペダル *57*
(14) ブレーキペダル *55*

3. メータパネル部

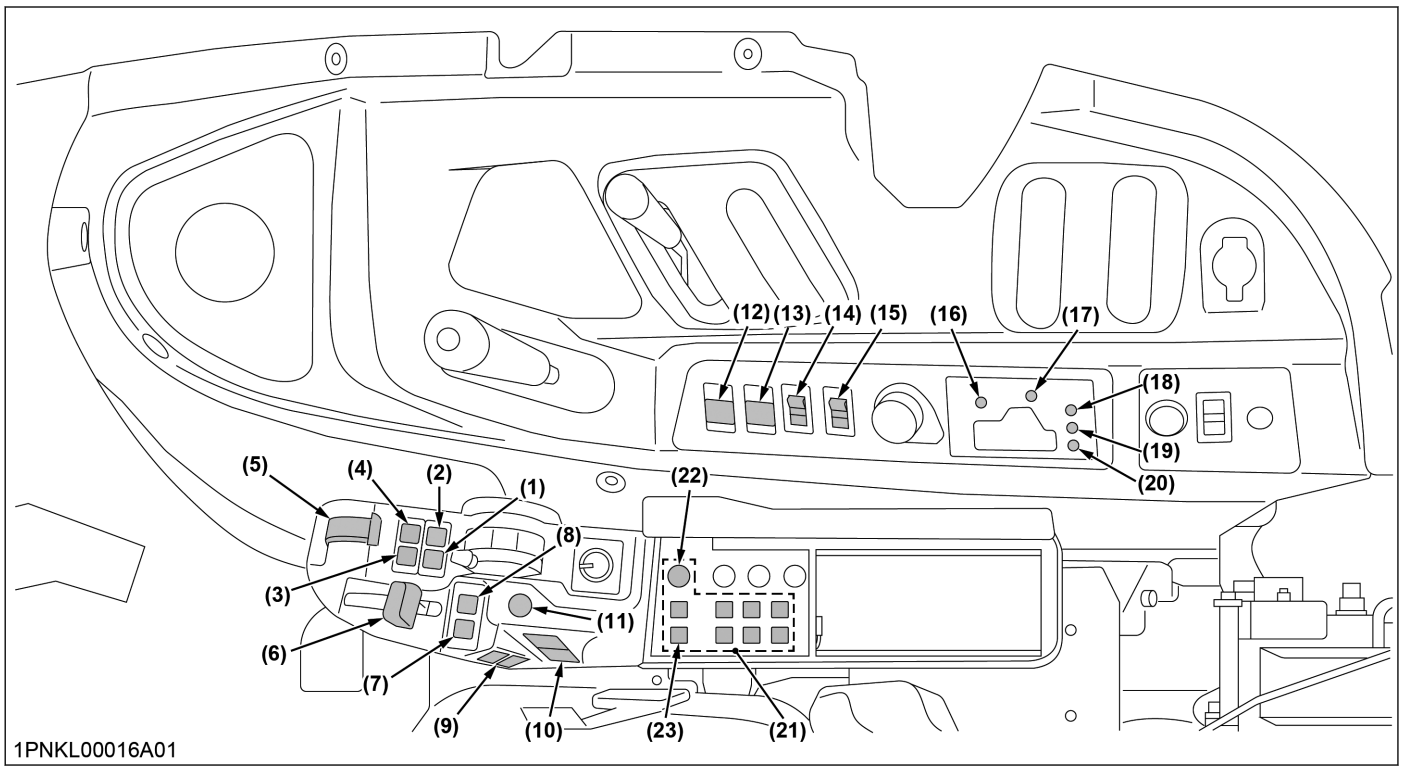


(1) 電子メータ *64*
(2) 駐車再生スイッチ *45*
(3) 再生禁止スイッチ *47*
(4) オート *4WD* スイッチ *63*
(5) 走行モード切替スイッチ *60*
(6) *AD* スイッチ *60*

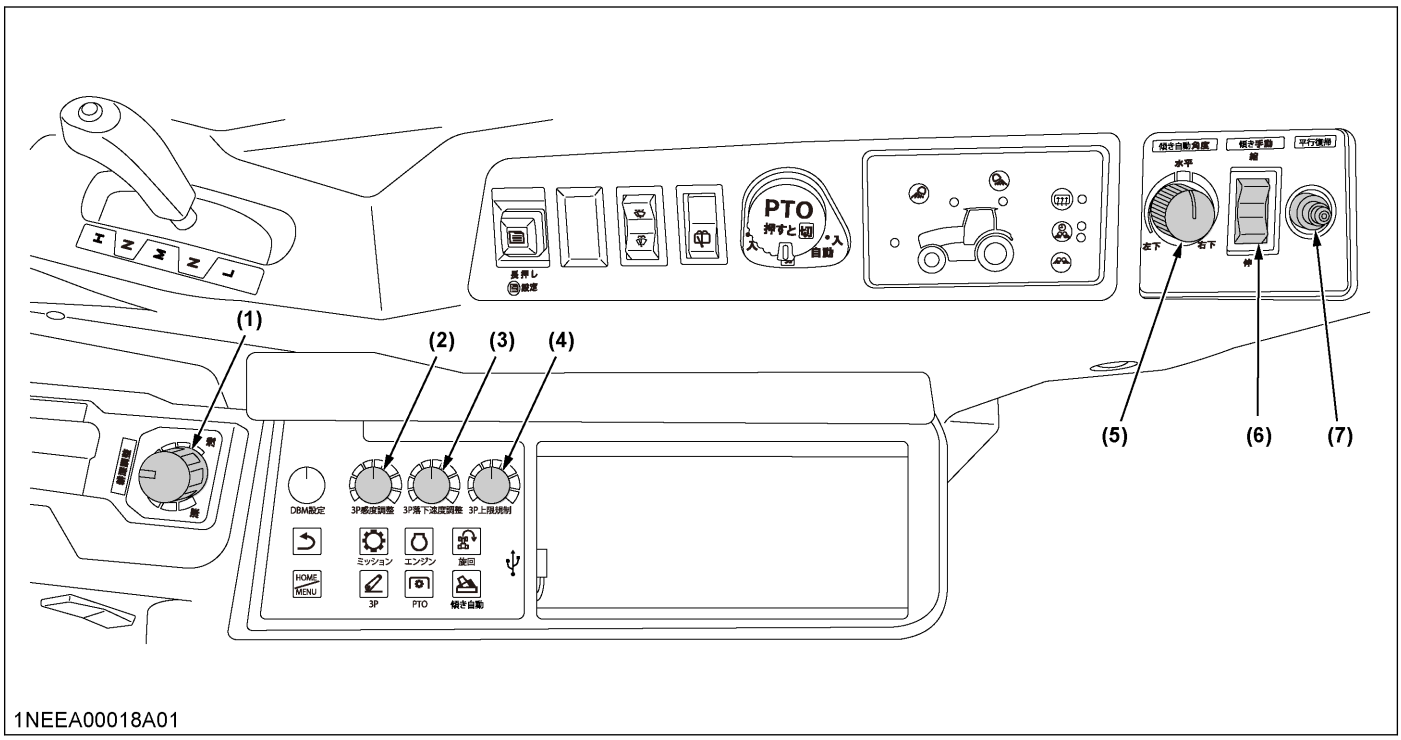
4. 運転席部



(1) シート *50*
(2) *PTO* 変速レバー *149*
(3) シートベルト *50*
(4) 後輪デフロックペダル *63*
(5) 主変速レバー *58*
(6) アクセルレバー *57*
(7) ポジションレバー *102*
(8) 副変速レバー *58*
(9) 油圧補助コントロールレバー *116*
(10) *PTO* スイッチ *147*
(11) 油圧ロックレバー *107*
(12) インストラクタシート（オプション） *51*
(13) カップホルダ



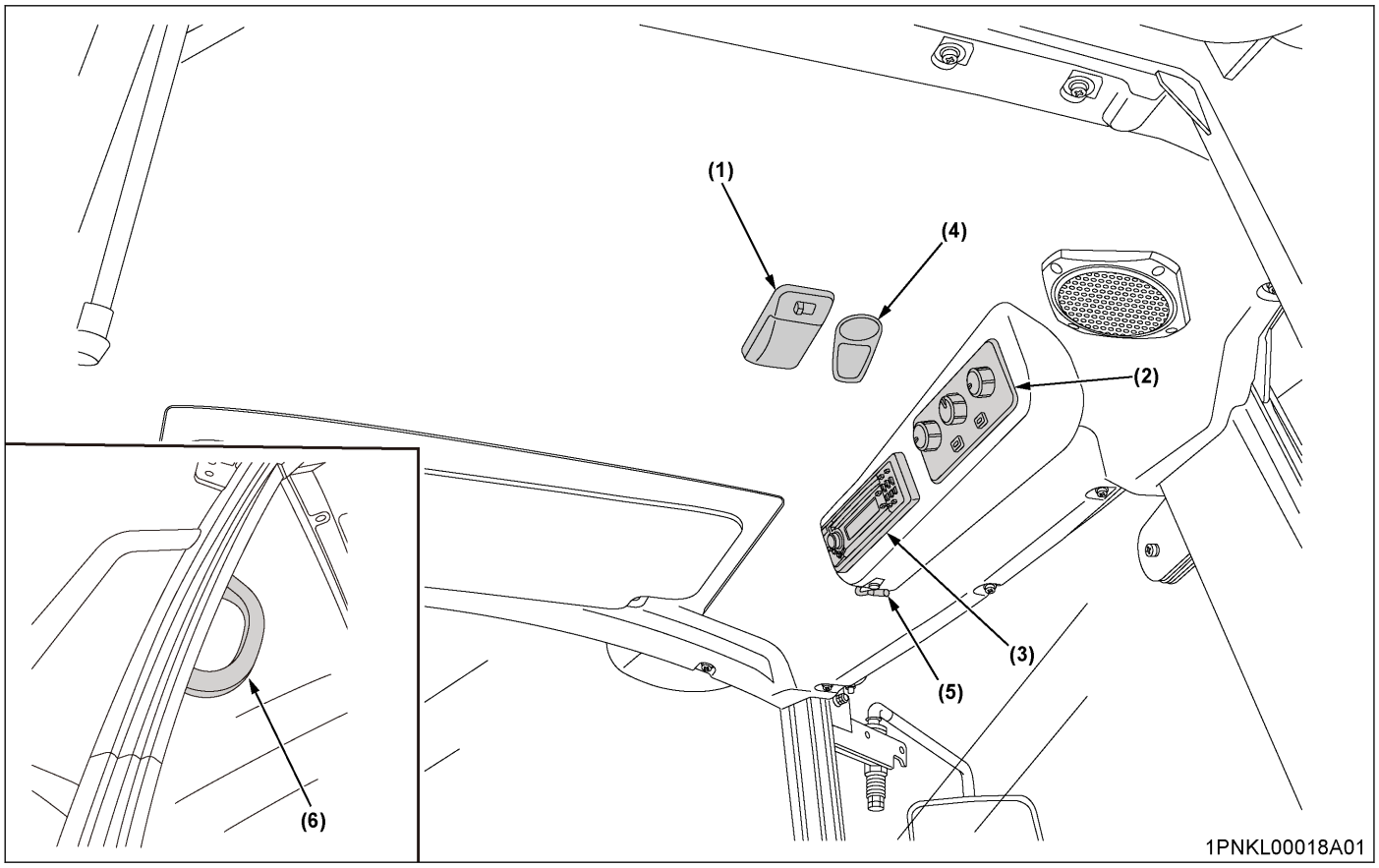
(1) *e*-アシスト旋回スイッチ *97*
(2) パワーアシストスイッチ *96*
(3) エンジン回転メモリスイッチ *A* *95*
(4) エンジン回転メモリスイッチ *B* *95*
(5) アクセルレバー *57*
(6) 主変速レバー *58*
(7) クルーズ車速スイッチ *A* *125*
(8) クルーズ車速スイッチ *B* *125*
(9) *3P* 内部操作スイッチ *107*
(10) クイックアップスイッチ *104*
(11) *3P* 動作切替スイッチ *106*
(12) ワンタッチ作業モード設定スイッチ *108*
(13) スリップ制御スイッチ（オプション）
(14) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ *173*
(15) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ *173*
(16) 作業灯（前）スイッチ *174*
(17) 作業灯（後）スイッチ *174*
(18) デフォッガ（オプション）
(19) ディレイオフ機能スイッチ *174*
(20) 全作業灯点灯／消灯スイッチ *174*
(21) アームレスト操作部 *65*
(22) 電子メータ（*DBM*）設定ジョグダイヤル *65*
(23) *HOME / MENU* スイッチ *65*



1NEEA00018A01

(1) 耕深調節ダイヤル *103*
(2) 感度調整ダイヤル *104*
(3) 作業機落下速度調整ダイヤル *103*
(4) 高さ規制調整ダイヤル *102*
(5) 傾き自動角度調節ダイヤル *114*
(6) 傾き手動スイッチ *115*
(7) 平行復帰スイッチ *115*

5. 安全キャブ部



(1) ルームランプ *172*
(2) エアコンコントロールパネル *176*
(3) オーディオ *178*
(4) 夜間照明 *173*
(5) マイク（*Bluetooth* 対応）
(6) アシストグリップ

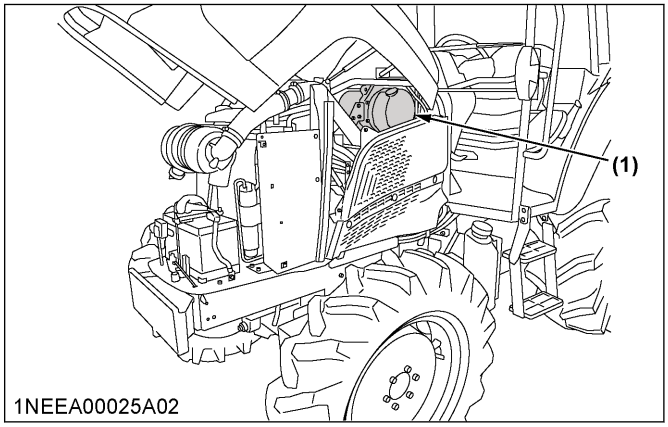
排ガス後処理装置

⚠ 警告

- **DPF 再生中は排ガスや DPF が高温になります。火傷、可燃物への発火や溶解に注意してください。**
- **高温の排ガスが当たらないように、トラクタを人や動物など生物から離してください。**
- **再生中は白煙が発生する場合があります。換気の悪い納屋などの屋内での再生は行わないでください。**
- **再生中はトラクタから離れないでください。**

1. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ（DPF）マフラ

本機には、ディーゼルエンジン排ガス中の炭化水素、一酸化炭素やほかの有毒ガスを無害な二酸化炭素や水に酸化すると同時に、PM（微粒子状物質）をフィルタで捕集する DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）マフラ付きエンジンを搭載しています。
排ガス後処理装置を正しく取り扱い、環境保全に努めてください。



(1) DPF マフラ

2. DPF マフラの取扱いポイント

DPF マフラ内に捕集した PM（粒子状物質）が一定量堆積すると、PM を DPF マフラ内で燃焼させ DPF マフラをリフレッシュさせる必要があります。この燃焼作業を再生と呼びます。この再生に到達するまでの運転時間を延ばし、DPF マフラの故障を防ぐため、必ず次の取扱い事項を守ってください。

- **燃料**
  燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。

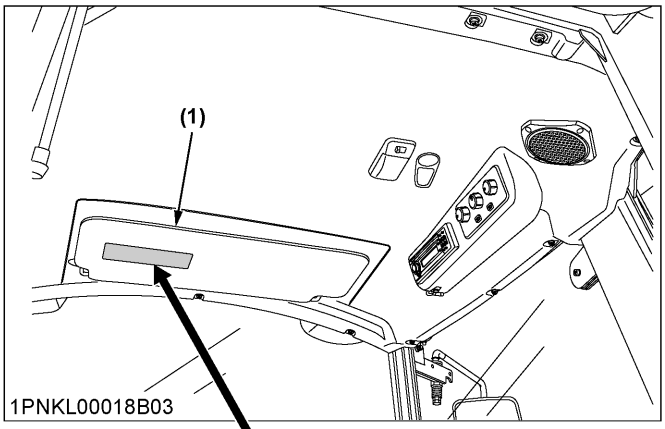
  重要：
  - **低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油を使用した場合、エンジンや排ガス後処理装置など燃料循環部に悪影響を与え、故障の原因となります。また、排ガスの浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。**
- **エンジンオイル**
  DPF 搭載用ディーゼルエンジンオイルである**指定オイル D10W-30 DH-2** を使用してください。

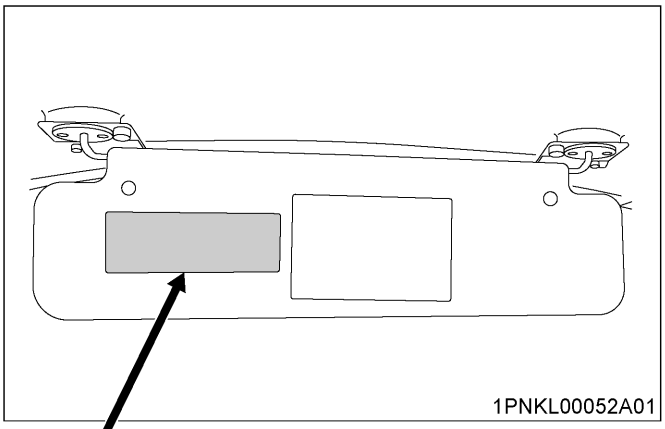
  重要：
  - **指定のエンジンオイル以外を使用すると DPF の早期目詰まりや燃費の悪化を招くおそれがあります。**
- **不必要なアイドリング運転の禁止**
  一般にエンジン回転が低いほど排ガス温度も低く、排ガス中の PM（粒子状物質）も燃焼されず堆積しやすくなります。したがって、不必要なアイドリング運転はしないでください。
- **再生**
  ランプやブザーで再生の指示サインが出たときは、速やかに再生を行ってください。

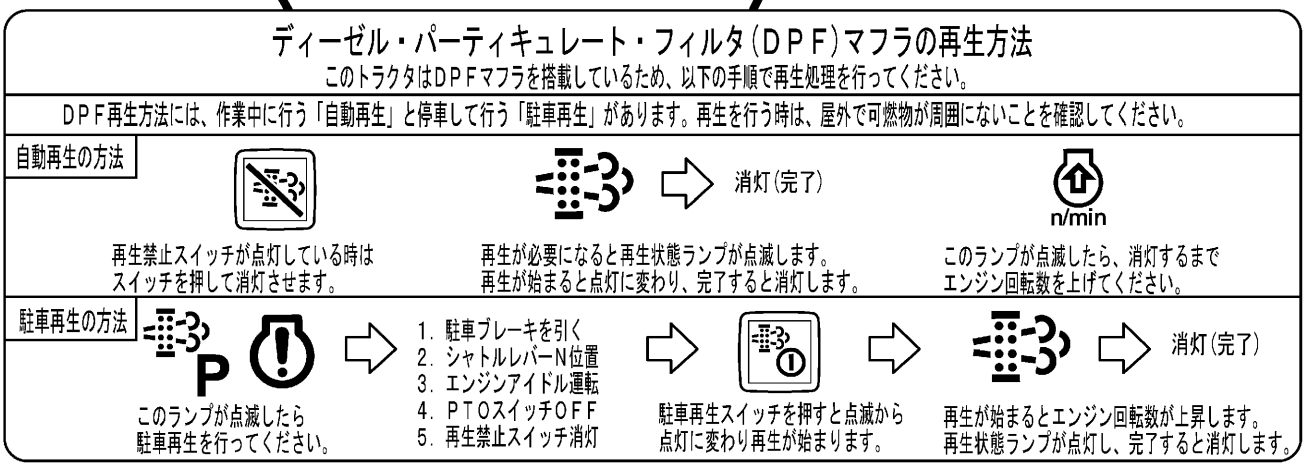
  重要：
  - **再生の中断や警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

3. DPF マフラの再生方式

DPF マフラの再生方式は、作業に応じ“自動再生”または“再生禁止”のいずれかが選択できます。再生に伴う排ガスの高温が作業に適さない場合を除き、“自動再生”の使用を推奨します。



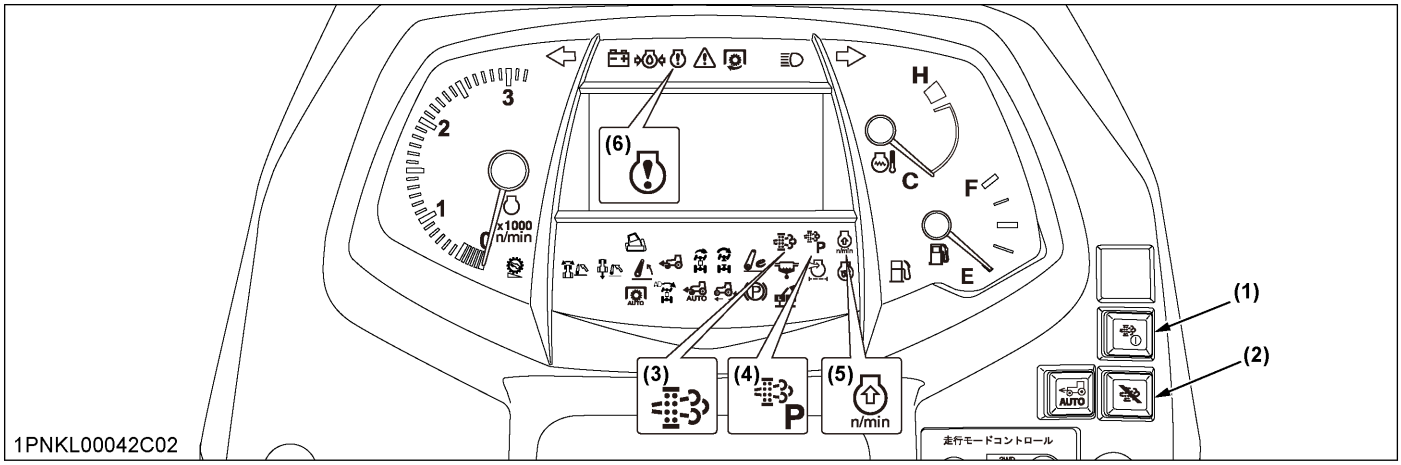




(1) サンバイザ

3.1 自動再生モードの操作手順

エンジンを始動すると（スイッチ類の操作不要）自動再生モードが自動的に選択されます。
自動再生モードでは PM が一定量堆積し、再生に必要な条件が整うと、トラクタの走行や停車に関係無く自動的に再生処理されるため、作業効率が向上します。
（再生に必要な条件の詳細は、DPF の再生に関する豆知識（49 ページ）を参照）



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。

   このとき、再生禁止スイッチランプ  が消灯していることを確認してください。

   再生禁止スイッチランプ消灯
   自動再生モード選択時

   再生禁止スイッチランプ点灯
   再生禁止モード選択時

   補足：
   - **エンジンを始動すると自動的に自動再生モードが選択されます。**
   - **再生禁止スイッチランプはエンジン始動後、スイッチを押すごとに切り替わります。**

2. 再生状態ランプ  が点滅表示した場合、そのまま運転を続行します。

   DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
   再生に必要な条件が整うと自動的に再生が開始されます。
   DPF や排ガスの温度が上昇するので、安全な場所で作業してください。

3. エンジン回転上げ要求ランプ  が点滅した場合、消灯するまでエンジン回転を上げます。

   補足：
   - **自動再生モードでも、トラクタの運転状態によっては、再生に必要な条件が整わず再生されない場合もあります。**
   - **エンジン負荷が大きい場合、エンジン回転上げ要求ランプが点滅していても再生条件を満たすこともあります。**
     （詳細は、DPF の再生に関する豆知識（49 ページ）を参照）

3.2 自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

自動再生モードで運転時、PM が一定量堆積すると自動で再生処理されますが、再生を中断したり再生条件が整わなかった場合、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

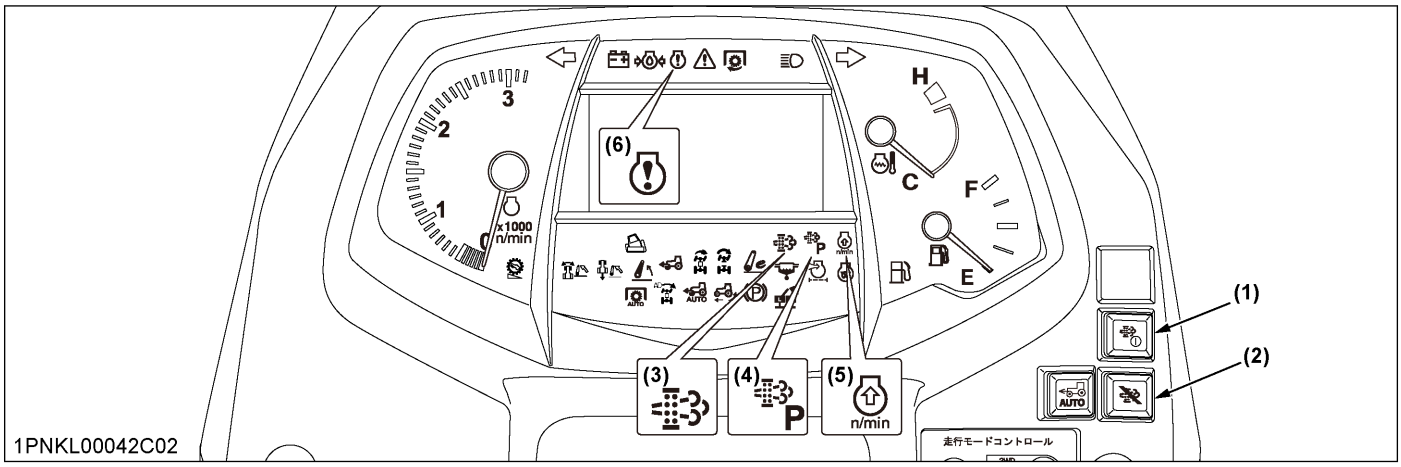
警告レベル	ブザー音	エンジン出力	状態		処置
1	無し	---		再生状態ランプが点滅する。	DPF マフラーに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。
				駐車再生要求ランプも点滅する。	駐車再生要求ランプが点滅時、駐車再生も可能です。 （駐車再生操作は、駐車再生の操作（49 ページ）を参照）
				エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	消灯するまでエンジン回転を上げてください。
				再生状態ランプは点滅から点灯に切り替わる。	再生が開始され、完了すると消灯します。
再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。					
2-1	5 秒に 1 回鳴る	---		再生状態ランプが点滅する。	警告レベル 1 を参照し“再生”を行ってください。
				エンジン回転数が低いとき、エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。	駐車再生要求ランプが点滅時、駐車再生も可能です。 再生条件が整わない場合は“駐車再生”を行ってください。 （駐車再生操作は、駐車再生の操作（49 ページ）を参照）
2-2	3 秒に 1 回鳴る			駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル 2 での再生ができなかった場合、警告レベル 3 になります。					
3	1 秒に 1 回鳴る	50 %に制限される		エンジン異常警告灯が点滅する。	DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し“駐車再生”を行ってください。 （駐車再生操作は、駐車再生の操作（49 ページ）を参照） この段階では“自動再生モード”は作動しません。 これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。
				駐車再生要求ランプも点滅する。	
警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合、警告レベル 4 になります。					
4	1 秒に 1 回鳴る	50 %に制限される		エンジン異常警告灯が点灯する。	直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。 これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じます。絶対に運転しないでください。

3.3 再生禁止モードの操作手順

エンジン始動後、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させると、再生禁止モードに切り替わります。このモードに切り替えると、PM は DPF 内に堆積され、オペレータの意思で再生操作を行わないかぎり再生されません。換気の悪いビニールハウス内作業や牛舎内作業に有効です。

補足：

- **いったんエンジンを停止すると自動再生モードに切り替わります。**



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 再生禁止スイッチ
(3) 再生状態ランプ
(4) 駐車再生要求ランプ
(5) エンジン回転上げ要求ランプ
(6) エンジン異常警告灯

1. エンジンを始動します。
2. 再生禁止スイッチを押し、スイッチランプ  を点灯させます。

再生禁止スイッチランプ点灯
再生禁止モード選択時

再生禁止スイッチランプ消灯
自動再生モード選択時

運転中、駐車再生要求ランプ  が点滅表示した場合、DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
トラクタを安全な場所に移動させ、駐車再生の操作（49 ページ）に従い DPF マフラの再生を行ってください。

3.4 再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置

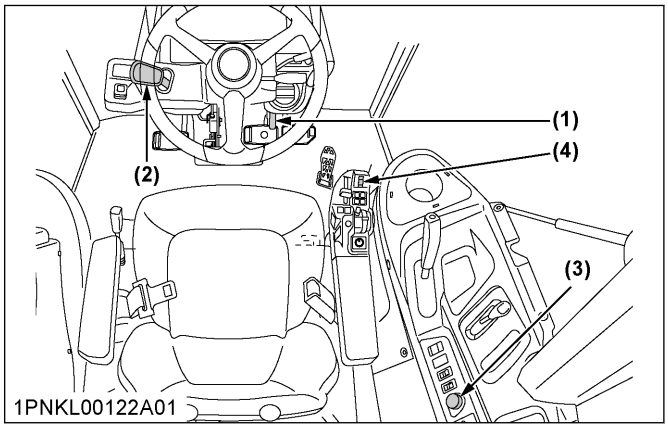
再生禁止モードで運転時、PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ、オペレータに再生を促します。

重要：

- **再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生を中断したり警告を無視して運転を続行すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。**

<table>
<tr><th>警告レベル</th><th>ブザー音</th><th>エンジン出力</th><th colspan="2">状態</th><th>処置</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">無し</td><td rowspan="2">---</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>DPF マフラーに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td><td>駐車再生要求ランプが点滅時、駐車再生も可能です。
（駐車再生操作は、駐車再生の操作（49 ページ）を参照）</td></tr>
<tr><td colspan="6">再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル 2 になります。
警告レベルが“1～2-2”の範囲内であれば、再生禁止スイッチ  を自動再生モードに切り替え、自動再生を行うことも可能です。</td></tr>
<tr><td>2-1</td><td>5 秒に 1 回鳴る</td><td rowspan="2">---</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td rowspan="2">トラクタを安全な場所に移動し、“駐車再生”を行ってください。
（駐車再生操作は、駐車再生の操作（49 ページ）を参照）</td></tr>
<tr><td>2-2</td><td>3 秒に 1 回鳴る</td><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">警告レベル 2 での再生ができなかった場合、警告レベル 3 になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">1 秒に 1 回鳴る</td><td rowspan="2">50 %に制限される</td><td></td><td>エンジン異常警告灯が点滅する。</td><td rowspan="2">DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し、“駐車再生”を行ってください。
（駐車再生操作は、駐車再生の操作（49 ページ）を参照）
これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。</td></tr>
<tr><td></td><td>駐車再生要求ランプも点滅する。</td></tr>
<tr><td colspan="6">警告レベル 3 での駐車再生を中断、または無視をして運転を続行した場合、警告レベル 4 になります。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>1 秒に 1 回鳴る</td><td>50 %に制限される</td><td></td><td>エンジン異常警告灯が点灯する。</td><td>直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。
これ以上運転を続行すると、DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じます。絶対に運転しないでください。</td></tr>
</table>

3.5 駐車再生の操作



(1) 駐車ブレーキ
(2) シャトルレバー
(3) *PTO* スイッチ
(4) アクセルレバー

1. トラクタを建物、人や動物から離れた安全な場所に停車させます。
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. シャトルレバーを“中立”位置にします。
4. PTO スイッチを**[切]**にします。
5. エンジン回転をアイドリングにします。
6. 作業機を下げます。
7. 再生禁止スイッチ を押し消灯させます。

   駐車再生手順（手順 2～手順 5 と手順 7）が整うと駐車再生スイッチランプ が点滅します。
8. 駐車再生スイッチ を押し、再生を開始します。

   スイッチランプは点灯に変わります。
   エンジン回転が自動的に上昇し、再生が開始されます。

   再生中はランプ 、 が点灯し、再生が終了すると消灯します。
9. ランプが消灯後、作業を開始します。
   なお、再生禁止モードで運転する場合、再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させてください。

補足：

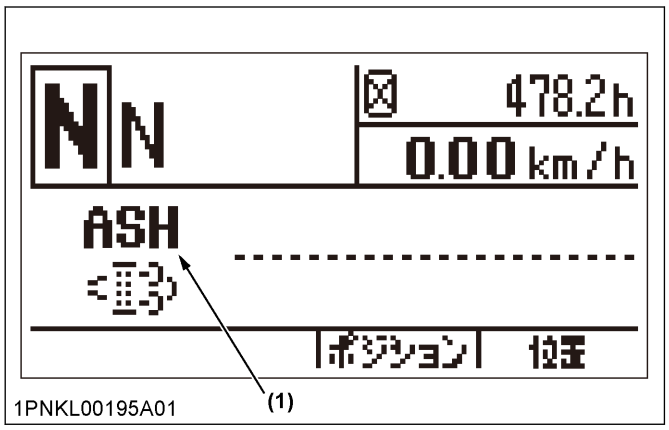
- **緊急時以外、再生中は手順 2、手順 3、手順 4 のレバーやスイッチ、エンジン回転数を操作しないでください。もし操作すると、再生が中断されます。**
- **駐車再生中はトラクタから離れないでください。**
- **駐車再生を中断した場合、約 30 秒間エンジン回転がアイドリングで固定されます。この 30 秒間はアクセルレバーやアクセルペダルをアイドリング位置で保持し操作しないでください。30 秒経過後は正常に作動します。**

4. DPF の再生に関する豆知識

- **運転**
  エンジンは高速、高負荷運転するほど、排ガス温度が高温となるため、排ガス中の PM（粒子状物質）が DPF マフラ内で燃焼されます。その結果、DPF マフラは再生に到達するまでの運転時間が長くなります。
  逆にエンジン回転が低く負荷も低いほど、排ガス温度も低くなるため、排ガス中の PM（粒子状物質）は DPF マフラ内で燃焼されず堆積しやすくなります。その結果、DPF マフラは再生に到達するまでの運転時間が短くなるので、不必要なアイドリング運転などは推奨しません。
- **再生に必要な条件**
  次の条件がすべて整うと再生が始まります。再生途中に 1 つでも条件から外れると中断します。
  - エンジン冷却水温がじゅうぶん暖まっているとき
  - DPF 温度が高温になっているとき
  - エンジン回転数が約 1200 n/min 以上のとき
- 再生は通常 15 分～20 分で終了します。再生時間は外気温度、排ガス温度やエンジン回転数により異なります。
- 再生は、エンジンがじゅうぶんに暖まっているときに行うことを推奨します。
- 不必要な再生、中断操作を繰り返し行わないでください。エンジンオイルに微量の燃料が混ざり、オイルの質を低下させます。
- DPF 再生時は、エンジンの空気流入量を自動的に制限し、排気温度が高くなるように制御されています。このとき、エンジン音が変化しますが異状ではありません。
- 再生終了直後は、DPF マフラが高温になっているので、約 5 分程度エンジンを継続して運転することを推奨します。

5. ASH 警告表示

DPF に灰（燃えカス）が堆積し清掃が必要になると ASH 警告がインジケータに表示されます。
ASH 警告が表示された場合は購入先に DPF の清掃を依頼してください。
（詳細は、DPF マフラの清掃（211 ページ）を参照）

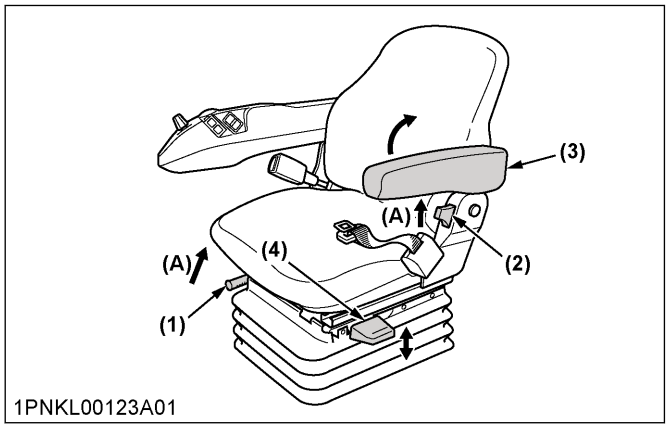


(1) *ASH* 警告表示

トラクタ装置各部の取扱い

1. 運転席周りの調節

1.1 シート



(1) 前後調節レバー
(2) リクライニング調節レバー
(3) 左アームレスト
(4) シート高さ／体重調整レバー
(A) 固定
(B) 解除

前後調節レバー
前後調節レバーを引くと、シートが前後に調節できます。

リクライニング調節レバー
リクライニング調節レバーを上げると、背もたれの角度が調節できます。

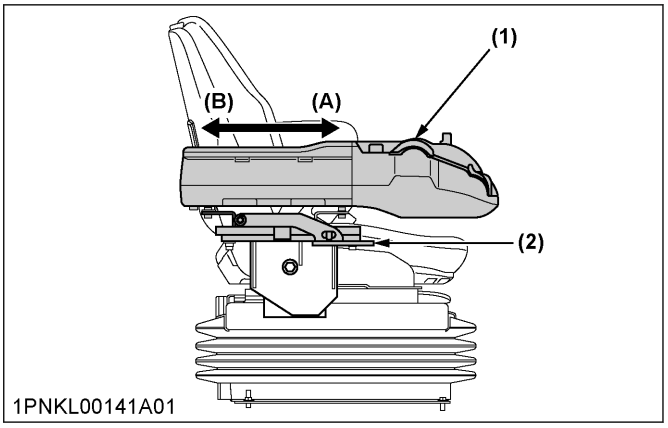
左アームレスト
左アームレストは、後方へ向けられます。

シート高さ／体重調整レバー
1. シートに座った状態で、キースイッチを**[入]**位置にした後、シート高さ／体重調整レバーを上げ側に操作します。
   エアコンプレッサが作動し、シート高さとクッションがオペレータの体重に応じ調整範囲の最下位置に自動調整されます。
2. 微調整が必要な場合は、レバーを上または下に操作し調整します。

補足：
- **シート高さ／体重調整レバーでシート高さを調節範囲以下に下げた場合には、レバーから手を離すと自動的に調節範囲の下限位置までシートが上がります。**
- **シート高さが調節範囲内より下に位置している場合、キースイッチを[入]位置にすると、エアコンプレッサーが作動し、シートが調節範囲の下限位置まで自動的に上がります。**

重要：
- **エアコンプレッサは 1 分以上連続作動させないでください。**

右アームレスト
右アームレストの位置は工具を使用せずに前後に調節できます。
前後調節はレバーを上に持ち上げてアームレストを前後にスライドさせて行います。



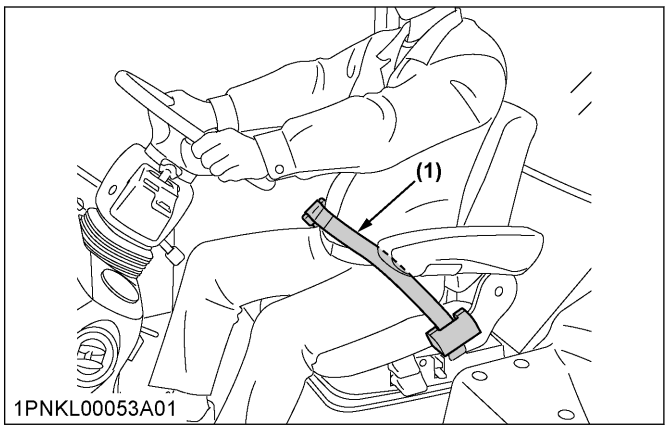
(1) 右アームレスト
(2) レバー
(A) 前側
(B) 後側

1.2 安全キャブとシートベルト

安全キャブは、万一トラクタが転倒したときに事故の被害を軽減する装置です。シートベルトは、作業者をシートに固定するためのベルトです。

⚠ 警告
転倒、転落による死傷事故防止のため、次のことを守ってください。
- **トラクタを使用するときは、必ずシートベルトを着用してください。**
- **安全キャブの改造を絶対にしないでください。また、強度に影響する破損、曲がりなどの異常が発生した場合は交換してください。**
- **シートベルトは作業者の身体に合わせて長さを調節してください。**

補足：
- **安全キャブは、万一のときに少しでも被害を軽くするための装置であって、すべての傷害を防げる装置ではありません。**



(1) シートベルト

1.3 インストラクタシート（オプション）

インストラクタシートは、機械の操作を教える人、教わる人、またはサービスを行う人が、ほ場内での教習を目的に供給されている装置です。転倒する可能性がまったく無い平たんで安全な場所で使用してください。公道で走行するときは使用しないでください。

主な禁止事例

- 教える人、教わる人、またはサービスを行う人以外の人間や動物は乗せないでください。
  - 子供は絶対に乗せないでください。
  - 物を運搬する用途に使用しないでください。
- 人を運搬するなど教習以外の目的では使用しないでください。
- 転倒のおそれがある場所での使用は絶対にしないでください。
  -（例）傾斜地、凸凹の多い場所

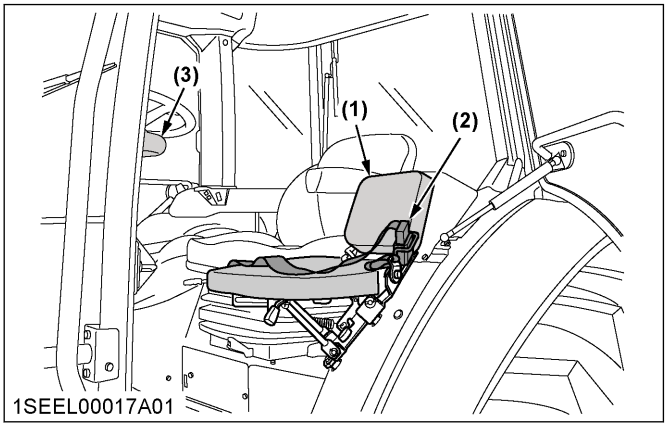
  また、転倒のおそれがある操作も絶対にしないでください。
  -（例）ハイスピード走行、急旋回、牽引、急発進や急停車
- 雨、霧などの悪天候や、夕方など周囲の視界が悪い場合は使用しないでください。

1.3.1 インストラクタシート使用時の注意と手順

⚠ 警告

インストラクタシート使用時は次のことを守ってください。

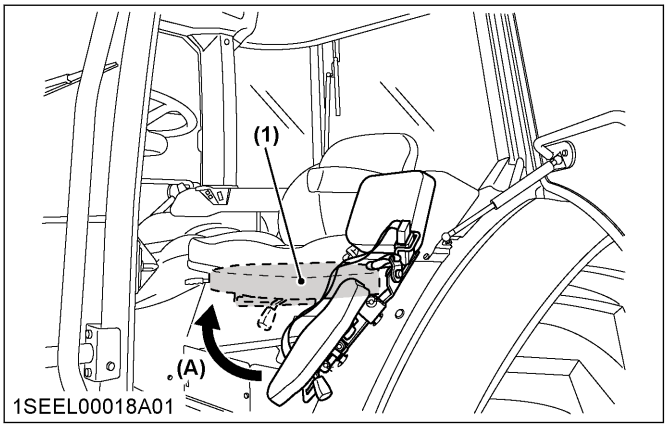
- **必ずシートベルトを締め、安全キャブ内の手すりを持ってください。**
- **どのような理由があっても子供や大人の移動手段として使用しないでください。**
- **シートに着座時は常に安全キャブの左ドアを施錠してください。**
- **シートに着座した人以外は乗せないでください。**
- **運転者の視界をさえぎったり運転操作の妨げにならないよう注意してください。**
- **急発進、急停止や急旋回は行わないでください。**
- **シートベルトやドアロックが破損時は、使用しないでください。**
- **このシートを運搬用に使用しないでください。**
- **シートを使用しないときは、乗降時の障害にならないように折りたたんでください。**
- **シートに座ってのドアの開閉は、ゆっくりと静かに行い、手や身体をドアに挟まないようにしてください。**



(1) インストラクタシート
(2) シートベルト
(3) 手すり

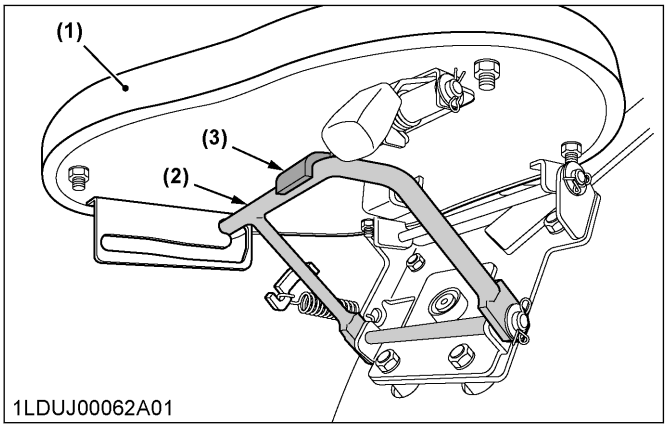
組立て手順

1. シートを持ち上げます。



(1) シート
(A) 固定

図のようにシート裏面のロッドがブラケットで固定される位置までシートを持ち上げてください。



(1) シート
(2) ロッド
(3) ブラケット

2. シート上面を押し、シートが確実に固定されていることを確認します。

乗車時の手順

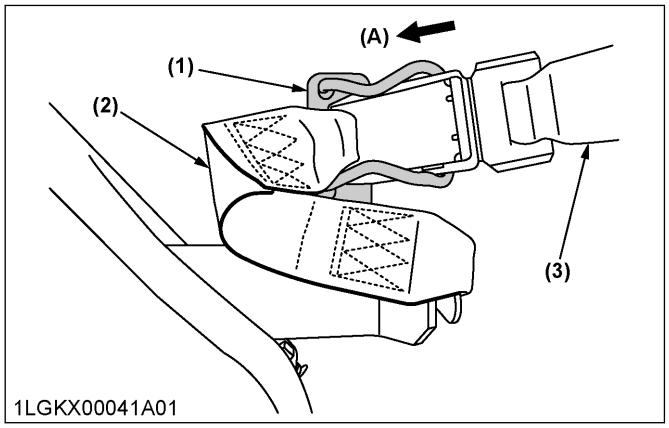
1. 乗車前にシートが確実に固定されていることを確認します。
2. 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けトラクタを確実に停車させてから、乗車します。
   乗車時操作レバー類に体が触れないようにしてください。
3. シートベルトを装着してからドアを閉め、ドアをロックを施します。

運転中の注意事項

- オペレータの運転の妨げにならないように配慮し、シートに座って教習を進めます。
- 教習中は、シートベルトを装着し、常時手すりをつかみ、身体の揺れを防ぎます。
- トラクタは低速で運転します。

降車時の手順

1. 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けトラクタを確実に停車させてから、降ります。
2. ドアにシートベルトが挟まれないように、左右のシートベルトはつなぎ、ホルダに収納します。

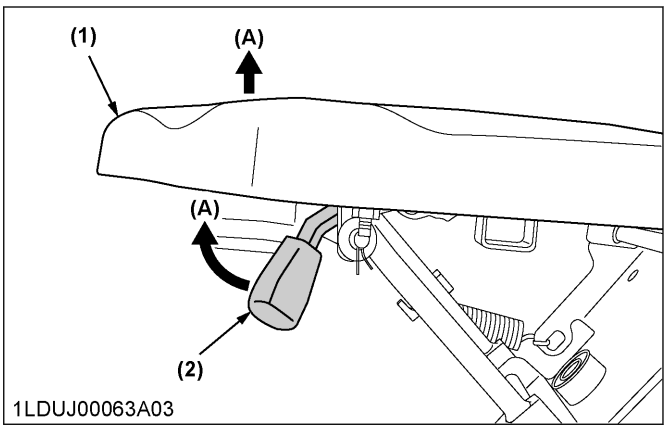


(1) シートベルトホルダ　　*(A)* 収納
(2) シートベルト（左）
(3) シートベルト（右）

収納手順

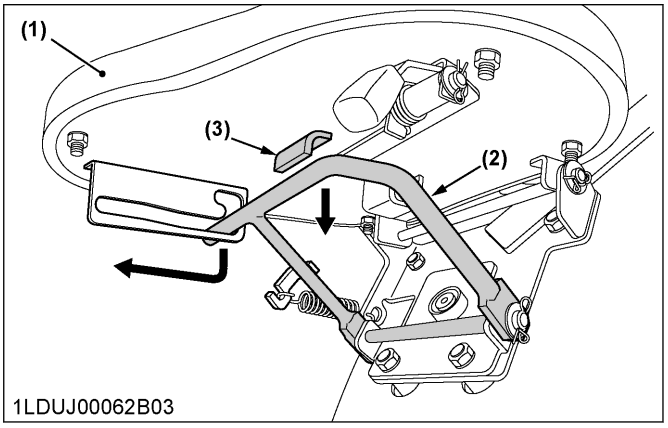
シートを折りたたむとき、手や指を挟まないように注意してください。

1. シートの前部とレバーを同時に上方へ引き上げます。



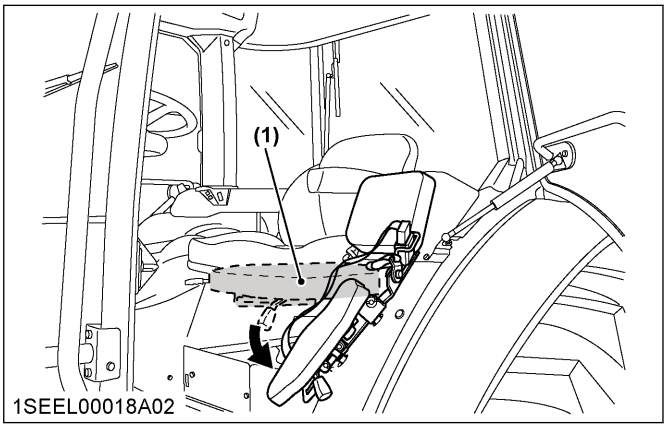
(1) シート　　*(A)* 解除
(2) レバー

2. シート下部のロッドをブラケット部より解放します。



(1) シート　　*(3)* ブラケット
(2) ロッド

3. そのままシートを下方へ折りたたみます。



(1) シート

1.4 チルトステアリングハンドル

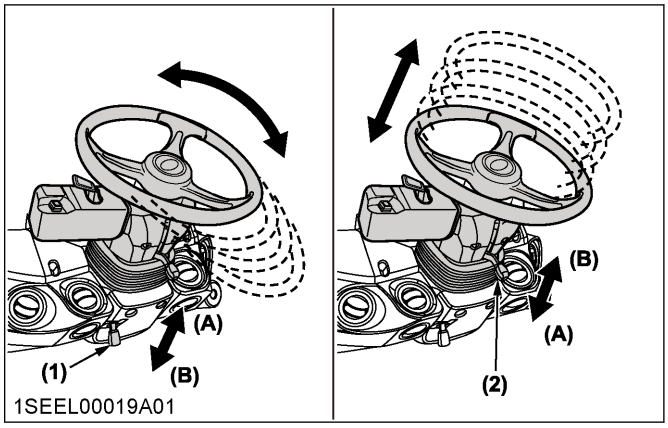
作業者の体格や運転姿勢に合わせて、ハンドルの角度を変える機能です。

⚠ 注意

- **走行中の調節はしないでください。**

- **調節後、ハンドルがロックされていることを確認してください**

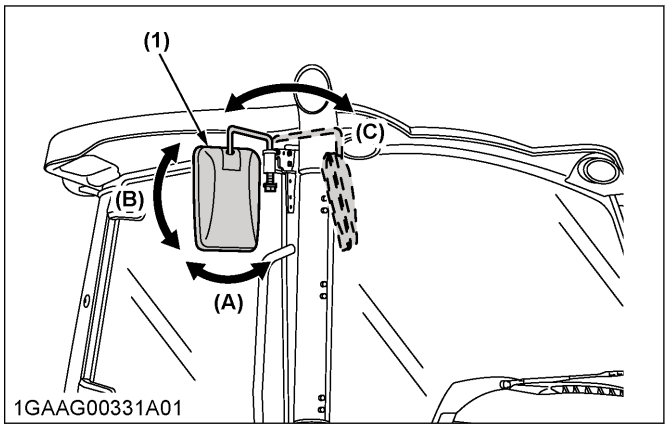
チルトステアリングハンドルの調整はチルトレバーまたはテレスコレバーを解除して行い、適切な位置でレバーを固定してください。



(1) チルトレバー
(2) テレスコレバー
(A) 解除
(B) 固定

1.5 バックミラー

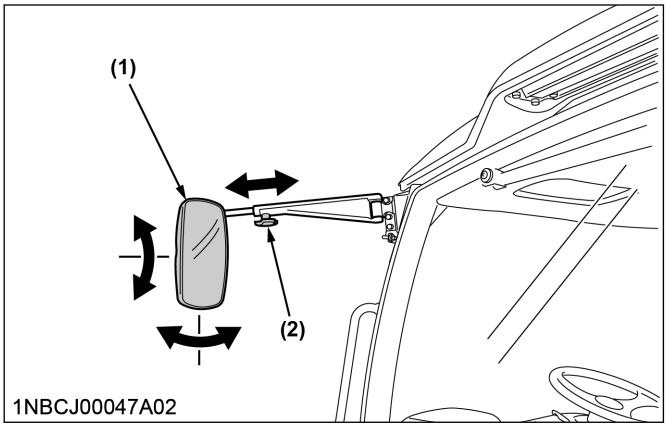
後方の状況を確認するための鏡です。
- バックミラーは、上下、左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
- 狭い場所へ格納するときは折りたたんでください。



(1) バックミラー
(A) 左右
(B) 上下
(C) 格納位置

1.6 テレスコミラー（オプション）

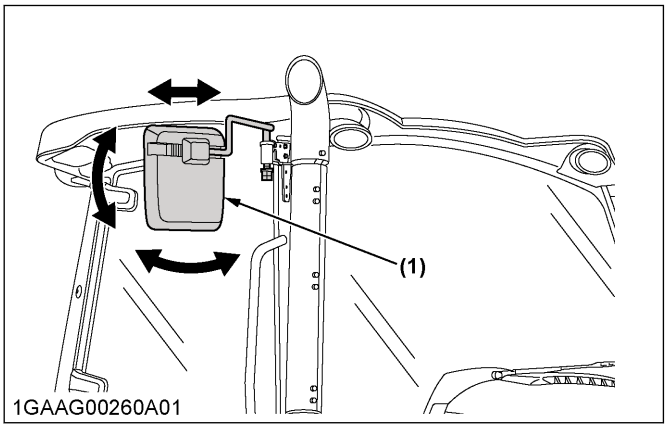
バックミラーの位置を伸ばすことができます。ノブボルトをゆるめて見やすい位置に調節してください。



(1) テレスコミラー
(2) ノブボルト

1.7 ワイドサイドミラー（オプション）

後方の状況を確認するための鏡です。
- ワイドサイドミラーは、上下、左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
- 狭い場所へ格納するときは折りたたんでください。

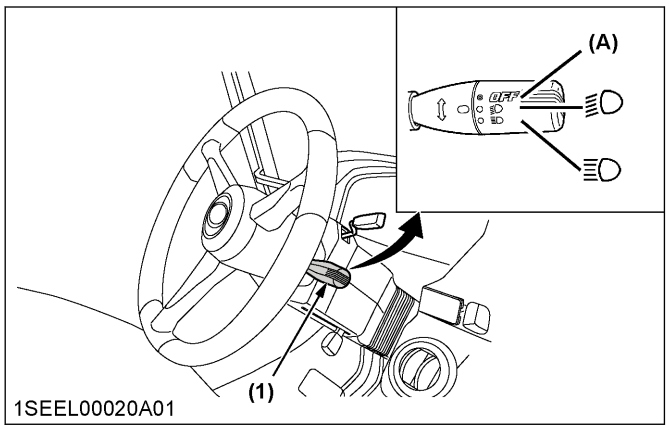


(1) ワイドサイドミラー

2. 灯火類の操作

2.1 ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトを点灯するためのスイッチです。
ノブを回すとスイッチが入り、位置によって次のランプが点灯します。



(1) ヘッドライトスイッチ *(A)* *OFF*

[OFF]
ヘッドライト消灯位置

ヘッドライト下向き照射位置

ヘッドライト上向き照射位置

補足 :

- **ヘッドライトが上向き照射時、電子メータ内の ランプが点灯します。**
- **キースイッチが[切]位置でも点灯します。**

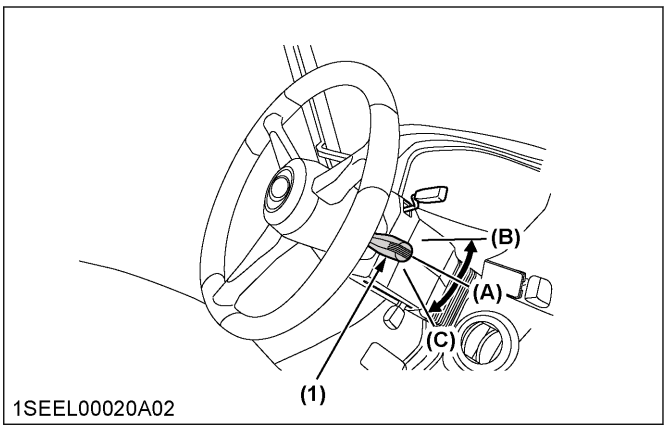
重要 :

- **ヘッドライトスイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため、必ずスイッチを[OFF]位置にしてください。**

2.2 ウインカスイッチ

ウインカランプを点滅するためのスイッチです。

- スイッチを操作すると、ウインカランプおよび電子メータ内のパイロットランプが点滅します。
- スイッチはハンドルを戻すと、自動的に“中立”位置に戻る、オートリターン機構になっています。



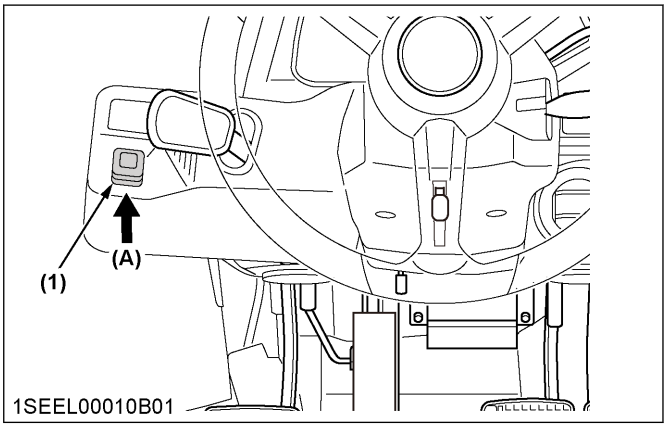
(1) ウインカスイッチ *(A)* 中立
(B) 左折
(C) 右折

補足 :

- **ハンドルを切る角度が小さいとスイッチが“中立”位置に戻らない場合があります。戻らないときはスイッチを手で戻してください。**

2.3 ハザードスイッチ

故障など異常の発生で停止した場合、事故を防止するため、非常停止中を知らせるときに使用します。
スイッチを押すとウインカ前後および電子メータ内のウインカ作動パイロットランプが点滅します。



(1) ハザードスイッチ *(A)* ハザードランプ点滅

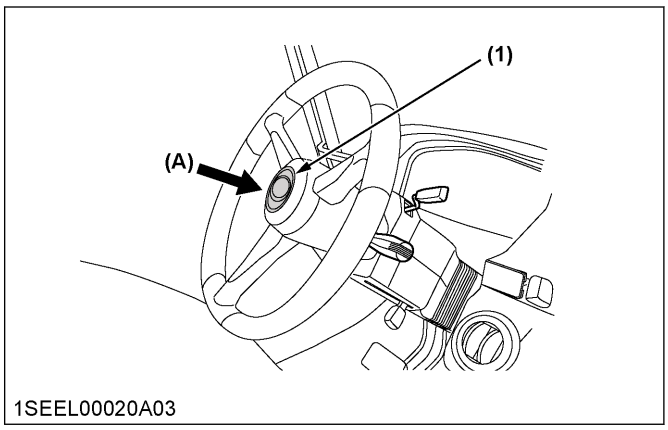
再度スイッチを押すとウインカ前後およびウインカ作動パイロットランプが消灯します。

補足 :

- **ハザードランプはキースイッチが[切]位置でも作動します。**

2.4 ホーンボタン

警笛を鳴らすためのボタンです。
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



(1) ホーンボタン　　*(A)* ホーン作動

補足：
- **ホーンはキースイッチが[切]位置でも作動します。**

2.5 バックランプ

後進を知らせるためのランプです。
シャトルレバーを"後進"位置に入れると、バックランプが点灯します。

2.6 ブレーキランプ

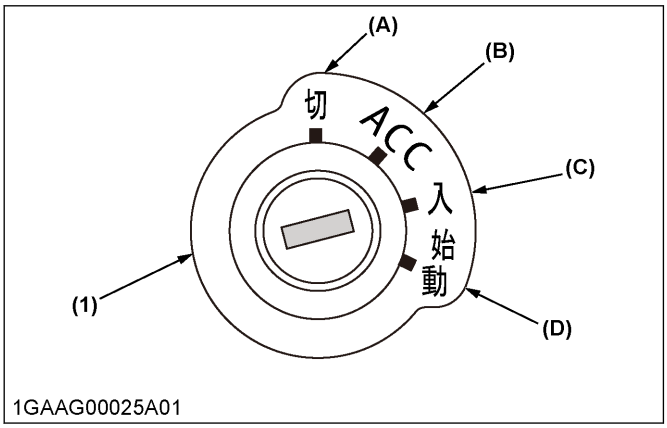
ブレーキ踏込み時に点灯するランプです。
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し、ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

補足：
- **駐車ブレーキを掛けるとブレーキランプは消灯します。**

2.7 車幅灯、尾灯

車幅灯は、夜間などの視界が悪い状況で周囲にトラクタの大きさを知らせるためのランプです。尾灯は、後方にトラクタの存在を知らせるためのランプです。
ヘッドライトに連動して点灯します。

3. キースイッチ



(1) キースイッチ

(A) 切
(B) *ACC*
(C) 入
(D) 始動

[切]
エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置です。

[ACC]
エンジン停止中、オーディオや作業灯などのアクセサリが使えます。
この位置で長時間使用しないでください。バッテリ上がりの原因になります。

[入]
燃焼室内を予熱する位置です。
エンジン回転中の位置、すべての電気装置が使えます。

[始動]
エンジンを始動する位置です。手を離せば自動的に**[入]**位置に戻ります。

4. ブレーキペダル

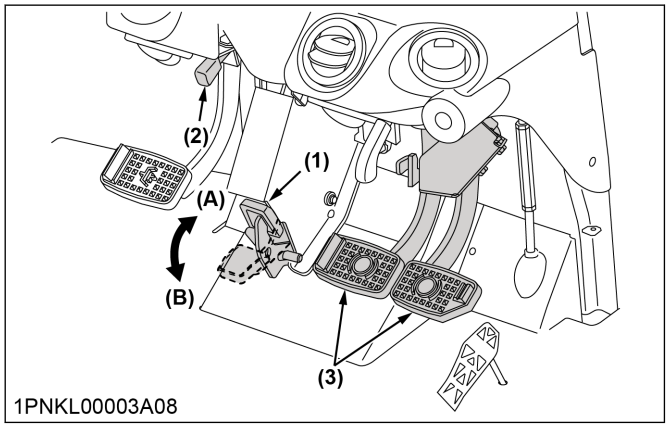
ブレーキは、強制的に機体を停止させる装置です。

⚠ 警告
- **道路走行中、登り坂、下り坂、およびあぜ越え中は、連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**
  道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ、転倒や交通事故のおそれがあります。

本機の場合、一般車両と異なり、ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。連結解除ペダルを踏み込まないときは、左右のブレーキペダルは連結されており、左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結解除ペダルロックレバーを上げて、連結解除ペダルを解除位置まで踏み込んだときのみ、後輪の片輪だけにブレーキを掛けることができます。

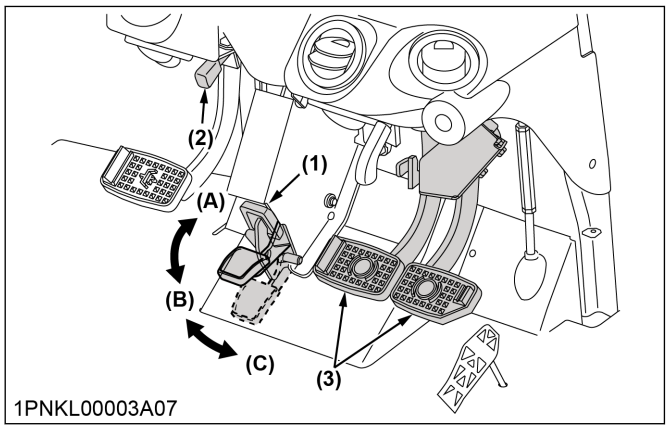
ブレーキ連結時（両ブレーキ）
左右両輪のブレーキが同時に働きます。

道路走行時、片ブレーキ操作が不要な農作業時に使用してください。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結

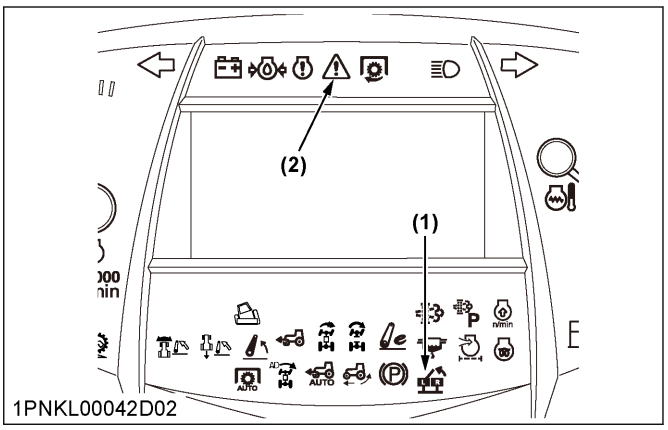
ブレーキ非連結時（片ブレーキ）
連結解除ペダルロックレバーを上げて連結解除ペダルを引き出し、連結解除ペダルを踏み込むと、片ブレーキ操作が可能となります。
片ブレーキ操作が必要な農作業時時に使用してください。



(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結
(C) 解除

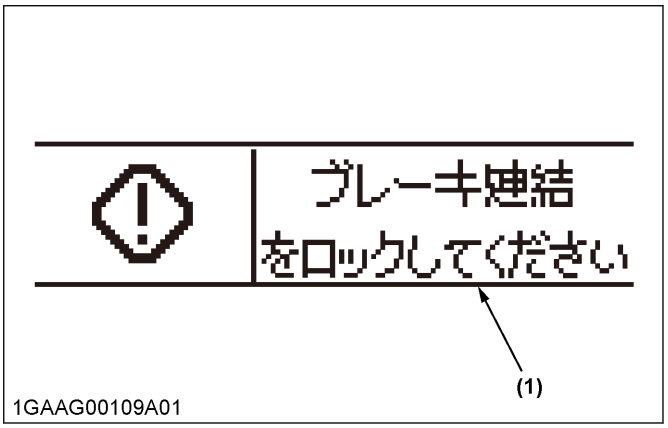
4.1 ブレーキ連結ロック解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーを上げるとブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯します。
道路走行時など両ブレーキを使用する状況では連結解除ペダルロックレバーを下げて、ブレーキ連結ロック解除警告灯の消灯を確認してから走行してください。



(1) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(2) システム異常警告灯

電子メータメッセージ
連結解除ペダルロックレバーを上げたまま、車速が 10 km/h を超えるとブザーが 1 回鳴ります。同時に ⚠ システム異常警告灯が点灯し、次のメッセージが表示されます。

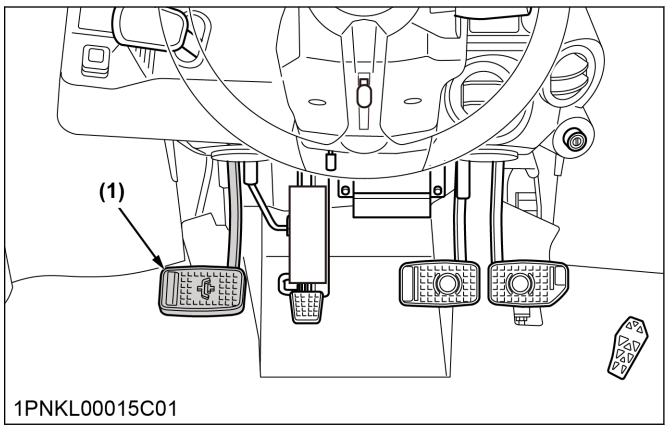


(1) メッセージ

5. クラッチペダル

クラッチは、エンジンの動力を走行部（車輪）に断続する装置です。

⚠ 警告
- **急にクラッチを離すと、急に飛び出すおそれがあります。ゆっくり踏み込んでください。**



(1) クラッチペダル

ペダルを踏み込む
クラッチが切れる。

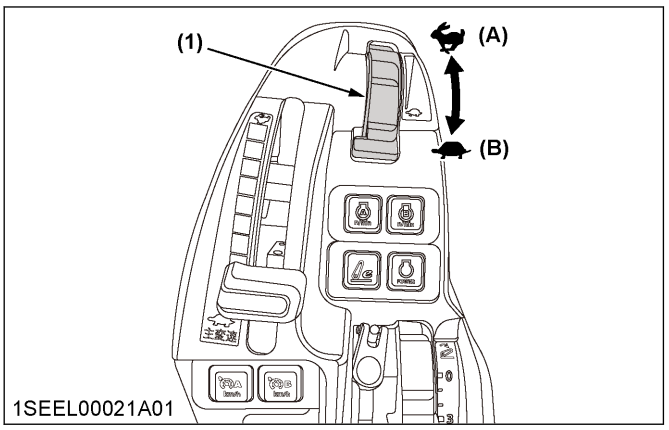
ペダルから足を離す
クラッチがつながる。

重要：

- **クラッチの寿命を伸ばすため、半クラッチの使用時間、回数を少なくするように、次の点にご注意ください。**
  - **速度調節はクラッチで行わないようにしてください。**
  - **作業に応じた車速およびエンジン回転を選択してください。**
  - **クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。**
    知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
- **トレーラけん引作業時など機体のバランスが崩れやすい作業時の発進は、低速度段で行い、それから必要な車速段に入れて走行してください。クラッチの寿命が長くなります。**
- **通常作業で頻繁に警告ブザーが鳴る場合は、トラクタの再設定が必要です。購入先で点検をしてもらってください。**
- **運転中、メータ類に異常が無いか、またイージチェッカランプが点灯していないかを、たえず注意してください。**
  （イージチェッカ（87 ページ）を参照）

6. アクセルレバー

アクセルレバーはエンジン回転を調整するためのレバーです。主に農作業時に使用します。



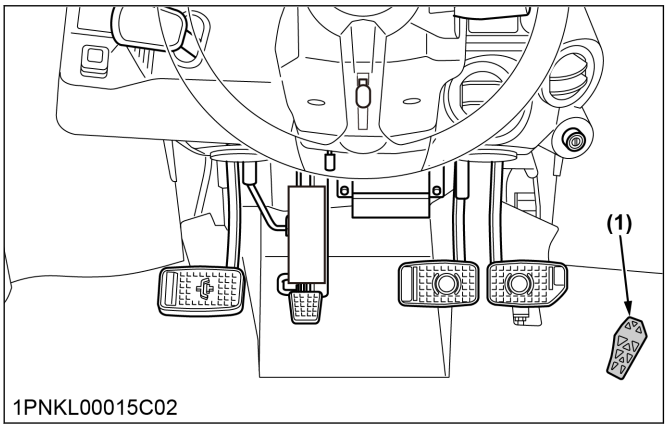
(1) アクセルレバー
(A) 高速
(B) 低速

レバーを前側に押す
エンジン回転が上がる。

レバーを手前に引く
エンジン回転が下がる。

7. アクセルペダル

アクセルペダルはエンジン回転を調整するためのペダルです。主に走行時に使用します。



(1) アクセルペダル

ペダルを踏み込む
エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す
アイドリング状態。

8. トランスミッションシフトレバー

8.1 主変速レバー、副変速レバー

主変速レバーと副変速レバーは主変速と副変速を操作するレバーです。

⚠ 警告

- **急発進はしないでください。**
- **安全のため、急激な変速は避けてください。変速はゆっくり行ってください。**
- **緊急停止時や、作業機の取付け、取外しなど狭い場所での作業時には、クラッチペダルの操作で行ってください。**
- **主変速レバーを手前にいっぱい引いても、トラクタは微速で動きます。トラクタを停車させるときは、シャトルレバーを“中立”（[N]）位置にして必ず駐車ブレーキを掛けてください。**
- **シャトルレバーを“前進”位置や“後進”位置に入れたまま、駐車ブレーキでトラクタの動きを止めたブレーキ停車状態でトラクタから降りないでください。**
- **走行中は、主変速レバー、副変速レバーに手を置いたままにしないでください。**
- **急な坂道、車両への積み、降ろし、ほ場への出入り、あぜの乗越えなど傾斜や凹凸のある場所で、途中で変速すると危険です。あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。**
- **クラッチボタンを押している間はクラッチが切れた状態となっています。クラッチボタンを戻すとトラクタが動き出します。**
- **急傾斜地で副変速の切換えをクラッチボタンの操作のみで行うと、クラッチボタンを押したときトラクタの自重で自走し、危険な場合が予測されます。必ずクラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んでから、切換えを行ってください。**
- **低温始動時、ミッションオイルが暖まるまでは、発進までに時間が掛かる発進遅れが発生する場合があります。**
- **じゅうぶんに暖機運転をしてください。**
- **低温時の発進遅れは異常ではないので、主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。**

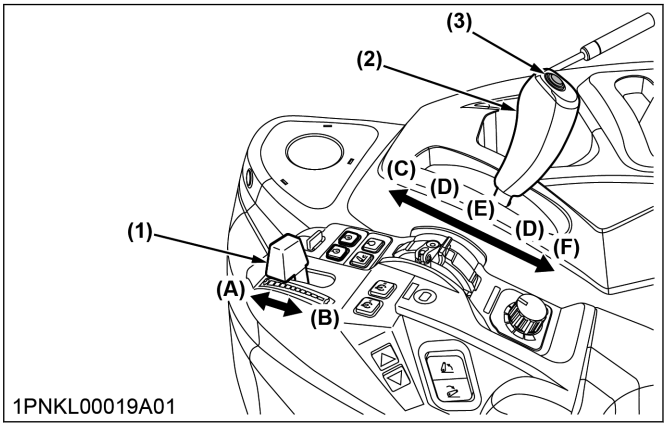
重要：

- **油圧クラッチの寿命を保つため、次の点に注意してください。**
  - **作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。**
  - **トラクタの使い始めの変速時に、油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが、油温が上がってくると正常になります。**
- **副変速レバーの変速は必ずクラッチペダルとブレーキペダルを踏み、トラクタが完全に停止してから行ってください。走行中の副変速レバーの変速操作やクラッチボタンを押さずに変速すると、ミッションの損傷につながります。**

主変速レバーはクラッチ操作無しで車速を無段階に変えることができ、あらゆる作業機を最適の速度で運転できます。副変速レバーで副変速レンジを**[H]**位置、**[M]**位置、または**[L]**位置に切り替えた後、主変速レバーを前方に倒すと増速され、手前に引くと減速されます。

補足：

- **電子メータパネルに表示される車速を参考に主変速レバー位置を決めてください。常に一定車速が得られます。**
  （電子メータパネルの表示については、液晶画面の通常画面とアームレスト操作部（65 ページ）を参照）



(1) 主変速レバー
(2) 副変速レバー
(3) クラッチボタン
(A) 増速（＋）
(B) 減速（－）
(C) 高速（*H*）
(D) 中立（*N*）
(E) 中速（*M*）
(F) 低速（*L*）

1. クラッチペダルとブレーキペダルを踏み、トラクタを完全に停止させます。
2. クラッチボタンを指で押しながら、副変速レバーを**[H]**位置、**[M]**位置、または**[L]**位置へ動かした後、クラッチボタンから指を離します。
   副変速レバーが**[L]**位置で低速、**[M]**位置で中速、**[H]**位置で高速が得られます。

補足：

- **走行中にクラッチボタンを押すと、押している間はクラッチが切れます。**
  ボタンを解放するとクラッチがつながり発進します。
- **クラッチがつながっているときに、シャトルレバーが“前進”位置、“後進”位置に入った状態で、クラッチボタンを押さずに副変速レバーを[H]位置、[M]位置、または[L]位置に変速すると、警告ブザーが鳴り発進しません。この場合、ブザーを止めて再発進するには次のいずれかの手順で発進してください。**
  - **クラッチボタンを使用する方法**
    1. **副変速レバーを“中立”（[N]）位置に戻します。**
    2. **副変速レバーのクラッチボタンを押しながら[H]位置、[M]位置、または[L]位置に変速します。**
    3. **クラッチボタンを離します。**

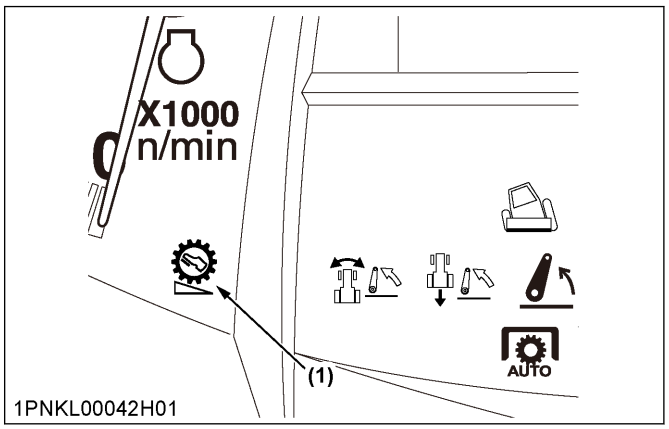
トラクタが発進します。
– クラッチペダルを使用する方法
1. クラッチペダルを踏込み後、クラッチペダルを離します。
トラクタが発進します。

8.1.1 アクセル連動

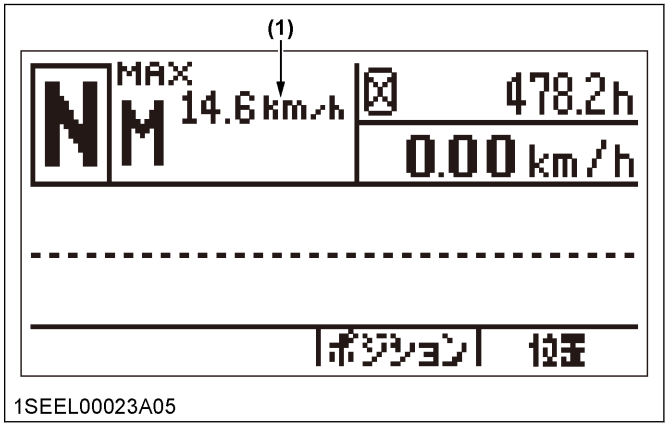
本機は副変速レバーが**[H]**位置のとき、または副変速レバーが**[M]**位置あるいは**[L]**位置でなおかつアクセルレバーがアイドリング位置のとき、アクセルペダルの踏込み加減に応じてエンジン回転数と車速を同時に制御できます。この制御機能がアクセル連動です。

ペダルを踏み込む
エンジン回転数の上昇に応じて車速も速くなる。

ペダルを離す
エンジン回転数の減少に応じて車速も遅くなる。
アクセル連動中はアクセル連動灯が点灯し、最高車速表示のみになります。

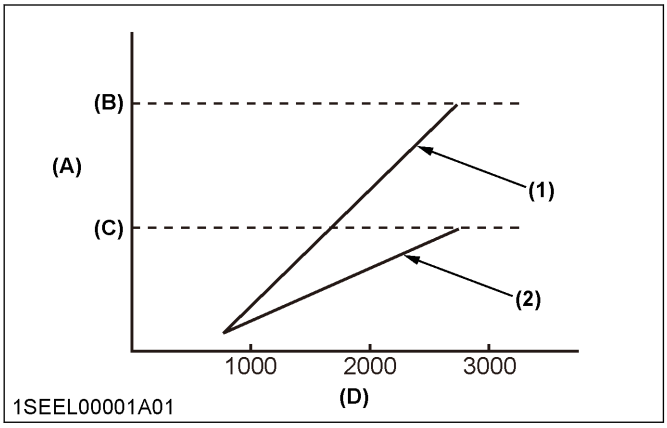


(1) アクセル連動灯



(1) 最高車速表示

なお、希望最高速度は主変速レバー、最高車速設定、エンジン上限回転設定により決まります。



(1) 主変速レバーを最高速位置にセットしたときの速度
(2) 主変速レバーを中間位置にセットしたときの速度
(A) 車速
(B) 最高速
(C) *1/2* 速
(D) エンジン回転数（*n/min*）

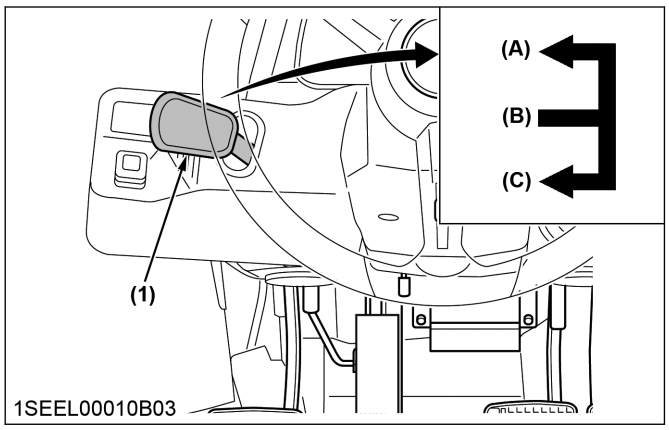
補足：
- **走行中はアクセルレバーを動かしても、アクセル連動へ切り替わりません。**
  切替えは次の手順で行ってください。
  1. シャトルレバーを“中立”（[N]位置）に戻します。
  2. アクセルレバーを動かします。

8.2 シャトルレバー

トラクタの進行方向を選択するレバーです。

⚠ 警告
- **高速（11 km/h 以上）で前進、後進の切換えを行うとクラッチが切れ、警告ブザーが鳴る装置を設けていますが、10 km/h 前後のスピードでもたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切り換えるようにしてください。**
- **急傾斜地で前進、後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行うと、前進、後進が切り換わるときトラクタの自重で自走し、危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル、ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行い、クラッチペダルで発進してください。**

- シャトルレバーを持ち上げて、“前進”位置から“後進”位置に操作すると、マイコンコントロールでスムーズに切り換わり、前進と同じスピードで後進します。切換え時のショックが少なく、タイヤがスリップしないので草地作業にも適しています。後進から前進の切換えも同様です。
- クラッチペダルを踏まなくてもシャトルレバーの操作で前進、後進の切換えができます。
- 坂道で前進、後進の切換えを行うときは、必ずブレーキペダルを踏み込んでトラクタが停止してから行ってください。ブレーキを使用しないで前進、後進の切換えを行うとシャトルクラッチの寿命の低下や損傷の原因になります。



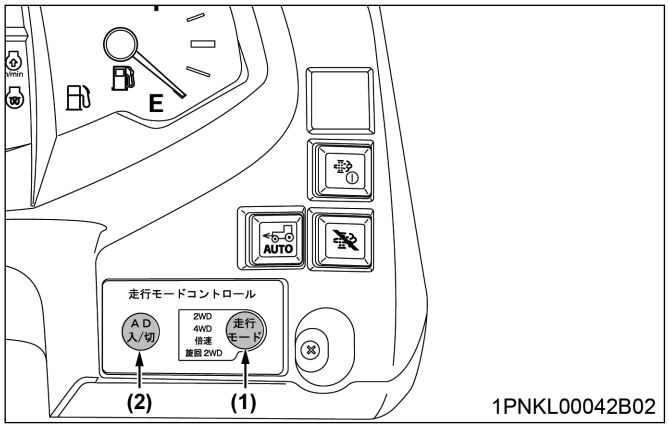
(1) シャトルレバー　　*(A)* 前進
(B) 中立
(C) 後進

補足：
- **トラクタの速度が 11 km/h 以上の状態で、シャトルレバーでの前進、後進の切換えを行うと、自動的にクラッチが切れ、警告ブザーが鳴ります。**
- **もしブザーが鳴ったときは、シャトルレバーをもとの位置に戻してください。ブザーが止まりクラッチもつながります。警報ブザーが鳴ったままの状態で放置しないでください。**

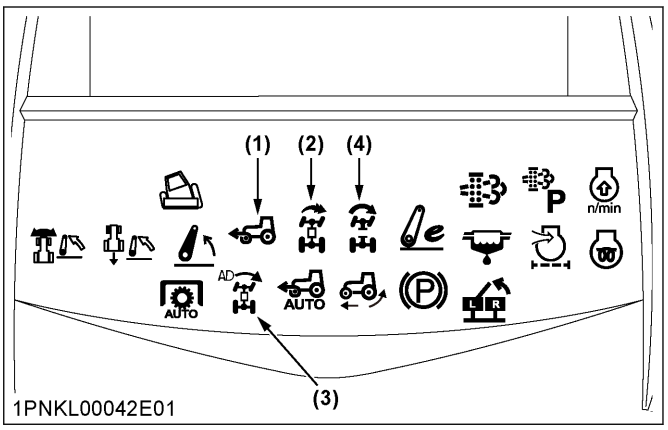
9. 走行モード切替スイッチ

走行モードの切替えは AD スイッチと走行モードスイッチの 2 つのスイッチで行います。

AD スイッチと走行モードスイッチによる選択
- AD スイッチと走行モードスイッチの組合せにより、8 種類の走行モードから作業に適した状態を選択してください。
  一般ロータリ耕うんは AD スイッチ“入”、走行モードスイッチ“倍速”が最も効果があります。
- 各スイッチはトラクタの走行、停止に関係無く操作できます。



(1) 走行モードスイッチ　　*(2)* *AD* スイッチ



(1) *4WD* ランプ　　*(3)* *AD* ランプ
(2) 倍速ランプ　　*(4)* 旋回 *2WD* ランプ

走行モードの組合せ

		走行モードスイッチ			
		2WD	4WD	倍速	旋回 2WD
AD スイッチ	入	○	○	○	○
	切	○	○	○	○

9.1 走行モードスイッチ

スイッチを押すごとに、*“2WD”*→*“4WD”*→“倍速”→“旋回 *2WD”*→*“2WD”*の順に切り換わり、スイッチでの選択状態を電子メータ内のモニタランプで表示します。

走行モード	電子メータ
2WD 選択（2 輪駆動）時	4WD、倍速、AD ランプ消灯
4WD 選択（4 輪駆動）時	4WD ランプ点灯
倍速ターン選択時	倍速ランプ点灯 4WD ランプ点灯
旋回 2WD 選択時	旋回 2WD ランプ点灯 直進時は 4WD ランプ点灯 旋回時は 4WD ランプ消灯

9.1.1 4 輪駆動の利用

4 輪駆動は、次のような場合に威力を発揮します。
- 傾斜地、湿田、トレーラの運搬、フロントローダ作業時で、けん引力が必要な場合。
- 砂地で作業をする場合。
- かたいほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- ほ場への出入りおよびあぜ越えを行う場合。

補足：
- **舗装道路や高速走行時の 4 輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。走行モードスイッチを*“2WD”*、AD スイッチを“切”に切り換え全モニタランプが消えていることを確認してから走行してください。**
  また、タイヤの摩耗を早める原因にもなります。ただし、走行時ブレーキ性能向上のため、左右ブレー

キペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に 4 輪駆動が入ります。

9.1.2 倍速ターンの利用

⚠ 警告

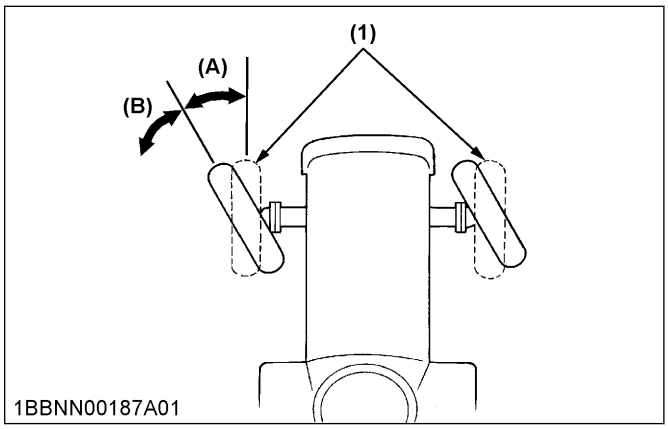
- **走行モードスイッチを“倍速ターン”に入れたままでほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モードスイッチを“2WD”または“4WD”、AD スイッチを“切”に切り換えてください。**
- **倍速ターンは、畑、水田などのロータリ耕作業に役立ちますが、使用方法を誤ると転倒など事故のおそれや故障の原因になります。**

重要 :

- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は使用しないでください。**

倍速ターンの作動は次図のようになっています。

1. 倍速モードで旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪の切れ角が直進状態からある一定の角度になるまでは、通常の 4 輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
2. さらにステアリングハンドルを切ると、倍速ターンが作動し、前輪の回転数がそれまでの約 2 倍の回転数で駆動され、小さくスムーズに旋回できます。



(1) 前輪
(A) 通常の *4* 輪駆動
(B) 倍速ターン作動

補足 :

- **倍速は、危険防止のため、旋回開始時の車速段数が副変速の“M”または“L”で車速が約 12 km/h 以下のときのみ作動します。**

9.2 AD スイッチ

スイッチを押すごとに AD“入”、“切”が切り換わり、スイッチでの選択状態を電子メータ内のモニタランプで表示します。

走行モード	電子メータ
AD“入”（オートブレーキ）時	AD ランプ点灯
AD“切”時	AD ランプ消灯

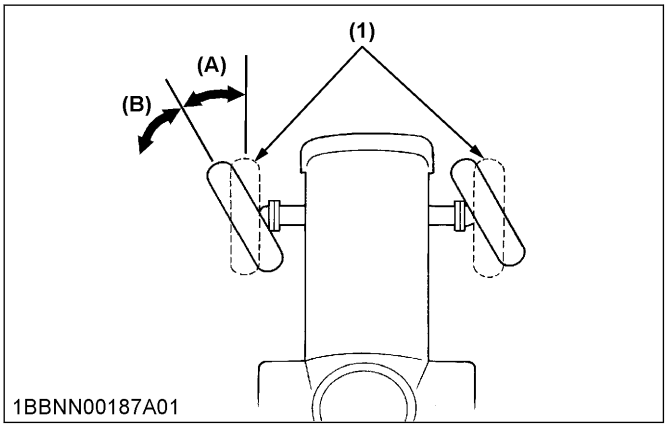
9.2.1 AD の利用

隣接耕うん作業をする場合に、枕地で軽く片ブレーキを踏み、旋回を小さくする操作が行われますが、AD はこの操作を自動的に行う機能です。

⚠ 警告

- **AD“入”のままでほ場以外を走行すると、旋回時急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に AD スイッチを“切”に切り換えてください。**

AD の作動は次図のようになっています。
AD“入”で旋回動作に入り、ステアリングハンドルを直進状態からある一定の角度以上に切ると、AD が作動し、内側後輪に軽くブレーキが掛かり小さくスムーズに旋回できます。



(1) 前輪
(A) *AD* が作動しない範囲
(B) *AD* が作動する範囲

補足 :

- **AD は危険防止のため、車速段数は副変速の“M”または“L”で旋回開始時の車速が約 0.2 km/h ～ 5 km/h の範囲のときのみ作動します。**

9.2.2 AD の強弱設定

AD の強弱を**[100]**（強）→**[0]**（弱）の 101 段階で設定することができます。ほ場条件や作業の内容に合わせて変更してください。

⚠ 警告

- **設定する場合はトラクタを停止して行ってください。走行しながら設定をすると傷害事故を引き起すおそれがあります。**

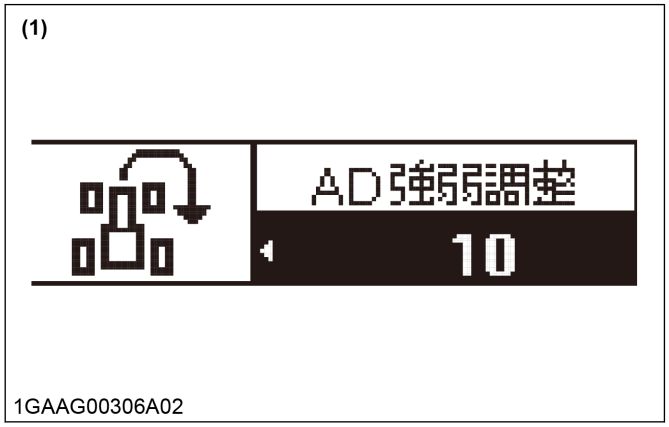
補足 :

- **エンジン回転上限設定やエンジン回転メモリ設定が“入”の場合は“切”に切り換えてください。**

（電子エンジン制御（94 ページ）を参照）

例として、本項では AD 強弱を**[5]**に変更する場合を説明します。

1. アームレスト操作部にある HOME / MENU スイッチを押し、電子メータの液晶画面にメニュー画面を表示します。
2. メニュー画面から**[旋回]>[AD 強弱調整]**の設定項目を開きます。



(1) AD 強弱調整

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回し、**[5]**を選択します。
4. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータの液晶画面を通常画面に戻します。

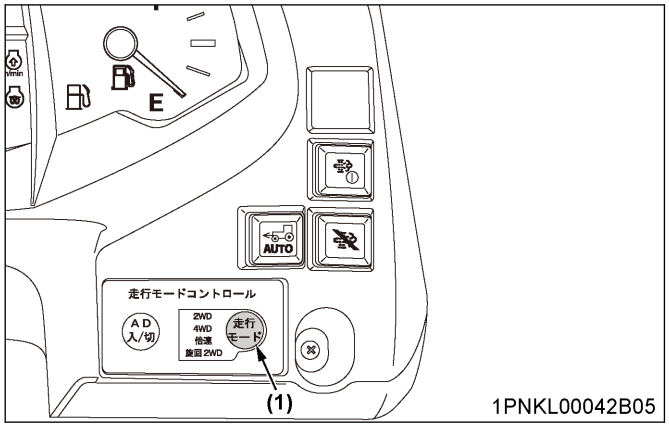
補足：
- **工場出荷時の AD 強弱の設定は[100]です。**

9.3 旋回 2WD

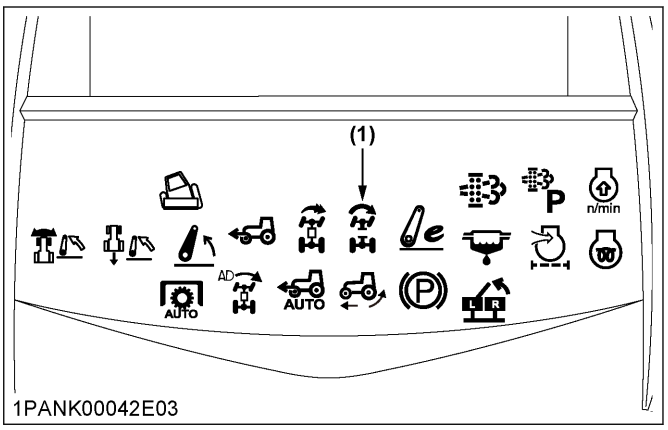
旋回 2WD は、畑作管理作業などの枕地旋回時に、作物やほ場をいためたくない場合に威力を発揮します。

⚠ 警告
- **転倒や衝突による死傷事故を防ぐため、道路、傾斜地走行では旋回 2WD を使用しないでください。**

走行モードスイッチで“旋回 *2WD*”を選択すると旋回 2WD ランプが点灯します。



(1) 走行モードスイッチ



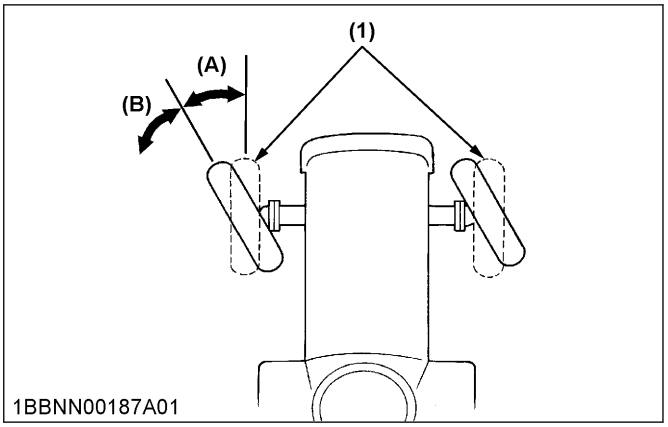
(1) 旋回 2WD ランプ

9.3.1 旋回 2WD の利用

重要：
- **トレーラけん引作業などの速度の速い作業には使用しないでください。**
- **フロントローダを装着した場合は使用しないでください。**

旋回 2WD の作動は次の図のようになっています。

1. 旋回 2WD モードで旋回動作に入り、ステアリングハンドルを切っていくと、前輪切れ角が直進状態からある角度になるまでは 4WD で走行します。このとき電子メータの 4WD ランプが点灯します。
2. ステアリングハンドルをさらに切ると、旋回 2WD が作動し 2WD 状態となります。このとき 4WD ランプは消灯します。
3. ステアリングハンドルを戻していくと、4WD に戻ります。再び 4WD ランプは点灯します。



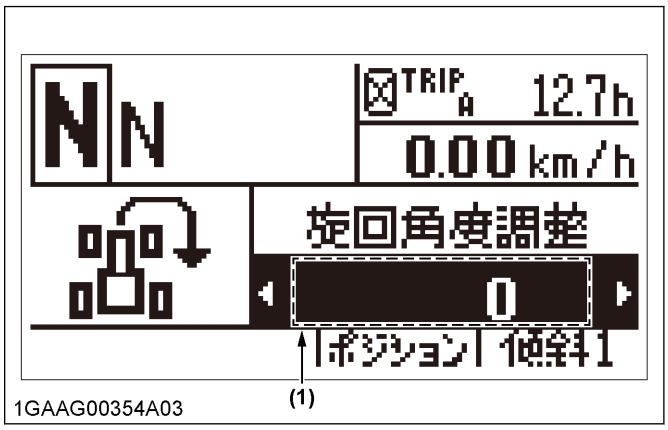
(1) 前輪
(A) 4WD
(B) 2WD

9.4 旋回角度の調整

倍速ターン、旋回 2WD の作動角度を任意に調整します。
ほ場条件など作業状況に合わせて作動タイミングを遅くもしくは早くしたい場合に値を調整します。

1. トラクタを停車します。

2. 電子メータの液晶画面でメニュー画面から**[旋回]>[旋回角度調整]**を開きます。
3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し、設定値を選択します。
   作動開始角を大きくして遅く作動させたい場合はプラス側に、作動開始角を小さくして早く作動させたい場合はマイナス側に設定してください。

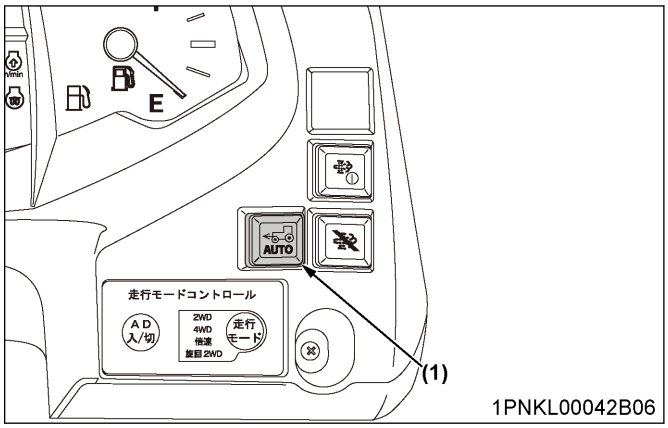


(1) 旋回角度調整調整値

補足：
- **工場出荷時の設定は 0 です。**

10. オート 4WD スイッチ

オート 4WD スイッチを押すと、4 輪駆動中 20 km/h 以上になると自動で 2 輪駆動に切り替わるよう設定できます。



(1) オート *4WD* スイッチ

11. デフロック

⚠ 警告
- **デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。**
- **道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。**

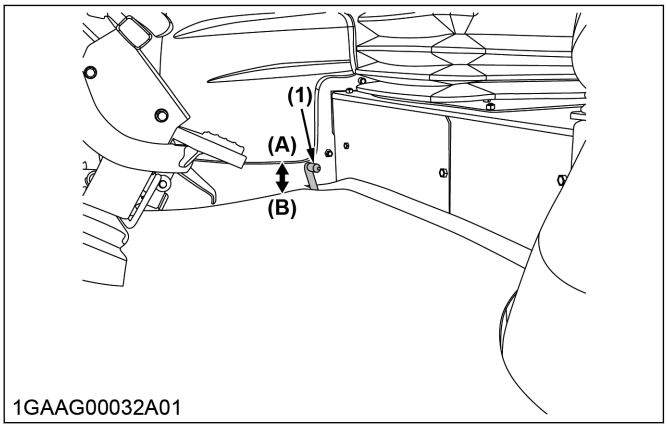
11.1 後輪デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で、スリップ防止に効果があります。

重要：
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。**
- **デフロックが抜けにくいときは、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。**
- **使用しないときは、足をペダルに乗せないでください。**
- **片ブレーキを掛けるときは、後輪デフロックを必ず解除してください。**

ペダルを踏み込む
ロックされる。

ペダルから足を離す
ロックが解除される。



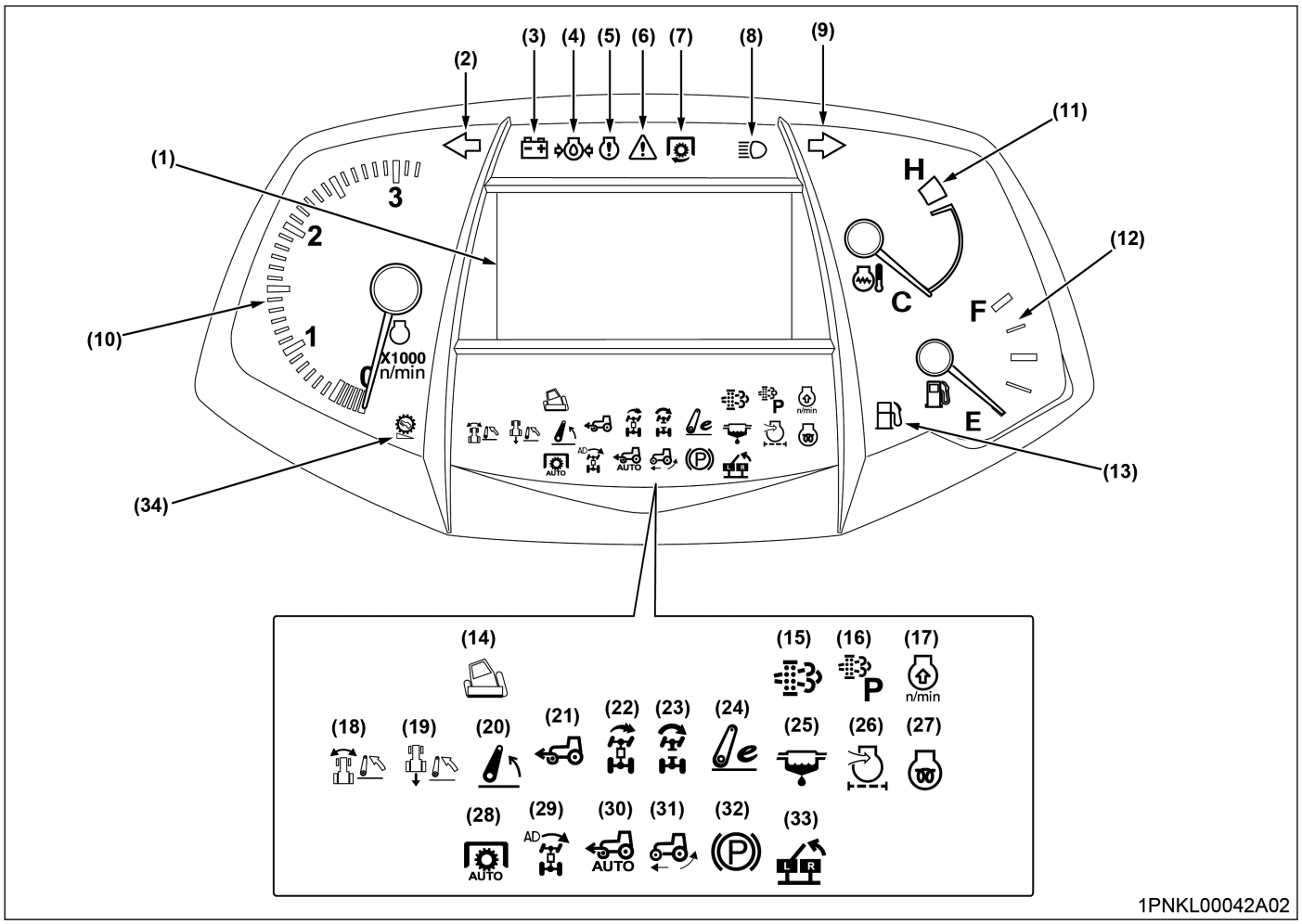
(1) デフロックペダル
(A) 解除
(B) ロック

デフロックは、次のような場合に役立ちます。
- ほ場への出入りやフロントローダ作業時など、片車輪がスリップして直進できないとき。
- ほ場の一部軟弱な所に片車輪が入り込み、スリップして走行がしにくくなったとき。
- プラウ作業などけん引力を必要とする作業で、片側車輪がスリップしたとき。

12. 電子メータ

12.1 電子メータ各部の名称

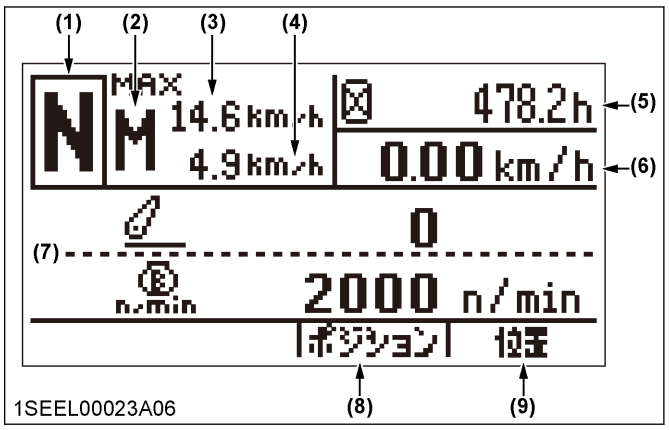
電子メータは、トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに、各種警報や万一故障した場合にも故障箇所を表示しますので、表示に従って正しく取り扱ってください。
なお、この節で紹介するメッセージ以外が表示された場合は、エンジンの不調と処置（223 ページ）、傾き自動、耕深制御、ドラフト、レーザ、AD、倍速、トランスミッションの故障と処置（224 ページ）を参照してください。



(1) 液晶表示部（メッセージ）
(2) ウインカパイロットランプ（左） *54*
(3) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯） *87*
(4) エンジンオイル油圧警告灯 *87*
(5) エンジン異常警告灯 *87*
(6) システム異常警告灯 *88*
(7) *PTO* ランプ *147*
(8) 上向き照射ランプ *53*
(9) ウインカパイロットランプ（右） *54*
(10) エンジン回転計 *88*
(11) 水温計 *88*
(12) 燃料計 *88*
(13) 燃料残量警告灯 *87*
(14) 傾き自動ランプ *137*
(15) 再生状態ランプ *43*
(16) 駐車再生要求ランプ *43*
(17) エンジン回転上げ要求ランプ *43*
(18) 旋回アップランプ *105*
(19) バックアップランプ *106*
(20) クイックアップランプ *104*
(21) *4WD*（*4* 輪駆動）ランプ *60*
(22) 倍速ターンランプ *60*
(23) 旋回 *2WD* ランプ *62*
(24) e -アシスト旋回ランプ *97*
(25) ウォータセパレータ警告灯 *189*
(26) エアクリーナ目詰まり警告灯 *87*
(27) エンジン予熱ランプ *118*
(28) 上昇 *PTO* 停止ランプ *148*
(29) *AD* ランプ *60*
(30) オート *4WD* ランプ *60*
(31) スリップ制御ランプ
(32) 駐車ブレーキ警告灯 *87*
(33) ブレーキ連結ロック解除警告灯 *87*
(34) アクセル連動灯 *59*

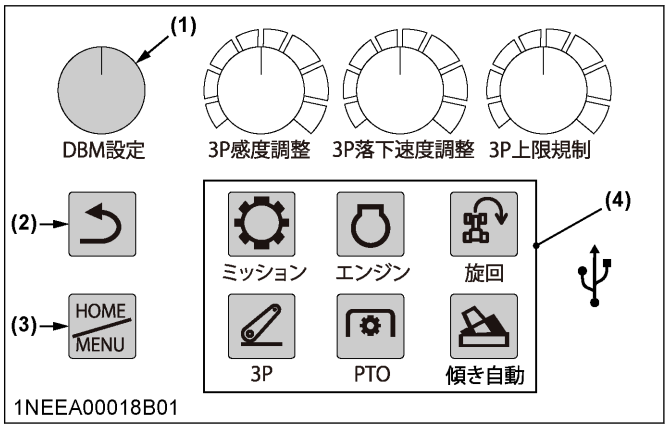
12.1.1 液晶画面の通常画面とアームレスト操作部

液晶表示部の通常画面



(1) シャトルレバー位置
(2) 副変速レバー位置
(3) 指示車速表示
(4) 車速表示
(5) アワーメータ
(6) 走行車速
(7) パフォーマンスモニタ
(8) 作業選択状態
(9) 傾き自動モード

アームレスト操作部



(1) 電子メータ（*DBM*）設定ジョグダイヤル
(2) 戻るスイッチ
(3) *HOME / MENU* スイッチ
(4) メータパネルショートカットスイッチ

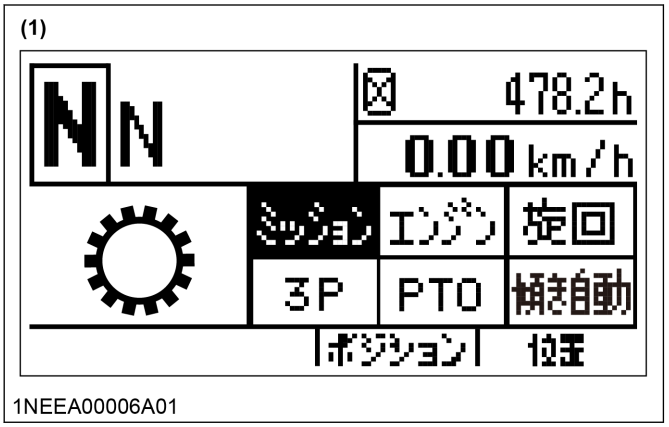
12.2 メニュー画面と設定画面

エンジン回転メモリ設定などの各種設定を電子メータ（DBM）の液晶表示部で操作します。

12.2.1 メニュー画面の操作

メニュー画面の表示、操作

1. 通常画面表示中、HOME / MENU スイッチを押します。
   メニュー画面が開きます。



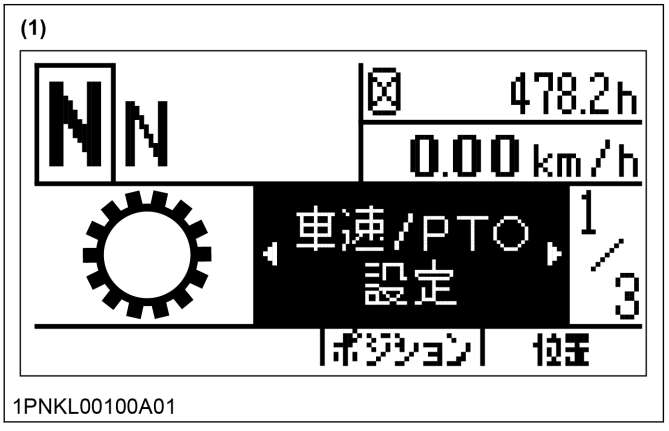
(1) メニュー画面

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで設定するメニューを選択します。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソル（文字の反転表示）が**[ミッション]**→**[エンジン]**→**[旋回]**のように移動し、**[傾き自動]**の次は**[ミッション]**へカーソルが移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、カーソル（文字の反転表示）が右回転の逆順に移動し、**[ミッション]**の次は**[傾き自動]**へカーソルが移動します。
3. 通常画面へ戻る場合は戻るスイッチまたは HOME / MENU スイッチを押します。

項目選択画面への移動

（例）ミッションの設定項目選択画面を表示させます。

1. 通常画面時に HOME / MENU スイッチを押してメニュー画面を開きます。
2. **[ミッション]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   ミッションの設定項目選択画面が表示されます。

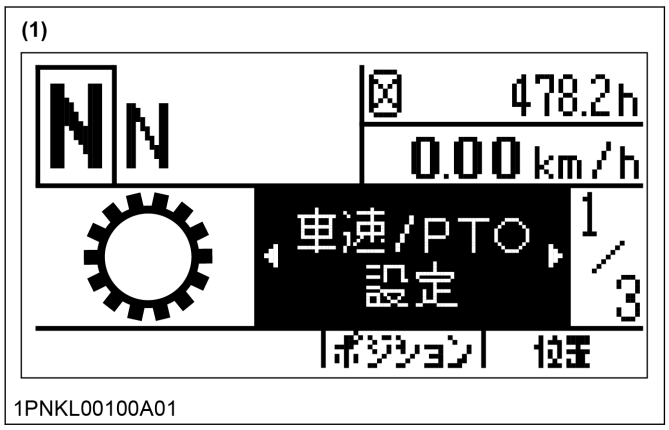


(1) ミッションの設定項目選択画面

ショートカット機能を使用した項目選択画面への移動

メニュー画面の表示は、メータパネルショートカットスイッチの操作でも可能です。

1. 通常画面またはメニュー画面表示時に、メータパネルショートカットスイッチのいずれかを押します。
   押したスイッチに対応した項目選択画面が表示されます。
   次図はメータパネルショートカットスイッチの**[ミッション]**を押した場合の画面です。



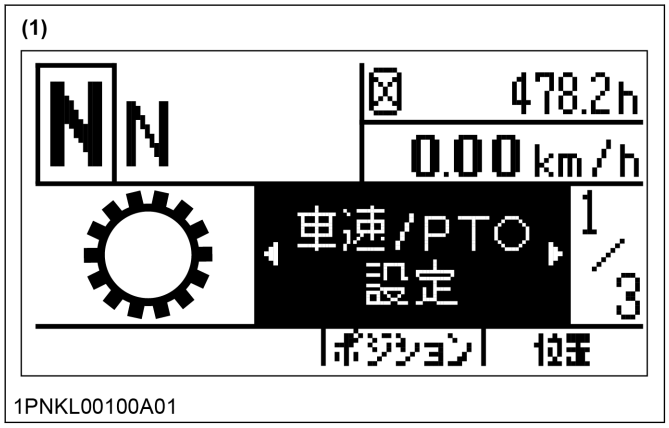
(1) ミッションの設定項目選択画面

項目選択画面の操作

（例）ミッションの設定項目選択画面を操作します。

1. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで設定項目を選択します。
   - ダイヤルを右に回転すると、表示中の項目名と番号が順次切り替わります。
   - ダイヤルを左に回転すると、項目が右回転の逆順で切り替わります。

   項目数番号は“項目番号”/“項目数”を表しています。**[ミッション]**の設定項目が 3 つある場合、**[1/3]**→**[2/3]**→**[3/3]**→**[1/3]**と切り替わります。



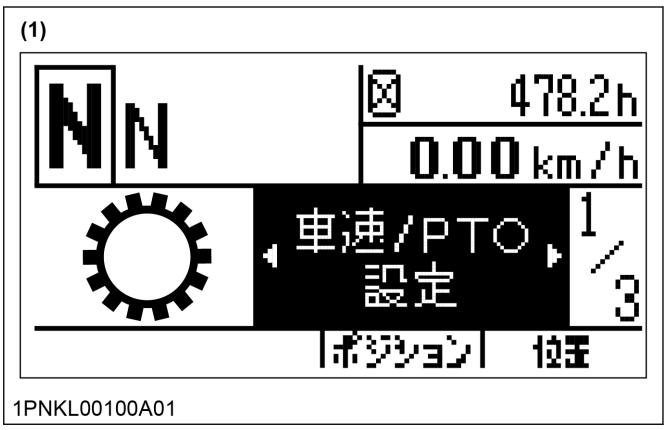
(1) ミッションの設定項目　　*(2)* 項目数番号

2. 設定したい項目が表示されている状態で電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   選択した項目の設定画面が開きます。

設定変更が 1 項目の場合の設定画面の操作

（例）ミッションの設定項目の車速、PTO 設定を操作します。

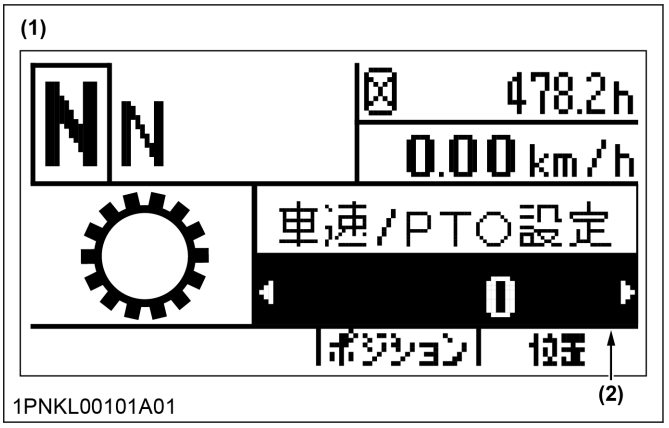
1. メニュー画面を開き、**[ミッション]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
2. **[車速/PTO 設定]**を選択し電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。



(1) ミッションの設定項目選択画面

車速、PTO の設定画面が開きます。

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで設定を切り替えます。
   - ダイヤルを右に回転すると、設定が**[-5]**から 1 刻みで**[5]**まで切り替わります。
   - ダイヤルを左に回転すると、設定が右回転の逆順で切り替わります。



(1) 車速、*PTO* の設定画面　　*(2)* 設定値

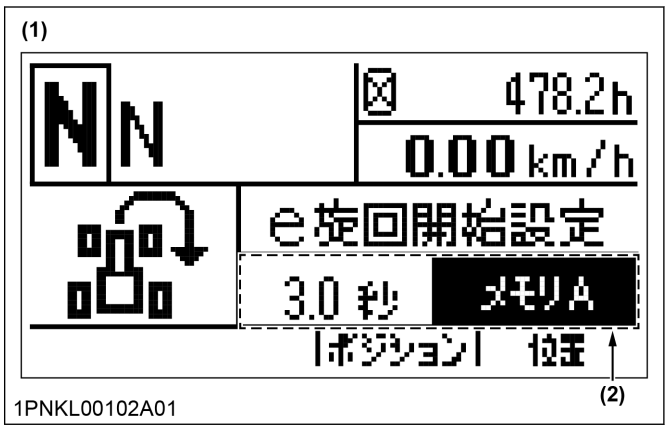
設定の切替えは即時反映されます。

4. 項目選択画面へ戻る場合は電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルまたは戻るスイッチを押します。

設定変更が 2 項目の場合の設定画面の操作

（例）旋回の設定項目の e 旋回開始設定を操作します。

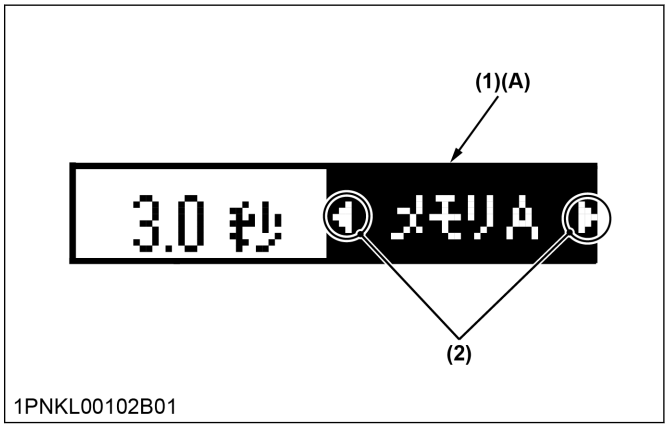
1. メニュー画面を開き、**[旋回]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
2. **[e 旋回開始設定]**を選択し電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   e 旋回開始設定の設定画面が開きます。



1PNKL00102A01

(1) e 旋回開始設定　　*(2)* 設定項目

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで設定項目を選択します。
   ダイヤル左右回転でカーソル（反転表示位置）が切り替わります。
4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   反転表示部の端に矢印が表示され任意の値に設定できます。値を選択するには、ダイヤルを回転してください。



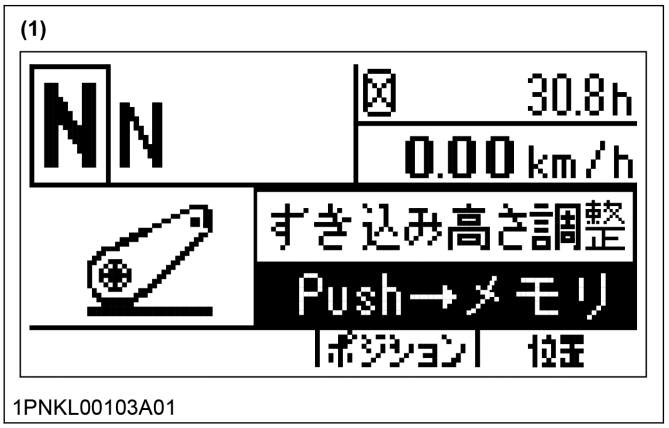
1PNKL00102B01

(1) 設定項目　　*(A)* カーソル位置
(2) 矢印

5. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルか戻るスイッチを押すと値を確定します。
6. 項目選択画面へ戻る場合は、値を確定した状態で戻るスイッチを押します。

すき込み高さ調整画面の操作

1. メニュー画面を開き、**[3P]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   3点リンクの設定項目選択画面が開きます。
2. **[すき込み高さ調整]**を選択し電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   すき込み高さ調整の設定画面が開きます。



1PNKL00103A01

(1) すき込み高さ調整の設定画面

3. 3点リンクを任意の高さに動かし電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   3点リンクの設定項目選択画面に戻り、すき込み高さが更新されます。
   設定を中断したい場合は戻るスイッチを押すとすき込み高さが更新されず、3点リンクの設定項目選択画面に戻ります。
   （すき込み開始高さの設定変更（146 ページ）を参照）

12.2.2 ミッション選択時の設定項目の表示条件

メニュー画面から**[ミッション]**を選択して設定項目選択画面を表示したとき、設定項目は次表の並びのとおりに画面に表示されます。副変速の状態、GPS の有無、ミッション設定の有効化で表示される項目がそれぞれ存在し、表示条件を満たさない場合は項目選択画面に表示されません。表示条件が変化した際の項目の表示、非表示は即座に画面に反映されます。

No.	設定項目名	表示条件
1	最高車速設定	副変速レバーの位置が**[H]**、**[M]**、**[L]**のいずれかの場合に表示されます。
2	クルーズ車速 A 設定	副変速レバーの位置が**[M]**、**[L]**のいずれかの場合に表示されます。
3	クルーズ車速 B 設定	副変速レバーの位置が**[M]**、**[L]**のいずれかの場合に表示されます。
4	車速/PTO 設定	常時表示されます。
5	パワー/エコ設定	常時表示されます。
6	負荷変速設定	常時表示されます。
7	スリップ感度設定	GPS がありの場合に表示されます。

12.2.3 ミッション選択時の設定項目の設定可能範囲

メニュー画面の**[ミッション]**の設定項目について設定可能な値の範囲は次表のとおりです。項目 2 は設定画面上で左右 2 項目が表示される項目のみ参照ください。

No.	設定項目名	項目 1 数値範囲または選択肢	単位	項目 2 数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	最高車速設定	副変速*"H"*時は 0.6 から 0.1 刻みで増加[*1] 副変速*"M"*時は 0.3 から 0.1 刻みで増加[*1] 副変速*"L"*時は 0.2 から 0.1 刻みで増加[*1]	km/h	–	–	125
2	クルーズ車速 A 設定	副変速*"M"*時は 0.3 から 0.1 刻みで増加[*1] 副変速*"L"*時は 0.2 から 0.1 刻みで増加[*1]	km/h	–	–	126、126
3	クルーズ車速 B 設定	副変速*"M"*時は 0.3 から 0.1 刻みで増加[*1] 副変速*"L"*時は 0.2 から 0.1 刻みで増加[*1]	km/h	–	–	126、126
4	車速/PTO 設定	-5～+5	–	–	–	127
5	パワー/エコ設定	-5～+5	–	–	–	127
6	負荷変速設定	0～100	–	OFF、ON	–	127、128
7	スリップ感度設定	0～100	%	–	–	–

*1　最大値は機械ごとに異なります。

12.2.4 エンジン選択時の設定項目の表示条件

メニュー画面から**[エンジン]**を選択して設定項目選択画面を表示したとき、設定項目は常に全項目が表示されます。

12.2.5 エンジン選択時の設定項目の設定可能範囲

メニュー画面の**[エンジン]**の設定項目について設定可能な値の範囲は次表のとおりです。

No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	エンジン回転上限	830 から 10 刻みで増加*1	n/min	94
2	回転メモリ A 設定	830 から 10 刻みで増加*2	n/min	95
3	回転メモリ B 設定	830 から 10 刻みで増加*2	n/min	95

*1　最大値は機械ごとに異なります。

*2　最大値は機械ごとに異なります。回転上限と同値または回転上限から-10 した値となります。

12.2.6 旋回選択時の設定項目の表示条件

メニュー画面から**[旋回]**を選択して設定項目選択画面を表示したとき、設定項目は常に全項目が表示されます。

12.2.7 旋回選択時の設定項目の選択可能範囲

メニュー画面の**[旋回]**の設定項目について設定可能な値の範囲は次表のとおりです。項目 2 および項目 3 は設定画面上で左右 3 項目が表示される項目のみ参照ください。

No.	設定項目名	項目 1 数値範囲または選択肢	単位	項目 2 数値範囲または選択肢	単位	項目 3 数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	旋回アップ入切	OFF、ON	–	–	–	–	–	105
2	バックアップ入切	OFF、ON	–	–	–	–	–	106
3	旋回角度調整	-5～+5	–	–	–	–	–	–
4	AD 強弱調整	0～100	–	–	–	–	–	61
5	e 旋回開始設定	0.0～6.0 で 0.5 刻み	秒	メモリ切、メモリ A、メモリ B	–	クルーズ切、クルーズ A、クルーズ B	–	97
6	e 旋回終了設定	0.0～6.0 で 0.5 刻み	秒	メモリ切、メモリ A、メモリ B	–	クルーズ切、クルーズ A、クルーズ B	–	97

12.2.8 3P 選択時の設定項目の表示条件

メニュー画面から**[3P]**を選択して設定項目選択画面を表示したとき、設定項目は常に全項目が表示されます。

12.2.9 3P 選択時の設定項目の選択可能範囲

メニュー画面の**[3P]**の設定項目について設定可能な値の範囲は次表のとおりです。

No.	設定項目	条件	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	3P 制御モード	–	ポジション、耕深制御（カバーセンサ接続時のみ表示）、S モード、ドラフト、レーザ（レーザレベラ接続時のみ表示）	–	101
2	すき込み高さ調整	–	3 点リンクの高さの数値*1	–	146

*1　電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押した時点の 3 点リンクの高さに従い記憶します。電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤル左右回転による調整値の編集はできません。

12.2.10 PTO 選択時の設定項目の表示条件

メニュー画面から**[PTO]**を選択して設定項目選択画面を表示したとき、PTO 関連の設定項目は常に全項目が表示されます。

12.2.11 PTO 選択時の設定項目の選択可能範囲

メニュー画面の**[PTO]**の設定項目について設定可能な値の範囲は次表のとおりです。

No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	PTO モード	クラッチ独立、クラッチ連動	–	147

12.2.12 傾き自動選択時の設定項目の表示条件

メニュー画面から**[傾き自動]**を選択して設定項目選択画面を表示したとき、設定項目は次表の並びのとおりに画面に表示されます。表示条件を満たさない場合は項目選択画面に表示されません。

No.	設定項目名	表示条件
1	傾き自動モード	常時表示されます。
2	傾き自動穴位置	常時表示されます。
3	傾斜補正調整	傾き自動モードを**[傾斜]**に設定している場合のみ表示されます。

12.2.13 傾き自動選択時の設定項目の設定可能範囲

メニュー画面の**[傾き自動]**の設定項目について設定可能な値の範囲は次表のとおりです。

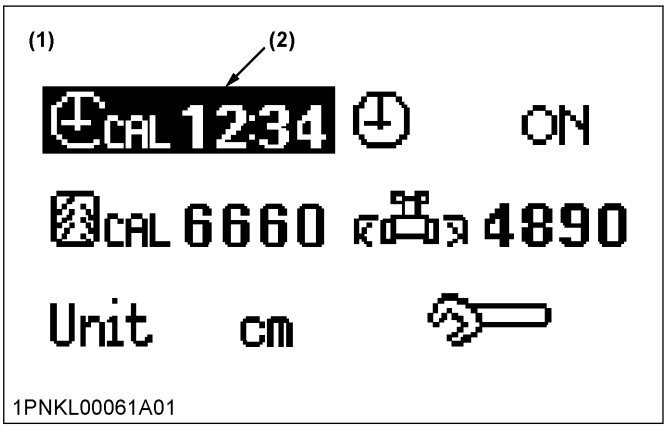
No.	設定項目	数値範囲または選択肢	単位	参照ページ
1	傾き自動モード	位置、水平、傾斜	–	109 112
2	傾き自動穴位置	前穴・JIS2、前穴・JIS1、後穴・JIS1	–	109 112
3	傾斜補正調整	0～300	–	113

12.3 各種設定選択画面

時計の時刻設定やタイヤ径など、ユーザー設定が可能な項目を操作する画面です。

12.3.1 ユーザ設定画面の操作

1. 駐車ブレーキを掛け、副変速レバーを**[N]**位置、シャトルレバーを“中立”位置にしてキーを**[切]**にします。
2. HOME / MENU スイッチを押したままキーを**[入]**にした状態を 2 秒間継続します。
   画面が切り替わりユーザ設定画面が表示されます。



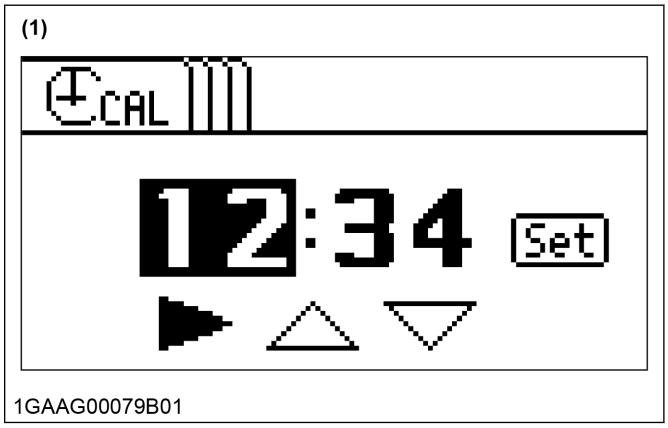
(1) ユーザ設定画面　　*(A)* カーソル位置

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソル（文字の反転表示）を合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソル（文字の反転表示）が次表の番号順に移動し、最終項目（No.7）の次は先頭項目（No.1）へカーソルが移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、カーソル（文字の反転表示）が右回転の逆順に移動し、先頭項目（No.1）の次は最終項目（No.7）へカーソルが移動します。

No.	表示画像	項目名
1	CAL 12:34	時計設定
2	ON	時計 ON、OFF 設定
3	CAL 6660	タイヤ周長設定
4	4890	作業機幅設定
5	Unit cm	単位設定
6		メンテナンス
7	盗難防止	盗難防止設定

12.3.2 時計設定

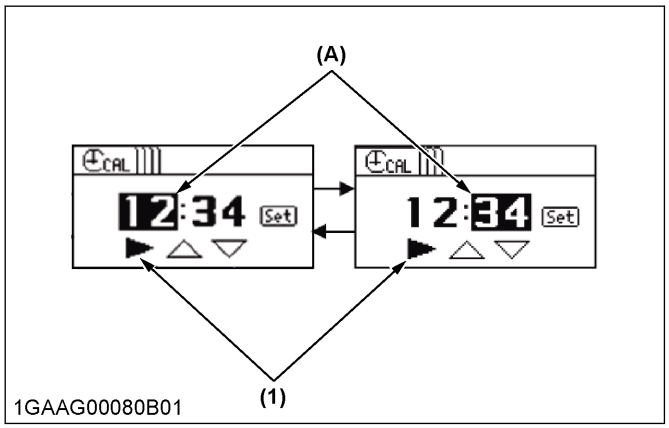
1. ユーザー設定画面から“時計設定”にカーソル（文字の反転表示）を合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。



(1) 時計設定画面

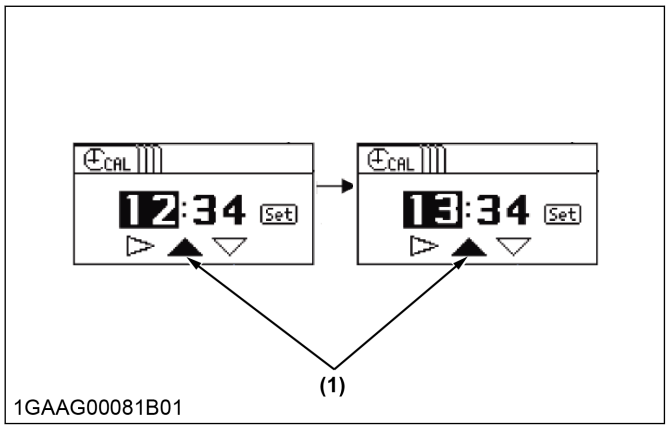
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソルを合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソルが“右矢印”→“上矢印”→“下矢印”→**[set]**→“右矢印”と移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、カーソルが右回転と逆順に移動します。

3. 選択した矢印に応じて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで時計の時間を設定します。
   - “右矢印”を選択中、ダイヤルを押すとカーソルの位置が“時”と“分”の交互に切り替わります。



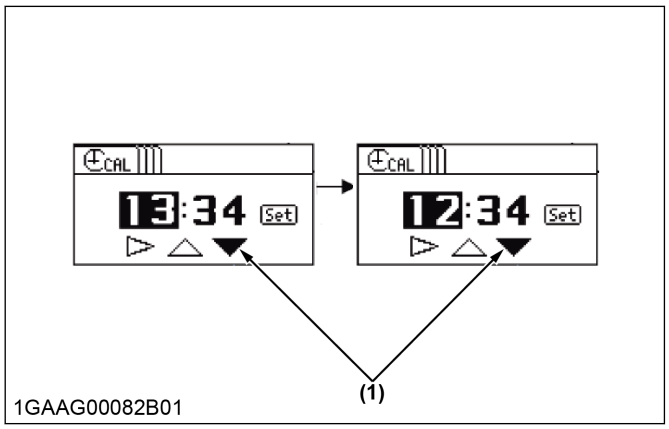
(1) 右矢印　　*(A)* カーソル位置

   - “上矢印”を選択中、“時”または“分”の数値にカーソルが合っているとき、ダイヤルを押すとその数値が+1 され、長押しすると時間が繰返し+1 されます。



(1) 上矢印

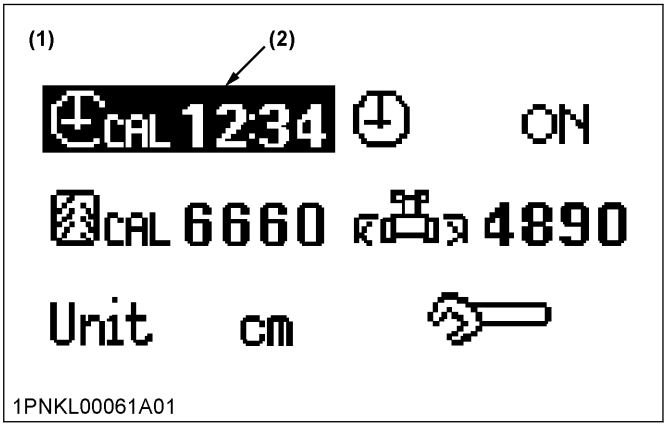
   - “下矢印”を選択中、“時”または“分”の数値にカーソルが合っているとき、ダイヤルを押すとその数値が-1 され、長押しすると時間が繰返し-1 されます。



(1) 下矢印

4. 入力が完了したら**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。ユーザ設定画面上の時刻表示が更新されていれば設定完了です。

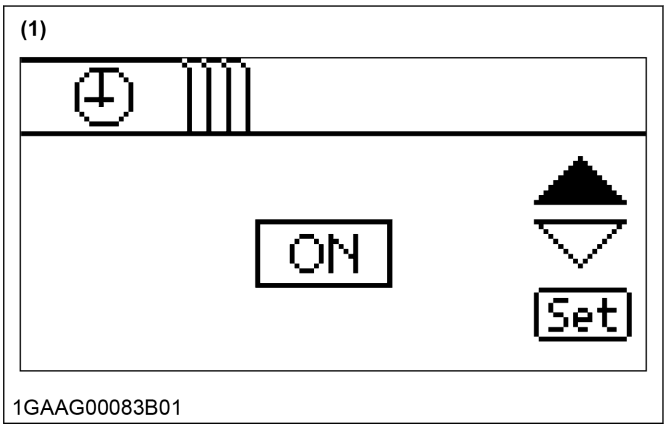
   補足：
   - **設定途中で戻るスイッチを押すと、“時計設定”を中断しユーザ設定画面へ戻ります。**



(1) ユーザ設定画面　　*(2)* 時計

12.3.3 時計 ON、OFF 設定

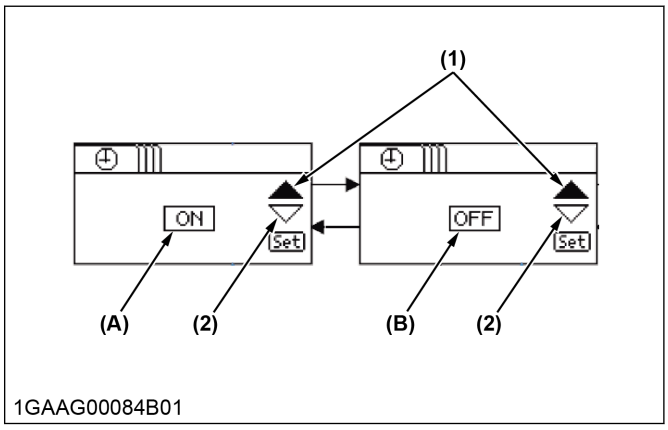
1. ユーザ設定画面から“時計 *ON*、*OFF* 設定”にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。



(1) 時計 *ON*、*OFF* 設定画面

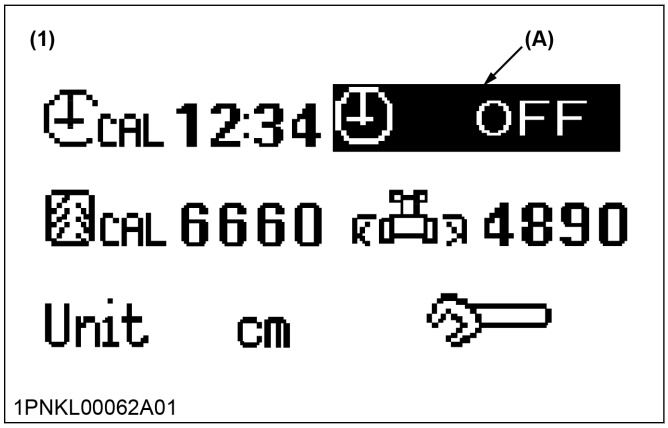
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソルを合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソルが“上矢印”→“下矢印”→**[set]**→“上矢印”と移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、右回転の逆順にカーソルが移動します。

   矢印を選択中、ダイヤルを押すと画面中央の**[ON]**、**[OFF]**が切り替わります。



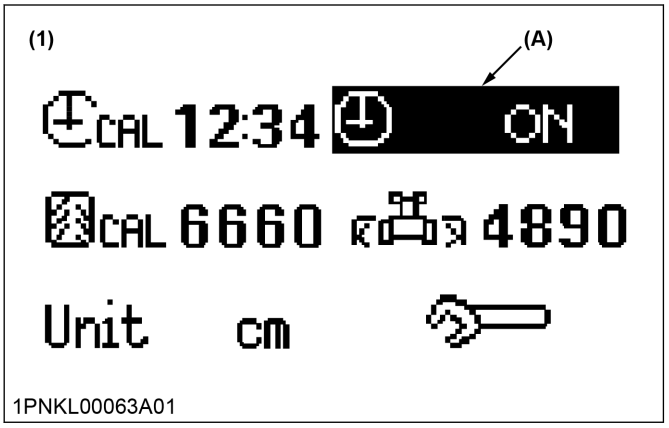
(1) 上矢印　　*(A)* 時計 *ON*
(2) 下矢印　　*(B)* 時計 *OFF*

3. **[set]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   - **[OFF]**を選択した場合、ユーザ設定画面上の表示も**[OFF]**になります。



(1) ユーザ設定画面　　*(A)* 時計 *OFF*

   - **[ON]**を選択した場合、ユーザ設定画面上の表示も**[ON]**になります。

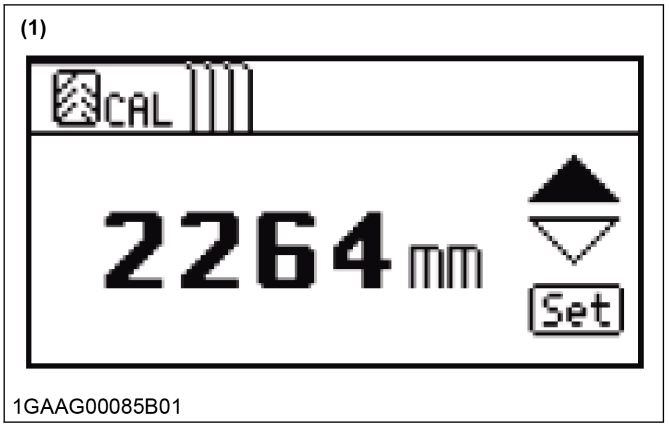


(1) ユーザ設定画面　　*(A)* 時計 *ON*

補足：
- **設定途中で戻るスイッチを押すと、“時計 *ON*、*OFF* 設定”を中断しユーザ設定画面へ戻ります。**

12.3.4 タイヤ周長設定

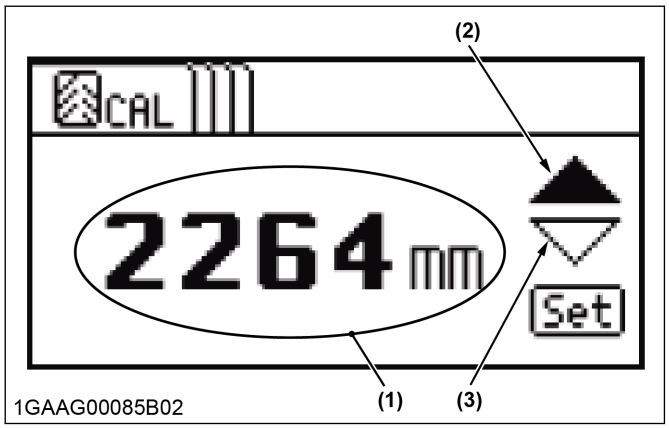
1. ユーザ設定画面から“タイヤ周長設定”にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。



(1) タイヤ周長設定画面

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソルを合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソルが“上矢印”→“下矢印”→**[set]**→“上矢印”と移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、右回転の逆順にカーソルが移動します。

3. 選択した矢印に応じて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルでタイヤ周長を設定します。
   - 上矢印を選択中、ダイヤルを押すとタイヤ周長が+1 mm され、長押しをするとタイヤ周長が繰り返し+10 mm されます。
   - 下矢印を選択中、ダイヤルを押すとタイヤ周長が-1 mm され、長押しをするとタイヤ周長が繰り返し-10 mm されます。

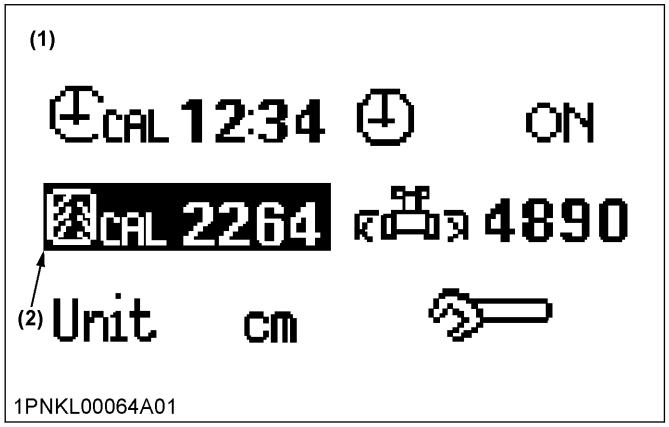


(1) タイヤ周長のメータ表示　　*(3)* 下矢印
(2) 上矢印

補足：
- **タイヤ周長のメータ表示について、範囲表示されているタイヤ周長が 8000 mm を超えると 0 mm となり、0 mm を超えると 8000 mm になります。**

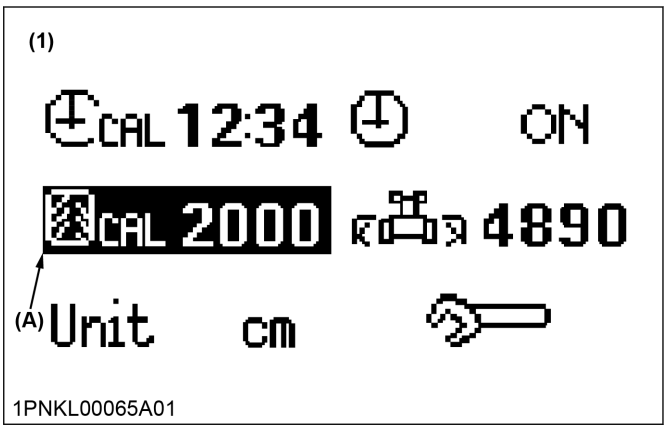
（車速係数の入力（86 ページ）を参照）

4. 任意の数値を入力後、**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。ユーザ設定画面上のタイヤ周長が更新されます。

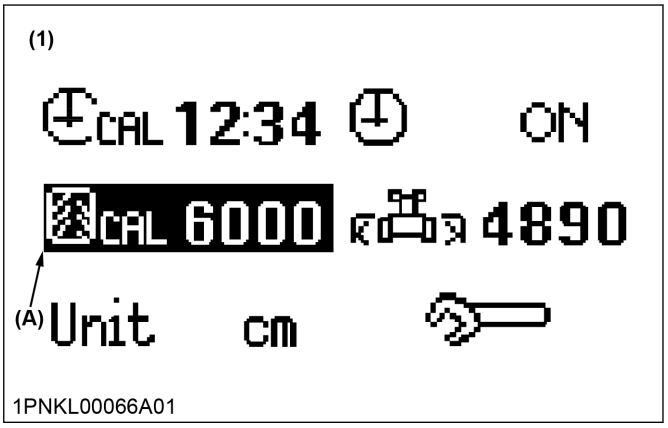


(1) ユーザ設定画面　　*(2)* タイヤ周長

補足：
- **タイヤ周長の設定可能範囲について、タイヤ周長の設定限界は下限が 2000 mm で上限が 6000 mm です。設定限界より低いまたは高い数値を入力し[set]を押した場合は、下限または上限の値で設定が更新されます。**



(1) ユーザ設定画面　　*(A)* 下限設定

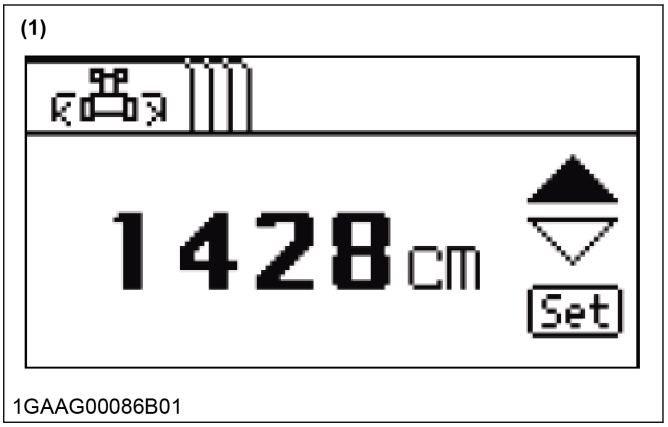


(1) ユーザ設定画面　　*(A)* 上限設定

- **設定途中で戻るスイッチを押すと、“タイヤ周長設定”を中断しユーザ設定画面へ戻ります。**

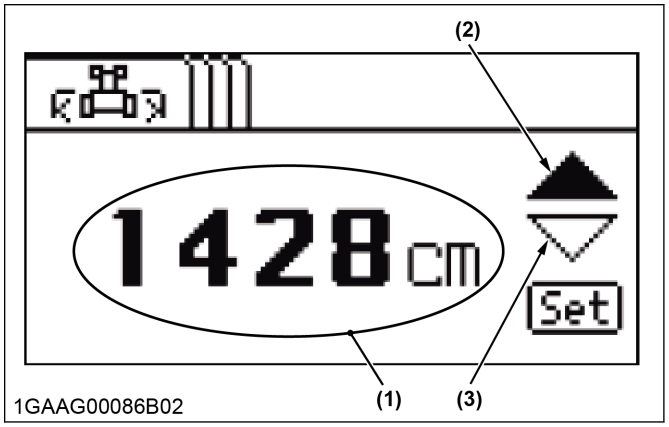
12.3.5 作業機幅設定

1. ユーザ設定画面から“作業機幅設定”にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。



(1) 作業機幅設定画面

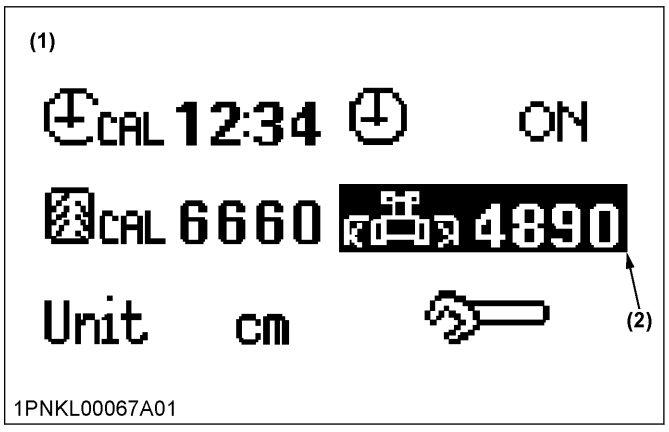
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソルを合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソルが“上矢印”→“下矢印”→**[set]**→“上矢印”と移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、右回転の逆順にカーソルが移動します。
3. 選択した矢印に応じて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで作業機幅を設定します。
   - 上矢印を選択中、ダイヤルを押すと作業機幅が+1 cm され、長押しをすると作業機幅が繰り返し+10 cm されます。さらに長押しを継続すると+100 cm されます。
   - 下矢印を選択中、ダイヤルを押すと作業機幅が-1 cm され、長押しをすると作業機幅が繰り返し-10 cm されます。さらに長押しを継続すると-100 cm されます。



(1) 作業機幅のメータ表示　　*(3)* 下矢印
(2) 上矢印

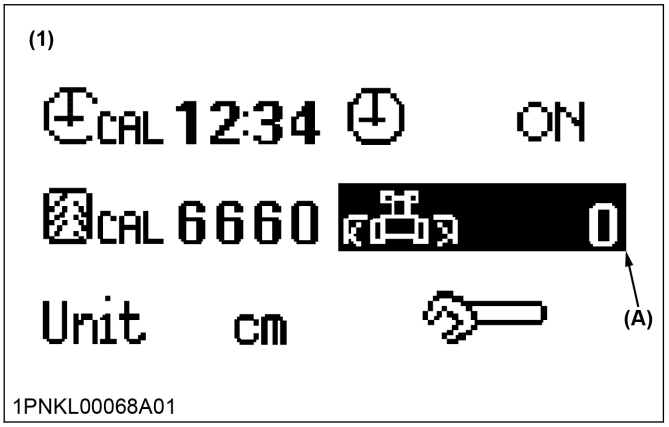
補足：
- **作業機幅のメータ表示について、表示されている作業機幅が 4999 cm を超えると 0 cm となり、0 cm を超えると 4999 cm になります。**

4. 任意の数値を入力後、**[set]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。ユーザ設定画面上の作業機幅が更新されます。

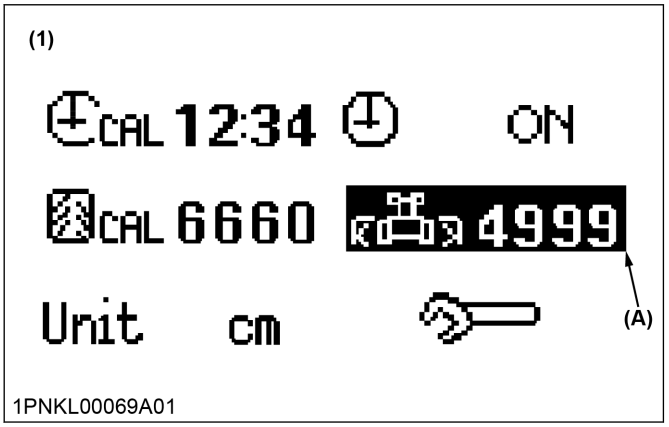


(1) ユーザ設定画面　　*(2)* 作業機幅

補足：
- **作業機幅の設定可能範囲について、作業機幅の設定限界はメータ表示の範囲と同じく下限が 0 cm で上限が 4999 cm です。**



(1) ユーザ設定画面　　*(A)* 下限設定

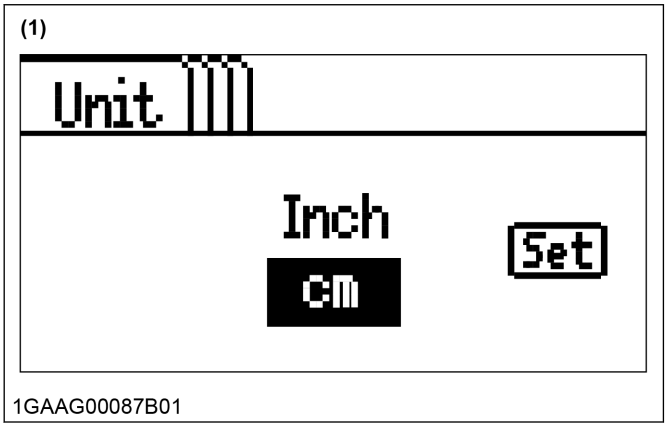


(1) ユーザ設定画面　　*(A)* 上限設定

- **設定途中で戻るスイッチを押すと、“作業機幅設定”を中断しユーザ設定画面へ戻ります。**

12.3.6 単位設定

1. ユーザ設定画面から“単位設定”にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。

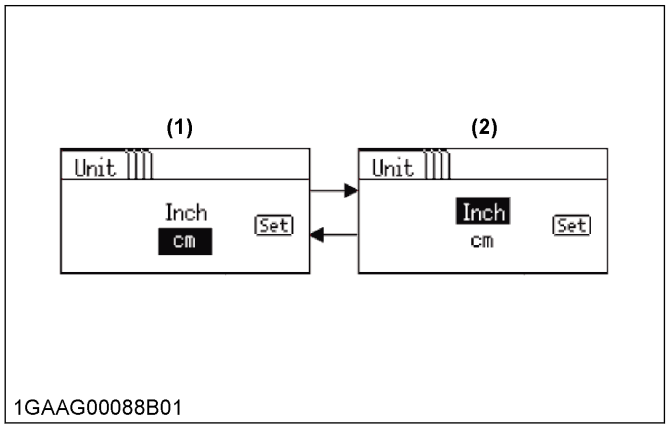


(1) 単位設定画面

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで単位を選択します。
ダイヤルを左右に回転すると表示中の単位が切り替わります。

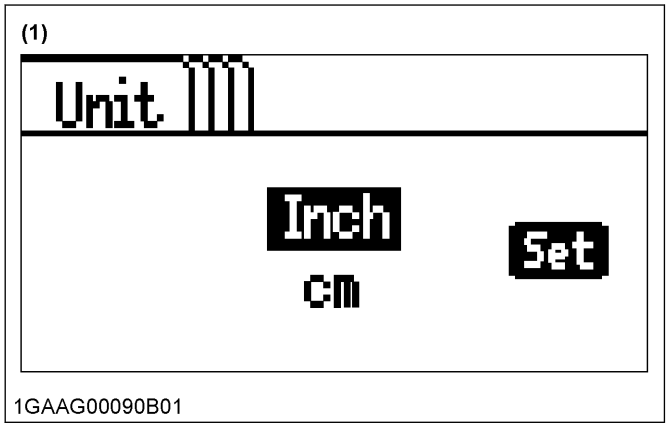
[Inch]
ユーザ設定画面および通常画面の単位をヤード・ポンド法で表示。

[cm]
ユーザ設定画面および通常画面の単位を国際単位系（SI）で表示。



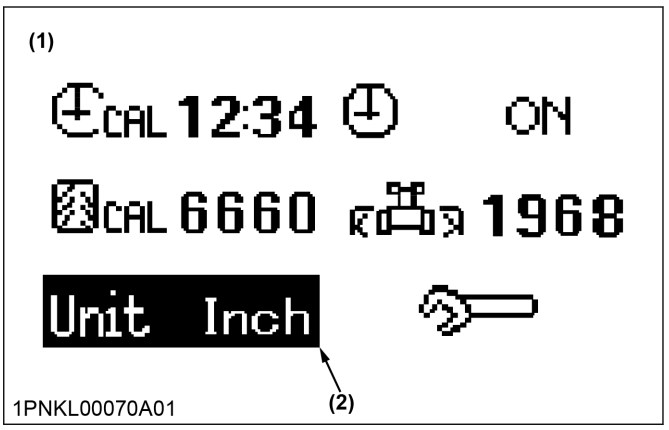
(1) 国際単位系（*SI*）表示選択　*(2)* ヤード・ポンド法表示選択

3. **[set]**にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。



(1) 単位設定画面

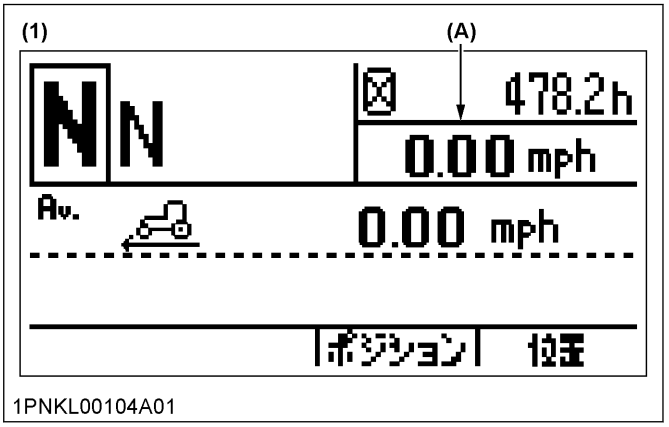
ユーザ設定画面上の単位が更新されます。
[Inch]に切り替えていた場合、ユーザ設定画面上の単位表示も**[Inch]**になります。



(1) ユーザ設定画面　*(2)* 単位表示

補足：
- **設定途中で戻るスイッチを押すと、“単位設定”を中断しユーザ設定画面へ戻ります。**

[Inch]選択時は、キーを**[切]**にしてから**[入]**にして通常画面に戻ると車速表示の単位がヤード・ポンド法の**[mph]**になっています。



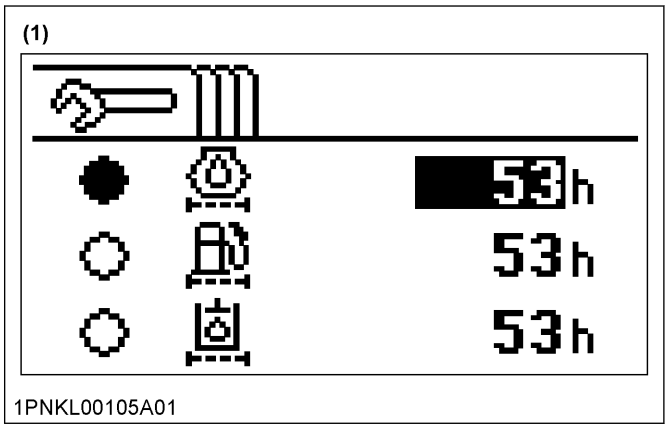
(1) 通常画面　*(A)* ヤード・ポンド法表示

4. もとの単位表示に変更するときは、単位設定画面で**[cm]**に切り替えて**[set]**にカーソルを合わせて、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。

12.3.7 メンテナンス設定

メンテナンス設定画面では特定の定期点検項目についてメンテナンスが必要か確認できます。項目ごとに本トラクタの使用時間を積算し、インターバル時間に達した項目は時間表示が反転表示します。反転表示した項目はメンテナンスした後、時間表示をリセットしてください。
メンテナンス設定画面での操作は次のとおりです。

1. ユーザ設定画面から“メンテナンス”にカーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押し、設定画面を表示します。



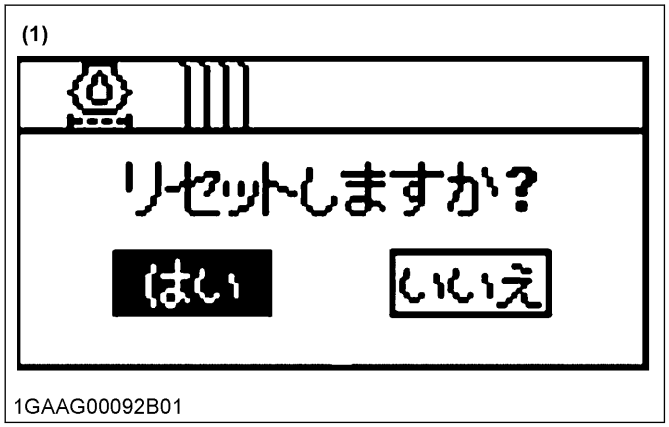
(1) メンテナンス設定画面

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソルを合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、● が表示された選択行が下に移動します。最終の項目を選択しているときにダイヤルを右回転すると最初の項目に戻ります。
   - ダイヤルを左に回転すると、● が表示された選択行が上に移動します。最初の項目を選択しているときにダイヤルを左回転すると最後の項目に戻ります。

   選択したメンテナンス項目の時間表示をリセットできます。各メンテナンス項目とアイコンの対応は次表のとおりです。
   また、ならし運転 50 時間後に初回のメンテナンスが必要な項目があります。

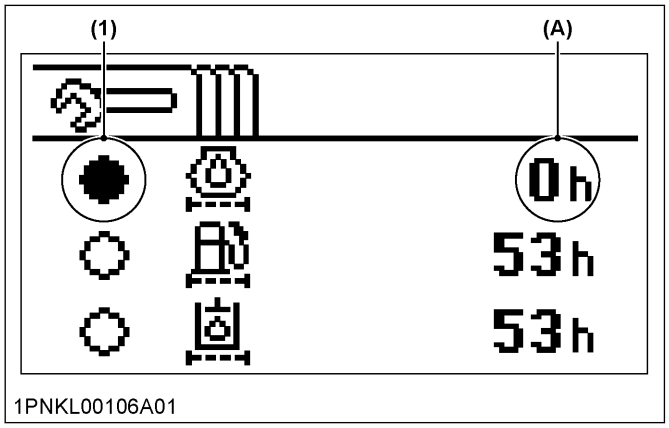
No.	アイコン	項目名称	初回メンテナンス時間（h）	インターバル時間（h）	参照ページ
1		エンジンオイルフィルタ	50	400	208
2		燃料フィルタ	–	400	208
3		油圧オイルフィルタ	50	200	202
4	1	ミッションオイル	50	600	209
5	2	前車軸ケースオイル	50	600	209
6		タイヤ取付ボルトの締付	–	50	197
7		オイルセパレータエレメント	–	1500	210
8		エンジンオイル	50	400	207

3. リセットしたい項目を選択し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   リセット実行確認が表示されます。



(1) メンテナンス設定画面

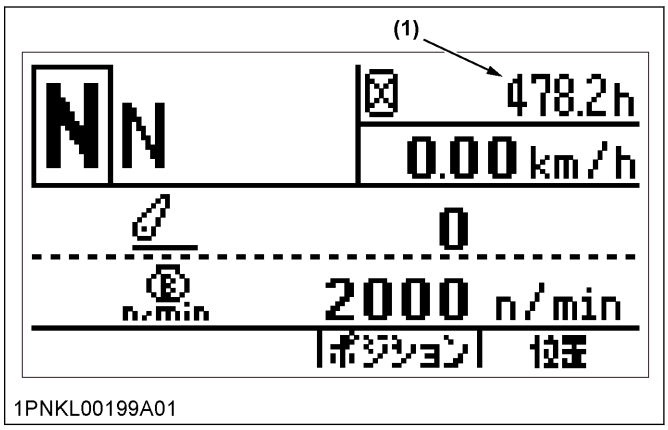
- **[いいえ]**を選択状態（反転表示）、あるいは戻るスイッチを押すと、リセットせずにもとのメンテナンス設定画面に戻ります。
- **[はい]**を選択状態で電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押すと、メンテナンス設定画面に戻り、リセットを実行した項目の時間表示が**[0h]**になります。



(1) 選択行 *(A)* リセット

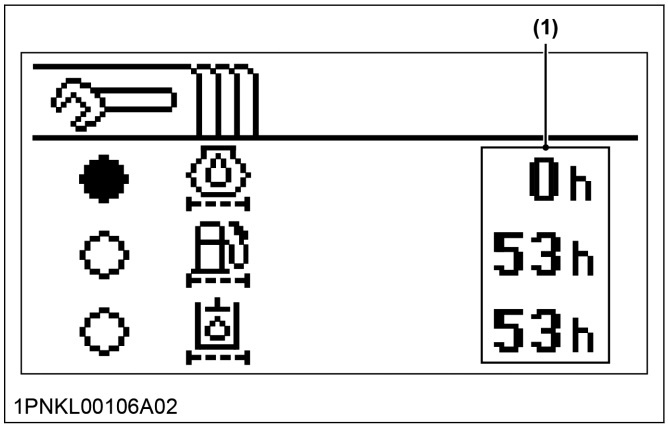
補足：

- **メンテナンス項目の時間表示はリセットした後、再びインターバル時間に達すると反転表示します。**
- **エンジンオイルがインターバル時間に達している場合のみ、キーを[入]位置にした直後にエンジンオイル交換を促すメッセージが画面に表示されます。**
  （詳細はメンテナンス表示メッセージの一時解除（86 ページ）を参照）
  その他の項目については点検を促すメッセージが表示されません。
- **アワメータがインターバル時間に達しても、メンテナンス項目の時間表示がインターバル時間に達しない限り、時間表示は反転表示しません。**



1PNKL00199A01

(1) アワメータ



1PNKL00106A02

(1) メンテナンス項目の時間表示

12.3.8 盗難防止設定

盗難防止の設定については、エンジン始動セキュリティ機能（90 ページ）を参照してください。

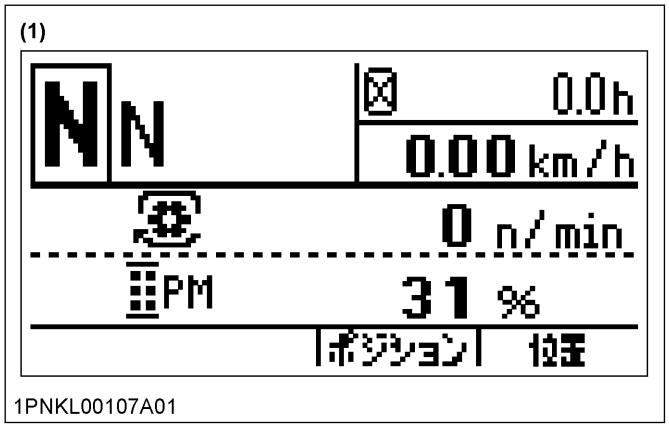
12.4 パフォーマンスモニタ

パフォーマンスモニタは各種パフォーマンス値を任意に選択して通常画面に表示する機能です。

12.4.1 パフォーマンス項目の選択

通常画面の操作

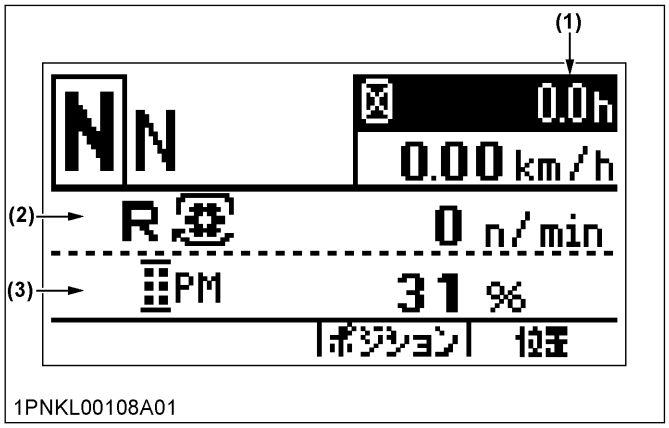
1. キーを**[切]**にし駐車ブレーキを掛けます。副変速を**[N]**位置、シャトルレバーを“中立”位置にします。
2. HOME / MENU スイッチや戻るスイッチを押さずにキーを**[入]**にし電子メータを起動します。



1PNKL00107A01

(1) 通常画面

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   画面上にカーソル（反転表示）が表示されます。
4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、設定したい項目にカーソルを合わせます。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソルが“アワメータ”→“パフォーマンスモニタ上段項目”→“パフォーマンスモニタ下段項目”→“アワメータ”と移動します。
   - ダイヤルを左に回転すると、カーソルが右回転と逆順に移動します。



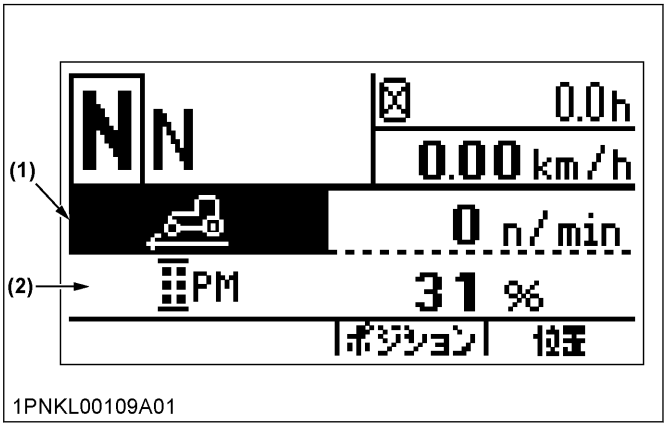
1PNKL00108A01

(1) アワメータ
(2) パフォーマンスモニタ上段項目
(3) パフォーマンスモニタ下段項目

カーソルは戻るスイッチを押すか約 1 分間無操作状態を維持すると解除されます。

パフォーマンス選択画面への移動

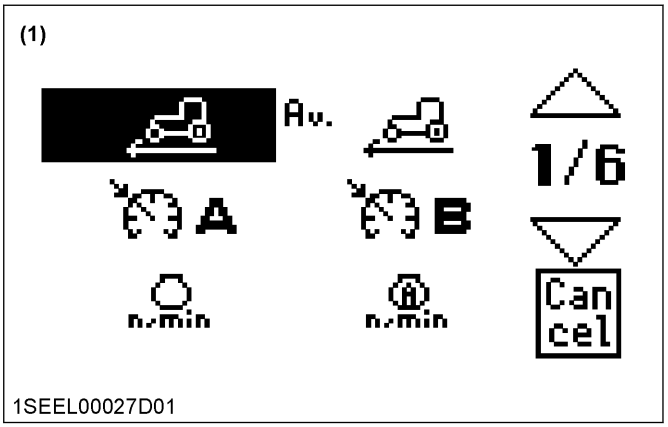
1. “パフォーマンスモニタ上段項目”または“パフォーマンスモニタ下段項目”の設定したい項目位置にカーソルを動かします。



1PNKL00109A01

(1) パフォーマンスモニタ上段項目　*(2)* パフォーマンスモニタ下段項目

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   パフォーマンス選択の画面に移動します。

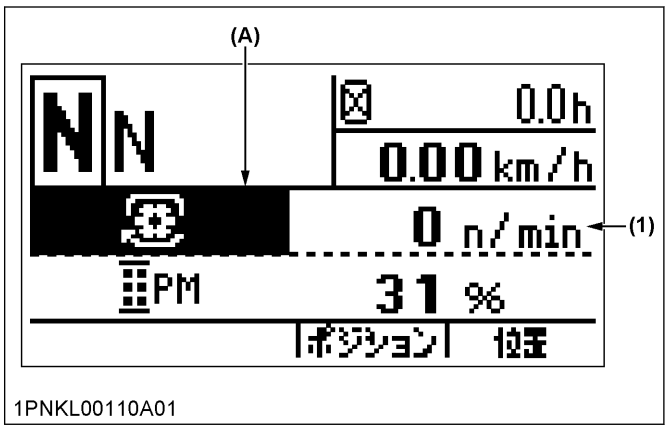


1SEEL00027D01

(1) パフォーマンス選択画面

重要：

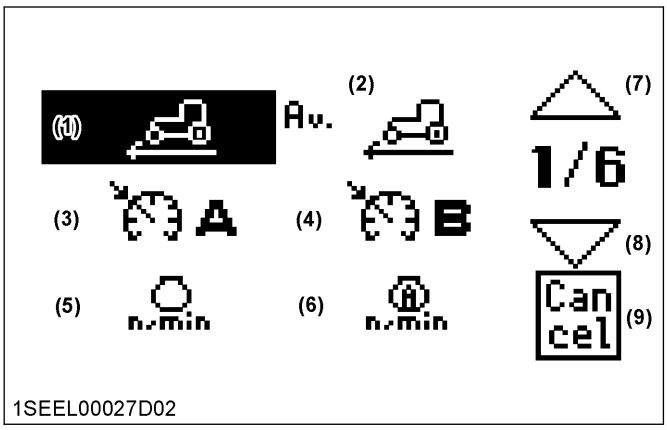
- **パフォーマンス選択画面への移動の不可条件として、駐車ブレーキが[切]かシャトルレバーを[F]位置に動かした状態だと、パフォーマンスモニタの上段または下段項目を選択して電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押しても、ブザーが 2 回鳴りパフォーマンス選択の画面へ移動しません。**



1PNKL00110A01

(1) パフォーマンスモニタ上段項目　*(A)* カーソル位置

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルでアイコンを選択します。
   - ダイヤルを右に回転すると、カーソル位置が“車速”→“平均車速”→“クルーズ車速 *A* 設定”→…→“*Cancel*”→“車速”と図の番号順に移動します。ただし“車速”～“回転メモリ *A* 設定”のうち、アイコン非表示箇所はスキップします。
   - ダイヤルを左に回転すると、右回転の逆順にカーソルが移動します。



1SEEL00027D02

(1) 車速
(2) 平均車速
(3) クルーズ車速 *A* 設定
(4) クルーズ車速 *B* 設定
(5) エンジン回転数
(6) 回転メモリ *A* 設定
(7) 上矢印
(8) 下矢印
(9) *Cancel*

4. 次のページに遷移するときは、カーソルを上矢印または下矢印の位置に動かします。
   - 上矢印の位置で電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押すと、アイコンの一覧とページ番号が切り替わります。ページは**[6/6]**→**[5/6]**→…**[1/6]**→**[6/6]**と移動します。
   - 下矢印の位置で電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押すと、アイコンの一覧とページ番号が切り替わります。ページは**[1/6]**→**[2/6]**→…**[6/6]**→**[1/6]**と移動します。
5. 通常画面に戻るときは、駐車ブレーキを**[切]**にするか、シャトルレバーを**[F]**位置に動かします。
   ブザーが 2 回鳴り通常画面へ移行します。

12.4.2 パフォーマンス項目一覧

パフォーマンス選択の画面ページを切り替えたとき、それぞれのページで表のパフォーマンス項目のアイコンが表示されています。各ページのアイコンを選択するときは、No.順にカーソルが移動します。

ページ	No.	アイコン	項目名称	備考
1	1		車速	• 平均車速は前回リセット時からの平均車速です。 **補足：** • **車輪スリップ時の表示車速は実際の車速とは異なります。**
	2		平均車速	
	3		クルーズ車速 A 設定	
	4		クルーズ車速 B 設定	
	5		エンジン回転数	
	6		回転メモリ A 設定	
2	7		回転メモリ B 設定	

（次へ続く）

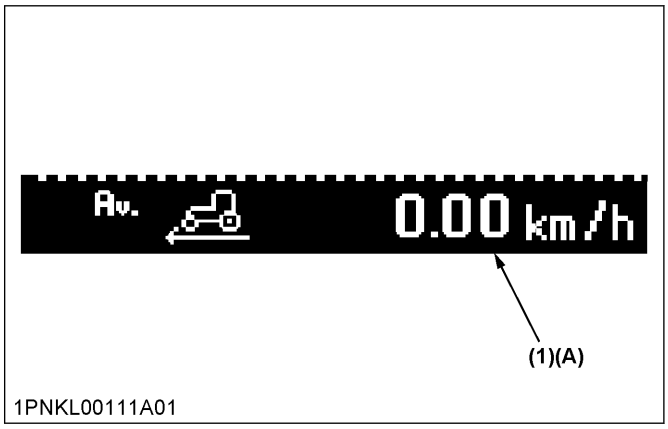
ページ	No.	アイコン	項目名称	備考
2	8	n/min	上限設定回転数	
	9	POWER	瞬間負荷率	• 平均負荷率は前回リセット時からの負荷率の平均値です。 • 瞬間負荷率グラフは瞬間負荷率をリアルタイムにグラフィック表示します。グラフは右に伸びるほど高負荷です。
	10	POWER	瞬間負荷率グラフ	
	11	Av. POWER	平均負荷率	
	12		PTO 回転数	
3	13		瞬間燃費	燃費は 1 時間当りの燃料消費量です。 • 平均燃費は前回リセット時からの 1 時間当たりの燃料消費量の平均値です。 • 燃費グラフは燃費をリアルタイムにグラフィック表示します。グラフは右に伸びるほど燃費が悪くなります。
	14		燃費グラフ	
	15	Av.	平均燃費	
	16		総燃料消費量	• 総燃料消費量は前回リセット時からの総燃料消費量を表示します。 • 表示できる最大値は 999 L です。
	17		瞬間作業面積燃費	• 平均作業面積燃費は前回リセット時からの作業面積当たりの平均燃費です。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしてください。未設定の場合、正しく表示されません。
	18	Av.	平均作業面積燃費	
4	19		瞬間作業距離燃費	• 平均作業距離燃費は前回リセット時からの使用燃料当たりの平均作業距離です。
	20	Av.	平均作業距離燃費	
	21		瞬間作業面積効率	• 平均作業面積効率は前回リセット時からの時間当たりの平均作業面積です。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしてください。未設定の場合、正しく表示されません。
	22	Av.	平均作業面積効率	
	23		作業面積	• 前回リセット時からの作業面積を表示します。 • 各種設定モードで作業機幅をセットしてください。未設定の場合、正しく表示されません。
	24		DPF 温度	• DPF マフラの温度を表示します。
5	25	PM	PM 堆積量	• DPF マフラ内の PM 堆積量を表示します。 • 100 %に達すると再生が必要です。 • グラフは右に伸びるほど PM が堆積しています。
	26	PM	PM 堆積量グラフ	
	27		移動距離	• 前回リセット時からの移動距離を表示します。
	28	ODO	積算距離計（オドメータ）	

（次へ続く）

ページ	No.	アイコン	項目名称	備考
5	29	M	距離測定	• 距離測定機能の操作（83 ページ）を参照してください。
	30		3P 高さ	
6	31		充電電圧	
	32	GPS	車速（GPS）	
	33		スリップ率	• 平均スリップ率は前回リセット時からの平均スリップ率を表示します。
	34	Av.	平均スリップ率	
	35		ブランク	• パフォーマンス項目を非表示にしたい場合選択します。

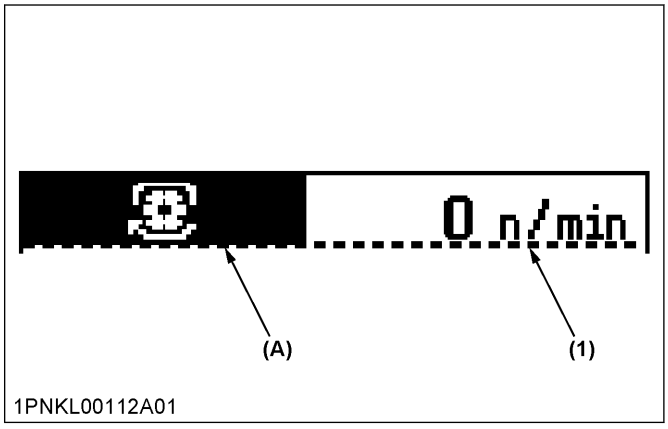
12.4.3 パフォーマンス項目のデータリセット

- データリセット可能な項目の場合は行全体が点滅表示されます。



(1) パフォーマンス項目　　*(A)* データリセット可能

- データリセット不可能な項目の場合はアイコン部分のみ点滅表示されます。



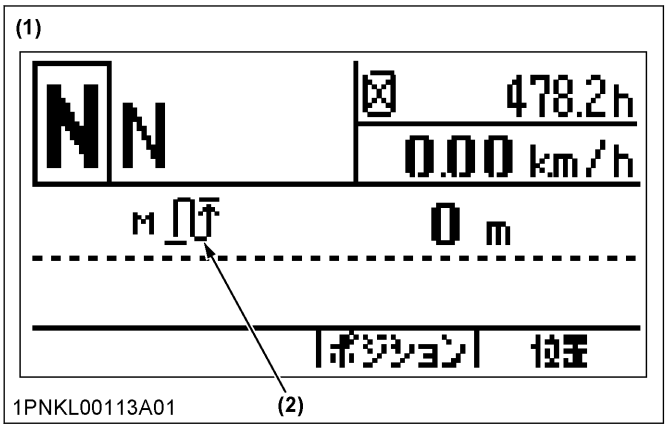
(1) パフォーマンス項目　　*(A)* データリセット不可能

- カーソルを合わせて電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押すと、データリセット可能な項目の場合はブザー音とともに表示データがリセットされカーソル表示が解除されます。
- データリセット不可能な項目の場合は長押ししてもデータリセットされません。

12.4.4 距離測定機能の操作

距離測定機能の表示

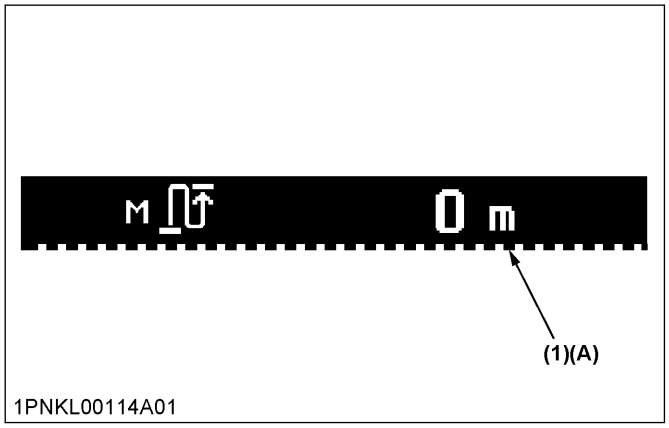
1. 通常画面を表示しパフォーマンス表示で電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
2. パフォーマンス選択の画面 5 ページ目の“距離測定”をカーソル選択し電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   通常画面に移動し距離測定アイコンが表示されます。



(1) 通常画面　　*(2)* 距離測定のアイコン

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを右回転して距離測定機能を選択します。
   距離測定機能の行全体が点滅表示します。
4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを右回転して距離測定機能の選択を確定します。

距離測定機能の行全体が反転表示固定になります。この状態では無操作状態が 1 分以上経っても反転表示が解除されません。

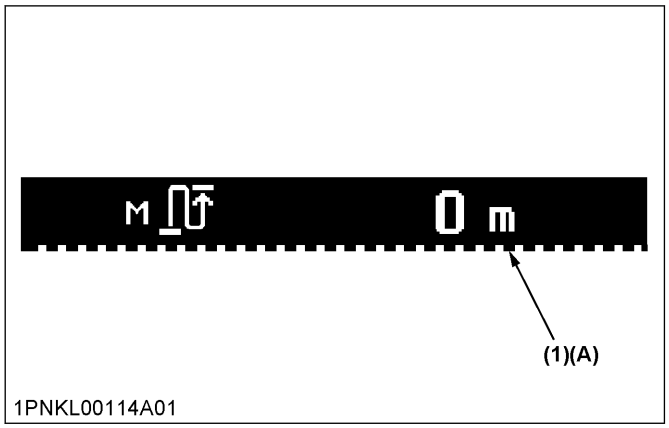


(1) 距離測定機能の行 *(A)* 反転表示固定

さらに電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを右回転すると、別の項目へカーソルが移動します。

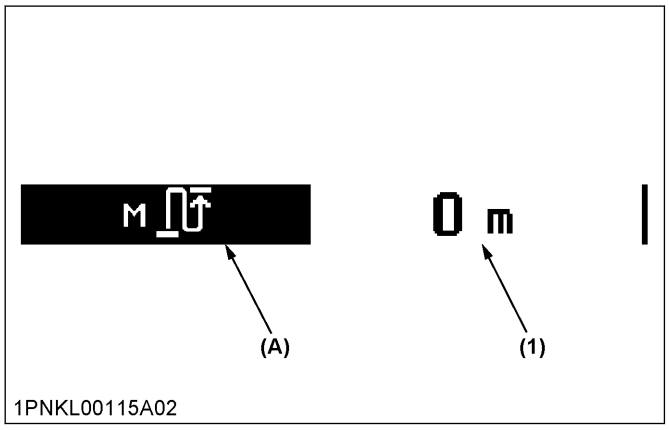
距離測定のスタート、ストップ

1. カーソルを動かして距離測定の行を反転表示に固定します。



(1) 距離測定機能の行 *(A)* 行全体反転

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   距離測定機能の表示が変化しアイコンのみ反転表示固定になります。

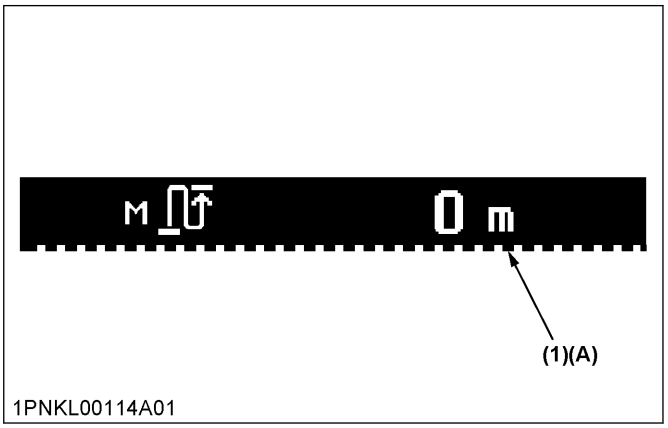


(1) 距離測定機能の行 *(A)* アイコンのみ反転

3. トラクタを走行します。
   測定距離がカウントされます。
4. カウントを止める場合は電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   距離測定の行全体が反転表示固定となり、走行してもカウントされません。
   ダイヤルを左回転しても距離測定を止めることができます。その場合は距離測定の行全体が点滅表示になります。

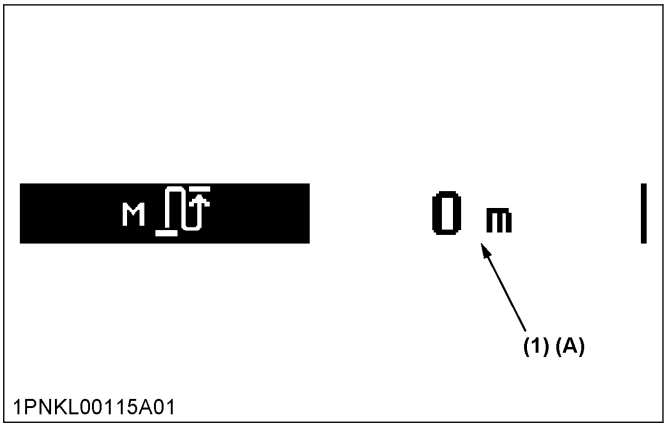
測定値のリセット

1. カーソルを表示、移動させ距離測定機能の行を点滅表示にします。



(1) 距離測定機能の行 *(A)* 行全体点滅

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを長押しします。
   ブザー音が鳴り表示データがリセットされます。
   距離測定機能の行が反転表示で固定になっている場合も同様の操作で表示データをリセットできます。反転表示状態はそのまま維持されます。



(1) 距離測定機能の行 *(A)* 表示データリセット

12.4.5 パフォーマンスモニタ表示項目の重複抑止

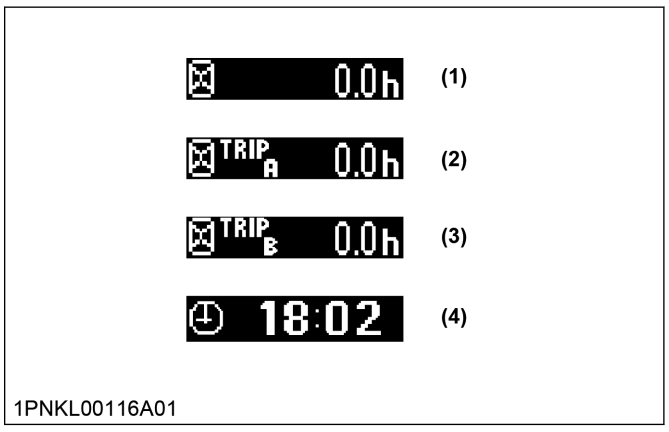
パフォーマンス項目は上下段で同じ項目を選択できません。

12.5 アワメータ、トリップ、時計表示

通常画面の右上はアワメータ、トリップ A、トリップ B、時計表示の切替えが可能です。

表示の切替え

1. 通常画面表示時に電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   *"アワメータ"*にカーソルが表示（点滅表示）します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
   *"アワメータ"*が反転表示で固定されます。
3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで項目を選択します。
   - ダイヤルを右に回転すると、*"アワメータ"*→*"トリップ A"*→*"トリップ B"*→*"時計"*→*"アワメータ"*の順に変化します。
   - ダイヤルを左に回転すると、右回転の逆順で表示が変化します。



(1) アワメータ
(2) トリップ *A*
(3) トリップ *B*
(4) 時計

4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押して表示を決定します。

トリップのリセット操作

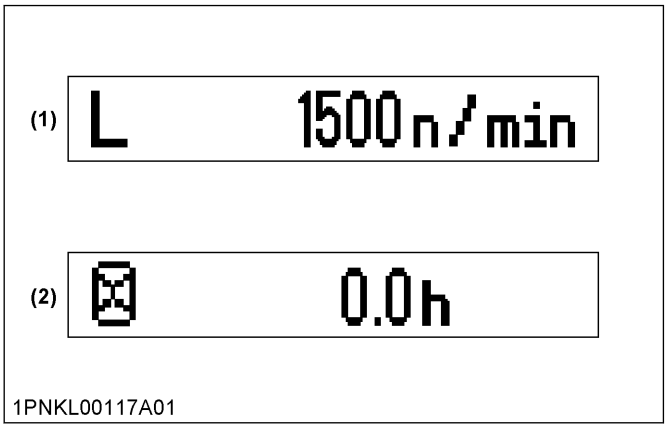
"トリップ A"、*"トリップ B"*数値をリセットできます。
*"トリップ A"*の例で説明します。

1. 通常画面表示時に*"トリップ A"*を表示させ、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを押します。
2. *"トリップ A"*が点滅している状態で電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを長押します。
   カーソル選択が解除され*"トリップ A"*の数値がリセットされます。
   *"トリップ B"*も同様の手順で数値をリセットできます。

12.6 エンジン回転上限設定、エンジン回転メモリ設定の一時解除

エンジン回転上限の設定中やメモリ回転の動作中にアワメータを表示することができます。
例として、エンジン回転上限設定を 1500 n/min に設定する場合を説明します。

1. エンジンアイドル状態にし通常画面を表示します。
2. メニュー画面でエンジン回転上限設定を 1500 n/min に設定します。
   （エンジン回転上限設定（94 ページ）を参照）
3. 戻るスイッチを押します。
   回転数表示が解除されて通常のアワメータ部表示に戻ります。



(1) エンジン回転上限　　*(2)* アワメータ

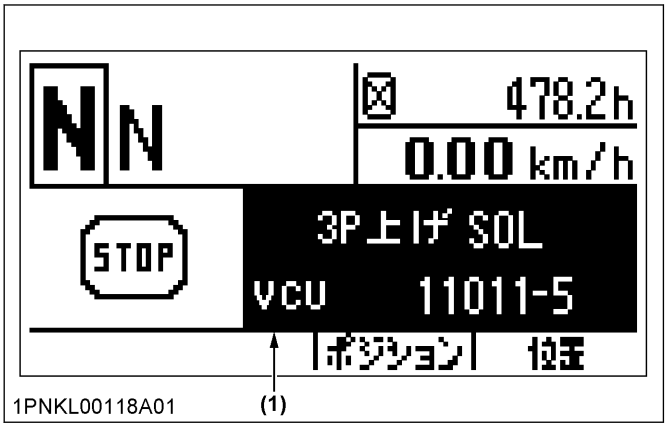
戻るスイッチを押すか 5 秒待機状態を維持すると再度回転数が表示します。

12.7 故障、メンテナンス情報表示

故障情報や警告メッセージがある場合、パフォーマンスモニタの代わりに表示されます。
故障情報は、戻るスイッチを押すことで一時的に表示を解除して、通常のパフォーマンスモニタやメニュー画面に切り替えられます。

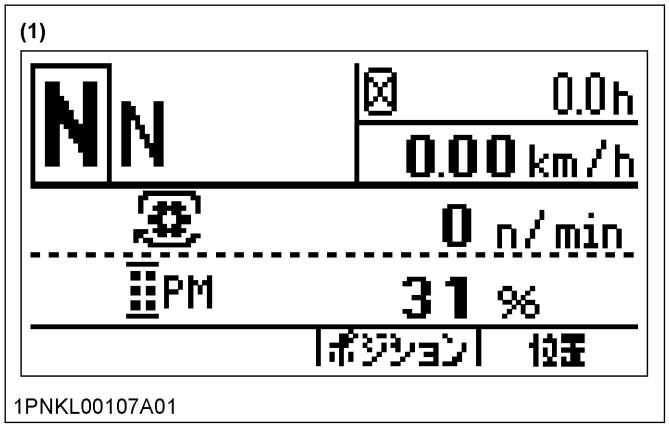
12.7.1 故障メッセージの一時解除

いずれかの故障が発生しているとき、故障メッセージが表示されます。
（傾き自動、耕深制御、ドラフト、レーザ、AD、倍速、トランスミッションの故障と処置（224 ページ）を参照）



(1) 故障メッセージ

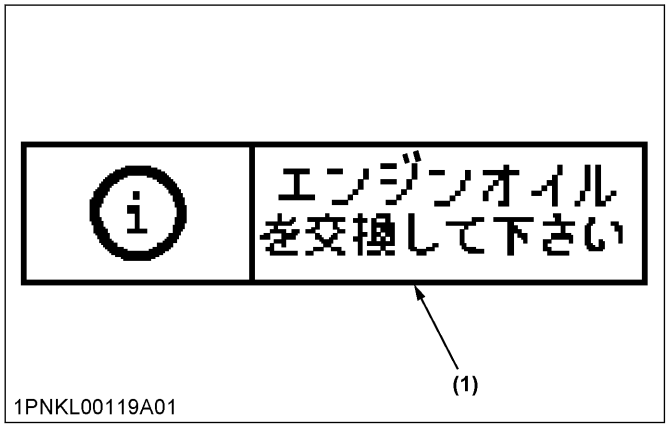
1. 戻るスイッチを押します。
   故障メッセージ表示が一時解除され通常画面が表示されます。



(1) 通常画面

12.7.2 メンテナンス表示メッセージの一時解除

メンテナンス設定画面でエンジンオイルの時間表示がインターバル時間に達している場合、キーを**[入]**位置にした直後に交換を促すメッセージが表示されます。
（エンジンオイルの交換（207 ページ）を参照）



(1) メンテナンス表示メッセージ

1. 戻るスイッチを押します。
   メッセージが消えます。
   メッセージ表示から 5 秒経過した場合もメッセージが消えます。
   表示されていたメッセージはキーを**[入]**にしたときに再度表示されます。

補足：
- **交換を促すメッセージが表示されるのはエンジンオイルのみです。**
- **メンテナンス設定画面でエンジンオイルの時間表示をリセットするまで、メッセージは再表示されます。**
  （詳細はメンテナンス設定（77 ページ）を参照）

12.8 燃費計の活用方法

パフォーマンスモニタの燃費に関する各項目は、次のように活用できます。

瞬間燃費
- アクセル回転数、速度段、PTO 速度段など作業条件を変更し、瞬間的な燃費を確認することで、より省燃費な作業条件を選択できます。
- アクセルワークなど作動内容による燃費の差を確認することで、より省燃費な運転のしかたを把握できます。

平均燃費
- 1 シーズン、1 日、1 つのほ場、給油時などの決めた間隔で平均的な燃費を把握できます。

総燃料消費量
- 1 シーズン、1 日、1 つのほ場で使用した燃料消費量を把握できます。

12.9 車速係数の入力

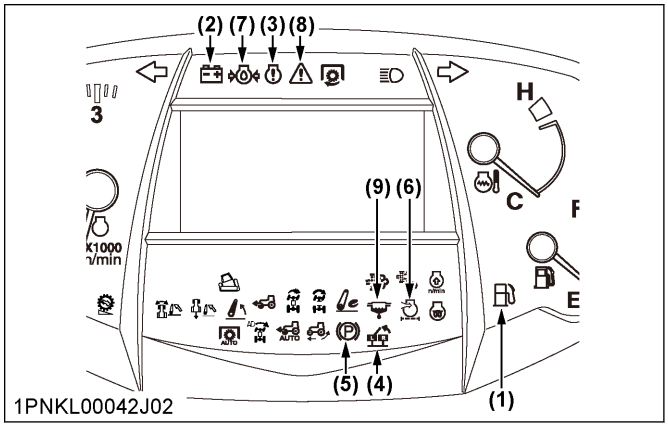
サイズが異なるオプション採用のタイヤに交換した場合、スピードが正しく表示されません。次表を参考にタイヤ外周長を入力してください。

タイヤ外周長一覧表

型式		後輪	
		タイヤサイズ	入力値（周長）mm
GV601H	A	12.4-32	4071
	RC		
	—	12.4-32H	4053
	W	14.9-28H	4196
	R	14.9R28	4074
GV651H	A	12.4-36	4372
	K	13.9-36	4411
	LA	16.9-30	4432
	—	12.4-36H	4357
	L	16.9-30H	4432
	R	340/85R36	4453
	L1R	16.9R30	4417
GV701H	A	12.4-36	4372
	K	13.9-36	4411
	LA	16.9-30	4432
	KK	12.4-38	4504
	S1K	12.4-38RC	4504
	—	12.4-36H	4357
	L	16.9-30H	4432
	R	340/85R36	4453
	L1R	16.9R30	4417
	SKR	12.4R38RC	4477

12.10 イージチェッカ

運転中、次図に示すイージチェッカ内の警告ランプが点灯したときは、速やかにエンジンを止め、点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは購入先にご相談ください。



(1) 燃料残量警告灯
(2) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(3) エンジン異常警告灯
(4) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(5) 駐車ブレーキ警告灯
(6) エアクリーナ目詰まり警告灯
(7) エンジンオイル油圧警告灯
(8) システム異常警告灯
(9) ウォータセパレータ警告灯

燃料残量警告灯

燃料の残量が約 15 L 以下になったときに、点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料を補給してください。

バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）

充電系統に異常があれば、エンジン回転中にランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯

この警告灯は次の 3 つの機能をもっています。もし警告灯が点灯または点滅した場合、次を参考に原因を調べ、適切に処置してください。

- **エンジン、コントロールシステムの異常**
  運転中、水温計の指針が常温範囲内を示しているのにエンジン異常警告灯が点灯した場合、いったんエンジンを止め、再始動してください。それでも警告灯が消灯しない場合は購入先へご相談ください。

  重要：
  警告灯が点灯しているとき、エンジンの故障箇所により次の現象が現れます。
  - **エンジンが突然止まる。**
  - **エンジンが再始動できない、または始動してもすぐ止まる。**
  - **エンジン出力がじゅうぶんでない。**
  - **エンジン出力はじゅうぶんあるが、警告灯が点灯する。**

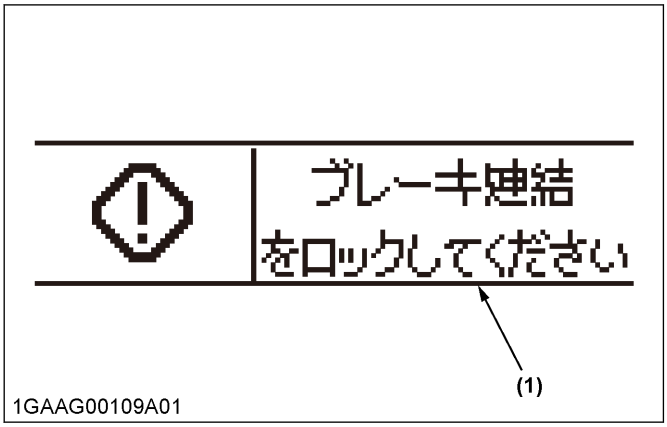
  エンジン出力がじゅうぶんでない場合、直ちに作業を中断し、安全な場所にトラクタを移動させ、エンジンを止めてください。

- **エンジンのオーバーヒート**
  水温計の指針がレッドゾーンを示し、警告灯が点灯した場合、エンジンのオーバーヒートの可能性があります。
  エンジンの不調と処置（223 ページ）を参照し、トラクタを点検してください。
- **PCD（粒子状物質制御診断）警告および NCD（窒素酸化物制御診断）警告**
  運転中、PCD 警告または NCD 警告が発生するとエンジン異常警告灯が早く点滅します。
  その場合、エンジンを停止してから再始動してください。
  再度エンジン異常警告灯が早く点滅した場合は、購入先にご相談ください。

ブレーキ連結ロック解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーが“解除”位置の場合、警告灯が点灯します。
道路走行時など両ブレーキを使用する状況では連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にして、警告灯の消灯を確認してから走行してください。

- **電子メータメッセージ**
  連結解除ペダルロックレバーを上げたまま、車速が 10 km/h を超えるとブザーが 1 回鳴ります。同時に ⚠ システム異常警告灯が点灯し、次のメッセージも表示されます。



(1) 警告メッセージ

駐車ブレーキ警告灯

駐車ブレーキが掛かっているとき、点灯して警告します。
点灯したままのときは、駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

エアクリーナ目詰まり警告灯

フィルタの目詰まりが多くなったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、フィルタの点検、清掃をしてください。
また、充電系統に異常があるときも点灯します。

エンジンオイル油圧警告灯

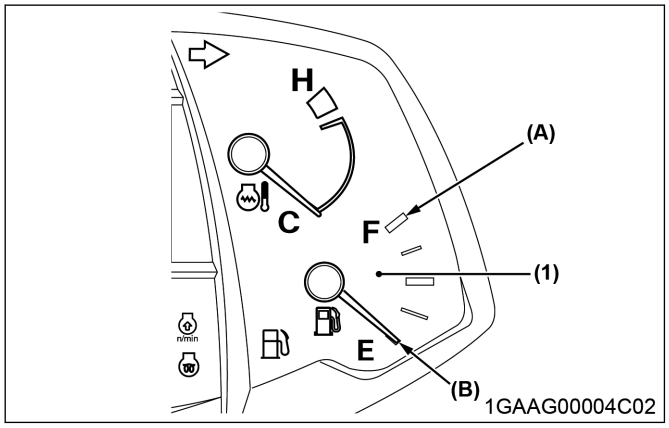
エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。

点灯したままのときは、直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

⚠ システム異常警告灯
エンジン、ミッション、油圧などの制御部品関係に異常が生じるとランプが点滅して警告します。
再始動しても回復しない場合は購入先にご相談ください。

12.11 燃料計

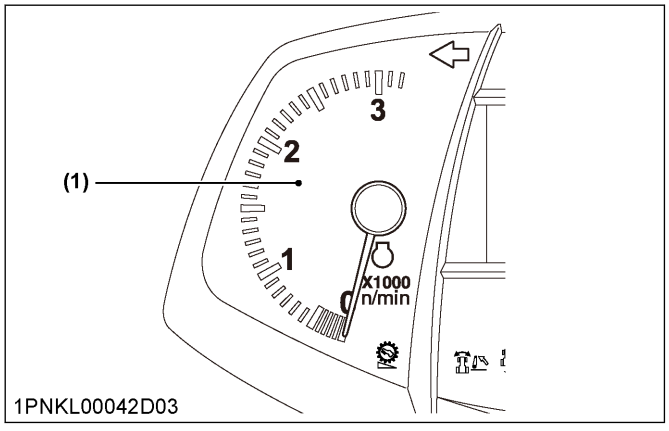
燃料タンクの残量を表示します。
指針が下方向に近づいたら早めに燃料を補給してください。
燃料タンクを空にすると燃料系統に空気が入るので、空気抜きが必要です。
（空気抜きは、燃料の空気抜きのしかた（217 ページ）を参照）



(1) 燃料計　　*(A)* 満タン
(B) 空

12.12 エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を示します。



(1) エンジン回転計

補足：
- **PTO 回転数を確認したいときは、液晶画面のパフォーマンスモニタに表示して確認できます。**
  （パフォーマンス項目の選択（80 ページ）を参照）
- **副変速レバーが[H]位置のとき、エンジン回転上限数は次表の数値となります。**
  また、エンジン回転上限設定で次表の数値より高いエンジン回転数を設定しても、次表の数値が上限となります。
  （詳細は、エンジン回転上限設定（94 ページ）を参照）

トラクタ仕様	エンジン回転上限数
[ホイール仕様]	2600 n/min
[ハーフクローラ仕様]	2300 n/min

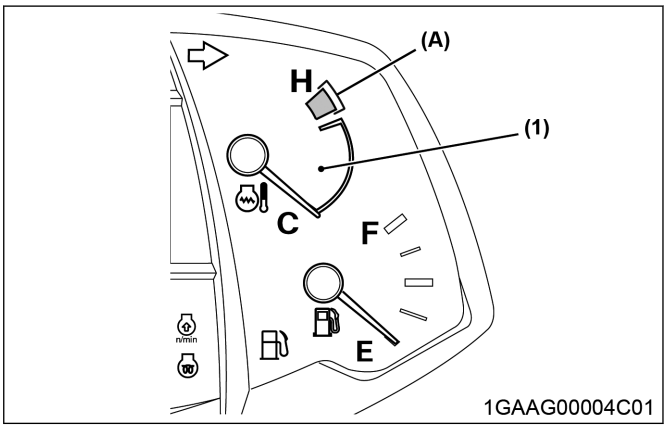
12.13 水温計

冷却水の水温を表示します。

⚠ 警告
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たってじゅうぶんに冷ました後、最初のストップ位置までキャップをゆっくり回して余圧を抜いてからキャップを外してください。**

重要：
- **ラジエータのオーバーフローパイプから蒸気が噴き出たら、オーバーヒートしたときの処置を行ってください。**

指針がレッドゾーンを示すときは、オーバーヒート状態であるため次の説明に従って点検してください。



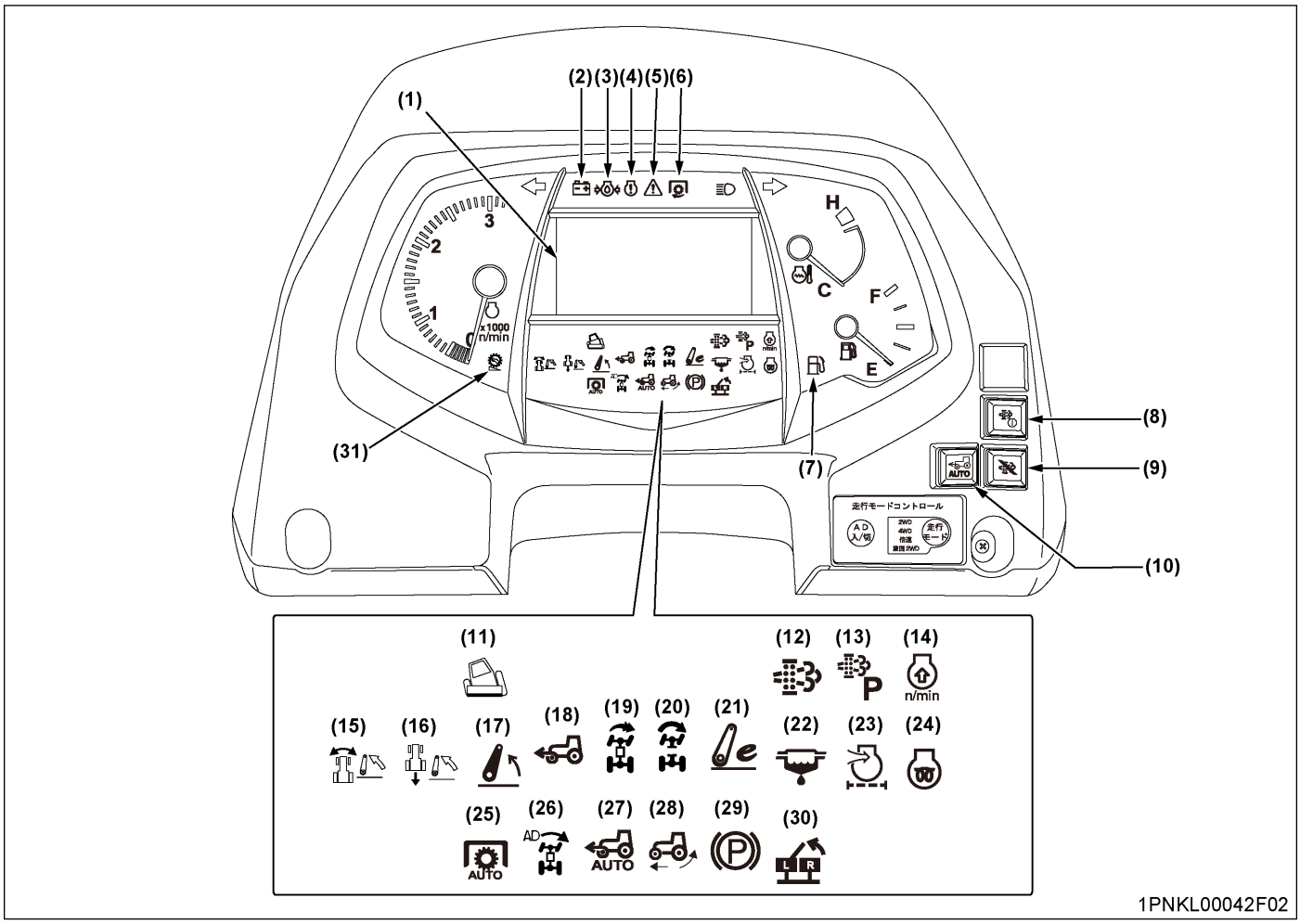
(1) 水温計　　*(A)* レッドゾーン

オーバーヒートしたときの処置
水温計の針がレッドゾーンを示したときは、作業を中止し、エンジンを約 5 分間アイドリング回転にしてからエンジンを停止します。停止後 30 分以上たってじゅうぶんに冷ましてから次の箇所を点検、整備してください。
- リザーブタンク、ラジエータの冷却水の量（不足）、および水漏れが無いか。
- フロントグリル、防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に、泥やごみが付着していないか。
- ファンベルトにゆるみが無いか。

12.14 モニタランプ

重要：
- **ランプに異常があるときは、購入先に点検、整備を依頼してください。**

キースイッチを**[入]**位置にすると、ランプ切れチェックのため次の消灯ランプが約 1 秒間点灯します。
- (6) PTO ランプが点灯し続けているときは、PTO スイッチを**[切]**にしてください。
- (30) ブレーキ連結ロック解除警告灯が点灯し続けているときは、ブレーキペダル連結金具を掛けてください。



(1) 液晶（メッセージ）表示部
(2) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(3) エンジンオイル油圧警告灯
(4) エンジン異常警告灯
(5) システム異常警告灯
(6) *PTO* ランプ
(7) 燃料残量警告灯
(8) 駐車再生スイッチランプ
(9) 再生禁止スイッチランプ
(10) オート *4WD* スイッチランプ
(11) 傾き自動ランプ
(12) 再生状態ランプ
(13) 駐車再生要求ランプ
(14) エンジン回転上げ要求ランプ
(15) 旋回アップランプ
(16) バックアップランプ
(17) クイックアップランプ
(18) *4WD*（*4* 輪駆動）ランプ
(19) 倍速ターンランプ
(20) 旋回 *2WD* ランプ
(21) *e*-アシスト旋回ランプ
(22) ウォータセパレータ警告灯
(23) エアクリーナ目詰まり警告灯
(24) エンジン予熱ランプ
(25) 上昇 *PTO* 停止ランプ
(26) *AD* ランプ
(27) オート *4WD* ランプ
(28) スリップ制御ランプ
(29) 駐車ブレーキ警告灯
(30) ブレーキ連結ロック解除警告灯
(31) アクセル連動灯

補足：
- **各スイッチの状態によりランプ切れチェック後、消灯や点灯のままのランプもあります。**

13. エンジン始動セキュリティ機能

本機能はお客様があらかじめ設定した暗証番号を入力しないとエンジンが始動しないシステムです。トラクタの自走による盗難を抑制する効果があります。

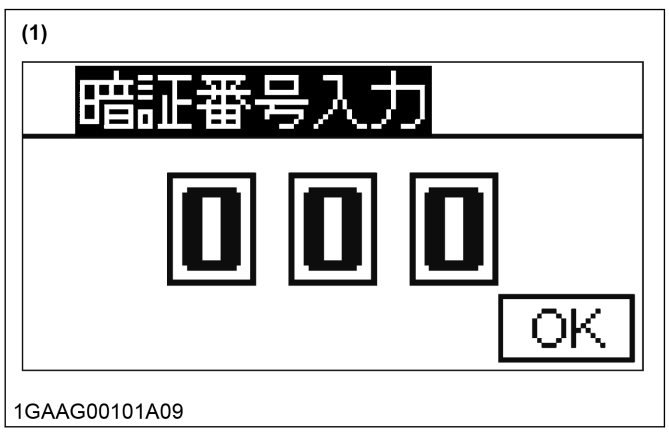
重要：

- **本機能はトラクタ盗難そのものを防止するものではありません。本機能が作動しているにもかかわらず、トラクタ盗難が発生したとしても当社では責任を一切負いかねますのでご了承ください。**
- **本機能は“入”、“切”の切替えが可能です。“切”状態ではトラクタの自走による盗難を抑制する効果はありません。**
- **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動できなくなります。この状態になったり、暗証番号を忘れた場合は、お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。**
- **エンジン始動セキュリティが“入”であっても、暗証番号入力によってエンジン始動セキュリティを解除したあと、キースイッチを[切]位置にしてから 10 分間は本機能が解除状態のままとなり、暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。ただし、バッテリを取り外した場合は 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。**
- **本機能の“入”、“切”を確認する方法は、エンジン始動セキュリティの入、切の切替え（93 ページ）を参照してください。**
- **暗証番号は定期的に変更し、連番など他人から類推されやすい番号を避けるなどの防犯をしていただくと、盗難を抑制するのに効果的です。また暗証番号そのものや、簡単に推測できるものをトラクタに貼り付けるなどの不用心な表示をしないように注意してください。**

操作や設定は電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで行い、暗証番号やメッセージは電子メータの液晶モニタに表示されます。

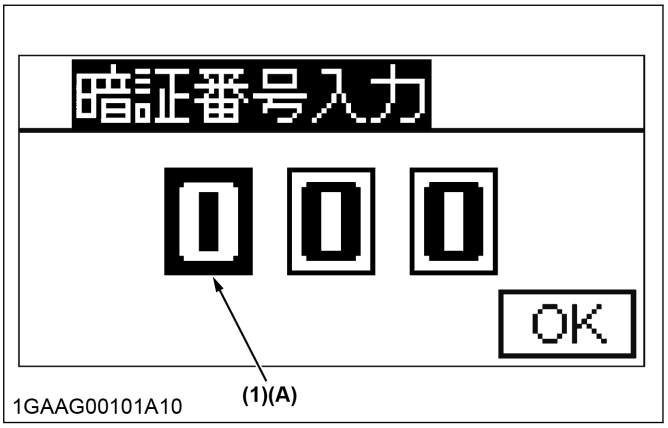
13.1 暗証番号の登録

1. キースイッチを**[入]**位置にします。
   暗証番号入力画面が液晶モニタに表示されます。



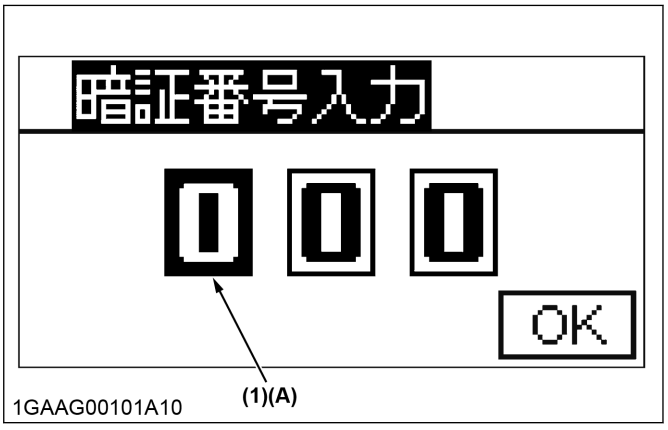
(1) 暗証番号入力画面

2. 暗証番号を 100 の位から順番に入力します。
   なお、暗証番号は 3 桁の数字になります。
   入力は電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してください。
   a. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回転して入力する数字の位に移動します。
      数字にカーソルが合っている（点滅表示中）状態で、ダイヤルを右に回すとカーソルが右の位に移り、左に回すとカーソルが左の位に移ります。



(1) カーソル　　*(A)* 点滅

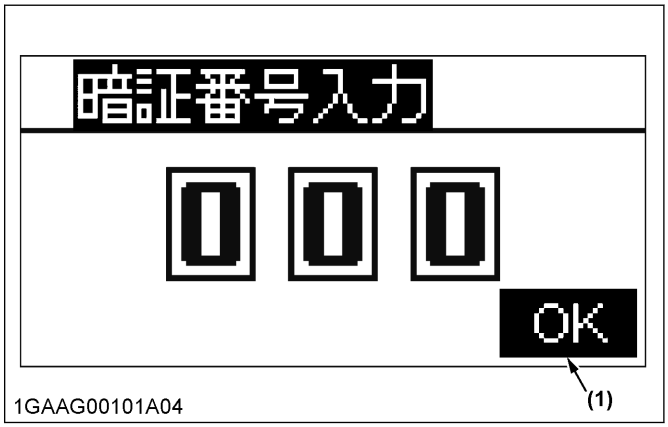
   b. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして入力する数字を選択します。
      選択した数字のカーソルが反転表示になります。
   c. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して数字を変更します。
      ダイヤルを右に回すと数字が 1 繰り上がり、左に回すと 1 繰り下がります。



(1) カーソル　　*(A)* 反転表示

   d. **[OK]**へカーソルを合わせ、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しします。

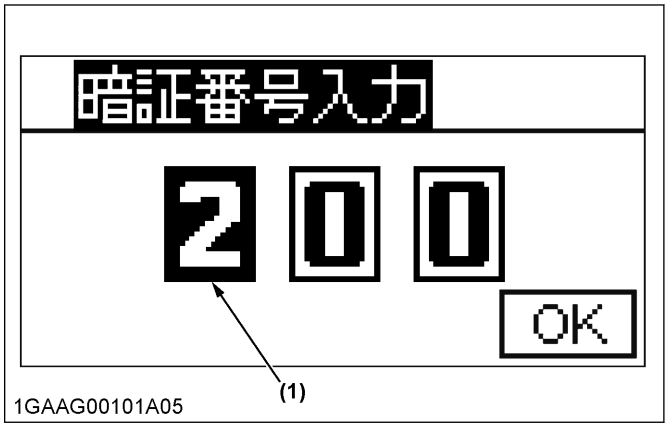
3. 数字の入力が終わったら、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して**[OK]**を選択し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして、暗証番号を確定します。
   1 の位が点滅表示中にダイヤルを右へ回転、または 100 の位が点滅表示中にダイヤルを左へ回転するとカーソルが**[OK]**へ移ります。



(1) OK ボタン

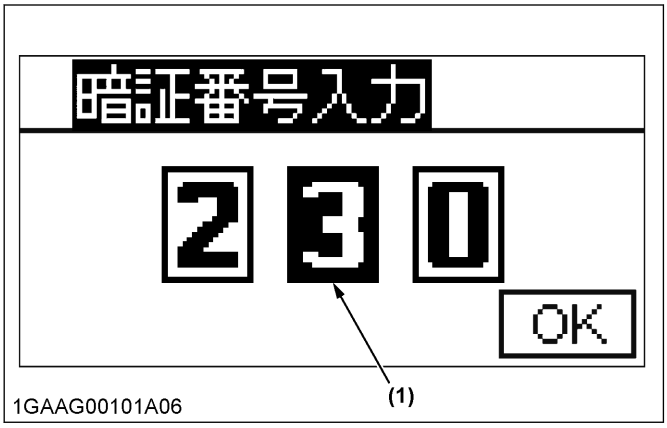
- **（例）暗証番号を「234」に設定**

1. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして 100 の位を点灯表示にします。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して 100 の位に**[2]**を入力します。



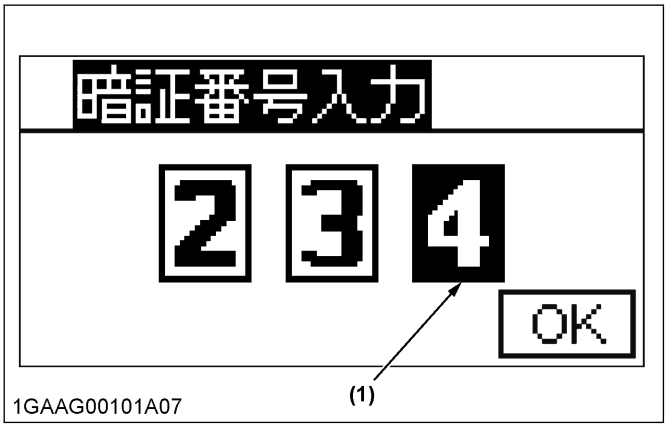
(1) 100 の位

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして 100 の位を点滅表示に戻します。
4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して 10 の位を点滅表示にします。
5. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして 10 の位を点灯表示にします。
6. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して 10 の位に**[3]**を入力します。



(1) 10 の位

7. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして 10 の位を点滅表示に戻します。
8. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して 1 の位を点滅表示にします。
9. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして 1 の位を点灯表示にします。
10. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して 1 の位に**[4]**を入力します。



(1) 1 の位

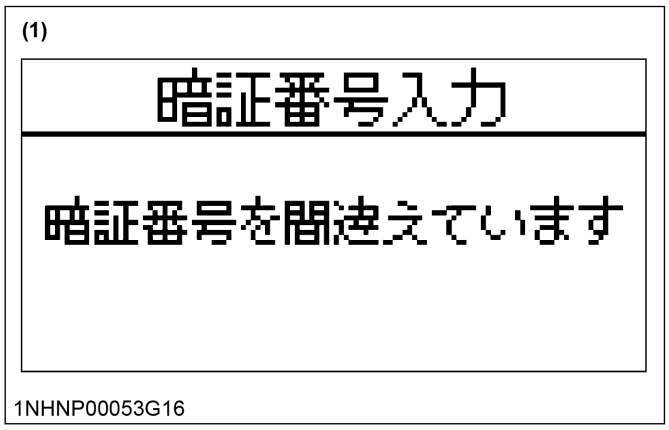
11. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして 1 の位を点滅表示に戻します。
12. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して**[OK]**を点滅表示にします。
13. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しして、暗証番号を確定します。



(1) OK ボタン

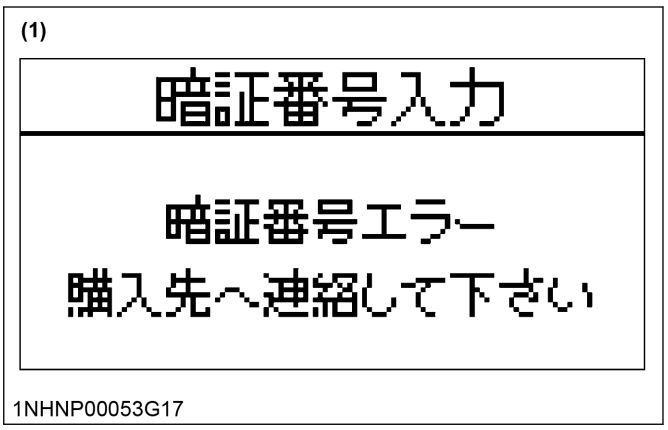
エンジン始動セキュリティを“入”にして、エンジン始動前に暗証番号を入力してください。

- 暗証番号が一致すると、“ピピッ”と音が鳴り、約 2 秒後通常の電子メータ表示となり、エンジンを始動することができます。
- 暗証番号が一致しないと、〝**暗証番号を間違えています**〟と表示され、その後、手順 1 の表示に戻ります（数字は誤入力した数字）。暗証番号が一致するまで手順 2 以降の操作を繰り返してください。



(1) 暗証番号が正しくない場合のメッセージ

なお、暗証番号の入力は連続して 10 回間違えると、暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなり、液晶モニタは〝**暗証番号エラー 購入先へ連絡して下さい**〟と表示されます。この場合お客様では対応できませんので、購入先に連絡してください。



(1) 暗証番号を連続して *10* 回間違った場合のメッセージ

13.2 エンジン始動セキュリティの設定

エンジン始動セキュリティ機能の“入”と“切”は次の状態となります。

“入”の場合

暗証番号を入力しないとエンジンは始動しません。ただし、キースイッチを**[切]**位置にしてから 10 分以内であれば暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。

バッテリを取り外した場合はキースイッチを**[切]**位置にしてから 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。

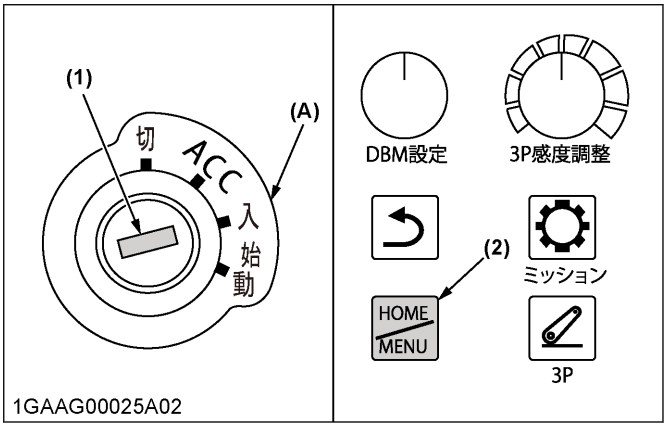
“切”の場合

暗証番号入力を必要とせず、キースイッチを**[入]**位置にしてからすぐにエンジンの始動が可能です。

補足：

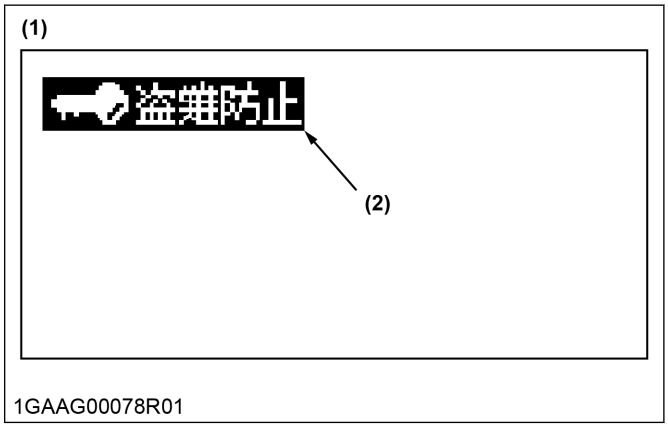
- **工場出荷時、エンジンセキュリティ機能は“切”に設定しています。**

1. 駐車ブレーキを掛け副変速レバーを**[N]**位置、シャトルレバーを“中立”位置にしてキーを**[切]**にします。
2. HOME / MENU スイッチを押しながらキースイッチ**[入]**位置にし、ユーザ設定画面を表示します。



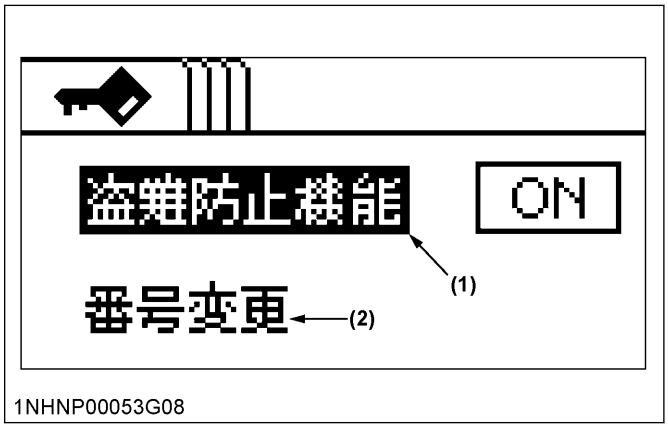
(1) キースイッチ *(A)* 入
(2) HOME / MENU スイッチ

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤル回転で**[盗難防止]**を選択し、ダイヤルを短押しします。



(1) ユーザ設定画面　　*(2)* 盗難防止

液晶モニタにエンジン始動セキュリティの入、切設定とエンジン始動セキュリティの暗証番号設定が表示されます。それぞれ必要に応じて設定してください。

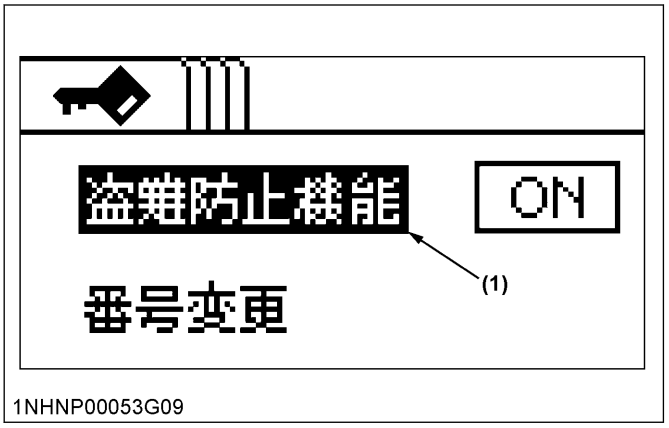


(1) エンジン始動セキュリティの入、切設定　　*(2)* エンジン始動セキュリティの暗証番号設定

4. 設定を終了するときは、キースイッチを**[切]**位置に戻します。

13.3 エンジン始動セキュリティの入、切の切替え

1. HOME / MENU スイッチを押しながらキースイッチ**[入]**位置にし、ユーザ設定画面を表示します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回転して、エンジン始動セキュリティの入、切設定である**[盗難防止機能]**にカーソルを合わせて（反転表示させて）から、ダイヤルを長押しします。



(1) 盗難防止機能

暗証番号の入力画面が表示されます。

3. 暗証番号を入力します。
（詳細は、暗証番号の登録（90 ページ）を参照）

補足：
- **出荷時の暗証番号は[000]です。**



(1) 暗証番号の入力画面

暗証番号が一致すると、約 2 秒後にエンジン始動セキュリティの入、切設定画面が表示されます。



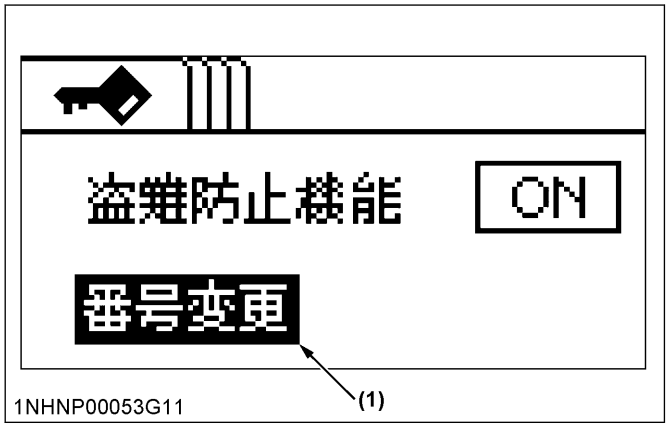
(1) エンジン始動セキュリティの入、切設定画面

4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回転して**[ON]**または**[OFF]**にカーソルを合わせます。

5. エンジン始動セキュリティの画面に戻るときは、ダイヤルを長押しします。
   約 2 秒後に戻ります。

13.4 暗証番号の変更

1. HOME / MENU スイッチを押しながらキースイッチ**[入]**位置にし、ユーザ設定画面を表示します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回転して、エンジン始動セキュリティの暗証番号設定である**[番号変更]**をカーソルを合わせて（反転表示させて）から、ダイヤルを長押しします。



(1) エンジン始動セキュリティの暗証番号設定

旧暗証番号の入力画面が表示されます。



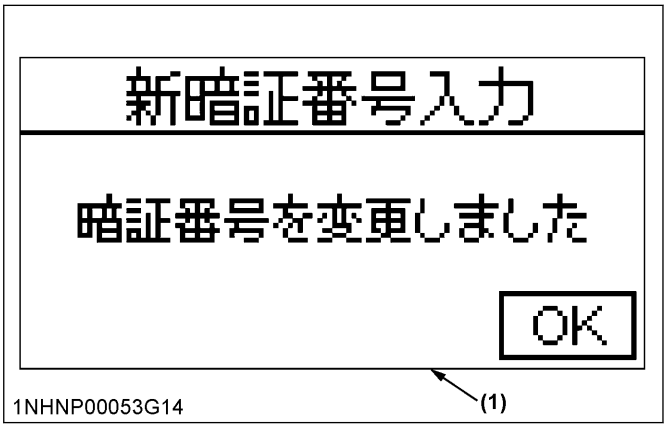
(1) 旧暗証番号の入力画面

3. 旧暗証番号を入力します。
   （詳細は、暗証番号の登録（90 ページ）を参照）
   暗証番号が一致すると、約 2 秒後に新暗証番号の入力画面が表示されます。



(1) 新暗証番号の入力画面

4. 新暗証番号を入力します。
   （詳細は、暗証番号の登録（90 ページ）を参照）
5. 新暗証番号は 2 回入力が必要ですので、手順 2 と同じ要領で、再度新暗証番号を入力し、確定します。
   1 回目と 2 回目に入力した暗証番号が一致しない場合は設定が完了できません。一致するまで手順 2 以降の操作を再度行ってください。
   2 回入力した新暗証番号が一致すると、約 2 秒後に〝暗証番号を変更しました〟と液晶モニタに表示され、さらに約 2 秒後にユーザ設定画面に戻ります。



(1) 変更完了メッセージ

14. 電子エンジン制御

このトラクタに搭載している電子制御式エンジンは次の 3 つの制御を行っています。必要に応じ正しく設定のうえ、使用してください。

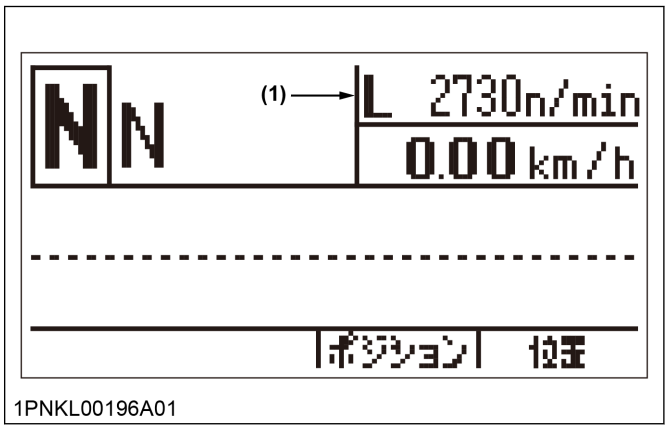
- エンジン回転上限設定
- エンジン回転メモリ設定
- パワーアシスト制御

14.1 エンジン回転上限設定

上限回転数を規制しておくと、アクセルレバーやアクセルペダルを操作しても設定回転数以上には上昇せず、誤操作による作業機のトラブルなど事故を防止できます。設定はエンジン回転中または停止中のどちらでも行えます。

1. メニュー画面から**[エンジン]>[エンジン回転上限]**を選択します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回して回転数を設定します。
   設定回転数を最大にすると上限規制回転数が非表示になります。

補足：
- **設定したエンジン回転上限数は液晶表示部の右上に表示されます。**



1PNKL00196A01

(1) エンジン回転上限数

- **副変速レバーが[H]位置のとき、エンジン回転上限数は次表の数値で表示されます。**
  このとき、次表の数値より高くエンジン回転上限数を入力できますが、画面上は次表の数値で表示され、実際の回転上限数も次表のとおりとなります。
  また、次表の数値より低くエンジン回転上限数を設定することは可能です。その場合、画面上の回転数は設定のとおり表示されます。

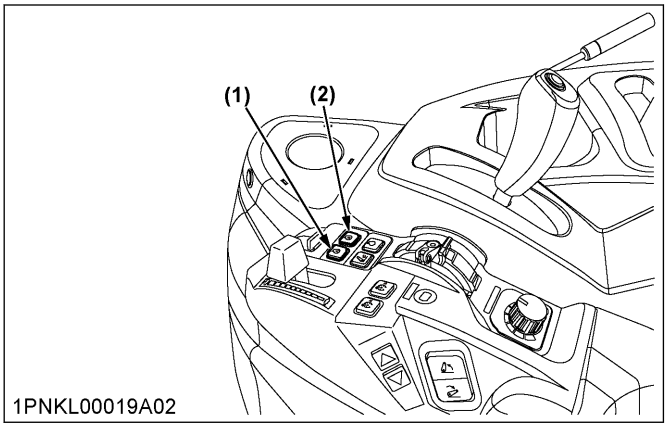
トラクタ仕様	エンジン回転上限数
[ホイール仕様]	2600 n/min
[ハーフクローラ仕様]	2300 n/min

- **エンジン回転上限数の表示は、アクセルペダルの踏込み量またはアクセルレバーの位置といったエンジン回転数指示の状態によって次表のように変化します。**
  なお、丘陵地での作業時、丘を登る場合、丘を下る場合などは次表と異なる場合があります。

エンジン回転数指示が設定した回転上限数未満のとき	点灯
エンジン回転数指示が設定した回転上限数に達したとき	点滅

14.2 エンジン回転メモリ設定

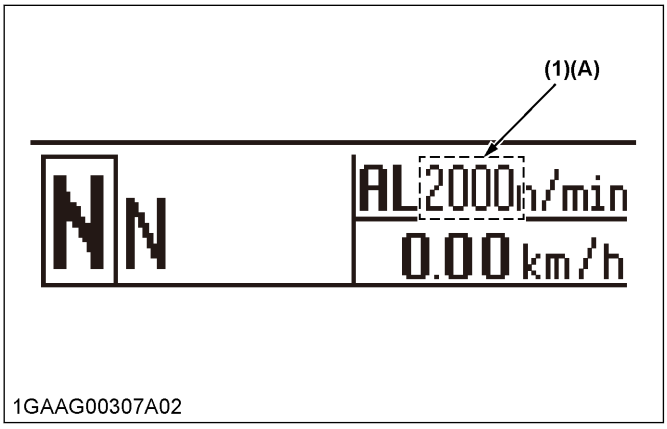
エンジン回転メモリスイッチ A、B を用いると、エンジン回転数をワンタッチで設定することができ、面倒なアクセル操作が不要となります。



1PNKL00019A02

(1) エンジン回転メモリスイッチ *A*　*(2)* エンジン回転メモリスイッチ *B*

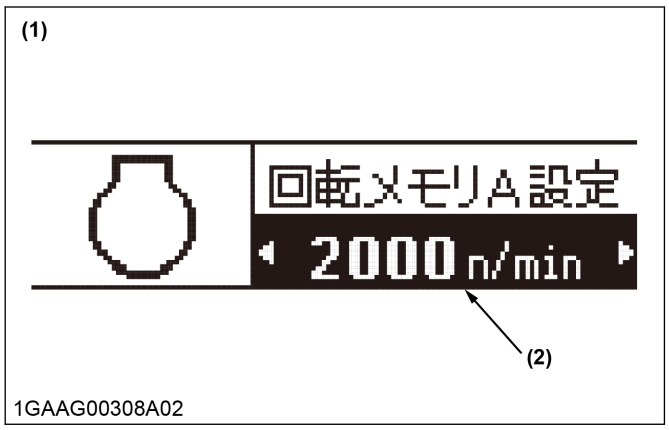
補足：
- **エンジン回転上限の設定値よりメモリ設定回転数の値を高く設定した場合、上限設定が優先されてメモリ設定回転数まで上昇しません。**
  たとえばエンジン上限設定を 1230 n/min、メモリ設定回転数を 2000 n/min に設定した場合、液晶表示部に次図のように表示され、エンジン回転は 1230 n/min までしか上昇しません。



1GAAG00307A02

(1) メモリ設定回転数　*(A)* 点滅表示

エンジン回転メモリの設定回転数の変更
設定はエンジン回転中、停止中のどちらでもできます。
1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[エンジン]>[回転メモリ A 設定]**または**[回転メモリ B 設定]**を選択します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回して回転数を設定します。

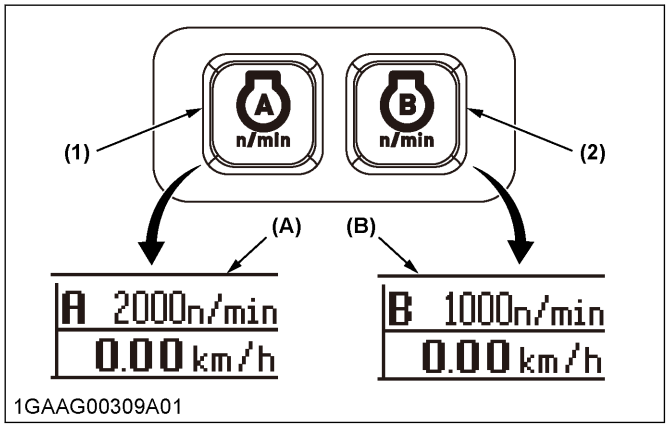


(1) 回転メモリ *A* 設定画面　　*(2)* 回転数設定値

エンジン回転メモリ現在回転数の記憶
現在指示しているエンジン回転数を、**[回転メモリ A 設定]**または**[回転メモリ B 設定]**に記憶できます。
1. アクセルレバーを操作して、記憶したいエンジン回転数まで回転数を上昇します。
2. エンジン回転メモリスイッチ A またはエンジン回転メモリスイッチ B を長押しします。
   “ピピッ”と音が鳴り、エンジン回転数が**[回転メモリ A 設定]**または**[回転メモリ B 設定]**に記憶されます。

補足：
- **キースイッチを[切]位置にしても設定回転数を記憶しています。**

使用例
たとえば回転メモリ A 設定に 2000 回転、回転メモリ B 設定に 1000 回転に設定したとします。



(1) エンジン回転メモリスイッチ *A*
(2) エンジン回転メモリスイッチ *B*
(A) 回転メモリ *A* 設定
(B) 回転メモリ *B* 設定

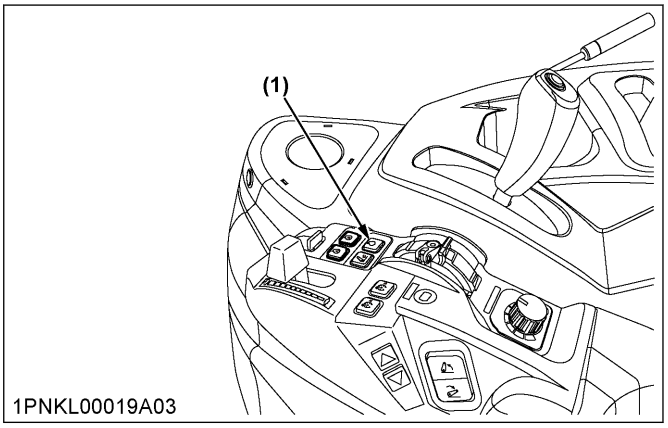
- **作業時**
  エンジン回転メモリスイッチ A を押すことで自動的に 2000 回転にセットされます。
- **旋回時**
  旋回時、エンジン回転メモリスイッチ B を押すことで 1000 回転に下がり、低速で旋回できます。旋回後に再度スイッチ B を押すと 2000 回転になります。

補足：
- **アクセルレバーはアイドリングより少し高くしてください。アイドリングではスイッチは作動しません。**
- **アクセルペダルを踏み込んで、設定回転数以上に回転を上げることもできます。**
- **工場出荷時の設定は回転メモリ A 設定が 2000 回転、回転メモリ B 設定が 1500 回転です。**

解除方法
次のいずれかでエンジン回転メモリ設定を解除してください。
- 作動中のエンジン回転メモリスイッチを再度押します。
- アクセルレバーをアイドリング位置に戻します。
- キースイッチを**[切]**位置にします。

14.3 パワーアシスト制御

パワーアシストスイッチを押すとパワーアシスト制御の“入”、“切”が切り替わります。



(1) パワーアシストスイッチ

補足：
- **機械式制御エンジンでは、負荷の増減によりエンジン回転数が変化します。**
  たとえば丘陵地での作業時、丘を登る場合は負荷が増加しエンジン回転がドロップします。逆に丘を下るときは負荷が減ります。このエンジン回転数の増減が車速や PTO 駆動作業機に影響を及ぼします。この影響を最小限に留めるため、オペレータは車速やアクセルレバーの微調整が必要でした。
  この電子制御エンジン付トラクタに採用したパワーアシストスイッチを“入”にすると、ある一定レベルの負荷変動にはエンジン回転をほぼ一定に保つことができ、車速やアクセルレバーの煩わしい操作をすること無く作業精度の向上が図れます。
- **一定回転が保てる範囲には限界があります。エンジン性能以上の負荷が加わった場合、エンジン回転がドロップします。**
- **パワーアシストによりエンジン出力が増加するものではありません。**
- **“ *S* モード ”を併用する場合は次のようになります。**

パワーアシスト“切”で作業したほうが仕上がりの精度は向上します。どうしてもパワーアシスト“入”で作業するときは、感度調整ダイヤルを敏感にしてください。また、作業中にパワーアシストスイッチの“入”、“切”を切り換えると、仕上がりが変わる場合があります。
（詳細は、3P 制御モード（101 ページ）を参照）

パワーアシスト“入”時
負荷変動によるエンジン回転数の変動を抑え、車速やPTO 回転をほぼ一定に保つため、安定した作業が行えます。
パワーアシストが“入”の場合、パワーアシストスイッチのスイッチランプが点灯します。

パワーアシスト“切”時
従来のエンジン同様、負荷の増減に応じエンジン回転も増減します。オペレータはエンジンの回転数やエンジン音など機体の状態から負荷の大きさを判断し、作業機への過負荷防止のため車速や耕深を調整することができます。

14.4 e-アシスト旋回

e-アシスト旋回は、クイックアップ操作と連動し、エンジン回転数および車速をエンジン回転メモリ設定の値、クルーズ車速設定の値に自動的に変更する機能です。クイックアップで作業機を下降させると、エンジン回転数および車速がメモリ設定回転数、クルーズ設定車速まで上がります。クイックアップで作業機を上昇させると、エンジン回転数および車速がメモリ設定回転数、クルーズ設定車速まで下がり、低速で旋回できます。

設定方法
1. メモリ回転を使用する場合は、エンジン回転メモリスイッチ A または B を押し、エンジン回転メモリ設定を有効にします。クルーズ車速を使用する場合は、クルーズ車速スイッチ A または B を押し、クルーズ車速設定を有効にします。
2. e-アシスト旋回スイッチを押して、e-アシスト旋回の作動状態を有効にします。
   e-アシスト旋回ランプが点灯し、スイッチランプがオレンジ色で表示されます。

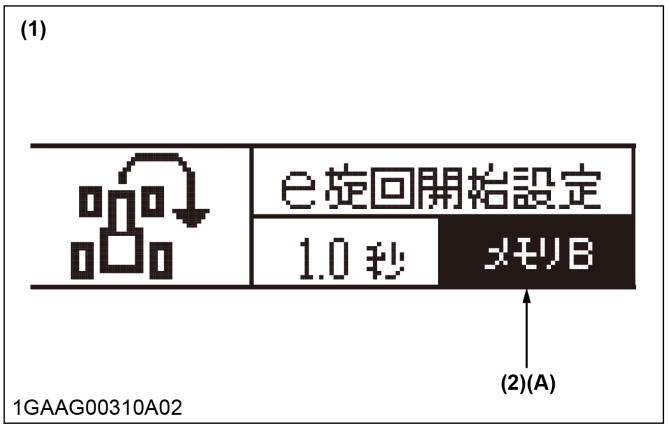
   補足：
   - **アクセルレバーをアイドリング状態より少し高くしないと、メモリ回転になりません。**
   - **主変速レバーを最低速位置より少し高くしないと、クルーズ車速になりません。**
   - **最高車速設定のほうがクルーズ設定車速よりも小さい場合は、クルーズ設定車速になりません。最高車速設定に規制されます。**
   - **エンジン回転上限設定回転数のほうが、エンジン回転メモリ設定回転数よりも小さい場合は、エンジン回転メモリ設定回転数になりません。エンジン回転上限設定回転数に規制されます。**
   - **e-アシスト旋回ランプが点滅時、３点リンクの安全ロックを解除してください。安全ロックを解除すると、e-アシスト旋回ランプが点灯に変わり、e-アシスト旋回モードになります。**

解除方法
1. e-アシスト旋回スイッチを押して、e-アシスト旋回の作動状態を解除します。
   e-アシスト旋回ランプが消灯し、スイッチランプが白色で表示されます。

14.4.1 e-アシスト旋回の回転数設定

回転数には“回転メモリ *A* 設定”、“回転メモリ *B* 設定”、“回転メモリ設定切”のいずれかの状態をセットできます。出荷時設定では開始（クイックアップ上昇）時にメモリ B、終了（クイックアップ下降）時にメモリ A がセットされています。
例として、本項では作業時は 2600 回転、旋回時は 1500 回転に設定する場合を説明します。

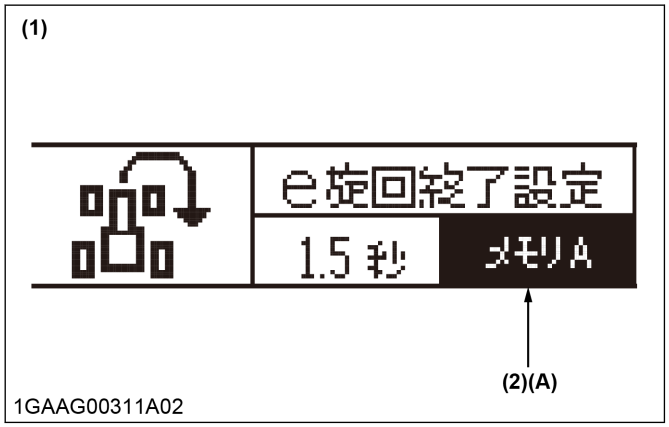
1. キースイッチを**[入]**位置にして、回転メモリ A 設定に 2600 回転、回転メモリ B 設定に 1500 回転をセットします。
   （詳細は、エンジン回転メモリ設定（95 ページ）を参照）
2. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[旋回]>[ｅ旋回開始設定]**を選択します。
3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、右側のエンジン回転メモリ部に**[メモリ B]**を指定します。



(1) ｅ旋回開始設定　　*(A)* メモリ B
(2) エンジン回転メモリ部

4. 次にメニュー画面から**[旋回]>[ｅ旋回終了設定]**を選択します。

5. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、右側のエンジン回転メモリ部に**[メモリA]**を指定します。

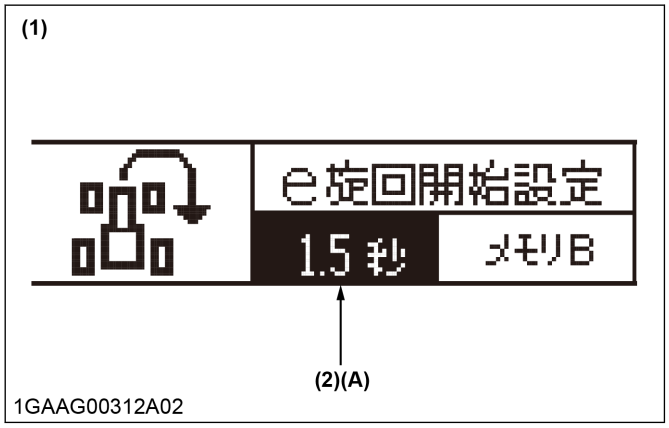


(1) e旋回終了設定　　*(A)* メモリA
(2) エンジン回転メモリ部

14.4.2 e-アシスト旋回の応答時間設定

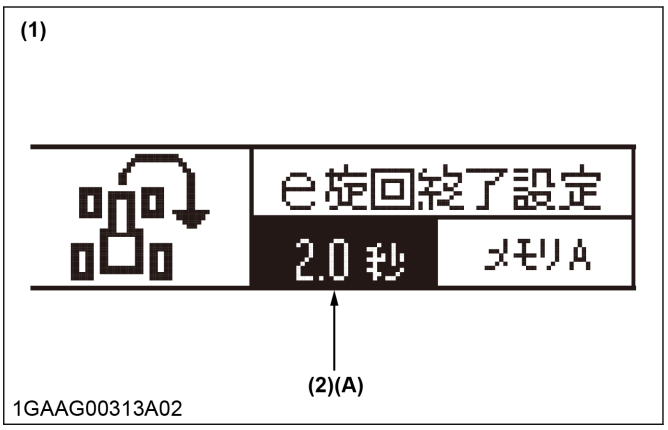
作業や好みによって、クイックアップ操作からエンジン回転数切替までの応答時間を変更できます。上昇、下降とも応答時間を 0.0 秒～6.0 秒の範囲、0.5 秒間隔で設定可能です。
例として、本項ではクイックアップ上昇時の応答時間を 1.5 秒、下降時の応答時間を 2.0 秒に設定する場合を説明します。

1. キースイッチを**[入]**位置にして、HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[旋回]>[e旋回開始設定]**を選択します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、左側の応答時間設定部に**[1.5 秒]**を指定します。



(1) e旋回開始設定　　*(A)* *1.5 秒*
(2) 応答時間設定部

3. 次にメニュー画面から**[旋回]>[e旋回終了設定]**を選択します。
4. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで、左側の応答時間設定部に**[2.0 秒]**を指定します。



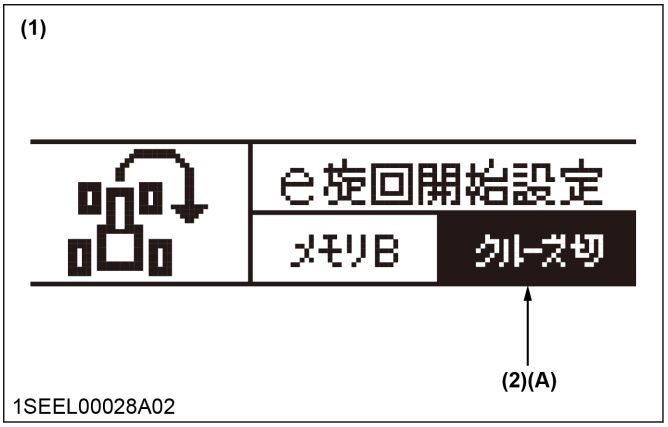
(1) e旋回終了設定　　*(A)* *2.0 秒*
(2) 応答時間設定部

14.4.3 e-アシスト旋回のクルーズ車速設定

クルーズ車速には“クルーズ車速 *A* 設定”、“クルーズ車速 *B* 設定”、“クルーズ車速設定切”のいずれかの状態をセットできます。

設定方法
例として、本項では作業時はクルーズ車速 1.0 km/h、旋回時はクルーズコントロール切に設定したい場合を説明します。

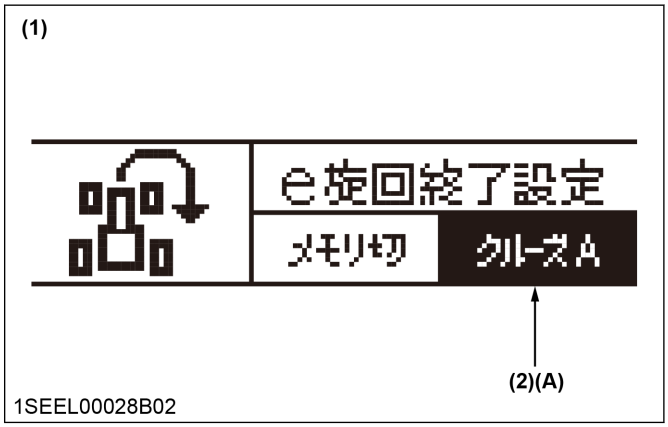
1. キースイッチを**[入]**位置にして、クルーズ車速 A 設定に 1.0 km/h をセットします。
（詳細は、クルーズ車速の設定変更（126 ページ）を参照）
2. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[旋回]>[e旋回開始設定]**を選択します。
3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルでカーソルを右に 2 回回してクルーズ車速設定部を選択し、**[クルーズ切]**を指定します。



(1) e旋回開始設定　　*(A)* クルーズ切
(2) クルーズ車速設定部

4. 次にメニュー画面から**[旋回]>[e旋回終了設定]**を選択します。

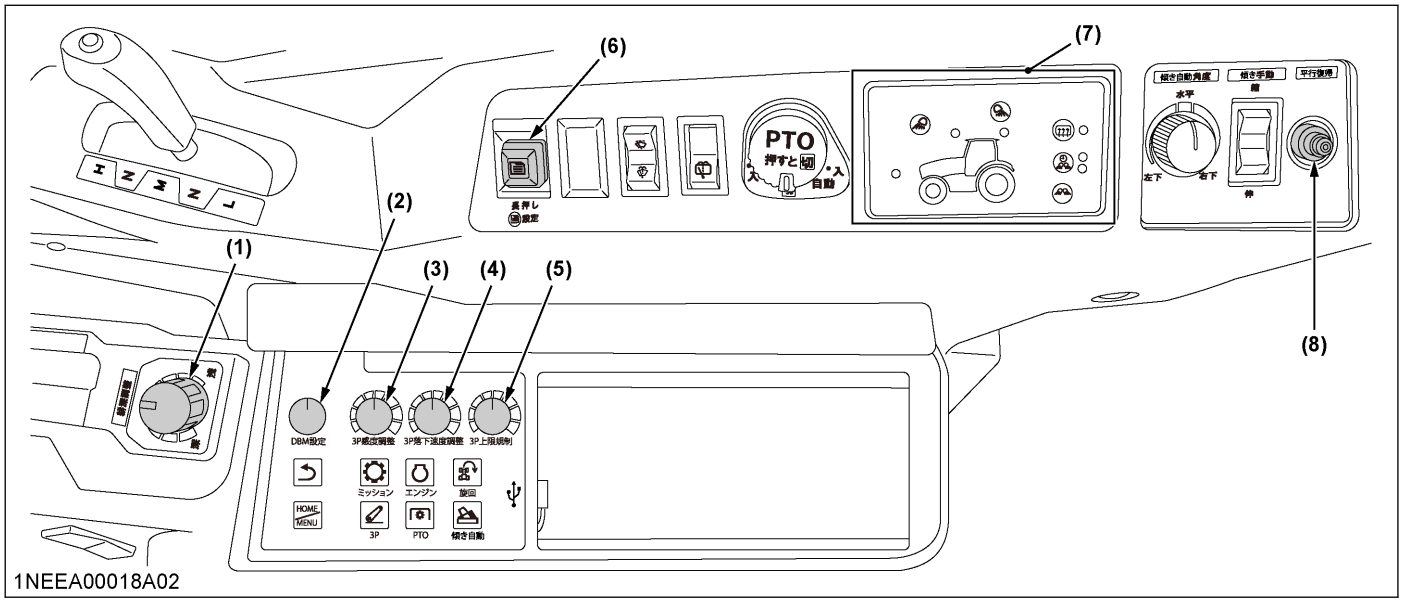
5. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルでカーソルを右に 2 回回してクルーズ車速設定部を選択し、**[クルーズ A]**を指定します。



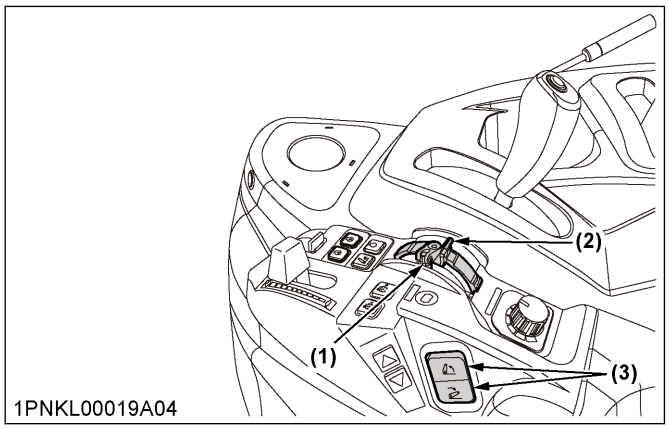
(1) e 旋回終了設定
(2) クルーズ車速設定部
(A) クルーズ *A*

15. 作業機昇降装置

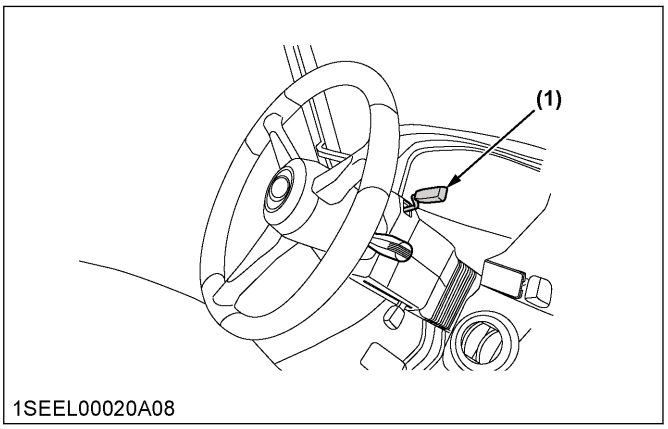
15.1 作業機昇降装置の各部の名称



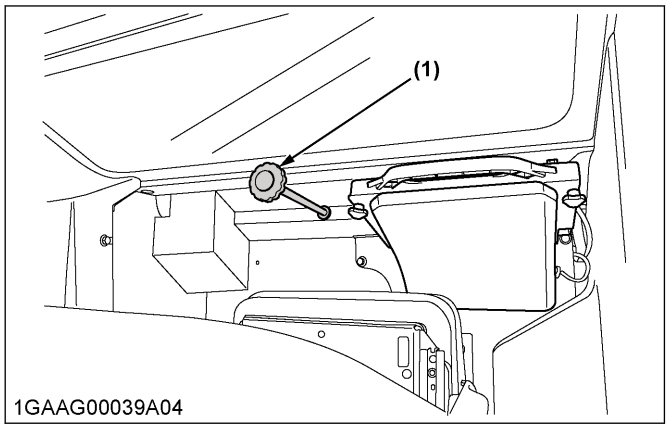
(1) 耕深調節ダイヤル
(2) 電子メータ（*DBM*）設定ジョグダイヤル
(3) 感度調整ダイヤル
(4) 作業機落下速度調整ダイヤル
(5) 高さ規制調整ダイヤル
(6) ワンタッチ作業モード設定スイッチ
(7) ワークランプ集中操作スイッチ
(8) 平行復帰スイッチ



(1) 下限ストッパ
(2) ポジションレバー
(3) クイックアップスイッチ



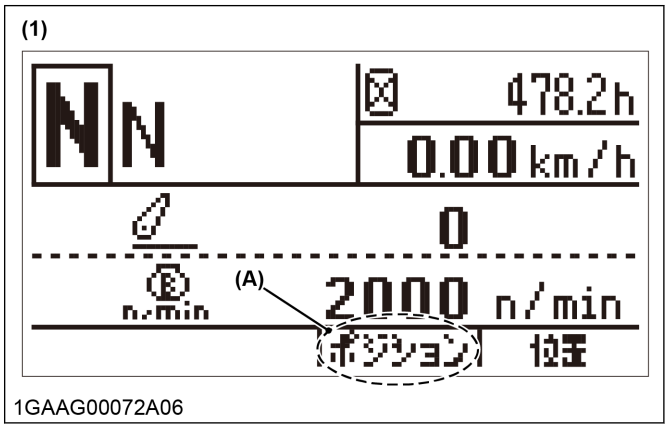
(1) クイックアップレバー



(1) 油圧ロックレバー

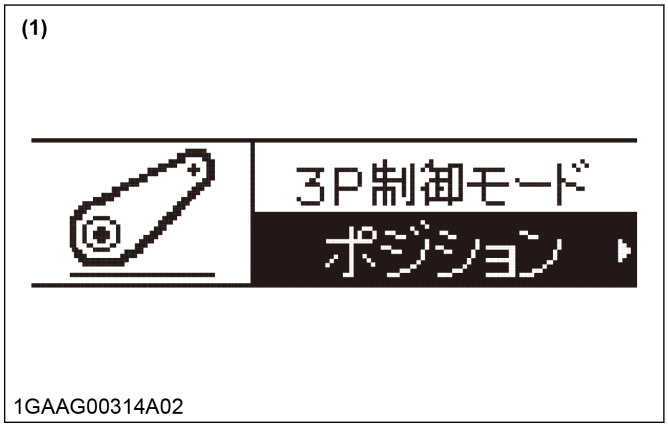
15.2 3P 制御モード

作業に応じた 3 点リンク制御に切り替えます。作業の選択状態は画面下部に表示されます。



(1) 通常画面　　*(A)* 作業選択状態

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から **[3P]>[3P 制御モード]**を選択します。



(1) *3P* 制御モード

2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回し、**[ポジション]⇔[耕深制御]⇔[S モード]⇔[ドラフト]⇔[レーザ]**から使用する制御モードを選択します。

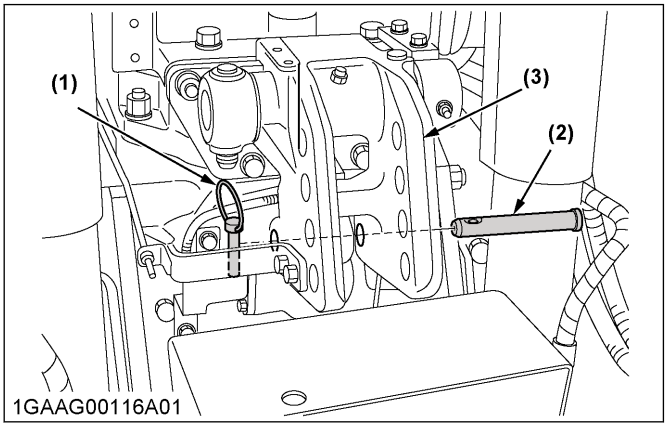
   補足：
   - **耕深制御用作業機（ロータリ）やレーザ用信号が接続されていない場合、[耕深制御]や[レーザ]は設定項目から除外されるため選択できません。**

モード別作業例

制御モード	作業例
耕深制御	耕深制御が可能なロータリを装着しての、一般耕うん、代かき作業に使用します。
S モード	ロータリカバーを上げたままで行う、耕深制御作業に使用します。 耕深制御未対応の一般ロータリも使用可能です。
ドラフト	プラウ、サブソイラなどのけん引作業に使用します。
レーザ	オプションのレーザ作業機を装着しての均平作業に使用します。
ポジション	“耕深制御 ”、“*S* モード”、“ドラフト”、“レーザ”の“自動”が解除されポジションコントロールになります。 耕深制御 “切”での一般ロータリ耕作業など手動作業に使用します。

15.3 ドラフトストッパピン

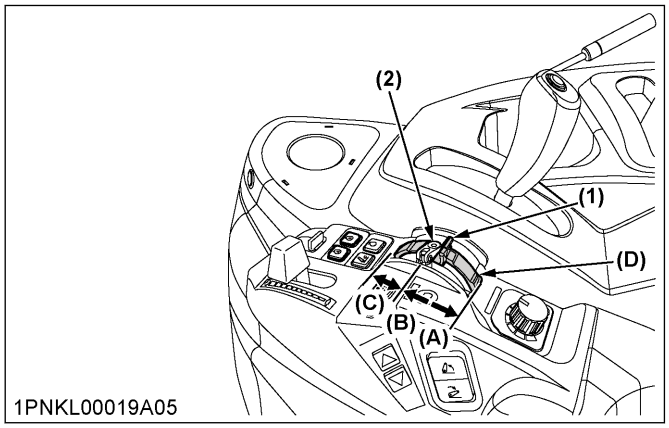
プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は、トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。
ドラフトコントロールを使用しない場合は、ストッパピンを入れてください。



(1) ロックピン　　*(3)* トップリンクブラケット
(2) ストッパピン

補足：
- **ストッパピンを外したままロータリ耕うんを行うと、“耕深制御 ”が正常に作動しない場合があります。**

15.4 ポジションレバー



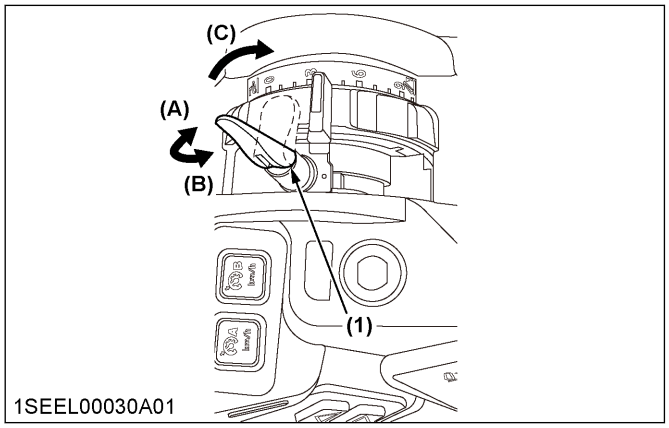
(1) ポジションレバー
(2) ストッパ
(A) 上がる
(B) 下がる
(C) フローティング
(D) 走行ロック

ポジションコントロールとして使用

- “上がる”、“下がる”のポジション範囲では、作業機が任意の位置に保たれます。
- “フローティング”範囲では、作業機はいっぱいに下がります。

補足：

- **走行時はポジションレバーを“走行ロック”位置にして、ストッパをロックしてください。不意の操作による急落下を防いでください。**



(1) ストッパつまみ
(A) 締まる
(B) 緩む
(C) ロック

ストッパ先端のつまみを回転させることでストッパを緩めたり締めたりできます。
任意の向きにつまみを数回回転させたら、つまみを倒してください。

ポジションレバーの取扱い特性

- エンジン停止後、キースイッチを**[入]**位置にしてポジションレバーを前方に倒すと、作業機は下降します。
- 高さ規制調整ダイヤルで上昇高さを制限しているときは、制限位置までしか上昇しません。
（詳細は、高さ規制調整ダイヤル（102 ページ）を参照）

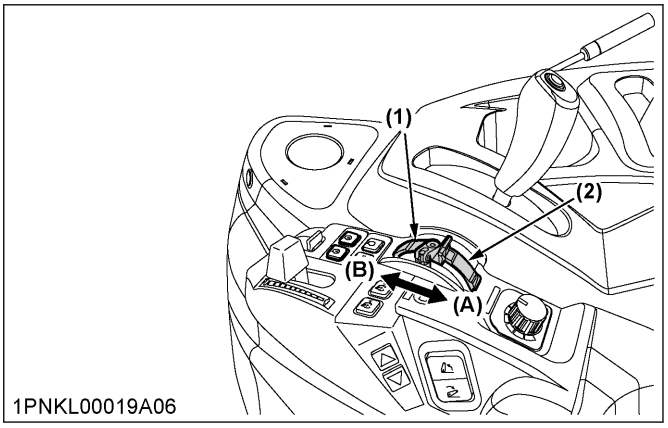
各作業モード（“耕深制御”、“S モード”、“ドラフト”、“レーザ”）使用時の操作

- ポジションレバーを“フローティング”範囲に下げても、作業機は耕深調節ダイヤルで設定した**[深]**側の位置以下には下がりません。レーザモードは受光位置以下には下がりません。
- 耕深調節ダイヤルで設定した**[浅]**側の位置よりもポジションレバー位置が“上がる”側にあるときは、作業機はポジションレバー位置に保たれます。

15.5 3 点リンクの下限規制

3 点リンクの下降下限位置を変えるときに使用します。

- ストッパを**[UP]**側に倒すと、ポジションレバーの下限高さが高くなります。
- ストッパを**[DOWN]**側に倒すと、ポジションレバーの下限高さが低くなります。

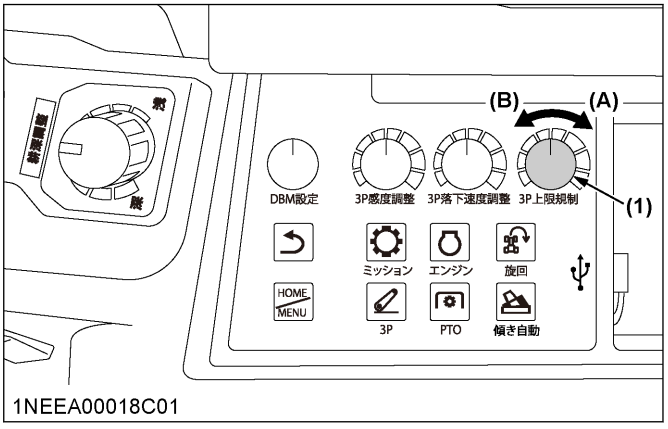


(1) ストッパ
(2) ポジションレバー
(A) *UP*（下限高さが高くなる）
(B) *DOWN*（下限高さが低くなる）

15.6 高さ規制調整ダイヤル

3 点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

- ダイヤルを図の(A)方向に回すと、3 点リンクの上昇規制高さの上限位置が高くなります。
- ダイヤルを図の(B)方向に回すと、3 点リンクの上昇規制高さの上限位置が低くなります。

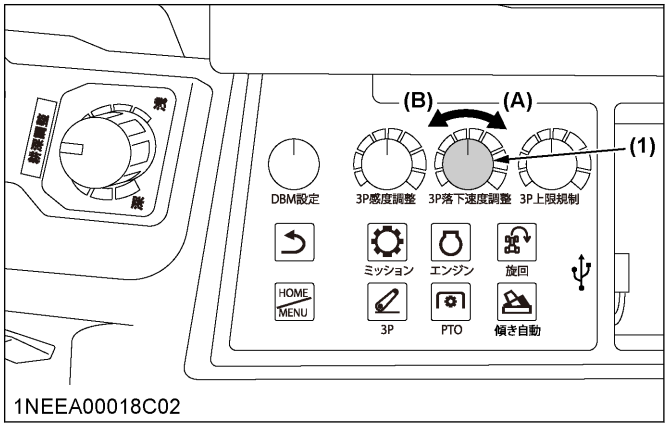


(1) 高さ規制調整ダイヤル
(A) 上限位置が高くなる
(B) 上限位置が低くなる

補足：
- **高さ規制調整ダイヤルにより、クイックアップレバーまたはスイッチ、およびポジションレバーでの“上げ”位置を任意の高さに規制できます。**

15.7 作業機落下速度調整ダイヤル

3点リンクの落下速度を変えるときに使用します。
- ダイヤルを図の(A)方向に回すと、3点リンクの落下速度が速くなります。
- ダイヤルを図の(B)方向に回すと、3点リンクの落下速度が遅くなります。

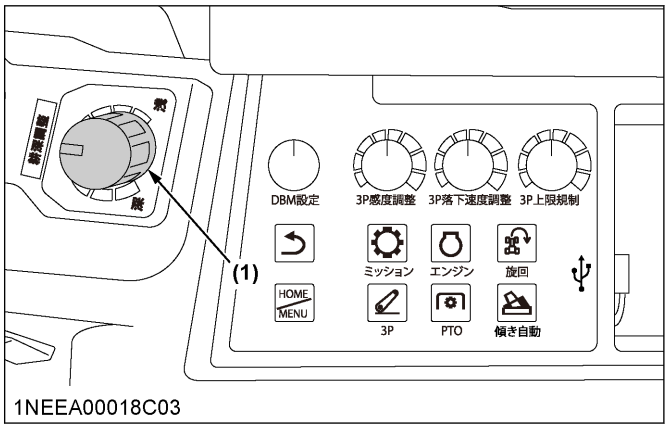


(1) 作業機落下速度調整ダイヤル
(A) 落下速度が速くなる
(B) 落下速度が遅くなる

補足：
- **このダイヤルでは、“油圧ロック”はできません。**
- **走行時やロータリなどの作業機を点検する場合は、必ずシート後ろの油圧ロックレバーでロックしてください。**

15.8 耕深調節ダイヤル

各作業モード（“耕深制御”、“S モード”、“ドラフト”、“レーザ”）を使用する場合、このダイヤルで作業機の耕深を設定してください。



(1) 耕深調節ダイヤル

- ダイヤルを**[浅]**方向へ回すと、プラウ、ロータリなど作業機の耕深が浅く保持されます。
- ダイヤルを**[深]**方向へ回すと、プラウ、ロータリなど作業機の耕深が深く保持されます。

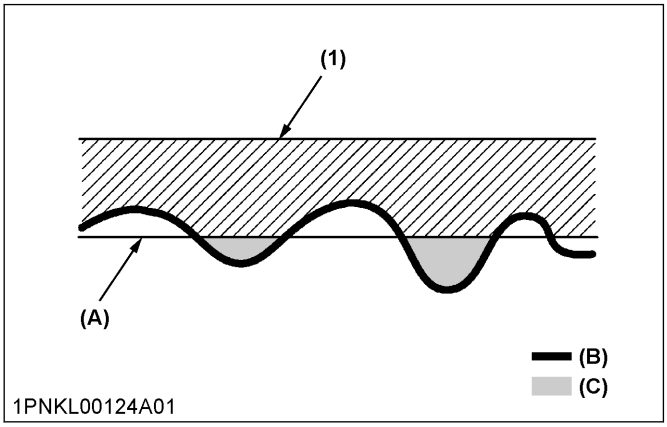
補足：
- **ダイヤルを[深]方向へいっぱい回すと、フローティング範囲になります。また[浅]方向へいっぱい回すと作業機が上端近くまで上昇します。**
- **“ポジション”モードでは、耕深調節ダイヤルは作動しません。**

ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合
- ポジションレバーを下げ、ダイヤルを**[浅]**方向へ回すと、プラウの耕深が浅く保持され、**[深]**方向へ回すと、プラウの耕深が深く保持されます。
- 旋回時など状況に応じて作業機を上げるときは、ポジションレバーで、あるいはクイックアップレバーまたはスイッチで行ってください。

ワンタッチフローティング機能
クイックアップレバーを下げ続けている間、またはクイックアップスイッチ“下げ”を押し続けている間はフローティング状態となり、プラウ作業のスキ込み時など深く均平に耕起するときに使用すると有効です。
クイックアップレバーから手を離すと、ドラフト制御位置まで戻ります。

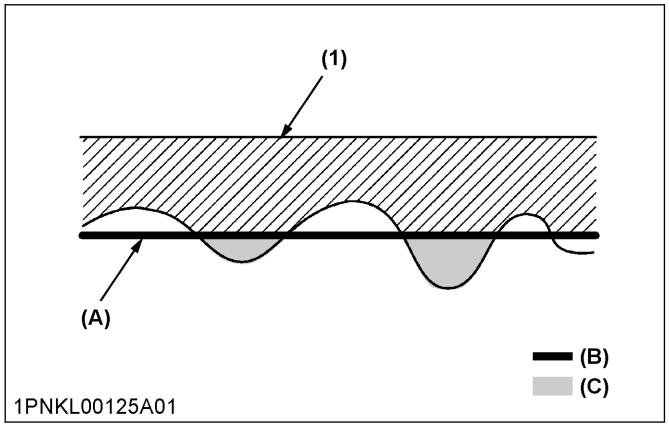
ミックスコントロール（ドラフト＋ポジション）
ポジションレバーで作業機の降下位置を規制し、耕深調節ダイヤルでけん引抵抗に応じた制御をするという 2 つのコントロールをします。軟弱な土質でのプラウ、サブソイラなど地質に応じて耕深を調整する作業に適しています。

ドラフト



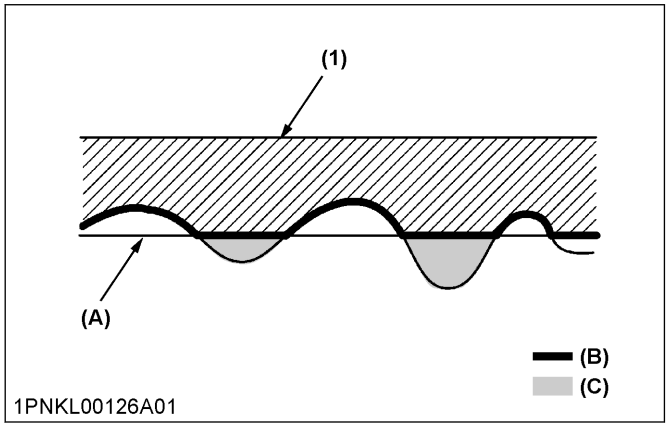
(1) 地表面
(A) ポジションレバー位置
(B) 作業機の耕深
(C) 軟弱な地質

ポジション



(1) 地表面
(A) ポジションレバー位置
(B) 作業機の耕深
(C) 軟弱な地質

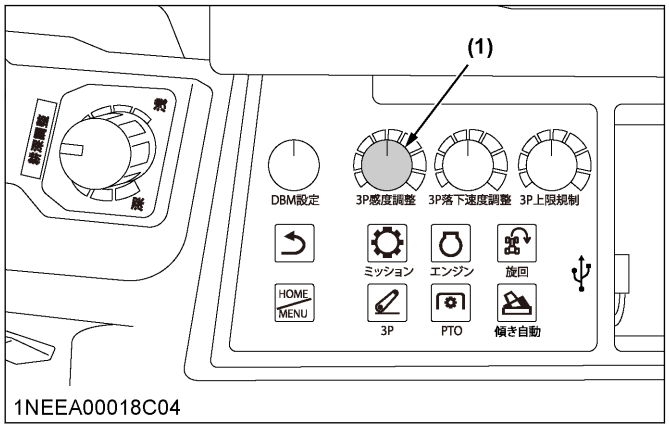
ミックス



(1) 地表面
(A) ポジションレバー位置
(B) 作業機の耕深
(C) 軟弱な地質

15.9 感度調整ダイヤル

各作業モード（“耕深制御”、“S モード”、“ドラフト”、“レーザ”）を使用する場合、感度調整ダイヤルにより、負荷の変化量に対する作業機の動き量を調整することができます。



(1) 感度調整ダイヤル

- “耕深制御 ”や“S モード”選択時、一般耕起作業では次表を目安に調整してください。

感度調整ダイヤル	左回し	右回し
3 点リンクの動き	鈍感←——→敏感	

敏感で作業をしてうねりが生じる場合、感度を“鈍感”側に調節してください。

- “ドラフト”選択時、一般けん引耕起作業でははは次表を目安に調整してください。

感度調整ダイヤル	左回し	右回し
耕深	浅く起こす←——→深く起こす	
土質	軽い←——→重い	
ほ場の起伏	小←——→大	
感度の目安	鈍←——→敏	

補足：

- **感度調整ダイヤルを調整すると、耕深が多少変化します。**
  調整後は、耕深調節ダイヤルで耕深を再設定してください。

15.10 クイックアップレバー、クイックアップスイッチ

クイックアップレバーまたはクイックアップスイッチのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

⚠ 警告

- **走行中は必ずポジションレバーを“走行ロック”位置にして、油圧ロックレバーを“油圧ロック”位置にしてください。**
- **ほ場内作業以外では、クイックアップを使用しないでください。**

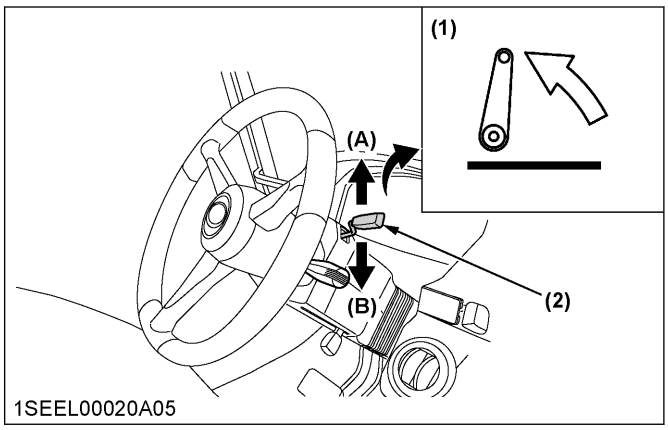
クイックアップレバーとクイックアップスイッチは同じ作動をします。また、この機能は併用できます。

作業機上昇

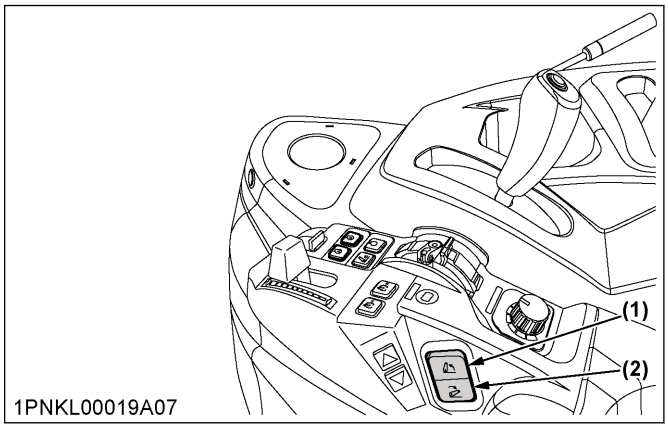
レバーを上げる、またはスイッチの“上げ”を押す。
クイックアップランプ点灯。

作業機下降

レバーを下げる、またはスイッチの“下げ”を押す。
クイックアップランプ消灯。



(1) クイックアップランプ　*(A)* 作業機上昇
(2) クイックアップレバー　*(B)* 作業機下降



(1) クイックアップスイッチ（上げ）　*(2)* クイックアップスイッチ（下げ）

補足：

- **クイックアップレバーまたはスイッチは軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**
- **新しい作業機を装着したときは、クイックアップレバーまたはスイッチではなく、ポジションレバーを使って作業機を上げて、作業機がトラクタに当たらないことを確認してください。**
- **クイックアップレバーまたはスイッチ操作時、ブザー音が 1 回鳴ります。**
- **クイックアップランプが点滅している場合、ポジションレバー、あるいはクイックアップレバーまたはスイッチを操作し、クイックアップランプの点滅を解除してから使用してください。クイックアップレバーまたはスイッチで解除時、ブザーが 2 回鳴ります。**

クイックアップの上手な操作方法

- **３点リンク作動範囲の規制**
  ポジションレバーで下限位置、高さ規制調整ダイヤルで上限位置を設定しておくと、クイックアップ制御はその設定した範囲内で上昇、下降します。
- **ワンタッチフローティング機能**
  メニュー画面の**[3P 制御モード]**で**[ドラフト]**選択時、クイックアップレバーまたはスイッチを“下げ”側に押している間はフローティング状態となり、プラウ作業のスキ込み時など深く均平に耕起するときに使用すると有効です。
  また、レバーまたはスイッチから手を離すと、ドラフト制御位置まで戻ります。
- **クイックアップレバーまたはスイッチによる上昇および下降途中でのクイックアップレバーまたはスイッチの操作**
  - クイックアップによる上昇途中、クイックアップレバーまたはスイッチを“下げ”側に操作すると、その位置で停止し、クイックアップランプが点灯します。その後再度レバーまたはスイッチを操作すると昇降します。
  - クイックアップによる上昇途中に 3 点リンクを下げたいときは、クイックアップレバーまたはスイッチを下降側に 1 秒間押し続けるか、続けて 2 回押します。
  - クイックアップによる下降途中にクイックアップレバーまたはスイッチを“上げ”側に操作すると上昇します。

15.11 旋回アップ機能

⚠ 警告

- **危険防止のため、旋回アップの使用は、ほ場内作業のみにしてください。**
- **旋回アップで作業する場合は、旋回アップランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは、作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると、作業機を引きずり、障害事故を引き起すおそれがあります。**

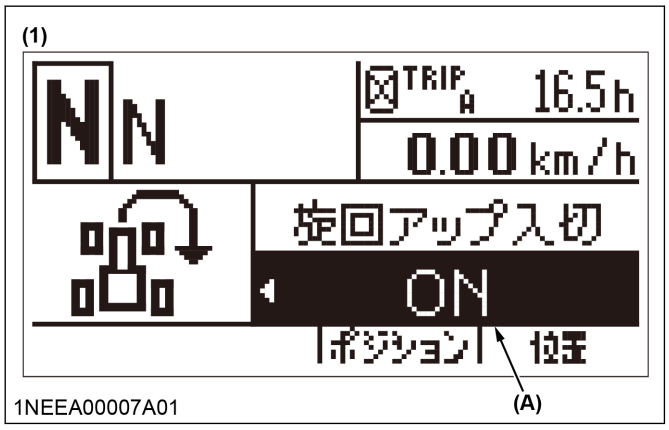
補足：

- **旋回アップ“入”、“切”の操作は、エンジンを始動したあとに行ってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がるので、操作が無効になる場合があります。**
- **隣接耕うん作業以外では旋回アップを“切”にしてください。**
- **３点リンクが安全ロック状態では作動しません。**

旋回アップの作動条件

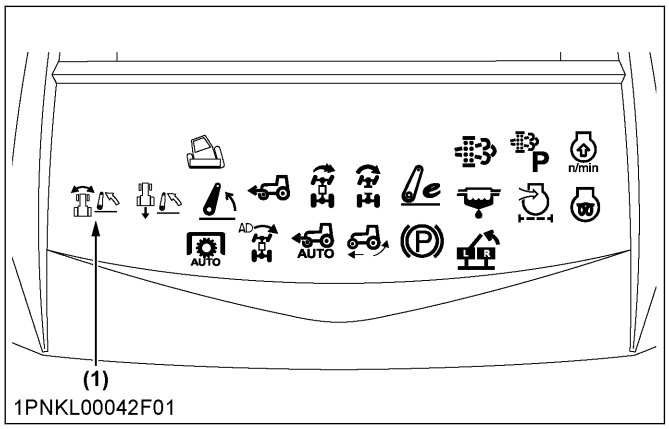
3P 制御モード	シャトルレバー	PTO スイッチ
耕深制御 S モード	前進	**[入]**または**[入 自動]**
ドラフト レーザ ポジション	前進	–

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[旋回]>[旋回アップ入切]**の選択項目を開き、**[ON]**を選択します。



(1)　旋回アップ入切設定画面　　(A)　ON

メニュー画面の**[旋回アップ入切]**が**[ON]**のとき、電子メータの旋回アップランプが点灯します。



(1)　旋回アップランプ

2. 隣接耕うん作業での旋回時、ステアリングハンドルを回し、作業機が自動で上昇する状態にします。
ほ場内での旋回操作が簡単にできます。
上昇時、ブザー音が 1 回鳴ります。
3. 作業機を下げるときは、クイックアップレバーまたはスイッチ、あるいはポジションレバーで行います。
4. 旋回アップを解除するときはメニュー画面から**[旋回アップ入切]**を開き、**[OFF]**を選択します。
旋回アップランプが消灯します。

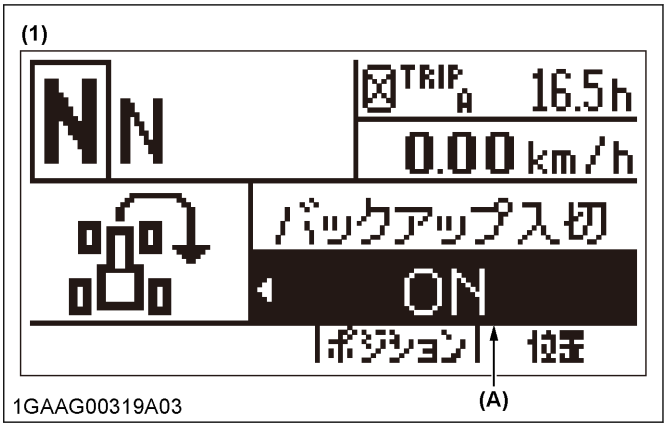
15.12 バックアップ機能

バックアップを“入”にしておくと、後進時作業機が自動的に上昇し、うっかりバックからの作業機の損傷を防ぎます。

補足：

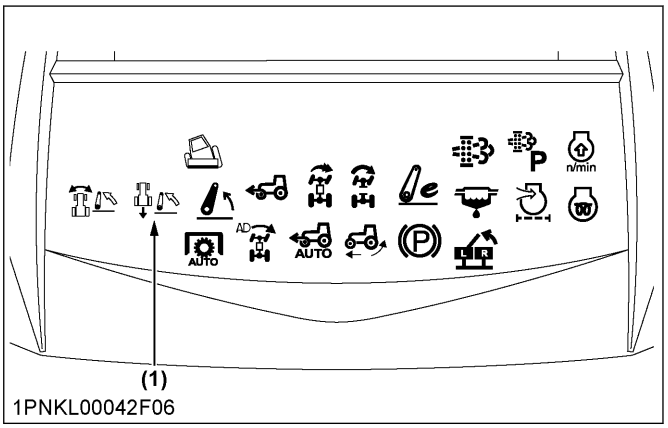
- **バックアップ“入”、“切”の操作はエンジンを始動した後に行ってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がるので、操作が無効になる場合があります。**
- **３点リンクが安全ロック状態ではバックアップは作動しません。**

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[旋回]>[バックアップ入切]**の選択項目を開き、**[ON]**を選択します。



(1)　バックアップ入切設定画面　　(A)　ON

メニュー画面の**[バックアップ入切]**が**[ON]**のとき、電子メータのバックアップランプが点灯します。

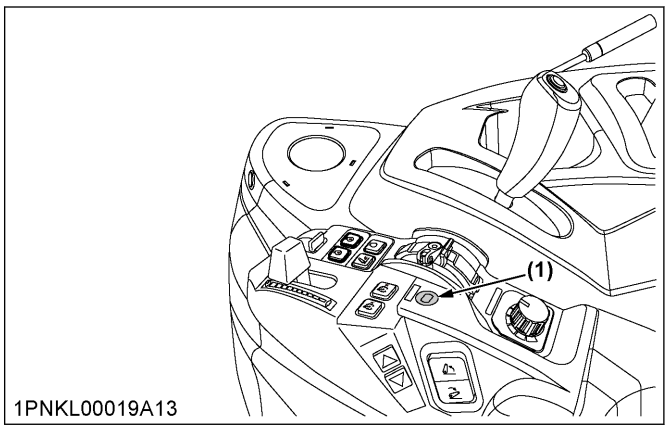


(1)　バックアップランプ

2. シャトルレバーを“後進”側に入れます。
作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは、クイックアップレバーまたはスイッチ、あるいはポジションレバーで行います。
4. バックアップを解除するときはメニュー画面から**[バックアップ入切]**を開き、**[OFF]**を選択します。
バックアップランプが消灯します。

15.13 3P 動作切替スイッチ

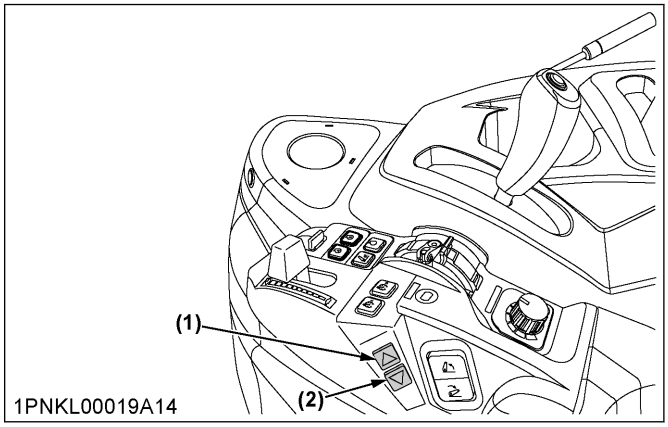
ロアリンク高さを変えるときに使用します。
3P 動作切替スイッチのインジケータが消灯のときは“3 点リンクキープモード”、点灯または点滅のときは“3 点リンクリターンモード”になります。
3P 動作切替スイッチを押すたびにインジケータは消灯、点灯、点滅と切り替わります。



(1) 3P 動作切替スイッチ

15.13.1 3点リンクキープモード

3P 内部操作スイッチ上昇側または下降側を押してる間、ロアリンクは昇降し、スイッチを離した位置でロアリンクが停止し安全ロックが働きます。電子メータ内のクイックアップランプが点滅し、その位置をキープします。
（解除方法の詳細は、3点リンクの安全ロック機能（136 ページ）を参照）
ロアリンクの作動範囲は全ストロークです。

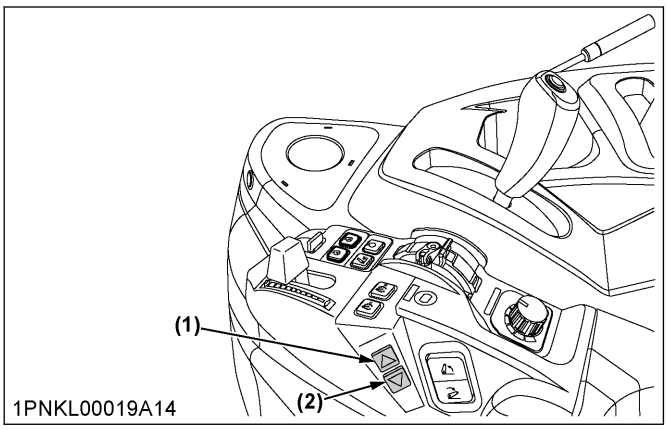


(1) 3P 内部操作スイッチ（上昇側）　*(2) 3P* 内部操作スイッチ（下降側）

15.13.2 3点リンクリターンモード

3P 内部操作スイッチ上昇側または下降側を押してる間、ロアリンクは昇降し、スイッチを離すと耕深調整ダイヤルまたはポジションレバーで設定されている位置に復帰します。

- 作業中での耕深調整が不要です。
- 安全ロックは掛かりません。
- スイッチを押している間に、作動範囲の上限または下限に達するとその位置をキープします。



(1) 3P 内部操作スイッチ（上昇側）　*(2) 3P* 内部操作スイッチ（下降側）

15.13.3 ポジションモードでの 3P 動作切替スイッチ操作

1. 走行を開始し、安全ロックを解除します。
   3P 動作切替スイッチのインジケータが点滅から点灯に変わり、3P 動作切替スイッチ操作により動作が可能となります。
   - ロアリンクの作動範囲はポジションレバーでの作動範囲です。
   - 高さ規制調整ダイヤルで上限を制限しているとき、高さ規制調整ダイヤル位置が上限となります。

15.13.4 作業機の各作業モードでの 3P 動作切替スイッチの操作

作業モードは“耕深制御”、“*S* モード”、“ドラフト”、“レーザ”があります。

1. 走行を開始し、安全ロックを解除し、メニュー画面から**[3P]>[3P 制御モード]**で耕深制御が作動可能な作業モードを選択し、液晶画面に表示します。
   3P 動作切替スイッチのインジケータが点滅から点灯にかわり、3P 動作切替スイッチ操作により動作が可能となります。
   - ロアリンクの作動範囲は耕深調整ダイヤルでの作動範囲です。
   - 高さ規制調整ダイヤルで上限を制限しているとき、高さ規制調整ダイヤル位置が上限となります。
   - ポジションレバーで下限を制限しているとき、ポジションレバー位置が下限となります。

15.14 油圧ロックレバー

3点リンクの下降ロックと解除を切り換えるときに使用します。

⚠ 警告

- **ロータリなど作業機を点検する場合は、必ず油圧ロックレバーで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。**

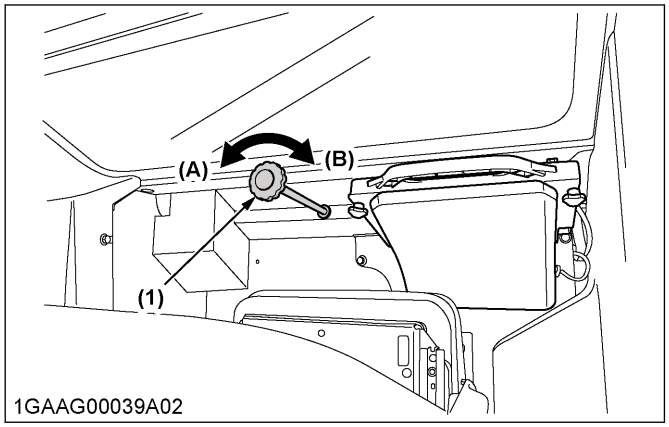
- **油圧ロックレバーでロックした後、ポジションレバーを前方に倒して、作業機が落下しないことを必ず確認してください。**
- **ロックするとともに適切なジャッキまたはブロックで歯止めをし、落下を防止してください。**

作業時

“速”位置にします。

走行時や作業機を上げて点検するとき

“遅”、“停”位置にします。



(1) 油圧ロックレバー
(A) 解除（速）
(B) 油圧ロック（遅、停）

補足：

- **作業機落下速度の調節は、油圧操作パネルの作業機落下速度調整ダイヤルで行います。**

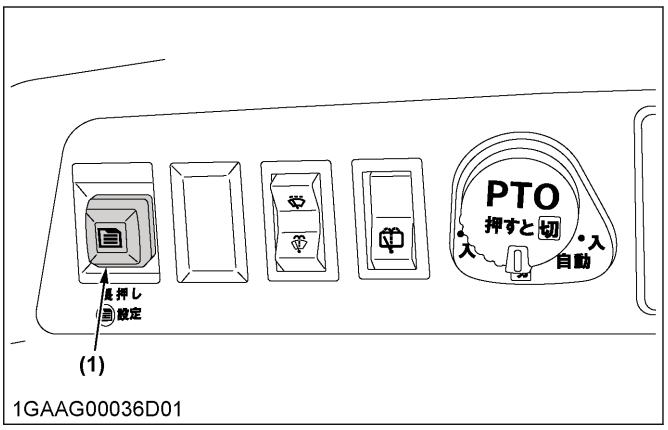
15.15 ワンタッチ作業モード設定スイッチ

作業と移動を繰り返すことが多い場合は、ワンタッチ作業モードを使用すると便利です。
一般的なほ場で耕うん作業する場合には、ワンタッチ作業モード設定スイッチを 1 回押すだけで、トラクタの自動装置はすべて標準的な設定になり、ワンタッチ作業モード設定スイッチのランプが点灯します。

トラクタの自動装置の標準的な設定

設定項目	状態
3P 制御モード	耕深制御
傾き自動モード	水平 1
旋回アップ	入
バックアップ	入
倍速	入
AD	入

ワンタッチ作業モード設定スイッチを押したときのこれらの設定は、ワンタッチ作業モードの設定変更（108 ページ）により変更できます。
作業終了後、再度ワンタッチ作業モード設定スイッチを押して、ワンタッチ作業モード設定スイッチのランプを消灯させると自動装置はすべて“切”や“*2WD*”の状態になり、道路走行に適した設定に切り替わります。



(1) ワンタッチ作業モード設定スイッチ

15.15.1 ワンタッチ作業モードの任意変更

ワンタッチ作業モードで作業中に自動装置の設定を変更したい場合、アームレスト操作部の電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルにより自動装置の設定を変更できます。
再びワンタッチ作業モードを“入”にすると、作業中に変更した設定ではなく、あらかじめ設定された状態になります。

補足：

- **ワンタッチ作業モード状態でキーオフやエンストによりエンジンが停止した場合、再びキーオンするとエンジン停止直前の自動装置の設定になります。**
- **キーオフ状態で、ワンタッチ作業モード設定スイッチを“入”にした場合、あらかじめワンタッチ作業モードで設定された自動状態になります。**
- **キーオフ状態で、ワンタッチ作業モード設定スイッチを“切”にした場合、自動装置はすべて“切”や“*2WD*”の状態になります。**

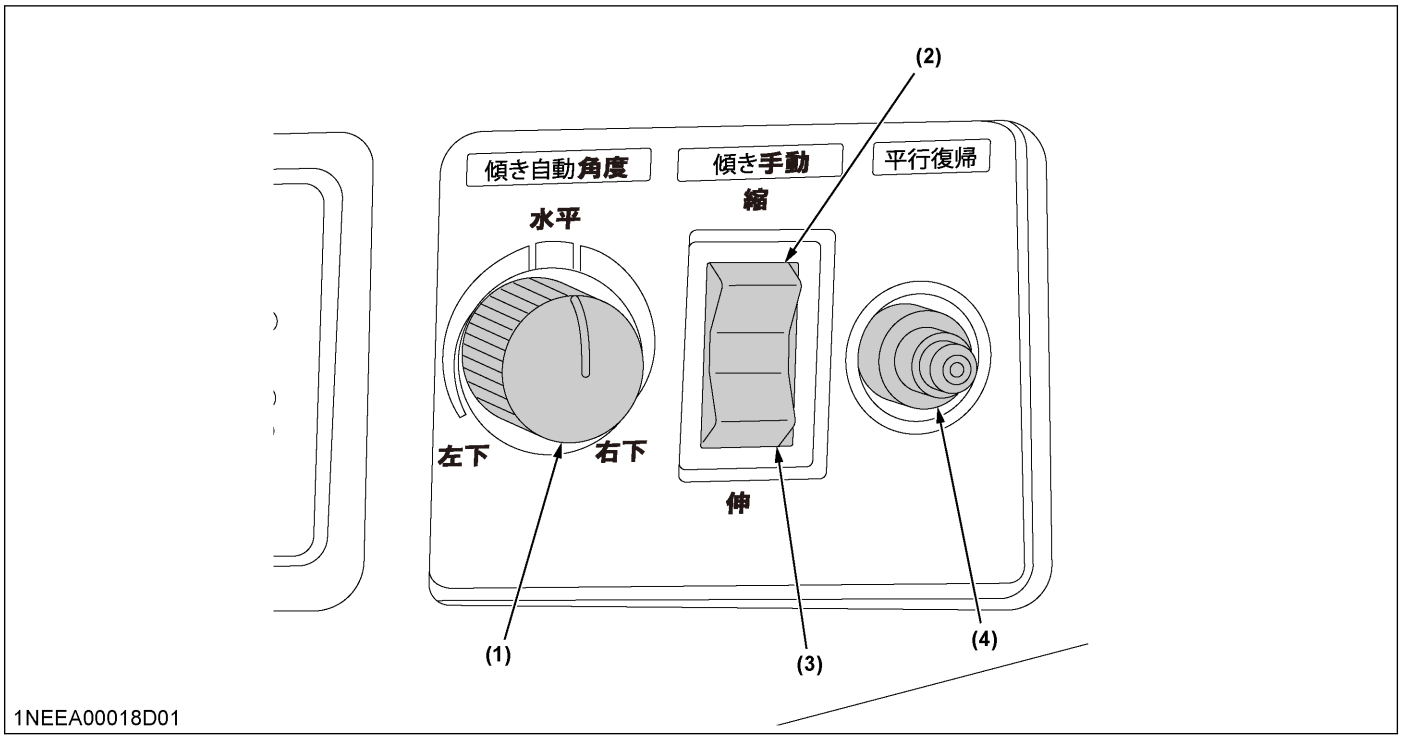
15.15.2 ワンタッチ作業モードの設定変更

よく使用する設定をワンタッチ作業モードとして記憶させることができます。

1. ワンタッチ作業モード設定スイッチを押し、ワンタッチ作業モード設定スイッチのランプを点灯させます。
2. 自動装置の設定を変更します。
   たとえばバックアップが不要な場合、メニュー画面から**[旋回]**>**[バックアップ入切]**を**[OFF]**にしてください。
3. ワンタッチ作業モード設定スイッチを 2 秒間長押しします。
   2 秒後電子メータから“ピ”と音がすれば設定が記憶されます。

16. 傾き自動

16.1 傾き自動の各部の名称



(1) 傾き自動角度調節ダイヤル
(2) 傾き手動スイッチ（縮）
(3) 傾き手動スイッチ（伸）
(4) 平行復帰スイッチ

16.2 傾き自動モード切替

HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[傾き自動]**>**[傾き自動モード]**を開き、傾き自動モードを選択してください。メニュー画面の**[傾き自動モード]**は**[水平]**、**[傾斜]**、**[位置]**があります。作業状況に応じてモードを選んでください。

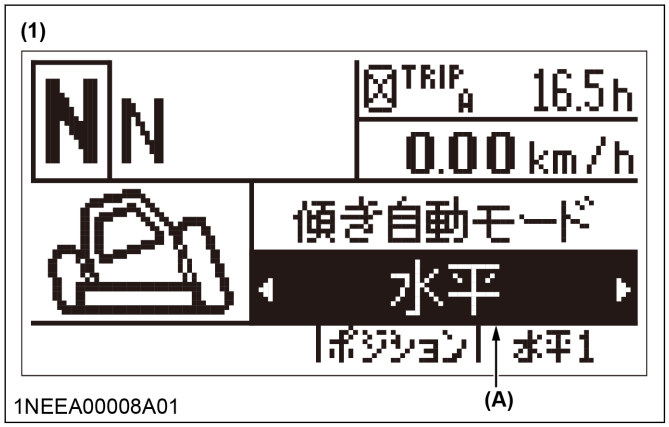
16.2.1 傾き自動モード水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平、または地面に対し一定の角度に保ちたいときに使用します。

重要：
- **フロントローダ作業など傾き自動が不要の場合や走行時には、メニュー画面の[傾き自動モード]は“位置”で作業してください。**
- **チェックチェーンを張りすぎると、傾き自動作業時に３点リンクに無理な力が加わるので、チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。**

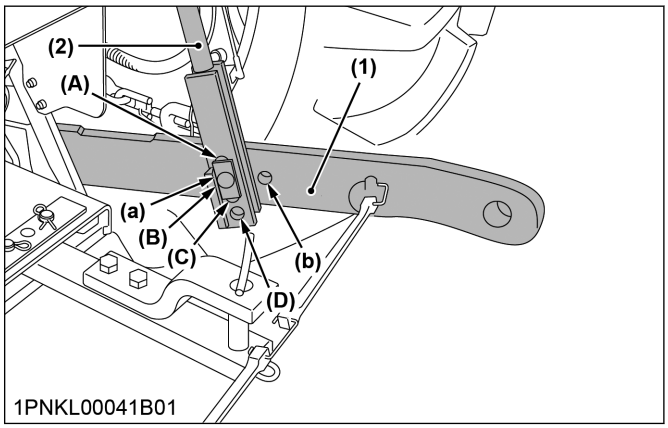
- 傾き自動角度調節ダイヤルが**[水平]**位置の場合、作業機は常に水平に保たれます。
- 傾き自動角度調節ダイヤルが**[水平]**位置以外の場合、作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[傾き自動]>[傾き自動モード]**を開き、**[水平]**を選択します。



(1) 傾き自動モード設定画面　　*(A)* 水平

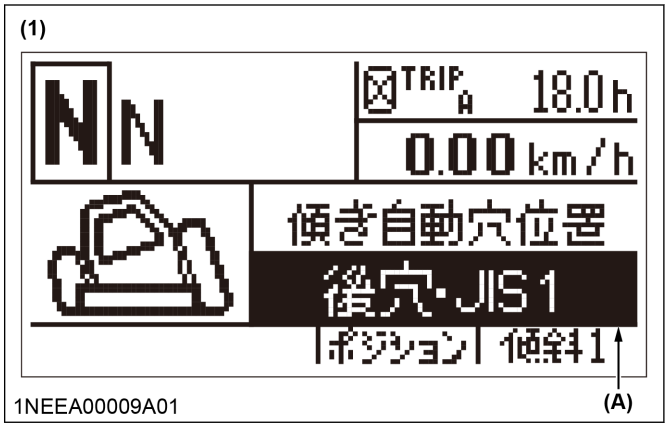
2. メニュー画面から**[傾き自動]>[傾き自動穴位置]**を開き、**[前穴・JIS2]**、**[前穴・JIS1]**、**[後穴・JIS1]**から３点リンクの取付け状態に対応する設定を選択します。
   作業機によって定まる３点リンクの取付け状態（ロアリンク幅、ロアリンク穴、およびリフトロッドまたはシリンダ穴）に応じて、次表を参考に傾き自動穴位置を切り換えてください。



(1) ロアリンク
(2) リフトロッドまたはシリンダ
(A) リフトロッドまたはシリンダ穴 *A*
(B) リフトロッドまたはシリンダ穴 *B*
(C) リフトロッドまたはシリンダ穴 *C*
(D) リフトロッドまたはシリンダ穴 *D*
(a) ロアリンク前穴
(b) ロアリンク後穴

No.	液晶表示	ロアリンク穴位置	リフトロッドまたはシリンダ穴位置	傾き自動ランプ	傾き自動動作	３点リンク	ロアリンク内側寸法
1	**[水平 1]**	後穴	C 穴	点灯	水平制御	JIS 1 型	683 mm
2	**[水平 2]**	前穴					
3	**[水平 3]**	前穴				JIS 2 型	826 mm

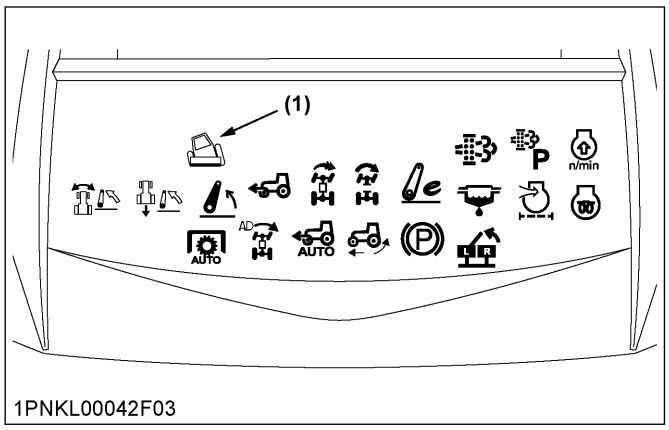
選択状態は液晶画面右下に表示されます。



(1) 傾き自動穴位置設定画面　　*(A)* 後穴・*JIS1*

補足：

- **傾き自動ランプが点滅しているときは、クイックアップ、傾き自動、３点リンク制御の表示（137 ページ）を参照してください。**



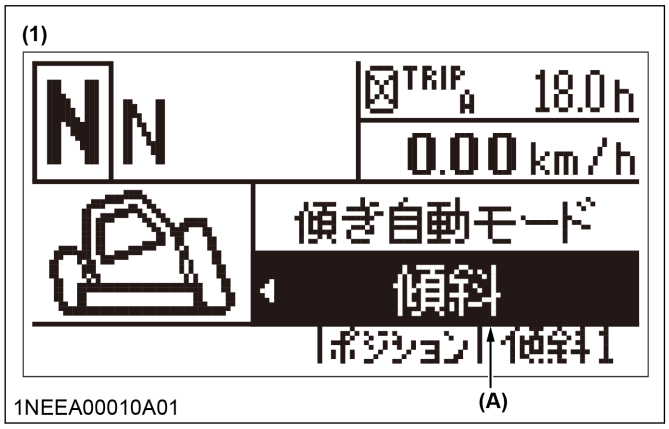
(1) 傾き自動ランプ

- **メニュー画面の[傾き自動モード]が[位置]のときの取扱いは傾き自動モード位置（手動）（114 ページ）を参照してください。**

16.2.2 傾き自動モード傾斜

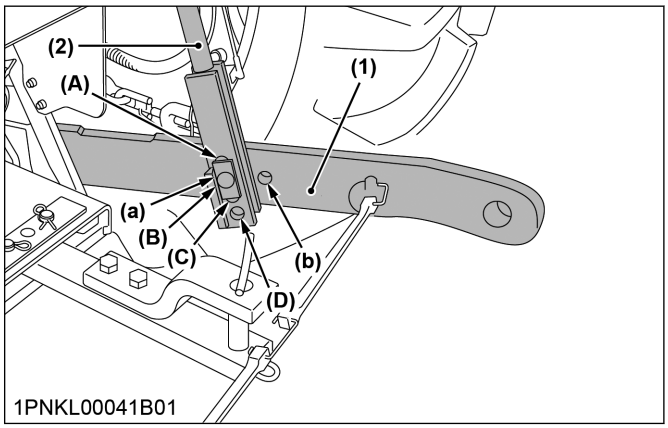
傾斜のあるほ場で作業機を常にほ場面と平行に保ちたいときに使用します。

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[傾き自動]>[傾き自動モード]**を開き、**[傾斜]**を選択します。



(1) 傾き自動モード設定画面 *(A)* 傾斜

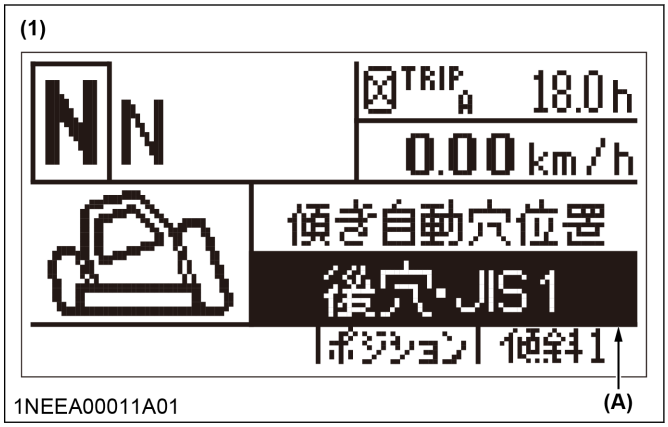
2. メニュー画面から**[傾き自動]>[傾き自動穴位置]**を開き、**[前穴・JIS2]**、**[前穴・JIS1]**、**[後穴・JIS1]**から３点リンクの取付け状態に対応する設定を選択します。
   作業機によって定まる３点リンクの取付け状態（ロアリンク幅、ロアリンク穴、およびリフトロッドまたはシリンダ穴）に応じて、次表を参考に傾き自動穴位置を切り換えてください。



(1) ロアリンク
(2) リフトロッドまたはシリンダ
(A) リフトロッドまたはシリンダ穴 *A*
(B) リフトロッドまたはシリンダ穴 *B*
(C) リフトロッドまたはシリンダ穴 *C*
(D) リフトロッドまたはシリンダ穴 *D*
(a) ロアリンク前穴
(b) ロアリンク後穴

No.	液晶表示	ロアリンク穴位置	リフトロッドまたはシリンダ穴位置	傾き自動ランプ	傾き自動動作	３点リンク	ロアリンク内側寸法
1	**[傾斜 1]**	後穴	C 穴	点灯	水平制御	JIS 1 型	683 mm
2	**[傾斜 2]**	前穴					
3	**[傾斜 3]**	前穴				JIS 2 型	826 mm

選択状態は液晶画面右下に表示されます。



(1) 傾き自動穴位置設定画面
(A) 後穴・*JIS1*

メニュー画面の**[傾き自動モード]**を**[傾斜]**、傾き自動角度調節ダイヤルを**[水平]**位置にすればほとんどの場合きれいに仕上げられますが、やわらかいほ場やかたいほ場では作業機と斜面の傾きが合わない場合があります。そのときは、傾斜地傾き自動の微調整設定を行ってください。

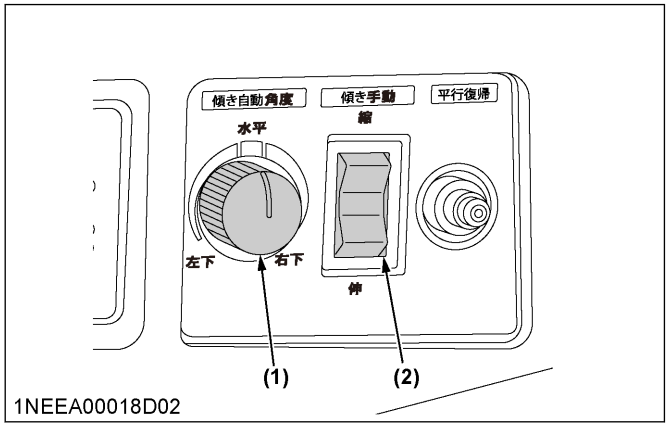
16.2.2.1 傾斜地傾き自動の微調整設定

補足：

- **凹凸が激しいほ場で、じゅうぶんな精度が得られない場合は、メニュー画面の[傾き自動モード]を[位置]（手動）にして使用してください。**
- **調整幅いっぱい動かしても傾きの差が大きいときは、メニュー画面の[傾き自動モード]を[位置]（手動）にして使用してください。**
- **左右のオフセット量が大きく、左右の重量バランスが悪い作業機の場合は、メニュー画面の[傾き自動モード]を[位置]（手動）にして使用してください。**

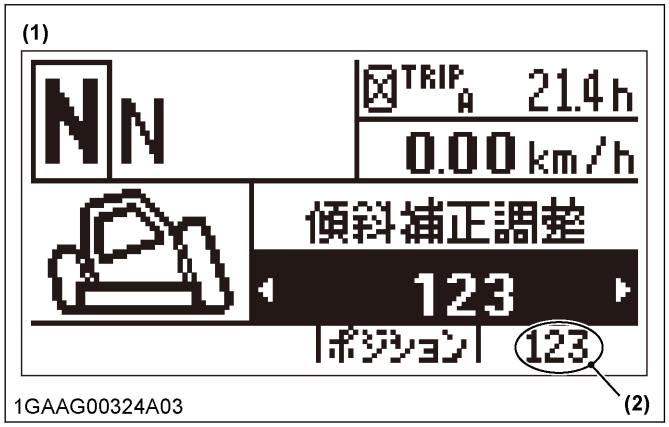
1. トラクタを停車します。

2. メニュー画面から**[傾き自動]>[傾き自動モード]**を開き、**[傾斜]**を選択します。
3. 傾き手動スイッチを押すことで傾き量が変化するので、斜面と作業機の傾きを合わせます。
   またはメニュー画面から**[傾き自動]>[傾斜補正調整]**を開き、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを回して補正値を調整してください。



(1) 傾き自動角度調節ダイヤル　*(2)* 傾き手動スイッチ

調整値は、値の変更時に液晶画面右下に 2 秒間点滅表示されます。



(1) 傾斜補正調整画面　*(2)* 補正値

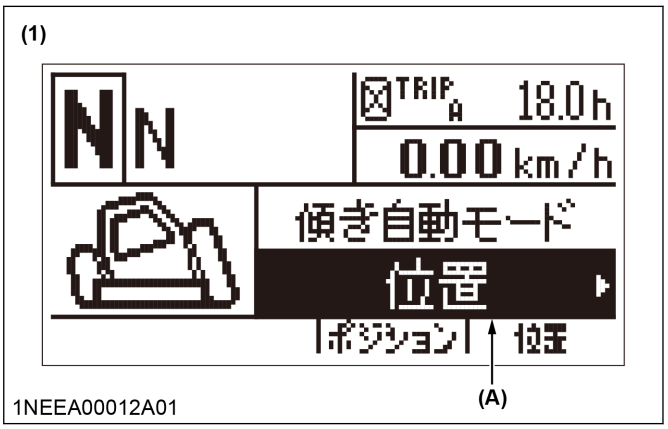
補足：
- **傾斜地では作業機を上端から下ろしたときの車体角度が基準となるため、作業する進行方向を向いた状態で作業機を上端から下ろしてください。**
- **トラクタが水平状態にあるときは、補正値は変わりますが作業機は動きません。**
- **キースイッチを[切]位置にしても補正値を記憶しています。**
- **メニュー画面の[傾き自動モード]を切り替えると補正値は標準値[100]に戻ります。**

16.2.3 傾き自動モード位置（手動）

重要：
- **手動で作業機を傾斜させるとき作業機を上端に上げると、ジョイントの騒音が高くなる場合がありますので注意してください。**

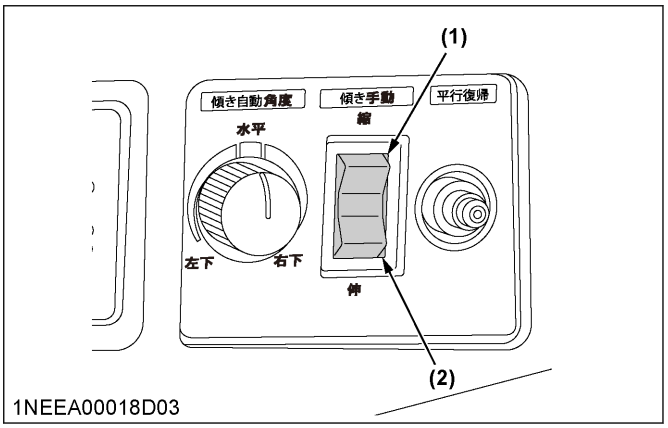
[傾き自動モード]で**[位置]**選択しているとき、傾き自動の自動制御が解除されます。
プラウ作業など地質に応じて耕深を調整する作業で常に傾き自動リフトシリンダ長さを一定に保ちたい場合に位置制御を使用してください。

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作して**[メニュー画面]>[傾き自動]>[傾き自動モード]**を開き、**[位置]**を選択します。



(1) 傾き自動モード設定画面　*(A)* 位置

2. 傾き手動スイッチまたは傾き手動外部操作スイッチを操作し、リフトシリンダ長さを調整します。



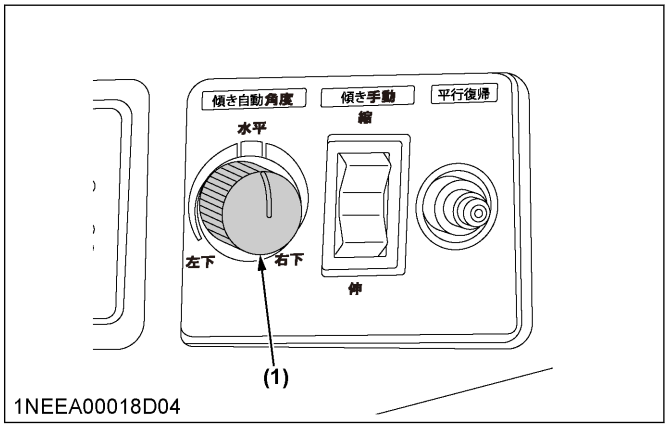
(1) 傾き手動スイッチ（縮）　*(2)* 傾き手動スイッチ（伸）

16.3 傾き自動角度調節ダイヤル

メニュー画面の**[傾き自動モード]**が**[水平]**、**[傾斜]**の場合、作業機の姿勢を調節するときに使用します。
- ダイヤルを中央の**[水平]**位置にすると、作業機は“水平”に保持されます。
- ダイヤルを**[左下]**方向に回すと、作業機が“左下り”に保持されます。

- ダイヤルを**[右下]**方向に回すと、作業機が“右下り”に保持されます。

なお、メニュー画面の**[傾き自動モード]**が**[水平]**、**[傾斜]**の場合、作業機を高さ規制調整ダイヤルでの設定高さ付近まで上げたときは、作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。



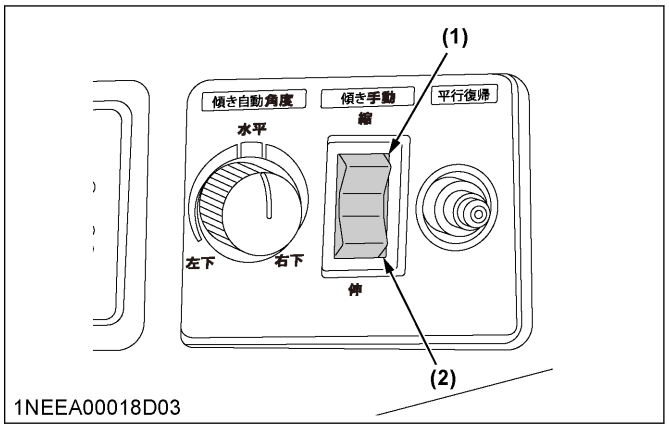
(1) 傾き自動角度調節ダイヤル

16.4 傾き手動スイッチ

作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

重要：

- **スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**



(1) 傾き手動スイッチ（縮）　*(2)* 傾き手動スイッチ（伸）

- “縮”方向へスイッチを押すと、作業機の右側が上がります。
- “伸”方向へスイッチを押すと、作業機の右側が下がります。

補足：

- **メニュー画面の[傾き自動モード]を[水平]にして運転中、傾き手動スイッチまたは傾き手動外部操作スイッチを操作すると、自動水平制御が停止し保持制御となり、傾き自動ランプが点滅します。**
- **メニュー画面の[傾き自動モード]を[傾斜]にしている場合、キースイッチを[切]位置にして、再度キースイッチを[入]位置にしたとき、作業機の傾きが変わっていると保持制御となり、傾き自動ランプが点滅します。**
- **再度自動水平制御に戻すには、傾き自動安全ロックの解除方法（115 ページ）を参照してください。**

16.5 傾き自動の安全ロック機能

傾き自動安全ロック

メニュー画面の**[傾き自動モード]**が**[水平]**、**[傾斜]**のとき、傾き自動角度調節ダイヤル位置と傾き自動リフトシリンダ位置が異なる状態で、次の操作を行ったときには、傾き自動安全ロックが働き、自動制御が停止し、傾き自動ランプが 0.6 秒周期で点滅します。

- エンジン始動時
- 傾き手動外部操作スイッチ操作時
- 傾き手動スイッチ操作時

16.5.1 傾き自動安全ロックの解除方法

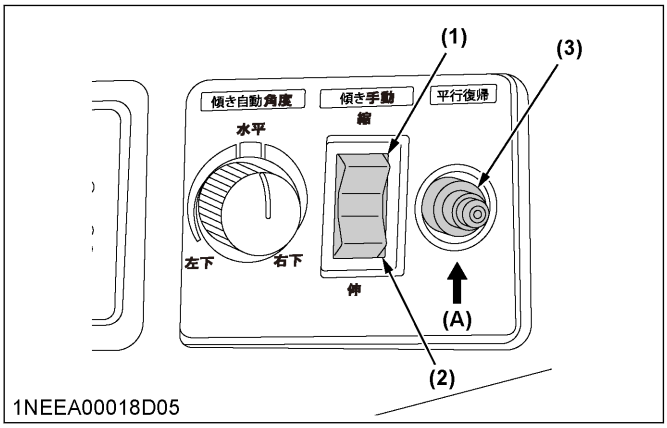
1. 傾き自動安全ロックが働いたときには、次のいずれかの操作で安全ロックを解除します。
   - 平行復帰スイッチを押します。
   - メニュー画面の**[傾き自動モード]**をいったん**[位置]**にセットし、傾き自動ランプ消灯状態にしたのち、再度**[水平]**、**[傾斜]**に入れます。

   補足：
   - **傾き自動安全ロックの解除をしたときは、傾き自動角度調節ダイヤルで設定した位置までシリンダが動きます。**

解除後傾き自動ランプの点灯を確認してください。

16.6 平行復帰制御

傾き自動モード位置（手動）（114 ページ）のとき、傾き手動スイッチでリフトシリンダを適切な長さに合わせ、リバーシブルプラウなど地質に応じて耕深を調整する作業での口開け作業を行った後通常に耕起する場合、平行復帰スイッチを押すだけで常にプラウはトラクタと平行状態または微調整記憶値に保たれます。



(1) 傾き手動スイッチ（縮）　*(A)* 平行復帰
(2) 傾き手動スイッチ（伸）
(3) 平行復帰スイッチ

17. 外部油圧取出し

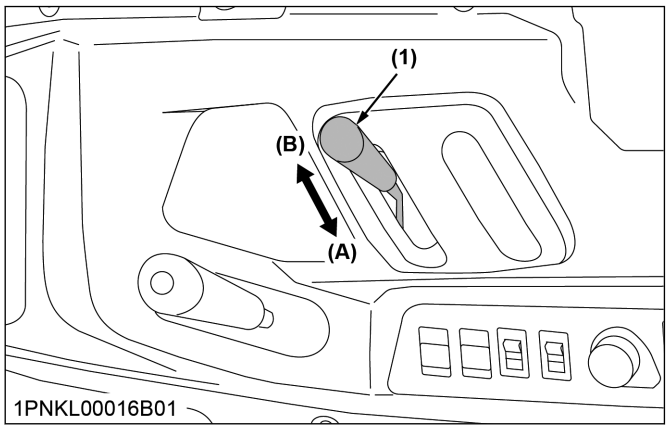
外部油圧取出しに使用する補助コントロールバルブは次のように構成されています。

1 連目
　単複切換え式バルブ
補助コントロールバルブはオプションで最大 4 連まで装着可能です。

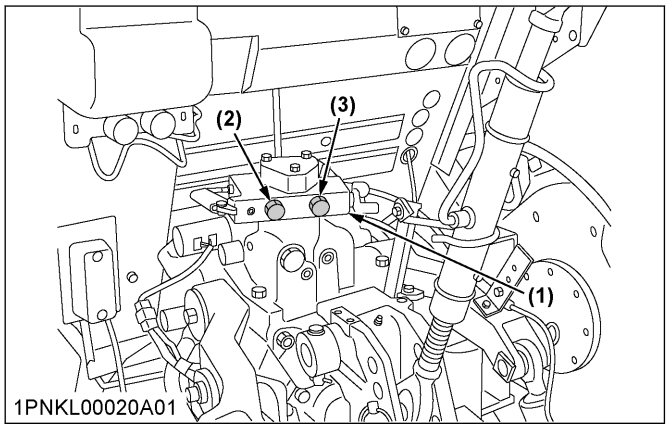
17.1 油圧補助コントロールレバー

重要：
- **補助コントロールバルブを使用するときは、切替えバルブレバーをトレッド固定位置にしてください。**

レバーの操作方向と油の流れは次表のようになっています。作業機側油圧ホースの吐出、戻りの方向を確認し、接続してください。



(1) 油圧補助コントロールレバー（*1* 連目）　*(A)* 手前側　*(B)* 外側



(1) 補助コントロールバルブ（*1* 連目）　*(2)* ポート *1*　*(3)* ポート *2*

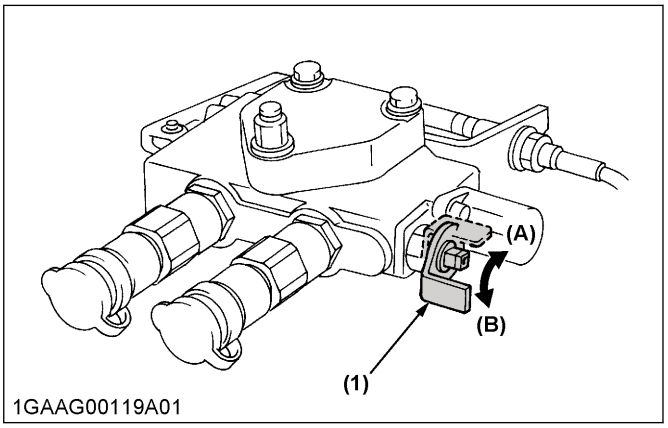
補足：
- **作業機の油圧シリンダが複動の場合、油圧シリンダの圧力側、すなわち負荷が掛かったとき高圧となる側または漏れを発生させたくない側を、ポート 1 に接続してください。ポート 1 のみにチェックバルブが入っています。**

油圧補助コントロールレバー		複動		単動	
		ポート 1	ポート 2	ポート 1	ポート 2
1 連目	手前側	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	—
	外側	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	—

	ネジサイズ
ポート 1、2	G3/8

17.2 補助コントロールバルブ単複切換えつまみ

重要：
- **“単動”の作業機を“複動”の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。使用する作業機に合わせて、切り換えてください。**

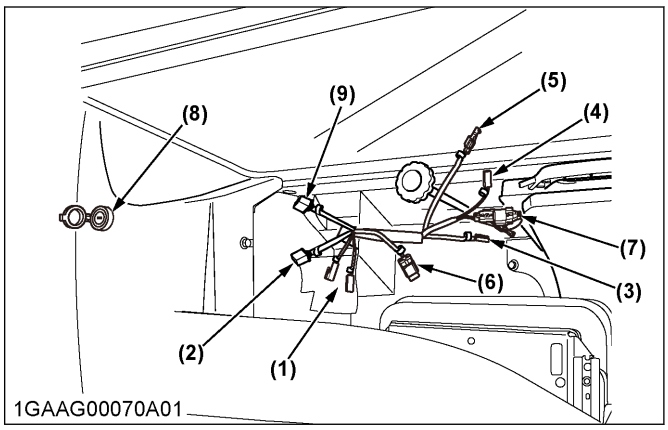


(1) 単複切換えつまみ　*(A)* 単動　*(B)* 複動

18. 外部電源取出端子

18.1 電源取出し

シート後部に電源取出しコネクタとカプラおよび作業機に車速信号を伝達する車速信号カプラがあります。



(1) 予備電源カプラ（*30 A*）
(2) トレーラカプラ
(3) 電源取出しコネクタ *1*（*15 A*）（白）
(4) 車速信号カプラ
(5) *GPS* 信号カプラ
(6) *AG-PORT* コネクタ
(7) レーザレベル
(8) 電源取出しソケット
(9) 電源取出しコネクタ *2*（黒）

(8) 電源取出しソケットと(9) 電源取出しコネクタ 2（黒）は合わせて 10 A です。

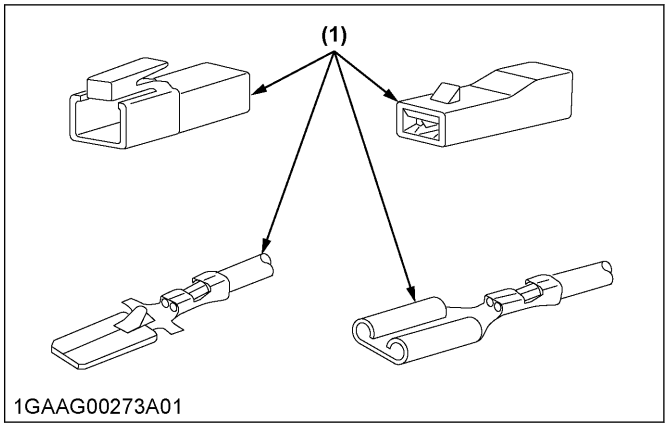
補足：

- **車速信号カプラおよび AG-PORT（アグ・ポート）は接続を必要とする専用作業機にのみ使用してください。出荷時にはキャップを取り付けているので、作業機を使用しないときは必ずキャップを装着してください。故障の原因になります。**

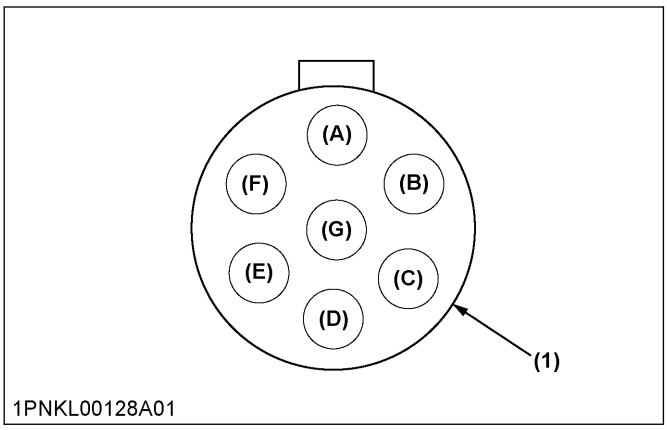
コネクタ

電源カプラ（15 A）用コネクタが必要な場合は、次の品番でお買い求めください。次図部品が 1 個ずつ入っています。

部品名称	品番
キット、コネクタ	99100014500



(1) キット、コネクタ



(1) トレーラ用カプラ

穴	トレーラハーネス	トレーラハーネス（ヨーロッパタイプ）
(A)	アース	方向指示器左（23 W）
(B)	尾灯（8 W） 車幅灯（8 W） 駐車灯（8 W）	後退灯（10 W）
(C)	方向指示器左（23 W）	アース
(D)	制動灯（23 W×2）	方向指示器右（23 W）
(E)	方向指示器右（23 W）	尾灯（8 W） 車幅灯（8 W） 駐車灯（8 W）
(F)	予備	制動灯（23 W×2）
(G)	後退灯（10 W）	予備

18.2 トレーラ用カプラ（オプション）

- トレーラと連結時に用いる電源カプラはオプションなので別途購入してください。
- 電源は図のとおりです。

運転のしかた

運転前の点検

⚠ 警告

- **運転前にブレーキ、クラッチ、ステアリングや安全装置など各部の日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料補給時は、くわえタバコ、裸火照明はしないでください。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。**
- **エンジン周囲のカバー類を開けて点検、整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **エンジン停止後 30 分経過してから開ける。**
  2. **点検、整備で内部に触れるときは、ヤケドのおそれが無いことを確認する。**

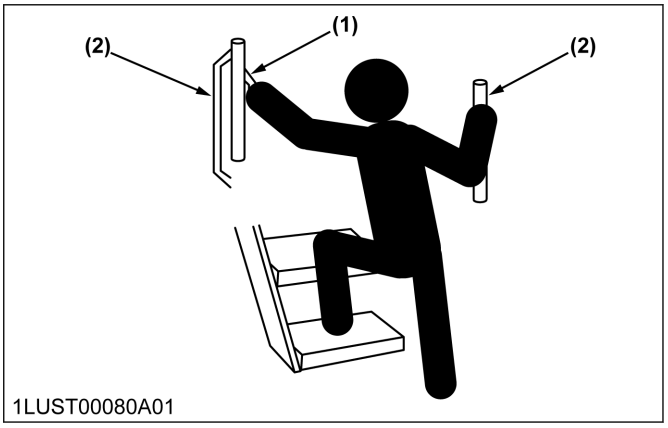
重要：

- **各部の点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。**
- **各部への給油やオイル交換時、使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、必ず指定オイルを使用してください。**

故障を未然に防ぐためには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は 1 日 1 回、運転前に欠かさず行ってください。
（点検方法の詳細は、日常点検（187 ページ）、日常点検［ハーフクローラ仕様］（194 ページ）を参照）

トラクタへの乗降

- トラクタへの飛乗りや飛降りを行わないでください。
- 乗降はトラクタ側に顔を向けて、手すりまたはアシストグリップを掴んで行ってください。トラクタの不意の動きを防ぐため、変速操作レバー類をつかまないでください。
- スリップ事故を防ぐため、ステップやフロアマットは常に清掃してください。



(1) アシストグリップ　　*(2)* 手すり

エンジンの始動と停止

⚠ 警告

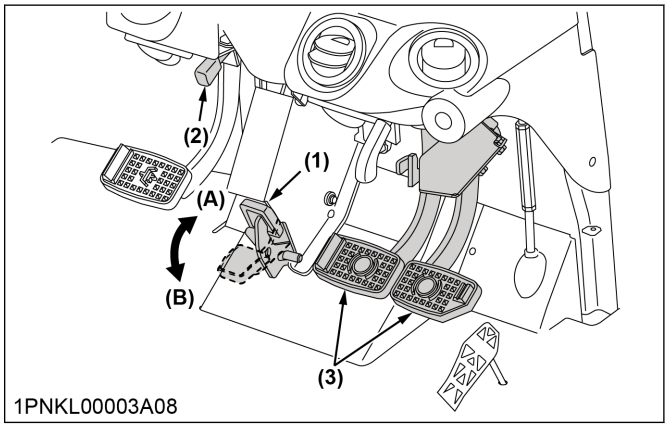
- **本書前編の黄色のページの『安全に作業をするために』の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に、必ずシートに座り、副変速レバー、シャトルレバーや PTO 変速レバーが“中立”（[N]）位置かどうか、また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **PTO スイッチを[切]位置にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため、地上に立ってエンジンを始動したり、スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内など屋内で運転する場合は、じゅうぶんに換気してください。換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。**

1. エンジンの始動のしかた

補足：

- **シャトルレバーを“中立”（[N]）位置、PTO スイッチを[切]位置にしないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。**

1. 連結解除ペダルロックレバーを下げ、連結解除ペダルが踏めないことを確認します。

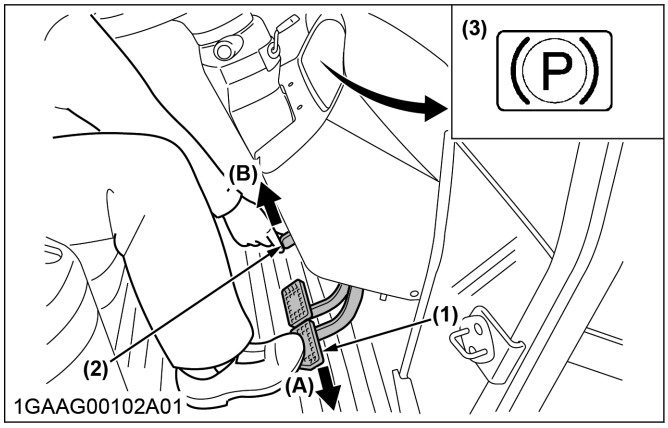


(1) 連結解除ペダル
(2) 連結解除ペダルロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) ロック（格納）
(B) 連結

重要：
- **道路走行時は、必ず連結解除ペダルロックレバーを下げてください。**

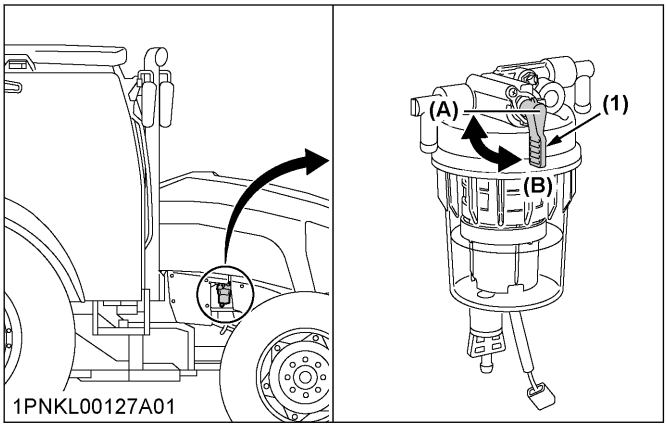
2. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 左右を連結したブレーキペダルを踏み込みます。
   b. レバーを引いたまま足をはなします。

   駐車ブレーキが掛かります。キースイッチ**[入]**位置のとき、駐車ブレーキを掛けるとメータパネル内の Ⓟ ランプが点灯します。



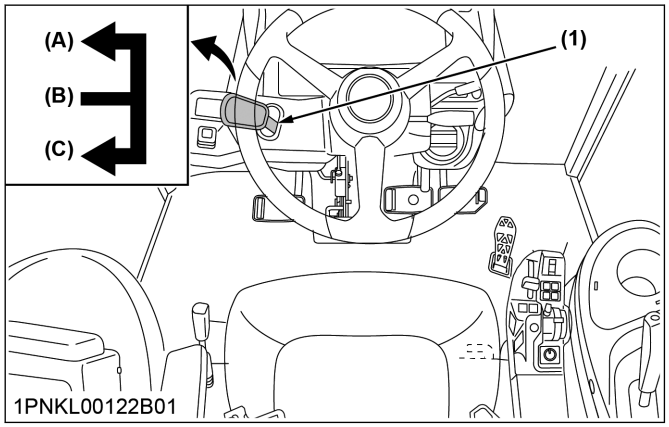
(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) 駐車ブレーキ警告灯
(A) ブレーキ作動
(B) 駐車ブレーキ作動

3. 燃料コックを“開”位置にします。



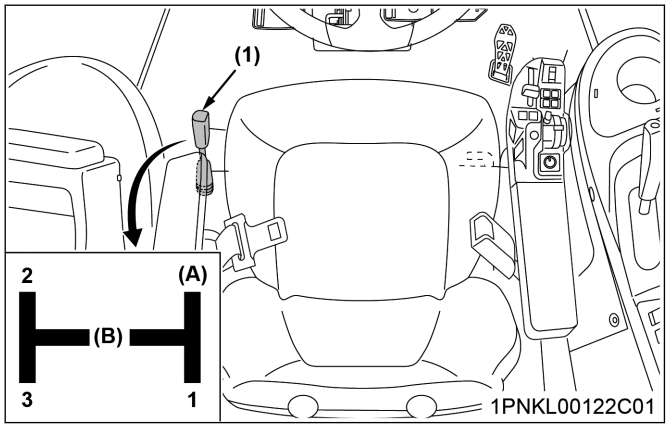
(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

4. シャトルレバー、PTO 変速レバーを“中立”（**[N]**）位置にします。



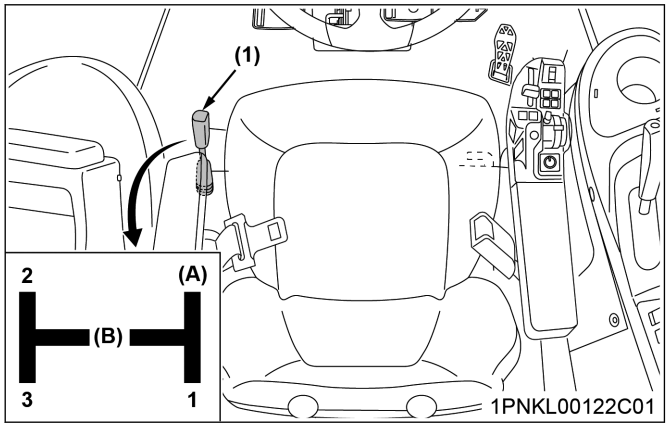
(1) シャトルレバー
(A) 前進
(B) 中立
(C) 後進

[逆転 PTO 仕様]の PTO 変速レバー



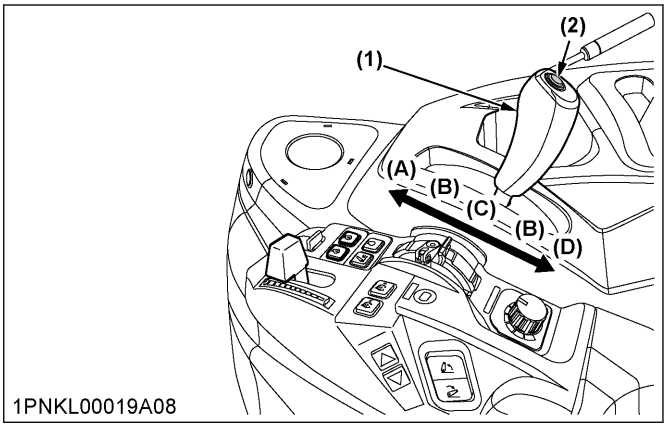
(1) *PTO* 変速レバー
(A) 逆転 *PTO*
(B) 中立

[グランド PTO 仕様]の PTO 変速レバー



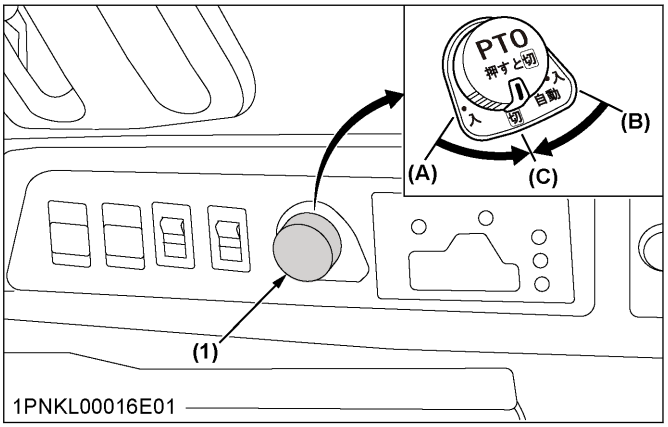
(1) *PTO* 変速レバー
(A) グランド *PTO*
(B) 中立

5. 副変速レバーを“中立”（**[N]**）位置にします。



(1) 副変速レバー
(2) クラッチボタン
(A) 高速（*H*）
(B) 中立（*N*）
(C) 中速（*M*）
(D) 低速（*L*）

6. PTO スイッチを**[切]**位置にします。

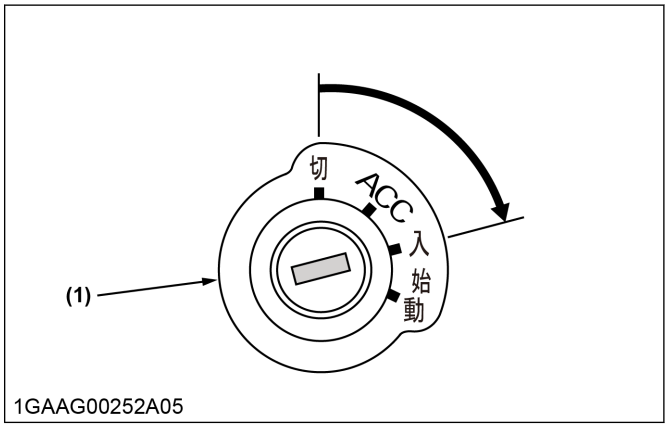


(1) *PTO* スイッチ
(A) *PTO* 入
(B) 入 自動（上昇 *PTO* 停止モード入）
(C) 切

補足：

- **出荷時は独立 PTO が設定されています。**
- **連動 PTO に設定したときは、[入 自動]でも連動します。**

7. キースイッチにキーを差し込み**[入]**位置にします。



(1) キースイッチ

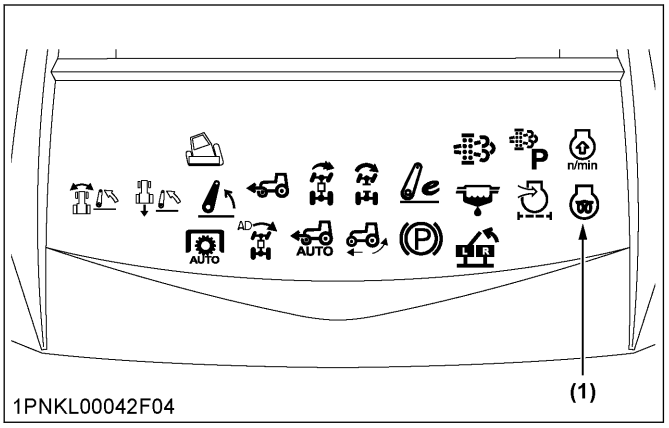
補足：

- **キースイッチをいきなり[始動]位置にして、アクセルレバーを急激に高速にしたり、アクセルペダルを急激に踏み込むと青白煙を排出することがありますが、異常ではありません。**
  青白煙が気に掛かる場合は、燃料をじゅうぶんに行き渡らせるため、キースイッチを[入]位置で 5 秒程度保持し、[始動]位置にしてください。
- **キースイッチを[入]位置にすると、ランプ切れチェックのため約 1 秒間点灯するランプがあります。**
  （各ランプの詳細は、モニタランプ（89 ページ）を参照）

8. 液晶画面のメッセージ表示部に暗証番号入力画面が表示された場合は、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルで 3 桁の暗証番号を入力します。
   （セキュリティ機能の“入”と“切”の切替えや暗証番号入力方法や変更についての詳細は、エンジン始動セキュリティ機能（90 ページ）を参照）

   補足：
   - **工場出荷時は、セキュリティ機能は“切”になっています。**
   - **暗証番号を連続して 10 回誤入力すると、液晶画面のメッセージ表示部に〝暗証番号エラー 購入先へ連絡して下さい〟と表示され、エンジン始動が不可能となります。この場合は購入先に連絡してください。**
   - **エンジン停止後、10 分以内であれば、暗証番号を入力せずにエンジン再始動が可能です。**

9. 冷却水温が低い寒冷時の場合は、エンジン予熱ランプが消灯したことを確認し、セルモータを回します。

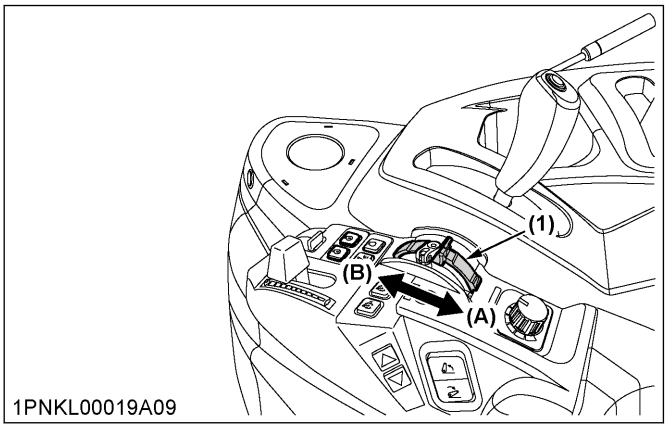


(1) エンジン予熱ランプ

補足：

- **“オートグロー”機能により、冷却水温が低いとき、キースイッチを[入]位置にするとエンジン予熱ランプが点灯し、予熱が完了すると、自動的に消灯します。**

10. 作業機を下げます。
    a. ポジションレバーをいったん最上昇位置まで上げた後、前方に倒します。



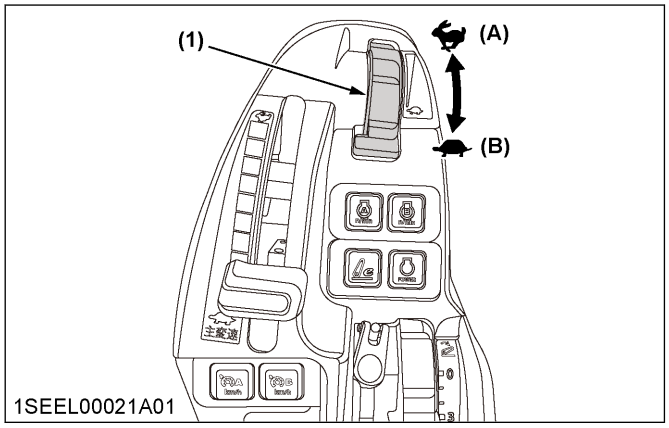
(1) ポジションレバー
(A) 上げ
(B) 下げ

作業機が下がります。

補足：

- **油圧ロックされている場合は下がりません。（作業機昇降装置の各部の名称（100 ページ）を参照）**
- **クイックアップランプが点滅している場合は、ポジションレバーを後方に引き点滅を解除してください。**

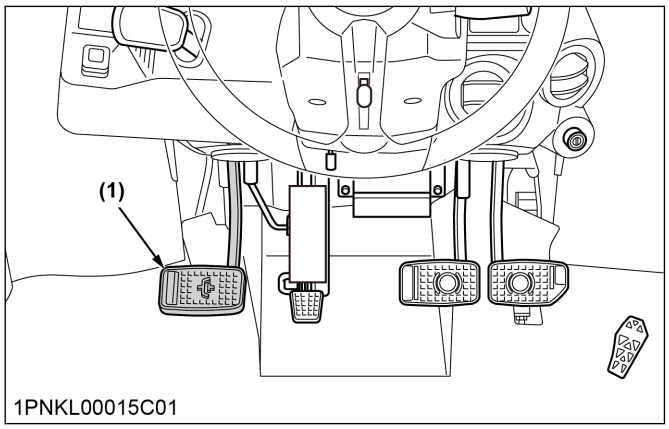
11. アクセルレバーを“低速”に合わせます。
エンジン回転上限設定ダイヤルを 🐢 方向にセットしている場合、アクセルレバーを操作しても規定値以上には回転が上がりません。ダイヤルを右方向 🐇 位置までいっぱいに回してください。



(1) アクセルレバー *(A)* 高速 *(B)* 低速

12. クラッチペダルを踏み込みます。

補足：
- **エンジンはクラッチペダルを踏み込まなくても始動できますが、安全確保のため踏み込んでください。**



(1) クラッチペダル

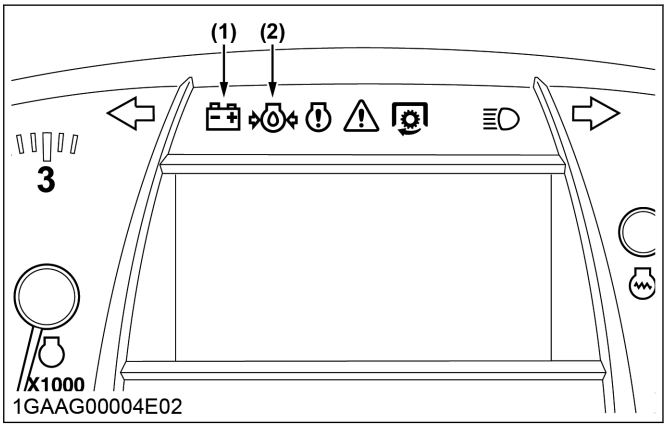
13. キーを**[始動]**位置に回します。

重要：
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。**
10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30 秒以上休止した後、手順 7 からの操作を繰り返してください。

14. エンジンが始動したら、キーから手をはなします。
キーが**[入]**位置に戻ります。

重要：
- **エンジン回転中は、キーを[始動]位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。**

15. バッテリチャージランプ、エンジンオイル油圧警告灯が消灯したか確認します。



(1) バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯） *(2)* エンジンオイル油圧警告灯

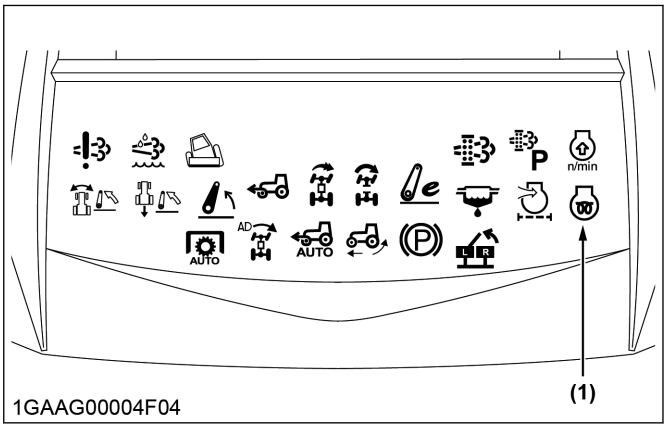
16. エンジン回転を下げ、クラッチペダルからゆっくり足を離し、そのまま 5 分程度暖機運転します。
寒冷時は、寒冷時の暖機運転（129 ページ）を参照して暖機運転してください。

補足：
- **寒冷時の始動直後約 1 分程度、青白煙を排出することがありますが、異常ではありません。また、それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも、エンジンがじゅうぶんに加熱されれば、インジェクタの詰まりなどの故障でないかぎり青白煙は消えます。**

1.1 寒冷時の始動方法

外気温が 0 ℃以下でエンジンが冷えている場合、次の手順で始動してください。

1. キースイッチを**[入]**位置に回し、エンジン予熱ランプが消灯するまで待ちます。
エンジン予熱ランプは冷却水温が 0 ℃以下のときに点灯し、予熱が完了すると消灯します。



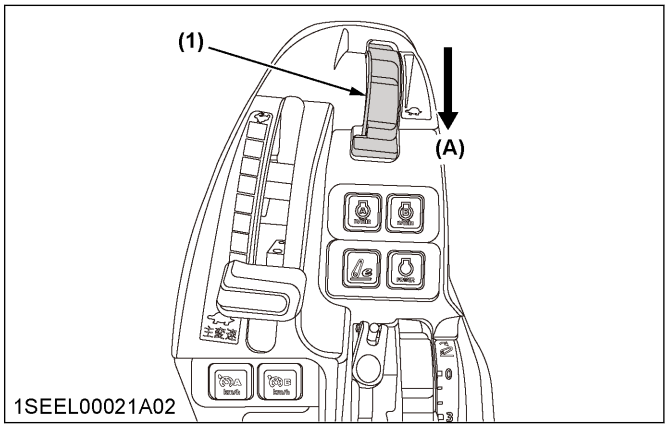
(1) エンジン予熱ランプ

2. キースイッチを**[始動]**位置に回しエンジンを始動します。

重要：
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は避けてください。10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。**
- **外気温が-20 ℃以下の環境で使用することが想定される場合は購入先にご相談ください。**

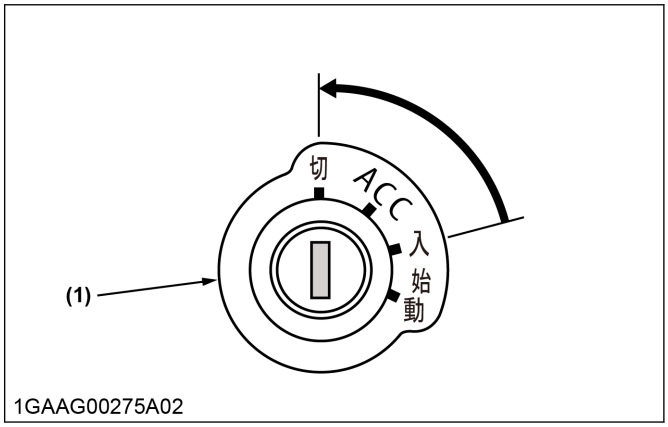
2. エンジンの停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい後へ引き、アイドリング状態にします。



(1) アクセルレバー　　*(A)* アイドリング

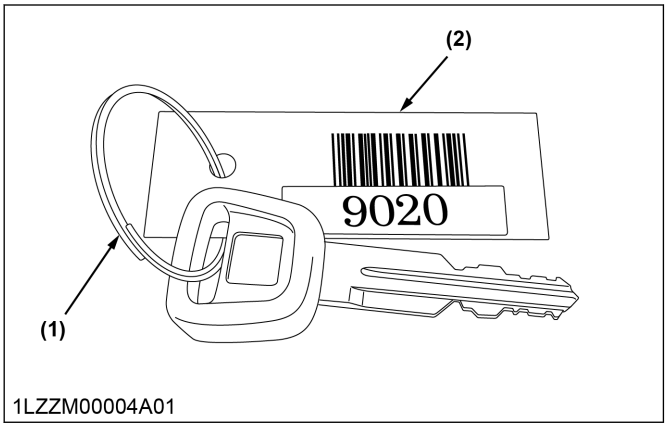
2. キースイッチのキーを**[切]**位置にします、エンジンが停止します。



(1) キースイッチ

重要：
- **エンジンの停止は､5 分間アイドリング運転してからにしてください。**
  高速負荷運転後、急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

3. キーを必ず抜きます。



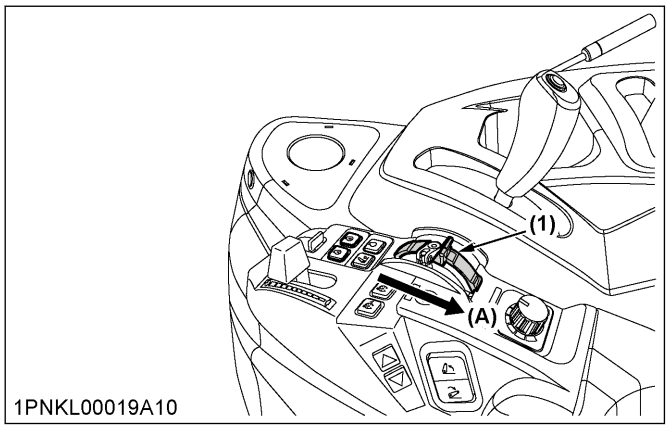
(1) キーリング　　*(2)* キーナンバー票

重要：
- **キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため、必ずキーは抜いてください。**
- **キーリングに付属しているキーナンバー票は、キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか、キーナンバー票を大切に保管してください。**

トラクタの発進と走行

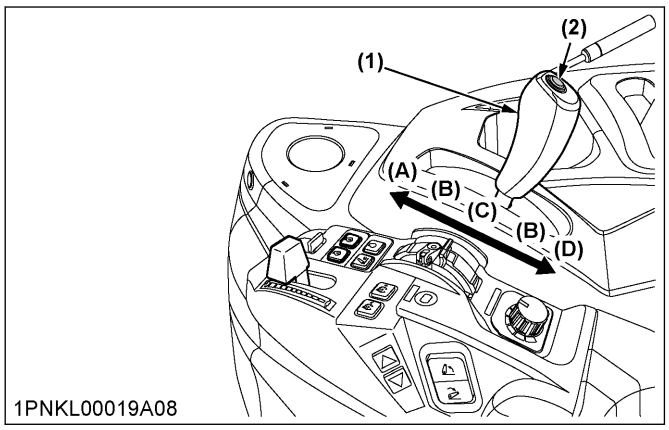
⚠ 警告
- **トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し、付近に人、特に子供を近づけないでください。また、安全キャブや安全フレームに当たる障害物が無いかも確認してください。**
- **子供はもちろん、運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。**
- **溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。**
- **急な坂道の登坂はバックで行うか、作業機をできるだけ下げ、転倒防止に心掛けてください。**
- **下り坂は、エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。**
- **負荷の高いけん引をする場合や湿田脱出の場合には、徐々に発進し、トラクタが後へ転倒しないように注意してください。**
- **高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。**
- **後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。周囲の状況をよくみて、安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて、安全な速度で後進してください。また後進中は、特に周囲の状況によく注意して運転してください。**
- **運転席足元に空缶、部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり、ブレーキ操作、クラッチ操作ができなくなり危険です。**

1. 運転席の位置を調節します。
（運転席周りの調節（50 ページ）を参照）
2. 灯火類のスイッチの位置を確認します。
（灯火類の操作（53 ページ）を参照）
3. エンジンを始動します。
（エンジンの始動のしかた（118 ページ）を参照）
4. ポジションレバーを後方に引き作業機を上げます。
（作業機昇降装置（100 ページ）を参照）



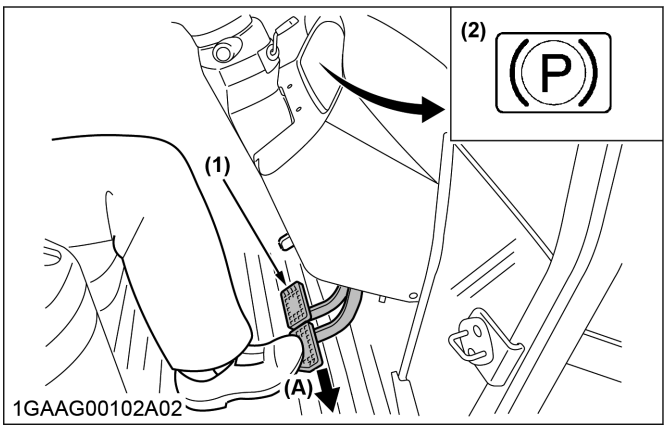
(1) ポジションレバー　　*(A)* 作業機上げ方向

5. 走行モードを“*2WD*”、“*4WD*”、“倍速”、“*AD*”、“旋回*2WD*”から選択します。
（走行モード切替スイッチ（60 ページ）を参照）
6. 副変速レバーのクラッチボタンを押しながら、副変速レバーで車速段を選択します。



(1) 副変速レバー
(2) クラッチボタン
(A) 高速（*H*）
(B) 中立（*N*）
(C) 中速（*M*）
(D) 低速（*L*）

7. エンジン回転数を調整します。
（アクセルレバー（57 ページ）、アクセルペダル（57 ページ）を参照）
8. 駐車ブレーキを解除します。
   a. 連結解除ペダルを踏み込まないで、ブレーキペダルを踏み込みます。
   なお、ブレーキペダルは手順 10 まで踏み続けてください。



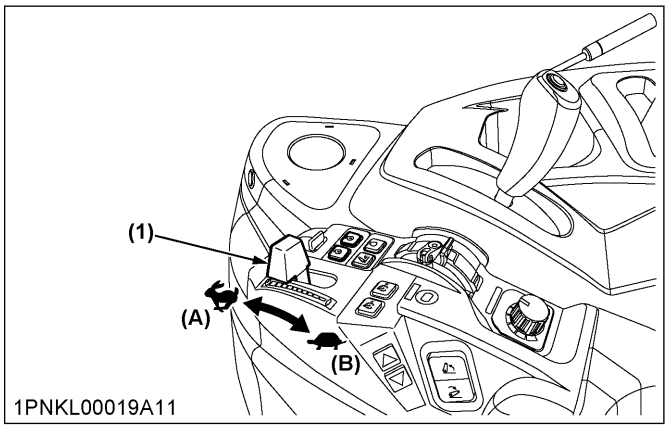
(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキ警告灯
(A) 解除

駐車ブレーキが解除され、電子メータ内の (Ⓟ) ランプが消灯します。

補足：
- **駐車ブレーキを掛けたまま発進しようとすると、警告ブザーが鳴ります。**
- **もしブザーが鳴ったときには、次のいずれかの操作を行うとブザーが止まります。**
  - **駐車ブレーキを解除する。**
  - **シャトルレバーを“中立”（[N]）位置に戻す。**
  - **副変速レバーを“中立”（[N]）位置に戻す。**

9. シャトルレバーを“前進”または“後進”に入れます。
（シャトルレバー（59 ページ）を参照）
10. 主変速レバーを前方方向に倒し、ブレーキペダルを離します。
トラクタが動き始めます。

11. 電子メータパネルで車速を確認しながら希望車速まで増速します。
（アクセルレバー（57 ページ）、アクセルペダル（57 ページ）を参照）



(1) 主変速レバー　*(A)* 増速　*(B)* 減速

補足：
- **発進時より希望車速（高速）で走行したい場合、主変速レバー位置を電子メータパネルに表示される車速に合わせてから、クラッチペダルで発進してください。**
- **ブレーキペダル操作のみで発進、停車が行えます。ブレーキペダルより足を離すと、主変速レバーで設定した車速までスムーズに増速します。**
- **ブレーキペダル連結状態でペダルを踏み込むと、ペダルの踏込み量に応じて減速や停車でき、坂道発進もトラクタがバックすること無くスムーズに行えます。**
- **ブレーキで停止する際、トランスミッション部の前側からの音が大きくなる場合があります。**
- **副変速レバーが[H]位置のとき、エンジン回転上限数は次表の数値となります。**
また、エンジン回転上限設定で次表の数値より高いエンジン回転数を設定しても、次表の数値が上限となります。
（詳細は、エンジン回転上限設定（94 ページ）を参照）

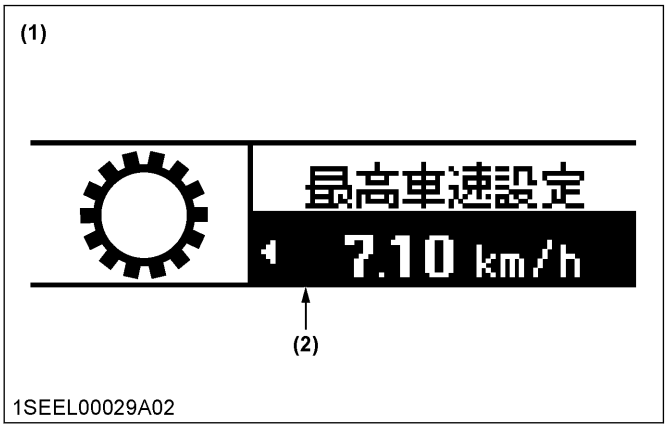
トラクタ仕様	エンジン回転上限数
[ホイール仕様]	2600 n/min
[ハーフクローラ仕様]	2300 n/min

1. 最高車速設定

不用意に車速を上げすぎないよう最高車速を制限できます。

1.1 最高車速の設定方法

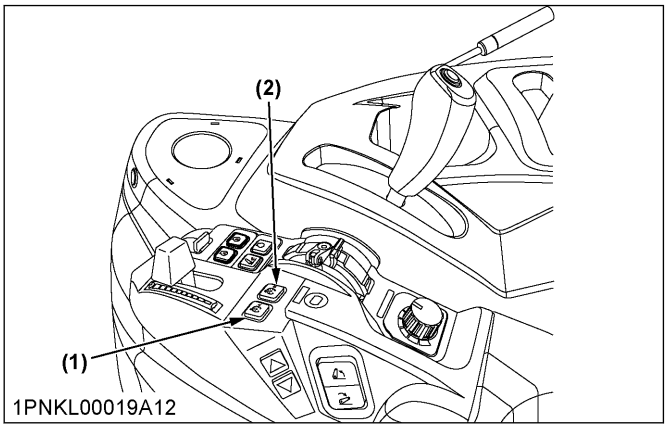
1. 副変速レバーを**[H]**位置、**[M]**位置、または**[L]**位置のいずれかに設定します。
2. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[ミッション]>[最高車速設定]**を選択します。
3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し最高車速を設定します。



(1) 最高車速設定画面　*(2)* 最高車速設定値

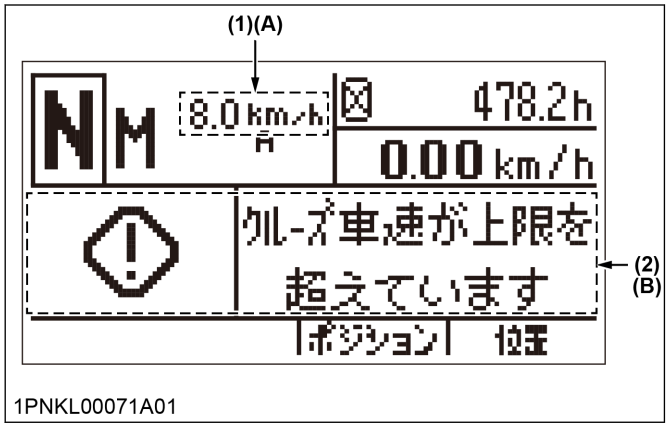
2. クルーズ車速設定

クルーズ車速スイッチ A または B を使用すると、車速をワンタッチで設定でき、面倒な主変速レバー操作が不要となります。



(1) クルーズ車速スイッチ *A*　*(2)* クルーズ車速スイッチ *B*

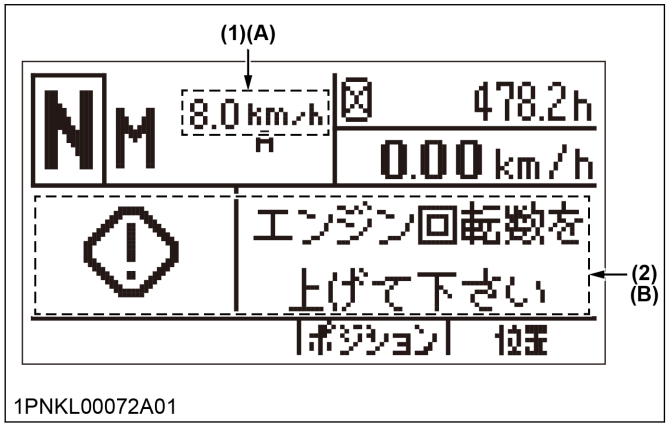
補足：
- **副変速レバーが[H]位置のときは使用できません。**
- **アクセル連動中は使用できません。**
- **最高車速設定値よりクルーズ車速の値を高く設定した場合、最高車速設定が優先されるためクルーズ車速まで上昇しません。この場合、液晶表示部に次図のように表示されます。**



1PNKL00071A01

(1) クルーズ車速　　*(A)* 点滅
(2) 警告メッセージ　　*(B)* 2 秒間表示

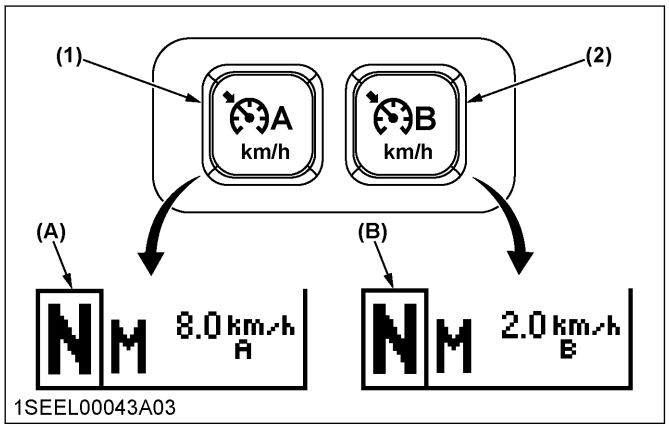
- **エンジン回転数が低いと、クルーズ車速まで上昇しないことがあります。この場合、液晶表示部に次図のように表示されます。**



1PNKL00072A01

(1) クルーズ車速　　*(A)* 点滅
(2) 警告メッセージ　　*(B)* 2 秒間表示

使用例
たとえばクルーズ車速 A 設定に 8 km/h、クルーズ車速 B 設定に 2 km/h をセットしたとします。



1SEEL00043A03

(1) クルーズ車速スイッチ *A*　　*(A)* クルーズ車速 *A* 設定
(2) クルーズ車速スイッチ *B*　　*(B)* クルーズ車速 *B* 設定

作業時
クルーズ車速スイッチ A を押すことで車速が自動的に 8.0 km/h にセットされます。

旋回時
クルーズ車速スイッチ B を押すことで車速が 2.0 km/h に下がり、低速で旋回できます。旋回後に再度スイッチ A を押すと 8.0 km/h となります。

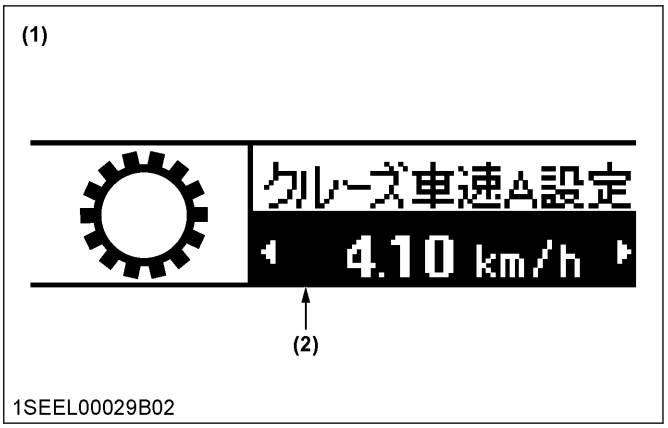
補足：
- **主変速レバーは“最低速”位置より少し高くしてください。最低速位置ではスイッチは作動しません。**
- **工場出荷時の設定は、次表のとおりです。**

副変速レバー位置	クルーズ車速 A 設定	クルーズ車速 B 設定
[M]位置	8.0 km/h	5.0 km/h
[L]位置	4.0 km/h	2.0 km/h

解除方法
次のいずれかでクルーズ車速設定を解除してください。
- 作動中のクルーズ車速スイッチを押す。
- 主変速レバーを“最低速”位置に戻す。
- キースイッチを**[切]**位置にする。

2.1 クルーズ車速の設定変更

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[ミッション]**>**[クルーズ車速 A 設定]**または**[クルーズ車速 B 設定]**を選択します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し車速を設定します。



1SEEL00029B02

(1) クルーズ車速 *A* 設定画面　　*(2)* クルーズ車速 *A* 設定値

2.2 現在のクルーズ車速の記憶

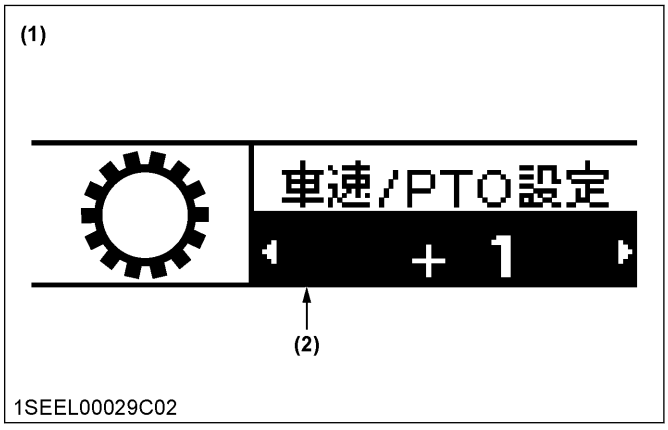
主変速レバーやアクセルによって現在指示している車速を**[クルーズ車速 A 設定]**または**[クルーズ車速 B 設定]**に記憶できます。

1. 主変速レバーやアクセルを操作して、記憶したいクルーズ車速にします。
2. クルーズ車速スイッチ A またはクルーズ車速スイッチ B を長押しします。
“ピピッ”と音が鳴り、車速が**[クルーズ車速 A 設定]**または**[クルーズ車速 B 設定]**に記憶されます。

2.3 クルーズ使用時の車速または PTO の選択

メニュー画面の**[車速/PTO 設定]**は、クルーズ使用時のエンジン回転変動による車速変動に対して、変速を自動制御する設定です。この変速の自動制御により車速を一定にすることを優先するか PTO 回転を一定にすることを優先するかを選択できます。

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[ミッション]>[車速/PTO 設定]**を選択します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し設定値を選択します。
   車速を優先したい場合はプラス側に、PTO 回転数を優先したい場合はマイナス側に設定してください。



(1) 車速/*PTO* 設定画面　　*(2)* 車速または *PTO* 設定値

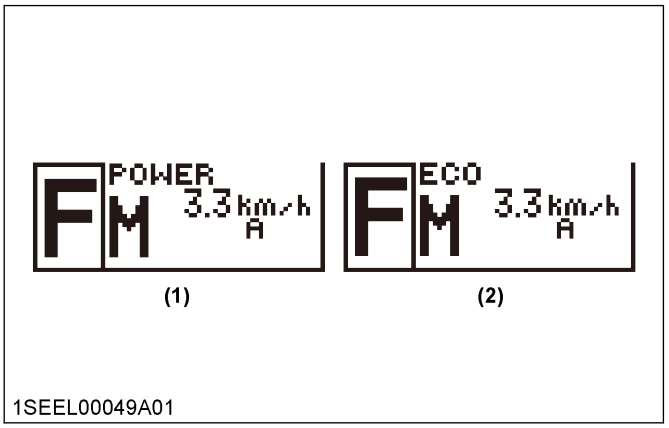
補足：
- **PTO 優先（マイナス側）を設定する場合は、パワーアシストモードを推奨します。**
- **工場出荷時の設定は[-5]です。**

2.4 クルーズ使用時のパワーまたはエコの選択

メニュー画面の**[パワー/エコ]**は、クルーズ使用時に作業負荷に応じて、エンジン回転数と変速を自動制御する設定です。このエンジン回転数と変速の自動制御により“パワー動作”となるか“エコ動作”となるかを選択できます。

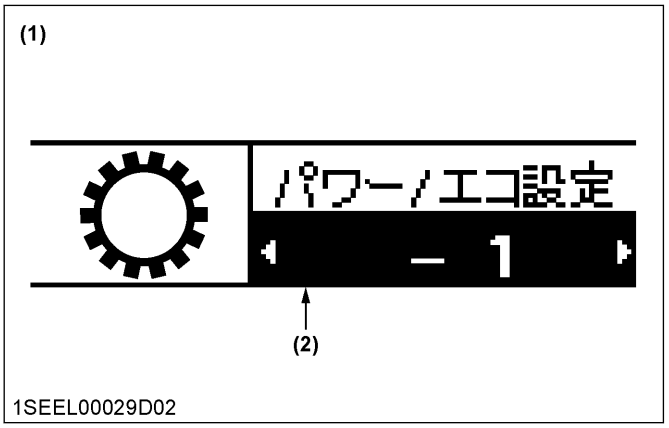
- “パワー”（プラス）側に設定すると、作業負荷が大きい場合に車速が一定のままエンジン回転数が上がり、牽引力がアップします。
- “エコ”（マイナス）側に設定すると、作業負荷が小さい場合に車速が一定のままエンジン回転数が下がり、省エネで作業できます。

液晶表示部の通常画面左上の表示



(1) パワー動作時表示　　*(2)* エコ動作時表示

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[ミッション]>[パワー/エコ設定]**を選択します。
2. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し設定値を選択します。
   負荷が大きい作業を行うときはプラス側に設定し、負荷が小さい作業を行うときはマイナス側に設定してください。



(1) パワー/エコ設定画面　　*(2)* パワーまたはエコ設定値

補足：
- **PTO 回転の変動が作業精度に影響を与える収穫機や播種機など PTO 回転数指定作業機では、[0]設定を推奨します。**
- **工場出荷時の設定は[0]です。**

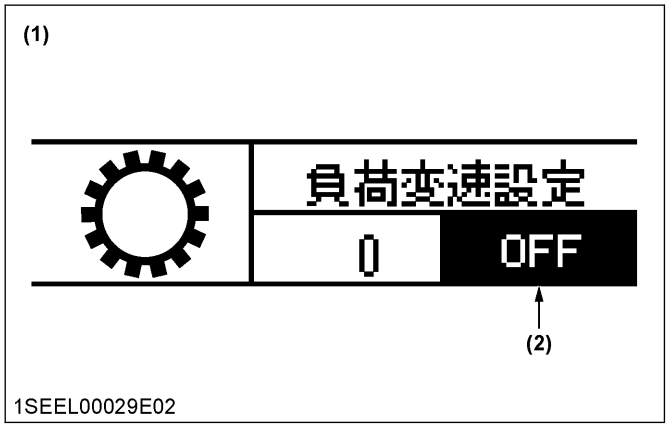
3. 負荷変速設定

ほ場の起伏や土質の変化など作業環境により負荷が大きい場合に車速を自動で減速し、負荷が軽減すると自動でもとの車速まで復帰します。

3.1 負荷変速の ON、OFF 設定

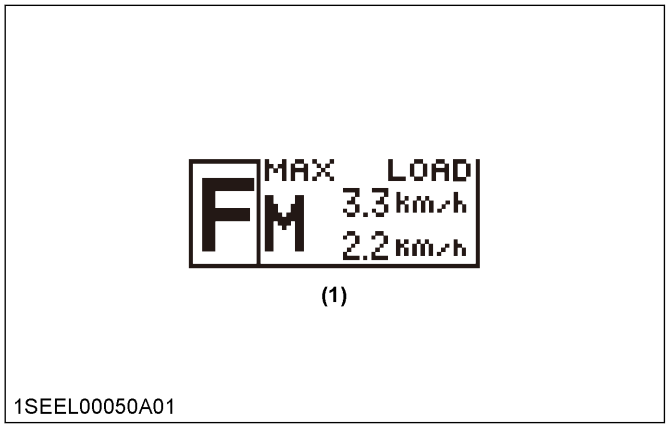
1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[ミッション]>[負荷変速設定]**を選択します。
2. 設定項目右側の ON、OFF 設定を選択します。

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し負荷変速を**[ON]**または**[OFF]**に切り替えます。



(1) 負荷変速設定画面　　*(2)* *ON*、*OFF* 設定

[ON]を選択すると、液晶表示部の通常画面の左上は次のような表示になります。



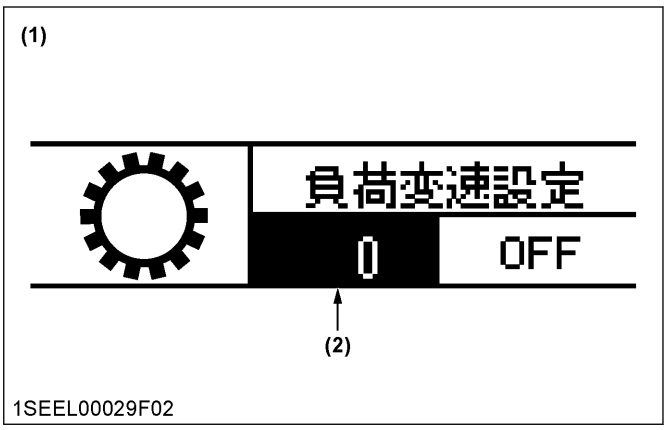
(1) 負荷変速減速動作時表示

補足：
- **工場出荷時の設定は[OFF]です。**

3.2 負荷変速感度の設定

負荷に対する減速動作の感度を設定します。

1. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から**[ミッション]**>**[負荷変速設定]**を選択します。
2. 設定項目左側の負荷変速感度設定を選択します。
3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを左右に回し負荷変速感度の値を選択します。
   値が大きいほど負荷に対して車速が変わりやすく、値が小さいほど負荷に対して車速が変わりにくくなります。



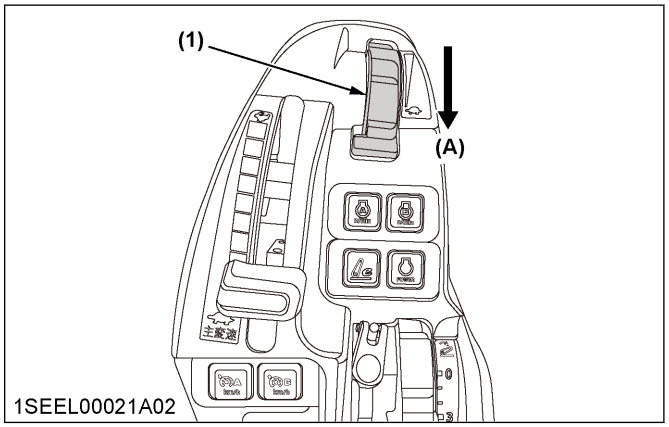
(1) 負荷変速設定画面　　*(2)* 負荷変速感度設定

補足：
- **工場出荷時の設定は[50]です。**

トラクタの停止と駐車

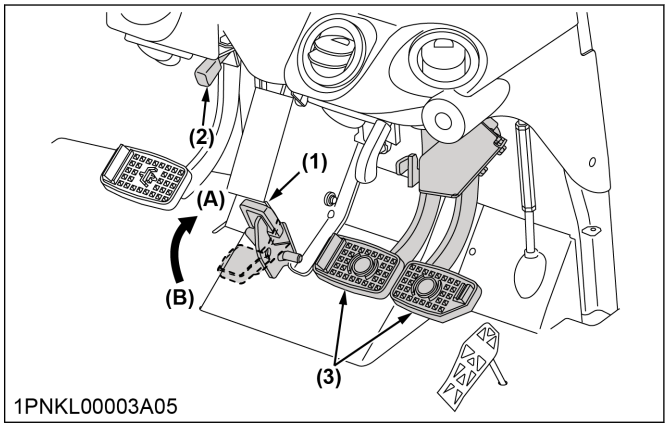
⚠ 警告
- **駐車ブレーキのみで駐車するとトラクタが動き危険です。本機はブレーキ操作のみで発進や停車できますが、駐車するときは必ずシャトルレバーを“中立”（[N]）位置にし、確実に駐車ブレーキを掛けてください。**
- **急ブレーキ時はブレーキペダルとクラッチペダルを踏み込んでください。**
- **本機は油圧ミッションのため、変速ギヤを入れてエンジンを止めてもエンジンブレーキは効きません。駐車後トラクタが動き出さないよう、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**
- **駐車するときは、平たんでトラクタが安定する場所を選び、変速レバーを“中立”（[N]）位置、PTO スイッチを[切]位置、作業機を下げ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してキーを抜いてください。やむをえず坂道で駐車する場合は、タイヤに車止めをしてください。**
- **乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。**
- **格納など保管時にトラクタにシートを掛ける場合は、マフラやエンジンをじゅうぶん冷ましてから行ってください。**
- **トラクタから降りるときは、ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。**

1. アクセルレバーをいっぱい後へ引き、アイドリング状態にします。



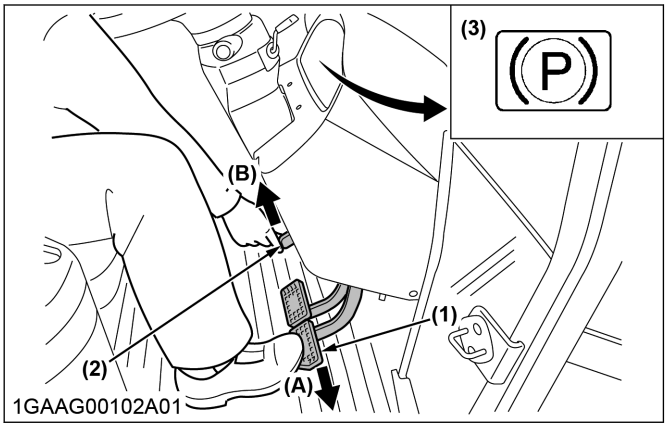
(1) アクセルレバー　*(A)* アイドリング

2. クラッチおよびブレーキペダルを踏み込みます。
3. 機体が完全に停止してから、シャトルレバー、副変速レバーを“中立”（**[N]**）位置にします。
4. PTO を使用している場合は、PTO スイッチを**[切]**位置にして、PTO を停止します。
5. 作業機を取り付けている場合は、ポジションレバーをゆっくり前方に倒し作業機を下げます。
6. 連結解除ペダルロックレバーを下げて、左右のブレーキペダルを確実に連結します。
   連結解除ペダルがロックされて踏めないことを確認してください。



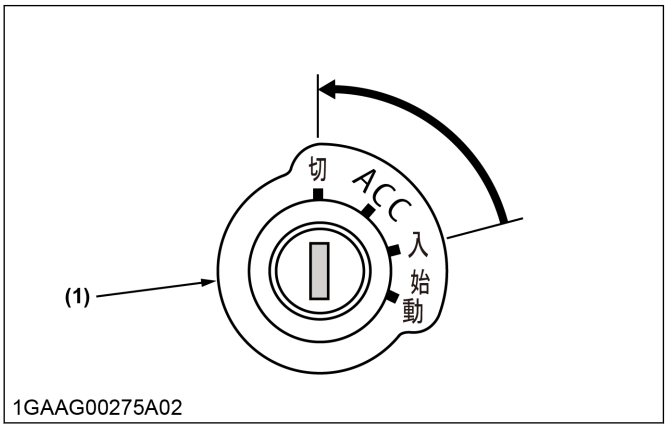
(1) 連結解除ペダル　*(A)* ロック（格納）
(2) 連結解除ペダルロックレバー　*(B)* 連結
(3) ブレーキペダル

7. 駐車ブレーキを確実に掛けます。



(1) ブレーキペダル　*(A)* ブレーキ作動
(2) 駐車ブレーキレバー　*(B)* 駐車ブレーキ作動
(3) 駐車ブレーキ警告灯

8. キースイッチのキーを**[切]**位置にします。



(1) キースイッチ

エンジンは停止します。

寒冷時の暖機運転

⚠ 警告

- **換気が不十分な所では、暖機運転はしないでください。**
  換気が不十分であると排ガスにより、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- **暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

重要：

- **始動後、約 10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各メタルにじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷を掛けると、焼付きや破損など故障の原因になりますので注意してください。**
- **本機には油圧クラッチが採用されており、油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は、アクセルレバーを“低速”位置にして必ず次表の要領で暖機運転を行い、トランスミッションオイルを暖め**

てください。暖機運転を行わないと、満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気温	暖機運転時間
0 ℃～10 ℃	0 分～10 分間
-10 ℃～0 ℃	10 分～20 分間
-20 ℃～-10 ℃	20 分～30 分間

重要：
- **外気温が-20 ℃以下の環境で使用することが想定される場合は購入先にご相談ください。**

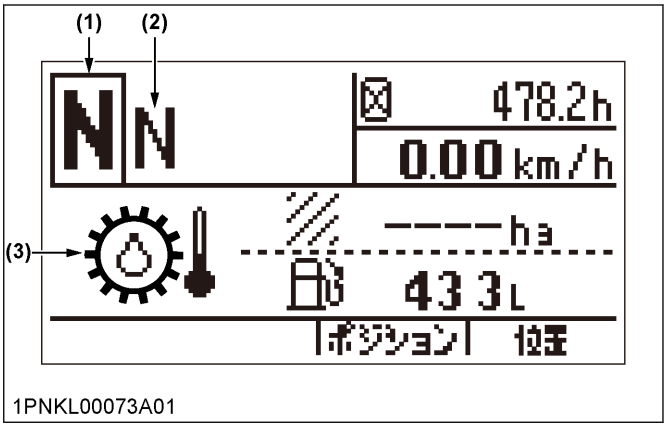
補足：
- **エンジン始動後、エンジン回転を安定させるため自動的に回転数が上がることがあります。**
- **寒冷時の暖機運転では、マフラパイプ内で結露した水分が水滴となって飛散することがあります。アイドリング以外で暖機運転をすると、水滴の飛散量が多くなります。**

トランスミッション低温規制

潤滑不良などの異常によるトランスミッションの損傷を防ぐため、トランスミッション油温が約-10 ℃以下のとき、油温に応じ次表の規制が作動します。規制中はインジケータでオペレータに知らせます。
規制中は副変速レバーとシャトルレバーを**[N]**位置にし、駐車ブレーキを掛けて暖機運転を行ってください。次表の規制時間を超えるとインジケータが消灯し、変速操作が行えます。なお、規制中においても緊急時の移動など、どうしても運転する必要がある事態が発生したときのため、副変速レバー**[L]**位置で MAX 約 1 km/h、**[M]**位置で MAX 約 2 km/h で走行可能となります。

油温	規制時間	規制
-10 ℃～-15 ℃	約 1 分～3 分間	• 暖機中はエンジン回転 2000 n/min に保持。 • 暖気中においても副変速レバーが**[L]**（低速）位置、**[M]**（中速）位置でのみ発進可。ただし、エンジン回転はアイドリング回転に保持。
-16 ℃～-20 ℃	約 3 分～6 分 30 秒間	
-21 ℃～-25 ℃	約 6 分 30 秒～8 分間	
-26 ℃以下	約 8 分間	

補足：
- **低温規制中はトランスミッション低温規制インジケータが表示され、シャトルレバー位置と副変速レバー位置が点滅します。**



1PNKL00073A01

(1) シャトルレバー位置
(2) 副変速レバー位置
(3) トランスミッション低温規制インジケータ

- **低温規制中に緊急時の移動など、どうしても運転する必要がある事態の発生で走行する場合、副変速レバーやシャトルレバーのニュートラル状態を解除したり、駐車ブレーキを解除することでメッセージが表示され暖機運転は中断されます。副変速レバーを[L]位置または[M]位置にすることで走行可能となり、停車した際にはメッセージに従い操作することで再度暖機運転が行われます。**



1PNKL00074A01

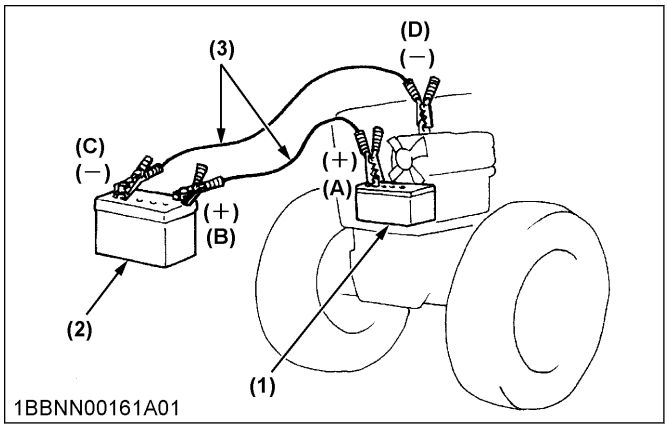
(1) メッセージ

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば、他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

重要：
- **救援車は必ず 12 V バッテリ車を使用してください。**
- **ケーブル接続の際には、（+）端子と（−）端子を絶対に接触させないでください。**
- **ケーブルが冷却ファンなど作動部に巻き込まれないようにしてください。**
- **ケーブル接続の際には、（+）と（−）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。**
- **救援車に本機を使用する場合は、必ず作業機を降してください。**

1. トラクタのキースイッチを**[切]**位置にします。
2. ブースタケーブルを図の(A)～(D)の順で接続します。
   a. バッテリの（＋）端子同士(A)、(B)を接続します。
   b. 救援車バッテリの（－）端子にマイナスケーブルの(C)を接続します。
   c. マイナスケーブルの他端(D)の接続位置は、バッテリから離れたエンジン本体または車体に接続します。
   マイナスケーブルの他端(D)を直接バッテリの（－）端子に接続すると、バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。



(1) 放電したトラクタバッテリ　*(3)* ブースタケーブル
(2) 救援車バッテリ

3. 救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
4. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は、エンジンの始動のしかた（118 ページ）を参照）
5. ブースタケーブルを接続順序の逆順で外します。

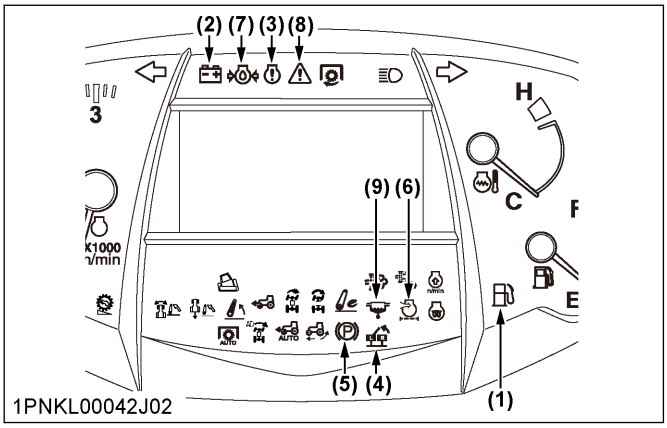
ならし運転

使用開始から最初の約 50 時間は、ならし運転を行ってください。
この期間中は、特に次のことを厳守してください。
- 急なスタート、急ブレーキはしないでください。
- 必要以上のスピードや負荷を掛けないでください。
- 運転は、エンジンがじゅうぶん暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落とし安全を確認しながら走行してください。
- 50 時間使用後、定期点検箇所一覧表（182 ページ）に従い各部の点検、オイル交換などメンテナンス作業を行ってください。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は、各部が円滑に作動しているかどうかをたえず注意してください。

重要：
- **運転中、メータ類に異常が無いか、またイージチェッカランプが点灯していないかをたえず注意してください。**
（詳細は、イージチェッカ（87 ページ）を参照）



(1) 燃料残量警告灯
(2) 充電異常警告灯（チャージランプ）
(3) エンジン異常警告灯
(4) 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯
(5) 駐車ブレーキ警告灯
(6) エアクリーナ目詰まり警告灯
(7) エンジンオイル油圧警告灯
(8) システム異常警告灯
(9) ウォータセパレータ警告灯

次の場合は、直ちにエンジンを止めてください。
- 回転が急に下降したり上昇したりする。
- 突然、異常な音がした。
- 排気色が急に黒くなった。

状況に応じた操作

1. 片側の車輪がスリップするときの処置

後輪デフロックを使用してください。
（詳細はデフロック（63 ページ）を参照）

2. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速で旋回すると横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、できるだけエンジン回転を落とし、ゆっくりと旋回してください。**

3. 坂道での運転

⚠ 警告
- **必ず連結解除ペダルロックレバーを“ロック”位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **坂道では変速を“中立”にしたり、クラッチを切ったりして惰性で走行（惰性運転）しないでください。惰性運転をすると、スピードが出すぎて制動不能や、転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。**

- 坂道状況に応じた安全なスピードで、エンジンにできるだけ負担を掛けないように走行してください。
- 登り坂ではノッキングが発生しないように早めに遅い変速位置にしてください。
- 下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。車速を下げるほどエンジンブレーキはよく効きます。

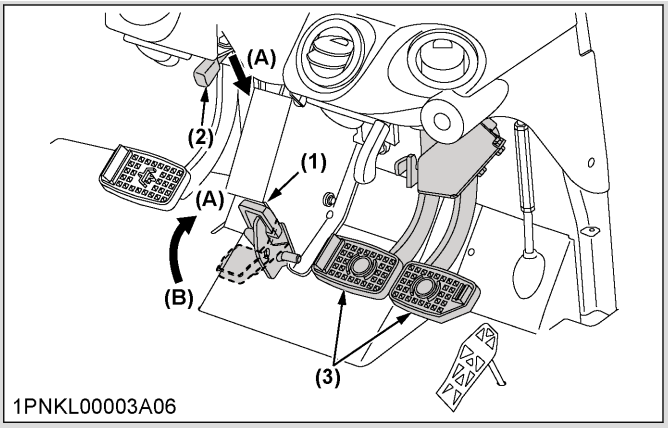
4. ほ場への出入り時の注意

⚠ 警告
- **必ず連結解除ペダルロックレバーをロック位置にするとともに、デフロックの解除を確認してください。**
- **ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。あゆみ板などの走行補助器具を利用してください。**
- **ほ場への出入りは、トラクタをあぜと直角にして行ってください。**
- **ほ場への出入りの際は、あらかじめ遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**
- **走行モード切替スイッチの走行モードスイッチは *“2WD”*または*“4WD”*にしてください。**
- **走行モード切替スイッチの AD スイッチは“切”にしてください。**

- 作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。常に前、後輪のバランスを考えながら操作してください。
- あぜを上がるとき、4 輪駆動の特色を生かして、バックで上がってください。格段に上がる能力が増します。

5. 道路走行中の注意

⚠ 警告
- **道路を走行するときは、連結解除ペダルロックレバーを必ず“ロック”位置にし、連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。連結を解除してブレーキを踏むと、ブレーキが片効きになり、車体が急旋回して、転倒、転落、衝突などの事故を引き起こすおそれがあります。**



(1) 連結解除ペダル　　*(A)* ロック（格納）
(2) 連結解除ペダルロックレバー　　*(B)* 連結
(3) ブレーキペダル

- **道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転をしてください。**
- **急ブレーキ時はブレーキペダルとクラッチペダルを踏み込んでください。**
- **運転者以外は乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。**
- **溝がある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。**
- **インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準] を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準] を満たしていることの確認が必要です。**
- **作業機を装着して道路走行する場合には、他の車、電柱、またはガードレールなど周囲に作業機を引っ掛けて、事故の原因になるので注意してください。**
- **道路走行時はメニュー画面の[傾き自動モード]を必ず[位置]（手動）にして走行してください。**
- **ポジションレバーを“走行ロック”位置にして、油圧ロックレバーを“油圧ロック”位置にしてください。**
- **クイックアップランプの消灯を確認してください。**
- **メニュー画面の[傾き自動モード]を[ポジション]にしてください。**

補足：
- **作業灯は『道路運送車両法の保安基準第 *42* 条（灯火の色等の制限）』において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。**
- **PTO スイッチを[入]位置または[入 自動]位置にした際、走行中に電子メータの液晶表示部に〝PTO 切にして下さい〟と表示されたときは、速やかにトラクタを止め、PTO スイッチを[切]位置にしてください。この表示は車速が 15 km/h を超えたときに表示されます。**
- **ブレーキを掛けて停止する際、トランスミッション部の前側からの音が大きくなる場合があります。**
- **公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。**

- **夜間走行中、対向車とすれちがうときは、ヘッドライトを下向き照射にし、対向車の妨害にならないように注意してください。**
- **踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認をしてから、速やかに渡ってください。**
- **公道走行時は後続車に低速農耕車が走行していることを知らせる低速車（SMV）マークを取り付けてください。**

6. トラックへの積み、降ろし

⚠ 警告

- **あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅、長さのあるすべり止め付きの物を使用してください。長さは、傾斜が 15°以下になるような、トラック荷台高さの 4 倍以上が目安です。**
  また、トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- **機体の積み、降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し、途中での変速はしないでください。**
- **道路交通法規定により、トラック運搬時は地上高 3.8 m 以下で運行してください。**

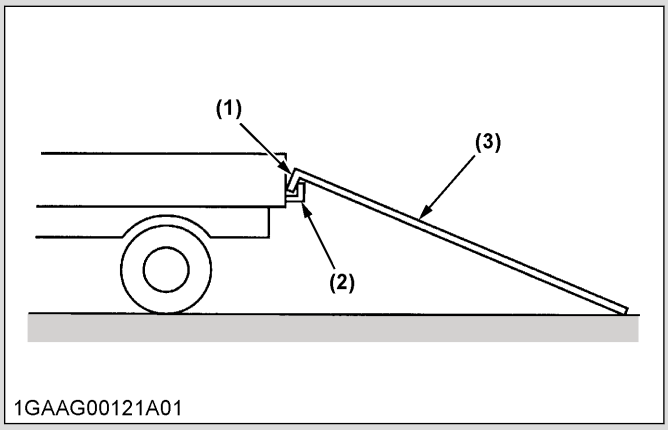
［ホイール仕様］の場合

- トラックへの積込みは、必ず左右のブレーキペダルを連結しバックで行ってください。
- 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

［ハーフクローラ仕様］の場合

⚠ 警告

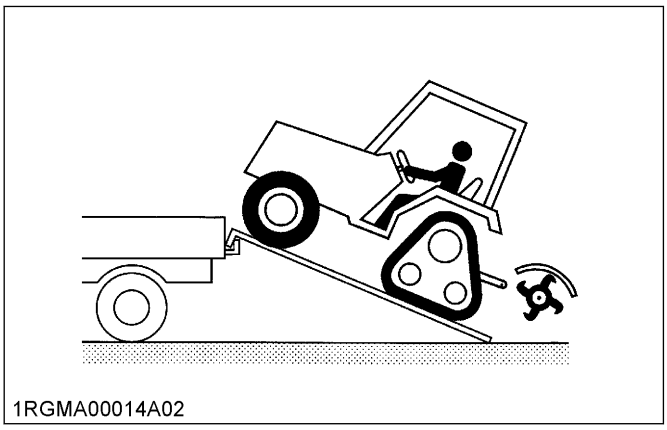
- **トラックは、荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いた車両を使用してください。**



(1) 爪　　*(3)* あゆみ板
(2) フック

- **トラックへの積み、降ろしは、必ず左右のブレーキペダルを連結し、前進で積み込み、後進で降ろしてください。前進で降りると、クローラがあゆみ板の段差ですべり、前輪が浮いて車体が旋回し、転倒事故につながるおそれがあります。**
- トラックへの積込みは、前進で積み込み、後進で降ろしてください。

トラックへの積み、降ろし方向［ハーフクローラ仕様のみ］



- 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

7. パワーステアリングの取扱い

⚠ 注意

- **パワーステアリングはエンジン運転中、ハンドル操作がたいへん軽くなるので、慎重に走行してください。**

重要：

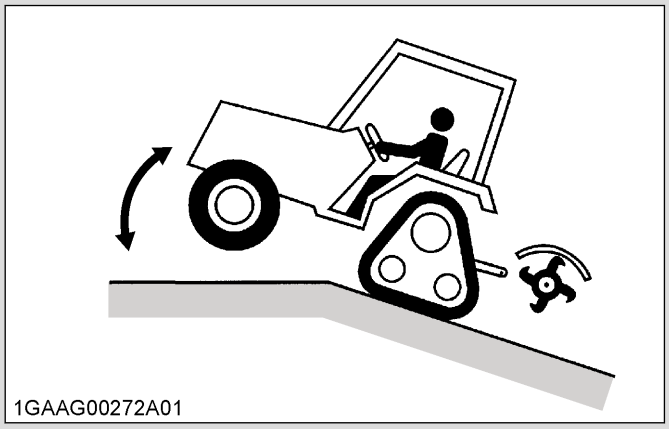
- **パワーステアリングは、エンジン運転中だけ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお、エンジン停止時は、ハンドルの遊びが大きくなりますが、機能上問題はありません。**
- **ローダなどの前部装着作業機を使用し、トラクタを止めたままハンドルを操作すると、途中重くなることがあります。このときは、低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。**
- **ハンドルをいっぱい切ると、安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。ただし短い時間での使用はかまいません。また、ハンドルのフル回転状態での連続使用は、できるだけしないでください。**
- **不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は、タイヤおよびリムなど車輪部の損耗を早めるのでしないでください。**
- **冬期は暖機運転をじゅうぶん行ってから使用してください。**

8. ハーフクローラ仕様の運転のしかた

ハーフクローラ仕様の特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作はタイヤ仕様のトラクタと同じです。

⚠ 警告

- **凹凸やカーブが多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。**
- **クローラ部が凸部を乗り越えるときは、急に姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。**



重要：

- **溝引きプラウ作業を行うと、ゴムクローラが外れたり、足回り（ゴムクローラ、ローラ、アイドラ、ガイド）の早期破損のおそれがありますので、溝引きプラウは使用しないでください。**
- **あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し、途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。**
- **道路走行でカーブを曲がったり、右左折する場合は速度を落してください。**
  クローラは直進性が優れるために、曲がりきれなくなる場合があります。

補足：

- **長距離の移動の際には、前輪タイヤおよびゴムクローラの早期摩耗防止のためにトラックやトレーラに積んで運搬することをお奨めします。**
- **道路交通法規定により、トラック運搬時は地上高 3.8 m 以下で運行してください。**
- **クローラ部分に土がたまらないよう、定期的に清掃してください。固まった土がアイドラ、ローラのシールをいためる可能性があります。**

- 走行速度は、タイヤ仕様とは異なります。
  （詳細は、走行速度表（232 ページ）を参照）
- ほ場で旋回する場合は、速度を下げてください。
- 片側クローラをロックして急旋回すると、ほ場を荒らします。状況に応じて、切返しで方向転換してください。

補足：

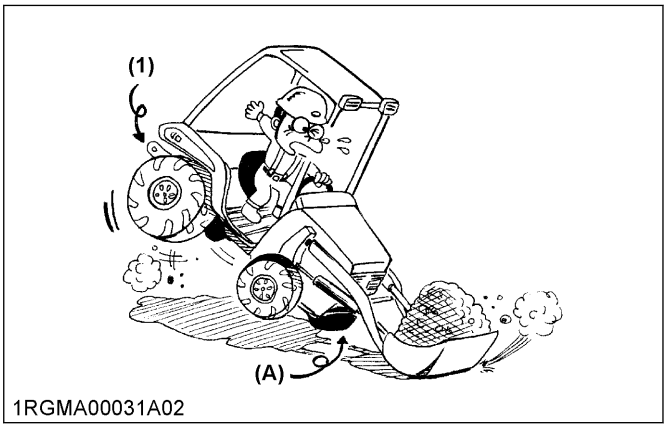
- **ハーフクローラは直進性に優れる分、旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は、必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば、小さい旋回半径で旋回できます。**

9. ローダ作業を安全に行うための注意事項

ローダ作業時の転倒事故を防止するための注意事項
次の事を必ず守ってください。

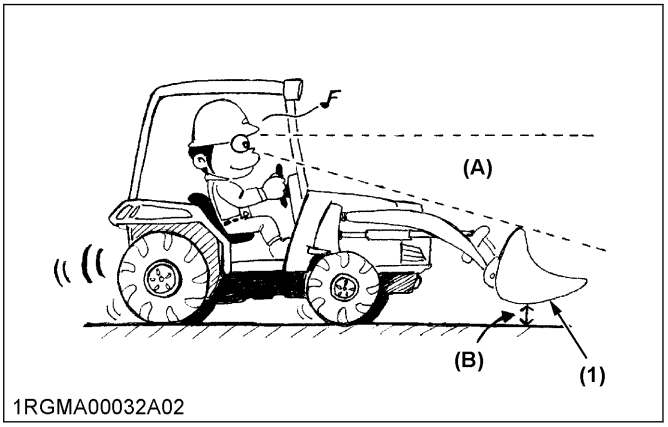
- **トラクタ後部にカウンタウエイトを取り付けること**
  トラクタ後部に、3 点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取り付け、前、後のバランスを保つようにしてください。

  ロアリンク先端の適正カウンタウエイト量
  純正フロントローダ装着時で 600 kg



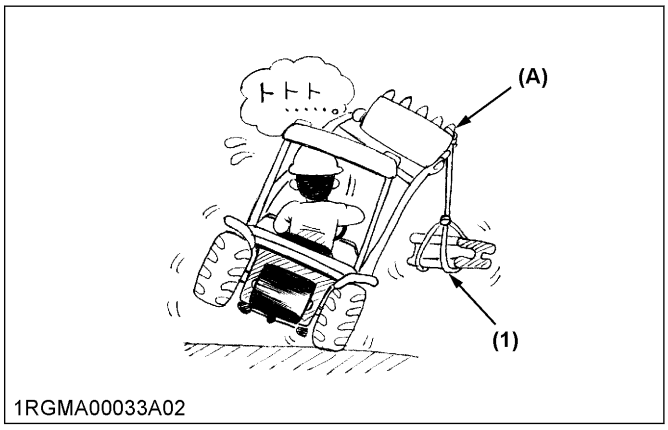
(1) カウンタウエイト　　*(A)* 適正外のウエイト使用禁止

- **運搬はローダを低く下げてゆっくり走行すること**
  運搬、走行するときは、積荷の高さを地上から 30 cm～50 cm にし、速度を 5 km/時以下で走行してください。特に傾斜地、悪路では、速度を落として慎重に走行してください。



(1) ローダ　　*(A)* 視界良好
(B) *30 cm～50 cm*

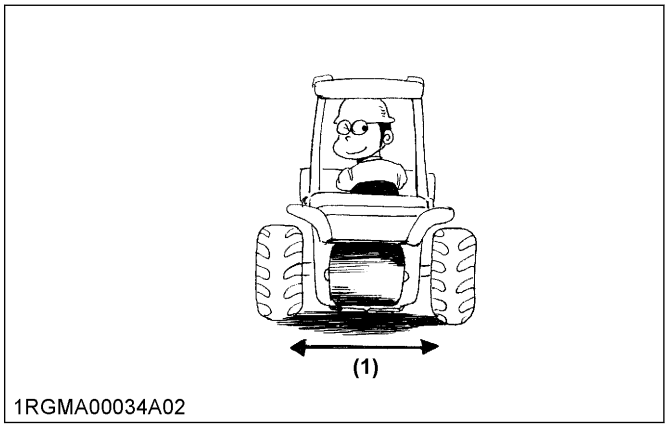
- **片持ち作業をしないこと**
  片持ち作業はトラクタ横転の原因になるので、荷物は左、右片寄らないようにバランスよく載せてください。



1RGMA00033A02

(1) 積荷　　*(A)* 片持ち作業禁止

- **後輪トレッドはできるだけ広げること**
  作業時はトラクタの安全性を増すため、後輪トレッドはできるだけ広げてください。



1RGMA00034A02

(1) 後輪　　*(A)* 広いトレッド

- **フロントローダ作業中は AD や倍速ターンを絶対に使用しないこと**
  AD や倍速ターンは使用方法を誤ると転倒など事故のおそれや故障の原因になります。

本項ではローダ作業での転倒事故を未然に防ぐために、主だった注意事項をあげました。これ以外にもローダの取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。

作業のしかた

3点リンクの安全ロック機能

安全ロック

1. ポジションレバー位置とロアリンク位置が異なる状態で次の操作を行います。
   - エンジン始動時
   - 3点リンク外部操作スイッチ操作時
   - **[3P 制御モード]**から作業モードを切替え時
   - 3点リンクキープモード時のみ 3P 内部操作スイッチ操作時

   安全ロックが働き、自動制御が停止し、クイックアップランプが点滅（1 秒間に約 1 回点灯）します。

安全ロックの解除

1. 安全ロック状態のときには、ポジションレバーをロアリンク高さに一致する位置まで動かし解除します。
   クイックアップランプが消灯します。
2. 解除後は、クイックアップランプの消灯または点灯を確認します。

補足：

- **ポジションレバーで解除する場合は、解除と同時に3点リンクが上昇または下降するため、じゅうぶんに注意してください。**
- **クイックアップレバーまたはスイッチの“作業機上げ”操作でも解除できますが、状態により解除できない場合があります。なお、クイックアップレバーまたはスイッチの“作業機上げ”操作で解除する場合は、3点リンクが高さ規制調整ダイヤルで設定した位置まで上昇するため、じゅうぶん注意してください。**
- **耕深調節ダイヤルが[浅]位置、高さ規制調整ダイヤルが“低”方向に設定されていると、エンジン始動時、3点リンク外部操作スイッチ操作時に解除できない場合があります。そのときは、キースイッチを[切]位置にしてエンジンを停止し、耕深調節ダイヤルを[深]位置、高さ規制調整ダイヤルを“高”方向に設定してからエンジンを始動して、安全ロックを解除してください。**

作業モードの切替え

作業機を交換した場合、スイッチやダイヤルの切換えと調整を行ってください。
レーザ使用時は、レーザ取扱説明書で確認してください。

1. メニュー画面の**[3P 制御モード]**を**[ポジション]**に切り替え、作業機を装着します。
2. ポジションレバーで作業機を下げます。
3. 耕深調節ダイヤルを**[深]**位置、高さ規制調整ダイヤルを“高”方向に回します。
4. メニュー画面の**[3P 制御モード]**を作業機に合わせ切り替えます。
   [耕深制御]、**[S モード]**、**[ドラフト]**から選択してください。
   （3P 制御モード（101 ページ）を参照）
5. ポジションレバーで作業機を持ち上げ、必要に応じ高さ規制調整ダイヤルで作業機の上限高さを設定します。
6. 再度ポジションレバーで作業機を下げます。
7. 耕深調節ダイヤルを**[浅]**位置に回し、作業機の耕深を設定します。

クイックアップ、傾き自動、３点リンク制御の表示

クイックアップ制御、ドラフトコントロール、傾き自動コントロールなどの作動状態を、電子メータの傾き自動ランプ、クイックアップランプ、液晶画面下部の 3P 状態表示で表します。
（3P 制御モード（101 ページ）を参照）
次表の各表示に基づき、適切な取扱いを行ってください。

液晶画面	ランプ			状態	備考
３ P 状態	傾き自動	クイックアップ	システム異常		
耕深制御*1	–	–	–	耕深制御モード状態	3P 制御モード（101 ページ）を参照
S モード*1	–	–	–	S モード状態	
ドラフト*1	–	–	–	ドラフトモード状態	
レーザ*1	–	–	–	レーザモード状態	
ポジション*1	–	–	–	ポジションモード状態	
–	○	–	–	傾き自動モード状態	傾き自動モード切替（109 ページ）を参照
–	–	○	–	クイックアップアップ状態	クイックアップレバー、クイックアップスイッチ（104 ページ）を参照
耕深制御*2	–	◎	–	耕深制御モードで耕深制御が作動しない状態 ３点リンク安全ロック状態*3	3P 制御モード（101 ページ）を参照 ３点リンクの安全ロック機能（136 ページ）を参照
S モード*2	–	◎	–	S モードで S モードが作動しない状態 ３点リンク安全ロック状態*3	
ドラフト*2	–	◎	–	ドラフトモードでドラフトが作動しない状態 ３点リンク安全ロック状態*4	
レーザ*2	–	◎	–	レーザモードでレーザが作動しない状態 ３点リンク安全ロック状態*5	
–	◎	–	–	傾き自動の安全ロック状態	傾き自動の安全ロック機能（115 ページ）を参照
ポジション*1	–	◎	–	ポジションモードの３点リンク安全ロック状態	３点リンクの安全ロック機能（136 ページ）を参照
耕深制御*2	–	–	●	異常検出時 • 購入先に点検、整備を依頼してください。	３点リンク外部操作スイッチで作業機を昇降させてください。
S モード*2	–	–	●		
ドラフト*2	–	–	●		
レーザ*2	–	–	●		
–	●	–	●		位置制御または傾き手動スイッチで操作してください。
–	–	●	●		–

- ○は点灯、◎は遅い点滅（0.3 秒 ON、0.3 秒 OFF）、●は早い点滅（0.1 秒 ON、0.1 秒 OFF）を示します。
- 早い点滅時には警告ランプも点灯し、液晶画面にはエラーコードが表示されます。

*1　点灯状態で表示されます。

*2　液晶表示が点滅します（0.5 秒 ON、0.5 秒 OFF）。

*3　耕深制御、S モード時の３点リンク安全ロック状態の解除方法により、耕深制御作業、S モード作業を行えるようになります。

*4　ドラフトモード時の３点リンク安全ロック状態の解除方法により、ドラフトコントロール作業を行えるようになります。

*5　レーザ装置の取扱説明書を参照してください。

耕深制御、S モード時の３点リンク安全ロック状態の解除方法

- **ポジションレバーでの解除**
  1. ポジションレバーを操作し、まず３点リンクの安全ロックを解除します。

解除されるとクイックアップランプが消灯します。
2. その後、ポジションレバーを手前方向（作業機が最大上昇する位置）に操作します。
耕深制御作業、S モード作業を行えるようになります。

- **クイックアップレバーでの解除**
クイックアップレバーまたはスイッチの“作業機上げ”操作をします。
3 点リンクの安全ロックが解除され、耕深制御作業、S モード作業を行えるようになります。

（安全ロックの解除（136 ページ）を参照）

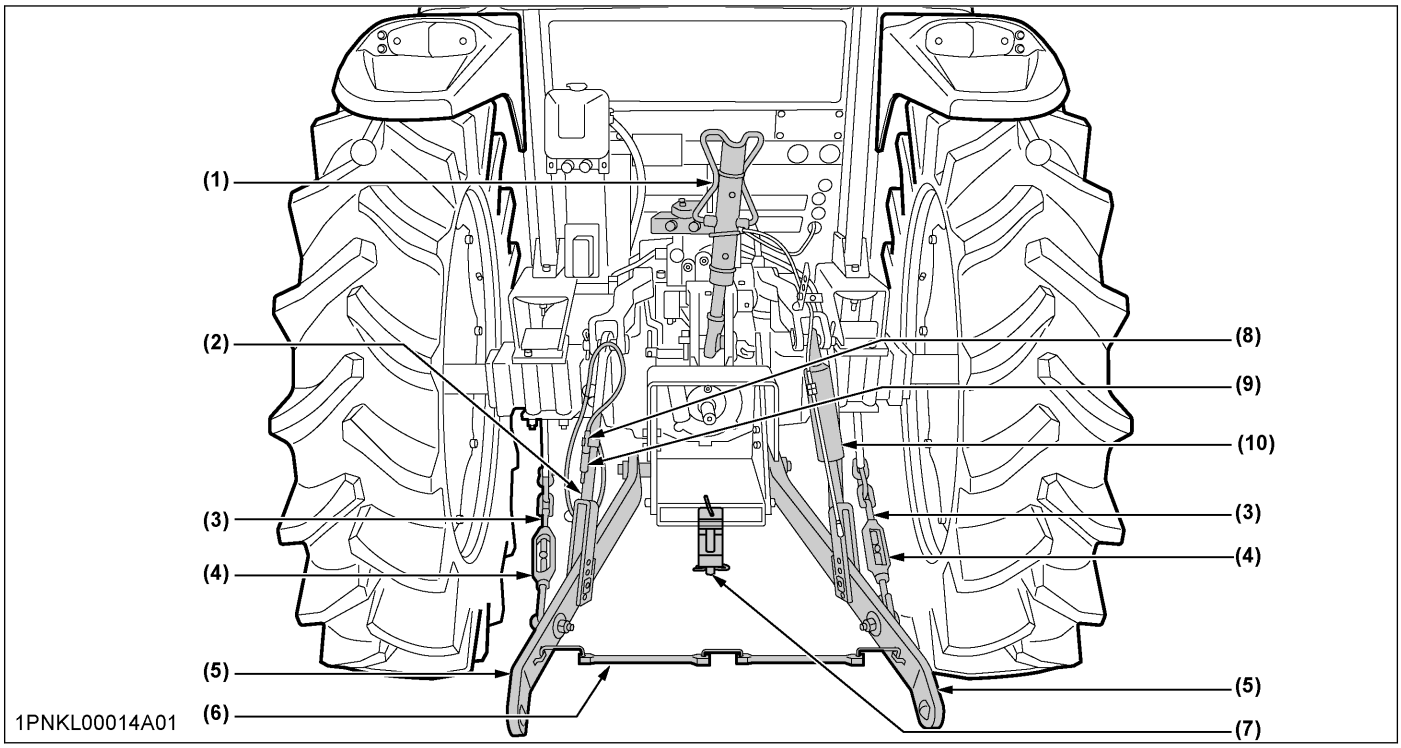
ドラフトモード時の 3 点リンク安全ロック状態の解除方法

- **ポジションレバーでの解除**
ポジションレバーを操作して 3 点リンクの安全ロックを解除します。
解除されるとクイックアップランプが消灯します。
ドラフトコントロール作業を行えるようになります。
- **クイックアップレバーでの解除**
クイックアップレバーまたはスイッチの“作業機上げ”操作をします。
3 点リンクの安全ロックが解除され、ドラフトコントロール作業を行えるようになります。

（安全ロックの解除（136 ページ）を参照）

3点リンク

1. 3点リンクの各部の名称



(1) トップリンク
(2) リフトロッド
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアリンク
(6) 振止めゴム
(7) ドローバ
(8) 耕深ワイヤ
(9) ホルダ
(10) リフトシリンダ

2. 作業機の取付け

⚠ 警告

- **作業機を着脱する前、必ずエンジンを止めてください。また、ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキが掛かっていないときは、トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は、かたい平たんな場所で行ってください。**
- **作業機を取り付けたとき、油圧で作業機を上下させ、トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れが無いか点検してください。**
- **ポジションモードで着脱してください。**

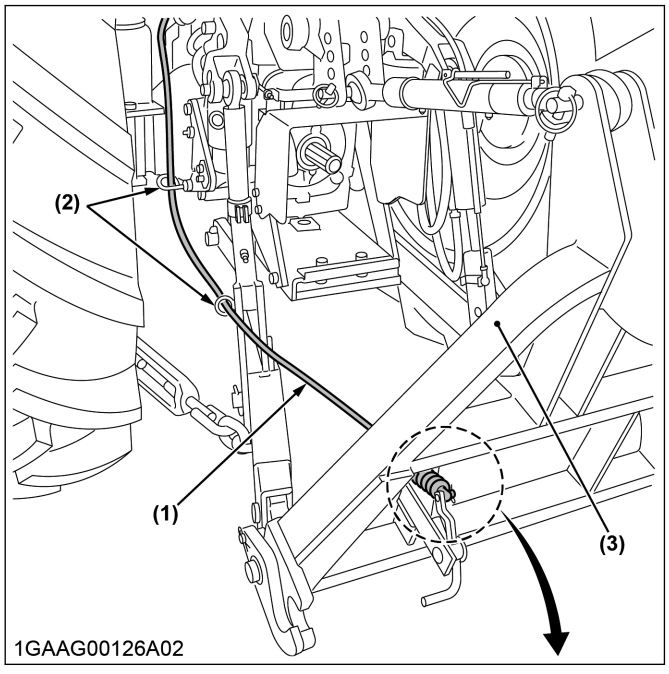
2.1 作業機取付け前の準備

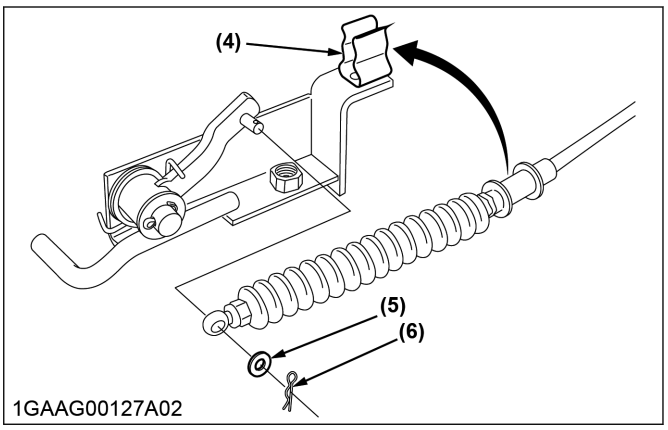
1. 耕深ワイヤを取り付けます。
2. ロアリンク取付け穴を選択します。
3. リフトシリンダの長さを調整します。

2.1.1 耕深ワイヤ

2.1.1.1 耕深ワイヤの取付け

1. オートヒッチフレームを取り付けます。
   取付け方法は作業機の取扱説明書をご確認ください。
2. 耕深ワイヤを 2 か所のガイドに通し、オートヒッチフレームに次図のように取り付けます。

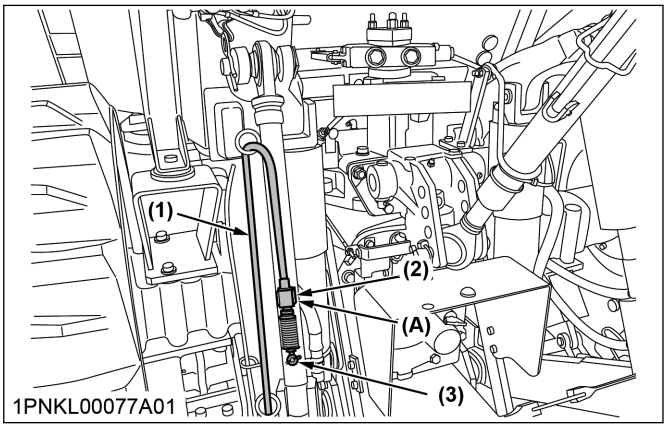




(1) 耕深ワイヤ
(2) ガイド
(3) オートヒッチフレーム
(4) ワイヤ受け部
(5) 平座金
(6) スナップピン

2.1.1.2 耕深ワイヤの格納

1. オートヒッチフレームを外した場合、耕深ワイヤをホルダに挟み込み、次図のように格納してください。



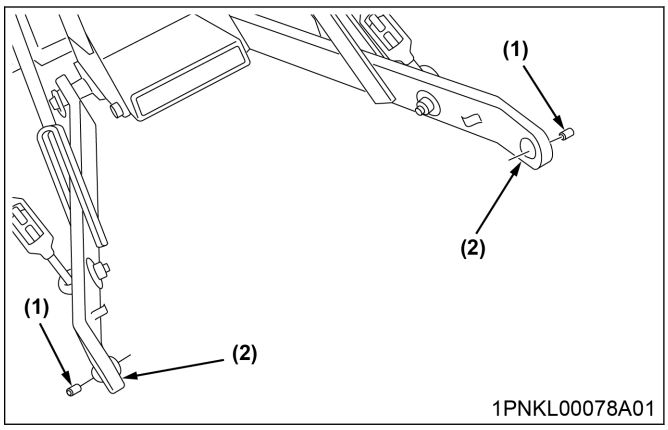
(1) 耕深ワイヤ
(2) ホルダ
(3) スナップピン
(A) ワイヤを挟み込む

2.1.2 3 点リンクの切換えとトップリンクの取付け

作業機側の取付けピンの大きさに応じて、3 点リンクを JIS1 形または JIS2 形のいずれかに切り換えてください。

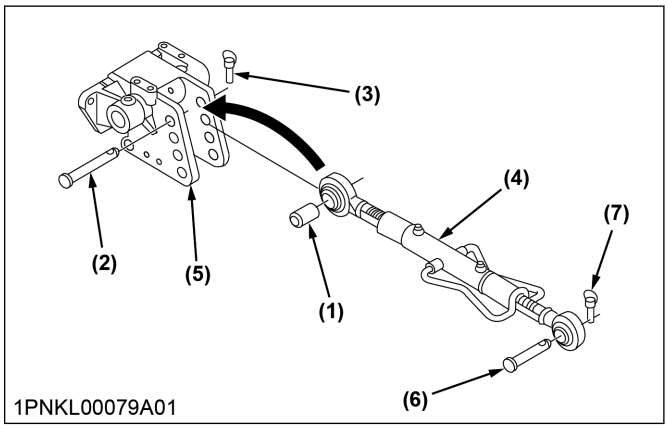
3 点リンクを JIS1 形として使用する場合

1. カラー（JIS1 形用）をロアリンクの先端に取り付けます。
   カラー（JIS1 形用）は出荷部品袋に入っています。



(1) カラー（*JIS1* 形用）　*(2)* ロアリンク

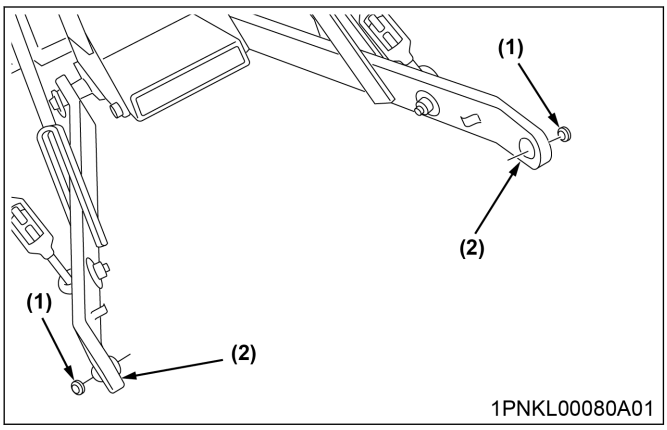
2. カラー（JIS1 形用）、トップリンクピン、セットピン（トップリンクピン用）でトップリンクをトップリンクブラケットに組み付けます。
   このとき、トップリンクの向きが次図のとおりになっているか確認してください。
3. ピン（JIS1 形用）をトップリンクの先端に挿し込み、セットピン（ピン用）で固定します。



(1) カラー（*JIS1* 形用）
(2) トップリンクピン
(3) セットピン（トップリンクピン用）
(4) トップリンク
(5) ドラフトブラケット
(6) ピン（*JIS1* 形用）
(7) セットピン（ピン用）

3点リンクを JIS2 形として使用する場合

1. カラー（JIS2 形用）をロアリンクの先端に取り付けます。
   カラー（JIS2 形用）は出荷部品袋に入っています。

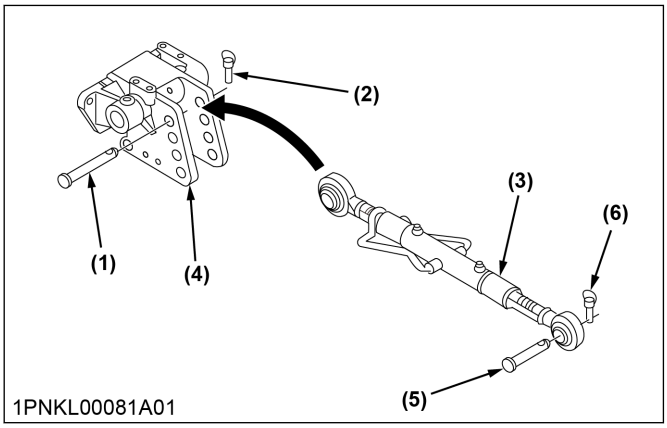


(1) カラー（*JIS2* 形用）　*(2)* ロアリンク

2. トップリンクピン、セットピン（トップリンクピン用）でトップリンクをトップリンクブラケットに組み付けます。
   このとき、トップリンクの向きが次図のとおりになっているか確認してください。

   補足：
   - **JIS2 形として使用する際、トップリンクの向きは JIS1 形時の逆の向きになります。**

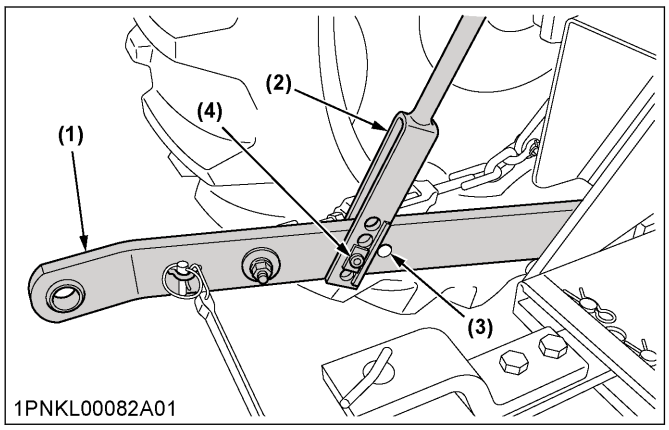
3. ピン（JIS2 形用）をトップリンクの先端に挿し込み、セットピン（ピン用）で固定します。



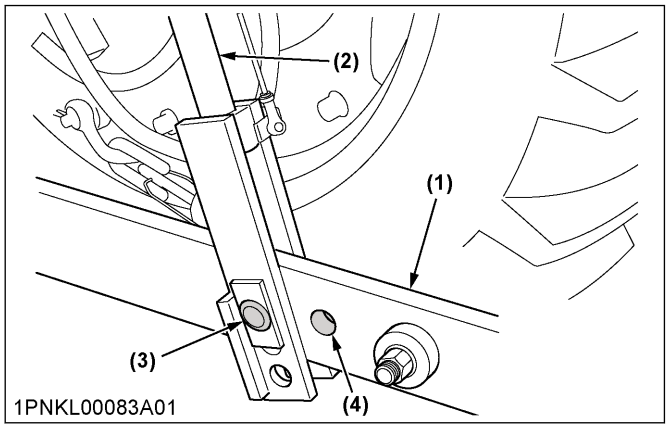
(1) トップリンクピン
(2) セットピン（トップリンクピン用）
(3) トップリンク
(4) ドラフトブラケット
(5) ピン（*JIS2* 形用）
(6) セットピン（ピン用）

2.1.3 ロアリンクの取付け穴の選択

一般作業機を使うときは、ロアリンクの前穴を使ってください。特別な作業（重作業機）のみ後穴を使ってください。



(1) ロアリンク
(2) リフトロッド
(3) 前穴
(4) 後穴



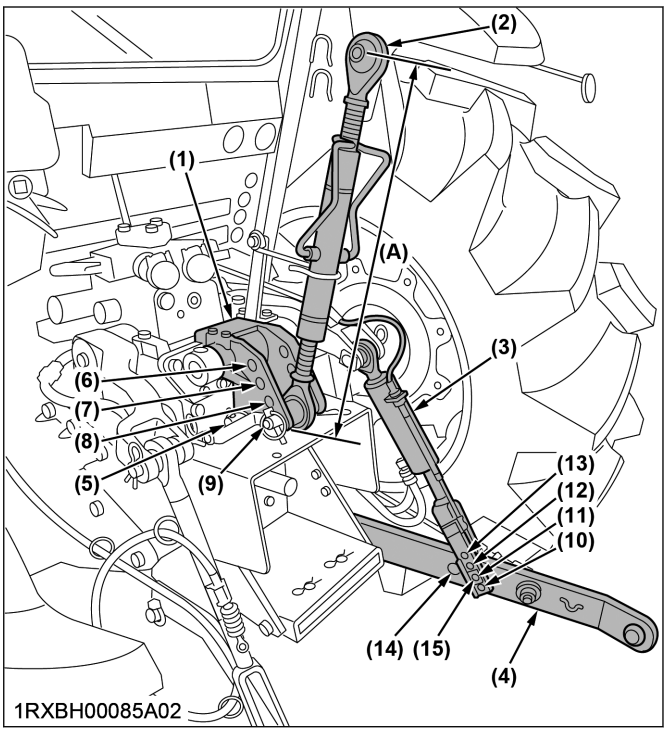
(1) ロアリンク
(2) リフトシリンダ
(3) 前穴
(4) 後穴

2.1.4 オートヒッチフレーム使用時の作業機取付け準備

⚠ 警告

- **トップリンク取付け位置、トップリンク長さ、リフトロッド取付け穴位置、リフトシリンダ取付け穴位置、およびロアリンク取付け穴位置を間違うと、ジョイント抜けやトップリンクの破損などの不具合による傷害事故のおそれがあります。**

オートヒッチフレームを使用する場合、次図と次表を参照してリフトシリンダ（右側）とリフトロッド（左側）の穴位置の決定など準備を行ってください。



(1) トップリンクブラケット
(2) トップリンク
(3) リフトシリンダ
(4) ロアリンク
(5) ドラフトストッパピン
(6) トップリンク取付け穴 *A*
(7) トップリンク取付け穴 *B*
(8) トップリンク取付け穴 *C*
(9) トップリンク取付け穴 *D*
(10) リフトシリンダ取付け穴 *A*
(11) リフトシリンダ取付け穴 *B*
(12) リフトシリンダ取付け穴 *C*
(13) リフトシリンダ取付け穴 *D*
(14) ロアリンク取付け穴（前）
(15) ロアリンク取付け穴（後）
(A) トップリンクの長さ

トラクタ仕様	ホイール	ハーフクローラ
トップリンク取付け穴	(9)	
トップリンク長さ（A）寸法（mm）	570	
リフトシリンダ（右側）とリフトロッド（左側）の取付け穴	(11)	(10)
ロアリンク取付け穴	(15)	
ドラフトストッパピン	(5)	

補足：

- **トップリンク長さ（A）寸法は装着時の目安とし、異音（ガラガラ音）が出る場合は±5 mm の範囲で調整してください。**

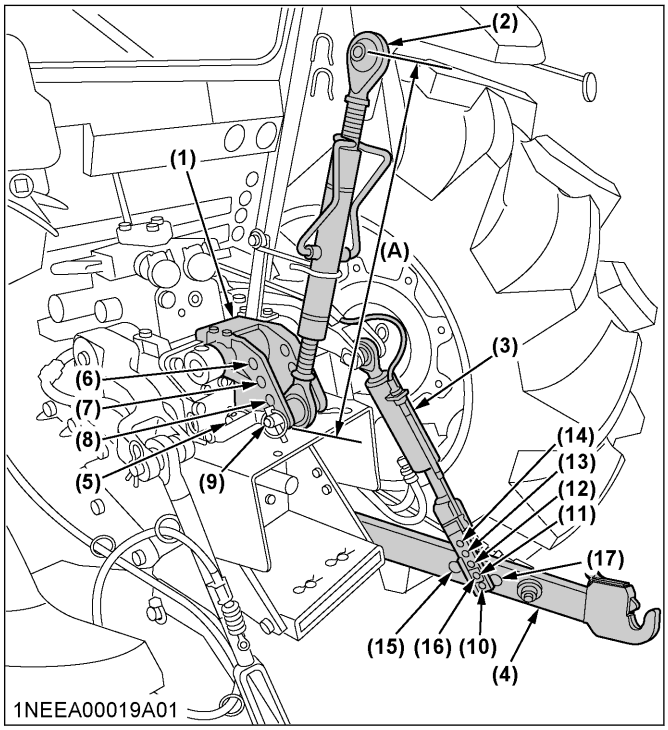
ロングタイプのロアリンク使用時（オプション）

補足：

- **ロングタイプのロアリンクを使用する際、ユニバーサルジョイントは指定のものに交換する必要があります。**

ユニバーサルジョイントの交換については購入先にご相談ください。

指定ユニバーサルジョイント	95350000370



(1) トップリンクブラケット
(2) トップリンク
(3) リフトシリンダ
(4) ロアリンク
(5) ドラフトストッパピン
(6) トップリンク取付け穴 *A*
(7) トップリンク取付け穴 *B*
(8) トップリンク取付け穴 *C*
(9) トップリンク取付け穴 *D*
(10) リフトシリンダ取付け穴 *A*
(11) リフトシリンダ取付け穴 *B*
(12) リフトシリンダ取付け穴 *C*
(13) リフトシリンダ取付け穴 *D*
(14) リフトシリンダ取付け穴 *E*
(15) ロアリンク取付け穴（前）
(16) ロアリンク取付け穴（中）
(17) ロアリンク取付け穴（後）
(A) トップリンクの長さ

トラクタ仕様	ホイール	ハーフクローラ
トップリンク取付け穴	(9)	(6)
トップリンク長さ（A）寸法（mm）	645	635
リフトシリンダ（右側）とリフトロッド（左側）の取付け穴	(12)	
ロアリンク取付け穴	(16)	(15)
ドラフトストッパピン	(5)	

補足：
- **トップリンク長さ（A）寸法は装着時の目安とし、異音（ガラガラ音）が出る場合は±5 mm の範囲で調整してください。**

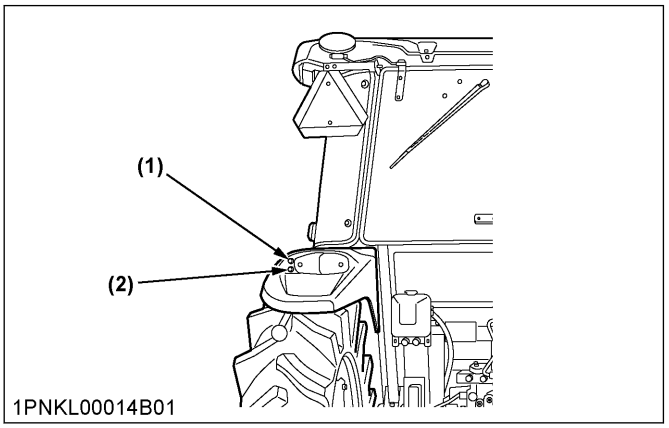
2.2 作業機の着脱

警告
- **作業機を着脱する前、必ずエンジンを止めてください。また、ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキが掛かっていないときは、トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は、かたい平たんな場所で行ってください。**
- **作業機を取り付けたとき、油圧で作業機を上下させ、トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れが無いか点検してください。**
- **ポジションモードで着脱してください。**

2.2.1 3 点リンク外部操作スイッチ

ロアリンク高さを変えるときに使用します。

警告
- **作業機を装着しているときは、特に機械に巻き込まれるおそれがありますので、操作しないでください。**



(1) 3 点リンク外部操作スイッチ（上昇側）
(2) 3 点リンク外部操作スイッチ（下降側）

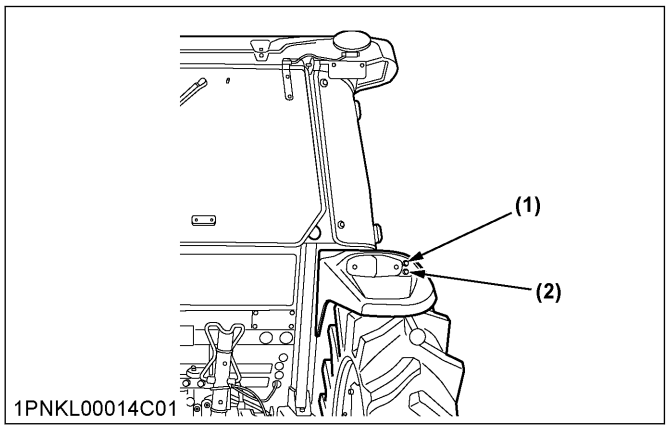
3 点リンク外部操作スイッチ“上昇側”または“下降側”を押すと、3 点リンクが押したスイッチに応じて昇降します。
このスイッチを操作すると、電子メータ内のクイックアップランプが点滅します。クイックアップランプの点滅解除方法は安全ロックの解除（136 ページ）を参照してください。

2.2.2 傾き手動外部操作スイッチ

傾き自動用リフトシリンダを伸縮するときに使用します。

警告

- **作業機を装着しているときは、特に機械に巻き込まれるおそれがありますので、操作しないでください。**



(1) 傾き手動外部操作スイッチ（上昇側）　*(2)* 傾き手動外部操作スイッチ（下降側）

傾き手動外部操作スイッチ“上昇側”または“下降側”を押すと、傾き自動用リフトシリンダが押したスイッチに応じて伸縮します。
傾き自動自動水平制御のときにこのスイッチを操作すると、電子メータ内の傾き自動ランプが点滅します。傾き自動ランプの点滅解除方法は安全ロックの解除（136 ページ）を参照してください。

2.2.3 トップリンクの調整

重要：

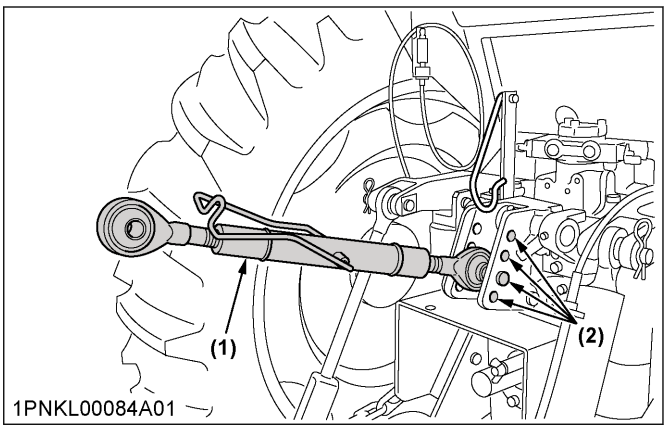
- **ドラフトを使用するときは、一番下の穴を使用しないでください。**

補足：

- **トップリンクの取付け穴位置と長さの詳細は、取り付ける作業機の取扱説明書を確認してください。**

取付け穴の選択

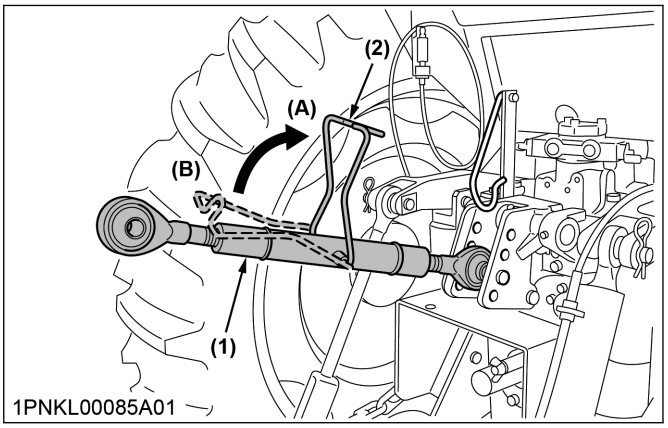
1. 使用する作業機によって取付け穴を選択します。（トップリンクの取付け方法については、 3点リンクの切換えとトップリンクの取付け（140 ページ）を参照）



(1) トップリンク　*(2)* 取付け穴

トップリンク長さの調整

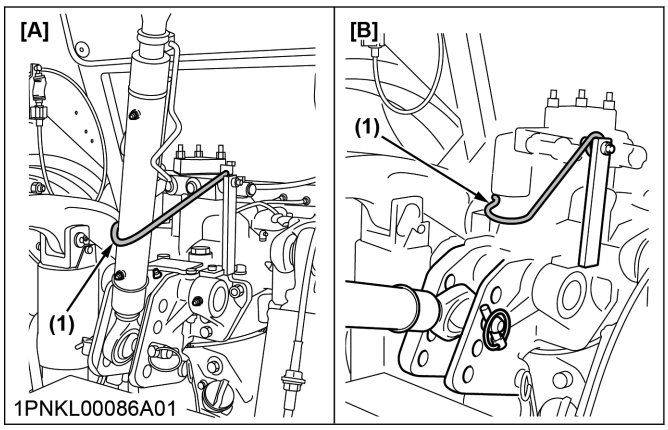
1. ハンドルのロックを解除します。
2. トップリンクを伸縮して作業機の傾きを調整します。
3. 調整後、ハンドルを確実にロックします。



(1) トップリンク　*(A)* 解除位置
(2) ハンドル　*(B)* ロック位置

2.2.3.1 トップリンクの格納

- トップリンクを使用しないときは、トップリンクをトップリンクホルダで格納してください。
- トップリンクを使用するときは、トップリンクホルダを下向きにしてください。



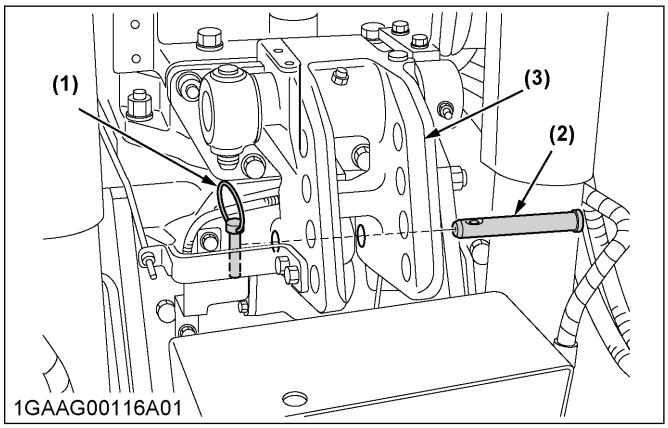
(1) トップリンクホルダ
[A] トップリンク格納時
[B] トップリンク使用時

重要：

- **トップリンクホルダを下向きにしないで3点リンクを上げると、トップリンクホルダが破損する場合があります。**

2.2.4 ドラフトストッパピンの着脱

プラウ作業などドラフトコントロールを使用する作業を行う場合は、トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。また、ロータリ作業などポジションコントロールを使用する作業を行う場合は、ストッパピンを入れてください。



(1) ロックピン
(2) ストッパピン
(3) トップリンクブラケット

補足：

- **ストッパピンを外したままロータリ耕うんを行うと、耕深制御が正常に作動しない場合があります。**

2.2.5 リフトシリンダの調整

リフトシリンダは傾き手動スイッチまたは傾き手動外部操作スイッチで調整してください。
（詳細は、傾き手動スイッチ（115 ページ）、傾き手動外部操作スイッチ（144 ページ）を参照）

2.2.6 チェックチェーンの調整

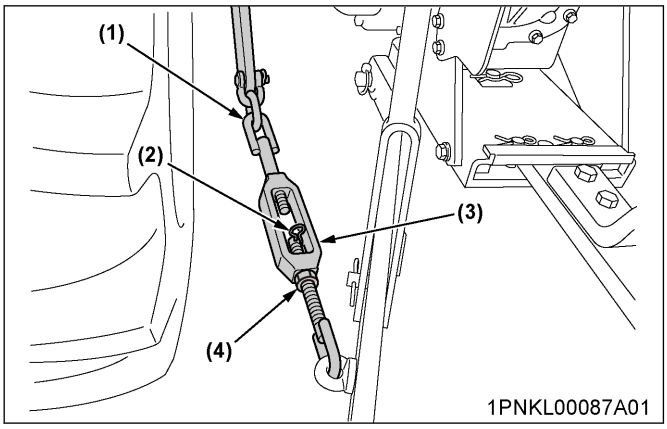
重要：

- **チェックチェーンを張りすぎると、傾き自動作業時に3点リンクに無理な力が加わります。チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。**

作業機の種類によってチェックチェーンの張り具合を調整してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ、ハロー、サブソイラ、ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 cm～6 cm 動く程度
モーア、ヘイレーキ、テッダ、リッジャ、カルチベータ	軽く締める
ロータリ	作業機が横方向に 1 cm～2 cm 動く程度

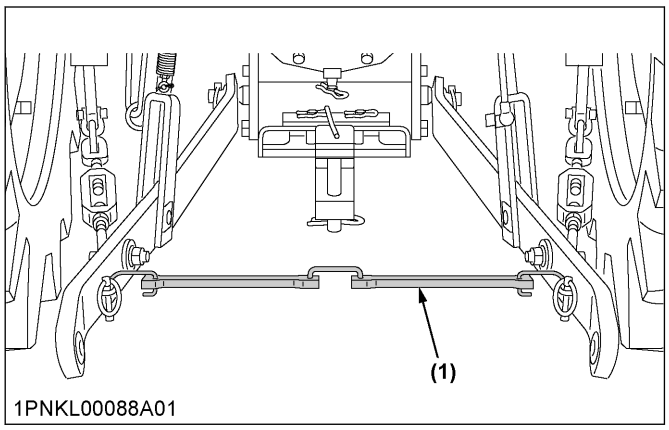
1. スナップピンを抜き、ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して、作業機の横振れを制限します。
2. 調整後はスナップピンとロックナットで、ターンバックルを固定します。



(1) チェックチェーン
(2) スナップピン
(3) ターンバックル
(4) ロックナット

2.2.7 作業機を取り付けないときの注意

作業機を取り付けないときは、ロアリンクが後輪に当らないように、左右振止めゴムをしてください。



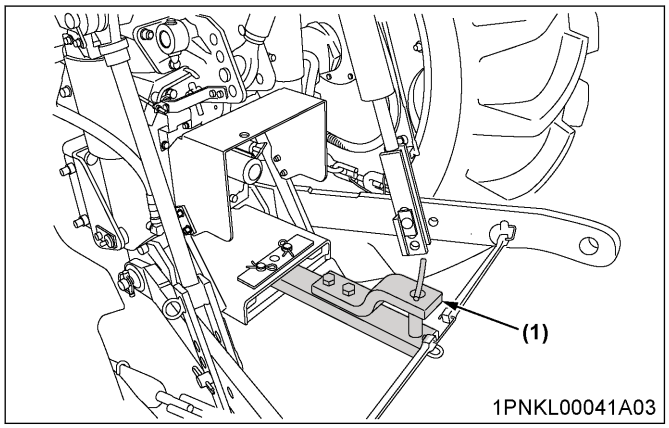
(1) 振止めゴム

けん引ヒッチ（ドローバ）

⚠ 警告

- **けん引作業をするときは、必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し、トップリンクブラケットや車軸など車体各部で引っ張らないようにしてください。転倒事故を引き起こすおそれがあります。**
- **３点リンクに取り付け、PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取り出すロータリ、ブロードキャスタなどの作業機を使用するときは、けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと、ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当たって破損し、事故を起こすおそれがあります。**

けん引は、このトラクタ用に採用している作業機のみにしてください。ほかの物をけん引する場合は、必ず購入先にご相談ください。



(1) けん引ヒッチ（ドローバ）

すき込み開始高さの調整

耕深制御や S モードを用いてロータリ耕うん作業するとき、耕うん爪が地面や水面に接する直前から希望耕深に達するまでロータリがゆっくり下降するすき込み制御が作動します。これにより、すき込み時の仕上がりが向上したり、代かき時の泥水飛散を防ぎます。

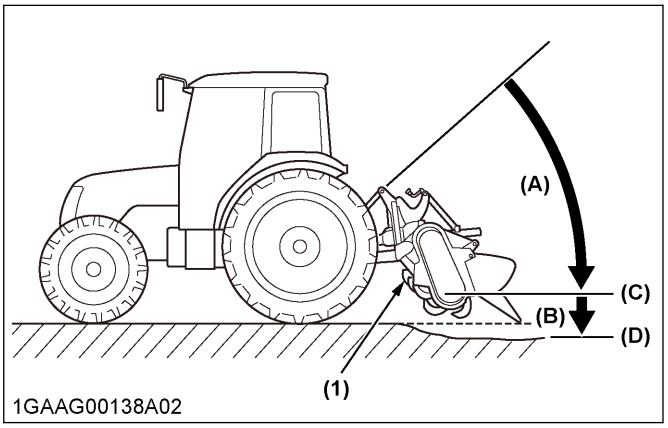
なお、この機能は工場出荷時、純正ロータリでの乾田一般耕うん用に調整されています。したがってタイヤが沈む湿田や代かき時では、すき込み開始高さの設定変更をお奨めします。

1. すき込み開始高さの設定変更

補足：

- **設定変更途中でキースイッチを[切]位置にするとキャンセルされます。**
- **スイッチ操作が 5 秒間以上途切れると初期状態に戻ります。**

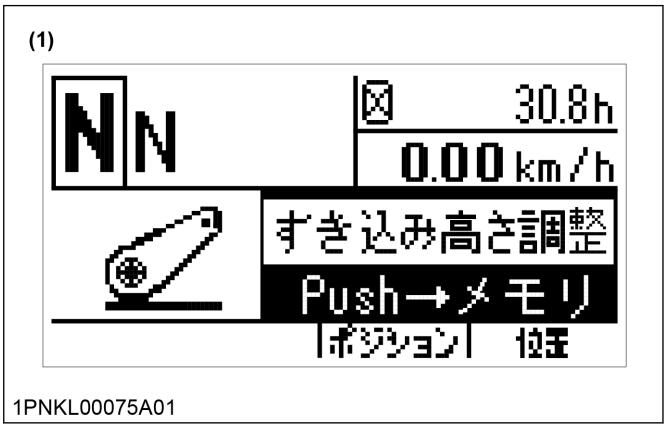
1. トラクタを平たん面に停め、希望すき込み開始位置に作業機（ロータリ）の高さを合わせます。



(1) 作業機（ロータリ）

(A) 速く下降
(B) ゆっくり下降
(C) すき込み開始高さ設定位置
(D) 耕深設定位置

2. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から **[3P]>[すき込み高さ調整]**を開きます。



(1) すき込み高さ調整画面

3. 電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを短押しします。
   現在の３点リンクの高さ位置がすき込み開始高さ位置に設定されます。

PTO

1. PTO の種類と PTO スイッチの操作

⚠ 警告

- **巻込まれによる死傷事故を防ぐため、PTO スイッチが[入]位置のときは作業機に近づかないでください。**
- **独立 PTO 設定時、走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。PTO を止めるには、PTO スイッチを[切]位置にしてください。**
- **上昇 PTO 停止は、ほ場作業以外のときは“切”にしてください。**
- **PTO スイッチが[入]位置のときは、PTO 軸には触れないでください。レバー操作などの PTO 制御で PTO 軸が回転し巻込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **上昇 PTO 停止モードが“入”のときは、クイックアップ含む作業機の昇降操作で PTO が回転します。じゅうぶんに周囲を確認してから作業してください。**

重要：

- **上昇 PTO 停止モードは、ロータリ、ハロー作業のみで使用してください。**
- **上昇 PTO 停止モードをロータリ、ハロー以外の作業に使うと作業機の破損や、ハーベスタの草わらつまり、バイブロサブソイラの地中でのロックなど思わぬトラブルが起こるおそれがあるので使わないでください。**

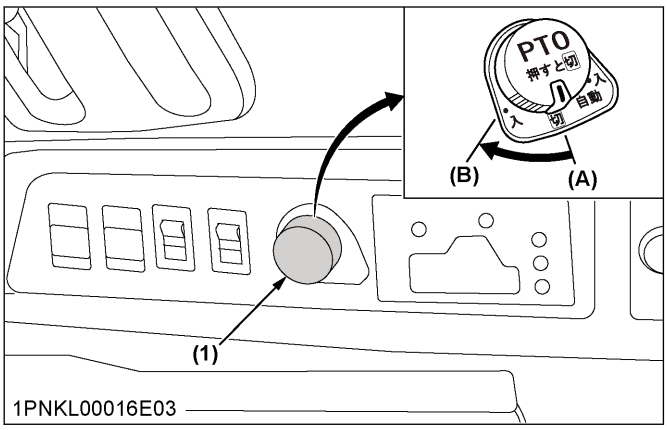
補足：

- **PTO スイッチが[切]位置でないとエンジンは始動できません。**
- **クラッチペダル連動 PTO 設定時は、走行クラッチを踏むと PTO は停止します。PTO を止めずに走行を停止したい場合は、クラッチを踏まずにシャトルレバーを操作してください。**
- **出荷時は独立 PTO が設定されています。**

1.1 PTO スイッチ

PTO“入”

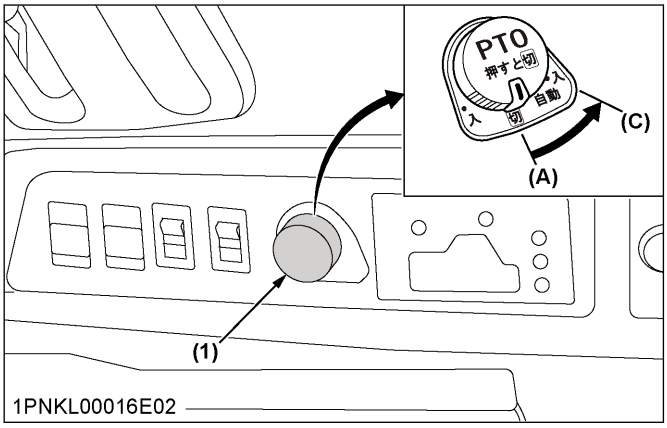
1. スイッチを押しながら PTO スイッチを**[入]**方向に回すと PTO が“入”になります。
2. スイッチを押すと**[切]**位置に戻ります。



(1) PTO スイッチ
(A) 切
(B) PTO 入

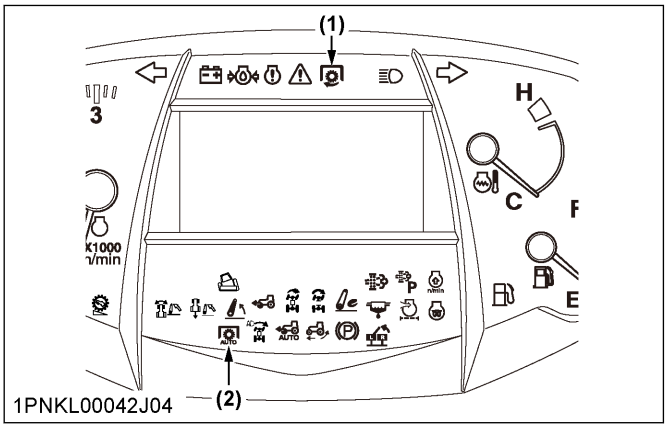
上昇 PTO 停止モード“入”

1. PTO スイッチを押しながら**[入 自動]**方向に回すと、上昇 PTO 停止モードが“入”になります。



(1) PTO スイッチ
(A) 切
(C) 入 自動（上昇 PTO 停止モード入）

電子メータ内の PTO ランプと電子メータ右横の上昇 PTO 停止ランプが点灯します。



(1) PTO ランプ
(2) 上昇 PTO 停止ランプ

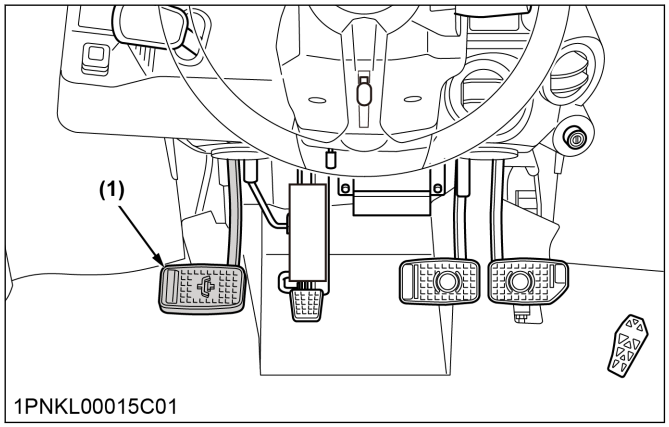
2. スイッチを押すと**[切]**位置に戻ります。

1.2 独立 PTO

走行に関係なく PTO を回転させることができます。通常の作業は独立 PTO を使用してください。

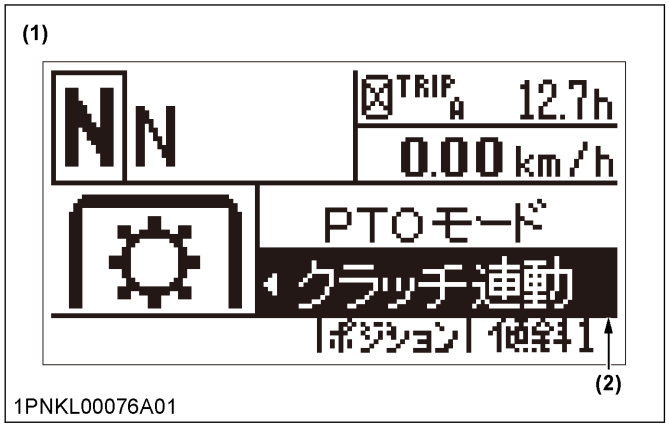
1.3 クラッチペダル連動 PTO

クラッチペダルを踏み込むと PTO 軸は停止し、クラッチペダルを放すと PTO 軸は回転します。かたいほ場でロータリ耕うんする際にダッシングが気になる場合に使用してください。



(1) クラッチペダル

1. トラクタを停車します。
2. HOME / MENU スイッチを押し、電子メータ（DBM）設定ジョグダイヤルを操作してメニュー画面から **[PTO]>[PTO モード]**を開き、**[クラッチ連動]**を選択します。



(1) *PTO* モード設定画面 *(2)* クラッチ連動

3. 独立 PTO に戻すときは、メニュー画面から **[PTO]>[PTO モード]**を開き、**[クラッチ独立]**を選択します。

1.4 上昇 PTO 停止モード

作業機上昇時に PTO 回転が自動停止する機能です。

1. クイックアップレバーまたはスイッチ、あるいはポジションレバーの“上げ”操作により PTO 回転が自動停止します。ロータリ、ハロー作業での旋回時における泥、ほこりの飛散、うっかりミスによる障害物の破損を軽減できます。
2. クイックアップレバーまたはスイッチ、あるいはポジションレバーの“下げ”操作により PTO 回転が始まります。

重要：

- **上昇 PTO 停止モードが“入”で油圧ロックをしている場合、クイックアップレバーまたはスイッチ、あるいはポジションレバーの“下げ”操作により作業機が下がらなくても、PTO は回転します。（油圧ロックレバー（107 ページ）を参照）**

エンジン始動後、その時点での 3 点リンクの高さに応じて、上昇 PTO 停止モードを“入”にしたときに PTO が回転または停止します。

補足：

- **上昇 PTO 停止機能により PTO 回転が停止している間は、ブザーが鳴り続けるとともに、PTO ランプが点滅します。**
- **上昇 PTO 停止モードが“入”のときも、独立 PTO とクラッチペダル連動 PTO は設定どおりに PTO が回転します。**
- **上昇 PTO 停止モードが“入”のとき、3 点リンク外部操作スイッチを押すと、電子メータのメッセージ表示部に“PTO N”と表示され、PTO ランプが消灯し、PTO は回転しません。PTO を回転させるためには、上昇 PTO 停止モードをいったん“切”にし、再度“入”にしてください。**
- **クイックアップレバーまたはスイッチで作業機を操作する場合、ポジションレバーの位置によっては PTO の停止、回転を行えない場合があります。**

ポジションレバー位置による上昇 PTO 停止動作のタイミング

ポジションレバーには“*PTO* 回転”範囲と“*PTO* 停止”範囲があります

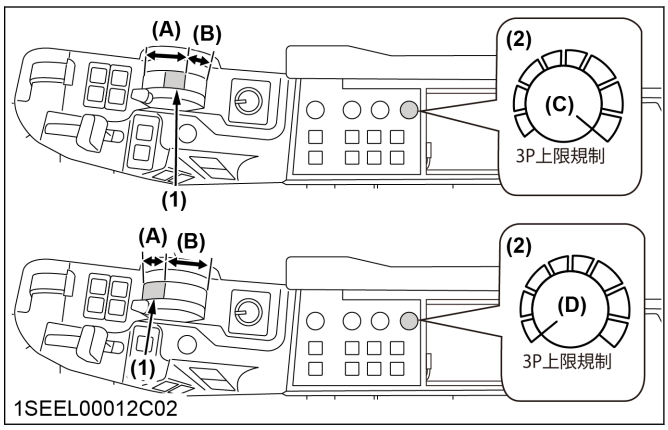
- ポジションレバーが“*PTO* 回転”範囲にあるときのみ、クイックアップレバーまたはスイッチの“上げ”操作により PTO 回転が停止し、“下げ”操作により PTO 回転が始まります。
- ポジションレバーが“*PTO* 停止”範囲にあるときは、クイックアップレバーまたはスイッチを“下げ”操作しても PTO 回転は始まりません。

重要：

- **ポジションレバーの“*PTO* 回転”範囲と“*PTO* 停止”範囲による上昇 PTO 停止の動作タイミングは、高さ規制調整ダイヤルにより変化します。**

高さ規制調整ダイヤルによる上昇 PTO 停止の動作タイミングの変化

図のように、高さ規制調整ダイヤルを“低”側にすると、ポジションレバーの“*PTO* 回転”範囲が狭くなります。したがって PTO 回転が始まる 3 点リンクの高さが低くなります。



(1) ポジションレバー
(2) 高さ規制調整ダイヤル
(A) *PTO* 回転
(B) *PTO* 停止
(C) 上限位置が高くなる
(D) 上限位置が低くなる

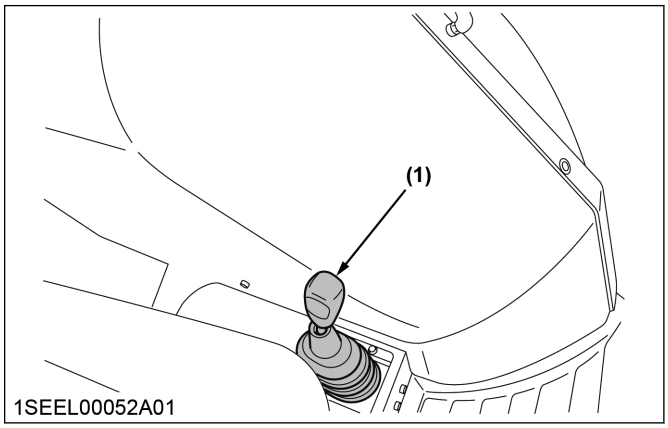
2. PTO 変速レバー

⚠ 警告

- **作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を、高速回転で使用しないでください。**

重要：

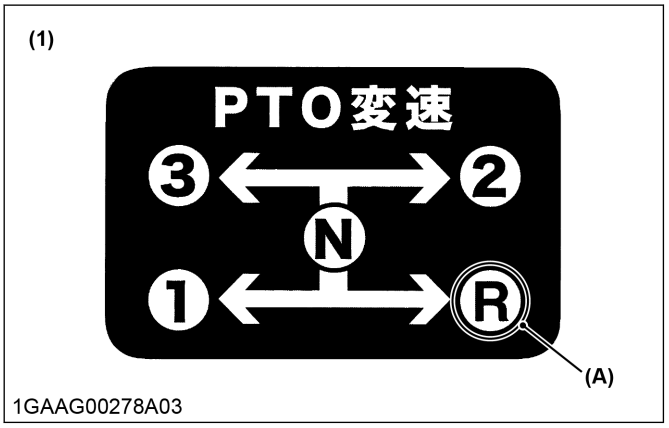
- **変速が入りにくいときは、PTO スイッチを[入]位置にし、すぐに[切]位置に戻し、スムーズに入る位置を探してください。無理に変速を入れようとすると故障の原因になります。**
- **PTO 変速レバー操作時に変速が抜けにくい場合は、作業機を上昇させて PTO スイッチを[入]位置にし、すぐに[切]位置に戻し、ゆっくり変速操作をしてください。無理に変速レバーを操作すると故障の原因になります。**



(1) *PTO* 変速レバー

PTO 変速は、仕様により次の 2 種類あります。製品仕様をよく確認のうえ、正しく取り扱ってください。なお、どちらの仕様も変速操作は、必ず PTO スイッチを切ってから行ってください。

逆転 PTO 付［標準仕様］



(1) *PTO* 変速パターン
(A) 逆転 *PTO*

- 逆転 PTO 位置を使用できる作業機
  メーカー指定のロータリに限ります。

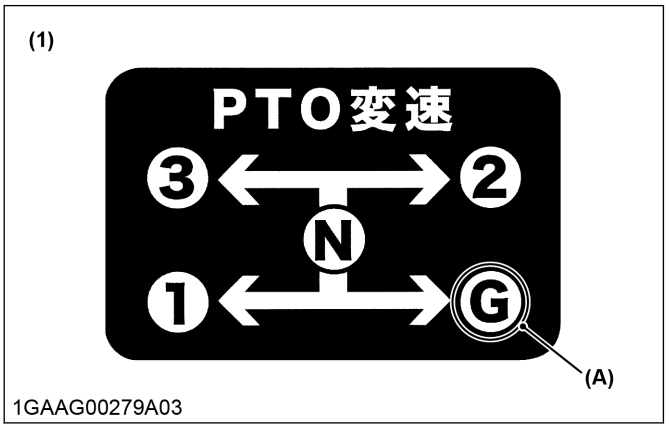
  重要：
  - **メーカー指定以外のロータリを使用すると、作業機の故障の原因になります。**
- 逆転 PTO 位置を使用できる作業
  - 土寄せ作業
  - 草やわらなどの巻付きをほぐすとき
- 逆転 PTO 位置を使用できない作業
  - 未耕地での耕うん作業
  - ロータリの爪を逆に取り付けて行う耕うん作業

グランド PTO 付［G 仕様］

重要：

- **グランド PTO は、ロータリ耕うん、フォーレージハーベスタなど負荷の大きい作業には使用しないでください。**

クラッチペダルを踏込みトラクタを停止し、PTO 変速レバーを**[G]**位置にするとグランド PTO が使えます。



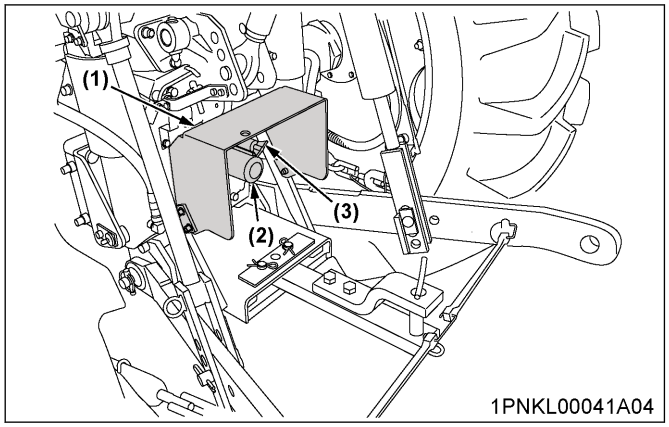
(1) *PTO* 変速パターン
(A) グランド *PTO*

3. PTO 軸カバー、PTO 軸キャップ

⚠ 警告

- **PTO 軸を使わないときは、PTO 軸にグリースを塗布した後、PTO 軸キャップを取り付けてください。そうしないと、巻込まれによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **PTO 軸キャップを使用しないときは、PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。**
- **PTO 軸カバーは常に取り付けてください。**
- **PTO 軸カバーの上に乗らないでください。**

PTO 軸キャップを取り外すときは蝶ボルトを緩め、取り付けるときは蝶ボルトで留めてください。



(1) *PTO* 軸カバー
(2) *PTO* 軸キャップ
(3) 蝶ボルト

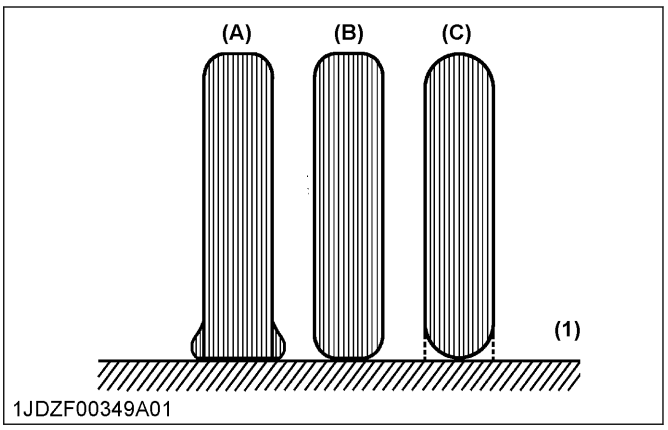
タイヤ

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れすぎはタイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなど車輪各部の交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。**

1. タイヤの空気圧

前輪、後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



(1) 接地面
(A) 空気が不足
(B) 標準
(C) 空気が多い

標準空気圧

- バイアスタイヤ（ブリヂストン製）

前輪		後輪	
タイヤサイズ	**kPa (kgf/cm²)**	**タイヤサイズ**	**kPa (kgf/cm²)**
8.3-20	240（2.4）［240（2.4）］	12.4-32	160（1.6）
		12.4-32H	120（1.2）
9.5-18	220（2.2）［220（2.2）］	14.9-28H	120（1.2）
9.5-22	220（2.2）［240（2.4）］	12.4-36	160（1.6）
		12.4-36H	
9.5-24	220（2.2）［240（2.4）］	12.4-38	160（1.6）
		13.9-36	140（1.4）
		16.9-30	120（1.2）
		16.9-30H	
9.5-24RC	220（2.2）［240（2.4）］	12.4-38RC	160（1.6）
320/60-26	80（0.8）［ローダ不可］	–	–

補足：
– ［］内はローダ装着時の値です。
– H はハイラグタイヤを示します。

- ラジアルタイヤ（ファイヤストーン製）

前輪		後輪	
タイヤサイズ	**kPa (kgf/cm²)**	**タイヤサイズ**	**kPa (kgf/cm²)**
250/85R24	160（1.6）［160（1.6）］	340/85R36	160 (1.6) [160 (1.6)]

補足：
– ［］内はローダ装着時の値です。

- ラジアルタイヤ（ミシュラン製）

前輪		後輪	
タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)	タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)
9.5R24	160（1.6）［160（1.6）］	16.9R30	160 (1.6) [160 (1.6)]
		12.4R38RC	
280/70R20	160（1.6）［160（1.6）］	14.9R28	160 (1.6) [160 (1.6)]
320/85R20	160（1.6）［210（2.1）］	–	–

補足：
– ［］内はローダ装着時の値です。

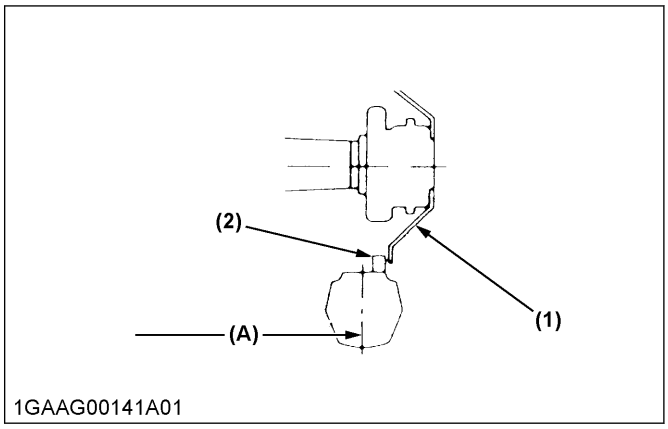
輪距の調整

警告
- **けん引作業、傾斜地作業、フロントローダ作業など機体のバランスが崩れやすい作業の場合は、左右の安定を良くするため、支障の無い範囲で輪距を広くして使用してください。**
- **輪距を前輪 1200 mm、1210 mm、後輪 1260 mm にした場合は、安定性確保のため作業時以外の移動では必ず輪距を広くして使用してください。**

重要：
- **決められた輪距以外では使用しないでください。**

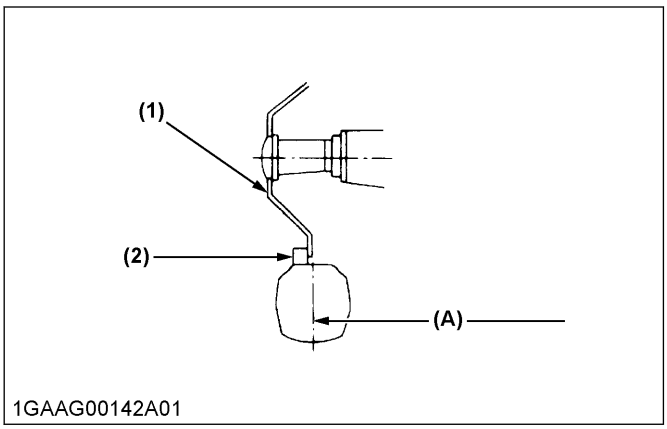
補足：
- **タイヤは、両側の矢印が前進時の回転方向に合うように取り付けてください。**
- **後輪ウエイトは、すべての輪距で取り付けられます。**

前輪
可変タイヤ仕様の場合、リムとディスクの取付け位置変更により、輪距を調整できます。固定タイヤ仕様の場合は変更できません。



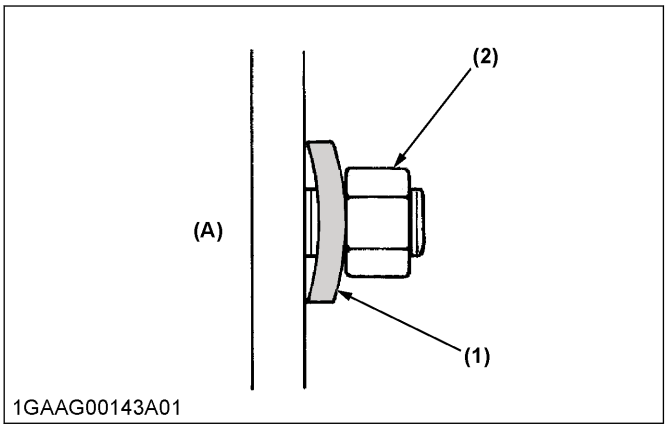
(1) 前輪ディスク　　*(A)* 輪距
(2) 前輪リムブラケット

後輪
リムとディスクの取付け位置変更により、輪距を調整できます。調整方法はタイヤの仕様により異なります。



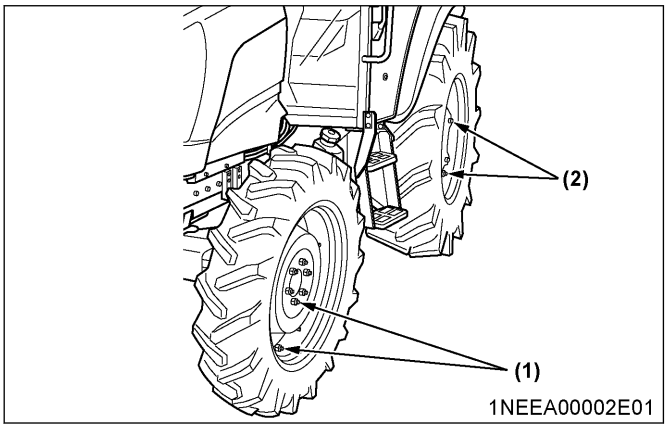
(1) 後輪ディスク　　*(A)* 輪距
(2) 後輪リムブラケット

- 皿バネの取付け方向にはじゅうぶん注意し、図のように取り付けてください。



(1) 皿バネ　　*(A)* ディスク側
(2) ナット

- フロントローダ作業など重作業時、タイヤのボルト、ナットは規定トルクでじゅうぶんに締め付け、締め忘れの無いよう注意してください。また、しばらく作業した後、再度トルクをチェックし、増締めを行ってください。



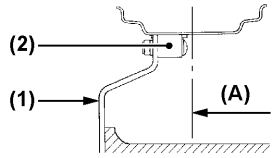
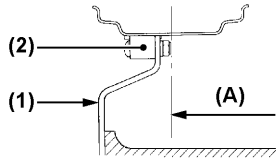
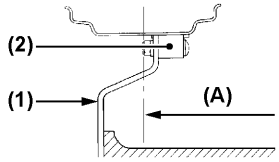
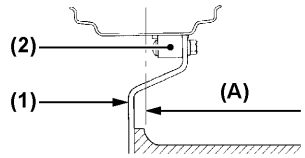
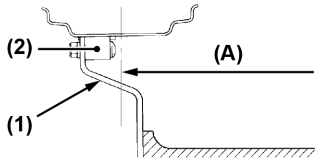
(1) 前輪ボルト、ナット　　*(2)* 後輪ボルト、ナット

規定トルク	(1)前輪ボルト、ナット	150 N·m～196 N·m (15.3 kgf·m～20.0 kgf·m)
	(2)後輪ボルト、ナット	234 N·m～304 N·m (23.9 kgf·m～31.0 kgf·m)

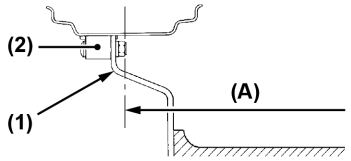
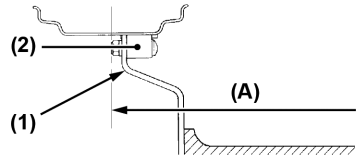
- ボルト、ナット、スタッド、皿バネやリム、ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると、規定トルクまで締め付けられないので、シンナーなどの溶剤で油分を拭き取ってください。

1. 前輪輪距一覧表

1.1 前輪輪距一覧表［GV601H ホイール仕様］

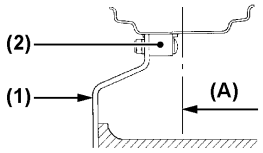
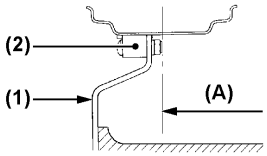
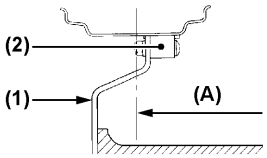
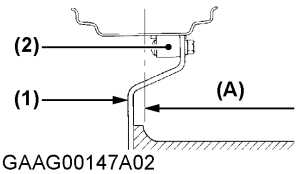
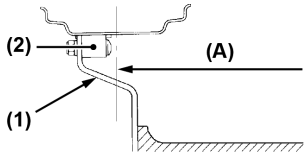
型式			GV601H		
タイヤサイズ			8.3-20（可変）	8.3-20（固定） 9.5-18（固定）	280/70R20（可変）
取付け状態	1	 1GAAG00144A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1320 mm （出荷時）	1320 mm （出荷時）	1340 mm
	2	 1GAAG00145A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1380 mm	–	1450 mm
	3	 1GAAG00146A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1400 mm	–	1320 mm
	4	 1GAAG00147A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1460 mm	–	1430 mm （出荷時）
	5	 1GAAG00167A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1440 mm	–	–

（次へ続く）

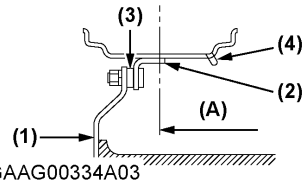
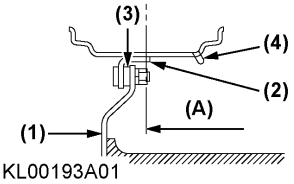
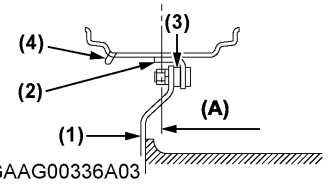
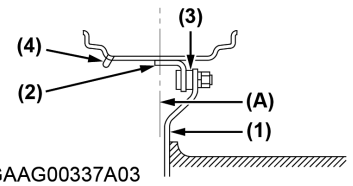
型式			GV601H		
タイヤサイズ			8.3-20（可変）	8.3-20（固定） 9.5-18（固定）	280/70R20（可変）
取付け状態	6	 1GAAG00168A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1500 mm	–	–
	7	 1GAAG00169A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1520 mm	–	–

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

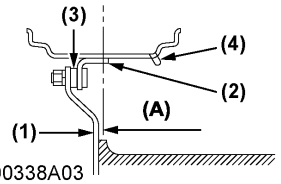
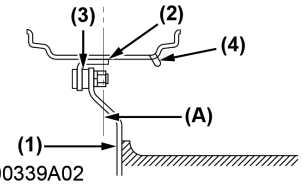
1.2 前輪輪距一覧表［GV651H、GV701H ホイール仕様］

型式			GV651H、GV701H	
タイヤサイズ			9.5-22	9.5-24
取付け状態	1	 1GAAG00144A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1220 mm	1200 mm
	2	 1GAAG00145A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1320 mm （出荷時）	1300 mm
	3	 1GAAG00146A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1300 mm	1290 mm
	4	 1GAAG00147A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1400 mm	1390 mm （出荷時）
	5	 1GAAG00167A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1490 mm	1500 mm

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

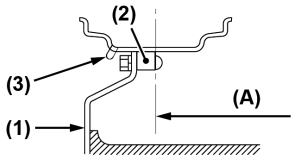
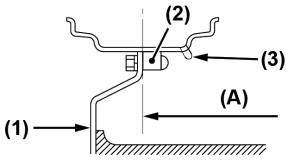
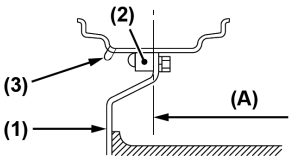
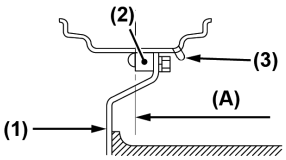
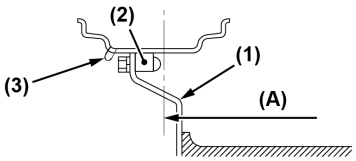
型式			GV651H、GV701H
タイヤサイズ			9.5R24 250/85R24
取付け状態	1	 1GAAG00334A03 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムフランジ *(3)* スペーサ *(4)* バルブ *(A)* 輪距	1220 mm
	2	 1PNKL00193A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムフランジ *(3)* スペーサ *(4)* バルブ *(A)* 輪距	1320 mm
	3	 1GAAG00336A03 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムフランジ *(3)* スペーサ *(4)* バルブ *(A)* 輪距	1380 mm （出荷時）
	4	 1GAAG00337A03 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムフランジ *(3)* スペーサ *(4)* バルブ *(A)* 輪距	1470 mm

（次へ続く）

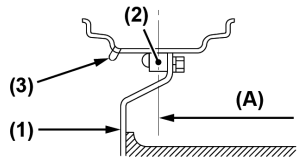
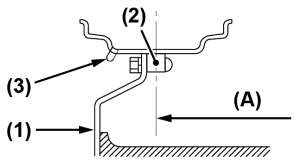
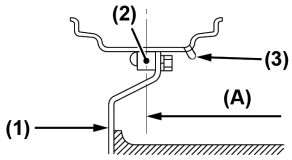
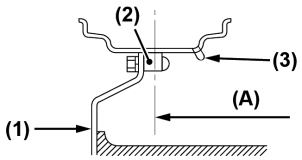
型式			GV651H、GV701H
タイヤサイズ			9.5R24 250/85R24
取付け状態	5	 1GAAG00338A03 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムフランジ *(3)* スペーサ *(4)* バルブ *(A)* 輪距	1420 mm
	6	 1GAAG00339A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムフランジ *(3)* スペーサ *(4)* バルブ *(A)* 輪距	1520 mm

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

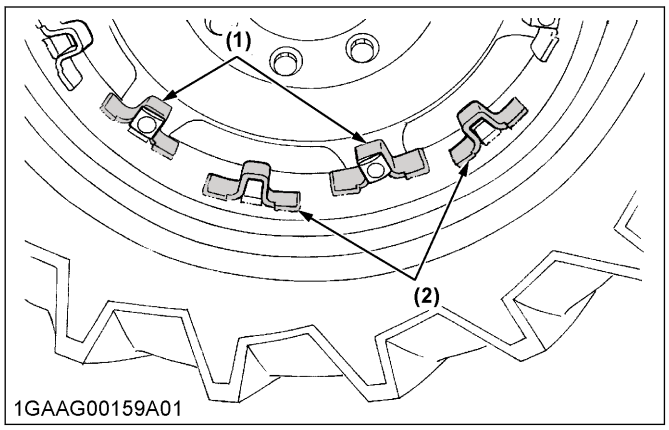
1.3 前輪輪距一覧表［GV701H 前輪 RC タイヤ仕様］

型式			GV701H
タイヤサイズ			9.5-24RC
取付け状態	1	 1PNKL00158A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1200 mm
	2	 1PNKL00161A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1290 mm
	3	 1PNKL00162A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1300 mm
	4	 1PNKL00165A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1390 mm （出荷時）
	5	 1PNKL00166A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1500 mm

（次へ続く）

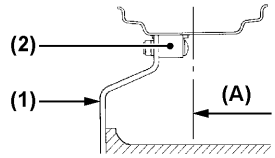
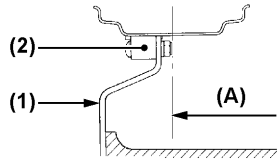
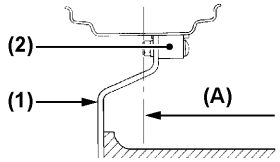
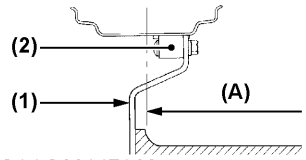
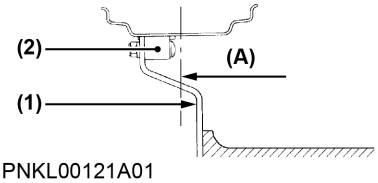
型式			GV701H
タイヤサイズ			9.5-24RC
取付け状態	6	 1PNKL00164A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1240 mm
	7	 1PNKL00160A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1250 mm
	8	 1PNKL00163A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1340 mm
	9	 1PNKL00159A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1350 mm

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**



(1) 内側リムブラケット
(2) 外側リムブラケット

1.4 前輪輪距一覧表［ハーフクローラ仕様の前輪タイヤ］

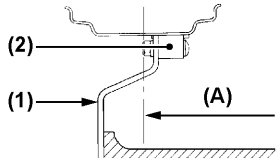
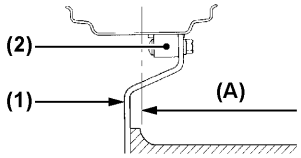
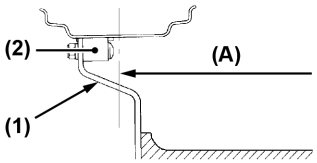
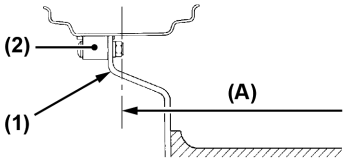
型式			GVK651H、GVK701H		
			標準 N	W	WR
タイヤサイズ			9.5-24	320/60-26	320/85R20
取付け状態	1	 1GAAG00144A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1200 mm	1440 mm （出荷時）	1440 mm （出荷時）
	2	 1GAAG00145A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1300 mm	–	–
	3	 1GAAG00146A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1290 mm	–	–
	4	 1GAAG00147A02 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1390 mm （出荷時）	–	–
	5	 1PNKL00121A01 *(1)* 前輪ディスク *(2)* 前輪リムブラケット *(A)* 輪距	1500 mm	–	–

補足：
- **輪距の図は左前輪タイヤを示します。**

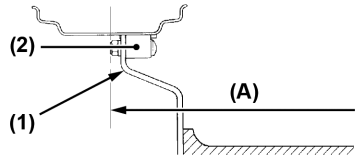
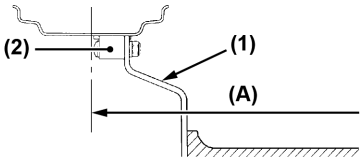
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

2. 後輪輪距一覧表

2.1 後輪輪距一覧表［GV601H、GV651H、GV701H ホイール仕様］

型式			GV601H		GV651H、GV701H	
タイヤサイズ			12.4-32 12.4-32H 14.9-28H	14.9R28	12.4-36 13.9-36 12.4-36H 340/85R36 12.4-38*1	16.9-30 16.9-30H 16.9R30
取付け状態	1	 1GAAG00146A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット *(A)* 輪距	–	1330 mm	–	–
	2	 1GAAG00147A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット *(A)* 輪距	1320 mm （出荷時）	1420 mm （出荷時）	1320 mm （出荷時）	–
	3	 1GAAG00167A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット *(A)* 輪距	1420 mm	1320 mm	1420 mm	1420 mm （出荷時）
	4	 1GAAG00168A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット *(A)* 輪距	1520 mm	1420 mm	1520 mm	1520 mm

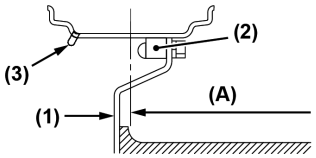
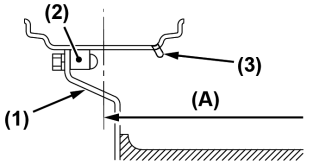
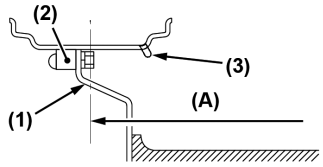
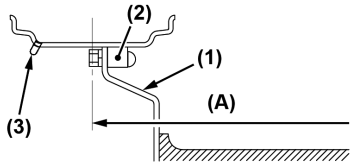
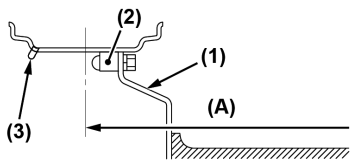
（次へ続く）

型式			GV601H		GV651H、GV701H	
タイヤサイズ			12.4-32 12.4-32H 14.9-28H	14.9R28	12.4-36 13.9-36 12.4-36H 340/85R36 12.4-38*1	16.9-30 16.9-30H 16.9R30
取付け状態	5	 1GAAG00169A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット *(A)* 輪距	1620 mm	1730 mm	1620 mm	1620 mm
	6	 1GAAG00170A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット *(A)* 輪距	1720 mm	–	1720 mm	1720 mm

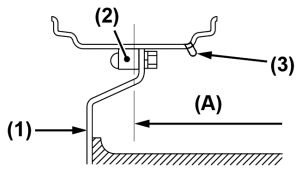
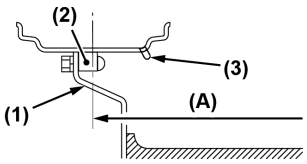
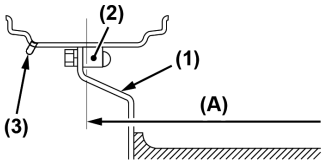
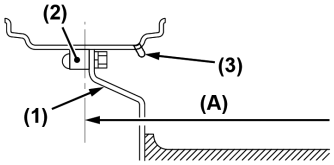
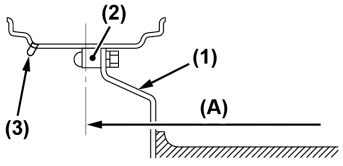
補足：
- **輪距の図は左後輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**

*1 [GV701H]にのみ採用されています。

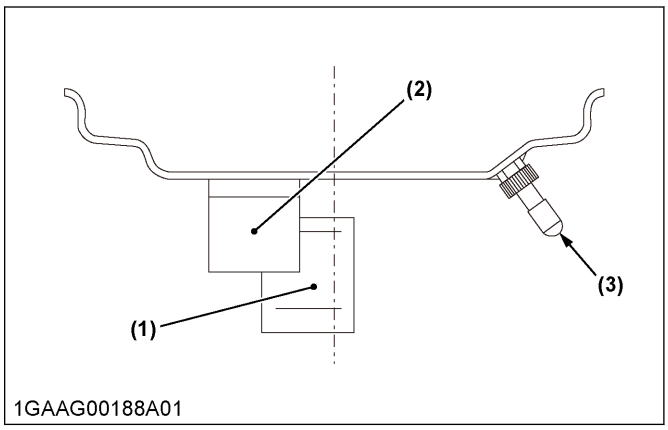
2.2 後輪輪距一覧表［GV701H 後輪 RC タイヤ仕様］

型式			GV701H	
タイヤサイズ			12.4-38RC	12.4R38RC
取付け状態	1	 1GAAG00174A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1320 mm （出荷時）	1320 mm （出荷時）
	2	 1GAAG00175A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1420 mm	1420 mm
	3	 1GAAG00176A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1540 mm	1530 mm
	4	 1GAAG00177A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1600 mm	1610 mm
	5	 1GAAG00178A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（外側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1720 mm	1720 mm

（次へ続く）

型式			GV701H	
タイヤサイズ			12.4-38RC	12.4R38RC
取付け状態	6	 1GAAG00180A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1260 mm	1260 mm
	7	 1GAAG00183A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1480 mm	1480 mm
	8	 1GAAG00185A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1540 mm	1550 mm
	9	 1GAAG00184A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1600 mm	1590 mm
	10	 1GAAG00186A02 *(1)* 後輪ディスク *(2)* 後輪リムブラケット（内側） *(3)* バルブ *(A)* 輪距	1660 mm	1660 mm

補足：
- **輪距の図は左後輪タイヤを示します。**
- **タイヤサイズはタイヤの側面に掲載されています。**



1GAAG00188A01

(1) 内側リムブラケット
(2) 外側リムブラケット
(3) バルブ

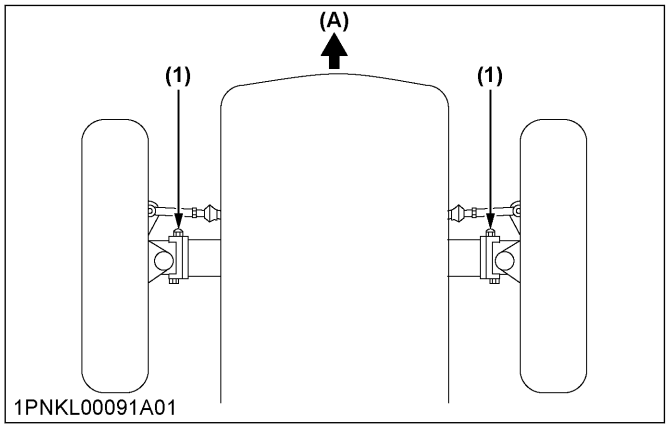
前輪切れ角の調整

1. ストッパボルト交換要領

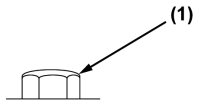
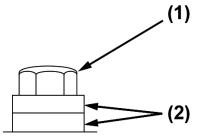
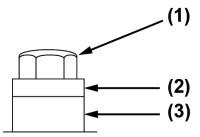
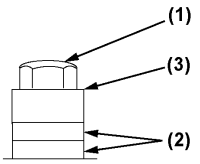
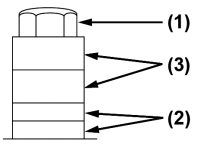
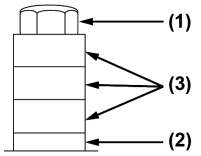
1. 出荷時状態で取り付いているストッパボルトとカラーを取り外します。
2. 新しくストッパボルトまたはストッパボルトとカラーを取り付け、ストッパボルトを軽く締めます。
3. ストッパボルトの接触面の位置決めをするため、エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパボルトを 2 回～3 回ベベルギヤケースに接触させます。
4. その後、ストッパボルトを締め込みます。

2. ストッパボルトの調整

前輪輪距を変更した場合、前輪切れ角の調整が必要となります。前輪切れ角の調整は、ストッパボルトを調整または外して行います。必ず次表に基づき、前輪切れ角を調整してください。



(1) ストッパボルト　　*(A)* トラクタ前方

ストッパボルトの調整番号と調整要領					
1	2	3	4	5	6
 1PNKL00092A01 *(1)* ストッパボルト（*M14*）	 1PNKL00093A01 *(1)* ストッパボルト（*M14*） *(2)* カラー（厚さ *2.6 mm*）	 1PNKL00094A01 *(1)* ストッパボルト（*M14*） *(2)* カラー（厚さ *2.6 mm*） *(3)* カラー（厚さ *6.0 mm*）	 1PNKL00194A01 *(1)* ストッパボルト（*M14*） *(2)* カラー（厚さ *2.6 mm*） *(3)* カラー（厚さ *6.0 mm*）	 1PNKL00095A01 *(1)* ストッパボルト（*M14*） *(2)* カラー（厚さ *2.6 mm*） *(3)* カラー（厚さ *6.0 mm*）	 1PNKL00096A01 *(1)* ストッパボルト（*M14*） *(2)* カラー（厚さ *2.6 mm*） *(3)* カラー（厚さ *6.0 mm*）

型式	タイヤサイズ	輪距と対応する調整番号						
GV601H	適合するすべてのタイヤサイズ	輪距（mm）	すべての輪距					
		調整番号	外す[*1]					
GV651H GV701H	9.5-22	輪距（mm）	1220	1320	1300	1400	1490	–
		調整番号	3	1	1	外す[*1]	外す[*1]	–
	9.5-24	輪距（mm）	1200	1300	1290	1390	1500	–
		調整番号	5	2	2	1	外す[*1]	–
	9.5-24RC	輪距（mm）	1200	1290	1300	1390	1500	–

（次へ続く）

型式	タイヤサイズ	輪距と対応する調整番号						
GV651H GV701H	（外側リムブラケット使用時）	調整番号	5	2	2	1	外す[*1]	–
	9.5-24RC （内側リムブラケット使用時）	輪距（mm）	1240	1250	1340	1350	–	–
		調整番号	5	3	2	2	–	–
	9.5R24 250/85R24	輪距（mm）	1220	1320	1380	1470	1420	1520
		調整番号	6	3	1	外す[*1]	1	外す[*1]

*1　ストッパボルトを外します。

[ハーフクローラ仕様]

型式	タイヤサイズ	輪距と対応する調整番号					
GVK651H GVK701H	9.5-24	輪距（mm）	1200	1300	1290	1390	1500
		調整番号	5	2	2	1	外す[*1]
	320/60-26	輪距（mm）	1440	–	–	–	–
		調整番号	3	–	–	–	–
	320/85R20	輪距（mm）	1440	–	–	–	–
		調整番号	3	–	–	–	–

*1　ストッパボルトを外します。

ウエイト（オプション）

⚠ 警告

- **トラクタ後部用作業機を装備したとき、かじ取り車輪（前輪）に掛かる荷重が総重量の 20 %以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。**
- **装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）に掛かる荷重が総重量の 20 %以上を確保できない作業機は装着しないでください。前部が軽くなりすぎると、操縦がむずかしくなり転倒事故のおそれがあります。**
- **フロントローダを使用するときは、安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。詳細は購入先にご相談ください。**

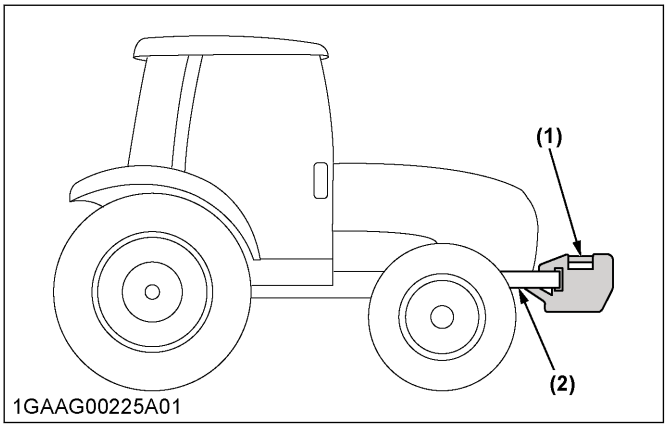
1. 前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書や購入先にご相談ください。

重要：

- **タイヤに過負荷を加えないでください。**
- **次表に示した以上にウエイトを追加しないでください。**

最大ウエイト	45 kg×10 枚



(1)　前部ウエイト　　*(2)*　フロントウエイト取付台

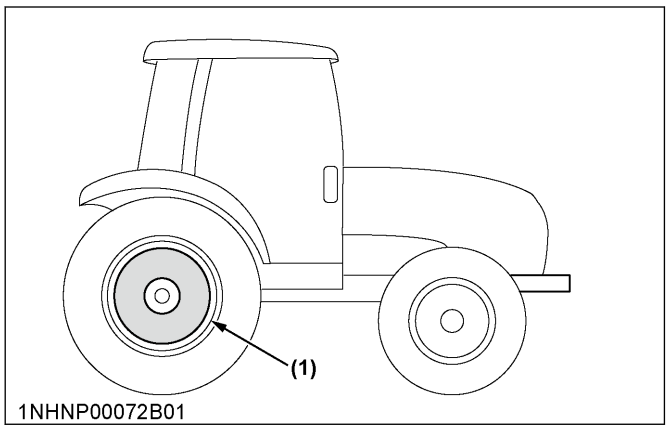
2. 後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用する作業機の取扱説明書や購入先にご相談ください。

重要：

- **タイヤに過負荷を加えないでください。**
- **次表に示した以上にウエイトを追加しないでください。**

最大ウエイト	片側タイヤにつき 50 kg×2 枚



(1) 後輪ウエイト

補足：

- **ウエイトの着脱は、オプションキット内の要領書を参照してください。**

安全キャブ装備品の取扱い

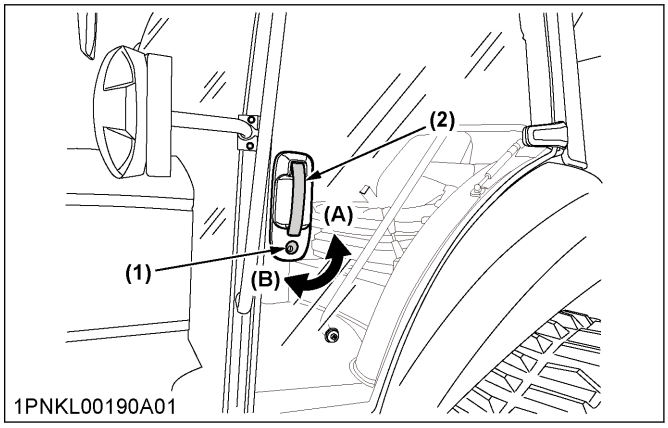
ドア、窓の開閉とロック

⚠ 注意
- **リヤウインド後方で作業機を着脱、調整する場合は、リヤウインドの開閉に注意してください。開放時頭など上半身を打つおそれがあります。**
- **ガラスを破損させるおそれがあるので、安全キャブ内には物を載せないでください。**
- **ガラスはていねいに取り扱ってください。**

1. ドアの開閉とロック

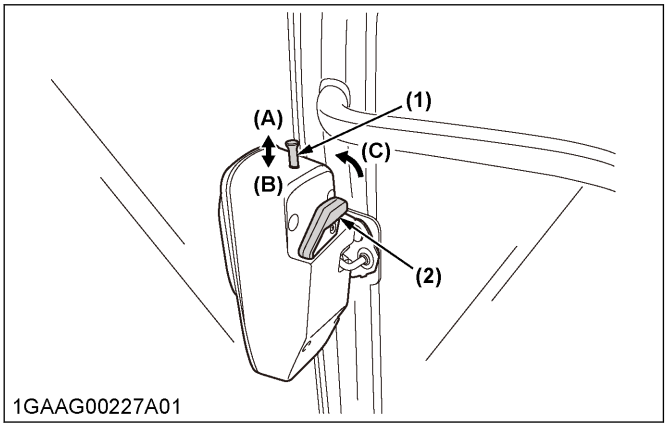
補足：
- **ドアにぶらさがったり、作動範囲以上に無理に押し開かないでください。**

車外から開ける方法
1. キーを回します。
   解錠されます。
2. ドアアウタハンドルを引き、ドアを開けます。



(1) ドアキー
(2) ドアアウタハンドル
(A) 施錠
(B) 解錠

車内から開ける方法
1. ロックノブを上げます。
   解錠されます。
   施錠するときはロックノブを下げてください。
2. インナハンドルを引き、ドアを開けます。

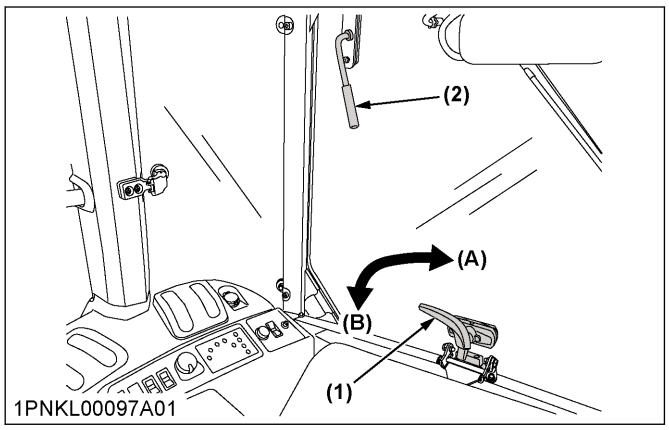


(1) ロックノブ
(2) インナハンドル
(A) 解錠
(B) 施錠
(C) 開

2. リヤウインドの開閉

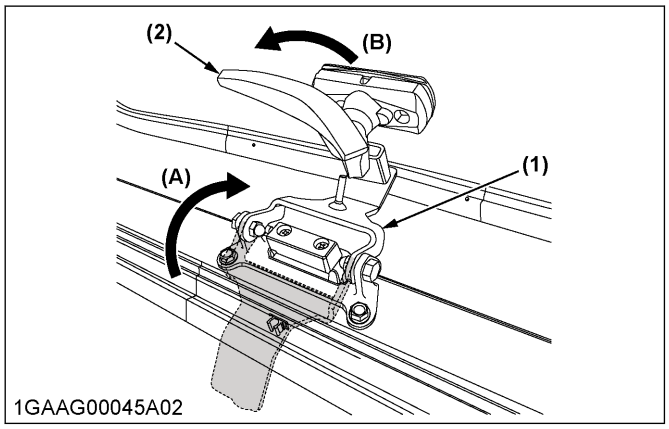
重要：
- **作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合があるので、開閉するときはじゅうぶん確認してください。**
- **リヤウインドを開放したままで、作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがあるので、作業機を上げるときは安全をじゅうぶん確認してください。**
- **リヤウインドを開放したままで高速走行や悪路走行をしないでください。**

開閉
1. リヤウインドを開くときは、リヤウインドハンドルを時計方向に回し、そのまま押します。
   ダンパの作用でリヤウインドを容易に開くことができます。
2. リヤウインドを閉じるときは、リヤウインドハンドルまたはハンドルを引き、リヤウインドハンドルを反時計方向に回します。



(1) リヤウインドハンドル　*(A)* 開
(2) ハンドル　*(B)* 閉

リヤウインド半開き機構
リヤウインド半開き機構を使用することでリヤウインドを半開きのままにしておくことができます。
1. リヤウインドハンドルを回してリヤウインドを開きます。
2. リヤウインド半開き機構を上げます。
3. リヤウインドを閉じて、リヤウインド半開き機構と接触させます。
4. リヤウインドハンドルを閉めます。リヤウインドが半開きになります。

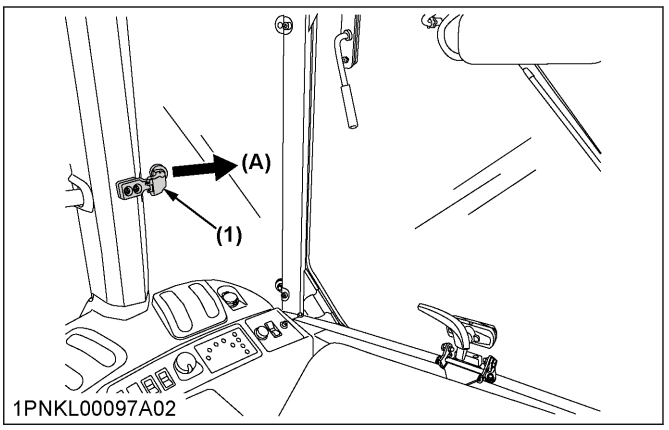


(1) リヤウインド半開き機構　*(A)* 半開き方向
(2) ハンドル　*(B)* 閉

3. クォータウインドの開閉

重要：
- **クォータウインドを開放したままで、悪路走行をしないでください。**

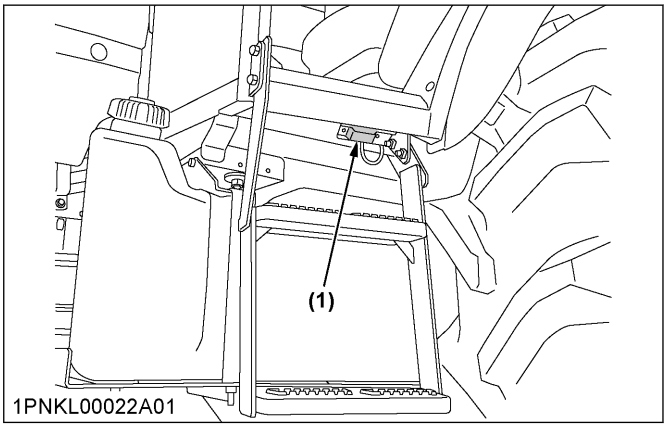
止め金具を手前に引き、ガラスとともに外側へ押すと開きます。



(1) 止め金具　*(A)* 開

フットライト

夜間の作業時に足元を確認しながら昇降できるよう、ドア開閉と連動して左側昇降ステップを照らすフットライトを装備しています。また、ドアの締め忘れでのフットライトの消し忘れを防止するため、フットライトは3分で自動消灯します。



(1) フットライト

ルームランプ

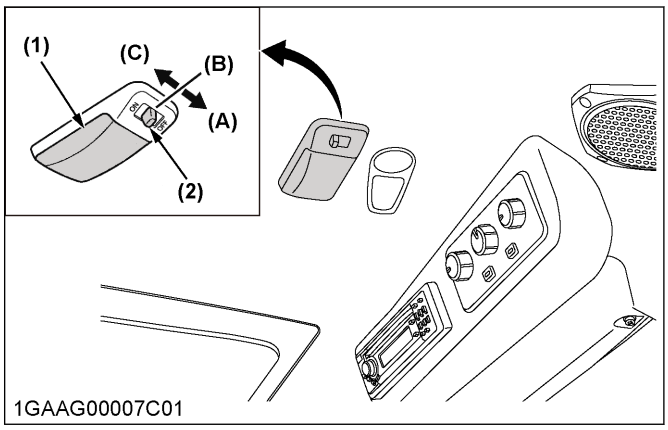
必要に応じてスイッチを切り替えてください。

重要：
- **ルームランプの点灯によるバッテリ上がり防止のため、左ドアは必ず閉めてください。**

[OFF]
常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

[•]
左ドアを開けるとランプが点灯し、閉めるとランプは消灯します。

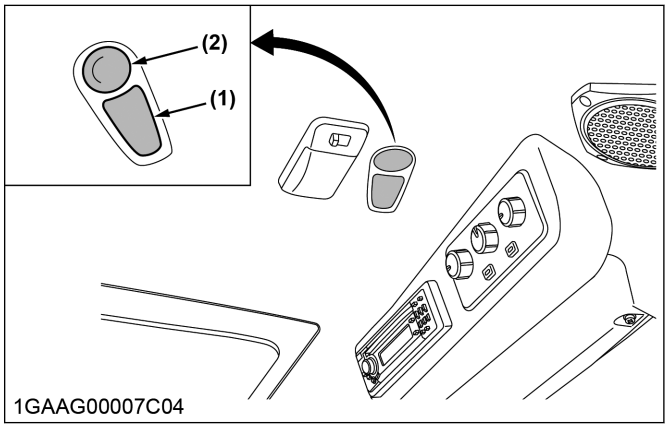
[ON]
ドアの開閉に関係無く、ランプが点灯します。



(1) ルームランプ
(2) スイッチ
(A) *OFF*
(B) •
(C) *ON*

夜間照明

夜間、右側のスイッチ、レバー類を照らすライトです。ヘッドライトスイッチがテールランプの点灯位置にあるときに、夜間照明のスイッチを押し込むとライトが点灯できます。



(1) 夜間照明
(2) スイッチ

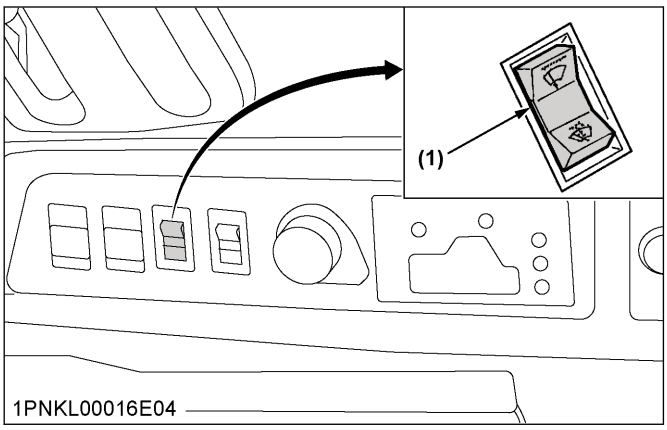
ワイパ

1. フロントワイパ･ウォッシャスイッチ

重要：

- **乾拭きはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

- スイッチの下側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- スイッチの上側を 1 段押すと、間欠ワイパが作動します。フロントガラスが濡れる頻度が低い少雨時は、通常のワイパでは乾拭き状態になるので、この間欠ワイパを使用してください。
  さらに 2 段目を押すと、押している間のみワイパが作動したまま、ウォッシャ液が噴射します。



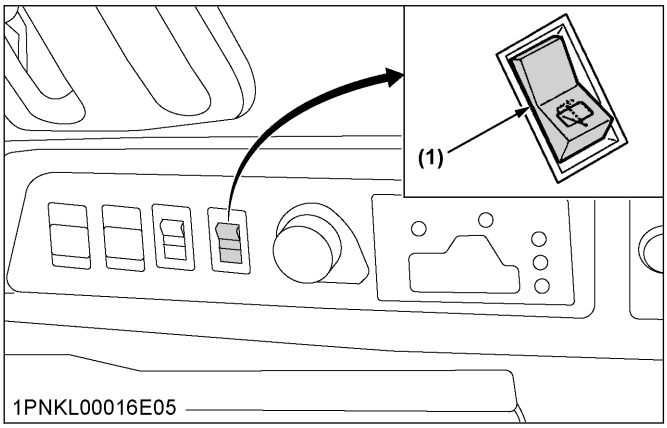
(1) フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

2. リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

重要：

- **乾拭きはガラスを傷つけることがあります。必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。**

- スイッチの下側を 1 段押すとワイパが作動します。さらに 2 段目を押すと、押している間のみ、ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
- スイッチの上側を押し込むと、ウォッシャ液が噴射します。



(1) リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

3. 寒冷時のワイパの使用

重要：

- **寒冷時には、ワイパブレードやワイパモータに過大な負担が掛かることがあります。そのため、ワイパブレードやワイパモータの故障につながるおそれがあります。このような異常を防ぐため、次の事項を必ず守ってください。**
  - **寒冷時には、ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。**
  - **ガラスに雪が積もっているときには、雪を取り除いてからワイパを使用してください。**

- **ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは、必ずキースイッチを[切]位置にしてブレード部の氷を取り除いてから再度起動させてください。**
- **市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は、標準装着品と同サイズか、それ以下のサイズのワイパブレードを使用してください。**

作業灯

⚠ 警告

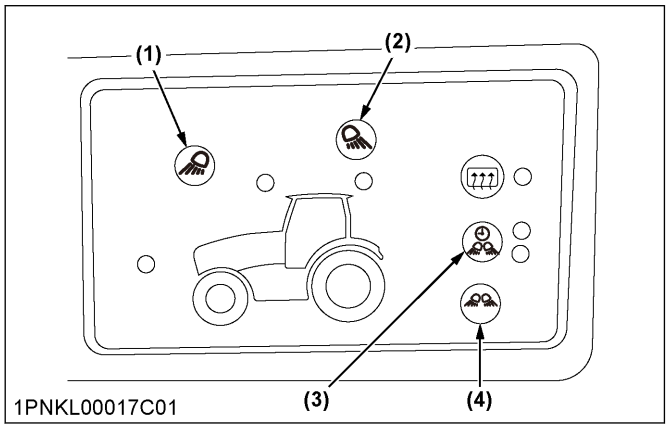
- **作業灯は『道路運送車両法の保安基準第 *42* 条（灯火の色等の制限）』において、*"*走行中に使用しない灯火*"*とされています。点灯したまま道路走行するとほかの交通車両の妨害となるので、道路走行中は点灯しないでください。**

重要 :

- **バッテリが上がるので、ヒータ、作業灯、ヘッドライトなど電装品を使用する場合は、エンジン回転を 1800 n/min 以上にしてください。**

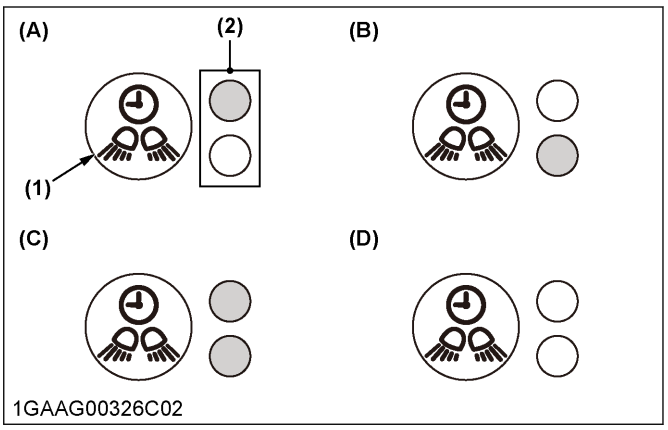
1. 作業灯スイッチ

作業灯スイッチを押すと作業灯が点灯し、再度スイッチを押すと消灯します。作業灯の点灯状態を示す LED ランプがスイッチの近くに内蔵されています。全作業灯スイッチで前後の作業灯の点灯、消灯を操作できます。



(1) 作業灯（前）スイッチ
(2) 作業灯（後）スイッチ
(3) ディレイオフ機能スイッチ
(4) 全作業灯スイッチ

また、納屋などの暗所で移動しやすくするため、キーオフ後の一定時間、作業灯を点灯するように設定できるディレイオフ機能があります。設定時間は 1 分、3 分、5 分の 3 種類あり、ディレイオフ機能スイッチで設定できます。工場出荷時はディレイオフ機能は*"OFF"*状態です。



(1) ディレイオフ機能スイッチ
(2) インジケータ *LED*
(A) 上 *LED* 点灯
(B) 下 *LED* 点灯
(C) 上下 *LED* 点灯
(D) 上下 *LED* 消灯

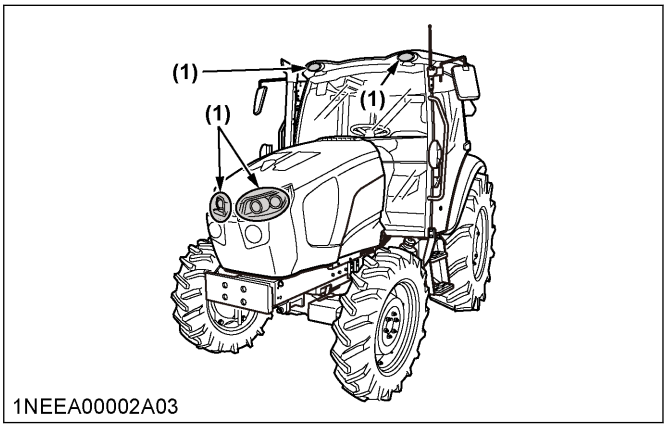
上 LED 点灯
点灯時間 1 分

下 LED 点灯
点灯時間 3 分

上下 LED 点灯
点灯時間 5 分

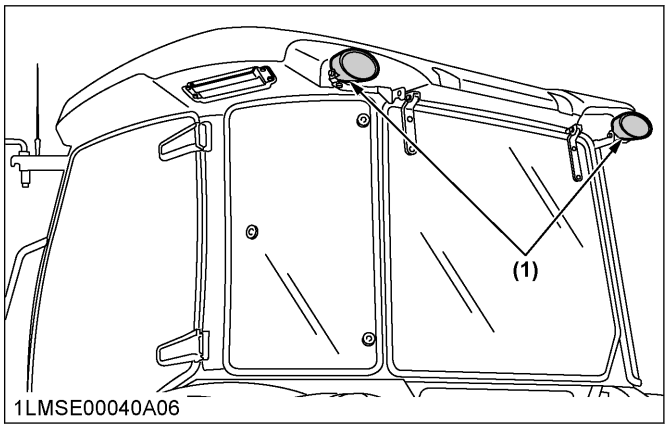
上下 LED 消灯
ディレイオフ機能 OFF

2. 作業灯（前）



(1) 作業灯（前）

3. 作業灯（後）



(1) 作業灯（後）

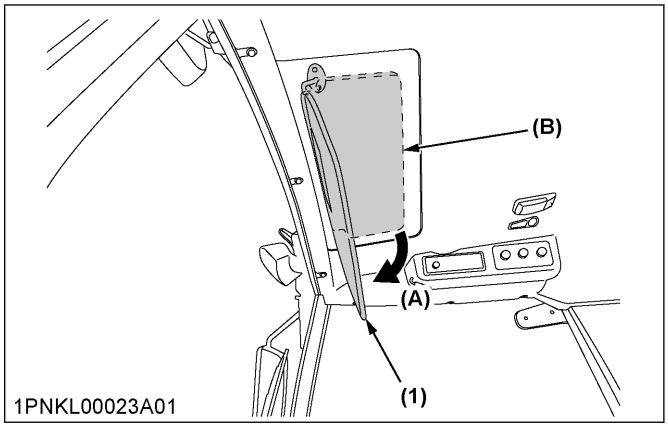
その他のアクセサリ

1. サンバイザ

⚠ 注意

- **サンバイザを適切な位置で使用しないと、前方視界がさえぎられたり、頭に当たったりするおそれがあります。**
- **サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進、停止時に物が落ちるおそれがあります。**

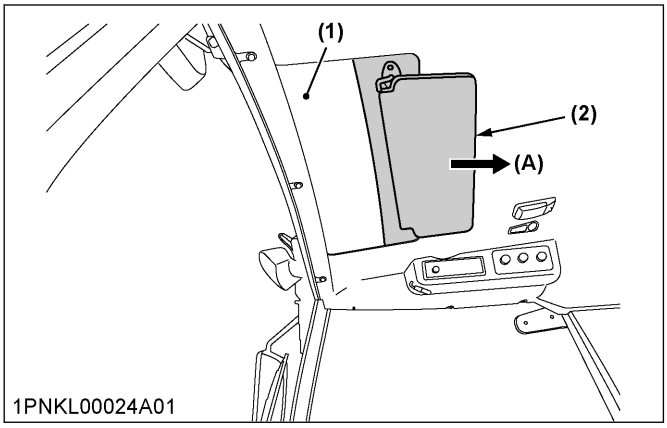
直射日光など外からの光がまぶしいときに使用します。
サンバイザは、収納位置より下げて使用してください。



(1) サンバイザ
(A) 使用位置
(B) 収納位置

2. ルーフパネル

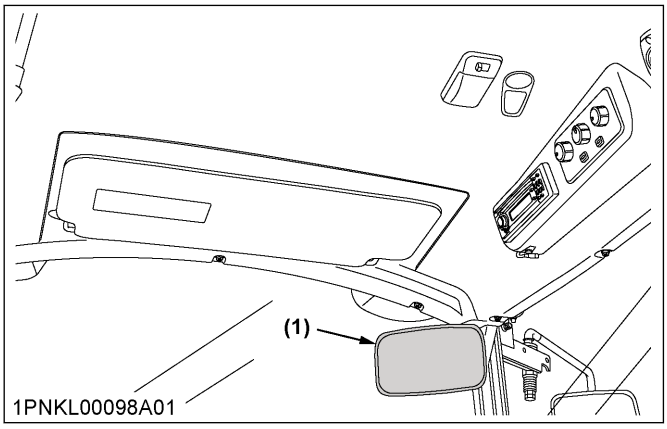
フロントローダ持上げ時、バケット、フォークなど先端アタッチメントの位置や角度を運転席から目視確認できます。
サンシェードを開けるときは中央部を持ち、後方へスライドしてください。



(1) 天窓
(2) サンシェード
(A) 開方向

3. ルームミラー（オプション）

ルームミラー全体を動かして、後方視界を確認しながら調節してください。ルームミラーの調節は、必ずトラクタを運転する前に行い、走行中は調節しないでください。



(1) ルームミラー

オートエアコン

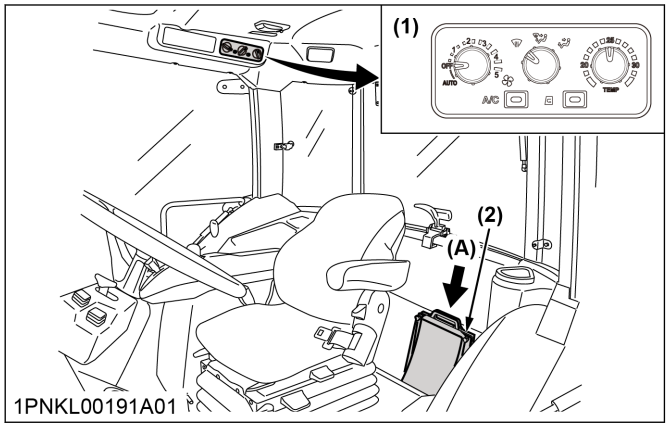
このエアコンは、フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。
地球環境を保護するため、次のことが法律で決められており、違反した場合は罰せられます。

- この製品に封入されている冷媒をみだりに大気中に放出してはいけません。
- この製品を廃棄、整備する場合にはフロン類の回収が必要となります。
  回収業者に依頼のうえ、回収済の証明をもらってください。
- フロン回収済の証明がなければ、廃棄物業者およびリサイクル業者による製品の引取りは禁止されています。
- 冷媒の種類および数量

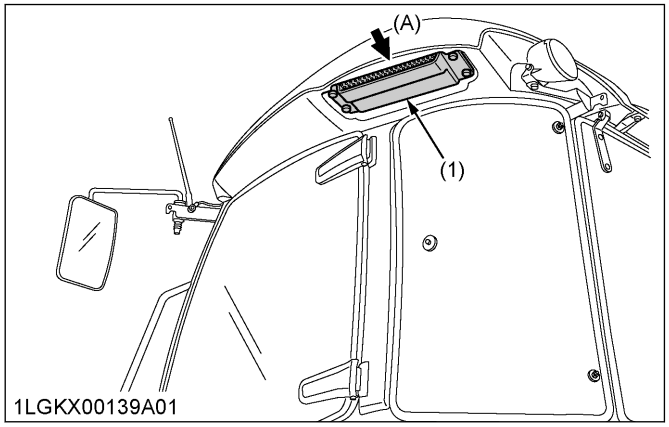
種類	冷媒番号	GWP 値	数量(kg)
HFC	R134a	1430	1.0±0.05

1. エアコンの空気の流れ

このエアコンは、マイコン制御により風量、空気の温度を自動的に調整します。エアコンコントロールパネルのファンスイッチを**[AUTO]**位置にする操作だけで、オールシーズン車内を快適に保ちます。

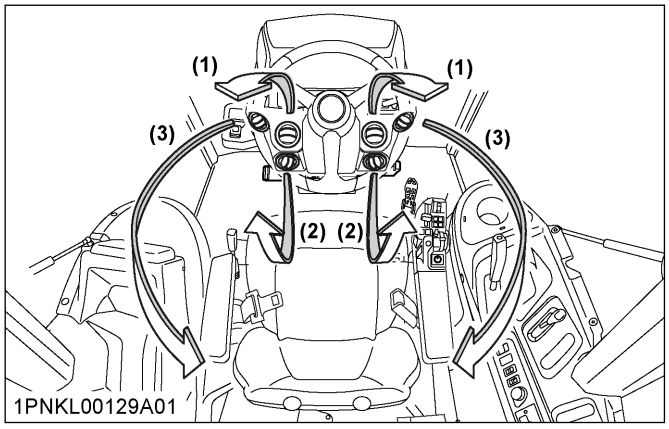


(1) コントロールパネル
(2) 内気フィルタ
(A) 内気導入口



(1) 外気フィルタ
(A) 外気導入口

空気の流れのイメージ



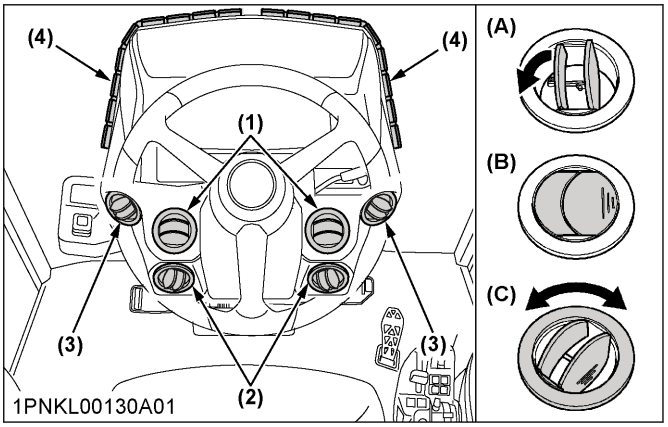
(1) 前方吹出口
(2) 足元吹出口
(3) 側方吹出口

重要：

- **洗車時は外気導入口に、直接放水しないでください。**

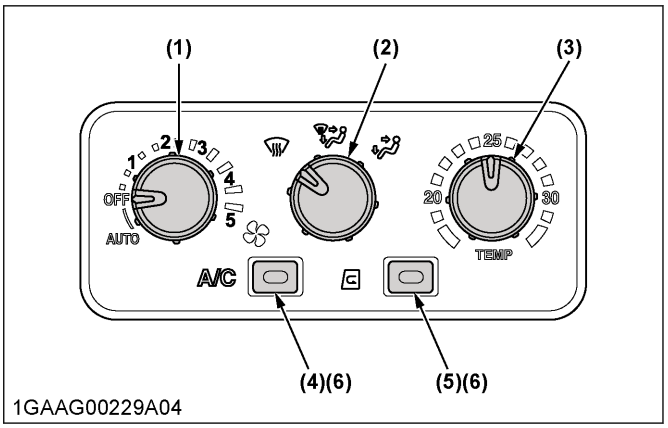
補足：

- **空気吹出口は図の(A)のように角度を調整でき、また(C)のように矢印方向に 360 度自在に方向を調整できます。運転者が快適になる向きで使用してください。空気の吹出しを止めたい吹出口は、(B)のように閉めてください。**
- **前方吹出口、足元吹出口は上半身、足元に、側方吹出口は運転席後方に送風したいときに使用してください。**



(1) 前方吹出口
(2) 足元吹出口
(3) 側方吹出口
(4) デフロスタ吹出口
(A) 開
(B) 閉
(C) 方向調整

2. コントロールパネル



(1) ファンスイッチ
(2) 吹出口切換えスイッチ
(3) 温度コントロールつまみ
(4) エアコンスイッチ
(5) 内外気切換えスイッチ
(6) インジケータランプ

2.1 内外気切換えスイッチ

スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り換わります。

外気導入

スイッチのインジケータランプは消灯します。
安全キャブ室内に外気が入ってきます。ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用してください。

内気循環

スイッチのインジケータランプは点灯します。

安全キャブ室内に外気は入りません。早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

補足：
- **内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。**
- **ほこりが多発する作業では、外気導入で使用してください。外気を取り入れることで室内の圧力が上昇し、安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。**

2.2 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。
好みの位置にセットして適宜調節してください。設定温度は 1 ℃刻みで調節できます。

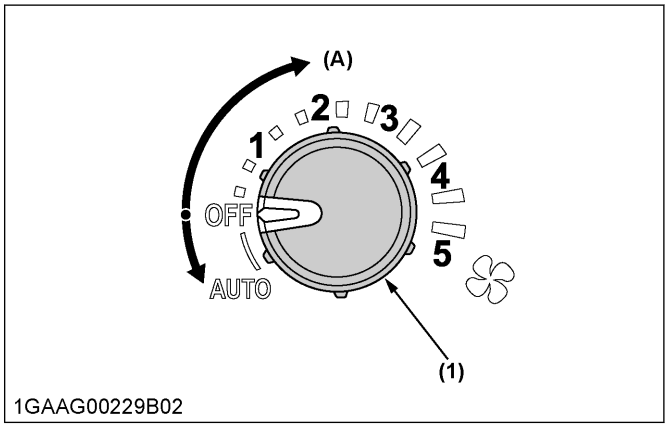
2.3 吹出口切換えスイッチ

デフロスタ吹出口から空気が吹き出します。フロントガラスの曇りおよび凍結を除去するときや、安全キャブの室内温度を調整したいときに使用してください。

デフロスタ吹出口とフロント吹出口から空気が吹き出します。

フロント吹出口から空気が吹き出します。上半身や足元に送風したいときに使用してください。

2.4 ファンスイッチ



(1) ファンスイッチ　　*(A)* 風量切換

[AUTO]位置
オートエアコンが作動します。

風量切換位置
風量を 5 段階に調節できます。右端の**[5]**は最も風量が多い位置です。

補足：
- **[AUTO]位置で暖房を使用する際、エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため、しばらくの間ファンが作動しないことがあります。**

2.5 エアコンスイッチ

A/C

エアコンを使うときは、このスイッチを押して“入”にします。“入”のとき、インジケータランプが点灯します。

重要：
- **トラクタを 1 週間以上、長期放置後にエアコンを使うときは、エンジン回転をアイドリングにして A/C エアコンスイッチを“入”にし、1 分間運転してください。エンジン回転が高いままで A/C エアコンスイッチを“入”にすると、コンプレッサが故障するおそれがあります。**

2.6 暖房、冷房、除湿暖房の調節

1. 内外気切換えスイッチを押してインジケータランプを消灯状態にし、外気導入にします。早く冷暖房したいときはインジケータランプが点灯状態の内気循環にします。
2. エアコンスイッチを押して“*ON*（入）”にします。インジケータランプが点灯します。
3. ファンスイッチを**[AUTO]**位置にします。
4. 温度コントロールつまみを調節し、快適な温度にします。

2.7 デフロスト

フロントガラスの曇りおよび凍結除去をする方法です。
1. 吹出口切換えスイッチを デフロスタ位置にします。
2. 内外気切換えスイッチを外気位置にします。インジケータランプが消灯します。
3. ファンスイッチを右端、温度コントロールつまみを右端にします。

3. ヒータ使用上の注意

警告
- **ウォータホースおよびヒータユニットに直接触れないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。**
- **異常が発生したとき、修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付きなどの重大な故障につながります。**

- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。

ただし、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。（詳細は、冷却水の交換（212 ページ）を参照）
- ウォータホースは 4 シーズンごとに交換を依頼してください。

日常点検

次のような異常が発生したときは速やかに修理を依頼してください。ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付きなどの重大な故障につながります。
- ウォータホースの傷つき、ひびわれ、ふくらみ
- ウォータホースジョイント部の水漏れ
- ウォータホースの保護ブッシュおよびグロメットの外れ、破損
- 本体取付けボルトのゆるみ、ブラケットの破損

オーディオ機器の取扱いについて

別冊の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
また、パイオニア（株）のホームページから取扱説明書を PDF ファイルでダウンロードしてご覧いただけます。

⚠ 警告
- **安全のため、運転中はオーディオを操作しないでください。**
- **安全のため、運転中は車外の音が聞こえる音量にしてください。**

重要：
- **オーディオ機器を本機から取り外したり、分解、改造したりすると保証の対象外となるのでご注意ください。**

補足：
- **オーディオ機器の付属品については、別冊の取扱説明書に記載している内容とは異なる場合があります。**

1. オーディオ機器のお問合わせ

- オーディオ機器の修理故障に関しては、本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。
- オーディオ機器の取扱いに関するお問合わせは、メーカー窓口でもご相談いただけます。

パイオニア（株）カスタマーサポートセンター

固定電話から	無料	0120-944-111	
携帯電話、PHS から	有料	ナビダイヤル	0570-037-600
		ナビダイヤルがご利用いただけない場合 IP 電話	050-3820-7540
ファックス	有料	ナビダイヤル	0570-037-602

受付時間

月曜～金曜	9:30～18:00
土曜	9:30～12:00、13:00～17:00

日曜、祝日、パイオニア（株）休業日は除く

2. オーディオ機器の電源が入らない時の対応

1. オーディオ（ACC）用ヒューズが切れていないか確認します。
   オーディオ（ACC）用ヒューズは本機のヒューズボックスの中にあります。
   （ヒューズの交換（217 ページ）を参照）
2. ヒューズが切れている場合は交換します。
   本機のヒューズは切れていないのにオーディオ機器の電源が入らない場合は、本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。

3. 本機で利用できないオーディオ機器の機能について

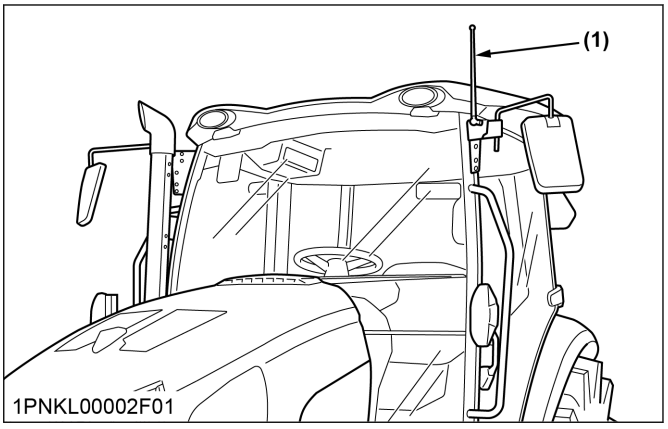
本機の仕様上、別冊の取扱説明書に記載している機能の一部にはご利用いただけない機能がありますので、あらかじめご了承ください。

ご利用いただけない機能例
- 前後スピーカーの音量バランス調整
- ステアリングリモコンの設定

その他、ご不明点がありましたら、本機をお買上げいただいた購入先もしくはメーカー窓口へご相談ください。

アンテナ

重要：
- **アンテナは角度調節ができないので動かさないでください。**

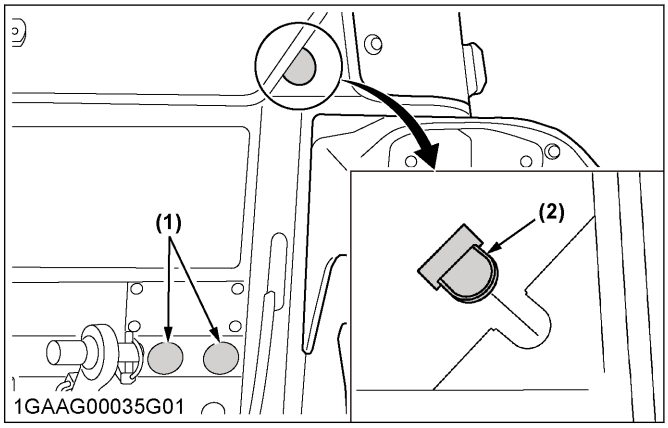


(1) アンテナ

作業機の装着

1. 作業機用操作ボックスの取付け

1. ゴムキャップまたはコーナープラグに穴を開けます。



(1) ゴムキャップ　　*(2)* コーナープラグ

2. 作業機用操作コードなど取付け用部品を安全キャブ室内に導入し、操作ボックスを取り付けます。

トラクタの点検、整備のしかた

点検、整備時の注意

⚠ 警告

- **給油および点検整備するときは、次のように準備してください。そうしないと死傷事故を引き起こすおそれがあります。**
  1. **トラクタを平たんな広い場所に置きます。**
  2. **作業機を降ろします。**
  3. **駐車ブレーキを掛けます。**
  4. **エンジンを止めます。**
  5. **キーを抜き、安全を確認してから、給油および点検整備を開始します。**

廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

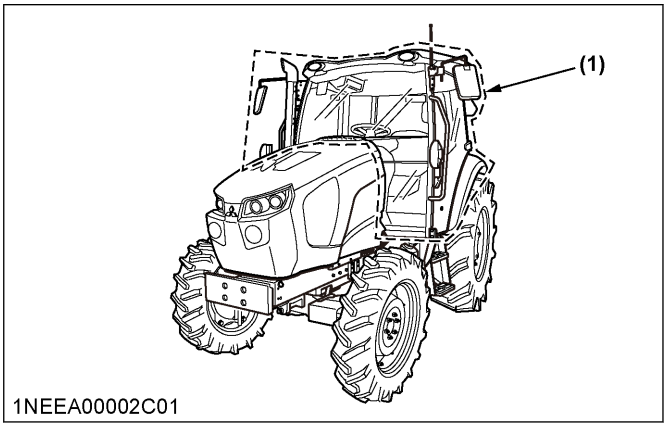
⚠ 注意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
   例）
   - **シール・ラベルの剥がれ**
   - **電子部品、エンジン・トランスミッション室内、安全キャブ室内などへの浸入による故障**
   - **タイヤ、オイルシールなどのゴム類、樹脂類、ガラスなどの破損**
   - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

重要：

- **安全キャブのガラス部、ルーフ部の洗車の際には、圧力水を掛けないでください。（圧力を下げるか水流を広げてください）**
  安全キャブ室内の水漏れ、電気部品の故障の原因になります。



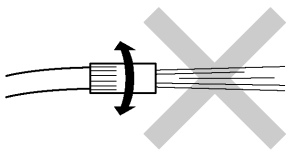
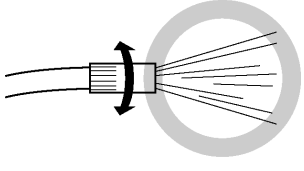
(1) 高圧洗車禁止箇所

補足：

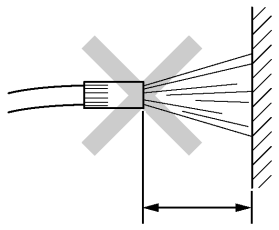
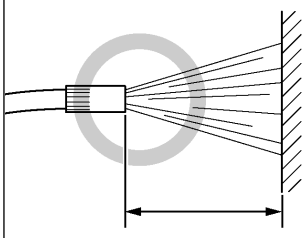
- **市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形、割れ、曇りが発生する場合があります。特に電子メータなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。**

- 高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。
  高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがあります。

直射洗車厳禁

直射	拡散
	
1LMSE00008A01	1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁

 1LMSE00036A01	 1LMSE00036B01
2 m 未満	2 m 以上

定期点検箇所一覧表

次の定期点検箇所に従って定期点検を行ってください。

重要：

- **日常点検は作業前と作業後に必ず実施してください。**
  （詳細は、日常点検（187 ページ）、日常点検［ハーフクローラ仕様］（194 ページ）を参照）

項目		点検時期													参照ページ	脚注
		アワーメータ表示時間											使用年月数	以降の点検間隔		
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	…				
グリースの注入	補充	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50 時間ごと	194	
エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				196	
タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				197	
パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				197	
燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				197	
クラッチハウジング	水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				197	
エンジンの始動確認	点検		○		○		○		○		○			100 時間ごと	201	
エンジンの排気の状態	点検		○		○		○		○		○				201	
エキゾーストパイプおよびマフラの状態	点検		○		○		○		○		○				201	
バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○				198	*1
ブレーキペダル	点検		○		○		○		○		○				200	
オルタネータベルト	調整		○		○		○		○		○				199	
クラッチペダル	調整	◎ *2	○		○		○		○		○				200	
エアクリーナエレメント（アウタ）	清掃		○		○		○		○		○				199	
油圧オイルフィルタ	交換	◎ *2			○				○					200 時間ごと	202	
トーインおよびタイロッド	点検				○				○						203	
ラジエータホース	点検				○				○						201	
オイルクーラホース	点検				○				○						202	
吸気ホース	点検				○				○						201	
エアコンベルト	調整				○				○						206	
室内エアフィルタ	清掃				○				○						205	
外気フィルタ	清掃				○				○						206	
エアコンコンデンサ	清掃				○				○						206	
燃料タンク	水抜き				○				○						205	
エンジンオイル	交換	◎ *2							○					400 時間ごと	207	
エンジンオイルフィルタ	交換	◎ *2							○						208	
燃料フィルタ	交換								○						208	
セパレータ	清掃								○						208	
ミッションオイル	交換	◎ *2										600 時間		600 時間ごと	209	
前車軸ケースオイル	交換	◎ *2													209	
前部デフケース前後遊び	調整														209	
エンジンバルブクリアランス	点検											800 時間		800 時間ごと	210	
オイルセパレータエレメント	交換											1500 時間		1500 時間ごと	210	
インジェクタ	点検														210	
PCV バルブ	点検														210	
EGR クーラ	点検、清掃														210	
サプライポンプ	点検											3000 時間		3000 時間ごと	210	

（次へ続く）

項目		点検時期													参照ページ	脚注
		アワーメータ表示時間											使用年月数	以降の点検間隔		
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	…				
ターボチャージャ	点検											3000 時間		3000 時間ごと	210	
インテークエアヒータ	点検														211	
EGR システム	点検、清掃														211	
DPF マフラ	清掃											3000 時間～6000 時間		3000 時間～6000 時間ごと	211	
エアコンの簡易点検	点検												3 か月	3 か月ごと	211	
エアクリーナエレメント（インナ）	交換												1 年	1 年ごと	211	
エアクリーナエレメント（アウタ）	交換														211	*3
エアコン配管、ホース	点検														211	
キャブマウントゴム	点検														211	
エキゾーストマニフォールド	点検														211	
DPF 差圧センサパイプ	点検														211	
EGR パイプ	点検														211	
パワーステアリングホース	交換												2 年	2 年ごと	213	
燃料ホース	交換														213	
ラジエータホース	交換														213	
オイルクーラホース	交換														213	
吸気ホース	交換														213	
冷却水	交換														212	
メインシリンダホース	交換														213	
傾き自動シリンダホース	交換														213	
PCV バルブホース	交換														213	
DPF 差圧センサホース	交換														213	
ブーストセンサホース	交換														213	
オイルセパレータホース	交換														213	
ラジエータ	洗浄														213	
ヒューズ類	交換													必要に応じて	217、219	
ランプ類	交換														220、220	
ドアヒンジ部とリアウインドヒンジ部	注油														220	
ウォッシャ液	補充														221	
冷媒（ガス）量	点検														221	
燃料系統	空気抜き														217	

補足：

- **専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。**

*1　バッテリ電解液はアワーメーター表示時間が 100 時間以内の場合、1 年ごとに点検を行ってください。

*2　ならし運転の 50 時間後に必ず行ってください。

*3　1 年ごと、または 6 回掃除ごとに交換してください。

[ハーフクローラ仕様]

項目		点検時期												参照ページ	脚注
		アワーメータ表示時間										使用年月数	以降の点検間隔		
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	…			
グリースの注入	補充	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			50 時間ごと	214	
ローラ、アイドラのオイル	交換				○				○					200 時間ごと	215	
オイルシール	点検				○				○					200 時間ごと	215	

補足：

- **専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、購入先にご相談ください。**

給油、給水一覧表

1. トラクタの給油、給水一覧

No.	給油、給水項目	容量	備考
1	燃料	120 L	超低硫黄ディーゼル軽油（S10）
2	冷却水	10 L	清水 不凍液を入れた場合は、その量だけ少なく清水を入れてください。
	リザーブタンク	1.0 L	
3	ウォッシャ液	2.0 L	自動車用ウォッシャ液
4	エンジンオイル*1	12 L	指定オイル （詳細は、推奨オイル、グリース一覧表（186 ページ）を参照）
5	ミッションオイル（油圧オイル）	57.8 L	指定オイル スーパー UDT-2
6	ミッションオイル（HST 部）	7 L	
7	前車軸ケース	9 L	
8	［ハーフクローラ仕様］ローラ	0.10 L	
9	［ハーフクローラ仕様］アイドラ	0.13 L	
10	各操作レバー、ペダル支点	注油	
11	３点リンク	注入、塗布	極圧（万能）グリース
12	バッテリーターミナル	塗布	
13	油圧シリンダ ステアリングジョイント軸 前車軸ケースサポート 前車軸受	注入	
14	• **ハーフクローラ仕様** クローラサポート ローラ揺動部 ヨーク揺動部	注入（左右各 1）	

補足：
- **グリースポンプは手動のハンドガン式の物を使用してください。**

*1　エンジンオイルフィルタ含む

推奨オイル、グリース一覧表

必ず次の推奨品を使ってください。

エンジンオイル、ミッションオイル

エンジンオイル	ミッションオイル、前車軸オイル
指定オイル（DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル） **D10W-30 DH-2**	指定オイル スーパー UDT-2

エンジンオイルについて

DPF 搭載のディーゼルエンジンには、指定ディーゼルエンジンオイル **D10W-30 DH-2** を必ず使用してください。ほかのオイルを使用するとオイルに含まれる金属系添加剤の燃残り（灰分）が DPF に堆積してフィルタの詰まりが助長され、DPF が機能しなくなるまでの時間が極端に早まります。

グリース

極圧（万能）グリース	推奨グリース No.2
ホーン接点用グリース	協同油脂マルテンプ PS2

指定の極圧（万能）グリース**推奨グリース No.2** が入手できない場合は、次のメーカー製品または JCMAS GK 規格品を使用してください。

メーカー	製品名
ENEOS	エピノックグリース AP2
コスモ石油ルブリカンツ	ダイナマックス No.2
出光興産	ダフニーエポネックス SR2

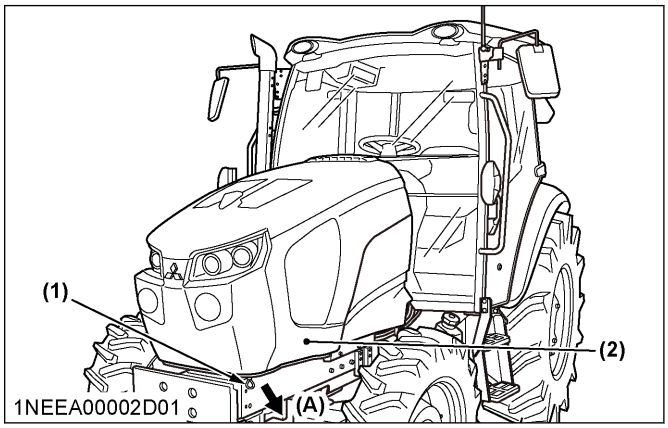
ボンネットの開閉およびサイドカバーを外す方法

警告
- **エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。**
- **マフラが熱いときは触らないでください。ヤケドすることがあります。**

1. ボンネットの開閉

1.1 ボンネットを開ける方法

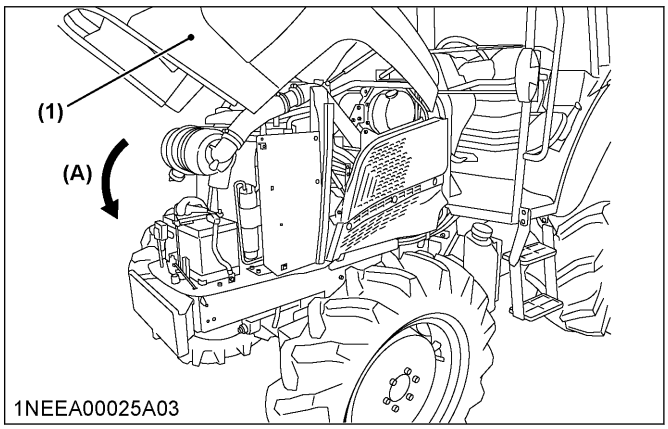
1. 片手でボンネットを軽く押えながら、ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



(1) 解除レバー
(2) ボンネット
(A) 解除

1.2 ボンネットを閉める方法

1. ストラップを引き、ボンネットを閉めます。

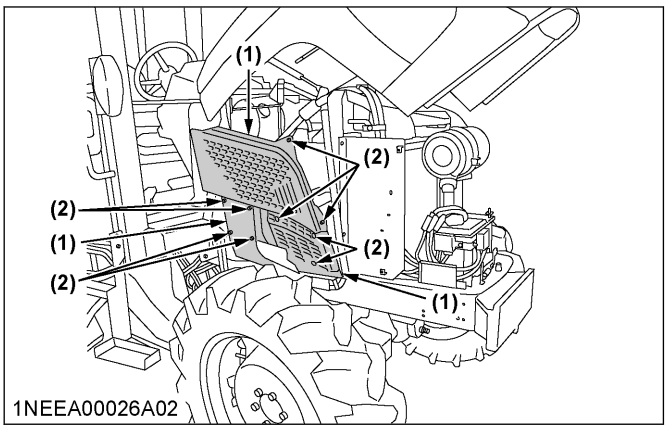


(1) ボンネット
(A) 閉める

2. 両手でボンネットを上から押え、ロックします。
3. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。

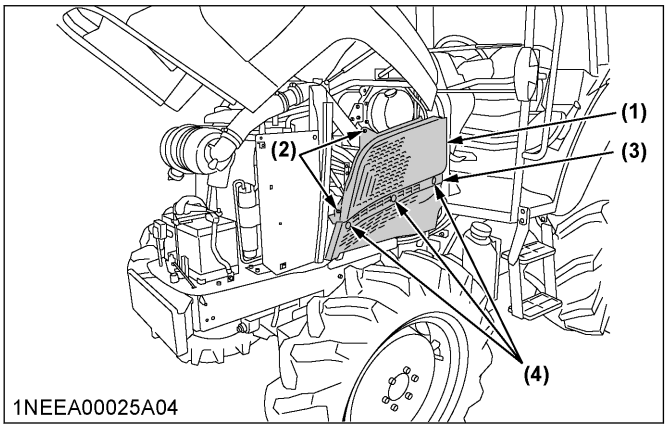
2. サイドカバーの取外し

1. 車体右側のサイドカバーは、図で示すボルトを外して取り外します。



(1) サイドカバー
(2) ボルト

2. 車体左側のサイドカバー（上）は図で示すボルトを外して取り外します。
3. サイドカバー（下）は図で示すクリップを地面と水平まで回して固定し、取り外します。



(1) サイドカバー（上）
(2) ボルト
(3) サイドカバー（下）
(4) クリップ

日常点検

警告
- **火気厳禁です。**
- **点検をするときは、必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **トラクタは常に清掃してください。バッテリ、配線、マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などの汚れがあると、火災の原因になります。**
- **運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。**

• エンジン周囲のカバー類を開けて点検、整備するときは、内部がじゅうぶんに冷めて、ヤケドのおそれが無いことを確認してから行ってください。

1. 前日の異常箇所の点検

• 前日の作業中に異常を感じた所があれば、使用前に支障が無いか点検します。

2. トラクタの周囲の点検

トラクタの周りを歩いて、異常が無いか点検してください。

• ボルトやナットのゆるみおよび作業機取付けピンの脱落が無いか点検します。
• 車体各部の変形や損傷が無いか点検します。
• 油漏れや水漏れなどの異常が無いか、点検します。

3. エンジンオイル量の点検、補給

⚠ 警告

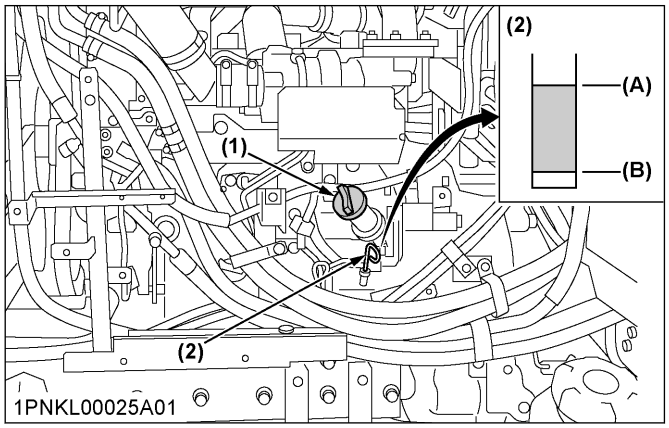
• 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

重要：

• 点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
• オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量を測れません。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜き“下限”と“上限”の間にオイルがあるかを調べます。
2. “下限”以下の場合は補給します。
   ただし、“上限”以上には入れないでください。エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。

車体左側サイドカバー裏



(1) 給油口　　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　　*(B)* 下限

補足：

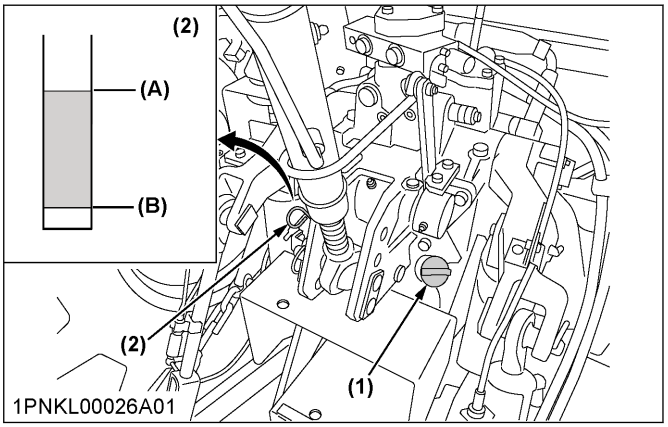
• DPF の再生に用いる微量燃料の一部がエンジンオイルに混ざり、エンジンオイルが注入時より増えることがありますが、これは故障ではありません。

4. ミッションオイル量の点検、補給

⚠ 警告

• 点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、差し込んでから再び抜き“下限”と“上限”の間にオイルがあるかを調べます。
   作業機（ロータリ）付の場合は、作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. “下限”以下の場合は補給します。
   ただし、“上限”以上には入れないでください。



(1) 給油口　　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　　*(B)* 下限

5. 冷却水量の点検、補給

⚠ 警告

• ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、ラジエータ本体が冷めてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。

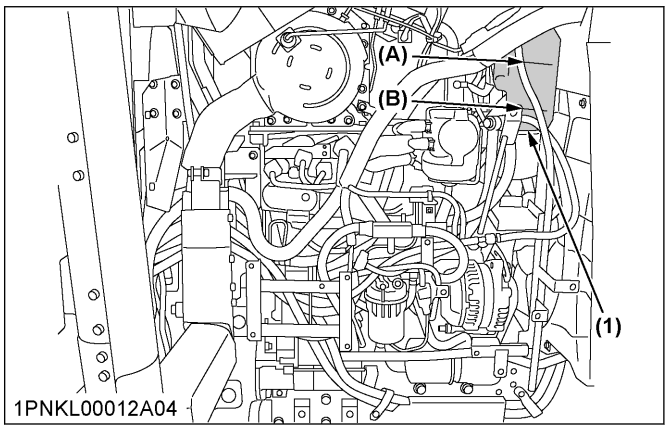
補足：

• ラジエータ本体のキャップは、冷却水点検および交換するとき以外開けないでください。

ラジエータにはリザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

1. リザーブタンク内の冷却水の量を点検します。
   [FULL]から**[LOW]**の範囲であれば正常です。

車体左側



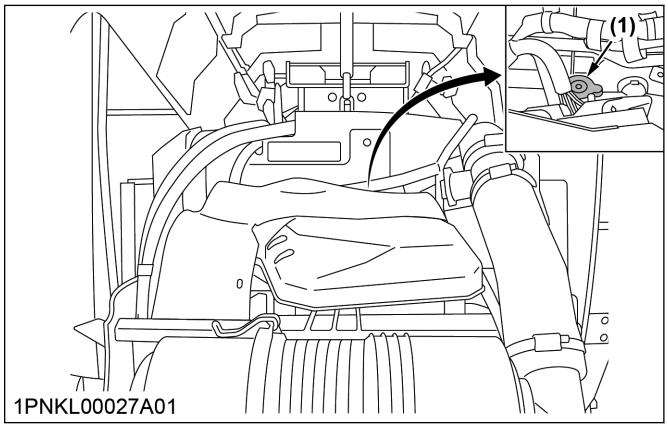
(1) リザーブタンク
(A) 上限（*FULL*）
(B) 下限（*LOW*）

2. 冷却水が**[LOW]**以下の場合は、**[FULL]**のレベルまで補給してください。

   重要：
   - **[FULL]以上は入れないでください。**

3. リザーブタンクの量が**[LOW]**以下の場合は、ラジエータキャップを外してラジエータの口元まで冷却水が入っているか確認します。少ない場合は口元に達するまで冷却水を補給します。

機体前方よりボンネット内部を見た図

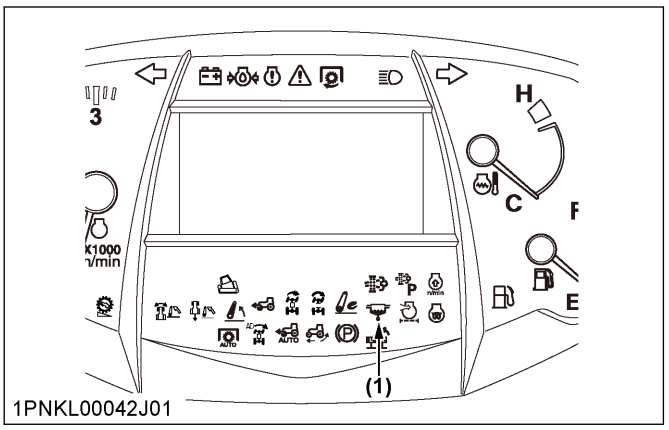


(1) ラジエータキャップ

4. 冷却水補給後はラジエータキャップを締めます。

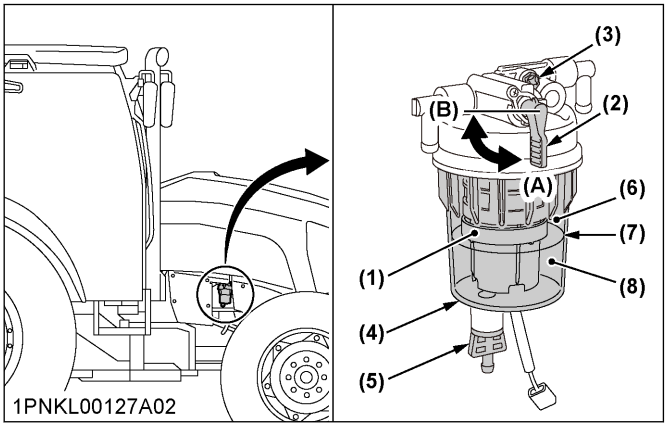
6. セパレータの水の排出

セパレータにたまった水が規定ラインを超えたとき、電子メータのウォータセパレータ警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。



(1) ウォータセパレータ警告灯

1. 電子メータのウォータセパレータ警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合は、燃料コックを閉め、エアプラグとドレンプラグを数回回転させて緩めます。
2. 水を排出します。
3. 水の排出が終わり、燃料が流出し始めたら、エアプラグとドレンプラグを締め付けます。
4. 水の排出後は必ず空気抜きをします。
   （燃料の空気抜きのしかた（217 ページ）を参照）



(1) 赤色フロート
(2) 燃料コック
(3) エアプラグ
(4) カップ
(5) ドレンプラグ
(6) 燃料
(7) 規定ライン
(8) 水
(A) 開
(B) 閉

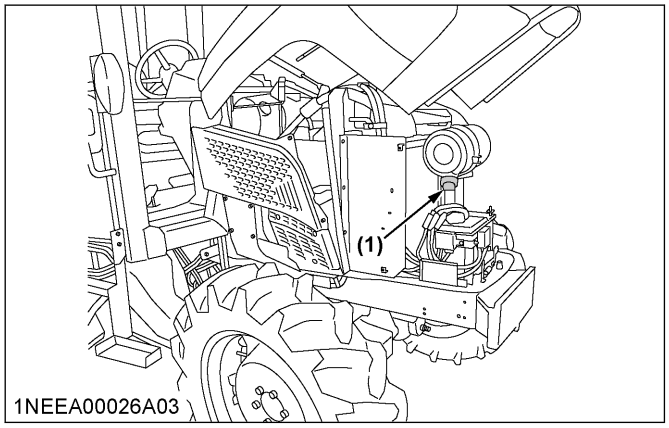
補足：
- **赤色のフロートが上昇し規定ラインに達したときは、手順 2 からの操作を行ってセパレータの水を排出してください。**

重要：
- **水が燃料ポンプに入ると、重大な故障が発生するおそれがあります。**

7. バキュエータバルブの清掃

1. バキュエータバルブを開き、ごみを取り除きます。

2. 水分があるときは、エアクリーナを掃除します。



(1) バキュエータバルブ

8. ワイヤハーネス、バッテリ（+）コードの点検、交換

⚠ 警告

- **配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）、漏電の原因となり、火災事故になるおそれがありたいへん危険です。傷んだ配線は、早めに交換、修理してください。**
  ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金など導電部品で代用せず、購入先に点検、整備を依頼してください。
- **本機の配線は、防水性など耐久面をじゅうぶん考慮して配線してあるのでむやみに修理して使用せず、購入先に点検、整備を依頼してください。**
- **バッテリおよび電気配線の周辺部は、マフラやエンジン周辺部と同様、ワラくず、ごみ、燃料の付着があると火災の原因になるので、毎日作業前に清掃してください。**

補足：

- **点検時、3点リンクに装着している作業機は取り外してください。**

- 配線の損傷が無いか点検します。
  配線被覆が破れているときは、購入先に点検、整備を依頼してください。
- 配線のクランプのゆるみが無いか点検します。
  配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- ターミナル（端子）、カプラ（ソケット）の接続部のゆるみが無いか点検します。
- 各スイッチ、メータが確実に作動するか点検してください。

9. タイヤの空気圧および摩耗、傷の点検

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れすぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。**
- **タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。**
- **タイヤ、チューブ、リムなど車輪各部の交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が交換、修理するように法で決められています。**

標準空気圧

- バイアスタイヤ（ブリヂストン製）

前輪		後輪	
タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)	タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)
8.3-20	240（2.4）［240（2.4）］	12.4-32	160（1.6）
		12.4-32H	120（1.2）
9.5-18	220（2.2）［220（2.2）］	14.9-28H	120（1.2）
9.5-22	220（2.2）［240（2.4）］	12.4-36	160（1.6）
		12.4-36H	
9.5-24	220（2.2）［240（2.4）］	12.4-38	160（1.6）
		13.9-36	140（1.4）
		16.9-30	120（1.2）
		16.9-30H	
9.5-24RC	220（2.2）［240（2.4）］	12.4-38RC	160（1.6）
320/60-26	80（0.8）［ローダ不可］	–	–

補足：
– [ ] 内はローダ装着時の値です。
– H はハイラグタイヤを示します。

- ラジアルタイヤ（ファイヤストーン製）

前輪		後輪	
タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)	タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)
250/85R24	160（1.6）［160（1.6）］	340/85R36	160 (1.6) [160 (1.6)]

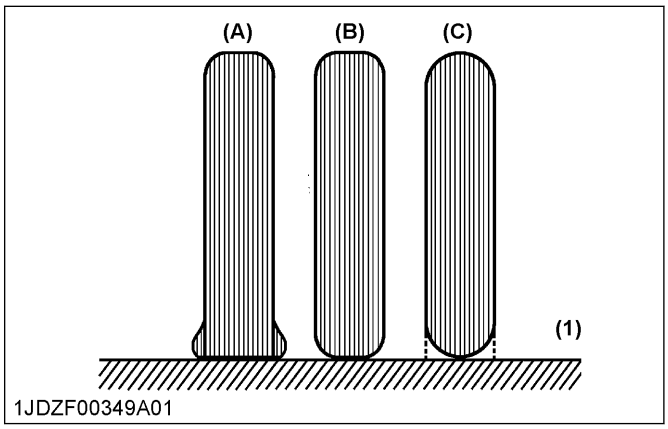
補足：
– [ ] 内はローダ装着時の値です。

- ラジアルタイヤ（ミシュラン製）

前輪		後輪	
タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)	タイヤサイズ	kPa (kgf/cm²)
9.5R24	160（1.6）［160（1.6）］	16.9R30	160 (1.6) [160 (1.6)]
		12.4R38RC	
280/70R20	160（1.6）［160（1.6）］	14.9R28	160 (1.6) [160 (1.6)]
320/85R20	160（1.6）［210（2.1）］	–	–

補足：
– ［］内はローダ装着時の値です。

1. 前輪、後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
   外観から判断する目安は次のとおりです。



(1) 接地面
(A) 空気が不足
(B) 標準
(C) 空気が多い

10. ラジエータ用防虫網、エアコンコンデンサ用防虫網、およびオイルクーラの清掃

警告
- **エンジンを必ず停止して清掃してください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷ましから点検、清掃してください。**

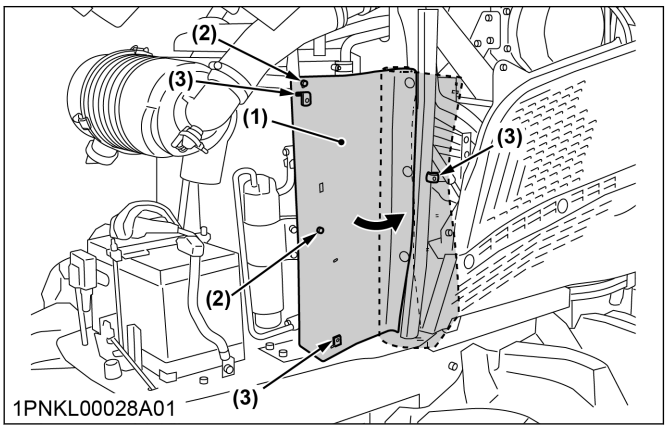
重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、ラジエータ、オイルクーラのフィンが損傷しないように注意してください。**

トラクタを水田や夜間作業に使用すると、防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。目詰まりが無いよう点検、清掃してください。

1. ゴムシートを開きます。
2. エアコンコンデンサを引き出します。
3. ラジエータ用防虫網を清掃します。
4. エアコンコンデンサ用防虫網とオイルクーラを清掃します。

10.1 ゴムシートの開閉

ゴムシートを開ける場合
1. ゴムシートを前方のピンとフックから外します。
2. ゴムシートを後方のフックに引っ掛けます。

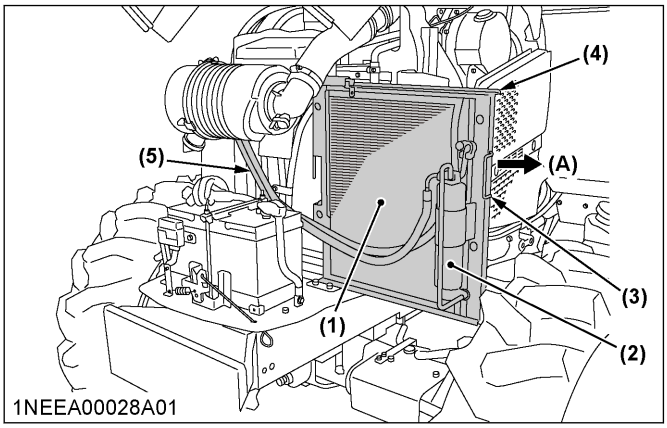


(1) ゴムシート
(2) ピン
(3) フック

ゴムシートを閉める場合
1. ゴムシートを後方のフックから外します。
2. ゴムシートを前方のピンとフックに引っ掛けます。

10.2 エアコンコンデンサの引出し

1. 蝶ナットをゆるめます。
2. ハンドルを持ち手前に引きます。



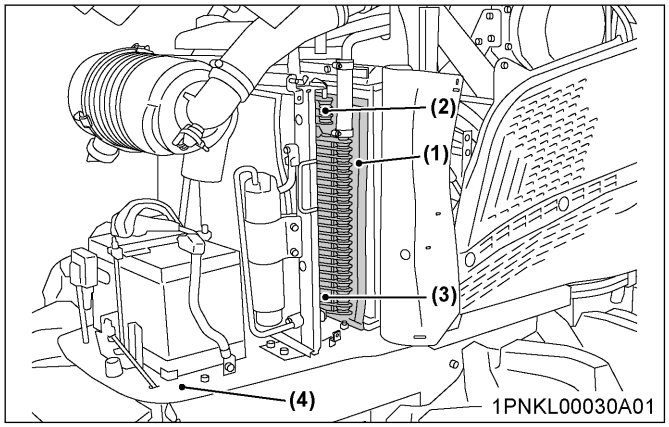
(1) コンデンサ
(2) レシーバ
(3) ハンドル
(4) 蝶ナット
(5) エアコンホース
(A) 引出し方向

10.3 エンジン前周りの清掃

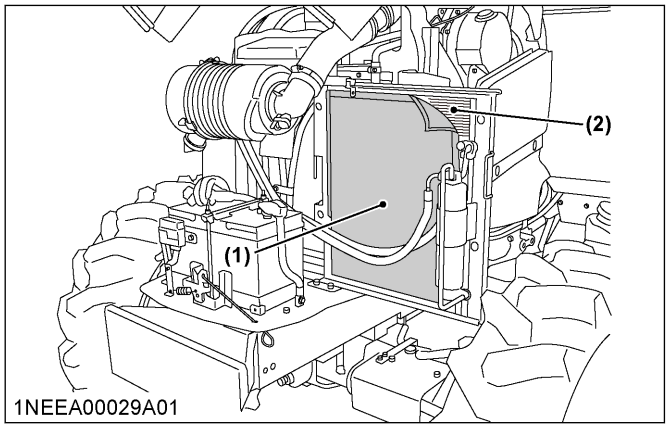
重要：
- **高圧洗車機を使用する場合は、ラジエータやオイルクーラのフィンを損傷させないように注意してください。**

1. 防虫網を取り外して、エアブローで清掃します。

2. 防虫網にごみが詰まっている場合は、水道水などきれいな水で取り除きます。



(1) 防虫網（ラジエータ用）　*(4)* バッテリ周辺部
(2) 燃料クーラ
(3) オイルクーラ



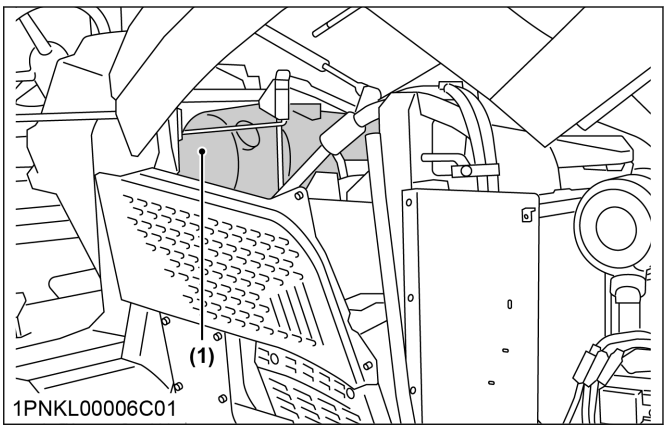
(1) 防虫網（コンデンサ用）　*(2)* エアコンコンデンサ

11. DPF の点検

⚠ 警告

- **点検、清掃を行うときは、必ずエンジンを停止してじゅうぶん冷ましてから行ってください。**

1. DPF マフラの周辺に可燃物が堆積していないか点検します。
   可燃物が堆積すると火災のおそれがあります。



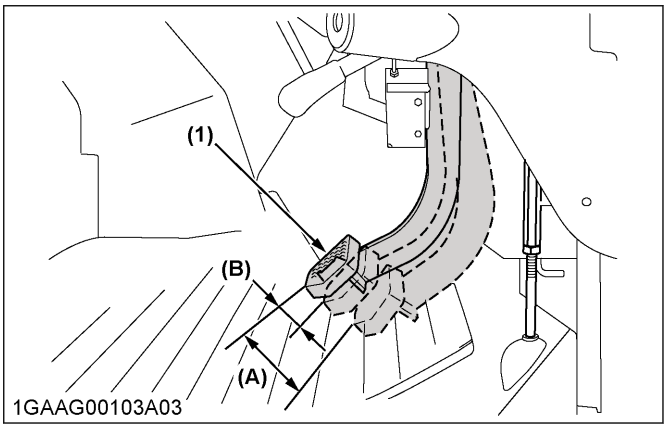
(1) *DPF* マフラ

12. ブレーキペダルの遊びの点検

⚠ 警告

- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故につながります。常に作動状態に注意してください。**

1. ペダルを踏んで遊び量が適正かどうか、また、ブレーキを踏み込んだときの左右ブレーキ遊び量の差が適正かどうかを調べます。



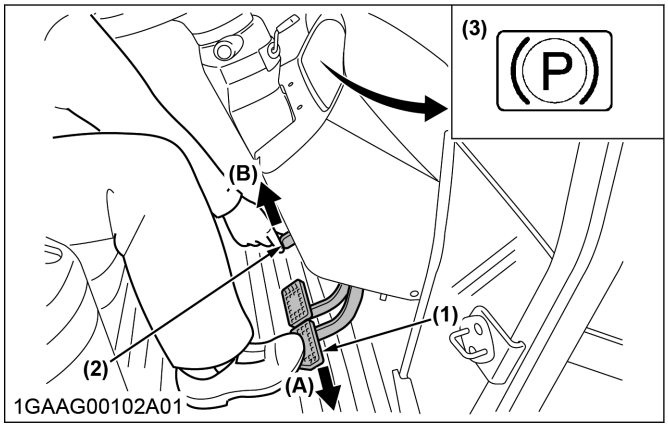
(1) ブレーキペダル

(A) 遊び量	適正範囲	30 mm～45 mm
(B) ブレーキ踏込み時の左右ブレーキ遊び量の差		5 mm 以内

2. ブレーキのきき、片ぎきを調べます。
   （調整のしかたは、ブレーキペダルの点検、調整（200 ページ）を参照）

13. 駐車ブレーキの作動点検

1. 連結解除ペダルを踏み込まないで、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーを引いたまま足をはなします。
   駐車ブレーキが掛かります。このとき、キースイッチが**[入]**位置では、電子メータの駐車ブレーキ警告灯が点灯します。



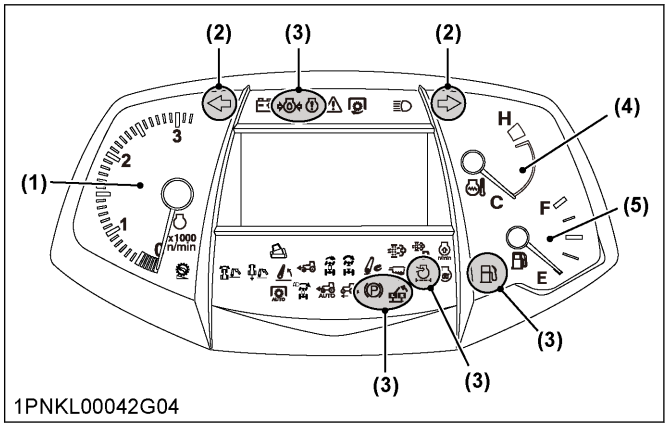
(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) 駐車ブレーキ警告灯
(A) ブレーキ作動
(B) 駐車ブレーキ作動

2. 駐車ブレーキを解除するときは、再度ブレーキペダルを踏み込みます。
   駐車ブレーキが解除されます。

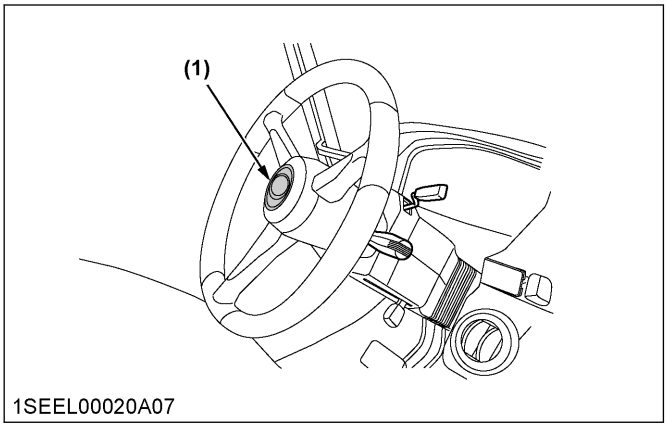
   補足：
   - **ブレーキ解除時、電子メータの駐車ブレーキ警告灯が消灯することを確認してください。**

14. メータ、ランプ類の作動点検

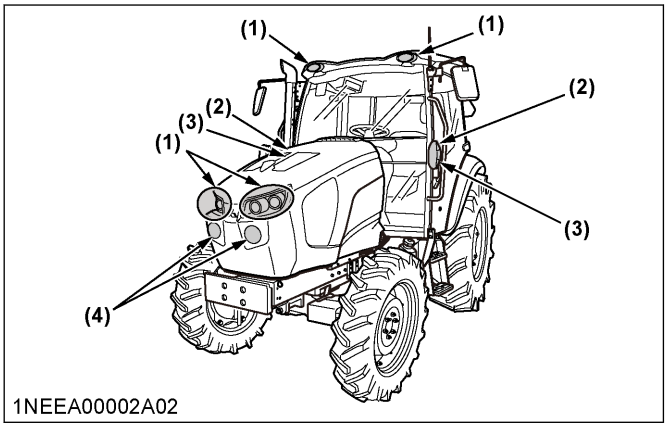
1. 次のメータおよびランプ類が正しく作動するか点検します。



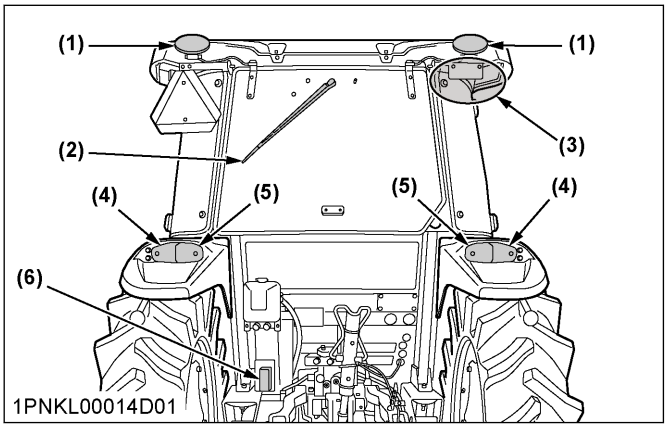
(1) エンジン回転計
(2) ウインカパイロットランプ
(3) イージチェッカ
(4) 水温計
(5) 燃料計



(1) ホーン



(1) 作業灯
(2) ウインカ兼ハザード
(3) 車幅灯
(4) ヘッドライト



(1) 作業灯
(2) ワイパ
(3) ウォッシャ
(4) ウインカ兼ハザード
(5) 尾灯、ブレーキランプ
(6) バックランプ

15. 燃料の補給時の注意点

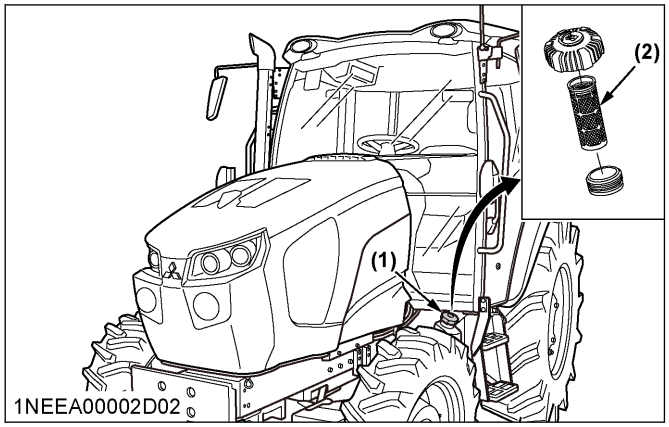
⚠ 警告
- **燃料を補給するときは、エンジンを必ず停止してください。**
- **火気厳禁です。**

重要：
- **コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため、ドラム缶やホームタンクなど日用品の容器から燃料を補給する場合、水や砂など異物が混入しないようじゅうぶん注意してくださいまた補給時は、こし網を外さないでください。**
- **補給後は、燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。**

燃料には、超低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。
ディーゼル軽油には次表の種類があります。地域、季節に見合ったディーゼル軽油を使用してください。

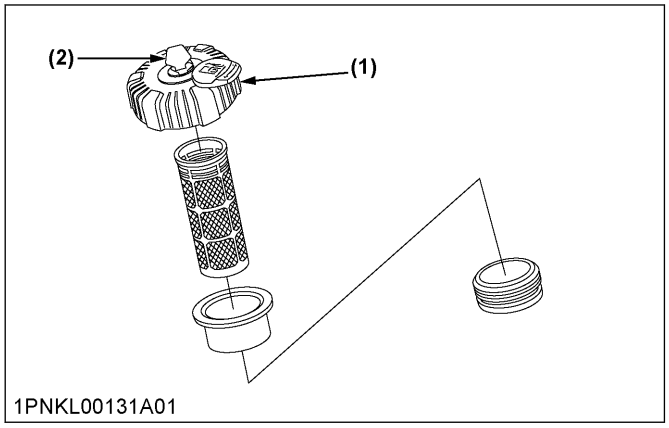
種類	超低硫黄ディーゼル軽油（S10）の流動点
特 1 号	+ 5 ℃以下
1 号	−2.5 ℃以下
2 号	−7.5 ℃以下
3 号	−20 ℃以下
特 3 号	−30 ℃以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり、始動が困難になります。



(1) 燃料給油口　　*(2)* こし網

燃料の盗難やいたずら防止のため、本機はキー付燃料タンクキャップを採用しています。



(1) 燃料タンクキャップ　　*(2)* キー

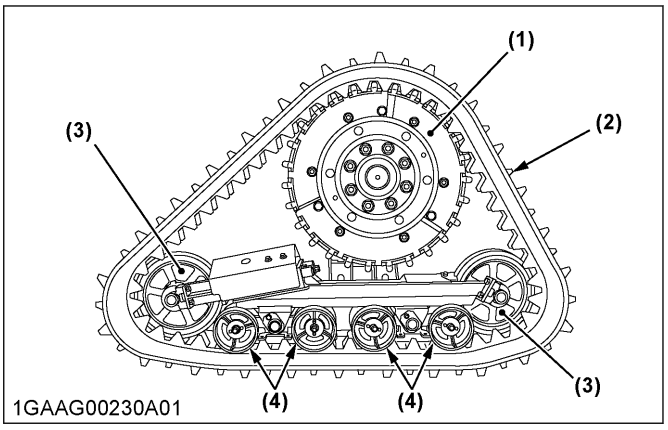
日常点検［ハーフクローラ仕様］

メンテナンスを行うことで、ハーフクローラ機の寿命アップと当用機のトラブルを未然に防ぐことができます。交換要領の詳細についてや、不具合があれば、購入先にご連絡ください。
また、ハーフクローラ機を安心してご使用いただくため、1 年に 1 回の入庫定期点検をおすすめします。

1. 日常点検箇所一覧[ハーフクローラ仕様]

次表に従ってメンテナンスを実施してください。

点検箇所	点検内容
ゴムクローラ	• クローラの張りは適正ですか。（ゴムクローラの張り調整［ハーフクローラ仕様］（213 ページ）を参照） • クローラに大きな損傷はありませんか。
ローラ、アイドラ、スプロケット	• 草の巻付き、石のかみこみ、泥の付着はありませんか。 • 極端な摩耗、偏摩耗はしていませんか。
ローラ、アイドラ	• オイル漏れはありませんか。オイル漏れがある場合は、購入先にて点検を受けてください。
各部のボルト、ナット	• 緩みはありませんか。
揺動部、ヨーク摺動部	• グリースアップを適宜行ってください。使用条件により異なりますが、目安は 50 時間ごとです。



(1) スプロケット　　*(3)* アイドラ
(2) ゴムクローラ　　*(4)* ローラ

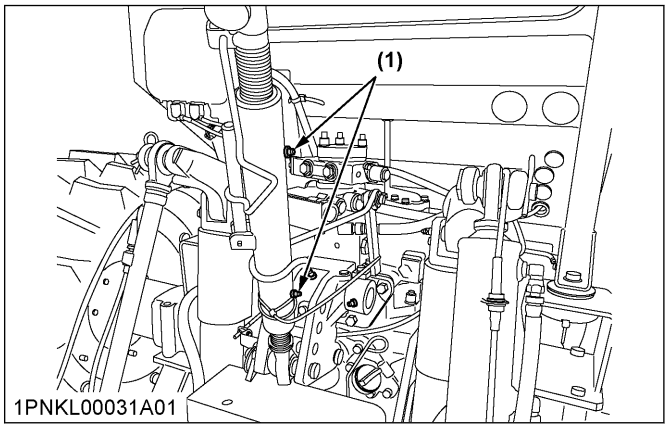
50 時間ごとの点検、整備

1. グリースの注入

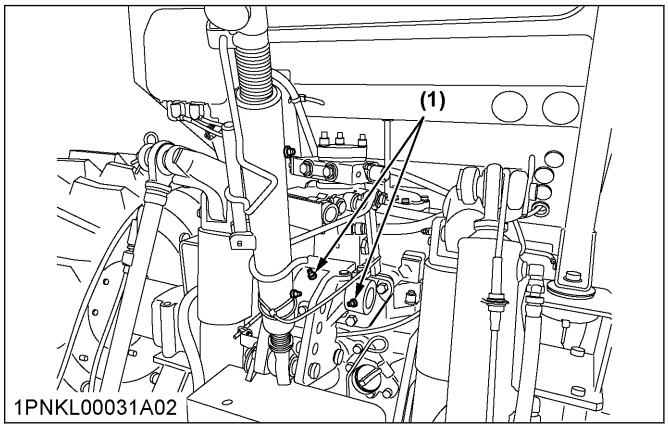
グリースは、**推奨グリース**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式の物を使用してください。高圧のエアーポンプ式のグリースポンプは使用しないでください。

代かき作業など泥水の中に入って作業したときは、1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしてください。

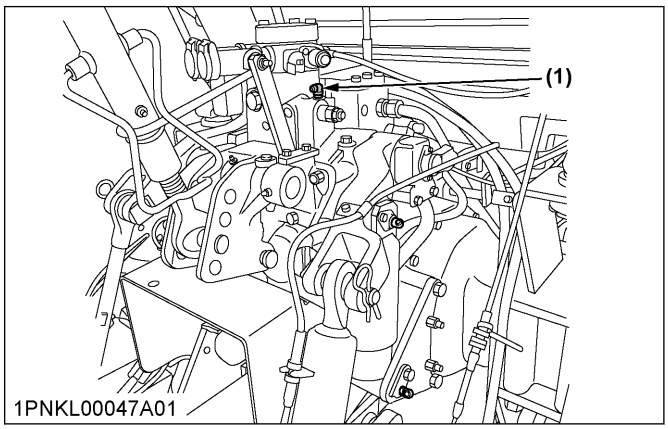
1. 図で示された箇所にグリースを注入します。



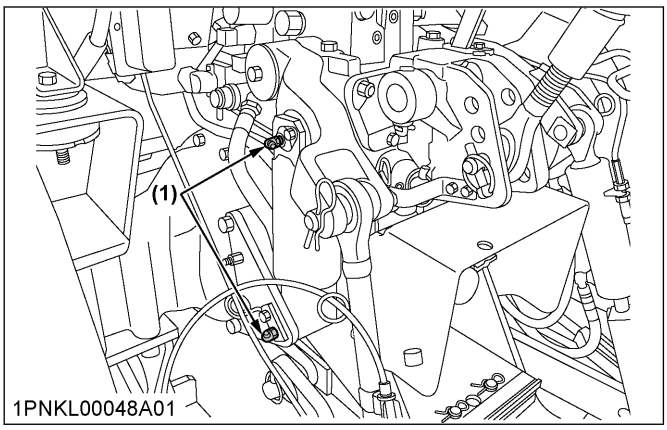
(1) トップリンク



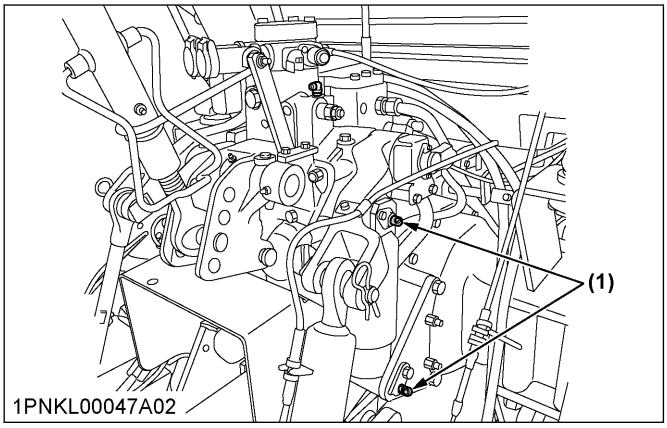
(1) トップリンクブラケット



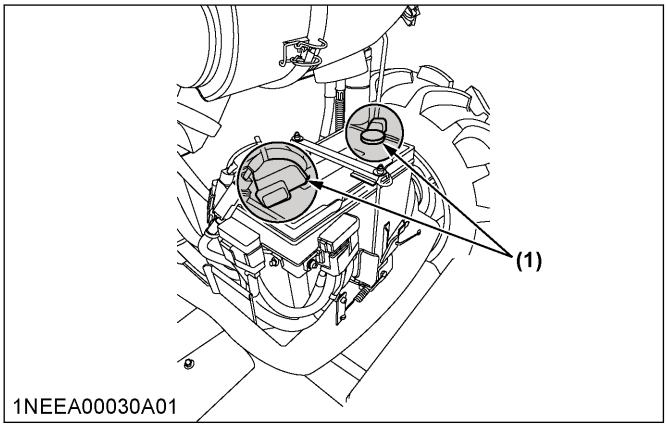
(1) 油圧アーム軸



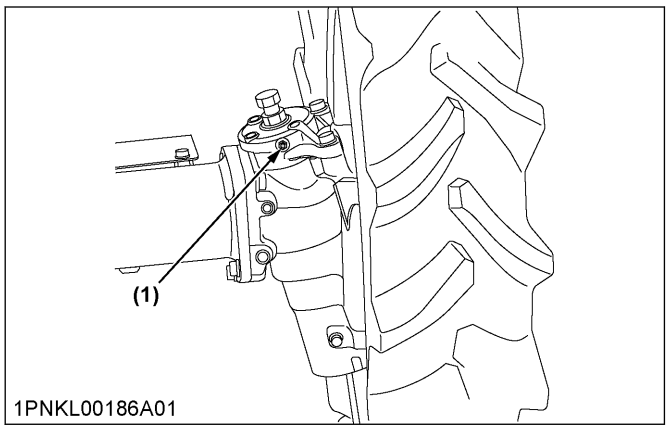
(1) 油圧シリンダ



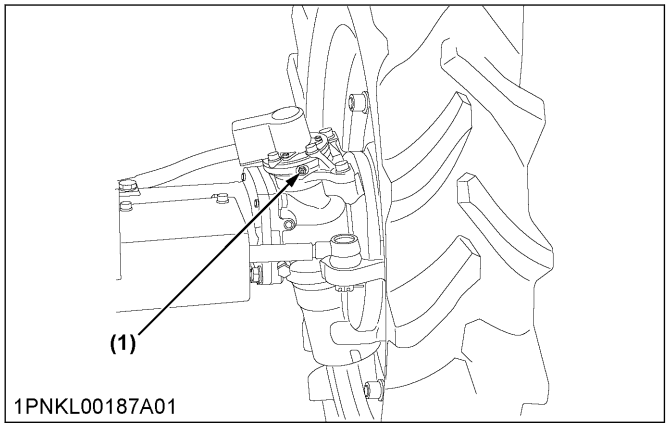
(1) 油圧シリンダ



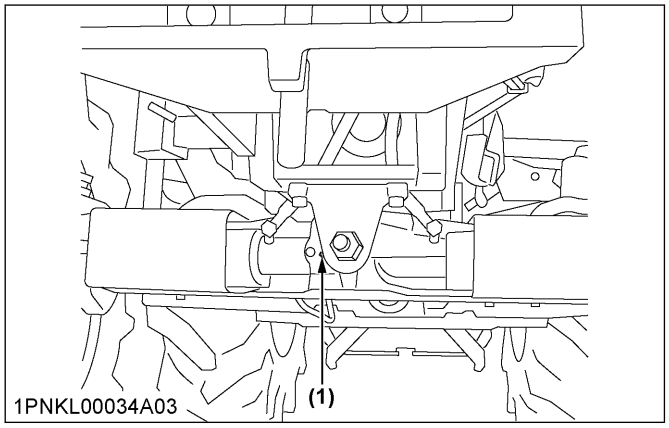
(1) バッテリターミナル



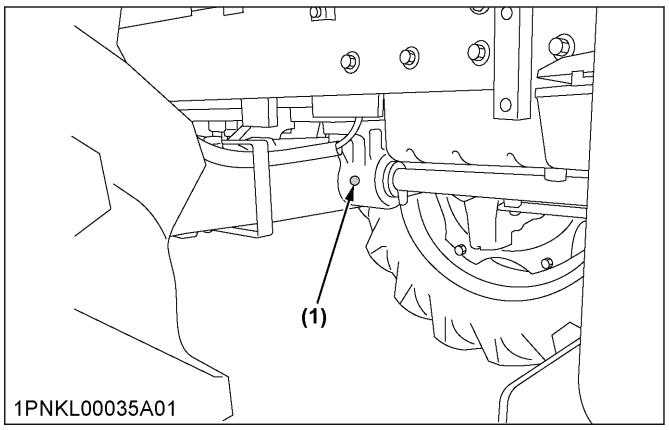
(1) 前車軸ケースサポート（右）



(1) 前車軸ケースサポート（左）



(1) 前車軸受（前）



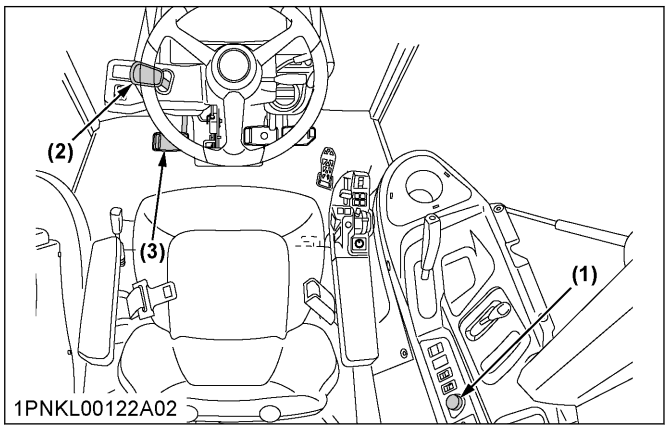
(1) 前車軸受（後）

2. エンジン始動システムの点検

⚠ 警告

- **点検中、トラクタに人を近づけないようにしてください。**
- **装置に異常があれば必ず整備をしてからご使用ください。**

1. 運転席に座り、シャトルレバーを“中立”（**[N]**）、PTO スイッチを**[切]**にします。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを最低速位置にします。
4. クラッチペダルをいっぱい踏み込み、キースイッチを瞬時**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回れば正常です。
5. キースイッチを**[切]**位置にしてエンジンを停止します。
6. シャトルレバーを前進（**[F]**）または後進（**[R]**）、または PTO スイッチを**[入]**にし、キースイッチを瞬時に**[始動]**位置に回します。
   このとき、エンジンが回らなければ正常です。もし、不良の場合は、購入先へご相談ください。



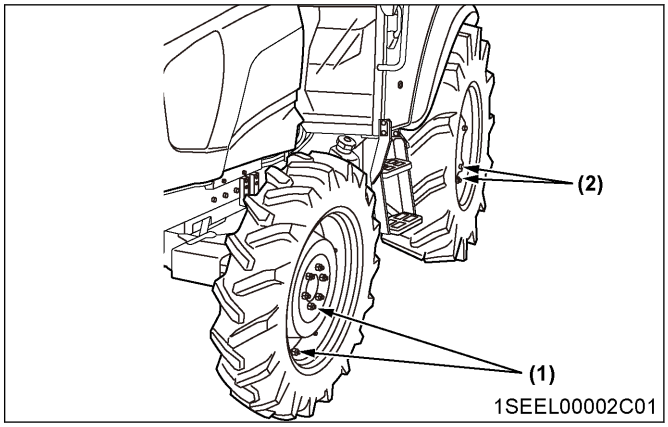
(1) *PTO* スイッチ
(2) シャトルレバー
(3) クラッチペダル

3. タイヤ取付けボルトの点検

警告

- **タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

1. 図で示された箇所のタイヤ取付けボルトやナットがゆるんでいないか点検します。



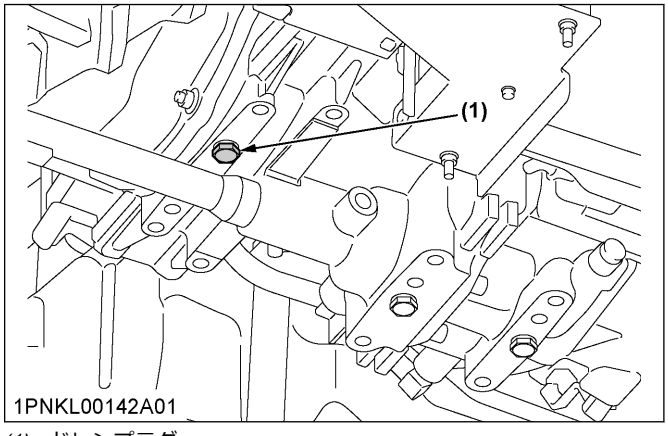
(1) 前輪ボルト、ナット　　*(2)* 後輪ボルト、ナット

締付けトルク	(1) 前輪ボルト、ナット	150 N·m～196 N·m（15.3 kgf·m～20.0 kgf·m）
	(2) 後輪ボルト、ナット	234 N·m～304 N·m（23.9 kgf·m～31.0 kgf·m）

4. クラッチハウジングの水抜き

代かき作業、洗車、雨降りなど、クラッチハウジングに多量の水が掛かる状況になった場合、または 50 時間使用ごとにクラッチハウジングの水抜きをしてください。

1. クラッチハウジング底のドレンプラグを外して、水が浸入してないことを確認します。



(1) ドレンプラグ

2. もし水が入っていれば、完全に抜いて、内部をよく乾燥します。

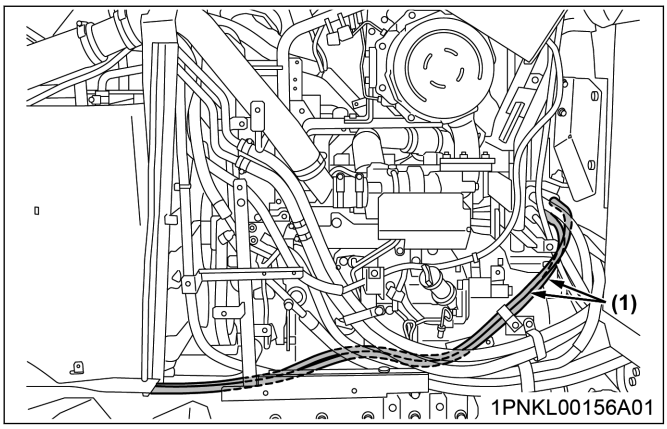
5. パワーステアリングホースの点検、交換

警告

- **ホースの傷みは必ず点検してください。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとにまたは傷んだときに、ホースを新品と交換する必要があります。

1. パワーステアリングホースが傷んでいないか点検します。
2. 異常があれば交換、整備します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) パワーステアリングホース

6. 燃料ホースの点検、交換

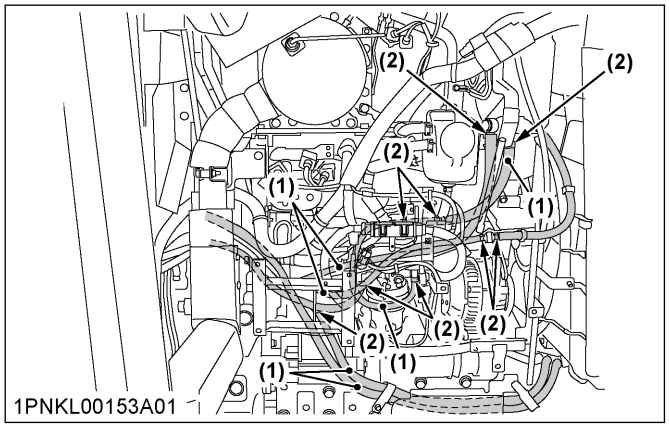
警告

- **ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは、必ず点検してください。異常があれば交換、整備してください。燃料漏れなどの異常による火災や傷害事故などトラブルの原因になります。**

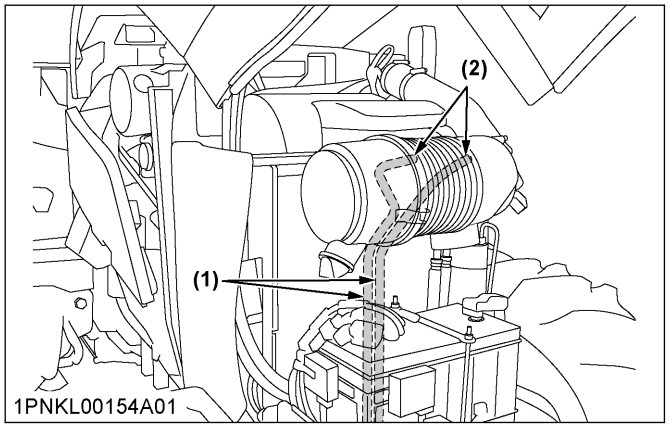
ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとにまたは傷んだときに、締付けバンドとともにホースを新品と交換する必要があります。

1. 燃料ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検します。

2. 異常があれば交換、整備します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 燃料ホース　　*(2)* 締付けバンド



(1) 燃料ホース　　*(2)* 締付けバンド

100 時間ごとの点検、整備

1. バッテリ電解液の点検

危険

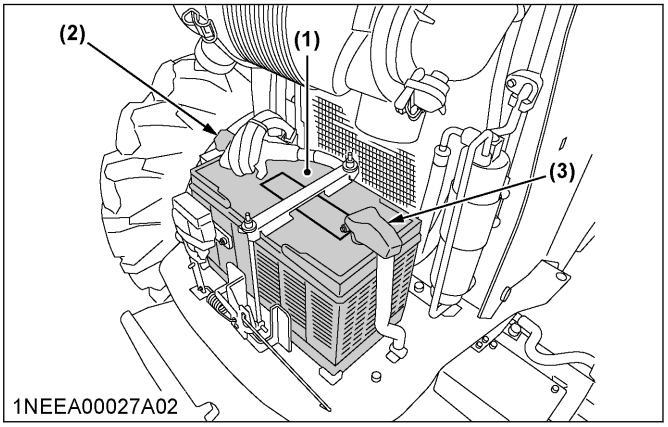
- **バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し、身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。**
- **バッテリの点検および取外し時は、エンジンを必ず停止し、キースイッチを[切]位置にしてください。**
- **バッテリを取り外すときは、短絡（ショート）事故を防ぐため、最初にバッテリ（−）コードを外し、接続するときは、最後にバッテリ（−）コードを接続してください。**
- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

重要：

- **バッテリ液が不足するとバッテリを傷め、多すぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。**

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。

1. 上面のインジケータの表示状態を点検します。



(1) インジケータ　　*(3)* （−）コード
(2) （+）コード

インジケータ表示状態

緑	電解液比重、電解液量ともに良好です。
黒	要充電です。 11 A の普通充電電流で補充電してください。
白	交換が必要です。

2. インジケータの表示状態により補充電が必要なときは、バッテリを取り外します。
   （詳細は、バッテリの取付け、取外し時の注意点（198 ページ）を参照）
3. バッテリを補充電します。
   （詳細は、バッテリの補充電のしかた（199 ページ）を参照）

1.1 バッテリの取付け、取外し時の注意点

警告

- **バッテリを取り外すときは、バッテリ（−）コードを最初に外し、次に（+）コードを外してください。**
- **取り付けるときは、必ず（+）側から取り付けます。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。**

重要：

- **新品のバッテリと交換する場合には必ず指定の純正バッテリを使用してください。**

交換用バッテリ品番	呼称
99990000170	31-900（BCI サイズ-CCA）

- **バッテリを外し、再度取り付けるときにはバッテリの（+）、（−）のコードをもとどおりに配線し、周囲に接触しないように締め付けてください。**

1.2 バッテリの補充電のしかた

危険
- **バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中、可燃性ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。**

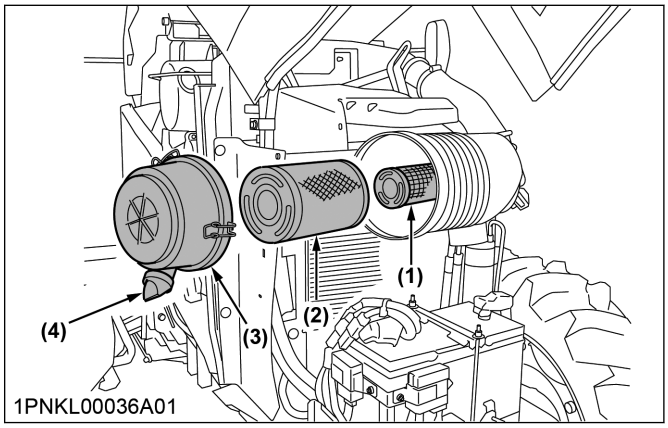
バッテリは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷のほかに配線など周辺部品を傷めることがあります。なお急速充電は行わないでください。

1. バッテリコードを充電器に接続します。
   （+）と（−）を間違えないようにしてください。間違えるとバッテリと電気系統が故障します。
   バッテリの（+）を充電器の（+）に、バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続します。
2. バッテリを補充電します。
   充電は、急速充電ではなく普通充電を行ってください。

2. ダブルエアクリーナエレメントの清掃

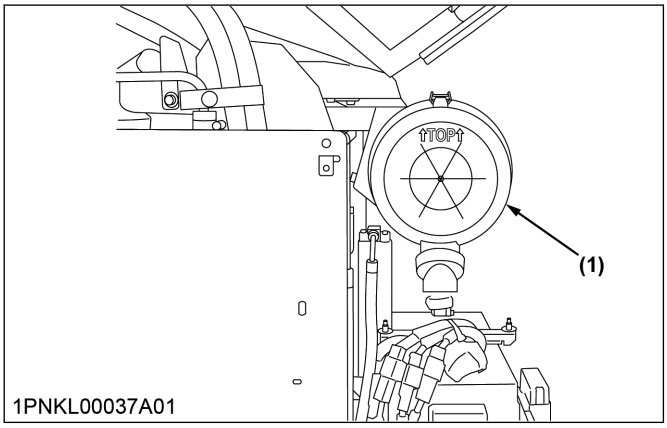
重要：
- **エレメントは、清掃、交換以外で不必要に触らないでください。**
- **乾式エレメントを使用しているので、オイルを使用しないでください。**
- **清掃時、エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。変形したときは、すぐに新しいエレメントと交換してください。**
- **ダストカップの ⬆ マークを必ず上向きになるように取り付けてください。**

1. ダストカップを外します。
2. アウタエレメントを外します。
   インナエレメントは交換時以外は外さないでください。



(1) インナエレメント
(2) アウタエレメント
(3) ダストカップ
(4) バキュエータバルブ

3. アウタエレメント、バキュエータバルブを清掃します。
4. アウタエレメントを取り付けます。
5. 次図のようにダストカップの ⬆ マークが必ず上向きになるように取り付けます。



(1) ダストカップ

2.1 アウタエレメントの清掃、交換

1. 乾いたちりやほこりの場合は、エレメントを傷めないように注意しながら、エアで吹き飛ばします。
   エアの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm^2)を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
2. エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は、中性洗浄剤を使用して洗浄します。

アウタエレメントの交換
アウタエレメントは、1 年間使用後または 6 回掃除ごとに交換が必要です。

2.2 バキュエータバルブの清掃

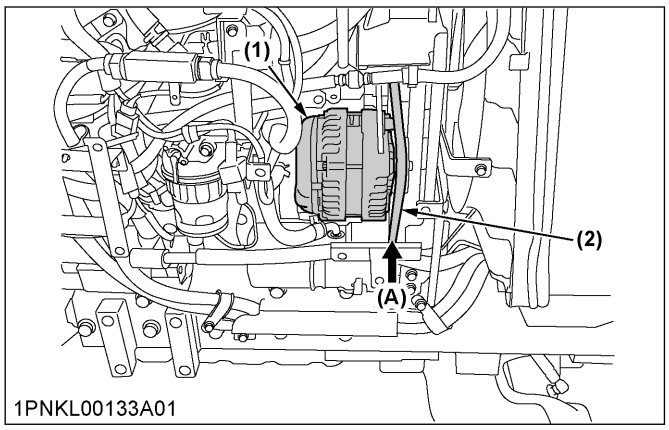
1. バキュエータバルブを開きます。
2. 大きなごみを取り除きます。

3. オルタネータベルトの点検、調整

警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**
- **オルタネータベルトにき裂やはがれがあれば交換してください。**

点検
1. オルタネータベルトの張り強さが適正か点検します。



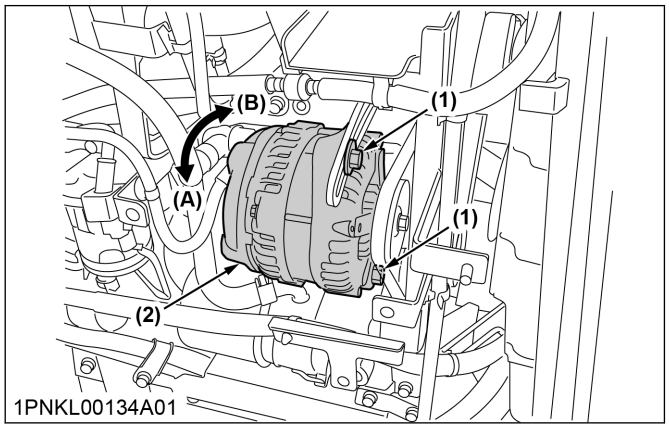
(1) オルタネータ
(2) オルタネータベルト
(A) 荷重

適正張り強さ	ベルトの中央部を 10 kgf の荷重で押えて、約 10 mm～12 mm たわむ程度

2. オルタネータベルトの張り強さが適正でないときは、調整します。

張り調整

1. ボルトを緩めます。
2. オルタネータベルトの張りを適正な強さに調節します。
   オルタネータの位置を手前側にするとベルトの張りが強くなり、奥側にすると張りが弱くなります。



(1) ボルト
(2) オルタネータ
(A) ベルトの張りを強める
(B) ベルトの張りを弱める

3. ボルトを締めて、オルタネータを固定します。

4. ブレーキペダルの点検、調整

⚠ 警告

- **点検、調整するときは、必ずエンジンを止めて行ってください。**
- **ブレーキの調整が悪いと、人身事故につながります。常に作動状態に注意してください。**
- **調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず 5 mm 以内にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると、死傷事故を引き起こすおそれがあります。**

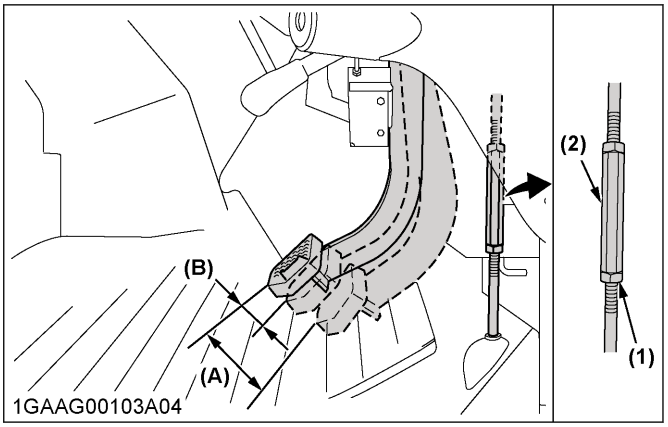
1. ブレーキペダルの遊び量が適正か点検します。

適正遊び量	ペダルで 30 mm～45 mm

2. ブレーキペダルの遊び量が適正でないときは調整します。

4.1 ブレーキペダルの調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して、ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
4. ブレーキペダルを踏み込んだとき、駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



(1) ロックナット
(2) ターンバックル

(A) 遊び量	適正範囲	30 mm～45 mm
(B) ブレーキ踏込み時の左右ブレーキ遊び量の差		5 mm 以内

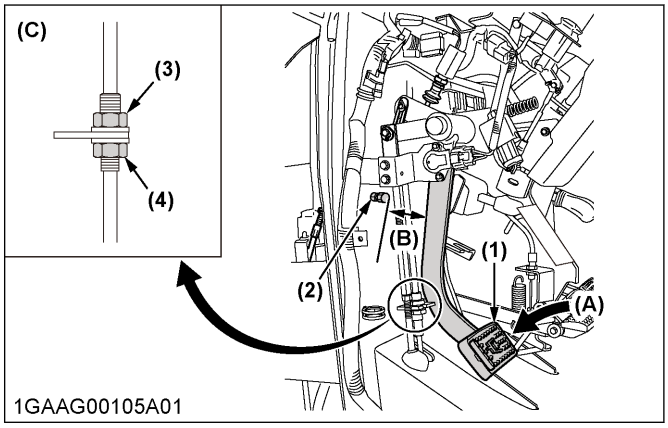
5. クラッチペダルの点検、調整

重要 :

- **クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良や、スリップを起こし損傷につながります。**

1. クラッチペダルを手で軽く押し、ペダルと当りボルトのすき間が適正であるか点検します。

当りボルトとペダルのすき間の適正範囲	10 mm～12 mm

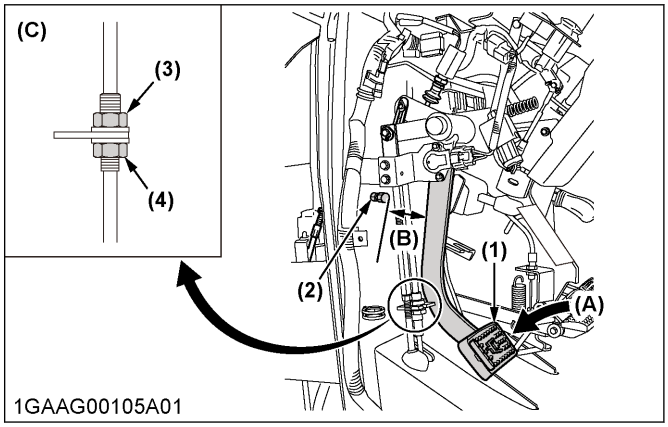


(1) クラッチペダル
(2) 当りボルト
(3) ナット（ハンドル側）
(4) ナット（フロア側）
(A) 荷重
(B) すき間
(C) 断面図

2. すき間が適正でなければ、調整します。

5.1 クラッチペダルの調整方法

1. フロア側のナットをスパナで固定した状態で、ハンドル側のナットで調整します。



(1) クラッチペダル
(2) 当りボルト
(3) ナット（ハンドル側）
(4) ナット（フロア側）
(A) 荷重
(B) すき間
(C) 断面図

2. 調整後、フロア側のナットを確実に締め付けます。

6. エンジンの始動確認

- エンジンを始動し、掛かり具合、異音が無いかを確認してください。
- アクセルペダルを操作し、加速、減速がスムーズか確認してください。

7. エンジンの排気状態の確認

1. エンジンを始動し、排気色に異常が無いか確認してください。
（詳細は、エンジンの不調と処置（223 ページ）を参照）

8. エキゾーストパイプおよびマフラの状態の確認

- エキゾーストパイプ、マフラに破損、取付けボルトのゆるみなどの異常が無いか確認します。
- 排気音に異常が無いか確認します。

200 時間ごとの点検、整備

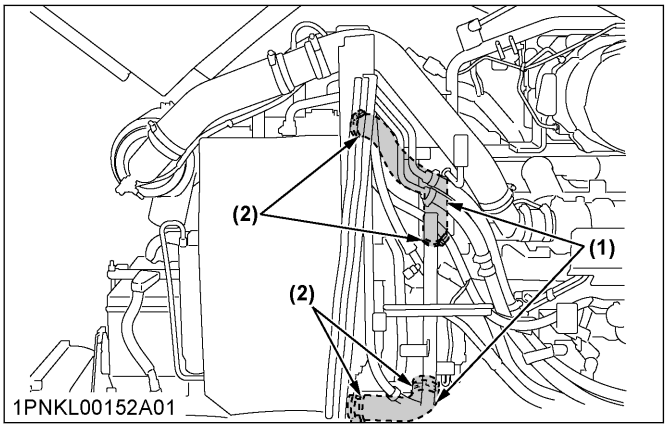
1. ラジエータホースの点検、交換

⚠ 警告

- **ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみが無いか点検してください。異常があれば交換、整備してください。熱湯漏れによるヤケドなど負傷の原因になります。**

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとにまたは傷んだときに、締付けバンドとともにホースを新品と交換する必要があります。

1. ラジエータホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検します。
2. 異常があれば交換、整備します。
交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



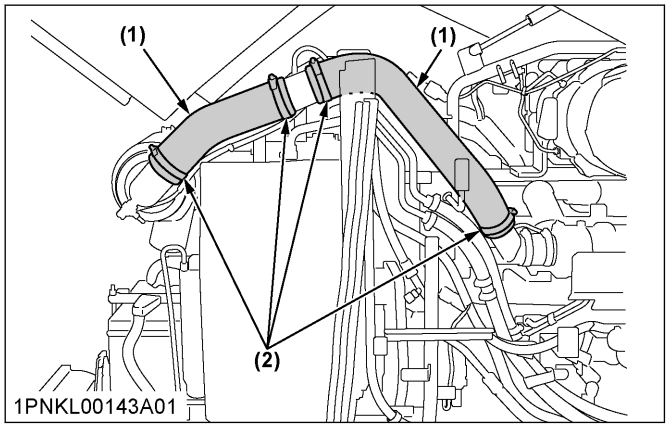
(1) ラジエータホース
(2) 締付けバンド

2. 吸気ホースの点検、交換

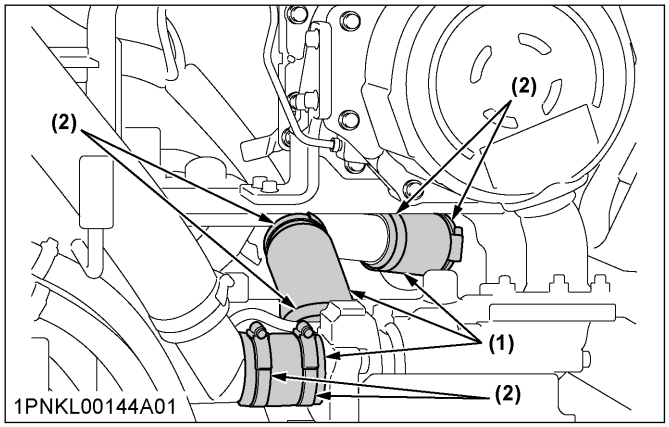
ゴム製のホースは使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとにまたは傷んだときに、締付けバンドとともにホースを新品と交換する必要があります。

1. 吸気ホースや締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか点検します。

2. 異常があれば交換、整備します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) 吸気ホース　　*(2)* 締付けバンド



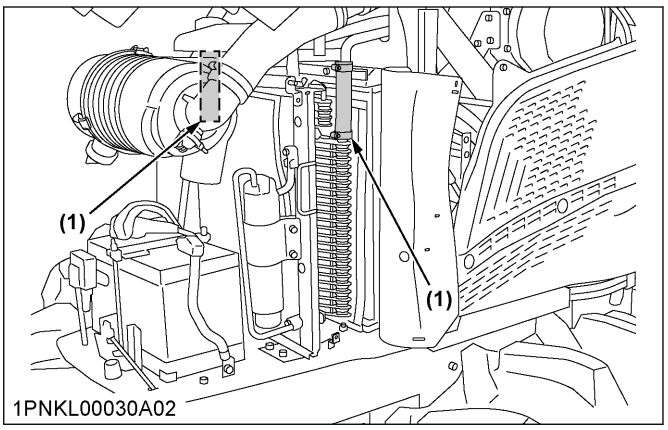
(1) 吸気ホース　　*(2)* 締付けバンド

3. オイルクーラホースの点検、交換

ホースが傷んでないか常に注意してください。

オイルクーラホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドとともに、2 年ごとにまたは傷んだときに、新品と交換する必要があります。

1. ホースがゆるんだり、 傷んでないか点検します。
2. 異常があれば交換、整備します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。



(1) オイルクーラホース

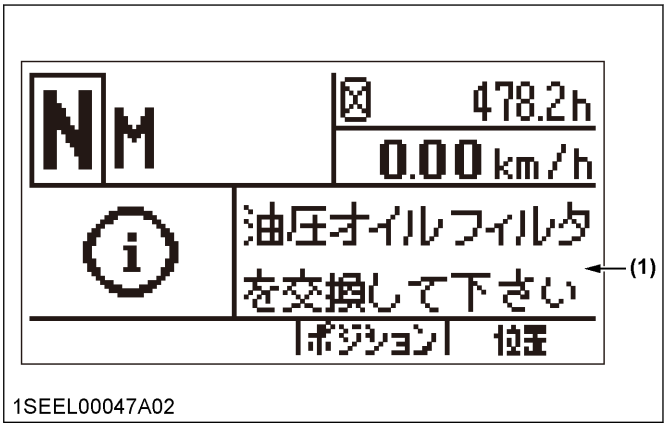
4. 油圧オイルフィルタカートリッジの交換

警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

重要：

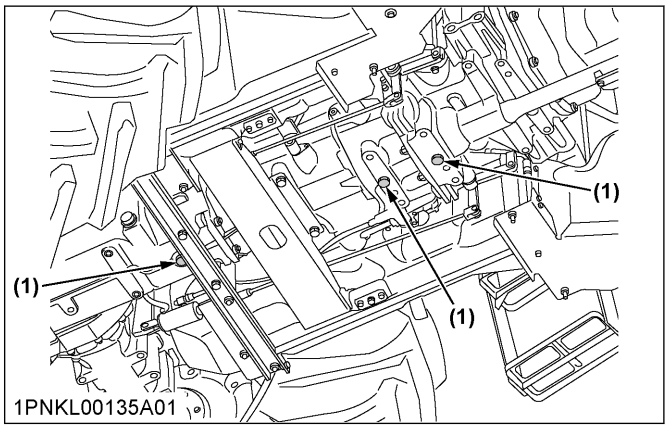
- **油圧オイルフィルタが目詰まりするとインジケータに油圧オイルフィルタ交換のメッセージが約 5 秒間表示されるので、早めに油圧オイルフィルタを交換してください。**



(1) メッセージ

純正部品のカートリッジと交換してください。

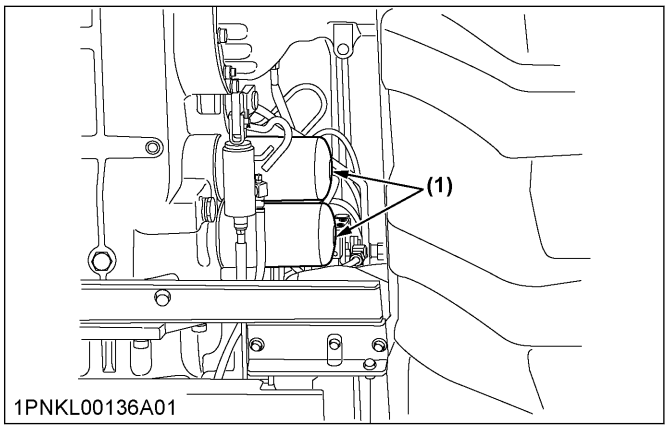
1. ドレンプラグを外してオイルを容器に排出します。



(1) ドレンプラグ

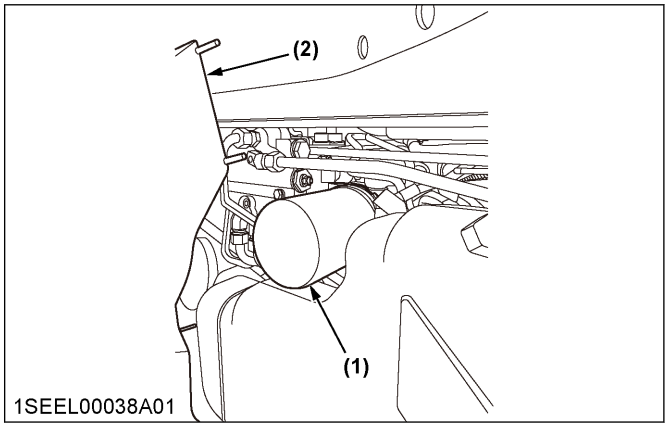
2. ドレンプラグを取り付けた後に、フィルタレンチでフィルタカートリッジを取り外します。

車体右側後輪付近の車体下部図



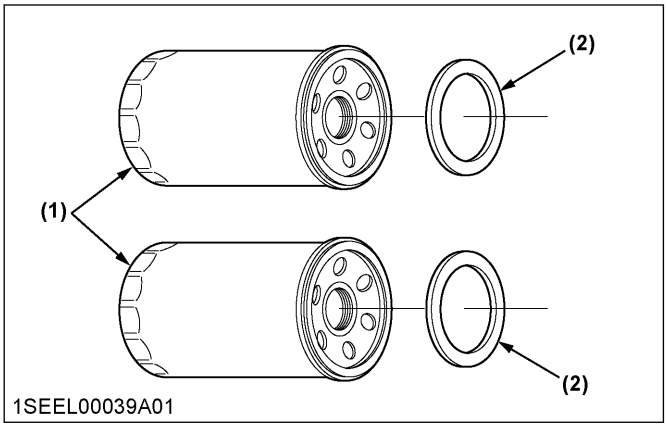
(1) 油圧オイルフィルタカートリッジ

車体右側後輪付近図

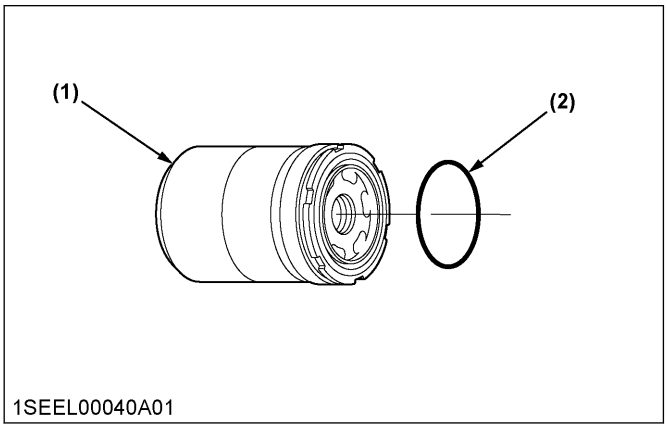


(1) 油圧オイルフィルターカートリッジ（*HST*）　*(2)* 車体右側後輪

3. カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したごみを拭き取ります。



(1) 油圧オイルフィルタカートリッジ　*(2)* マグネットフィルタ



(1) 油圧オイルフィルターカートリッジ（*HST*）　*(2)* マグネットフィルタ

4. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布します。
5. 新しいカートリッジを取り付けます。
   - 油圧オイルフィルターカートリッジはフィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けてください。
   - 油圧オイルフィルターカートリッジ（HST）は、フィルタの O リングが取付け面に接した位置からフィルタレンチでさらに約 1/2 回転増締めしてください。
6. ミッションオイルを規定量まで補給します。
7. 約 2 分間運転し、作業機の昇降に異常が無いか確認してからエンジンを止めます。
8. 再びオイルゲージで油面を確認し、不足していれば補給します。
   （ミッションオイルの排出、補給のしかたは、ミッションオイルの交換（209 ページ）を参照）

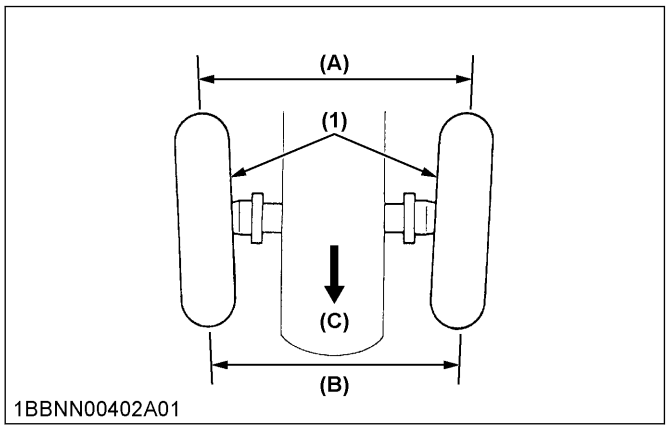
5. トーインおよびタイロッドの点検、タイロッドのトーイン調整

⚠ 警告

- **トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。**

補足：
- **トーインの点検、調整時、タイロッドエンド（関節球）やリンクに摩耗や変形が無いか調べてください。**
- **トーインの点検、調整は、標準空気圧で行ってください。**
- **測定はタイヤ高さの 1/2、タイヤ幅の中央部間を測ります。**

1. 前輪の前幅(B)と後幅(A)を測り、(A)の値が(B)の値より大きいトーイン状態であることを点検し、また、その差分が基準値であるか点検します。



(1) 前輪
(A) 後幅
(B) 前幅
(C) 前

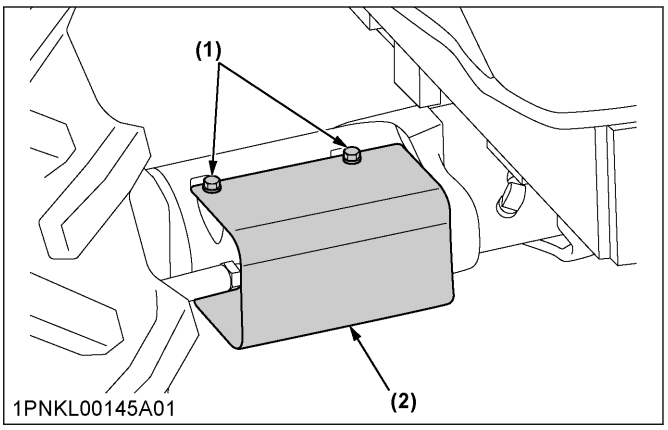
トーインの基準値(A)－(B)	2 mm～8 mm

2. 前輪の前幅(B)と後幅(A)の差分が基準値でない場合、調整します。
（詳細は、タイロッドのトーイン調整（204 ページ）を参照）

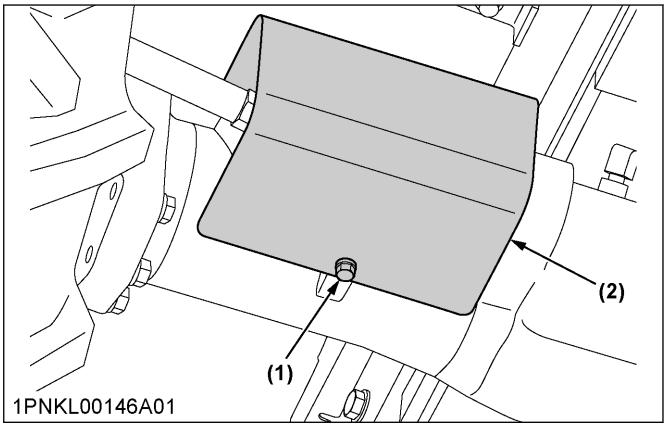
5.1 タイロッドのトーイン調整

カバーを取り外した後に、タイロッドのトーインを調整します。
カバーの取外し方は左右で異なります。

車体右側のカバーの取外し
1. ボルトを外してカバーを取り外します。

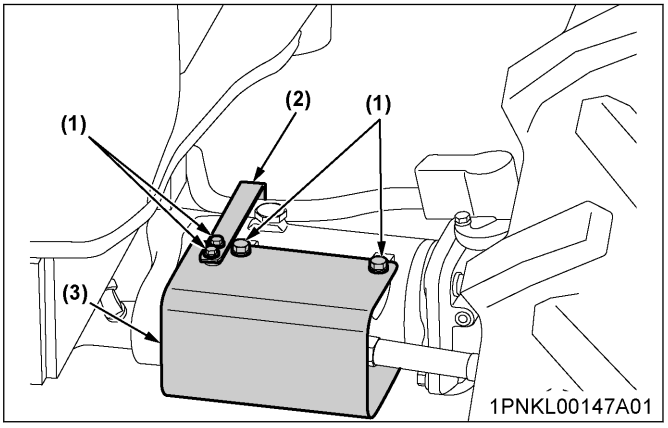


(1) ボルト
(2) カバー

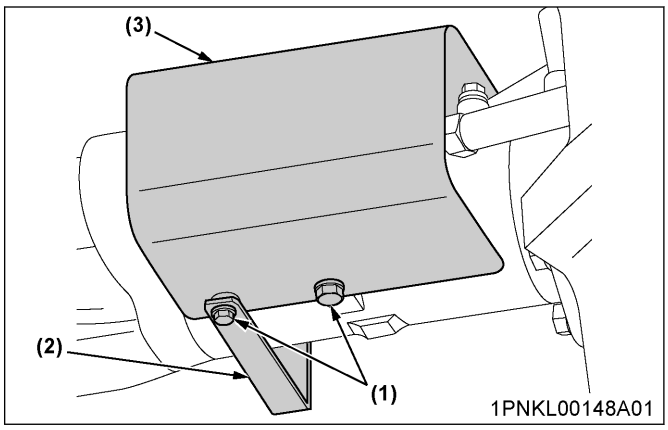


(1) ボルト
(2) カバー

車体左側のカバーの取外し
1. ボルトを外してステーを取り外します。
2. ボルトを外してカバーを取り外します。



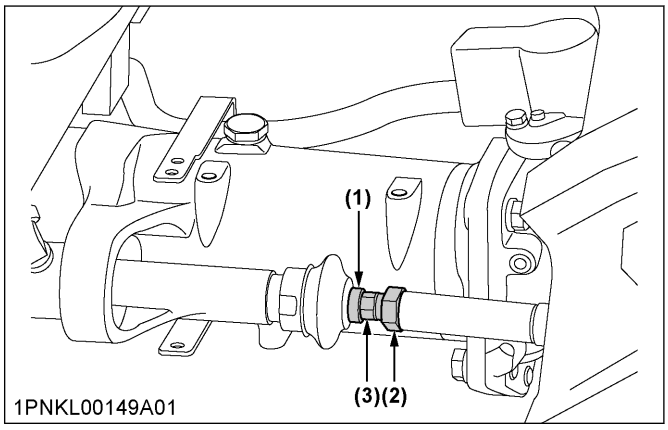
(1) ボルト
(2) ステー
(3) カバー



(1) ボルト
(2) ステー
(3) カバー

トーインの調整

1. スナップストッパをゴムブーツから外します。
2. ロックナットを緩めます。
3. タイロッドジョイントのネジ部を回してトーインを調整します。



(1) スナップストッパ
(2) ロックナット
(3) タイロッドジョイント

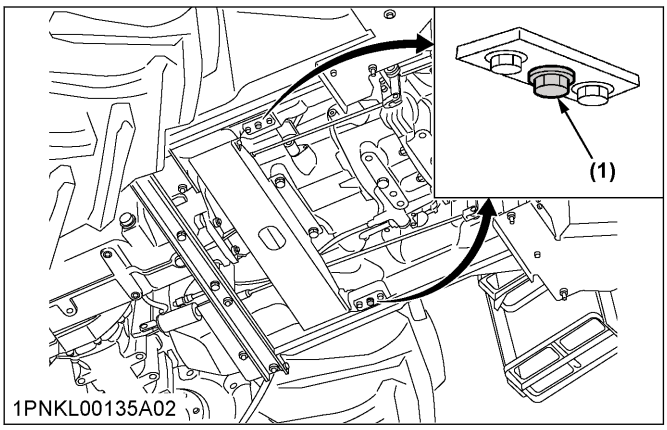
4. 調整後はロックナットを確実に締め付け、取り外したステーとカバーを取り付けます。

6. 燃料タンクの水抜き

重要 :

- **水分が多く含まれている粗悪燃料を使用した場合は、水抜きの間隔はさらに短くしてください。**
- **トラクタを長時間格納後使用する前に行ってください。**

1. 燃料タンク下部のドレンプラグを外します。
2. 沈澱している不純物や水分を容器に排出します。
3. ドレンプラグをもとどおりに締めます。

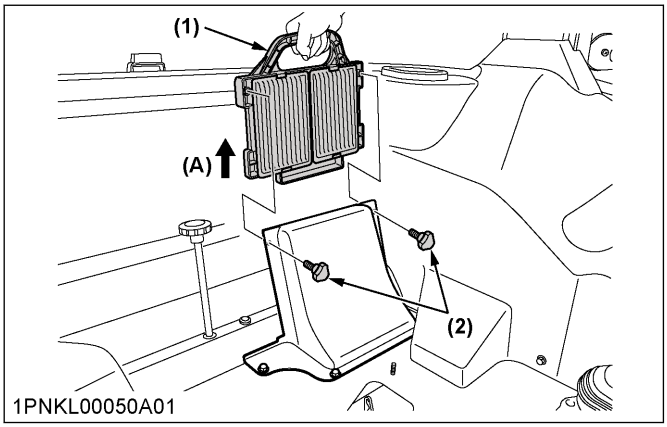


(1) ドレンプラグ

7. 室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。

1. ノブボルトを外し、フィルタを外します。

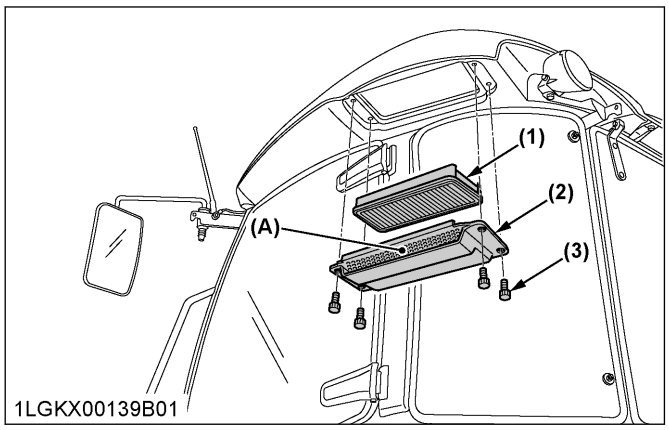


(1) 内気フィルタ
(2) ノブボルト
(A) 取外し方向

2. 風の流れ方向の逆方向からエアブローします。エアの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm^2）を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

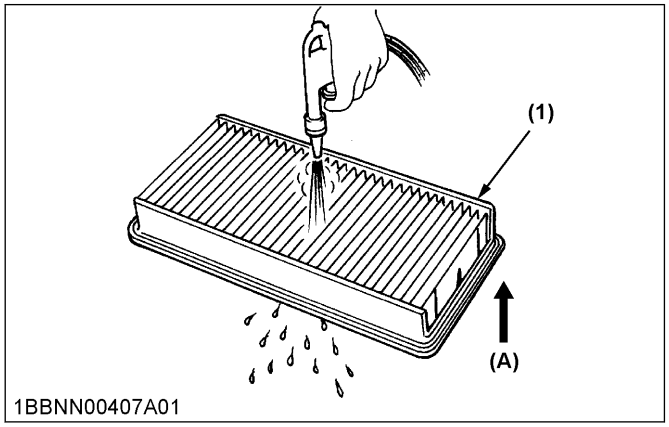
8. 外気フィルタの清掃

1. ノブボルトを外し、カバーとフィルタを一緒に外します。



(1) 外気フィルタ　*(A)* 空気導入口
(2) カバー
(3) ノブボルト

2. 風の流れ方向の逆方向からエアブローします。
エアの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm^2）を越えないように注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。



(1) 外気フィルタ　*(A)* 風の流れ

重要：
- **エレメントをたたかないでください。エレメントが変形すると、エアコンユニットにほこりが浸入し、エアコンを損傷する場合があります。**

3. 汚れが著しいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させます。

重要：
- **洗浄にガソリン、シンナなどの化学製品を使用しないでください。**

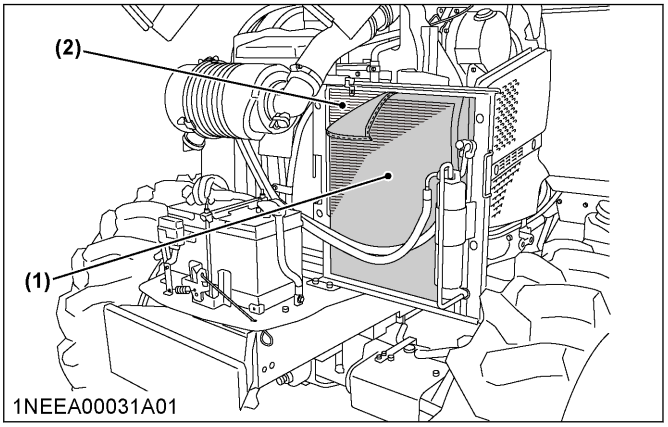
補足：
- **カバーをもとに戻すときは、カバーの空気導入口を外側に向けて組み付けてください。**

9. エアコンコンデンサの清掃

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**
- **エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷ましてから点検、清掃してください。**

重要：
- **高圧洗車機を使用する場合には、コンデンサのフィンを損傷させないように注意してください。**

1. 蝶ナットをゆるめ、ハンドルを持ちコンデンサを手前に引き出します。
（詳細は、エアコンコンデンサの引出し（191 ページ）を参照）
2. 防虫網を外し、コンデンサフィンにごみが詰まっていれば水道水などきれいな水で取り除きます。



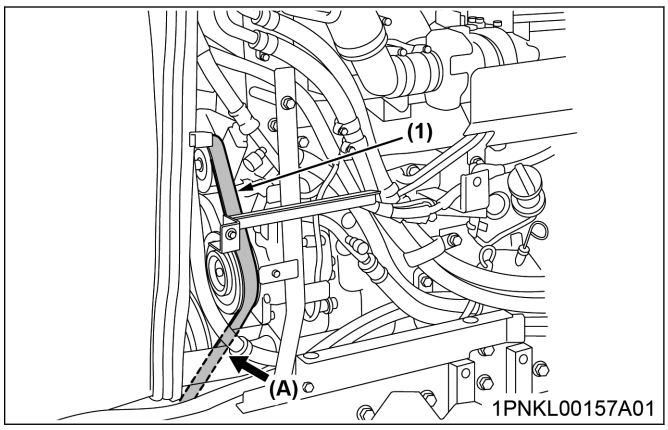
(1) エアコンコンデンサ用防虫網　*(2)* コンデンサ

10. エアコンベルトの張りの点検、調整

⚠ 警告
- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。**

重要：
- **エアコンベルトの張りが緩いと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。**
- **エアコンベルトにき裂や剥がれがあれば交換してください。**

点検
1. トラクタを停止した状態でエンジンを 10 分間回転します。
2. エンジンを止めます。
3. エアコンベルトの次図で示す位置を押さえて、張り強さが適正か点検します。



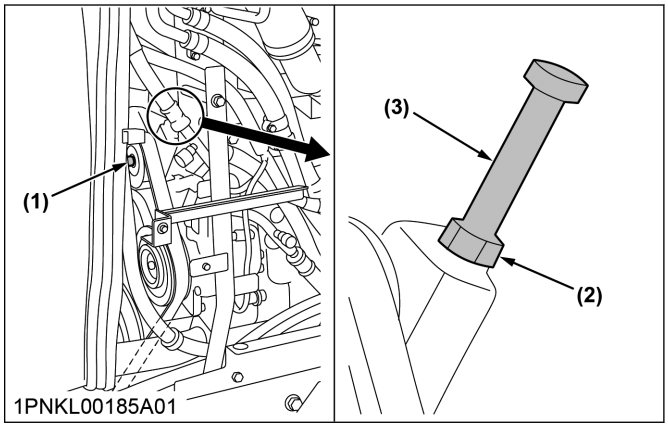
(1) エアコンベルト　*(A)* 荷重

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N（10 kgf）の力で押えて、8 mm～9 mm たわむ程度

4. エアコンベルトの張り強さが適正でないときは、調整します。

張り調整

1. テンションプーリ取付けナットを緩めます。
2. ロックナットを緩めます。
3. 調節ボルトでエアコンベルトの張りを適正な強さに調整します。
   調節ボルトを締めると張りが強くなり、緩めると張りが弱くなります。



(1) テンションプーリ取付けナット
(2) ロックナット
(3) 調節ボルト

4. 調整後はテンションプーリ取付けナットとロックナットを確実に締め付けます。

400 時間ごとの点検、整備

1. エンジンオイルの交換

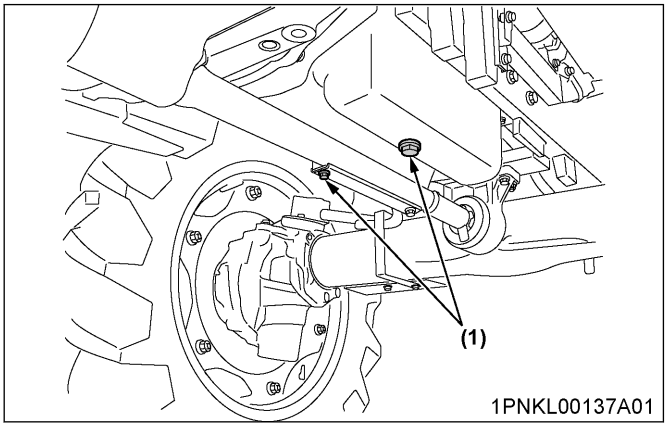
警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷ましてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

重要：

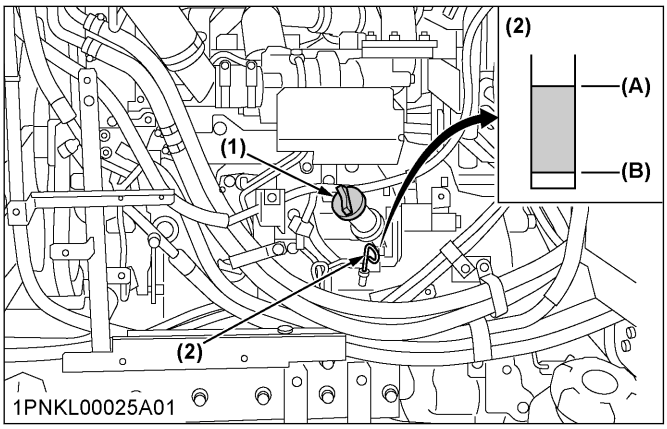
- **今まで使用していたオイルと異なるメーカー、あるいは粘度 NO.の異なるオイルを使用する場合は、古いオイルを全部容器に排出してから、新しいオイルと交換してください。**
  注ぎ足し使用は絶対しないでください。
- **オイルは必ず指定オイルを使用してください。**
  D10W-30 DH-2（DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル）
- **点検するときは、トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。**
- **オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約 5 分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。**

1. ドレンプラグを外してオイルを排出します。



(1) ドレンプラグ

2. ドレンプラグを取り付けます。
3. エンジンオイルを給油口から、規定量まで入れます。このときオイルをこぼさないように注意してください。



(1) 給油口　*(A)* 上限
(2) オイルゲージ　*(B)* 下限

エンジンオイル規定量	12 L

2. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

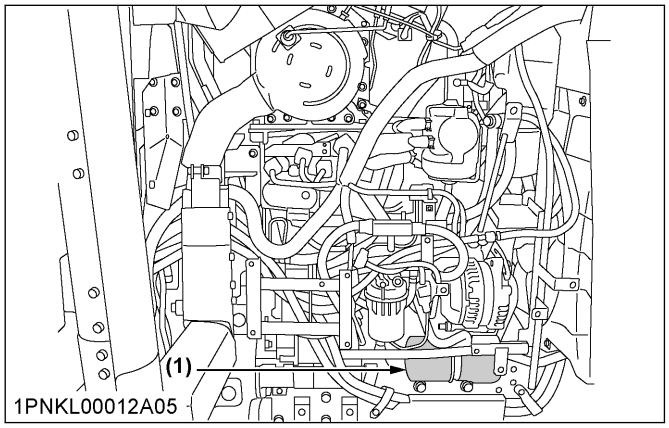
警告

- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

補足：

- **オイルフィルタは、カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると、バイパスバルブが作動して、オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので、ろ過されないオイルで潤滑が行われます。これを防ぐため、オイルフィルタの詰まりが無いように、規定時間で新しい純正部品のカートリッジと交換してください。**

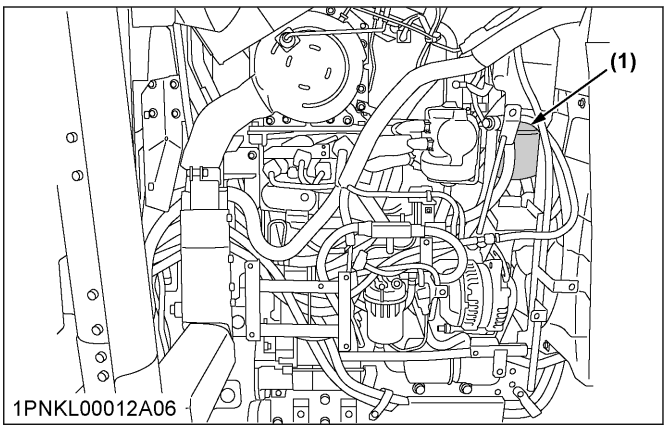
1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを取り外します。
2. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約 5 分間運転し、オイルランプの作動に異常が無いか、また油漏れが無いか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給します。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

3. 燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタカートリッジを外します。
2. 新しいフィルタカートリッジの組付けは、パッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。



(1) 燃料フィルタカートリッジ

重要：

- **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。**

3. カートリッジ交換後は、必ず空気抜きをします。（詳細は、燃料の空気抜きのしかた（217 ページ）を参照）

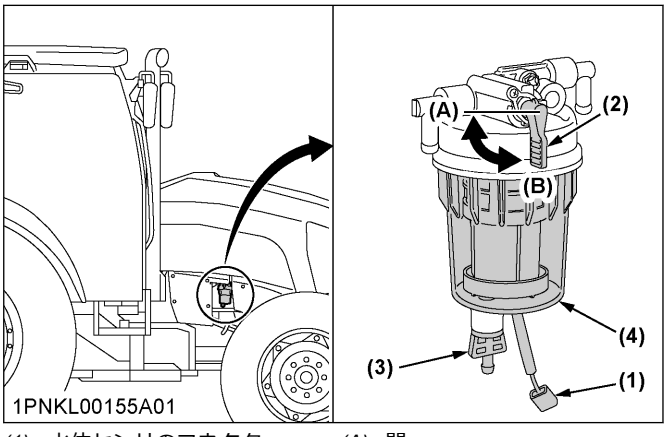
4. セパレータの清掃

この作業は、ほ場ではなくきれいな場所で行ってください。

重要：

- **セパレータや燃料フィルタがじゅうぶん点検、整備されていない場合、サプライポンプやインジェクタの部品寿命が早まる可能性があります。**

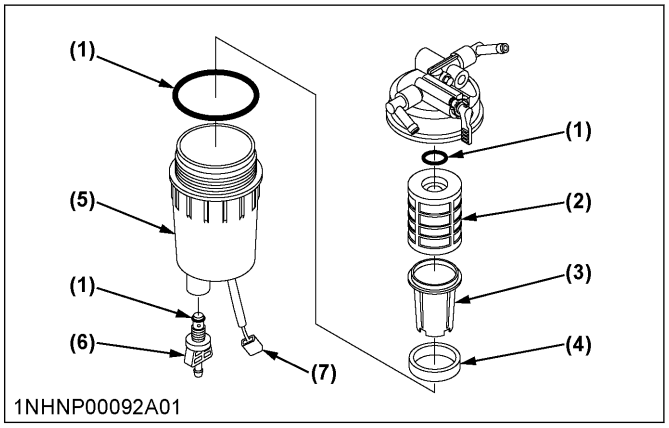
1. 水位センサのコネクタを外します。
2. 燃料コックを“閉”にします。



(1) 水位センサのコネクタ
(2) 燃料コック
(3) ドレンプラグ
(4) カップ
(A) 閉
(B) 開

3. カップをゆるめ、取り外し、内側を軽油で洗浄します。

4. エレメントを取り出し、軽油に浸して洗浄します。



(1) Oリング
(2) エレメント
(3) エレメントカップ
(4) 赤色フロート
(5) カップ
(6) ドレンプラグ
(7) 水位センサのコネクタ

5. 洗浄後、チリやホコリが付着しないようにセパレータを組み付けます。
6. 水位センサのコネクタを取り付けます。
7. 作業後は必ず空気抜きをします。
（燃料の空気抜きのしかた（217 ページ）を参照）

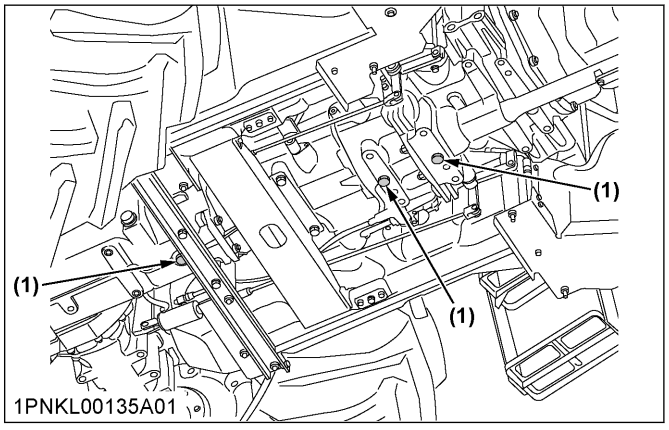
600 時間ごとの点検、整備

1. ミッションオイルの交換

警告

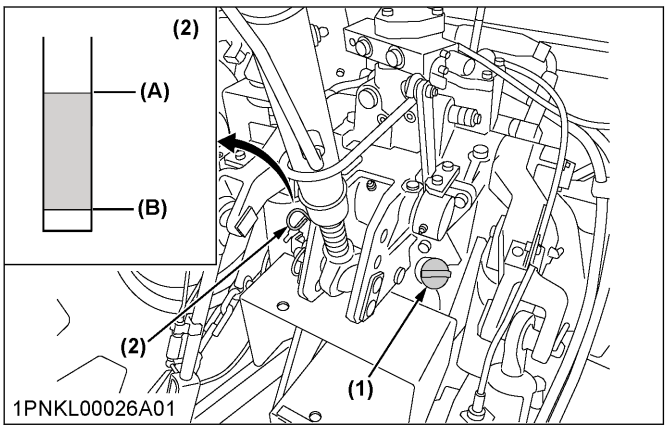
- **交換をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. ドレンプラグを外してオイルを容器に排出します。



(1) ドレンプラグ

2. ドレンプラグを取り付けます。
3. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れます。
4. エンジンを始動して 2 分～3 分運転してから止め、再度油量を点検して規定量まで補給します。

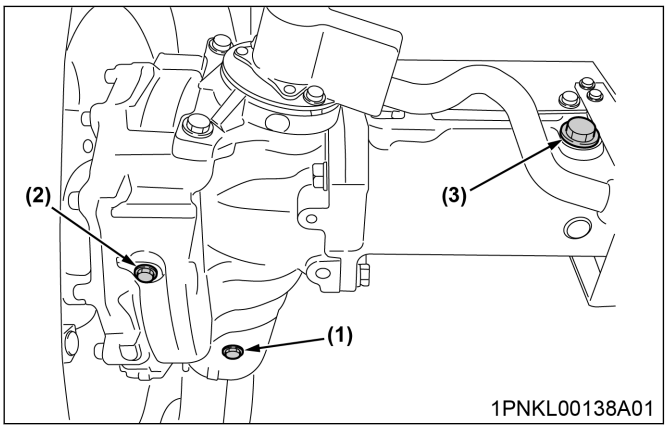


(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

ミッションオイル規定量	57.8 L

2. 前車軸ケース左、右のオイル交換

1. 前車軸の左側にあるドレンプラグ、検油プラグ、および給油プラグを外し、オイルを容器に排出します。



(1) ドレンプラグ
(2) 検油プラグ
(3) 給油プラグ

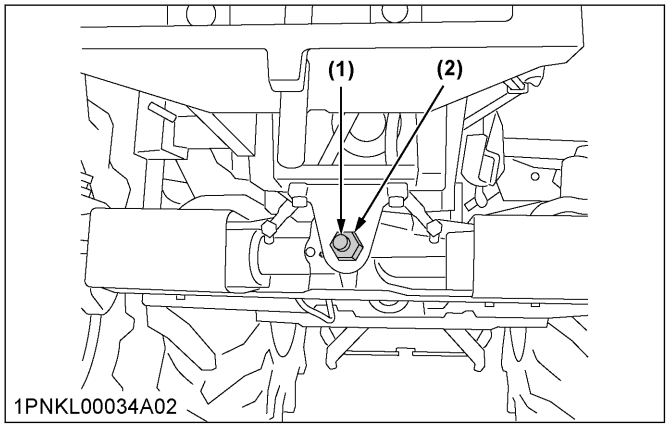
2. 前車軸の右側にあるドレンプラグと検油プラグを外し、オイルを容器に排出します。
3. 左右のドレンプラグを取り付けます。
4. 給油口から新しいオイルを入れます。
このとき、オイルは検油プラグから漏れるまで入れてください。
5. 給油プラグと左右の検油プラグを取り付けます。

3. 前部デフケースの前後遊びの点検、調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと、前輪が著しく振れたり、ハンドルに振動が伝わってきます。

1. ロックナットをゆるめ、調整ボルトを前輪デフケースに接するまで締め込みます。

2. その位置より調整ボルトをさらに 1/6 回転締め込み、ロックナットで固定します。



(1) 調整ボルト　　*(2)* ロックナット

800 時間ごとの点検、整備

1. エンジンバルブクリアランスの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

1500 時間ごとの点検、整備

1. 燃料インジェクタの点検

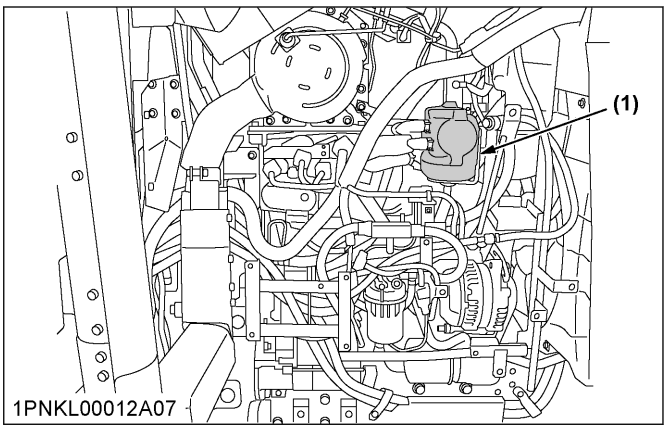
購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

2. オイルセパレータエレメントの交換

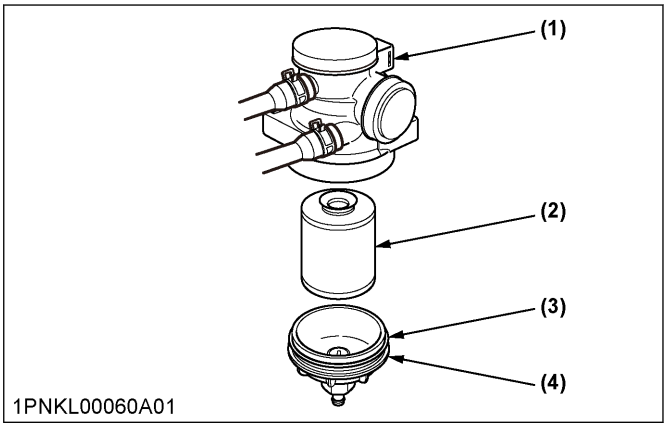
⚠ 警告

- **点検をするときは、必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。**

1. カバーを外してエレメントを外します。ケース内のオイルやカーボンをきれいな布で拭き取ります。
2. 新しいエレメントに交換します。
3. カバーを取り付けます。



(1) オイルセパレータ



(1) 本体
(2) エレメント
(3) ガスケット
(4) カバー

3. PCV バルブの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

4. EGR クーラの点検、清掃

購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

3000 時間ごとの点検、整備

1. ターボチャージャの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

2. サプライポンプの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

3. インテークエアヒータの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

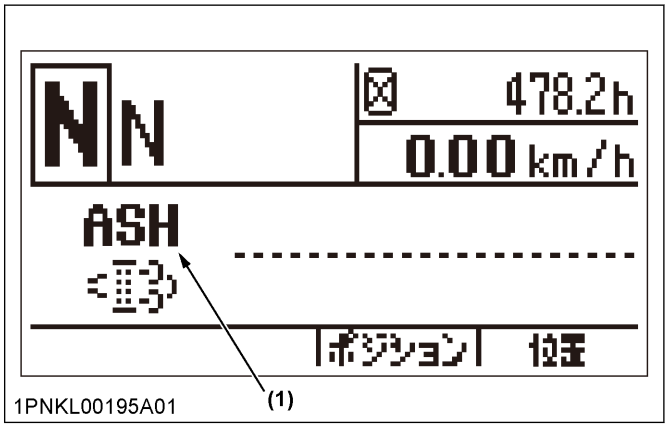
4. EGR システムの点検、清掃

購入先へ点検および清掃を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

3000 時間～6000 時間ごとの点検、整備

1. DPF マフラの清掃

DPF には灰（燃えカス）が堆積していきます。堆積した灰は DPF の性能を低下させます。DPF に灰（燃えカス）が堆積し清掃が必要になると ASH 警告がインジケータに表示されます。ASH 警告はトラクタの使用方法によって、アワメータ表示が 3000 時間～6000 時間ごとの間隔で表示されます。ASH 警告が表示されたら、購入先に DPF の清掃を依頼し灰（燃えカス）を取り除いてください。



(1) ASH 警告表示

重要：
- **DPF は専用機での洗浄が必要です。分解したりせず購入先で専用機による洗浄をしてもらってください。**

3 か月ごとの点検、整備

1. エアコン機器の簡易点検

当機搭載のエアコン機器は、フロン排出抑制法により 3 か月に 1 回以上の簡易点検が義務づけられています。
点検を行い、その記録を残してください。点検記録は、当機を使用中および廃棄後 3 年間は保存してください。
当機を譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。
冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

1 年ごとの点検、整備

1. ダブルエアクリーナエレメントの交換

アウタエレメントは 1 年ごと、または 6 回清掃ごとに交換が必要です。
インナエレメントは 1 年ごとに交換が必要です。

1. ダストカップを外します。
2. アウタエレメントを外し、新しいエレメントに交換します。
3. インナエレメントを外し、新しいエレメントに交換します。

重要：
- **エレメントは、清掃・交換以外は不必要に触らないでください。**
- **ダストカップの⬆マークが必ず上向きになるように取り付けてください。**

2. エアコン配管、ホースの点検

ゴム製のホースは、使わなくても劣化する消耗品です。1 年ごとに点検してください。ホースが傷んだときは新品と交換する必要があります。

1. エアコン用ホースや配管に損傷が無いか点検します。
2. 異常があれば交換、整備します。
   交換する場合は、購入先で交換および点検をしてもらってください。

3. キャブマウントゴムの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

4. エキゾーストマニフォールドの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

5. DPF 差圧センサパイプの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

6. EGR パイプの点検

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

2 年ごとの点検、整備

1. 冷却水の交換

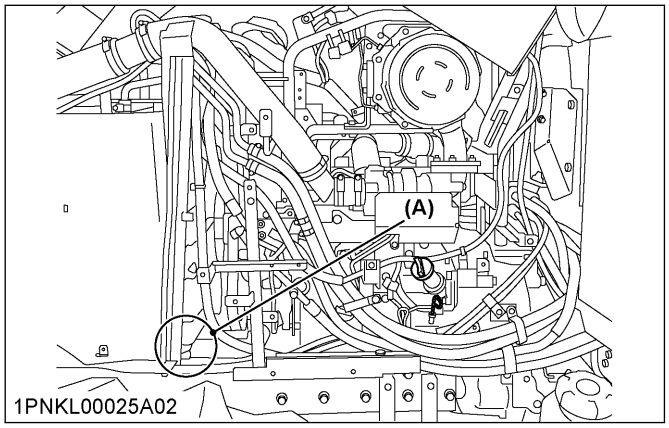
⚠ 警告

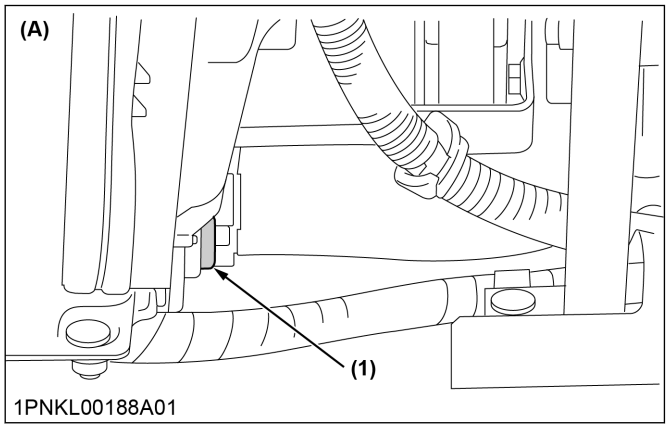
- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって、ラジエータ本体が冷めてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。**

重要：

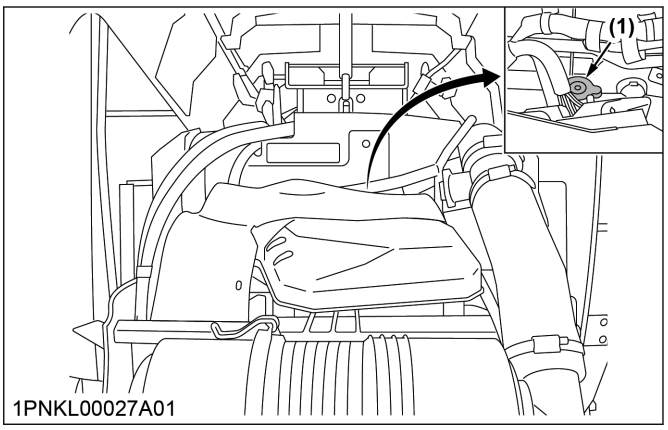
- **冷却水交換作業では、冷却水系統にエアが混入する可能性があります。心配なときは購入先にご相談ください。**

1. ラジエータのドレンプラグとラジエータキャップを開き、冷却水を容器に排出します。



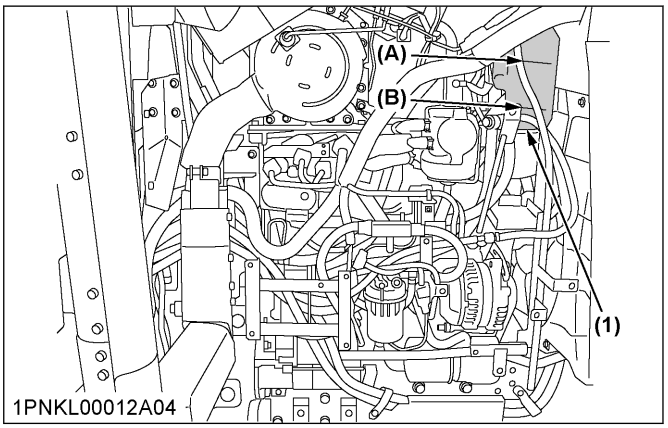


(1) ドレンプラグ



(1) ラジエータキャップ

2. ポンプなど汲取り道具を用いてリザーブタンクから容器に排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を容器で受けながら洗浄し、ドレンプラグを締めます。
4. ラジエータおよびリザーブタンクに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に閉めます。



(1) リザーブタンク
(A) 上限（*FULL*）
(B) 下限（*LOW*）

重要：

- **冷却水補給後エンジンを運転し、リザーブタンク内の量およびラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。冷却水の量が不足している場合、エンジンの破損につながるおそれがあります。**

ヒータに冷却水が循環するため、冷却水が約 1.5 L ヒータ部に必要となります。
冷却水を交換した場合、冷却水をリザーブタンクの注入口までいっぱいにし、ヒータ*"ON"*（温度コントロールつまみを*"WARM"*（右端）に回して、しばらくエンジンを回し、冷却水を暖め、エンジンを止めてください。
このとき吹出口から温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先に相談してください。
冷却水が冷えると、リザーブタンクの冷却水が吸い込まれ、リザーブタンクの冷却水が適量になります。

1.1 不凍液

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

重要：

- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を 50 %入れ、よく水と混ぜ合わせてから使用してください。**
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っています。そのため、保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**

冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは、必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータおよびリザーブタンクに補給するか、冷却水を完全に排水してください。工場出荷時は、不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度（℃）	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

2. ラジエータの洗浄

ラジエータの洗浄には、ラジエータ洗浄剤を使用すると、水アカなどの汚れをきれいに洗浄できます。
ラジエータ洗浄剤は、次のような場合に使用してください。

- 2 年使用ごと
- 不凍液を混入するとき
- 不凍液混入から水だけに変えるとき

3. ラジエータホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

4. パワーステアリングホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

5. 吸気ホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

6. 燃料ホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

7. 傾き自動シリンダホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

8. メインシリンダホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

9. オイルクーラホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

10. PCV バルブホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

11. DPF 差圧センサホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

12. ブーストセンサホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

13. オイルセパレータホースの交換

購入先へ点検を依頼し、必要に応じて交換してもらってください。

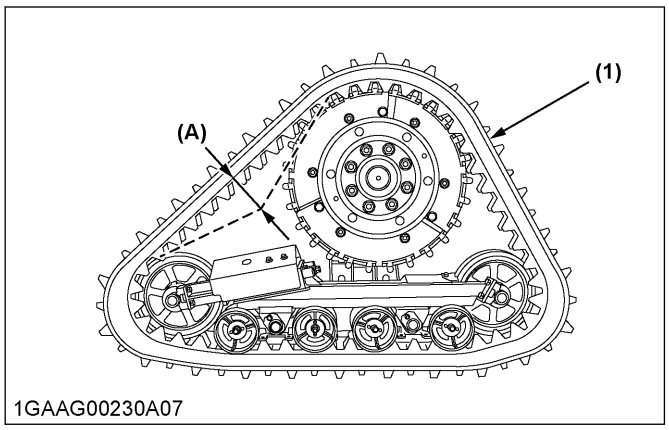
ハーフクローラ仕様の点検・整備

1. ゴムクローラの張り調整[ハーフクローラ仕様]

ゴムクローラが緩んだままで使用すると、クローラ内周面ゴムが早期に摩耗し、クローラの寿命が短くなるおそれがあります。また走行中に異音が発生したり、脱輪の原因となるおそれがあります。定期的に点検してください。

点検

1. 次図で示す(A)部のたわみ量で、ゴムクローラの張り強さを確認します。



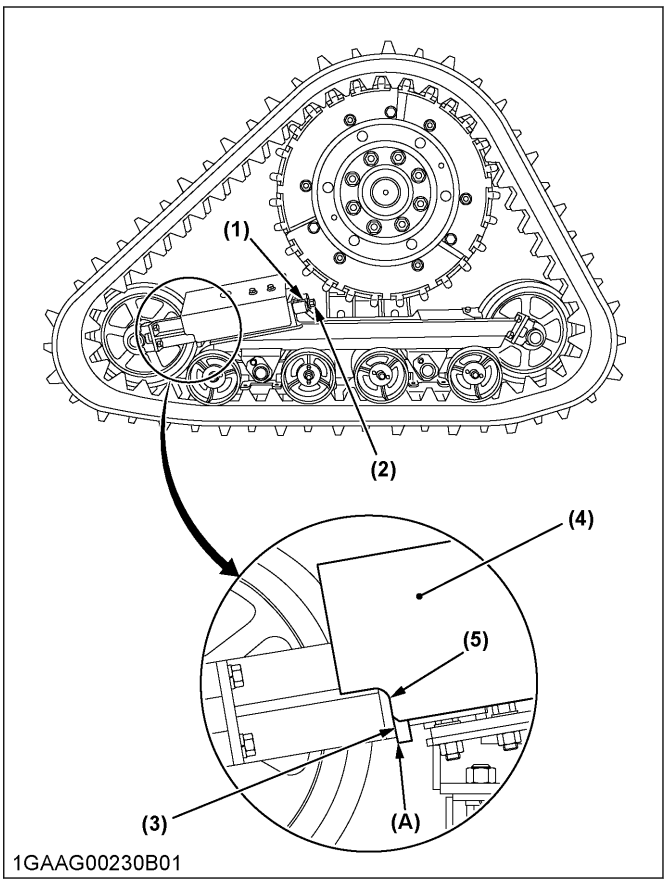
(1) ゴムクローラ *(A)* たわみ

適正張り強さ	(A)部に 196 N～245 N（20 kgf～25 kgf）の荷重を掛けたとき、(A)部のたわみ量が 3 mm～8 mm

2. 適正な張り強さでない場合は調整します。

調整

1. トラクタを前進で停車します。
2. ロックナットを緩めて、調整ボルトでゴムクローラの張り強さを調整します。
3. 調整後は確実にロックナットで固定します。
4. ゴムクローラの適正な張りを保つため、次図のようにカバーのゲージ面とヨーク板が一致していることを確認します。



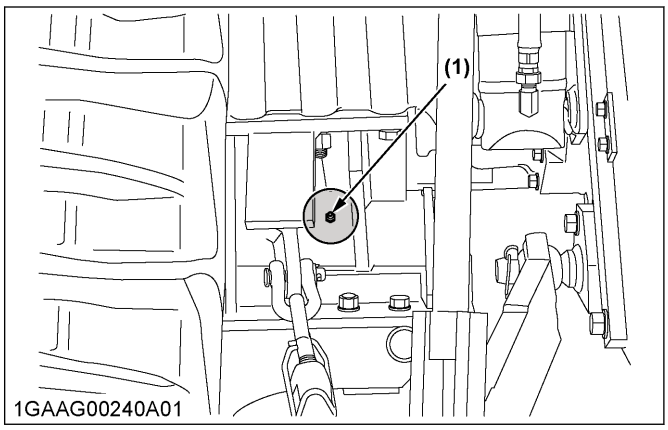
(1) ロックナット *(A)* 一致
(2) 調整ボルト
(3) ヨーク板
(4) カバー
(5) ゲージ面

補足：

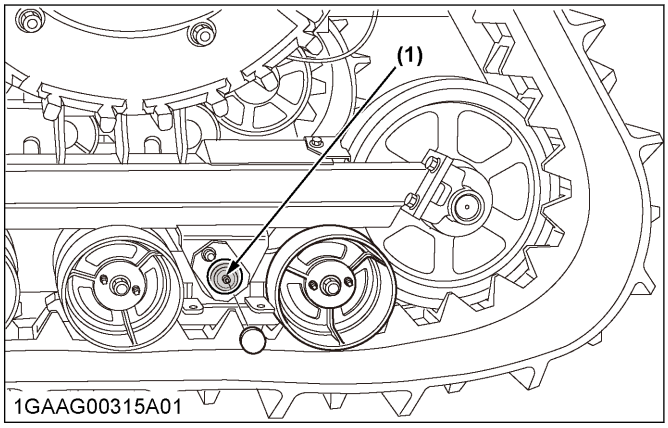
- **ゴムクローラ交換後、ゴムがなじむまでの間ゴムクローラの張りがゆるみやすくなるので、必要に応じてクローラの張りを点検、調整してください。**

2. グリースの注入［ハーフクローラ仕様］

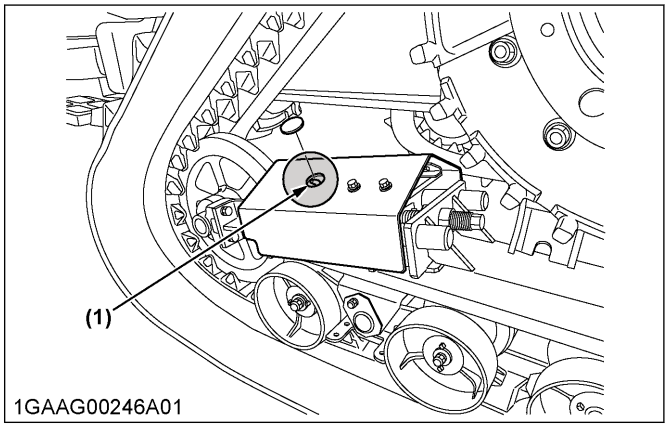
- 50 時間使用ごとおよび 1 シーズン終了後に、次の箇所にグリースアップします。



(1) 揺動軸部



(1) ローラ揺動部



(1) ヨーク摺動部

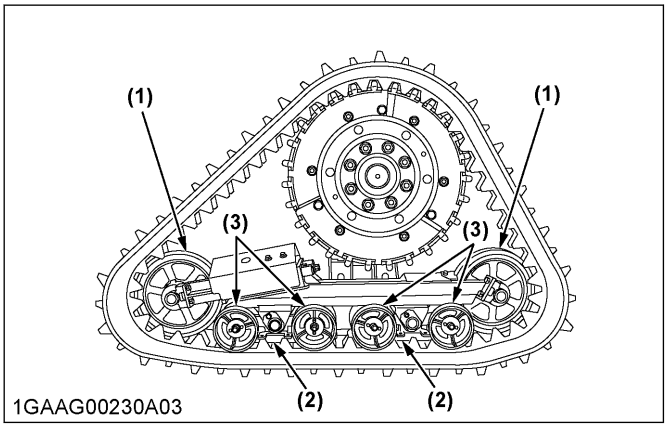
3. クローラのローラ､アイドラのオイル交換とオイルシール点検［ハーフクローラ仕様］

オイル交換

クローラのローラ、アイドラのオイルは 200 時間ごとに交換してください。
（ローラ、アイドラのオイル交換［ハーフクローラ仕様］（215 ページ）を参照）

オイルシール点検

1. クローラのローラ、アイドラを点検します。
2. オイル漏れなどの異常があればオイルシールを交換します。



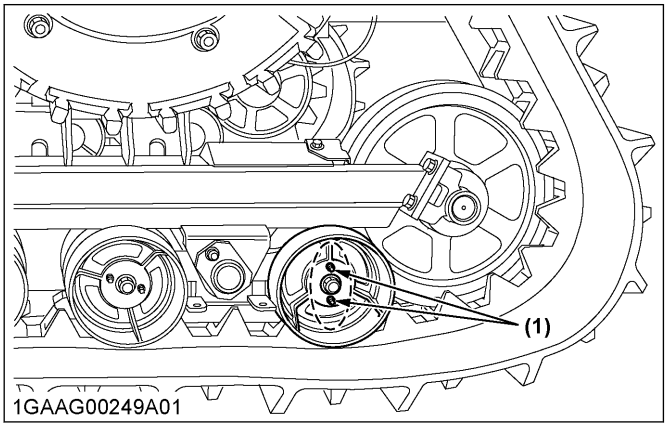
(1) アイドラ
(2) クローラガイド
(3) ローラ

3.1 クローラガイドの点検［ハーフクローラ仕様］

1. クローラガイドの状態を点検します。
2. 著しい摩耗があればクローラガイドを交換します。摩耗したままで使用すると脱輪の原因となるおそれがあります。

3.2 ローラ、アイドラのオイル交換［ハーフクローラ仕様］

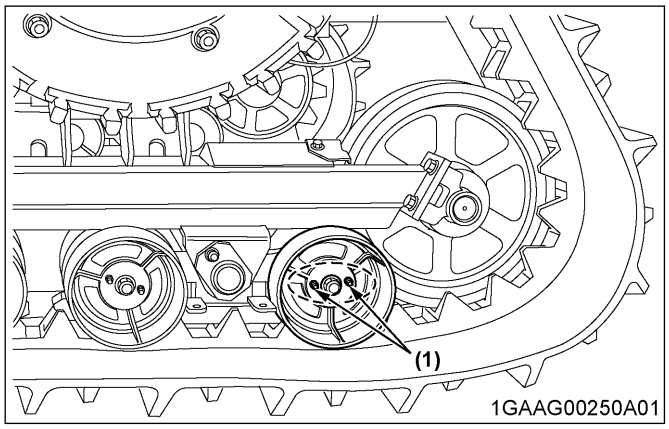
1. オイルを排出するために、ローラ、アイドラ端面のプラグを真下の位置にします。
2. 排出する側と反対側の車体を持ち上げます。
3. プラグを外し、オイルを容器に排出します。このときオイルがクローラに掛からないよう処置してください。



(1) プラグ

4. オイルを給油するためにプラグ穴を真上に向けて、油さしなどの注油道具を用いて給油します。

5. 給油後はプラグをもとどおりに固定します。



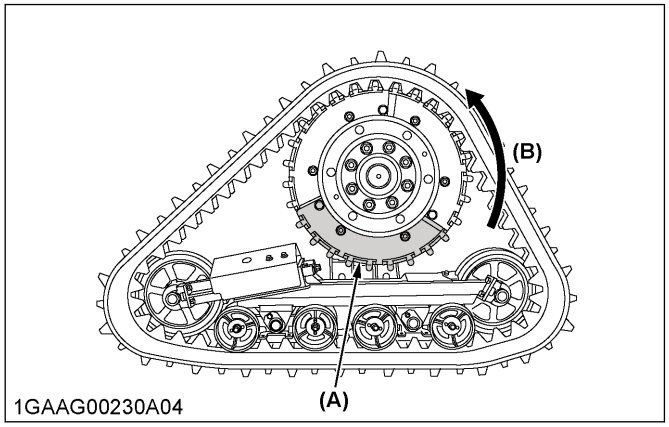
(1) プラグ

補足：
- **プラグ穴を水平にしたとき、オイルが出てくれば規定量です。**

4. スプロケットの交換[ハーフクローラ仕様]

スプロケットは 3 枚で構成されています。
本項の手順により、1 枚ずつスプロケットを交換してください。

1. 図の(A)で示した下側のスプロケットを新しいスプロケットに交換します。
2. 車軸をゆっくり回転させ、順次下側に来たスプロケットを新しいスプロケットに交換します。

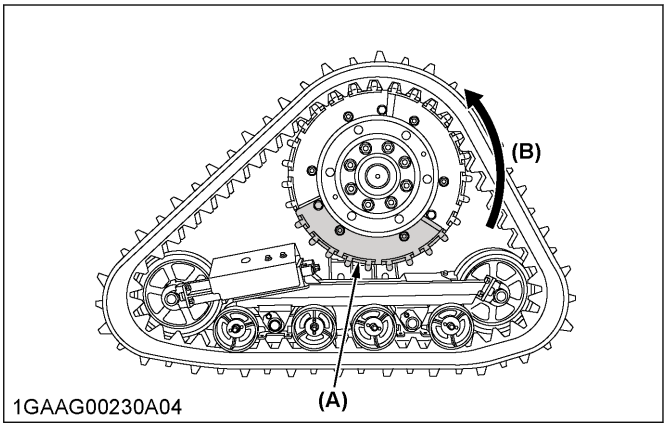


(1) スプロケット
(A) 交換位置
(B) 回転

3. 3 枚のスプロケットを交換した後、ゴムクローラの張りを調整します。
（ゴムクローラの張り調整［ハーフクローラ仕様］（213 ページ）を参照）

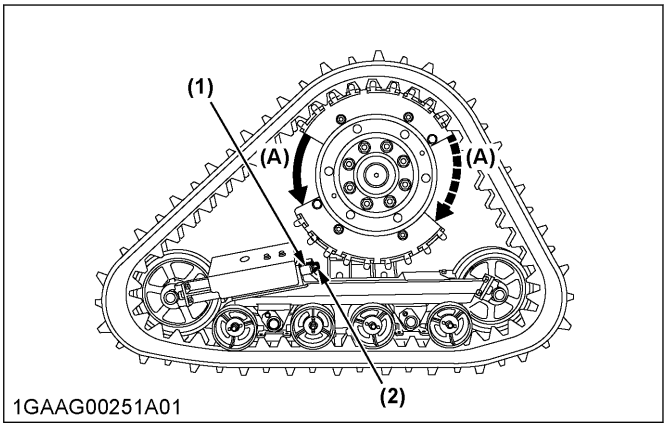
5. ゴムクローラの交換[ハーフクローラ仕様]

1. ロックナットを緩め、調整ボルトを回転させ、クローラの張りを緩めます。
2. 図の(A)で示した下側のスプロケットから順次 2 枚のスプロケットを外します。



(1) スプロケット
(A) 取外し位置
(B) 回転

3. 1 枚のスプロケットを残したまま次図に示す位置まで車軸をゆっくり回転させ、古いゴムクローラを外します。



(1) ロックナット
(2) 調整ボルト
(A) 回転

4. 新しいゴムクローラに置き換えた後、車軸を回転させ、スプロケットにゴムクローラを掛けます。
5. 外した 2 枚のスプロケットを取り付けた後、最後にゴムクローラの張りを調整します。
（調整方法は、ゴムクローラの張り調整［ハーフクローラ仕様］（213 ページ）を参照）

補足：
- **ゴムクローラ交換後、ゴムがなじむまでの間ゴムクローラの張りがゆるみやすくなるので、必要に応じてクローラの張りを点検、調整してください。**
- **オイル、オイルシール、クローラガイド、スプロケット、およびゴムクローラ交換要領の詳細については、購入先にご相談ください。**

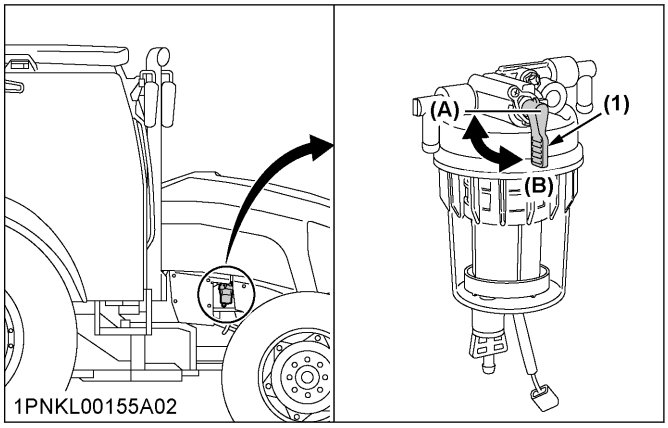
必要に応じた点検、整備

1. 燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは、次のようなときに行う必要があります。

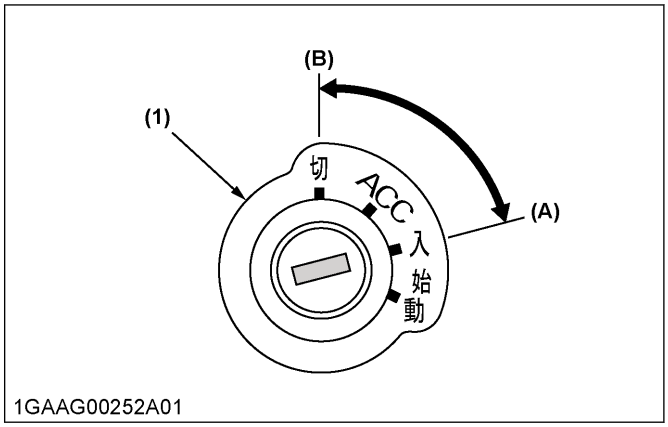
- セパレータより排水および分解洗浄したとき
- 燃料フィルタおよび配管を取り外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが"開"になっているか確認します。



(1) 燃料コック
(A) 閉
(B) 開

3. 次のインターバルでキースイッチの切換えを 10 回程度繰り返します。
   a. キースイッチを**[入]**位置にして 30 秒間保ちます。
   b. キースイッチを**[切]**位置にして 15 秒間保ちます。



(1) キースイッチ
(A) 入
(B) 切

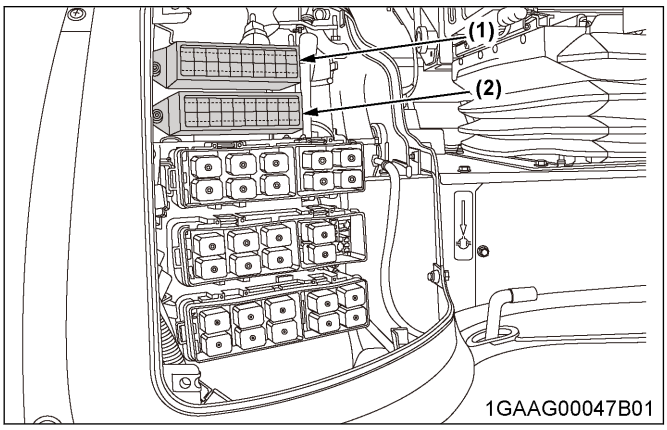
4. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し、アクセルレバーを中速回転（約 1500 n/min）位置に戻します。
   スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は、30 秒間休み、この操作を再度 1 回～2 回繰り返します。
5. エンジンを吹かす操作をし、燃料系統の中に残っている微量の空気を追い出します。
6. これらの操作後、まだ空気が抜けずにエンストする場合は、再度空気抜きを行います。

2. ヒューズの交換

補足：

- **トラクタに作業灯やラジオなどを取り付けるときの電源取出しは、購入先にご相談ください。**

1. シート右側にあるヒューズボックスのふたを外します。

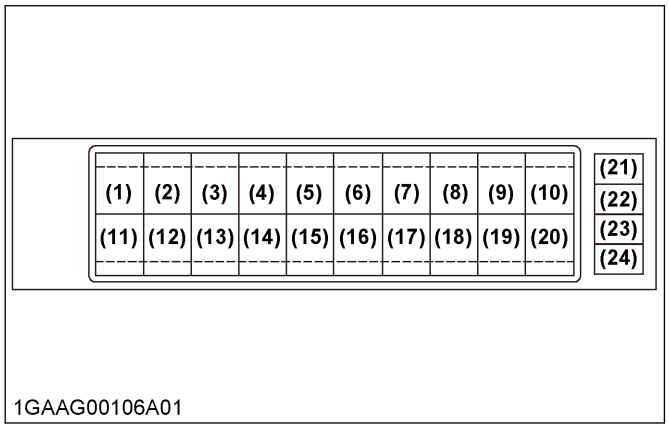


(1) ヒューズボックス（上側）
(2) ヒューズボックス（下側）

2. ヒューズを外します。

3. 切れたヒューズと同容量のヒューズと交換します。

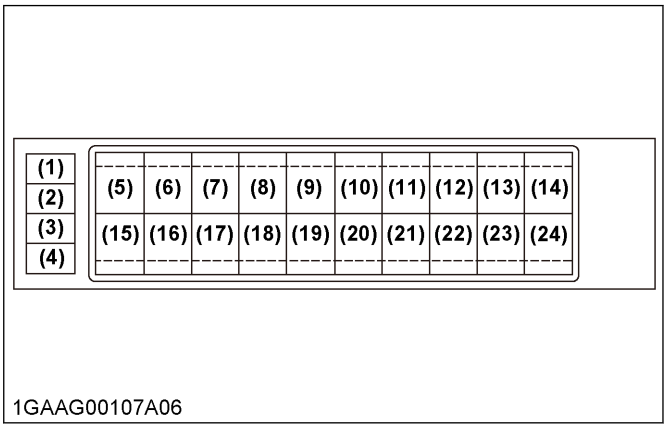
ヒューズボックス（上側）



1GAAG00106A01

番号	容量	保護回路
(1)	10 A	オーディオ（ACC）
(2)	–	–
(3)	5 A	作業灯スイッチパネル（+B）
(4)	20 A	作業灯（前）
(5)	15 A	作業灯（後）
(6)	15 A	作業灯ヘッドランプサイド
(7)	10 A	ブレーキランプ
(8)	–	–
(9)	20 A	ヘッドランプ
(10)	20 A	ハザード
(11)	10 A	ECU（+B）
(12)	5 A	メータ（+B）
(13)	10 A	ホーン
(14)	10 A	ルームランプ
(15)	10 A	アームレスト（+B）
(16)	10 A	オプションターミナル（+B）
(17)	10 A	診断コネクタ（+B）
(18)	5 A	WIFI（+B）
(19)	20 A	デフォッガ（横）
(20)	20 A	デフォッガ（後）
(21)	20 A	予備
(22)	15 A	予備
(23)	10 A	予備
(24)	5 A	予備

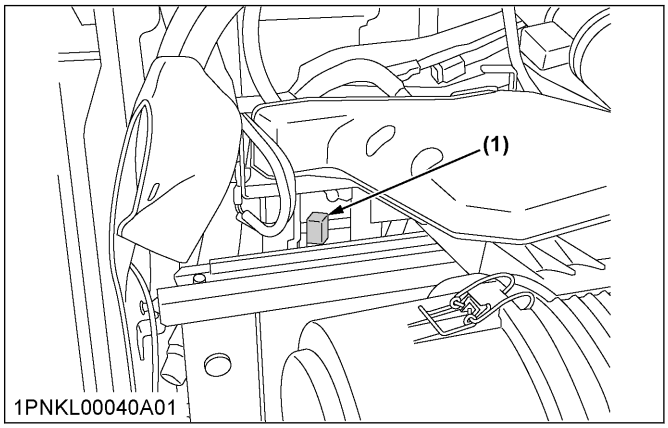
ヒューズボックス（下側）



1GAAG00107A06

番号	容量	保護回路
(1)	5 A	予備
(2)	10 A	予備
(3)	20 A	予備
(4)	25 A	予備
(5)	5 A	エンジン始動
(6)	10 A	ライタ
(7)	15 A	電源取出（ローダ）
(8)	5 A	デフォッガリレー
(9)	15 A	ワイパ
(10)	10 A	A/C スイッチ
(11)	–	–
(12)	10 A	作業灯リレー 電源取出（1P）リレー
(13)	10 A	スイッチ 1
(14)	10 A	スイッチ 2
(15)	5 A	油圧操作パネル
(16)	25 A	ECU（IG）
(17)	10 A	KAG GPS
(18)	5 A	WIFI（IG）
(19)	10 A	バックランプ
(20)	10 A	エンジンコントロール PTO
(21)	25 A	ライタ電源取出（2P）
(22)	20 A	シートサスペンション
(23)	25 A	A/C ブロアモータ
(24)	10 A	A/C コンプレッサ

ボンネット前方エンジンルーム

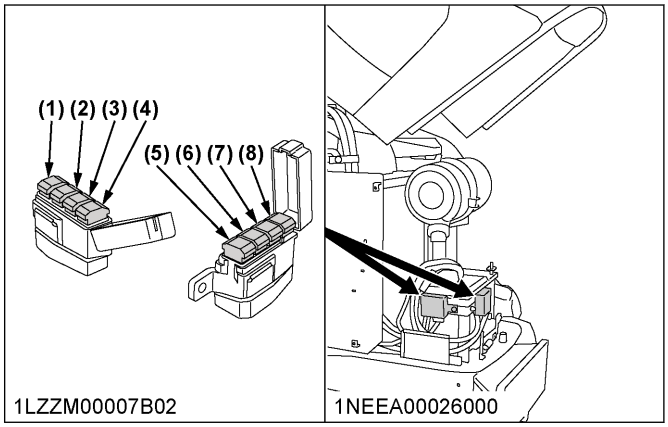


番号	容量	保護回路
(1)	20 A	CRS

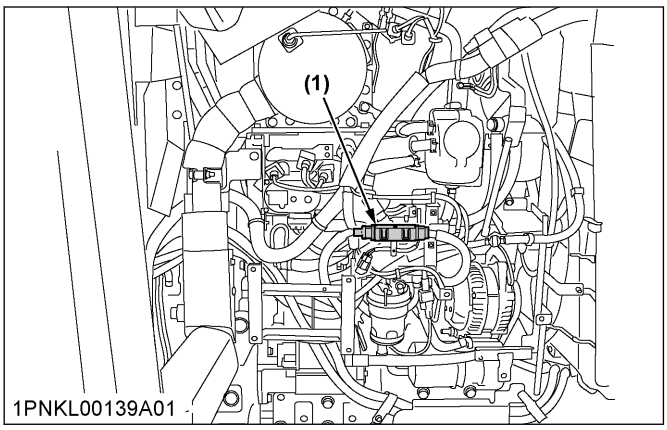
重要：
- **ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、針金や銀紙などの導電部品で代用せず、購入先に点検、修理を依頼してください。**

3. スローブローヒューズの交換

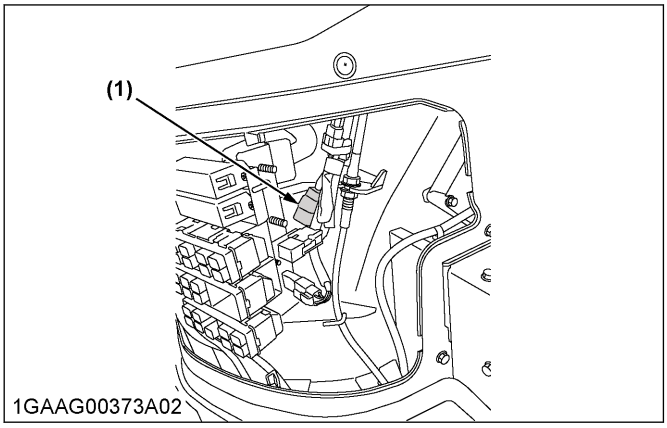
スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。もし切れた場合は、切れた原因を必ず調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。



番号	容量	保護回路	ヒューズ構造
(1)	60 A	作業灯	ボルトタイプ
(2)	60 A	ヘッドランプ	ボルトタイプ
(3)	40 A	デフォッガ	プラグインタイプ
(4)	30 A	CRS	プラグインタイプ
(5)	120 A	予熱（グロー）	ボルトタイプ
(6)	60 A	キースイッチ	ボルトタイプ
(7)	50 A	エンジン	プラグインタイプ
(8)	50 A	エアコン	プラグインタイプ



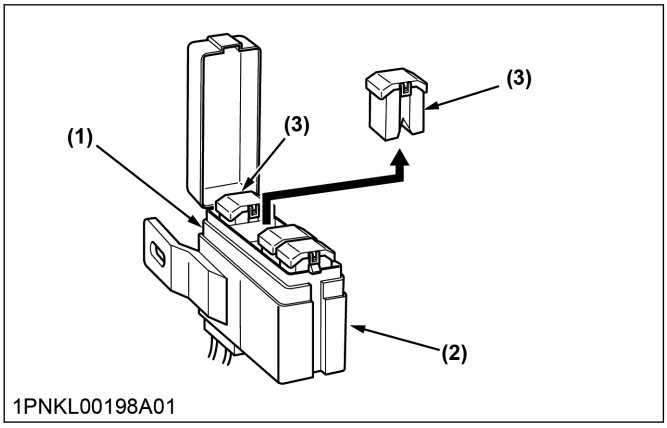
番号	容量	保護回路	ヒューズ構造
(1)	175 A	オルタネータ	ボルトタイプ



番号	容量	保護回路	ヒューズ構造
(1)	40 A	外部電源（1P）	プラグインタイプ

プラグイン（差込みタイプ）のスローブローヒューズの交換

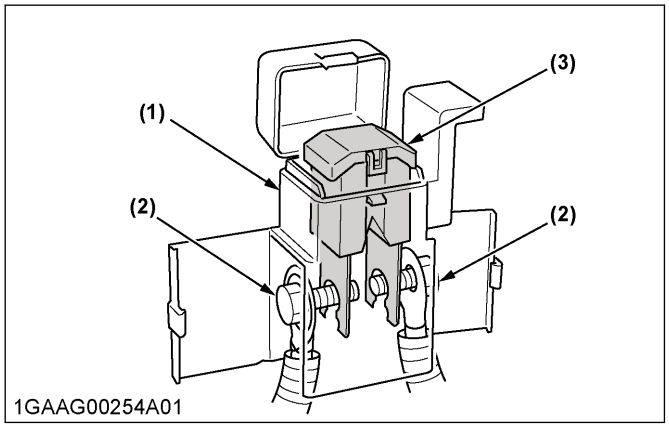
1. バッテリの（–）コードを外します。
2. ケースからヒューズを引き抜きます。
3. 同じ容量（アンペア）のヒューズを取り付けます。



(1) ヒューズケース
(2) ボルト
(3) プラグインタイプのスローブローヒューズ

ボルトタイプ（ボルトで固定）のスローブローヒューズの交換

- 交換は購入先へ依頼してください。



(1) ヒューズケース
(2) ボルト
(3) ボルトで固定しているスローブローヒューズ

4. ヘッドランプの交換

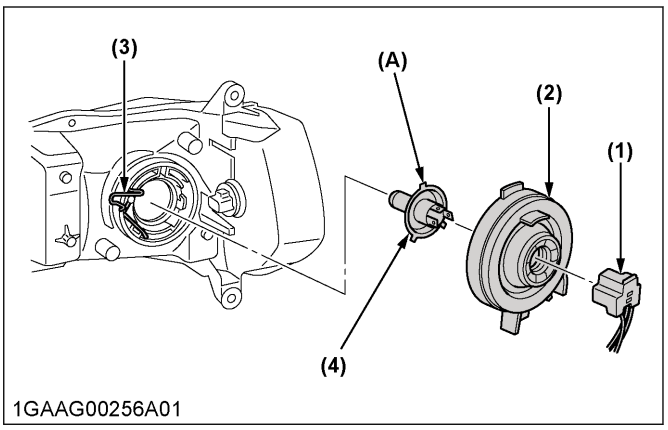
⚠ 注意

- **電球を落としたり、キズを付けたりしないでください。破損した場合、ガラス片が飛散しケガの原因となります。特にハロゲン電球は、ガラス内部の圧力が高いので注意してください。**
- **電球を交換するときは、じゅうぶん冷ましてから行ってください。ヤケドの原因となることがあります。**

重要：

- **ワット数の大きい電球を取り付けないでください。**
- **素手でガラス面を触らないでください。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。**

1. コネクタを抜き、ゴムブーツを外します。
2. 電球固定金具を解除し、電球を外します。
3. 新しい電球を取り付けます。
   幅の広い突起部を上側に向けて組み付けてください。



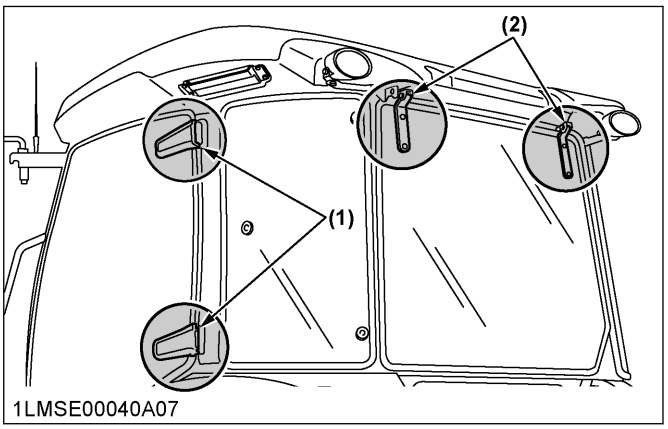
(1) コネクタ
(2) ゴムブーツ
(3) 固定金具
(4) 電球
(A) 幅の広い突起部

5. ランプ一覧

ヘッドランプ	60 W
ウインカランプ（前）	21 W
ウインカランプ（後）	21 W
車幅灯	5 W
作業灯	24 W（3 W×8）
作業灯（ヘッドライト上）	12 W（3 W×4）
尾灯、ブレーキランプ	5 W / 21 W
バックランプ	21 W

6. ドアヒンジ部とリヤウインドヒンジ部の注油

1. ドアやリヤウインドの開閉がうまくいかないときは、図で示された箇所に注油します。

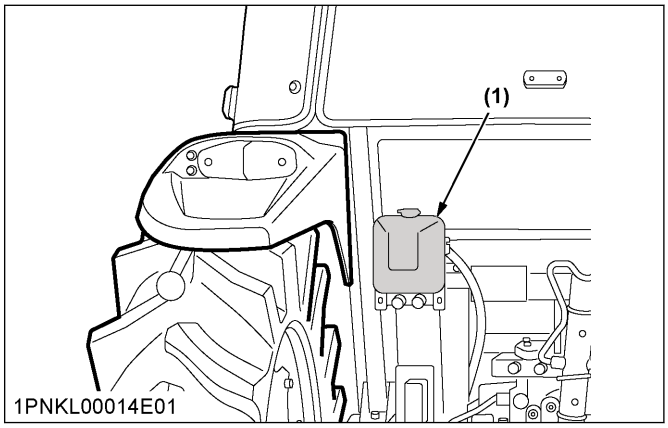


(1) ドアヒンジ部
(2) リヤウインドヒンジ部

7. ウォッシャ液の補充

重要：
- **凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。**
- **空回しはポンプを損傷させる原因となるので、空運転をしないでください。**
- **ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために、ごみが入らないようにしてください。**

1. ウォッシャタンク内のウォッシャ液が少なくなってきたら、自動車用ウォッシャ液を適量補充します。



(1) ウォッシャタンク

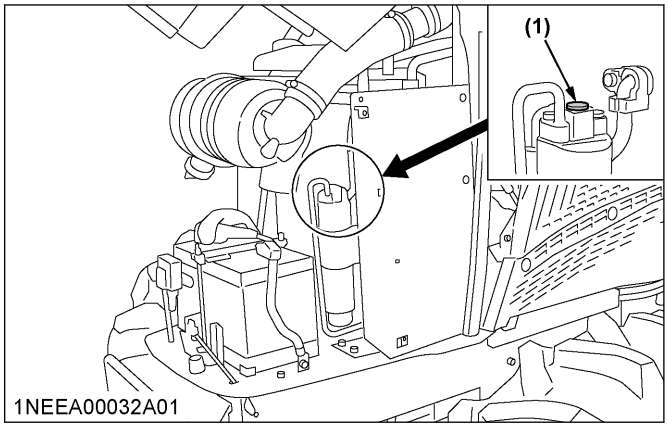
8. 冷媒（ガス）量の点検、充てん

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

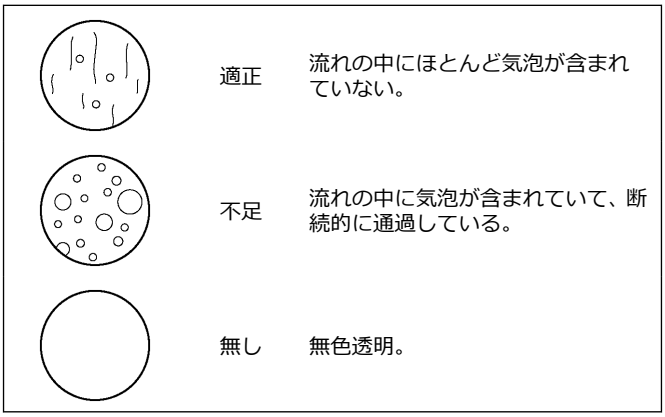
1. エアコンを次の条件で運転します。

設定項目	条件
エンジン回転数	約 1500 n/min
温度コントロール	最強冷位置
ファンスイッチ	最強風
エアコンスイッチ	ON

2. サイトグラスから、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。



(1) サイトグラス



3. 冷媒が不足しているときは、速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼します。

格納

1. 長期格納時の手入れ

⚠ 警告
- **シートを掛ける場合、マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。**

重要：
- **洗車するときは、次の点に注意して行ってください。**
  - **エンジンを止めてから洗車してください。もしエンジンを掛けて行うときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **灯火類は消灯した状態で行ってください。もし点灯した灯火類に直接水が掛かるとランプのバルブが切れるおそれがあります。**
  - **３点リンク外部操作スイッチ、傾き手動外部操作スイッチには直接水が掛からないようにしてください。もし水が入ると故障の原因となります。**
  - **高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端をドア、リヤウインドなど開閉部に近づけすぎないでください。水圧が高いため、近づけすぎると室内に水が入るおそれがあります。**
- **格納時は、必ずキースイッチを[切]位置にして、キーを抜いてください。**
- **バッテリの取付けの際には、（+）と（−）をよく確認し、絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると、トラクタの電子機器類が破損する場合があります。**

トラクタを長い間使用しない場合は、次の要領で整備してから格納してください。
- 不具合箇所を整備してください。
- エンジンオイルを交換し、2000 n/min 以上で 10 分～15 分間の防錆運転をし、各部にオイルをゆきわたらせてください。

その後も 1 か月～2 か月ごとに同様に防錆運転をしてください。
- 定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
  （定期点検箇所一覧表（182 ページ）を参照）
- 車体の錆びやすい部分には、グリースかオイルを塗ってください。
- 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ、次のように各油圧シリンダの防錆運転を 1 か月～2 か月ごとに行ってください。
  1. ステアリングハンドルを左右にパワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで 1 回～2 回回します。
  2. 油圧（ポジション）レバーで 3 点リンク（作業機）を最上昇位置まで 1 回～2 回上下させます。
  3. 傾き手動スイッチまたは角度調節ダイヤルで、リフトシリンダ（右）を 1 回～2 回全ストローク伸縮させます。
     作業機が装着されているときは作業機を上げてから行ってください。
- 燃料コックを“閉”にしてください。
- 冷却水は抜いてください。ただし、オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
- クラッチハウジング底のドレンプラグを外して、水が浸入していないことを確認してください。
- タイヤの空気圧は、標準より少し多めにしてください。
- バッテリを本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取り付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
- ウエイトを取り外し、作業機を、外すか地面に降ろした状態にしてください。
- 後輪の前後に車止めをしてください。
- 各部の配線、バッテリコード、燃料配管など各配線、配管類のキレツ、被覆の破れ、コードクランプの外れは、確実に点検、整備してください。
- 格納中バッテリは、1 か月に 1 回充電器で完全充電してください。
- 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすい物が無い、雨の掛からない乾燥した場所を選定し、シートを掛けてください。
- 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ、燃料系統故障の原因になります。
- ドアを確実に閉め、キーを抜いてください。

2. 長期格納後の運転

- オートエアコン付トラクタで長期放置（1 か月以上）後、オートエアコンを使用する場合は、コンプレッサ保護のため、必ずエンジンアイドリングにてファンスイッチ**[1]**、エアコンスイッチを“*ON*”（入）にし、5 分以上エアコンを作動させてください。
  （AUTO スイッチでの起動ではコンプレッサが作動しない場合があります。）

不調と処置

1. エンジンの不調と処置

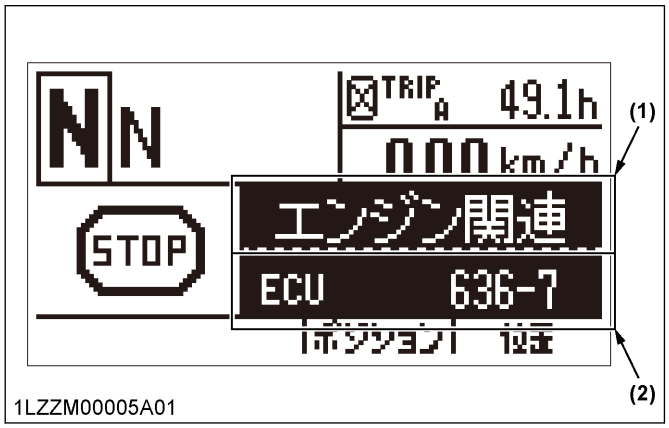
もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合	燃料が流れない。	• 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く。 • 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	• ホース、プラグ、袋ナット、および締付けバンドを点検し、ゆるみがあれば締め、損傷があれば新品と交換または補修しておく。 • 空気抜きをする。 （燃料の空気抜きのしかた（217 ページ）を参照）
	寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	• ラジエータに熱湯をそそぐ。
	バッテリがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	• バッテリを充電する。
出力不足の場合	燃料不足	• 燃料を補給する。 • 燃料系統を調べる。特に空気混入に注意する。
	燃料の流れ不足	• 燃料フィルタの清掃をする。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃する。
突然停止した場合	燃料不足	• 燃料を補給する。 • 燃料系統を調べる。特に空気混入に注意する。
	燃料が流れない。	• 燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	燃料が悪い。	• 良質の燃料に交換する。
	エンジンオイルの入りすぎ。	• 正規のオイル量にする。
	エアクリーナの目詰まり	• エレメントを清掃する。
水温計が**[H]**付近を示すとき	冷却水が 125 ℃付近になったため。	• 冷却水の量（不足）および水漏れを点検する。 • ファンベルトがゆるんでいないか張りを点検する。 • フロントグリル、ラジエータの防虫網にごみの詰まりが無いか点検する。
始動時青白煙が消えない。	前回の作業が、長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合または冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	• 負荷を掛けてマフラをじゅうぶんに加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返しおよび長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	ノズル不良	• ノズルを点検する。
	燃料不良	• 良質の燃料に交換する。

• わからない場合は、購入先にご相談ください。

2. 傾き自動、耕深制御、ドラフト、レーザ、AD、倍速、トランスミッションの故障と処置

異常が生じた場合、電子メータに異常箇所を示す次表のエラーコードが表示されます。もし表示された場合、すぐ購入先に連絡して点検、整備を受けてください。
なお、故障箇所によっては緊急避難処置として一部使用制限をして使用できる場合もあります。詳細は“表示エラーコード”と“処置”の欄を確認してください。



(1) 表示エラーコード上段　　*(2)* 表示エラーコード下段

表示エラーコード			状態		処置
上段	下段				
リフトアーム	VCU	1873-3	リフトアームセンサ異常		3P 制御モードを**[ポジション]**にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	1873-4			
ストローク	VCU	521403-3	ストロークセンサ異常		傾き自動モードを**[位置]**にし、傾き手動スイッチで操作してください。
	VCU	521403-4			
ポジション	VCU	6075-3	ポジションレバーセンサ異常		3P 制御モードを**[ポジション]**にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	6075-4			
カバー	VCU	521401-3	カバーセンサ異常		3P 制御モードを**[ポジション]**または**[S モード]**に切り替えて使用してください。
	VCU	521401-4			
傾き自動角度	VCU	521405-3	傾き自動角度調節ダイヤル異常		傾き自動モードを**[位置]**にし、傾き手動スイッチで操作してください。
	VCU	521405-4			
3P 高さ規制	VCU	11024-3	3P 高さ規制調整ダイヤル異常		購入先に連絡してください。
	VCU	11024-4			
ドラフト	VCU	11031-3	ドラフトセンサ異常		3P 制御モードを**[ポジション]**にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	11031-4			
シャトルセンサ	VCU	521414-3	シャトルレバーセンサ異常	正側の出力	購入先に連絡してください。
	VCU	521414-4			
	VCU	521414-8		正、副の位相のズレ	
	VCU	521415-3		副側の出力	
	VCU	521415-4			
ハンドアクセル	VCU	29-3	ハンドアクセルセンサ異常	正側の出力	購入先に連絡してください。
	VCU	29-4			

（次へ続く）

表示エラーコード			状態		処置
上段	下段				
ハンドアクセル	VCU	29-8	ハンドアクセルセンサ異常	正、副の位相のズレ	購入先に連絡してください。
	VCU	2625-3		副側の出力	
	VCU	2625-4			
アクセルペダル	VCU	91-3	アクセルペダルセンサ異常	正側の出力	購入先に連絡してください。
	VCU	91-4			
	VCU	91-8		正、副の位相のズレ	
	VCU	2623-3		副側の出力	
	VCU	2623-4			
VT 通信	VCU	521587-19	サブモニタ（VT）（オプション）通信異常		購入先に連絡してください。
3P 感度調整	VCU	11036-3	感度調整ダイヤル異常		購入先に連絡してください。 作業精度が調整できません。
	VCU	11036-4			
落下速度調整	VCU	11034-3	落下速度調整ダイヤル異常		購入先に連絡してください。 下げ速度が調整できません。
	VCU	11034-4			
ピッチングセンサ	VCU	3318-3	ピッチングセンサ（オプション）異常		購入先に連絡してください。
	VCU	3318-4			
主変速レバー	VCU	520257-3	主変速レバーセンサ異常	正側の出力	購入先に連絡してください。 主変速が調整できません。
	VCU	520257-4			
	VCU	520257-8		正、副の位相のズレ	
	VCU	521409-3		副側の出力	
	VCU	521409-4			
副変速レバー	VCU	5131-3	副変速レバーセンサ異常		速やかに停止し、購入先に連絡してください。 **[L]**、**[M]**、または**[H]**時は走行可、**[N]**時は走行不可。
	VCU	5131-4			
クラッチペダル	VCU	5110-3	クラッチペダルセンサ異常		購入先に連絡してください。
	VCU	5110-4			
耕深調整	VCU	521404-3	耕深調節ダイヤル異常		3P 制御モードを**[ポジション]**にし、3 点リンク外部操作スイッチで操作してください。
	VCU	521404-4			
前輪切れ角	VCU	522017-3	切れ角センサ異常		走行モード切替スイッチを“切”または“*4WD*”に切り替えてください。 旋回アップを“切”にしてください。
	VCU	522017-4			
3P 上げ SOL	VCU	11011-5	3P 昇降バルブ（上昇側）異常		購入先に連絡してください。 作業機が上昇できません。
	VCU	11011-8			
	VCU	11011-12			
傾き自動縮 SOL	VCU	521472-4	傾き自動バルブ（縮側）異常		購入先に連絡してください。 傾き自動シリンダが縮みません。
	VCU	521472-5			
	VCU	521472-12			
前進 SOL	VCU	741-4	前進バルブ異常		購入先に連絡してください。
	VCU	741-5			

（次へ続く）

表示エラーコード			状態	処置
上段	下段			
前進 SOL	VCU	741-12	前進バルブ異常	購入先に連絡してください。
レーザーセンサ	VCU	521402-3	レーザレベルセンサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521402-4		
3P 下げ SOL	VCU	11012-5	3P 昇降バルブ（下降側）異常	購入先に連絡してください。 作業機が下降できません。
	VCU	11012-8		
	VCU	11012-12		
傾き自動伸 SOL	VCU	521473-4	傾き自動バルブ（伸側）異常	購入先に連絡してください。 傾き自動シリンダが伸びません。
	VCU	521473-5		
	VCU	521473-12		
後進 SOL	VCU	4216-4	後進バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	4216-5		
	VCU	4216-12		
PTO SOL	VCU	5360-4	PTO バルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	5360-5		
	VCU	5360-12		
PTO SW	VCU	3452-14	PTO スイッチ異常	PTO 回転不可 購入先に連絡してください。
ECU 通信	VCU	520352-19	エンジン制御ユニット（ECU）通信異常	購入先に連絡してください。
シャトル SOL	VCU	521457-5	シャトルバルブ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521457-8		
	VCU	521457-12		
ARU 通信	VCU	521584-19	アームレスト通信異常	購入先に連絡してください。
シャトルスプール	VCU	521567-3	シャトルバルブ中立スイッチ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521567-4		
4WD SOL	VCU	2612-4	4WD バルブ異常	走行モード切替スイッチを**[切]**に切り替えてください。
	VCU	2612-5		
	VCU	2612-12		
倍速 SOL	VCU	521452-4	倍速バルブ異常	走行モード切替スイッチを傾き自動バルブ（伸側）異常または**[4WD]**に切り替えてください。
	VCU	521452-5		
	VCU	521452-12		
シャトルレバー	VCU	604-14	シャトルレバー中立スイッチ異常	購入先に連絡してください。
内部 5 V	VCU	3509-1	アナログセンサ 電源（+5 V）異常	購入先に連絡してください。
STG センサ	VCU	521406-12	STG センサ異常	購入先に連絡してください。 ただし、水平精度は落ちるが耕うん作業は可能です。 傾き自動モードが**[水平]**、**[傾斜]**のとき、傾き自動が使えないので傾き手動スイッチで操作してください。
	VCU	521406-19		
スタータリレー	VCU	1321-4	スタータリレー異常	購入先に連絡してください。
	VCU	1321-5		

（次へ続く）

表示エラーコード			状態		処置
上段	下段				
アクセル記憶	VCU	520400-13	アクセルセンサ調整値異常		購入先に連絡してください。
DBM 通信	VCU	520350-19	メータパネル異常		購入先に連絡してください。
AD 左 SOL	VCU	521454-5	AD（左）比例減圧弁異常		AD スイッチを“切”に切り替えてください。
	VCU	521454-8			
	VCU	521454-12			
AD 右 SOL	VCU	521453-5	AD（右）比例減圧弁異常		AD スイッチを“切”に切り替えてください。
	VCU	521453-8			
	VCU	521453-12			
ブレーキペダル	VCU	521-3	ブレーキペダルセンサ異常	正側の出力	購入先に連絡してください。
	VCU	521-4			
	VCU	521-8		正、副の位相のズレ	
	VCU	521410-3		副側の出力	
	VCU	521410-4			
斜板センサ	VCU	521407-3	斜板センサ異常	正側の出力	購入先に連絡してください。
	VCU	521407-4			
	VCU	521407-8		正、副の位相のズレ	
	VCU	521408-3		副側の出力	
	VCU	521408-4			
HST 増速 SOL	VCU	524107-5	HST 増速比例減圧弁異常		購入先に連絡してください。
	VCU	524107-8			
	VCU	524107-12			
HST 減速 SOL	VCU	524108-5	HST 減速比例減圧弁異常		購入先に連絡してください。
	VCU	524108-8			
	VCU	524108-12			
Hi SOL	VCU	521492-4	Hi バルブ異常		購入先に連絡してください。
	VCU	521492-5			
	VCU	521492-12			
Lo SOL	VCU	521493-4	Lo バルブ異常		購入先に連絡してください。
	VCU	521493-5			
	VCU	521493-12			
Hi スプール	VCU	521568-3	Hi バルブ中立スイッチ異常		購入先に連絡してください。
	VCU	521568-4			
Lo スプール	VCU	521570-3	Lo バルブ中立スイッチ異常		購入先に連絡してください。
	VCU	521570-4			
Hi クラッチ圧力 “Hi クラッチ圧力確認してください”	VCU	521569-3	圧力スイッチ（Hi クラッチ）異常		購入先に連絡してください。
	VCU	521569-4			
Lo クラッチ圧力	VCU	521571-3	圧力スイッチ（Lo クラッチ）異常		購入先に連絡してください。

（次へ続く）

表示エラーコード			状態	処置
上段	下段			
"Lo クラッチ圧力確認してください"	VCU	521510-4	圧力スイッチ（Lo クラッチ）異常	購入先に連絡してください。
後進クラッチ圧力 "後進クラッチ圧力確認してください"	VCU	521534-3	圧力スイッチ異常（シャトル後進側）	購入先に連絡してください。
	VCU	521534-4		
HST 回転センサ	VCU	521425-4	HST 回転センサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521425-14		
HMT 回転センサ	VCU	521426-4	HMT 回転センサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	521426-14		
車速センサ	VCU	191-4	車速回転センサ異常	購入先に連絡してください。
	VCU	191-14		

付表

主要諸元

1. トラクタの主要諸元

[ホイール仕様]

型式			GV601H	GV651H	GV701H
駆動方式			4 輪駆動		
機体寸法	全長		3850 mm		
	全幅		1810 mm		1840 mm
	全高		2520 mm	2570 mm	2580 mm
	軸距		2150 mm		
	輪距	前輪	1320 mm（1 段）	1320 mm（1220 mm～1490 mm（5 段））*1	1390 mm（1200 mm～1500 mm（5 段））*1
		後輪	1320 mm（1320 mm～1720 mm（5 段））*1		1420 mm（1420 mm～1720 mm（4 段））*1
	最低地上高		370 mm	420 mm	440 mm
質量（重量）			2750 kg	2850 kg	2880 kg
エンジン	機関型式		V3307-CR-TE5		
	形式		水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル		
	総排気量		3.331 L		
	出力（ネット）／回転速度		44.1 kW / 2600 n/min（60 PS / 2600 n/min）	47.8 kW / 2600 n/min（65 PS / 2600 n/min）	51.5 kW / 2600 n/min（70 PS / 2600 n/min）
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量		120 L		
	始動方式		セルモータ式		
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）		
タイヤ	前輪タイヤサイズ		8.3-20	9.5-22	9.5-24
	後輪タイヤサイズ		12.4-32H	12.4-36H	16.9-30H
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板		
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付き）、湿式ディスクブレーキ（機械式）		
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング		
	差動方式		4 ピニオンかさ歯車式（後輪のみデフロック付き）		
	変速方式		無段変速 MASC		
変速段数		前進、後進	副変速：3 段、主変速：無段		
走行速度		前進	0.1 km/h～30.1 km/h	0.1 km/h～30.9 km/h	0.1 km/h～31.5 km/h
		後進	0.1 km/h～26.1 km/h	0.1 km/h～25.9 km/h	0.1 km/h～26.3 km/h
最小旋回半径（ブレーキ使用時）			2.5 m 以下	2.6 m 以下	
PTO	標準	PTO 回転速度	589 回転／分、828 回転／分、1170 回転／分（エンジン回転数 2600 n/min 時）		
	選択	逆転 PTO 仕様	523 回転／分（エンジン回転数 2600 n/min 時）		
		グランド PTO 仕様	2.79 回転／トラクタ走行 1 m（タイヤ 12.4-32H 装着時）	2.81 回転／トラクタ走行 1 m（タイヤ 12.4-36H 装着時）	2.76 回転／トラクタ走行 1 m（タイヤ 16.9-30H 装着時）
	軸寸法		JIS35		
作業機昇降装置		制御方式	ポジション・ドラフトミックスコントロール		
		装着方式	3 点リンク JIS1 形、2 形		

補足：
- **質量、全長は鋳物ウエイト台装備状態の値です。前部ウエイトは含みません。**
- **この主要諸元は、改良のため予告無く変更することがあります。**

*1　最初に記載の輪距は工場出荷時の輪距値です。（）内は輪距の調整範囲と段数を示します。

[ハーフクローラ仕様]

型式			**GVK651H、GVK701H**			
機種	**販売型式**		**-**	**W**	**WR**	**N**
	仕様		**標準仕様**	**前輪扁平仕様**		**N（幅狭クローラ）仕様**
駆動方式			半装軌式			
機体寸法	全長		3850 mm			
	全幅		1890 mm			1780 mm
	全高		2615 mm			
	軸距		2150 mm			
	最低地上高		460 mm			
機体質量（重量）			3490 kg	3520 kg	3510 kg	3440 kg
エンジン	機関型式		V3307-CR-TE5			
	種類		水冷 4 サイクル 4 気筒立形ディーゼル			
	総排気量		3.331 L			
	出力（ネット）／回転速度		**[GVK651H]** 47.8 kW / 2600 n/min（65 PS / 2600 n/min） **[GVK701H]** 51.5 kW / 2600 n/min（70 PS / 2600 n/min）			
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		120 L			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）			
前輪タイヤ		タイヤサイズ	9.5-24	320/60-26	320/85R20	9.5-24
		輪距	1390 mm （1200 mm～1500 mm （5 段））*1	1440 mm（1 段）		1390 mm （1200 mm～1500 mm （5 段））*1
クローラ	幅×接地長		450 mm×1310 mm			280 mm×1310 mm
	リンク数×ピッチ		50×90 mm			
	輪距		1440 mm			
	接地面積		11790 cm^2			7340 cm^2
	接地圧		18.0 kPa （0.184 kgf/cm^2）			28.4 kPa （0.290 kgf/cm^2）
	緩衝方式		揺動式			
車体	クラッチ方式		電子油圧式湿式多板			
	制動方式		一系統左右独立（連結装置付き）、湿式ディスクブレーキ（機械式）			
	かじ取方式		全油圧式パワーステアリング			
	差動方式		4 ピニオンかさ歯車式（後輪のみデフロック付き）			
	変速方式		無段変速 MASC			
変速段数		前進、後進	副変速：3 段、主変速：無段			
走行速度		前進	0.1 km/h～24.6 km/h			
		後進	0.1 km/h～20.2 km/h			
PTO	標準	PTO 回転速度	589 回転／分、828 回転／分、1170 回転／分（エンジン回転数 2600 n/min 時）			
	選択	逆転 PTO 仕様	523 回転／分（エンジン回転数 2600 n/min 時）			
		グランド PTO 仕様	—			
	軸寸法		JIS35			
作業機昇降装置		制御方式	ポジション・ドラフトミックスコントロール			
		装着方式	3 点リンク JIS1 形、2 形			

補足：
- **質量、全長は鋳物ウエイト台装備状態の値です。前部ウエイトは含みません。**
- **この主要諸元は、改良のため予告無く変更することがあります。**

*1　最初に記載の輪距は工場出荷時の輪距値です。() 内は輪距の調整範囲と段数を示します。

2. 走行速度表

[ホイール仕様]

副変速	GV601H		GV651H		GV701H	
	後輪タイヤサイズが 12.4-32H の場合		後輪タイヤサイズが 12.4-36H の場合		後輪タイヤサイズが 16.9-30H の場合	
	前進	後進	前進	後進	前進	後進
L（低速）	0.1 km/h～ 7.8 km/h	0.1 km/h～ 6.4 km/h	0.1 km/h～ 7.7 km/h	0.1 km/h～ 6.4 km/h	0.1 km/h～ 7.9 km/h	0.1 km/h～ 6.5 km/h
M（中速）	0.1 km/h～ 13.8 km/h	0.1 km/h～ 11.4 km/h	0.1 km/h～ 13.7 km/h	0.1 km/h～ 11.3 km/h	0.1 km/h～ 14.0 km/h	0.1 km/h～ 11.5 km/h
H（高速）	0.1 km/h～ 30.1 km/h	0.1 km/h～ 26.1 km/h	0.1 km/h～ 30.9 km/h	0.1 km/h～ 25.9 km/h	0.1 km/h～ 31.5 km/h	0.1 km/h～ 26.3 km/h

補足：
- **表中の速度の値はエンジン最高回転時の値です。**
- **表中の速度の値はトラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態やほ場条件により変化します。**

[ハーフクローラ仕様]

副変速	GVK651H、GVK701H	
	前進	後進
L（低速）	0.1 km/h～7.5 km/h	0.1 km/h～6.1 km/h
M（中速）	0.1 km/h～13.5 km/h	0.1 km/h～11.0 km/h
H（高速）	0.1 km/h～24.6 km/h	0.1 km/h～20.2 km/h

補足：
- **表中の速度の値はエンジン最高回転時の値です。**
- **表中の速度の値はトラクタ単体状態における基準値であり、作業機の装着状態やほ場条件により変化します。**

3. 標準付属品

品名	数量／台
取扱説明書	1
取扱説明確認カード	1
保証書	1
メンテナンスブック	1
前輪切れ角調整ボルト類	1
燃料タンク給油口キー	1
ニップル（油圧取出用）	4
O リング（油圧取出用）	4

アタッチメント一覧表

アタッチメントは純正部品を使用してください。

ウエイト

品名	品番	用途、仕様	併用アタッチメント	備考
ブラケットアッシ	99660012940	フロントウエイト取付台	—	板金ウエイト取付台
	99660018300	フロントウエイト取付台	—	鋳物ウエイト取付台
前部ウエイトアッシ	99660027380	ウエイト 25 kg×4 枚	固定用部品一式付	—
	99660014370	ウエイト 45 kg×4 枚		—
	99660018142	ウエイト 45 kg×8 枚		—
前部ウエイト単体 25 kg	99660027390	25 kg	—	—
前部ウエイト単体 45 kg	99660014360	45 kg	—	—
ボルト（ウエイト 4 枚用）	99660027410	フロントウエイト固定用ボルト	別途必要な固定用部品は『ボルト固定用部品一覧表』を参照	—
ボルト（ウエイト 6 枚用）	99660027400			—
ボルト（ウエイト 8 枚用）	99870000020			—
ボルト（ウエイト 10 枚用）	99470002260			—
ボルトキット（ウエイト 4 枚用）	99930000030	フロントウエイト固定用部品一式付	—	フロントウエイト固定用ボルト（1 個）と『ボルト固定用部品一覧表』に記載の部品で構成
ボルトキット（ウエイト 6 枚用）	99930000040		—	
ボルトキット（ウエイト 8 枚用）	99930000052		—	
ボルトキット（ウエイト 10 枚用）	99930000060		—	
ヒッチピン	99660027440	—	—	—
トメピン	99660027450	—	—	—
後輪ウエイトアッシ	99660027550	ウエイト 50 kg×4 枚 取付ボルト含む	—	板金ディスク用
後輪ウエイト単体 50 kg	99660027560	50 kg 単体	後輪ウエイトアッシへの追加用	取付ボルト付

ボルト固定用部品一覧表

品名	品番	個数
座金	99660027880	2 個
バネ座金	99100002620	1 個
ナット	99660001620	1 個

ロアリンク

品名	品番	用途、仕様	併用アタッチメント	備考
ロアリンクキット（クイック，ノーマル）	95350000060	クイックタイプのロアリンク 長さは標準	—	JIS Ⅱ 形用
ロアリンクキット（クイック，ロング）	95350000070	クイックタイプのロアリンク 標準より長い	—	JIS Ⅱ 形用

その他

品名	品番	用途、仕様	併用アタッチメント		備考
			品名	品番	
サブモニタ（VT）キット（MASC 用）	95270000335	機能設定用	カメラ（VT 接続）キット	95290006760	—
フロント作業灯	95270000113	夜間作業用	—		LED、2 灯
リヤ作業灯	95270000120	夜間作業用	—		LED、1 灯
インストラクタシート	95270000020	キャブ左室内設置	—		—
トレーラ用コネクタキット	99900006090	トラクタ側（メス）	トレーラ側オスカプラ	99660010040	—
トレーラ用コネクタキット	99900006802	トラクタ側（メス）	トレーラ側オスカプラ	99660016630	ヨーロッパタイプ
インプルメントステー	95270000092	コントローラおよびサブモニタ（VT）	—		右側面ピラーに取付
GPS ステーキット	95350000100	GPS ステー	—		スリップ制御用スイッチ、センサ、センサ取付ステー、中継ハーネス付き。GPS アンテナは含まない
ミラーキット（1）	95270000073	ワイドサイドミラー	—		—
ミラーキット（2）	99870000190	テレスコミラー	—		—
ミラー，キット（ルーム）	95350000020	ルームミラー	—		—
T2 ターフタイヤキット	99710000060	前輪：215/80D15PD1 後輪：475/65D20PD1	—		**[GV601H]**用
	90092018390	前輪：29X12.00-15PD1 後輪：475/65D20PD1	—		**[GV651H、GV701H]**用
ガラスキット（リアデフォッガ）	95270000102	熱線ガラス	—		—
CCV ヒータキット	95350000110	寒冷地用（外気温が-20 ℃以下の環境での使用が想定される場合）	—		—
レバー，キット（サンルーフ）	95350000030	—	—		—
アジャスタ，キット（アームレスト）	95350000050	—	—		—
ステー，キット（マエ，ミギ）	95350000040	—	—		—
スクレーパ，キット	99900006720	—	—		—

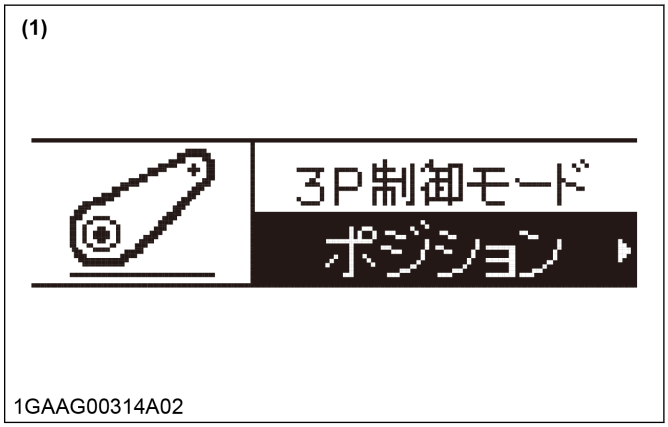
補助コントロールバルブ一覧表

No.	区分	品名	品番	補助コントロールバルブ				備考
				1 連目	2 連目	3 連目	4 連目	
1	バルブ	単複切り替えバルブ	99660021841	標準装備	○	○	○	カプラは No.9～No.12 から選択
2		複動バルブ	99660021851	—	○	○	○	
3		セルフキャンセルデテントバルブ	99900007280	—	○	○	○	
4		フローティングバルブ	99900007290	—	○	○	○	
5	レバーキット	レバーキット（ロック用）	95270000171	○	○	○	○	レバーロック機構付き 1 連～4 連目で使用可
6		レバーキット（2 連目取付用）	95350000090	—	○	—	—	2 連にする場合必要
7		レバーキット（3 連目取付用）	95270000035	—	—	○	—	3 連にする場合必要
8		レバーキット（4 連目取付用）	95270000044	—	—	—	○	4 連にする場合必要
9	カプラ	カプラキット（3/8）	99660015680	○	○	○	○	メス、オスカプラ各 2 個で 1 セット
10		カプラキット（1/2）	99660015710	○	○	○	○	
11		カプラキット P（クイックタイプ 1/2）	99930005230	○	○	○	○	
12		カプラアッシメス（クイックタイプ 1/2）	95210006680	○	○	○	○	メスカプラ 1 バルブ 2 個必要
13	エルボ	油圧取出しニップル（3/8 用）	99660015690	○	○	○	○	エルボ（45°）No.9 用
14		油圧取出しニップル（1/2 用）	99660015700	○	○	○	○	エルボ（45°）No.10～No.12 用

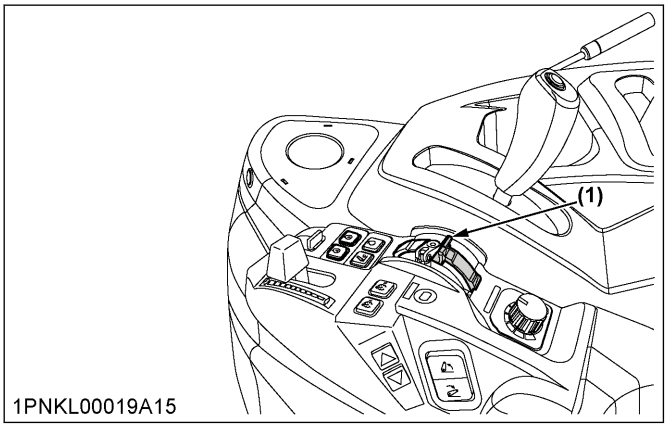
- ○は追加装着可、－は装着不要または不可を示します。
- 本項の表よりバルブ、レバーキット、およびカプラキットを組み合わせて選定してください。
- バルブと油圧カプラは、使用する作業機に合わせて選択してください。
- 流量調整バルブ（フローコントロールバルブ）は、制御するバルブの下に装着してください。

作業ごとの一般的な調整要領

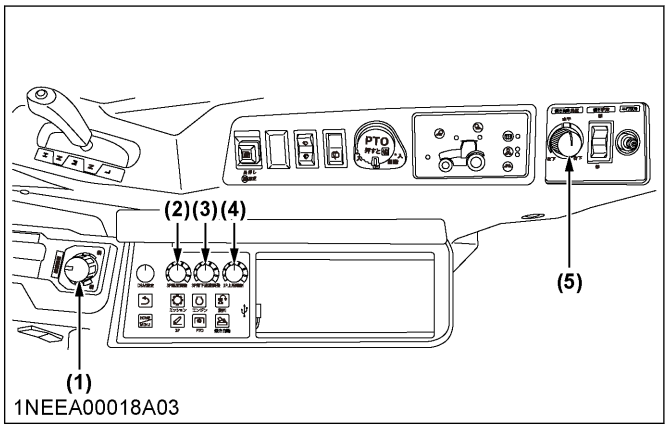
作業機関連の調整



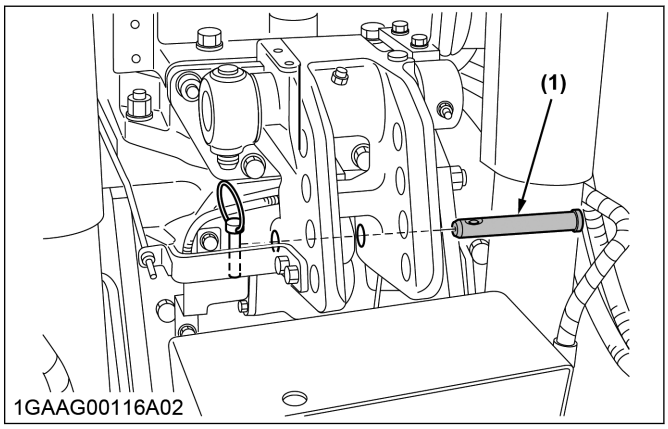
(1) *3P* 制御モード



(1) ポジションレバー



(1) 耕深調整ダイヤル
(2) 感度調整ダイヤル
(3) 落下速度調整ダイヤル
(4) 高さ規制調整ダイヤル
(5) 傾き自動角度調整ダイヤル



(1) ストッパピン

作業内容		調整操作箇所				
		メニュー画面 3P 制御モード	耕深調整ダイヤル	感度調整ダイヤル	作業機落下速度調整ダイヤル	高さ規制調整ダイヤル
ロータリ耕うん（傾き自動、耕深制御“入”）	一般耕うん	耕深制御	希望耕深になるように調整	仕上がりに応じ調整 純正ロータリは中央～敏感“右方向”、他社作業機は中央～鈍感“左方向”を目安に調整	2 秒～3 秒に調整	作業機、作業に応じて適切な位置に調整

（次へ続く）

付表

作業内容		調整操作箇所				
		メニュー画面 3P 制御モード	耕深調整ダイヤル	感度調整ダイヤル	作業機落下速度調整ダイヤル	高さ規制調整ダイヤル
ロータリ耕うん（傾き自動、耕深制御“入”）	ロータリカバー（耕深ワイヤ）を使用しない耕うん	S モード	希望耕深になるように調整	仕上がりに応じ調整 純正ロータリは中央～敏感“右方向”、他社作業機は中央～鈍感“左方向”を目安に調整	2 秒～3 秒に調整	作業機、作業に応じて適切な位置に調整
	代かき湿田	耕深制御				
	傾斜地					
プラウ耕（その他けん引作業機）		**[ドラフト]**	希望耕深になるように調整	土質に応じ調整	1 秒～2 秒に調整	通常作業位置は**[高]**
一般作業機（ポジションコントロール）		**[ポジション]**	–	–	作業機に合わせ調整	作業機に合わせ調整

“3P 制御モード”は電子メータ（DBM）に表示されるメニュー画面の**[3P]**で設定する内容です。
（3P 選択時の設定項目の選択可能範囲（69 ページ）を参照）

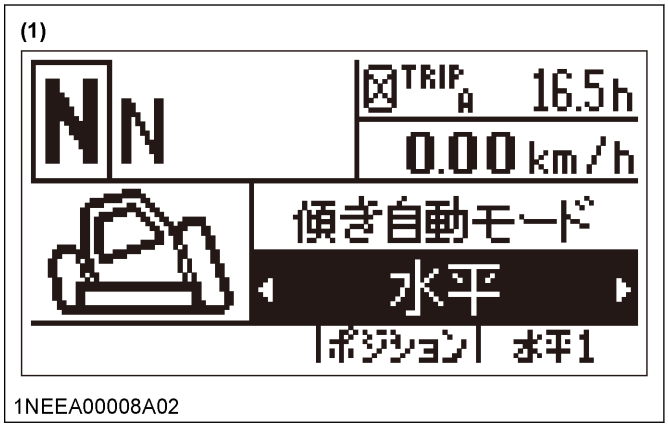
補足：
レーザモードはレーザの取扱説明書を参照してください。

作業内容		調整操作箇所					備考
		メニュー画面			ポジションレバー	ドラフトストッパピン	
		3P 制御モード	旋回アップ	バックアップ			
ロータリ耕うん（傾き自動、耕深制御“入”）	一般耕うん	耕深制御	隣接耕うん時は“入”（選択）	作業に応じて“入”	最下位置	ピンを入れる	すき込み高さ調整位置
	ロータリカバー（耕深ワイヤ）を使用しない耕うん	S モード					
	代かき湿田	耕深制御	切				
	傾斜地		隣接耕うん時は“入”（選択）				
プラウ耕（その他けん引作業機）		**[ドラフト]**	切	作業に応じて“入”	最下位置 耕盤が軟弱な場合下限位置を設定する	ピンを抜く	
一般作業機（ポジションコントロール）		**[ポジション]**	作業機に合わせ調整	作業機に合わせ調整	作業に合わせ高さを調整	ピンを入れる	

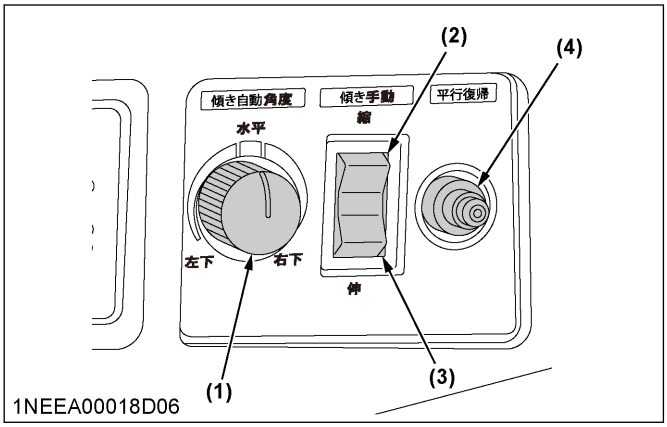
- *“3P* 制御モード”は電子メータ（DBM）に表示されるメニュー画面で設定する内容です。
  （3P 選択時の設定項目の選択可能範囲（69 ページ）を参照）
- “旋回アップ ”、“バックアップ”は電子メータ（DBM）に表示されるメニュー画面で設定する内容です。
  （旋回選択時の設定項目の選択可能範囲（69 ページ）を参照）
- 旋回アップ “入”（選択）を選択しても作動しない場合があります。
  （旋回アップ機能（105 ページ）を参照）
- すき込み高さ調整位置についてはすき込み開始高さの調整（146 ページ）を参照してください。

補足：
レーザモードはレーザの取扱説明書を参照してください。

傾き自動関連の調整



(1) 傾き自動モード設定画面



(1) 傾き自動角度調整ダイヤル
(2) 傾き手動スイッチ（縮）
(3) 傾き手動スイッチ（伸）
(4) 傾き手動スイッチ（平行復帰）

作業内容		操作調整箇所				
		メニュー画面	傾き自動角度調整ダイヤル	傾き手動スイッチ		
		傾き自動モード		縮	伸	平行復帰
ロータリ耕うん（傾き自動、耕深制御“入”）	一般耕うん	純正ロータリの場合**[水平 1]** ロアリンク幅、取付け穴により適宜選択	**[水平]** 必要に応じて調整	–		
	ロータリカバー（耕深ワイヤ）を使用しない耕うん					
	代かき湿田					
	傾斜地	**[傾斜]**	**[水平]**			
プラウ耕（その他けん引作業機）		傾き自動 “切” 位置制御	–	任意の角度に作業機を傾斜させる		リフトロッドとリフトシリンダの長さが同じになる
一般作業機（ポジションコントロール）		傾き自動 “入” ロアリンク幅、取付け穴により適宜選択	**[水平]** 必要に応じて調整	–	–	–
		傾き自動 “切” 位置制御	–	任意の角度に作業機を傾斜させる		–

“傾き自動モード”は電子メータ（DBM）に表示されるメニュー画面で設定する内容です。
（傾き自動モード水平（109 ページ）を参照）

索引

記号・数字

3P 制御モード
　選択.....101
3P 動作切替スイッチ.....106
　各作業モードでの操作.....107
　ポジションモードでの操作.....107
　３点リンクキープモード.....107
　３点リンクリターンモード.....107
3P 内部操作スイッチ
　３点リンクキープモード.....107
　３点リンクリターンモード.....107
３点リンク
　安全ロック機能.....136
　各部の名称.....139
　下限規制.....102
　切換え.....140
　耕深ワイヤの格納.....140
　耕深ワイヤの取付け.....140
　作業機着脱時の注意.....143
　作業機取付け前の準備.....140
　作業機の取付け時の注意.....140
　作業機を取り付けないときの注意.....145
　チェックチェーンの調整.....145
　トップリンクの取付け.....140
　トップリンクの格納.....144
　トップリンクの調整.....144
　ドラフトストッパピンの着脱.....145
　リフトシリンダの調整.....145
　ロアリンクの取付け穴の選択.....141
３点リンク外部操作スイッチ.....143
３点リンク作業機
　注意事項.....18
３点リンク制御
　表示.....137
4 輪駆動
　利用.....60

アルファベット

AD
　強弱設定.....61
　故障と処置.....224
　利用.....61
AD スイッチ
　AD の強弱設定.....61
　AD の利用.....61
　走行モードスイッチと組み合わせた走行モード切替え.....60
　モード切換え.....61
ASH 警告表示.....49
DPF
　注意事項.....20
DPF 差圧センサ
　パイプの点検.....211
　ホースの交換.....213
DPF マフラ
　取扱いポイント.....43
　再生禁止モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置.....48
　再生禁止モードの操作.....47
　再生に関する豆知識.....49
　再生方式.....44
　自動再生モード時の PM 堆積の警告レベルと必要な処置.....46
　自動再生モードの操作.....45
　清掃.....211
　点検.....192
e-アシスト旋回
　応答時間設定.....98
　解除.....97
　回転数設定.....97
　クルーズ車速設定.....98
　設定.....97
EGR
　クーラの清掃.....210
　クーラの点検.....210
　システムの清掃.....211
　システムの点検.....211
　パイプの点検.....211
PCV バルブ
　点検.....210
　ホースの交換.....213
PTO 軸カバー.....150
PTO 軸キャップ.....150
PTO スイッチ
　機能.....147
　操作時の注意事項.....147
PTO 変速レバー.....149

あ

アイドラ［ハーフクローラ仕様］
　オイルシール点検.....215
　オイル交換.....215
　オイルの交換時期.....215
アウタエレメント
　交換.....199
　清掃.....199
アクセルペダル.....57
アクセルレバー.....57
アクセル連動.....59
アタッチメント一覧表.....234
アワメータ.....85
　エンジン回転上限設定からの切替え.....85
　エンジン回転メモリ設定からの切替え.....85
暗証番号
　登録.....90
　変更.....94
安全キャブ.....50

安全キャブ部.....42
安全ラベル
取扱い.....27
貼付け位置.....22
アンテナ.....178
アームレスト操作部.....65
インストラクタシート
使用時の注意.....51
使用手順.....51
インストラクタシート（オプション）.....51
インテークエアヒータ
点検.....211
イージチェッカ
運転中の作動確認.....131
モニタランプ.....87
ウインカスイッチ.....54
ウエイト（オプション）
後輪ウエイト.....169
使用時の注意.....169
前部ウエイト.....169
ウォッシャ液
補充.....221
運転席部.....39
運転免許.....31
運転［ハーフクローラ仕様］.....134
エアコン.....175
外気フィルタの清掃.....206
機器の簡易点検.....211
空気の流れ.....176
コントロールパネル.....176
除湿暖房.....177
暖房.....177
デフロスト.....177
ヒータ使用上の注意.....177
冷房.....177
エアコンコンデンサ
清掃.....206
エアコンコンデンサ用防虫網
清掃.....191
エアコンスイッチ.....177
エアコンコンデンサ
引出し.....191
エアコン配管
点検.....211
エアコンベルト
張りの調整.....206
張りの点検.....206
エアコンホース
点検.....211
エキゾーストマニフォールド
点検.....211
エキゾーストパイプ
点検.....201
絵目次
安全キャブ部.....42
運転席部.....39
外観.....34
電子メータ.....64
ハンドル部.....37
メータパネル部.....38
エンジン
始動.....118
始動、停止時の注意事項.....118
始動確認.....201
停止.....123
ならし運転.....131
排気状態の確認.....201
バッテリあがりの処置.....130
不調と処置.....223
前周りの清掃.....191
エンジンオイル
交換.....207
点検.....188
補給.....188
エンジンオイルフィルタカートリッジ
交換.....208
エンジン回転計.....88
エンジン回転上限
設定.....94
エンジン回転上限設定
一時解除.....85
エンジン回転メモリ
設定.....95
エンジン回転メモリ設定
一時解除.....85
エンジン始動システム
点検.....196
エンジン始動セキュリティ.....90
暗証番号の登録.....90
暗証番号の変更.....94
入、切の切替え.....93
設定.....92
エンジンバルブ
クリアランスの点検.....210
オイルクーラ
清掃.....191
オイルクーラホース
交換.....202,213
点検.....202
オイルセパレータ
エレメントの交換.....210
オイルセパレータホース
交換.....213
オイル類
給油一覧表.....185
推奨品一覧表.....186
オルタネータベルト
調整.....199
点検.....199
温度コントロールつまみ.....177
オーディオ機器
お問合わせ.....178
電源が入らない時の対応.....178
取扱い時の注意.....178
本機で利用できない機能.....178
オート 4WD スイッチ.....63

オートエアコン.....175

か

外気フィルタ
清掃.....206
外部油圧
取出し.....116
格納
長期格納時の手入れ.....221
傾き自動
安全ロック機能.....115
各部の名称.....109
故障と処置.....224
表示.....137
傾き自動安全ロック.....115
解除.....115
傾き自動角度調節ダイヤル.....114
傾斜地傾き自動の微調整設定.....113
傾き自動シリンダホース
交換.....213
傾き自動モード
位置（手動）.....114
切替.....109
傾斜.....112
傾斜地傾き自動の微調整設定.....113
水平.....109
傾き手動外部操作スイッチ.....144
傾き手動スイッチ.....115
傾斜地傾き自動の微調整設定.....113
感度調整ダイヤル.....104
寒冷時の始動方法.....122
キャブマウントゴム
点検.....211
吸気ホース
交換.....201,213
点検.....201
キースイッチ.....55
クイックアップ
表示.....137
クイックアップスイッチ.....104
クイックアップレバー.....104
クォータウインド
開閉.....172
クラッチハウジング
水抜き.....197
クラッチペダル.....56
調整.....200,201
点検.....200
クラッチペダル連動 PTO.....148
グリース
給油一覧表.....185
推奨品一覧表.....186
注入.....194
注入［ハーフクローラ仕様］.....214
クルーズ車速.....125
現在車速の記憶.....126
車速または PTO の選択.....127
設定車速の変更.....126
パワーまたはエコの選択.....127
クルーズ車速スイッチ.....125
現在のクルーズ車速の記憶.....126
クローラガイド［ハーフクローラ仕様］
点検.....215
けん引ヒッチ.....146
耕深制御
故障と処置.....224
耕深調節ダイヤル.....103
耕深ワイヤ
格納.....140
取付け.....140
後輪ウエイト（オプション）.....169
後輪デフロックペダル
機能.....63
後輪輪距一覧表
GV601H ホイール仕様.....163
GV651H ホイール仕様.....163
GV701H 後輪 RC タイヤ仕様.....165
GV701H ホイール仕様.....163
小型特殊自動車取得
届出.....31
故障メッセージ.....85
一時解除.....85
ご相談窓口.....29
困ったときの参照頁一覧.....9
ゴムクローラ［ハーフクローラ仕様］
交換.....216
張り調整.....213
ゴムシート
開閉.....191
コントロールパネル.....176
エアコンスイッチ.....177
温度コントロールつまみ.....177
内外気切換えスイッチ.....176
ファンスイッチ.....177
吹出口切換えスイッチ.....177

さ

最高車速
設定.....125
サイドカバー
取外し.....187
取外し時の注意事項.....187
作業機
オートヒッチフレーム使用時の取付け準備.....142
取り付けないときの注意.....145
作業機昇降装置
3P 動作切替スイッチ.....106
３点リンクキープモード.....107
３点リンクリターンモード.....107
各部の名称.....100
下限規制.....102
感度調整ダイヤル.....104
クイックアップスイッチ.....104
クイックアップレバー.....104

耕深調節ダイヤル..... 103
作業機落下速度調整ダイヤル..... 103
高さ規制調整ダイヤル..... 102
ドラフトストッパピン..... 101
ポジションレバー..... 102
油圧ロックレバー..... 107
ワンタッチ作業モード..... 108
ワンタッチ作業モード設定スイッチ.....108
作業機幅設定.....74
作業機用操作ボックス
取付け..... 179
作業機落下速度調整ダイヤル..... 103
作業ごとの一般的な調整要領..... 237
作業灯
後側.....175
作業灯スイッチでの操作.....174
注意事項.....174
ディレイオフ機能..... 174
前側.....174
作業灯スイッチ.....174
作業モード
切替.....136
サプライポンプ
点検.....210
サンバイザ..... 175
室内エアフィルタ
清掃.....205
車速係数
タイヤ周長設定での入力.....73
入力一覧.....86
シャトルレバー.....59
車幅灯..... 55
車輪
片側の車輪がスリップするときの処置.....131
主変速レバー
使い方..... 58
主要諸元.....229
上昇 PTO 停止モード.....148
除湿暖房.....177
シート
機能.....50
シートベルト.....50
水温計..... 88
すき込み開始高さ
設定変更.....146
調整.....146
ストッパボルト
交換.....168
調整.....168
スプロケット［ハーフクローラ仕様］
交換.....216
スローブローヒューズ
交換.....219
清掃..... 199
セパレータ
清掃.....208
水の排出.....189
旋回
注意事項.....131
旋回 2WD..... 62
利用.....62
旋回アップ機能..... 105
旋回角度
調整.....62
前車軸ケース左
オイル交換..... 209
前車軸ケース右
オイル交換..... 209
前部ウエイト（オプション）..... 169
前部デフケース
前後遊びの調整.....209
前後遊びの点検.....209
前輪輪距一覧表
GV601H ホイール仕様.....153
GV651H ホイール仕様.....155
GV701H 前輪 RC タイヤ仕様..... 158
GV701H ホイール仕様.....155
ハーフクローラ仕様の前輪タイヤ..... 161
走行..... 123
走行速度表..... 232
走行モードスイッチ
4WD..... 60
AD スイッチと組み合わせた走行モード切替え....60
旋回 2WD モード..... 62
倍速ターン..... 61
モード切換え.....60
損害賠償保険.....31

た

タイヤ
空気圧の設定.....150
空気圧の点検.....190
損傷の点検..... 190
注意事項.....150
取付けボルトの点検.....197
摩耗の点検..... 190
タイヤ周長設定..... 73
タイロッド
点検.....203
トーイン調整.....204
高さ規制調整ダイヤル..... 102
ダブルエアクリーナエレメント.....199
交換..... 211
単位設定.....75
暖機運転
寒冷時..... 129
暖房.....177
ターボチャージャ
点検.....210
チェックチェーン
調整.....145
注意事項
３点リンク作業機..... 18
PTO 軸の保護.....15

PTO の回転数.....15
油漏れの点検.....19
あゆみ板使用時の注意［ハーフクローラ仕様］...21
あゆみ板の使用.....14
安全キャブの改造禁止..... 11
安全キャブの目的.....11
運転してはいけない人..... 11
運転時の注意［ハーフクローラ仕様］.....20
運転に不適切な場所.....13
エンジン停止時.....17
エンジンの始動と停止..... 118
屋内で運転するとき.....13
改造禁止.....12
急旋回禁止..... 14
共同作業時..... 13
傾斜地作業時.....15
けん引作業時.....13
高圧洗浄後..... 19
交通法規遵守.....16
公道走行時..... 31
後方転覆の危険.....13
後輪を浮かせての始動禁止..... 19
コモンレール仕様..... 20
坂道走行.....16
坂道での運転.....132
作業機の着脱.....15
作業後..... 19
作業に適した服装..... 12
作業前の確認.....12
作業前の点検.....12
周囲の安全確認.....12
シートベルトを併用すること.....11
シートを掛けるとき.....17
スイッチの確認.....12
整備時の安全確認..... 17
整備時の適した服装.....17
旋回速度.....16
洗車時..... 180
タイヤの確認.....18
正しい運転方法..... 11
駐車場所.....17
直接通信ユニット..... 20
低速車（SMV）マークの表示.....17
ディーゼルパーティキュレートフィルタ（DPF）20
デフロックの禁止..... 16
点検、整備時.....180
転倒防止のための重量バランス.....15
同乗禁止.....13
道路走行中..... 132
途中変速の危険..... 14
トラクタへの乗降.....118
乗り降り時［ハーフクローラ仕様］.....20
廃棄物の処理.....19
バッテリの取扱い..... 18
ブレーキの確認.....12
ブレーキペダルの使用方法.....16
フロントローダ作業.....15
ほ場外での落下防止.....14
ほ場出入り時.....132
ほ場への出入り時..... 14
油圧部品を外すとき.....19
レバーの確認.....12
レバーの状態.....17
駐車..... 128
駐車再生
操作.....49
駐車ブレーキ
作動点検.....193
長期格納後の運転..... 222
直接通信ユニット
概要.....32
チルトステアリングハンドル..... 52
定期点検箇所一覧表.....182
停止..... 128
低速車（SMV）マーク
表示.....31
ディレイオフ機能..... 174
ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ（DPF）マフラ
概要.....43
ディーゼルパーティキュレートフィルタ
注意事項.....20
デフロスト..... 177
デフロック
禁止事項.....16
注意事項.....63
テレスコミラー.....53
電源取出し.....116
電子エンジン制御..... 94
e-アシスト旋回..... 97
e-アシスト旋回の応答時間設定..... 98
e-アシスト旋回の回転数設定.....97
e-アシスト旋回のクルーズ車速設定..... 98
エンジン回転上限設定..... 94
エンジン回転メモリ設定.....95
パワーアシスト制御.....96
電子メータ..... 64
アワメータ表示.....85
イージチェッカ.....87
運転中の作動確認..... 131
エンジン回転計.....88
故障情報表示.....85
故障情報表示の一時解除.....85
水温計..... 88
通常画面.....65
時計表示.....85
トリップ表示.....85
燃料計..... 88
パフォーマンスモニタ..... 80
メニュー画面の操作.....65
メンテナンス情報表示..... 85
メンテナンス情報表示の一時解除..... 86
モニタランプ.....89
ユーザ設定画面の操作..... 70
ドア
開閉.....171

開閉とロックの注意事項.....171
ヒンジ部の注油.....220
ロック.....171
盗難防止設定.....80
暗証番号の登録.....90
暗証番号の変更.....94
エンジン始動セキュリティ.....90
エンジン始動セキュリティ入、切の切替え.....93
エンジン始動セキュリティの設定.....92
独立 PTO.....148
時計.....85
時計 ON、OFF 設定.....72
時計設定.....71
トップリンク
格納.....144
調整.....144
取付け.....140
トラック輸送
トラックへの積み、降ろし.....133
ドラフト
故障と処置.....224
ドラフトストッパピン.....101
着脱.....145
トランスミッション
故障と処置.....224
低温規制.....130
トリップ
リセット.....85
トレーラ用カプラ（オプション）.....117
ドローバ.....146
トーイン
調整.....203
点検.....203

な

内外気切換えスイッチ.....176
ならし運転.....131
ナンバープレート
取付け.....31
日常点検
運転前.....118
前日の異常箇所の点検.....188
注意事項.....187
トラクタ周囲の点検.....188
日常点検［ハーフクローラ仕様］.....194
点検箇所一覧.....194
燃費計
活用.....86
燃料
空気抜きのしかた.....217
補給時の注意点.....193
燃料インジェクタ
点検.....210
燃料計.....88
燃料タンク
水抜き.....205
燃料フィルタカートリッジ
交換.....208
燃料ホース
交換.....197,213
点検.....197
農機型式名一覧表.....30

は

排ガス後処理装置
注意事項.....43
廃棄物
処理.....180
倍速
故障と処置.....224
倍速ターン
利用.....61
バキュエータバルブ
清掃.....189,199
ハザードスイッチ.....54
バックアップ機能.....106
バックミラー.....53
バックランプ.....55
発進.....123
バッテリ
あがり時の処置.....130
電解液の点検.....198
取付け、取外し時の注意点.....198
補充電.....199
バッテリ（+）コード
交換.....190
点検.....190
パフォーマンスモニタ
距離測定機能の操作.....83
瞬間燃費の活用.....86
総燃料消費量の活用.....86
パフォーマンス項目一覧.....81
パフォーマンス項目の選択.....80
パフォーマンス項目のデータリセット.....83
表示項目の重複抑止.....84
平均燃費の活用.....86
パワーアシスト制御.....96
パワーステアリング
取扱い時の注意.....133
パワーステアリングホース
交換.....197,213
点検.....197
ハンドル部.....37
ハーフクローラ
グリースの注入.....214
尾灯.....55
ヒューズの交換.....217
標識
取付け.....31
標準付属品.....233
ヒータ
使用上の注意.....177
ファンスイッチ.....177

負荷変速
ON、OFF 設定....127
感度の設定....128
吹出口切換えスイッチ....177
副変速レバー
使い方....58
フットライト....172
不凍液
使い方....213
ブレーキペダル....55
遊びの点検....192
調整....200
点検....200
ブレーキランプ....55
ブレーキ連結ロック解除警告灯....56
フロントワイパ
寒冷時の使用についての注意....173
フロントワイパ・ウォッシャスイッチでの操作.173
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ....173
ブーストセンサホース
交換....213
平行復帰スイッチ....115
平行復帰制御....115
ヘッドライトスイッチ
機能....53
ヘッドランプ
交換....220
防虫網
清掃....191
ポジションレバー....102
補修用部品
供給年限....30
補助コントロールバルブ
外部油圧取出し....116
単複切換えつまみ....116
補助コントロールバルブ一覧表....236
ボンネット
開ける方法....187
開閉時の注意事項....187
閉める方法....187
ホーンボタン....54

ま

マグネットフィルタ
清掃....202
窓
開閉とロックの注意事項....171
マフラ
点検....201
ミッションオイル
交換....209
点検....188
補給....188
メインシリンダホース
交換....213
メニュー画面
車速/PTO 設定....127
3P 制御モード....101
3P の設定項目の設定可能範囲....69
3P の設定項目選択画面の項目表示条件....69
e-アシスト旋回の応答時間設定....98
e-アシスト旋回の回転数設定....97
e-アシスト旋回のクルーズ車速設定....98
PTO の設定項目選択画面の項目表示条件....70
PTO の設定項目の設定可能範囲....70
エンジン回転上限設定....94
エンジン回転上限設定の一時解除....85
エンジン回転メモリ設定....95
エンジン回転メモリ設定の一時解除....85
エンジンの設定項目選択画面の項目表示条件....68
エンジンの設定項目の設定可能範囲....68
傾き自動の設定項目選択画面の項目表示条件....70
傾き自動の設定項目の設定可能範囲....70
傾き自動モード傾斜....112
傾き自動モード水平....109
傾き自動モード位置（手動）....114
クルーズ車速 A 設定....126
クルーズ車速 B 設定....126
傾斜補正調整....113
最高車速設定....125
旋回アップ入切....105
旋回の設定項目選択画面の項目表示条件....69
旋回の設定項目の設定可能範囲....69
操作....65
バックアップ入切....106
パワー/エコ設定....127
負荷変速設定の ON、OFF....127
負荷変速設定の感度....128
ミッションの設定項目選択画面の項目表示条件...67
ミッションの設定項目の設定可能範囲....68
メンテナンス設定....77
メンテナンス表示メッセージ....85
一時解除....86
メータパネル部....38
メータ類
作動点検....193
モニタランプ....89
イージチェッカ....87
運転中の作動確認....131

や

夜間照明....173
油圧オイルフィルタカートリッジ
交換....202
油圧補助コントロールレバー....116
油圧ロックレバー....107
ユーザ設定画面
暗証番号の変更....94
エンジン始動セキュリティ入、切の切替え....93
エンジン始動セキュリティの設定....92
作業機幅設定....74
車速係数の入力....86
操作....70
タイヤ周長設定....73

単位設定.....75
盗難防止設定.....80
時計 ON、OFF 設定.....72
時計設定.....71
メンテナンス設定.....77

ら

ラジエータ
洗浄.....213
ラジエータホース
交換.....201,213
点検.....201
ラジエータ用防虫網
清掃.....191
ランプ類
作動点検.....193
使用一覧.....220
リフトシリンダ
調整.....145
リヤウインド
開閉.....171
ヒンジ部の注油.....220
リヤワイパ
寒冷時の使用についての注意.....173
リヤワイパ・ウォッシャスイッチでの操作.....173
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ.....173
輪距
調整.....151
輪距一覧.....33
ルーフパネル.....175
ルームミラー（オプション）.....175
ルームランプ.....172
冷却水
交換.....212
点検.....188
補給.....188
冷媒（ガス）
充てん.....221
量の点検.....221
冷房.....177
レーザ
故障と処置.....224
ロアリンク
取付け穴の選択.....141
ローダ作業
注意事項.....134
ローラ［ハーフクローラ仕様］
オイルシール点検.....215
オイル交換.....215
オイルの交換時期.....215

わ

ワイドサイドミラー.....53
ワイパ
寒冷時の使用についての注意.....173
フロントワイパの操作.....173
リヤワイパの操作.....173
ワイヤハーネス
交換.....190
点検.....190
ワンタッチ作業モード.....108
任意変更.....108
設定変更.....108
ワンタッチ作業モード設定スイッチ.....108

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

- 注意マーク
- エンジン異常警告
- 火気厳禁
- ディーゼル軽油
- 燃料残量
- 燃料計
- アワーメータ（積算時間計）
- エンジン予熱
- バッテリチャージランプ
- エンジンオイル圧力
- 水温計
- ホーン
- 方向指示器表示
- ハザード
- 作業灯
- ヘッドライト上向き照射
- ヘッドライト下向き照射
- ライトスイッチ
- 駐車ブレーキ
- 高速又は高
- 低速又は低
- ウォータセパレータ
- エアクリーナエレメント
- エンジン回転
- エンジン回転上限設定
- 4WD
- オート4WD
- 旋回2WD
- 倍速ターン
- ADブレーキ
- 後輪デフロック
- ブレーキ連結ロック（解除）
- 固定（ロック）
- ワンタッチ作業モード設定
- パワーアシスト
- シフトアップ
- シフトダウン
- ３点リンク（上げ）
- ３点リンク（下げ）
- クイックアップ
- 耕深制御
- Sモード
- ドラフト
- レーザ
- スリップ制御
- 傾き自動
- 旋回アップ
- バックアップ
- 油圧補助コンシリンダ（縮み）
- 油圧補助コンシリンダ（伸び）
- PTO（切）
- PTO（入）
- ワイパ
- 間欠ワイパ
- ウインドウオッシャ
- デフォッガ
- 再生状態
- 再生禁止
- 駐車再生
- 駐車再生要求
- エンジン回転上げ要求
- システム異常警告
- e-アシスト旋回
- エンジン回転メモリA
- エンジン回転メモリB
- エンジン回転メモリ設定
- クルーズ車速A
- クルーズ車速B
- 上昇PTO停止モード
- ブレーキ
- クラッチ
- アクセル連動

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

キーナンバー

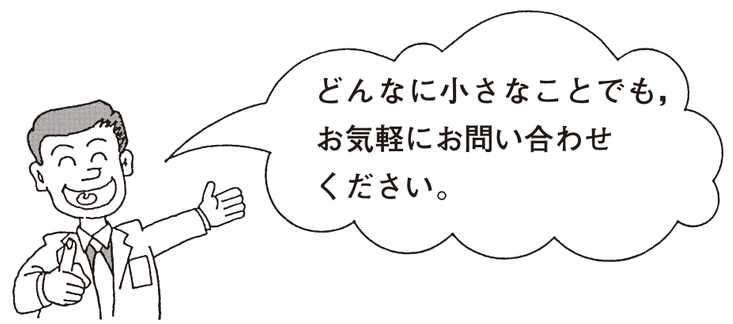
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

GV601H/651H/701H
BA. B. 1-1. 0. K